

# 鍛冶屋敷A遺跡・富沢館跡・川前遺跡ほか

—仙台市富沢駅西土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書—

〔第1分冊〕

2018年3月

仙台市教育委員会  
仙台市富沢駅西土地区画整理組合





仙台市富沢駅西土地区画整理事業地航空写真(2013年撮影)



富沢館跡航空写真(1975年撮影)



富沢館跡土塁全景(北西から)



富沢館跡3区土塁断面(南東から)



富沢館跡E南-東区SD47堀跡断面(南西から)



鍛冶屋敷敷前遺跡Ⅲ区SX4竪穴遺構炉跡羽口(P-010)出土状況(東から)



川前遺跡A区S13竪穴住居跡(南から)



鍛冶屋敷A遺跡S11竪穴住居跡出土刻書砥石(Kd-001)



川前遺跡IV a2層出土岩偶(Kd-009)



川前遺跡IV a2層出土土イモ貝形石製品(Kd-011)



川前遺跡出土縄文土器



富沢館跡・川前遺跡出土石製品・土製品

## 序 文

仙台市の文化財行政に対しまして、日頃から多大なご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

富沢駅西地区は、仙台市東南部、富沢富田地区に広がる田園地帯でありましたが、仙台市高速鉄道南北線の開業以来急速に宅地化が進む富沢駅周辺地区や富沢南地区に隣接している地域であります。平成 25 年度から進められております土地区画整理事業につきましても、関係する遺跡が 9 遺跡に上り、平成 25 年度から平成 28 年度にかけて発掘調査を実施して参りました。その中には東北地方で初めての発見となりました、線刻された砥石が出土した鍛冶屋敷 A 遺跡や縄文時代晩期の竪穴住居跡が発見された川前遺跡、中世の景観が残っているといわれていた富沢館跡の調査等も行われております。本書はそれらの成果をまとめたものです。

また、富沢館跡の土塁は、区画整理組合のご理解をいただき、公園の中に取り込む形で保存することができました。

先人たちの残した貴重な文化遺産をこれからの「まちづくり」の中で保護し、保存活用を図りながら、市民の宝として永く後世に伝えていくことが、現代に生きる私たちの責務であると考えております。ここに報告する調査成果が、学術研究のみならず地域の歴史を解明していくための資料として広く活用され、文化財に対するより深い関心とご理解、保護の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書刊行に際しまして多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことに深く感謝申し上げます、刊行の序といたします。

平成 30 年 3 月

仙台市教育委員会

教育長 大越 裕光



# 例 言

1. 本書は、「仙台市富沢駅西土地画整理事業」に伴い仙台市教育委員会が実施した事業地内における鍛冶屋敷A遺跡、鍛冶屋敷B遺跡、富沢館跡、鍛冶屋敷前遺跡、京ノ中遺跡、川前遺跡、宮崎遺跡の発掘調査報告書である。本書は、平成25年から平成28年に実施した試掘・確認調査、本発掘調査の成果を収録したものである。
2. 報告書作成業務は、仙台市教育委員会の委託を受け、国際文化財株式会社が行なった。
3. 本書の作成及び編集は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係 工藤信一郎、小泉博明、渡部弘美、主演光朗の監理のもと、国際文化財株式会社が担当した。
4. 本書の執筆は下記のとおりである。

第1章第1節…主演 光朗 (仙台市教育委員会生涯学習部文化財課)  
第1章第2節～第5章…水上 匡彦 (国際文化財株式会社)  
第6章第1節、第2節、第3節1～18・21～31、第4節3、第5節、第7節…四家 礼乃 (国際文化財株式会社)  
第6章第3節19・20・32・33、第4節1・2、第6節…水上 匡彦  
第7章第1節1・2(3)、第2節…水上 匡彦  
第7章第1節2(1)…四家 礼乃

編集は、水上匡彦が担当し、四家礼乃が協力した。
5. 第7章第1節2(2)は、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館 三上喜孝教授より玉稿を賜った。
6. 発掘調査および、整理作業に際し、以下の方々から多くの御指導、御協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。(五十音順・敬称略)

相原 悦夫 入生田 恵一 入間田 宣夫 菅野 正道 小池 善造  
竹井 英文 田中 則和 七海 雅人 本多 善昭 柳原 敏昭  
吉井 宏 三上 喜孝 森田 義史 山口 博之

仙台市富沢駅西土地画整理組合
7. 本書の調査成果については、これまで現地説明会資料や宮城県遺跡調査成果発表会資料等で一部紹介されているが、本書の記載内容がそれらに優先する。
8. 調査及び報告書作成に関する諸記録、出土遺物等の資料は仙台市教育委員会で一括保管している。

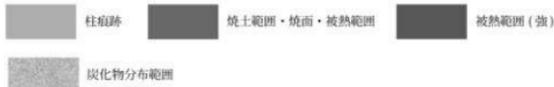
# 凡 例

1. 本書の土色については「新版 標準土色帖」2014年度版(農林水産省農林水産技術会議事務局監修)を使用した。
2. 国土交通省国土地理院発行の地形図を使用した場合は図中に示した。
3. 図中及び本文中に記載の方位の北は、座標北を示す。
4. 図版中のレベルは海拔高度 [T.P] を示す。
5. 層位名は基本層序をローマ数字、遺構内堆積土については算用数字を使用した。
6. 本書の検出遺構については次の略号を使用した。なお、各遺構の略号及び登録番号については、野外調査時に

付与したものをそのまま使用しているため、竪穴住居跡、竪穴遺構、殿治関連遺構、性格不明遺構の各遺構について略号が混在している。

SA: 柵列跡 SB: 掘立柱建物跡 SD: 溝跡 SE: 井戸跡 SI: 竪穴住居跡・竪穴遺構 SK: 土坑 SR: 河川跡  
SX: 性格不明遺構 P: ピット

7. 遺構図に使用したトーンは以下の通りである。これ以外についてはその都度図中に示した。



8. 遺構観察表において( )は残存値を示す。

9. 本書の出土遺物の分類と登録には次の略記号を使用し、分類ごとに登録番号を付した。

A = 縄文土器 C = 土師器(非ロクロ調整) D = 土師器(ロクロ調整) E = 須恵器 I = 陶器 J = 磁器 Ka = 打製石器 Kb = 磨製石器 Kc = 礫石器 Kd = 石製品 N = 金属製品 P = 土製品

10. 遺物観察表において( )は、土器類の各径については推定値、その他については残存値を示している。

11. 遺物実測図の縮尺は、打製石器の内、石鏃を1/1、それ以外を2/3、磨製石器及び石製品の一部を1/2、古銭を2/3とし、これら以外を1/3とした。

12. 土器の実測図に使用したトーンは、以下の通りである。これ以外については、その都度図中に示した。



13. 土製品の実測図に使用したトーンは、以下の通りである。



14. 石器の実測図に使用したトーンは、以下の通りである。



15. 掲載した遺物写真の縮尺は原則として遺物実測図に準じた。

16. 本文中の「灰白色火山灰」(山田・庄子 1980)は、これまでの仙台市域の調査報告や東北中北部の研究から、「十和田 a 火山灰 (To-a)」と考えられている。降下年代は現在、西暦 915 年と推定されており、本書もこれに従う。山田一郎・庄子貞雄 1980「宮城県に分布する灰白色火山灰について」『宮城県多賀城跡調査研究所年報

1979』

早田 勉 2000「第 5 章 自然科学分析 第 1 節 沼向遺跡、中野中柳遺跡におけるテフラ分析」『沼向遺跡 第 1～3 次調査』仙台市文化財調査報告書第 241 集

小口雅史 2003「古代東北の広域テフラをめぐる問題-十和田 a と白頭山(長白山)を中心に-」『日本律令の展開』吉川弘文館

# 本文目次

巻頭カラー写真

序文

例言

凡例

第1章 調査の概要	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査要項	1
1. 試掘・確認調査	1
2. 本発掘調査	2
第2章 遺跡周辺の環境	5
第1節 遺跡群の位置と地理的環境	5
第2節 遺跡群周辺の歴史的環境	5
第3章 調査経過と報告書の作成	8
第1節 調査経過	8
1. 試掘・確認調査	8
2. 本発掘調査	8
第2節 報告書の作成	9
第4章 試掘・確認調査	10
第1節 I区	10
第2節 II区	15
第3節 III区	16
第4節 IV区	19
第5節 V区	23
第5章 富沢駅西土地区画整理事業関係遺跡の基本層序	26
第6章 本発掘調査	32
第1節 鍛冶屋敷A遺跡	32
1. I区の調査	32
(1) III層検出遺構と出土遺物	32
1) 竪穴住居跡	32
2) 竪穴遺構	36
3) 溝跡	37
4) 小溝状遺構群	37
5) 性格不明遺構	37
6) 円形肩溝状遺構	37
7) ビット	39
(2) 遺構外出土遺物	39
2. II区の調査	41

(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	41
1) 竪穴住居跡	41
2) 竪穴遺構	45
3) 土坑	49
4) 河川跡	55
5) 小溝状遺構群	55
6) ビット	59
(2) 遺構外出土遺物	59
3. まとめ	59
(1) 遺構について	59
(2) 遺物について	59
第2節 鍛冶屋敷B遺跡	69
1. Ⅰ区の調査	69
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	69
1) 土坑	69
2) 溝跡	78
3) 小溝状遺構群	79
4) ビット	79
(2) 遺構外出土遺物	79
2. Ⅱ区の調査	80
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	80
1) 竪穴遺構	80
(2) 遺構外出土遺物	82
3. まとめ	84
(1) 遺構について	84
(2) 遺物について	84
第3節 富沢館跡	88
1. Ⅰ区の調査	88
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	89
1) 柱列跡	89
2) 門跡	89
3) 土坑・火葬墓	89
4) 溝跡・堀跡	94
5) 性格不明遺構	96
6) 河川跡	96
7) ビット	96
8) 土塁残存範囲	96
(2) 遺構外出土遺物	97
2. Ⅱ区の調査	97

(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	97
1) 竪穴住居跡	97
2) 掘立柱建物跡	100
3) 土坑	100
4) 溝跡・堀跡	105
5) 性格不明遺構	106
6) ビット	107
(2) 遺構外出土遺物	107
3. 3区の調査	108
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	108
1) 掘立柱建物跡	108
2) 杭列跡	111
3) 土坑	113
4) 溝跡・堀跡	115
5) 性格不明遺構	120
6) ビット	120
(2) 遺構外出土遺物	120
4. 4区の調査	121
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	121
1) 土坑	121
2) 溝跡・堀跡	134
3) 性格不明遺構	140
4) ビット	140
(2) 遺構外出土遺物	140
5. 5区の調査	142
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	142
1) 土坑	142
2) 堀跡	142
3) 性格不明遺構	143
4) ビット	145
(2) 遺構外出土遺物	145
6. 6区の調査	145
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	145
1) 竪穴遺構	145
2) 土坑・火葬墓	152
3) 溝跡・堀跡	164
4) 小溝状遺構群	165
5) 性格不明遺構	165
6) ビット	168

(2) 遺構外出土遺物	169
7. A区の調査	170
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	170
1) 土坑	170
2) 堀跡	170
3) 性格不明遺構	170
4) ビット	170
(2) 遺構外出土遺物	171
8. B区の調査	172
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	172
1) 堀跡	172
(2) 遺構外出土遺物	174
9. C東-1区の調査	175
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	175
1) 掘立柱建物跡	175
2) 井戸跡	177
3) 土坑	178
4) 溝跡	181
5) 性格不明遺構	183
6) ビット	183
(2) 遺構外出土遺物	183
10. C東-2区の調査	184
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	184
1) 土坑	184
2) 溝跡	187
3) ビット	187
(2) 遺構外出土遺物	187
11. C西-a区の調査	188
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	188
1) 堀跡	188
(2) 遺構外出土遺物	188
12. C西-b区の調査	189
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	189
1) 堀跡	189
(2) 遺構外出土遺物	189
13. C西-c区の調査	191
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	191
(2) 遺構外出土遺物	191
14. C西-d1東区の調査	191

(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	191
(2) 遺構外出土遺物	191
15. C西-d1 西区の調査	192
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	192
1) 土坑	192
(2) 遺構外出土遺物	192
16. C西-d2 東区の調査	193
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	193
1) 土坑	193
(2) 遺構外出土遺物	193
17. C西-d2 西区の調査	193
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	193
1) 性格不明遺構	193
2) ビット	194
(2) 遺構外出土遺物	194
18. C西-南区の調査	195
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	195
(2) 遺構外出土遺物	195
19. D-1 区の調査	196
(1) Ⅳc層検出遺構と出土遺物	196
1) 竪穴住居跡	196
2) 竪穴遺構	197
3) 土坑	202
4) 堀跡	204
5) ビット	206
(2) 遺構外出土遺物	212
20. D-2 区の調査	214
(1) Ⅴ層検出遺構と出土遺物	214
1) 土坑	214
2) 堀跡	215
(2) 遺構外出土遺物	216
21. D-3 区の調査	218
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	218
1) 堀跡	218
(2) 遺構外出土遺物	218
22. D-4 区の調査	218
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	218
1) 堀跡	218
2) 土塁跡	220

(2) 遺構外出土遺物	220
23. D-5区の調査	220
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	220
1) 堀跡	220
(2) 遺構外出土遺物	221
24. E北区の調査	222
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	222
1) 堀跡	222
(2) 遺構外出土遺物	222
25. E北・東区の調査	223
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	223
1) 堀跡	223
(2) 遺構外出土遺物	223
26. E南・東区・E中央区の調査	224
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	224
1) 土坑	224
2) 堀跡	224
3) 性格不明遺構	225
4) ビット	225
(2) 遺構外出土遺物	225
27. E南・西区の調査	227
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	227
1) 竪穴住居跡	227
2) 土坑	230
3) 溝跡	230
4) ビット	232
(2) 遺構外出土遺物	232
28. E東区の調査	232
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	232
1) 堀跡	232
(2) 遺構外出土遺物	233
29. F区の調査	233
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	233
1) 堀跡	233
(2) 遺構外出土遺物	233
30. G区の調査	234
(1) 堀跡堆積土上面検出遺構と出土遺物	234
1) 堀跡	234
31. H区の調査	235

(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	235
1) 土坑	235
2) 溝跡・堀跡	235
3) ビット	235
(2) 遺構外出土遺物	235
32. 土塁の調査	237
33. まとめ	241
(1) 遺構について	241
(2) 遺物について	246

## 第2分冊

第4節 鍛冶屋敷前遺跡	1
1. I区の調査	1
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	1
1) 竪穴住居跡	1
2) 柱列跡	1
3) 土坑	2
4) 溝跡	4
5) ビット	6
(2) 遺構外出土遺物	6
2. II区の調査	6
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	6
1) 竪穴住居跡	6
2) 土坑	29
3) 溝跡	32
4) 性格不明遺構	35
5) ビット	37
(2) 遺構外出土遺物	37
3. III区の調査	38
(1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物	38
1) 竪穴住居跡	38
2) 竪穴遺構	43
3) 土坑	50
4) 溝跡	51
5) 竪穴住居跡・竪穴遺構・鍛冶関連遺構・性格不明遺構	52
6) ビット	58
(2) 遺構外出土遺物	58
4. まとめ	58
第5節 京ノ中遺跡	82
1. 平成26年度の調査	82

(1) III層検出遺構と出土遺物	83
1) 竪穴住居跡	83
2) 土坑	88
3) 溝跡	88
4) ピット	89
(2) 遺構外出土遺物	89
2. まとめ	89
第6節 川前遺跡	95
1. IV a1 ～ 3層の調査	95
(1) 遺物包含層出土遺物	95
2. IV b1層の調査	130
(1) IV b1層検出遺構と出土遺物	130
1) 竪穴住居跡	130
2) 土坑	134
3) ピット	134
(2) IV b1層出土遺物	134
3. IV b2層の調査	140
(1) IV b2層検出遺構と出土遺物	140
1) 土坑	140
2) ピット	140
(2) IV b2層出土遺物	140
4. まとめ	140
(1) 遺構について	140
(2) 遺物について	144
1) 縄文土器	144
2) 打製石器	144
3) 磨製石器	144
4) 礫石器	144
5) 石製品	144
6) 土製品	144
第7節 宮崎遺跡	176
1. 平成27年度の調査	176
(1) III層検出遺構と出土遺物	177
1) 竪穴遺構	177
2) 土坑	178
3) 小溝状遺構群	179
4) ピット	180
(2) 遺構外出土遺物	180
2. まとめ	180

(1) 遺構について	180
(2) 遺物について	180
第7章 総括	184
第1節 出土遺物について	184
1. 縄文時代の遺物について	184
(1) 縄文土器	184
1) 富沢館跡	184
2) 川前遺跡	190
(2) 土製品	206
1) 土偶	206
2) その他の土製品	206
(3) 石製品	207
1) 岩偶	207
2) イモ貝形石製品	207
3) 石刀	207
4) 線刻硯	207
2. 古代の遺物について	208
(1) 古代の土器	208
(2) 仙台市・鍛冶屋敷A遺跡出土刻書砥石	220
1) 形状	220
2) 釈文	220
3) 内容	220
(3) 鉄鏃・鉄釘	225
第2節 検出遺構	225
1. 縄文時代の遺構	225
(1) 富沢館跡	225
(2) 川前遺跡	226
2. 古代の遺構	226
(1) 竪穴住居跡及び竪穴遺構の時期と変遷	226
(2) 鍛冶関連遺構	227
3. 富沢館跡の土塁と堀跡	228
(1) 主郭部	231
(2) 外郭部	233
1) 北外郭部	233
2) 東外郭部	233
3) 南外郭部	234
4) 西外郭部	234

引用・参考文献

報告書抄録

## 挿 図 目 次

第1図	調査遺跡と周辺の遺跡	6	第29図	小溝状遺構群平面図・断面図	38
第2図	試掘・確認調査Ⅰ-1～7全体図	10	第30図	SX1 性格不明遺構平面図・断面図	38
第3図	試掘・確認調査Ⅰ-8～18全体図	11	第31図	円形周溝状遺構平面図・断面図	39
第4図	試掘・確認調査Ⅰ-20～22・24～27 ・35全体図	12	第32図	鍛冶屋敷A遺跡Ⅱ区遺構配置図	40
第5図	試掘・確認調査Ⅰ-36・37・39～43 ・45・46・50全体図	13	第33図	SI1 竪穴住居跡平面図・断面図	42
第6図	試掘・確認調査Ⅰ-47・48・51～53 全体図	14	第34図	SI1 竪穴住居跡出土遺物	43
第7図	試掘・確認調査Ⅱ-1～9全体図	15	第35図	SI3 竪穴住居跡平面図	44
第8図	試掘・確認調査Ⅱ-10～13・17～19 ・22・24全体図	16	第36図	SI3 竪穴住居跡断面図	45
第9図	試掘・確認調査Ⅲ-1・2・7・10・11 ・16・1全体図	17	第37図	SI3 竪穴住居跡出土遺物	46
第10図	試掘・確認調査Ⅲ-16-2～6全体図	18	第38図	SI5 竪穴住居跡平面図	47
第11図	試掘・確認調査Ⅳ-3・4・6～10全体図	19	第39図	SI5 竪穴住居跡断面図	48
第12図	試掘・確認調査Ⅳ-11～19・21全体図	20	第40図	SI5 竪穴住居跡出土遺物	48
第13図	試掘・確認調査Ⅳ-22・25～27 ・30～32・34・35・37・38全体図	21	第41図	SI2 竪穴遺構平面図(1)	50
第14図	試掘・確認調査Ⅳ-39～41・43～47 全体図	22	第42図	SI2 竪穴遺構平面図(2)・断面図	51
第15図	試掘・確認調査Ⅳ-48全体図	23	第43図	SI2 竪穴遺構出土遺物	52
第16図	試掘・確認調査Ⅴ-1・3・12・19 ・21・22・24全体図	24	第44図	SI4 竪穴遺構平面図・断面図	53
第17図	試掘・確認調査Ⅴ-25～28全体図	25	第45図	SI4 竪穴遺構出土遺物	54
第18図	試掘・確認調査出土遺物	26	第46図	SK1～8土坑平面図・断面図	56
第19図	基本層序対応関係模式図1	27	第47図	SK9～13土坑平面図・断面図	57
第20図	基本層序対応関係模式図2	28	第48図	SK10土坑出土遺物	58
第21図	基本層序対応関係模式図3	29	第49図	SK14・17土坑平面図・断面図	58
第22図	基本層序対応関係模式図4	30	第50図	SR1 河川跡断面図	59
第23図	基本層序対応関係模式図5	31	第51図	小溝状遺構群Ⅰ～Ⅵ群断面図	60
<b>鍛冶屋敷A遺跡</b>			<b>鍛冶屋敷B遺跡</b>		
第24図	鍛冶屋敷A遺跡Ⅰ区遺構配置図	33	第52図	鍛冶屋敷B遺跡Ⅰ区遺構配置図	70
第25図	SI1 竪穴住居跡平面図・断面図	34	第53図	SK1～4・33土坑平面図・断面図	71
第26図	SI1 竪穴住居跡出土遺物	35	第54図	SK5～10土坑平面図・断面図	72
第27図	SI2 竪穴遺構平面図・断面図	36	第55図	SK6土坑出土遺物	73
第28図	SD1 溝跡断面図	37	第56図	SK11・12・14～18土坑平面図・断面図	74
			第57図	SK19～21土坑平面図・断面図	75
			第58図	SK22～27土坑平面図・断面図	76
			第59図	SK28・29土坑平面図・断面図	77
			第60図	SK30～32土坑平面図・断面図	78
			第61図	SD2・3・9～11溝跡断面図	79
			第62図	SD4～8小溝状遺構群断面図	79
			第63図	鍛冶屋敷B遺跡Ⅱ区遺構配置図	80
			第64図	SI1 竪穴遺構平面図・断面図	81

第 65 图	SI1 竖穴遺構出土遺物	82	第 98 图	SX10 性格不明遺構平面図・断面図	121
第 66 图	SI2 竖穴遺構平面図・断面図	83	第 99 图	遺構外出土遺物	121
第 67 图	SI2 竖穴遺構出土遺物	83	第 100 图	富沢館跡 4 区遺構配置図	122
<b>富沢館跡</b>					
第 68 图	富沢館跡 1 区遺構配置図	88	第 101 图	SK30 ~ 32・34 ~ 36・38 土坑 SK37 井戸跡平面図・断面図	124
第 69 图	SA1 柱列跡平面図・断面図	90	第 102 图	SK37 井戸跡出土遺物	125
第 70 图	SB4 門跡平面図・断面図	91	第 103 图	SK40・41・43 ~ 45・47・49・52 土坑平面図・断面図	126
第 71 图	SK1・2・4 ~ 7 土坑平面図・断面図	92	第 104 图	SK54・55・57・59・60・65 ~ 67 土坑平面図・断面図	128
第 72 图	SK8 ~ 10 土坑 SK11 火葬墓平面図 ・断面図	93	第 105 图	SK68・70 ~ 73・75 ~ 78・93 土坑 平面図・断面図	130
第 73 图	SK11 火葬墓出土遺物	94	第 106 图	SK78 土坑出土遺物	131
第 74 图	SK12・23 土坑平面図・断面図	94	第 107 图	SK79 ~ 81・84 ~ 88 土坑平面図 ・断面図	132
第 75 图	SD1 ~ 7 溝跡 SD8 堀跡断面図	95	第 108 图	SK90・92・94 土坑 SK91 井戸跡 平面図・断面図	133
第 76 图	SX1・2 性格不明遺構平面図・断面図	96	第 109 图	SK91 土坑出土遺物	134
第 77 图	SR1 河川跡断面図	97	第 110 图	SK95・96・99 ~ 101 土坑平面図 ・断面図	135
第 78 图	富沢館跡 2 区遺構配置図	97	第 111 图	SK103・104 土坑平面図・断面図	136
第 79 图	SI1 竖穴住居跡平面図・断面図	98	第 112 图	SD22 ~ 24・26・28 ~ 30 溝跡断面図	137
第 80 图	SI1 竖穴住居跡出土遺物	99	第 113 图	SD31・36 ~ 38 溝跡断面図	138
第 81 图	SB1 掘立柱建物跡平面図・断面図	101	第 114 图	SD39・40 堀跡断面図	139
第 82 图	SK13・14 土坑平面図・断面図	102	第 115 图	SX3・4 性格不明遺構平面図・断面図	141
第 83 图	SK15 ~ 18 土坑平面図・断面図	103	第 116 图	富沢館跡 5 区遺構配置図	142
第 84 图	SK19 ~ 22 土坑平面図・断面図	104	第 117 图	SK191 土坑平面図・断面図	142
第 85 图	SK21 土坑出土遺物	105	第 118 图	SD41・42 堀跡断面図	143
第 86 图	SD10・34・35 堀跡 SD11 ~ 17 溝跡 断面図	106	第 119 图	SD42 堀跡出土遺物	144
第 87 图	SX6 性格不明遺構平面図・断面図	107	第 120 图	SX23 性格不明遺構平面図・断面図	144
第 88 图	SX7・9 性格不明遺構平面図・断面図	108	第 121 图	富沢館跡 6 区遺構配置図	146
第 89 图	富沢館跡 3 区遺構配置図	109	第 122 图	SI4 竖穴遺構平面図・断面図	147
第 90 图	SB2 掘立柱建物跡平面図	110	第 123 图	SI5 竖穴遺構平面図・断面図	148
第 91 图	SB2 掘立柱建物跡断面図	111	第 124 图	SI6 竖穴遺構平面図・断面図	150
第 92 图	SA4・5 杭列跡平面図・断面図	112	第 125 图	SI6 竖穴遺構出土遺物	150
第 93 图	SK24 ~ 29・166・167 土坑平面図 ・断面図	114	第 126 图	SI7 竖穴遺構平面図・断面図	151
第 94 图	SK168・169 土坑平面図・断面図	115	第 127 图	SI7 竖穴遺構出土遺物	152
第 95 图	SD18・20・65 ~ 67・82・83 溝跡 断面図	116	第 128 图	SI10 竖穴遺構平面図・断面図	153
第 96 图	SD79 ~ 81 堀跡・土塁断面図	117	第 129 图	SI10 竖穴遺構出土遺物	154
第 97 图	土塁直下・堀跡直上・南端部平場出土 遺物	120			

第 130 图	SK109 ~ 111 · 113 · 114 · 116 · 117 土坑 SK115 火葬墓平面图 · 断面图 ····· 155	第 163 图	富沢館跡 C 東-2 区遺構配置図 ····· 184
第 131 图	SK118 ~ 124 土坑平面图 · 断面图 ····· 157	第 164 图	SK179 ~ 184 土坑平面图 · 断面图 ····· 185
第 132 图	SK125 ~ 131 土坑平面图 · 断面图 ····· 158	第 165 图	SK185 · 187 ~ 190 土坑平面图 · 断面图 ····· 186
第 133 图	SK132 ~ 137 土坑平面图 · 断面图 ····· 160	第 166 图	SD90 溝跡断面图 ····· 187
第 134 图	SK138 ~ 141 土坑平面图 · 断面图 ····· 162	第 167 图	富沢館跡 C 西-a 区遺構配置図 ····· 188
第 135 图	SK142 · 143 · 152 · 155 ~ 157 土坑 平面图 · 断面图 ····· 163	第 168 图	SD43 堀跡断面图 ····· 188
第 136 图	SK158 · 161 · 162 · 170 土坑平面图 · 断面图 ····· 164	第 169 图	富沢館跡 C 西-b 区遺構配置図 ····· 189
第 137 图	SK162 土坑出土遺物 ····· 164	第 170 图	SD43 · 44 堀跡断面图 ····· 190
第 138 图	SD57 · 59 ~ 61 · 68 溝跡 SD58 · 92 堀跡断面图 ····· 166	第 171 图	富沢館跡 C 西-c 区遺構配置図 ····· 191
第 139 图	SD92 堀跡 · 土塁断面图 ····· 167	第 172 图	富沢館跡 C 西-d1 区遺構配置図 ····· 191
第 140 图	SD58 堀跡出土遺物 ····· 168	第 173 图	富沢館跡 C 西-d1 西区遺構配置図 ····· 192
第 141 图	小溝状遺構群 I 群平面图 · 断面图 ····· 168	第 174 图	SK105 土坑平面图 · 断面图 ····· 192
第 142 图	SX17 ~ 20 性格不明遺構平面图 · 断面图 ····· 169	第 175 图	富沢館跡 C 西-d2 東区遺構配置図 ····· 193
第 143 图	ビット出土遺物 ····· 169	第 176 图	SK106 土坑平面图 · 断面图 ····· 193
第 144 图	富沢館跡 A 区遺構配置図 ····· 170	第 177 图	富沢館跡 C 西-d2 西区遺構配置図 ····· 194
第 145 图	SK186 土坑平面图 · 断面图 ····· 171	第 178 图	SX11 · 12 性格不明遺構平面图 · 断面图 ····· 194
第 146 图	SD87 堀跡断面图 ····· 171	第 179 图	富沢館跡 C 西-南区遺構配置図 ····· 195
第 147 图	SX21 性格不明遺構平面图 · 断面图 ····· 172	第 180 图	富沢館跡 D-1 区遺構配置図 ····· 196
第 148 图	富沢館跡 B-1 ~ 4 区遺構配置図 ····· 172	第 181 图	S19 竪穴住居跡平面图 · 断面图 ····· 197
第 149 图	B-1 ~ 3 区 SD89 堀跡断面图 ····· 173	第 182 图	S19 竪穴住居跡出土遺物 (1) ····· 198
第 150 图	B-2 区 SD91 堀跡断面图 ····· 174	第 183 图	S19 竪穴住居跡出土遺物 (2) ····· 199
第 151 图	B-1 区遺構外出土遺物 ····· 175	第 184 图	S19 竪穴住居跡出土遺物 (3) ····· 200
第 152 图	富沢館跡 C 東-1 区遺構配置図 ····· 175	第 185 图	S19 竪穴住居跡出土遺物 (4) ····· 201
第 153 图	SB4 掘立柱建物跡平面图 · 断面图 ····· 176	第 186 图	S18 竪穴住居跡平面图 · 断面图 ····· 202
第 154 图	SB5 掘立柱建物跡平面图 · 断面图 ····· 177	第 187 图	S18 竪穴住居跡出土遺物 ····· 203
第 155 图	SB6 掘立柱建物跡平面图 · 断面图 ····· 178	第 188 图	SK145 ~ 151 · 153 土坑平面图 · 断面图 ····· 205
第 156 图	SB7 掘立柱建物跡平面图 · 断面图 ····· 179	第 189 图	SK145 土坑出土遺物 (1) ····· 206
第 157 图	SB8 掘立柱建物跡平面图 · 断面图 ····· 180	第 190 图	SK145 土坑出土遺物 (2) ····· 207
第 158 图	SE1 井戸跡平面图 · 断面图 ····· 181	第 191 图	SK154 · 159 · 160 · 164 · 165 土坑 平面图 · 断面图 ····· 208
第 159 图	SE1 井戸跡出土遺物 ····· 181	第 192 图	SK147 土坑出土遺物 ····· 209
第 160 图	SK171 ~ 173 · 175 · 177 · 178 土坑 平面图 · 断面图 ····· 182	第 193 图	SK159 土坑出土遺物 ····· 209
第 161 图	SD84 ~ 86 溝跡平面图 · 断面图 ····· 183	第 194 图	SK160 土坑出土遺物 ····· 209
第 162 图	SX22 性格不明遺構平面图 · 断面图 ····· 184	第 195 图	SK164 土坑出土遺物 ····· 210
		第 196 图	SK165 土坑出土遺物 ····· 210
		第 197 图	SD62 · 63 堀跡断面图 ····· 210
		第 198 图	遺構外出土遺物 (1) ····· 211

第 199 图	遺構外出土遺物 (2) .....	212
第 200 图	遺構外出土遺物 (3) .....	213
第 201 图	富沢館跡 D-2 区遺構配置図 .....	214
第 202 图	SK144 土坑平面図・断面図 .....	215
第 203 图	SK144 土坑出土遺物 .....	215
第 204 图	SD64 堀跡断面図 .....	216
第 205 图	遺構外出土遺物 (1) .....	216
第 206 图	遺構外出土遺物 (2) .....	217
第 207 图	富沢館跡 D-3 区遺構配置図 .....	218
第 208 图	SD69 堀跡断面図 .....	218
第 209 图	富沢館跡 D-4 区遺構配置図 .....	219
第 210 图	SD71・72 堀跡断面図 (1) .....	219
第 211 图	SD72 堀跡断面図 (2) .....	220
第 212 图	富沢館跡 D-5 区遺構配置図 .....	220
第 213 图	SD73・74 堀跡断面図 .....	221
第 214 图	富沢館跡 E-北 区遺構配置図 .....	222
第 215 图	SD45・46 堀跡断面図 .....	222
第 216 图	富沢館跡 E-北・東区遺構配置図 .....	223
第 217 图	SD75・76 堀跡断面図 .....	223
第 218 图	富沢館跡 E-南・東区・E 中央区遺構 配置図 .....	224
第 219 图	SK107 土坑平面図・断面図 .....	225
第 220 图	SD47 堀跡出土遺物 .....	225
第 221 图	SD47 ~ 49 堀跡断面図 .....	226
第 222 图	SX13・14 性格不明遺構平面図 ・断面図 .....	227
第 223 图	富沢館跡 E-南・西区遺構配置図 .....	228
第 224 图	SI2 竪穴住居跡平面図・断面図 .....	229
第 225 图	SI2 竪穴住居跡出土遺物 .....	230
第 226 图	SK108 土坑平面図・断面図 .....	231
第 227 图	SD50 ~ 56 溝跡断面図 .....	231
第 228 图	富沢館跡 E-東区遺構配置図 .....	232
第 229 图	SD77・78 堀跡断面図 .....	232
第 230 图	富沢館跡 F 区遺構配置図 .....	233
第 231 图	SD88 堀跡断面図 .....	233
第 232 图	富沢館跡 G 区遺構配置図 .....	234
第 233 图	SD93 堀跡断面図 .....	234
第 234 图	富沢館跡 H 区遺構配置図 .....	235
第 235 图	SK192・193 土坑平面図・断面図 .....	236

第 236 图	SD94 堀跡 SD95・96 溝跡断面図 .....	236
第 237 图	土塁平面図 .....	238
第 238 图	土塁断面図 .....	239
第 239 图	土塁構築土出土遺物 .....	241

## 第 2 分冊

### 鍛冶屋敷前遺跡

第 240 图	鍛冶屋敷前遺跡 I 区遺構配置図 .....	1
第 241 图	SI1 竪穴住居跡平面図・断面図 .....	2
第 242 图	SA1 柵列跡平面図・断面図 .....	2
第 243 图	SA2 柵列跡平面図・断面図 .....	3
第 244 图	SA3 柵列跡平面図・断面図 .....	3
第 245 图	SK1 ~ 3 土坑平面図・断面図 .....	4
第 246 图	SD1 ~ 9 溝跡断面図 .....	5
第 247 图	鍛冶屋敷前遺跡 II 区遺構配置図 .....	7
第 248 图	SI8 竪穴住居跡平面図・断面図 .....	8
第 249 图	SI8 竪穴住居跡出土遺物 .....	9
第 250 图	SI9 竪穴住居跡平面図・断面図 .....	10
第 251 图	SI9 竪穴住居跡出土遺物 .....	11
第 252 图	SI10 竪穴住居跡平面図・断面図 .....	12
第 253 图	SI10 竪穴住居跡出土遺物 .....	13
第 254 图	SI12 竪穴住居跡平面図・断面図 .....	14
第 255 图	SI12 竪穴住居跡出土遺物 .....	15
第 256 图	SI13 竪穴住居跡平面図・断面図 .....	16
第 257 图	SI14 竪穴住居跡平面図・断面図 .....	18
第 258 图	SI14 竪穴住居跡出土遺物 .....	19
第 259 图	SI15 竪穴住居跡平面図・断面図 .....	20
第 260 图	SI15 竪穴住居跡出土遺物 .....	21
第 261 图	SI16 竪穴住居跡平面図・断面図 .....	22
第 262 图	SI16 竪穴住居跡出土遺物 .....	23
第 263 图	SI17 竪穴住居跡平面図・断面図 .....	24
第 264 图	SI17 竪穴住居跡出土遺物 .....	25
第 265 图	SI18 竪穴住居跡平面図・断面図 .....	27
第 266 图	SI18 竪穴住居跡出土遺物 (1) .....	28
第 267 图	SI18 竪穴住居跡出土遺物 (2) .....	29
第 268 图	SI19 竪穴住居跡平面図・断面図 .....	30
第 269 图	SI19 竪穴住居跡出土遺物 .....	31
第 270 图	SK13 ~ 22 土坑平面図・断面図 .....	33
第 271 图	SK13・21 土坑出土遺物 .....	34

第272図	SD1 ~ 10・12 ~ 14・16・17・19 ・20・22 ~ 24・26・28 ~ 31・35 ~ 38 溝跡平面図・断面図	36
第273図	SX7 性格不明遺構平面図・断面図	37
第274図	ピット出土遺物	37
第275図	遺構外出土遺物	38
第276図	鍛冶屋敷前遺跡Ⅲ区遺構配置図	39
第277図	SI6 竪穴住居跡平面図・断面図	40
第278図	SI6 竪穴住居跡出土遺物	41
第279図	SI7 竪穴住居跡平面図・断面図	42
第280図	SI7 竪穴住居跡出土遺物	43
第281図	SI1 竪穴遺構平面図・断面図	44
第282図	SI2 竪穴遺構平面図・断面図	44
第283図	SI3 竪穴遺構平面図・断面図	45
第284図	SI4 鍛冶関連遺構平面図・断面図	46
第285図	SI4 鍛冶関連遺構出土遺物(1)	47
第286図	SI4 鍛冶関連遺構出土遺物(2)	48
第287図	SI4 鍛冶関連遺構出土遺物(3)	49
第288図	SI4 鍛冶関連遺構出土遺物(4)	50
第289図	SB1 掘立柱建物跡・SI5 掘り方平面図 ・断面図	51
第290図	SK1・4・5 土坑平面図・断面図	52
第291図	SD1 溝跡断面図	52
第292図	SX3 鍛冶関連遺構、SX5 竪穴遺構、 SX1 性格不明遺構平面図・断面図	54
第293図	SX2 竪穴住居跡平面図・断面図	55
第294図	SX2 竪穴住居跡出土遺物	56
第295図	SX4 鍛冶関連遺構平面図・断面図	57
第296図	SX4 鍛冶関連遺構出土遺物	59
第297図	SX6 性格不明遺構平面図・断面図	59
第298図	SX6 性格不明遺構出土遺物	60
<b>京ノ中遺跡</b>		
第299図	京ノ中遺跡遺構配置図	82
第300図	SI1 竪穴住居跡平面図・断面図	84
第301図	SI1 竪穴住居跡出土遺物	85
第302図	SI2 竪穴住居跡平面図・断面図	86
第303図	SI2 竪穴住居跡出土遺物	87
第304図	SK1・2 土坑平面図・断面図	88
第305図	SD1 溝跡断面図	89

## 川前遺跡

第306図	川前遺跡IV a層遺構配置図	96
第307図	川前遺跡A ~ C区基本層序図	97
第308図	IV a1層(A区) 遺物包含層出土遺物(1)	99
第309図	IV a1層(A区) 遺物包含層出土遺物(2)	100
第310図	IV a1層(A区) 遺物包含層出土遺物(3)	101
第311図	IV a1層(A区) 遺物包含層出土遺物(4)	102
第312図	IV a1層(A区) 遺物包含層出土遺物(5)	103
第313図	IV a1層(A区) 遺物包含層出土遺物(6)	104
第314図	IV a1層(A区) 遺物包含層出土遺物(7)	105
第315図	IV a1層(A区) 遺物包含層出土遺物(8) ・IV a2層(A区) 遺物包含層出土遺物(1)	106
第316図	IV a2層(A区) 遺物包含層出土遺物(2)	107
第317図	IV a2層(A区) 遺物包含層出土遺物(3)	108
第318図	IV a2層(A区) 遺物包含層出土遺物(4)	109
第319図	IV a2層(A区) 遺物包含層出土遺物(5)	110
第320図	IV a2層(A区) 遺物包含層出土遺物(6)	111
第321図	IV a2層(A区) 遺物包含層出土遺物(7)	112
第322図	IV a2層(A区) 遺物包含層出土遺物(8)	113
第323図	IV a2層(A区) 遺物包含層出土遺物(9)	114
第324図	IV a2層(A区) 遺物包含層出土遺物(10)	115
第325図	IV a2層(A区) 遺物包含層出土遺物(11)	116
第326図	IV a2層(A区) 遺物包含層出土遺物(12)	117
第327図	IV a2層(A区) 遺物包含層出土遺物(13)	118
第328図	IV a2層(A区) 遺物包含層出土遺物(14)	119
第329図	IV a2層(A区) 遺物包含層出土遺物(15)	120
第330図	IV a2層(A区) 遺物包含層出土遺物(16)	121
第331図	IV a2層(A区) 遺物包含層出土遺物(17)	122
第332図	IV a2層(A区) 遺物包含層出土遺物(18)	123
第333図	IV a2層(A区) 遺物包含層出土遺物(19)	124
第334図	IV a2層(A区) 遺物包含層出土遺物(20) ・IV a3層(A区) 遺物包含層出土遺物(1)	125
第335図	IV a3層(A区) 遺物包含層出土遺物(2)	126
第336図	IV a3層(A区) 遺物包含層出土遺物(3)	127
第337図	IV a3層(A区) 遺物包含層出土遺物(4) ・IV a層(B・C区) 遺物包含層出土遺物	128
第338図	川前遺跡IV b1層遺構配置図	129
第339図	SI2 竪穴住居跡平面図・断面図	130
第340図	SI2 竪穴住居跡出土遺物	131

第 341 図	SI3 竪穴住居跡平面図・断面図	132
第 342 図	SI3 竪穴住居跡出土遺物	133
第 343 図	SI4 竪穴住居跡平面図・断面図	135
第 344 図	SI4 竪穴住居跡出土遺物	136
第 345 図	SK2 土坑平面図・断面図	136
第 346 図	IV b1 層 (A 区) 遺物包含層出土遺物 (1)	137
第 347 図	IV b1 層 (A 区) 遺物包含層出土遺物 (2)	138
第 348 図	IV b1 層 (A・B 区) 遺物包含層出土遺物 (3)	139
第 349 図	川前遺跡 IV b2 層遺構配置図	141
第 350 図	SK3 ～ 8 土坑平面図・断面図	142
第 351 図	SK6 土坑出土遺物	143
第 352 図	IV b2 層 (A・B 区) 遺物包含層出土遺物	143
<b>宮崎遺跡</b>		
第 353 図	宮崎遺跡遺構配置図	176
第 354 図	SI1 竪穴住居跡平面図・断面図	177
第 355 図	SI1 竪穴住居跡出土遺物	178
第 356 図	SK1 土坑平面図・断面図	178
第 357 図	小溝状遺構群 SD1 ～ 15 断面図	179
<b>総括</b>		
第 358 図	富沢館跡縄文土器集成 深鉢 (1)	187
第 359 図	富沢館跡縄文土器集成 深鉢 (2)	188
第 360 図	富沢館跡縄文土器集成 深鉢以外	189

第 361 図	川前遺跡縄文土器集成 A ～ C 群	196
第 362 図	川前遺跡縄文土器集成 C ～ D 群	197
第 363 図	川前遺跡縄文土器集成 D ～ E 群	198
第 364 図	川前遺跡縄文土器集成 E ～ F 群	199
第 365 図	川前遺跡縄文土器集成 F 群 (1)	200
第 366 図	川前遺跡縄文土器集成 F 群 (2)	201
第 367 図	川前遺跡縄文土器集成 F ～ G 群	202
第 368 図	川前遺跡縄文土器集成 G 群	203
第 369 図	川前遺跡縄文土器集成 G ～ I 群	204
第 370 図	川前遺跡縄文土器集成 I ～ J 群、その他	205
第 371 図	土偶・その他の土製品集成	206
第 372 図	石製品集成	208
第 373 図	古代土器集成 (1)	212
第 374 図	古代土器集成 (2)	213
第 375 図	古代土器集成 (3)	214
第 376 図	古代土器集成 (4)	215
第 377 図	古代土器集成 (5)	216
第 378 図	古代土器集成 (6)	217
第 379 図	古代土器集成 (7)	218
第 380 図	古代土器集成 (8)	219
第 381 図	金属製品集成	225
第 382 図	A ～ C 期主要遺構の重複関係模式図	229
第 383 図	富沢館跡地跡想定配置図	235

## 写真図 版 目 次

写真図版 1	鍛冶屋敷 A 遺跡 (1)	65
写真図版 2	鍛冶屋敷 A 遺跡 (2)	66
写真図版 3	鍛冶屋敷 A 遺跡出土遺物 (1)	67
写真図版 4	鍛冶屋敷 A 遺跡出土遺物 (2)	68
写真図版 1	鍛冶屋敷 B 遺跡	87
写真図版 1	富沢館跡 (1)	251
写真図版 2	富沢館跡 (2)	252
写真図版 3	富沢館跡 (3)	253
写真図版 4	富沢館跡 (4)	254
写真図版 5	富沢館跡 (5)	255
写真図版 6	富沢館跡 (6)	256

写真図版 7	富沢館跡 (7)	257
写真図版 8	富沢館跡 (8)	258
写真図版 9	富沢館跡 (9)	259
写真図版 10	富沢館跡 (10)	260
写真図版 11	富沢館跡 (11)	261
写真図版 12	富沢館跡 (12)	262
写真図版 13	富沢館跡 (13)	263
写真図版 14	富沢館跡 (14)	264
写真図版 15	富沢館跡 (15)	265
写真図版 16	富沢館跡 (16)	266
写真図版 17	富沢館跡 (17)	267

写真図版 18	富沢館跡 (18) .....	268	写真図版 2	京ノ中遺跡出土遺物 .....	94
写真図版 19	富沢館跡 (19) .....	269	写真図版 1	川前遺跡 (1) .....	147
写真図版 20	富沢館跡 (20) .....	270	写真図版 2	川前遺跡 (2) .....	148
写真図版 21	富沢館跡 (21) .....	271	写真図版 3	川前遺跡 (3) .....	149
写真図版 22	富沢館跡出土遺物 (1) .....	272	写真図版 4	川前遺跡 (4) .....	150
写真図版 23	富沢館跡出土遺物 (2) .....	273	写真図版 5	川前遺跡 (5) .....	151
写真図版 24	富沢館跡出土遺物 (3) .....	274	写真図版 6	川前遺跡 (6) .....	152
写真図版 25	富沢館跡出土遺物 (4) .....	275	写真図版 7	川前遺跡 (7) .....	153
写真図版 26	富沢館跡出土遺物 (5) .....	276	写真図版 8	川前遺跡出土遺物 (1) .....	154
写真図版 27	富沢館跡出土遺物 (6) .....	277	写真図版 9	川前遺跡出土遺物 (2) .....	155
写真図版 28	富沢館跡出土遺物 (7) .....	278	写真図版 10	川前遺跡出土遺物 (3) .....	156
写真図版 29	富沢館跡出土遺物 (8) .....	279	写真図版 11	川前遺跡出土遺物 (4) .....	157
写真図版 30	富沢館跡出土遺物 (9) .....	280	写真図版 12	川前遺跡出土遺物 (5) .....	158
<b>第 2 分冊</b>			写真図版 13	川前遺跡出土遺物 (6) .....	159
写真図版 1	鍛冶屋敷前遺跡 (1) .....	65	写真図版 14	川前遺跡出土遺物 (7) .....	160
写真図版 2	鍛冶屋敷前遺跡 (2) .....	66	写真図版 15	川前遺跡出土遺物 (8) .....	161
写真図版 3	鍛冶屋敷前遺跡 (3) .....	67	写真図版 16	川前遺跡出土遺物 (9) .....	162
写真図版 4	鍛冶屋敷前遺跡 (4) .....	68	写真図版 17	川前遺跡出土遺物 (10) .....	163
写真図版 5	鍛冶屋敷前遺跡 (5) .....	69	写真図版 18	川前遺跡出土遺物 (11) .....	164
写真図版 6	鍛冶屋敷前遺跡 (6) .....	70	写真図版 19	川前遺跡出土遺物 (12) .....	165
写真図版 7	鍛冶屋敷前遺跡 (7) .....	71	写真図版 20	川前遺跡出土遺物 (13) .....	166
写真図版 8	鍛冶屋敷前遺跡 (8) .....	72	写真図版 21	川前遺跡出土遺物 (14) .....	167
写真図版 9	鍛冶屋敷前遺跡 (9) .....	73	写真図版 22	川前遺跡出土遺物 (15) .....	168
写真図版 10	鍛冶屋敷前遺跡 (10) .....	74	写真図版 23	川前遺跡出土遺物 (16) .....	169
写真図版 11	鍛冶屋敷前遺跡出土遺物 (1) .....	75	写真図版 24	川前遺跡出土遺物 (17) .....	170
写真図版 12	鍛冶屋敷前遺跡出土遺物 (2) .....	76	写真図版 25	川前遺跡出土遺物 (18) .....	171
写真図版 13	鍛冶屋敷前遺跡出土遺物 (3) .....	77	写真図版 26	川前遺跡出土遺物 (19) .....	172
写真図版 14	鍛冶屋敷前遺跡出土遺物 (4) .....	78	写真図版 27	川前遺跡出土遺物 (20) .....	173
写真図版 15	鍛冶屋敷前遺跡出土遺物 (5) .....	79	写真図版 28	川前遺跡出土遺物 (21) .....	174
写真図版 16	鍛冶屋敷前遺跡出土遺物 (6) .....	80	写真図版 29	川前遺跡出土遺物 (22) .....	175
写真図版 17	鍛冶屋敷前遺跡出土遺物 (7) .....	81	写真図版 1	宮崎遺跡 .....	183
写真図版 1	京ノ中遺跡 .....	93			

## 第1章 調査の概要

### 第1節 調査に至る経緯

仙台市南部は、高速鉄道南北線の開通以来富沢南地区、富沢駅周辺地区の土地区画整理事業が進み、都市環境の整備が進捗しつつある地域である。こうした中、富沢南地区の西側に隣接する富沢富田地区で土地区画整理事業を具体化する協議が始まり、事業地内に所在する富沢館跡の地上蹟在遺構である土塁について、地権者や近隣住民等区画整理関係者と仙台市建設局及び太白区公園課、仙台市教育委員会文化財課が現地を数回にわたって視察し、保存に向けての協議を行い、土塁を含む富沢館跡中心部を公園として保存を図るという方針で事業を進めることとした。その後、事業者である仙台市富沢駅西土地区画整理組合設立準備委員会（当時）より、仙台市教育委員会に事業地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて協議書が提出された（平成25年4月15日付仙富西区準第16号）。事業地内には、六本松遺跡、鍛冶屋敷A・B遺跡、富沢館跡、鍛冶屋敷前遺跡の5遺跡が所在していた。仙台市教育委員会では事業地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて、事業地内での試掘・確認調査を実施する旨を回答し（平成25年4月30日付H25教生文第124-15号）、協議を進めた。平成25年8月31日付で組合設立が認可され、仙台市富沢駅西土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の調査依頼が仙台市富沢駅西土地区画整理組合より提出された（平成25年9月3日付仙富西区準第34号）。調査依頼に対して事業地内の区画道路部分および富沢館跡に残存する土塁部分等を対象に試掘・確認調査を実施することを回答した（平成25年9月9日付教生文第1407号）。

本事業予定地周辺は仙台市内でも特に多くの遺跡が集中する地域で、事業予定地内には、六本松遺跡、鍛冶屋敷A・B遺跡、富沢館跡、鍛冶屋敷前遺跡の5遺跡が知られており、遺跡の時代も縄文時代から中世と長期にわたる。特に富沢館跡は館跡中央に土塁が残っており、周辺の水田が堀跡の痕跡を留めているとされるなど、中世の景観が観察されるとして注目されていた遺跡である。

平成25年10月から平成26年9月までの期間、本事業地内で試掘・確認調査を実施し、鍛冶屋敷A遺跡、富沢館跡の範囲を拡大し、鍛冶屋敷A遺跡の南に京ノ中遺跡、北に宮崎遺跡、富沢館跡の南に川前補遺跡、川前遺跡の4遺跡を新規に登録し、本事業地内の遺跡は9遺跡となった。

本発掘調査は、事業の施工計画と畑地、および水田の耕作の状況に基づき、区画整理組合と協議を重ねながら、平成26年度から平成27年度の期間で実施する予定であったが、施工計画の変更により平成25年度から実施することになり、平成25年度は年度末の平成26年2月27日から鍛冶屋敷A遺跡で実施した。平成26年度は京ノ中遺跡で5月19日から、鍛冶屋敷前遺跡で5月22日から、富沢館跡で5月28日から、鍛冶屋敷B遺跡で7月28日から、鍛冶屋敷A遺跡で9月30日から実施した。このうち、鍛冶屋敷B遺跡は2箇所の調査を予定していたが、地権者との協議により、1箇所のみでの調査になったため、次年度以降に繰り延べとなった。平成27年度は富沢館跡で5月28日から、川前遺跡で6月15日から、宮崎遺跡で8月10日から実施した。平成28年度には設計の変更のため、富沢館跡で6月13日から、地権者との協議により繰り延べになっていた鍛冶屋敷B遺跡の本発掘調査を年度末の平成29年3月2日から実施した。

### 第2節 調査要項

#### 1. 試掘・確認調査

・平成25年度

所在地：宮城県仙台市太白区富沢富田内

## 第2節 調査要項

調査面積：93ヶ所 2,820㎡

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

主査 主濱光朗 主査 荒井 格 主事 庄子裕美

調査組織：国際文化財株式会社

主任調査員 前川雅夫 調査員 横井 奏 計測員 相原房明 計測員 大山政典

計測補助員 利屋 勉 計測補助員 永瀬一雄

調査期間：平成25年10月1日～平成26年1月17日・平成26年2月17日～平成27年3月20日  
・平成26年度

所在地：宮城県仙台市太白区富沢富田地内

調査面積：20ヶ所 567㎡

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

主査 主濱光朗 主査 荒井 格 主事 庄子裕美

調査組織：国際文化財株式会社

主任調査員 水上匡彦 主任調査員 蛭名 純 調査員 佐藤典邦 調査補助員 横井 奏

計測員 佐々木 薫 計測員 浅野好治 計測補助員 永瀬一雄 計測補助員 庄子輝男

調査期間：平成26年7月28日～平成26年10月30日

## 2. 本発掘調査

遺跡名：鍛冶屋敷A遺跡(宮城県遺跡登録番号 01085)

所在地：宮城県仙台市太白区富田字舞台・京ノ南

調査面積：Ⅰ区260㎡(平成25年度)・Ⅱ区1,005㎡(平成26年度)

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

平成25年度 主査 主濱光朗 主査 荒井 格 主事 庄子裕美

平成26年度 主査 主濱光朗 主査 荒井 格 主事 庄子裕美

調査組織：国際文化財株式会社

平成25年度 主任調査員 前川雅夫 調査員 土 任隆 計測員 浅野好治

平成26年度 主任調査員 蛭名 純 調査補助員 横井 奏 計測員 浅野好治

計測補助員 庄子輝男

調査期間：Ⅰ区 平成26年2月27日～平成27年3月20日

Ⅱ区 平成26年9月30日～平成26年11月21日

遺跡名：鍛冶屋敷B遺跡(宮城県遺跡登録番号 01086)

所在地：宮城県仙台市太白区富沢字鍛冶屋敷

調査面積：Ⅰ区170㎡(平成26年度) Ⅱ区60㎡(平成28年度)

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

平成26年度 主査 主濱光朗 主査 荒井 格 主事 庄子裕美

平成28年度 主任 工藤信一郎 専門員 渡部弘美

調査組織：国際文化財株式会社

平成26年度 主任調査員 蛭名 純 調査補助員 横井 奏 計測員 浅野好治  
計測補助員 庄子輝男

平成28年度 調査員 江藤 敦 計測員 志賀昌弘

調査期間：I区 平成26年7月28日～平成26年9月11日

II区 平成29年3月2日～平成29年3月17日

遺跡名：富沢館跡（宮城県遺跡登録番号 01246）

所在地：宮城県仙台市太白区富沢字館・熊前

調査面積：1～4区・土塁 4,197㎡（平成26年度）

1・3～6・A～G区 4,788㎡（平成27年度）

H区 58㎡（平成28年度）

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

平成26年度 主査 主濱光朗 主査 荒井 格 主事 庄子裕美

平成27年度 主任 工藤信一郎 主事 小泉博明 専門員 渡部弘美

平成28年度 主任 工藤信一郎 専門員 渡部弘美

調査組織：国際文化財株式会社

平成26年度 主任調査員 水上区彦 調査員 佐藤典邦 計測員 佐々木 薫  
計測補助員 永瀬一雄

平成27年度 主任調査員 水上区彦

調査員 建部真也（平成27年5月28日～平成27年6月30日）

調査員 村尾政人（平成27年7月1日～平成28年1月31日）

調査員 竹内俊之（平成28年2月1日～平成28年3月18日）

計測員 浅野好治 計測補助員 永瀬一雄

平成28年度 調査員 江藤 敦 調査補助員 利屋 勉 計測員 多田和幸 計測補助員 伊藤裕基

調査期間：1～4区 平成26年5月28日～平成27年3月13日

1・3～6・A～G区 平成27年5月28日～平成28年2月24日

H区 平成28年6月13日～平成28年6月27日

遺跡名：鍛冶屋敷前遺跡（宮城県遺跡登録番号 01511）

所在地：宮城県仙台市太白区富沢字鍛冶屋敷前・熊前

調査面積：961㎡

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

平成26年度 主査 主濱光朗 主査 荒井 格 主事 庄子裕美

調査組織：国際文化財株式会社

## 第2節 調査要項

平成26年度 主任調査員 蛭名 純 調査補助員 横井 奏 計測員 浅野好治  
計測補助員 庄子輝男

調査期間：平成26年5月22日～平成26年10月20日

遺跡名：京ノ中遺跡(宮城県遺跡登録番号 01573)

所在地：宮城県仙台市太白区富田字京ノ中

調査面積：358㎡

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

平成26年度 主査 主濱光朗 主査 荒井 格 主事 庄子裕美

調査組織：国際文化財株式会社

平成26年度 主任調査員 蛭名 純 調査補助員 横井 奏 計測員 浅野好治  
計測補助員 庄子輝男

調査期間：平成26年5月19日～平成26年6月24日

遺跡名：川前遺跡(宮城県遺跡登録番号 01575)

所在地：宮城県仙台市太白区富沢字川前

調査面積：240㎡

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

平成27年度 主任 工藤信一郎 主事 小泉博明 専門員 渡部弘美

調査組織：国際文化財株式会社

平成27年度 主任調査員 蛭名 純 調査補助員 伊藤裕基 計測員 浅野好治  
計測補助員 庄子輝男

調査期間：平成27年6月15日～平成27年10月16日

遺跡名：宮崎遺跡(宮城県遺跡登録番号 01576)

所在地：宮城県仙台市太白区富沢字宮崎

調査面積：169㎡

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

平成27年度 主任 工藤信一郎 主事 小泉博明 専門員 渡部弘美

調査組織：国際文化財株式会社

平成27年度 主任調査員 蛭名 純 調査補助員 伊藤裕基 計測員 浅野好治  
計測補助員 庄子輝男

調査期間：平成27年8月10日～平成27年9月15日

## 第2章 遺跡周辺の環境

### 第1節 遺跡群の位置と地理的環境

鍛冶屋敷A遺跡、鍛冶屋敷B遺跡、六本松遺跡、富沢館跡、鍛冶屋敷前遺跡、京ノ中遺跡、川前遺跡、川前浦遺跡、宮崎遺跡が所在する宮城県仙台市太白区富沢富田地区は、仙台市の南部、名取川下流の左岸に位置する。また、これら遺跡群は、仙台市地下鉄南北線富沢駅より東へ約1.4km辺りの、南北約990m、東西約860mの範囲に分布する。

富沢富田地区は、郡山低地と呼称される地域に所属する。郡山低地は、南縁を名取川、北縁を広瀬川に囲まれた沖積地で、北西縁は青葉山丘陵で区画されている。また、太白山を源とする荒川などの小川が低地内を曲流しており、これら河川の影響で自然堤防、旧河道、後背湿地が複雑に入り組んだ地形を形成している。富沢富田地区は、この郡山低地の南西端部に位置する。北側には、前述の荒川が流れるがこれは、河川改修後の姿でそれ以前は曲流し度々氾濫を起していた。南側には、名取川が流れており、荒川と名取川により自然堤防や後背湿地が形成されている。

現況においての標高は約14m～18mで、東から西へ傾斜する。調査以前は、耕作地および宅地である。

### 第2節 遺跡群周辺の歴史的環境

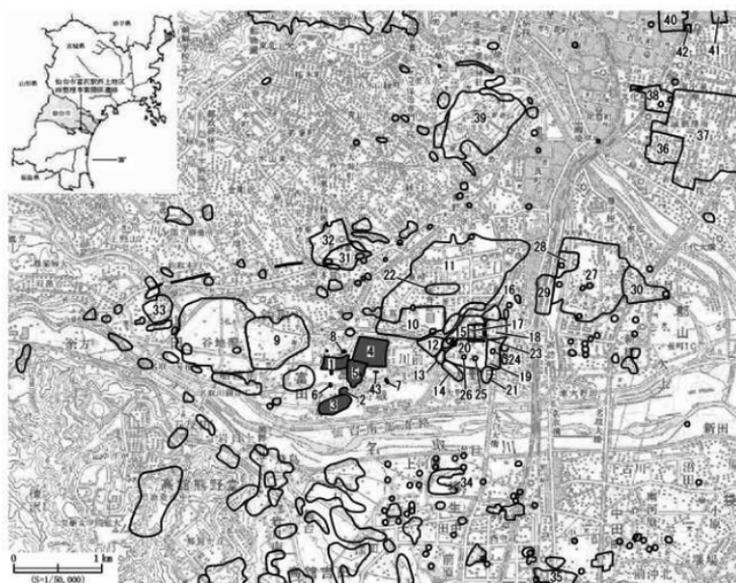
#### 旧石器時代

青葉山丘陵の南側に張り出した名取川左岸には上ノ原山遺跡、山田上ノ台遺跡があり、上ノ原山遺跡では約30,000年前に降下した「川崎スコリア層」を挟んだ上層と下層から石器が発見されている。山田上ノ台遺跡では「川崎スコリア層」上位、AT層下位から石器が出土している。荒川の左岸に所在する富沢遺跡では、多くの石器が出土した以外に針葉樹林を中心とした埋没湿地林が検出され、樹木の葉や種子、昆虫遺体などが検出されたことで当時の環境を知るにあたり貴重な資料として注目されている。

#### 縄文時代

名取川および、荒川の左岸に形成された自然堤防上にある下ノ内浦遺跡では、早期前半の住居跡が検出されており、遺物では押型文土器が出土している。富沢富田地区の西側にある蕃山丘陵南東側に所在する梨野A遺跡では、早期前半の貝殻腹縁文が施された土器が出土している。ここでは、中期から晩期の遺構や遺物も検出されている。荒川左岸の後背湿地では早期後半の遺物包含層が検出された富沢遺跡が所在する。名取川と坪沼川が合流する付近の段丘上に所在する川添東遺跡では、平面形が方形を呈する早期後葉の住居跡が検出されている。川添東遺跡の西側、名取川を挟んだ対岸に所在する大貝中遺跡では前期初頭の遺構や遺物が検出されている。青葉山丘陵の東側に張り出した緩やかな台地上に、仙台市内の縄文時代前期の集落研究にとって重要な三神峯遺跡が所在する。青葉山丘陵と名取川の間広がる河岸段丘、通称「名取台地」に所在する上野遺跡では、中期前・後半に亘って遺構や遺物が検出されている。前述の大貝中遺跡の西側に相ノ原遺跡が所在する。中期中葉～後期前葉を主体として、前期初頭から後期までの遺物が出土している。サメ類の歯製の装飾品やイノシシ形土製品等が出土した山口遺跡は、荒川下流付近左岸に所在する。中期末や後期前半の遺構の他に、早期末・前期の遺物包含層及び後期前半を主体とした遺物包含層を検出している。この南東方向に下ノ内遺跡が所在する。中期末の複式炉を有する住居跡が検出されている。この北東には、中期の住居跡や後期初頭の住居跡が検出されている。六反田遺跡が所在し、仙台市有形文化財に指定されている4点の土偶が出土した伊古田遺跡が南東に所在する。これらのさらに東には、大野田遺跡が

## 第2節 調査要項



番号	遺跡名称	古墳	種別	時代
1	道の内敷A遺跡	自然埋没	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安
2	道の内敷B遺跡	自然埋没	居住跡	縄文・奈良・近世
3	大久保遺跡	自然埋没	集落跡	平安
4	笠子遺跡	自然埋没	集落跡・集積跡	縄文・平安・近世
5	道の内敷遺跡	自然埋没	集落跡	縄文・奈良・平安
6	志ノ中遺跡	自然埋没	平定	平安
7	川原遺跡	自然埋没	集積跡	縄文(晩)
8	河野遺跡	石塚	集積跡	平安
9	上野遺跡	石塚	集積跡	縄文・奈良・平安・近世
10	山王遺跡	自然埋没	集積跡・赤土跡・包舎地	縄文・近世
11	堂沢遺跡	後背地跡	赤土跡・包舎地	石山古墳
12	意ノ中遺跡	自然埋没	集積跡・包舎・墓・遺跡	縄文・奈良・奈良・平安
13	伊豆山遺跡	自然埋没	集積跡	縄文・古墳・奈良・平安
14	伊豆山B遺跡	自然埋没	包舎	古墳～平安
15	六反田遺跡	自然埋没	集積跡・古墳・墓・遺跡	縄文・古墳・平安・近世
16	元段遺跡	自然埋没	集積跡・屋敷跡	縄文・奈良・奈良・平安
17	天野田石塚遺跡	自然埋没	石塚跡	古墳～奈良
18	大野田遺跡	自然埋没	集積跡	縄文(晩)・古墳～平安
19	上ノ原遺跡	自然埋没	集積跡・屋敷跡	縄文(晩)・奈良・平安
20	大野田古墳群	自然埋没	集積跡・古墳	古墳～奈良
21	山崎遺跡	自然埋没	集積跡・屋敷跡・赤土跡・包舎地	縄文(晩)・奈良・近世
22	泉科遺跡	自然埋没	後背地跡	縄文(晩)・奈良・古墳・平安

23	泉科遺跡	自然埋没	集積跡	縄文・古墳・奈良・平安
24	王ノ上遺跡	自然埋没	古墳	古墳
25	高野原古墳	自然埋没	古墳	古墳
26	春日社古墳	自然埋没	古墳	古墳
27	旗山遺跡	自然埋没	古墳群・墓・包舎地・集積跡	縄文(晩・晩)・奈良(中)・古墳～近世
28	西台遺跡	自然埋没	集積跡・墓・包舎地	縄文・近世
29	沢田家遺跡	自然埋没	包舎地	縄文・近世
30	北門遺跡	自然埋没	集積跡・包舎地	縄文(晩)・奈良・古墳・近世
31	神楽遺跡	石塚	集積跡	縄文(晩・中)・平安
32	戸ノ下遺跡	石塚	集積跡	縄文・古墳・平安
33	山田上ノ下遺跡	石塚	集積跡・包舎地	石山古墳・縄文・平安・近世
34	柳生台遺跡	自然埋没	集積跡・墓・赤土跡・包舎地	縄文・古墳・平安～近世
35	中山南遺跡	自然埋没	集積跡・包舎地	縄文・中世
36	若林城跡	自然埋没	集積跡・古墳・包舎地	古墳～近世
37	高小倉遺跡	自然埋没	集積跡・包舎地	縄文・近世
38	春明原遺跡	自然埋没	集積跡・包舎地	縄文・中世・近世
39	茂ノ原遺跡	石塚	集積跡	縄文・中世・近世
40	陸奥町分庁跡	自然埋没	石塚	奈良・平安
41	陸奥町分庁跡	自然埋没	集積跡	奈良・平安
42	新井中倉遺跡	自然埋没	集積跡・墓・集積跡	古墳～近世
43	山田南遺跡	自然埋没	包舎地	縄文(晩)・古墳

第1図 調査遺跡と周辺の遺跡

所存在し、ここからは縄文時代後期の環状集石群が検出されている。この他に、ヒスイ製の垂飾品や多量の土偶の破片等祭祀に関わると考えられる遺物が出土している。鍛冶屋敷前遺跡では後期中葉～晩期中葉の遺物包含層を検出している。このように、荒川下流域の左岸の後背湿地や荒川下流域右岸と名取川左岸に挟まれる自然堤防上には、主に前期から晩期に至る人々の生活の営みがみられる。

### 弥生時代

丘陵部の土手内遺跡、八木山緑町遺跡、原遺跡から竪穴住居跡が検出されている。低地の自然堤防上から後背湿地にかけては下ノ内浦遺跡、富沢遺跡、山口遺跡等があり、下ノ内浦遺跡では後期の土壇墓、土器棺墓、竪穴遺構等が検出され、富沢遺跡、山口遺跡では水田跡が検出されている。また、水田跡や土壇墓等が検出された郡山遺跡や西台畑遺跡が知られている。水田跡の発見により生産域の様相が解明されつつあり、住居跡の発見もあることから居住域についても徐々に資料が蓄積されつつある。

### 古墳時代

広瀬川左岸の自然堤防上に所在する、前期末葉に築かれた前方後円墳である遠見塚古墳が全国的に知られている。青葉山丘陵南側段丘面に立地する原遺跡では、前期と考えられる方墳や、中期から後期の円墳や埴輪棺墓が多数確認された。荒川の左岸後背湿地および自然堤防上には大野田古墳群が所在する。中期から後期の古墳が45基確認されており、前方後円墳である鳥居塚古墳以外は全て円墳である。これらの内、春日社古墳からは2基の埋葬施設が検出され、草盾・鉄鏃・鉄鏃等が出土している。前期の住居跡は大野田古墳群、伊古田遺跡、六反田遺跡、下ノ内遺跡から検出されている。中期では下ノ内遺跡から2軒ほど検出されている。

### 古代

郡山遺跡は、7世紀中頃から8世紀初頃にかけての官衙であり、「Ⅰ期官衙」と「Ⅱ期官衙」の2時期の変遷が確認されている。Ⅰ期官衙は、7世紀中ごろから末葉にかけて造られた古代陸奥国の建国に関わった重要な権軸である。Ⅱ期官衙は、多賀城創建以前の陸奥国府と考えられ、付属寺院(郡山廃寺)が併設されている。平成18年(2006)に「仙台郡山官衙遺跡群 郡山官衙遺跡 郡山廃寺跡」として国史跡に指定されている。郡山遺跡から南西方向の約1.5kmに大野田官衙遺跡が所在する。創建年は明確ではないが、8世紀前半頃に廃絶されていると考えられており、これは郡山遺跡Ⅱ期官衙の廃絶時期とほぼ重なることから、双方に密接な関係があったことが考えられる。郡山遺跡及び大野田官衙遺跡周辺の遺跡から多くの住居跡が検出されていることから、ここが当時陸奥国の重要拠点として機能していたことが窺える。郡山遺跡から北へ約3.3kmには陸奥国分寺跡や陸奥国分尼寺跡、薬師堂東遺跡が所在する。陸奥国分寺跡は、大正11年(1922)に国史跡に指定されている。薬師堂東遺跡からは、平安時代の住居跡や掘立柱建物跡等のほか、9世紀後半と考えられる梵鐘跡遺構が検出されている。名取川右岸から約1.7km離れた自然堤防上に所在する中田南遺跡では、竪穴住居跡37軒、掘立柱建物跡が20棟検出されており、この周辺に奈良時代の大規模な集落があったと考えられている。

### 中世

文治5年(1189)の奥州合戦後、鎌倉幕府は鎌倉御家人に陸奥国の所領を与えている。荒川右岸の自然堤防上に所在する王ノ壇遺跡では、12世紀から14世紀にかけての南北約400mにも及ぶ大溝とその内側から一辺約50mの大溝で囲まれた屋敷地が検出されている。また、屋敷跡の西側に「奥大道」と考えられる道路跡を検出している。名取川右岸の自然堤防上と低湿地に所在する柳生台畑遺跡では、中世前半頃に屋敷が建てられ、中世中頃ここは底

## 第1節 調査経過

民の墓地として利用され、中世後半頃再度屋敷が建てられている。中田南遺跡では、鎌倉期から室町期の屋敷跡が検出されている。鎌倉期では幅約2mの溝で区画された一辺が約25mの方形の屋敷地が検出され、室町期では幅約400cmの大溝で区画されるようになり、屋敷地の形態も一辺約50mの方形のものが検出されている。大年寺山と呼ばれる標高約120mの丘陵上には、茂ヶ崎城跡が存在する。長さ約60m、幅約6～7m、深さ約250cm～5mの空堀と思われる溝跡と長さ約80m、幅6～7m、高さ50cmの土塁と思われる遺構が残されている。陸奥国分寺跡において、現在、講堂跡には薬師堂が、南大門跡には仁王門が建てられている。薬師堂は慶長12年(1607)に伊達政宗により創建されたもので、仙台市内における代表的な桃山建築のひとつであり、国指定重要文化財(建造物)に指定されている。

## 近世

名取川左岸の河岸段丘上に所在する山田条里跡からは、屋敷の一部と考えられる堀跡と掘立柱建物跡が検出され、堀跡では、入り口や洗い場と考えられる遺構が検出されている。荒川右岸の自然堤防上に所在する元袋遺跡では、一辺約100mの堀跡に囲まれた屋敷跡が2時期検出されている。富沢遺跡では墓跡、掘立柱建物跡、溝跡等屋敷跡が検出されている。富沢富田地区から北東へ約3.5kmの広瀬川右岸自然堤防上には、伊達政宗が仙台城入城まで居住した北目城跡が、北へ約4.5kmの青葉山丘陵上及び麓には仙台城跡が、北東へ4.5kmの自然堤防上には伊達政宗が晩年を過ごした若林城跡が存在する。

# 第3章 調査経過と報告書の作成

## 第1節 調査経過

### 1. 試掘・確認調査(付図1)

事業地内の概ね中央を東西に延びる市道富沢山田線、同じく中央を南北に延びる市道多賀社前線の交差点を中心に大きく5つに区分けし、南西をⅠ区とし反時計回りにⅡ・Ⅲ・Ⅳ区とし北西をⅤ区とした。更に、道路計画地を対象に10m×3mの調査区をⅠ区に53ヶ所、Ⅱ区に24ヶ所、Ⅲ区に16ヶ所、Ⅳ区に48ヶ所、Ⅴ区に29ヶ所の合計170ヶ所を予定調査区として設定し、2カ年に亘り調査を行った。

平成25年度は93ヶ所、面積2,820㎡を対象とし平成25年9月30日より着手し、平成26年3月20日に終了した。

平成26年度は、Ⅰ～Ⅲ・Ⅴ区に11ヶ所、面積315㎡、Ⅳ区に9ヶ所、252㎡を対象とし、11ヶ所を平成26年7月28日から着手し、平成26年10月30日に終了し、9ヶ所は平成26年8月18日から着手し、平成26年9月24日に終了した。

これら試掘・確認調査により、Ⅰ～Ⅲ・Ⅴ区からは住居跡と考えられる遺構範囲や縄文土器の包含層等を検出し、Ⅳ区からは堀跡と考えられる遺構等を検出する成果が得られた。

### 2. 本発掘調査(付図2)

平成25年度・26年度の試掘・確認調査で得られた成果を基に、平成26年度から平成28年度の3カ年に亘り7遺跡、47調査区を対象として本発掘調査を実施した。

平成25年度は、鍛冶屋敷A遺跡Ⅰ区を平成26年2月27日から着手し、平成26年3月20日に終了した。

平成26年度は、鍛冶屋敷前遺跡を平成26年5月22日から着手し、平成26年10月20日に終了した。京ノ

中遺跡は、平成26年5月19日から着手し、平成26年6月24日に終了した。鍛冶屋敷B遺跡Ⅰ区は、平成26年7月28日から着手し、平成26年9月11日に終了した。鍛冶屋敷A遺跡Ⅱ区は、平成26年9月30日から着手し、平成26年11月21日に終了した。富沢館跡1～4区は、平成26年5月28日から着手し、平成27年3月13日に終了した。

平成27年度は、川前遺跡を平成27年6月15日から着手し、平成27年10月16日に終了した。宮崎遺跡は、平成27年8月10日から着手し、平成27年9月15日に終了した。富沢館跡1・3～6・A～C区は、平成27年5月28日から着手し、平成28年2月24日に終了した。

平成28年度は、富沢館跡H区を平成28年6月13日から着手し、平成28年6月27日に終了した。鍛冶屋敷B遺跡Ⅱ区は、平成29年3月2日から着手し、平成29年3月17日に終了した。

## 第2節 報告書の作成

平成28年度は、遺物の洗浄、バインダー含浸処理、ネーミング等の一次整理より着手した。洗浄後は、直ちにバインダー液に浸した。乾燥後のネーミングは、ネーミングマシン及びボスターカラーによる手書きで行った。ネーミングにおいて、遺跡名は仙台市遺跡登録番号を記し、遺物番号はボスターカラーの黄色で記した。ネーミング終了後、接合・修復・抽出作業を行い、その後仙台市担当者との協議の下、遺物の登録、実測遺物の選別を行った。遺物実測は、一部オルソソイメジャーを使用し、実測終了後はイラストレータによるデジタルトレースを行った。遺構図は、個別遺構断面図のトレース及び、個別遺構図の修正を行い終了したものから、調査区全体図へ反映を行った。合わせて、遺構写真図版の作製も行った。

平成29年度は、前年度からの継続作業として、遺物実測・トレース図の作製を行い、その後遺物写真撮影及び遺物写真図版の作製を行った。遺構図は、掲載用の体裁を整えながら修正を行った。これら作業に並行して、原稿執筆を行った。

整理・報告書作成中は、必要に応じて教育委員会と作業内容の確認、協議を行った。遺物実測図・トレース図及び遺構トレース図、各種図版類については、教育委員会が仙台市野村埋蔵文化財整理収蔵室において点検を行った。

### ・平成28年度

整理担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

主任 工藤信一郎 専門員 渡部弘美

整理組織：国際文化財株式会社

主任調査員 水上匡彦 調査員 江藤 敦 調査補助員 利屋 勉 計測員 志賀昌弘

計測補助員 伊藤裕基

整理期間：平成28年6月1日～平成29年3月17日

### ・平成29年度

整理担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

主任 工藤信一郎 主事 小泉博明 専門員 主濱光朗

整理組織：国際文化財株式会社

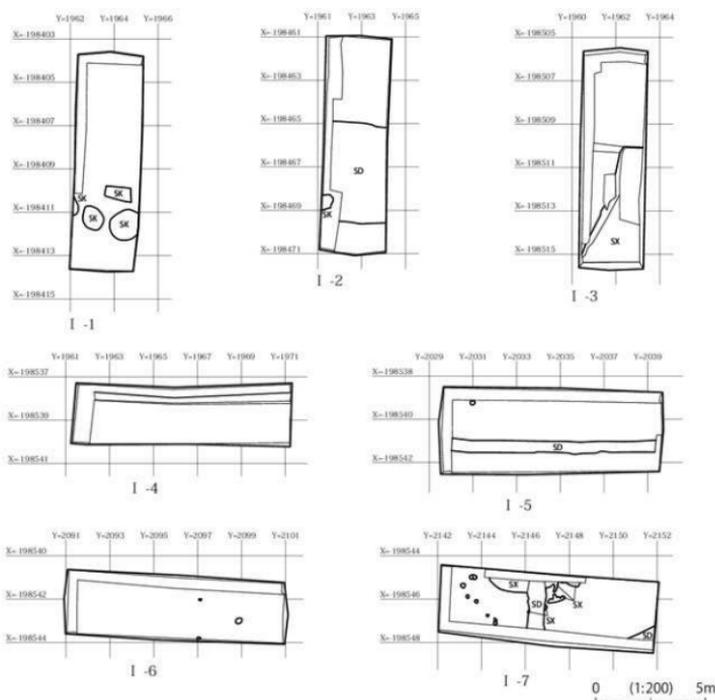
主任調査員 水上匡彦 調査員 四家礼乃 計測員 志賀昌弘

整理期間：平成29年5月8日～平成30年3月23日

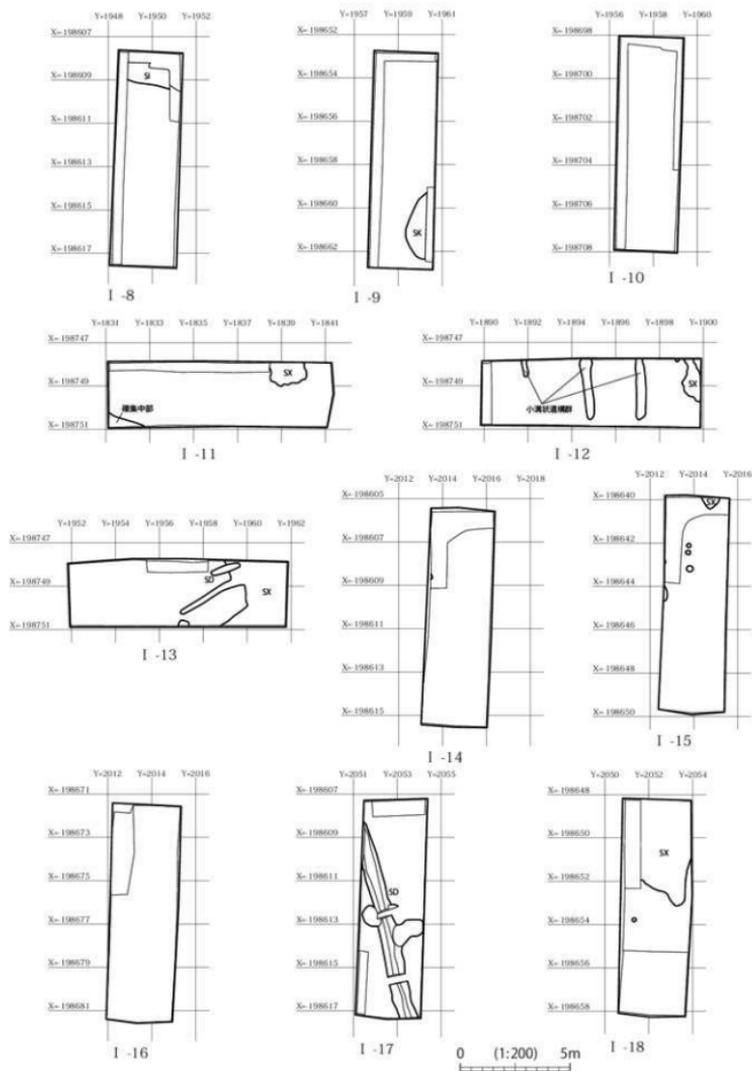
## 第4章 試掘・確認調査

## 第1節 Ⅰ区(付図1)

Ⅰ区は、本事業地内の南西側を範囲とした。53ヶ所の試掘・確認調査区を設定し、その内41ヶ所を対象として試掘・確認調査を行った。なお、Ⅰ-1・2は鍛冶屋敷A遺跡、Ⅰ-19～23は鍛冶屋敷B遺跡、Ⅰ-24～50は六本松遺跡の範囲内に、Ⅰ-3～18は遺跡範囲外に設定した。これらの調査では、竪穴住居跡2軒、溝跡9条、土坑10基、性格不明遺構14基、礫集中部1ヶ所、小溝状遺構群8条、ピット37基の遺構を検出し、土師器、須恵器、瓦、礫石器、金属製品が出土した。そのうち、Ⅰ-41より出土した和鏡を図示した(第18図1)。これらの成果により、新たにⅠ-8区を京ノ中遺跡として登録し、Ⅰ-2・8・20・22を本発掘調査対象とした。また、平成27年度に、仙台市文化財課による補足調査が六本松遺跡内で行われている。3ヶ所の試掘・確認調査区(Ⅰ-51～53)の調査を行い、Ⅰ-51から用水路跡又は流路跡と考えられる遺構を確認している。

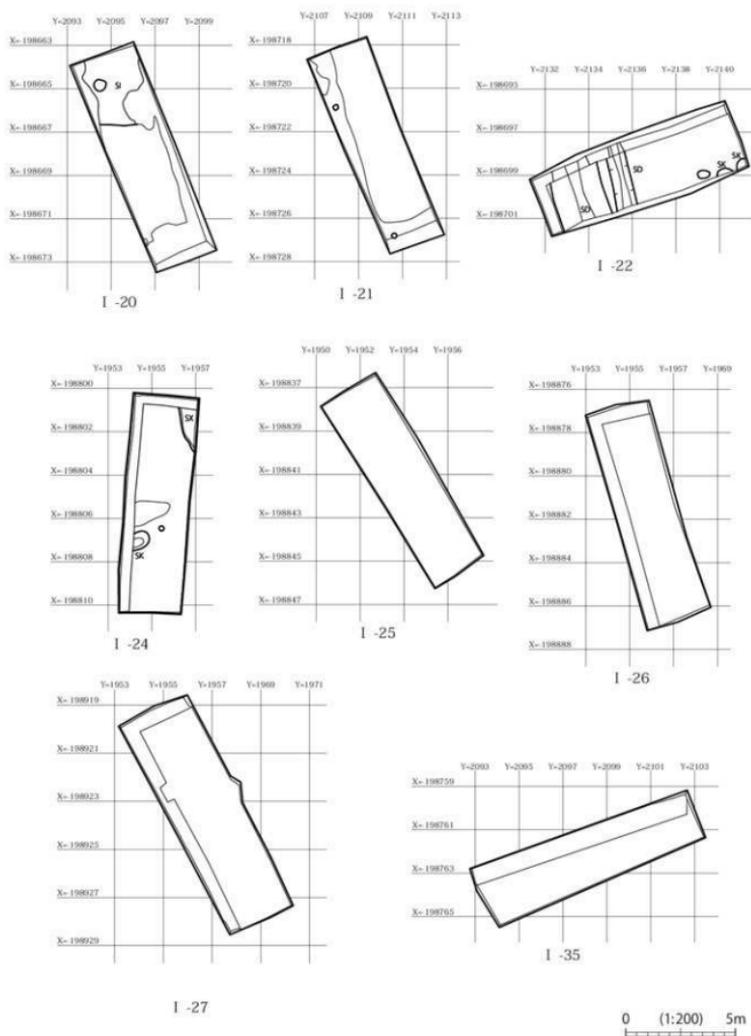


第2図 試掘・確認調査Ⅰ-1～7全体図

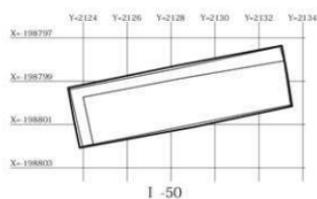
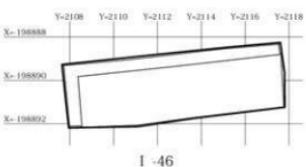
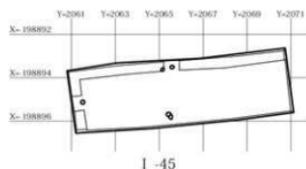
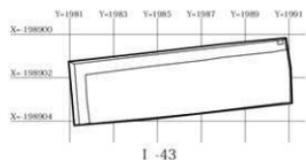
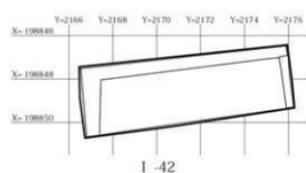
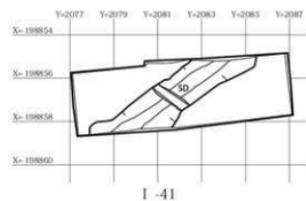
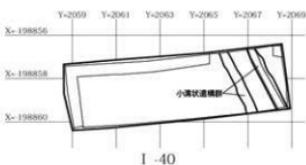
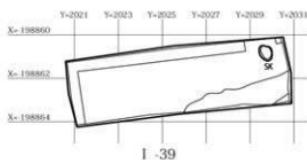
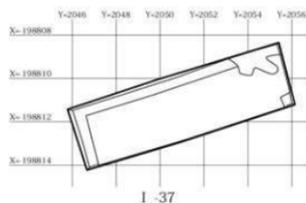
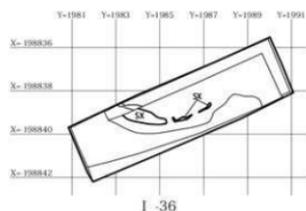


第3図 試掘・確認調査 I-8～18 全体図

第1節 1区



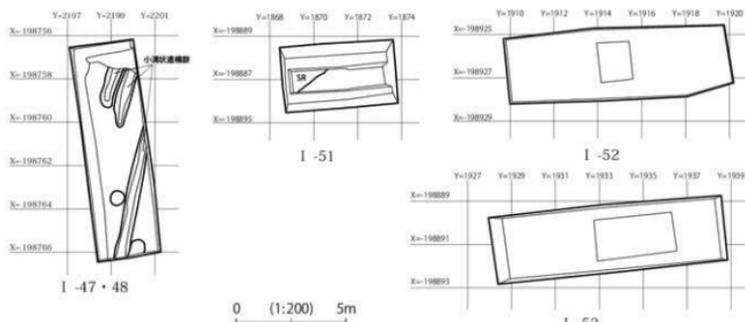
第4図 試掘・確認調査 I-20～22・24～27・35 全体図



0 (1:200) 5m

第5図 試掘・確認調査I-36・37・39～43・45・46・50全体図

第1節 1区

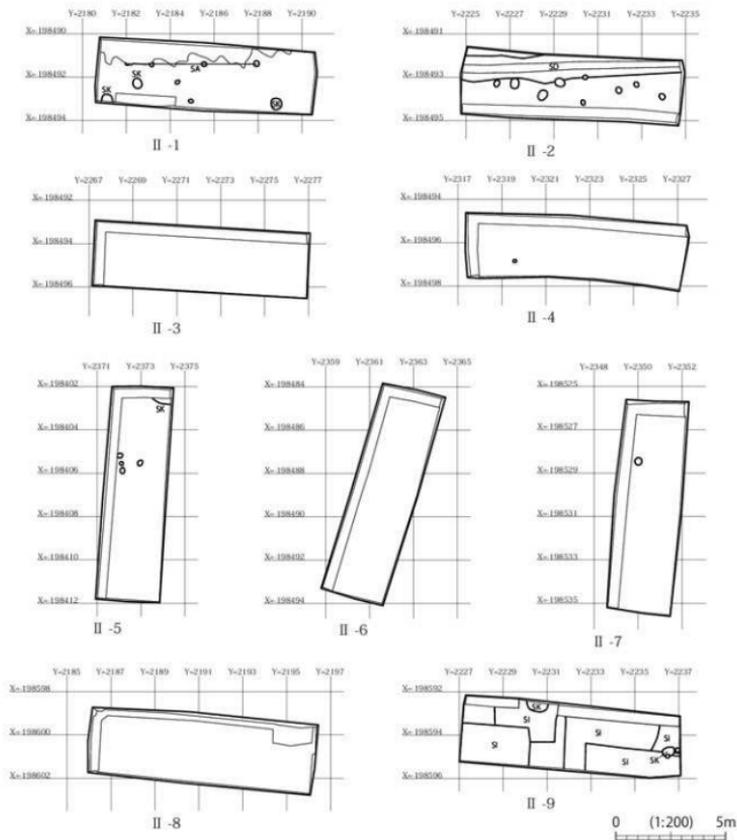


トンナシ号	用途名	面積 (㎡)	構造	出上建物	備考
1-1	観音座敷A建跡	30.6	1区14基	土階部	確認調査済み
1-2	観音座敷A建跡	30.6	溝跡1基 土法1基	土階部 瓦	本号確認済
1-3	-	30.6	竹藪不明遺構1基	-	確認調査済み
1-4	-	28.8	-	-	確認調査済み
1-5	-	41.2	溝跡1基 ビット1基	土階部	確認調査済み
1-6	-	30.6	ビット5基	土階部	確認調査済み
1-7	-	33.0	溝跡2基 竹藪不明遺構4基 ビット5基	土階部	確認調査済み
1-8	-	30.0	御注立跡跡1軒	土階部 須磨部	本号確認済
1-9	-	29.0	土法1基	-	確認調査済み
1-10	-	30.0	-	-	確認調査済み
1-11	-	32.0	竹藪不明遺構1基 遺構中部	土階部 須磨部	確認調査済み
1-12	-	32.2	竹藪不明遺構1基 ビット1基 小溝状遺構跡3条	土階部 須磨部	確認調査済み
1-13	-	32.0	溝跡1基 竹藪不明遺構1基 ビット1基	-	確認調査済み
1-14	-	30.0	ビット1基	-	確認調査済み
1-15	-	30.0	竹藪不明遺構1基 ビット5基	-	確認調査済み
1-16	-	31.6	-	-	確認調査済み
1-17	-	30.6	溝跡1基 ビット4基	土階部 磯石部	確認調査済み
1-18	-	31.3	竹藪不明遺構1基 ビット1基	土階部 須磨部	確認調査済み
1-19	観音座敷B建跡	-	-	-	確認調査済
1-20	観音座敷A建跡	30.7	御注立跡跡1軒 ビット1基	-	本号確認済
1-21	観音座敷B建跡	29.7	ビット2基	-	確認調査済み
1-22	観音座敷A建跡	34.7	溝跡2基 土法2基 ビット1基	土階部 須磨部	本号確認済
1-23	観音座敷A建跡	-	-	-	確認調査済
1-24	六本松建跡	30.0	1区1基 竹藪不明遺構1基 ビット1基	-	確認調査済み
1-25	六本松建跡	29.7	-	-	確認調査済み
1-26	六本松建跡	32.2	-	土階部	確認調査済み
1-27	六本松建跡	34.0	-	土階部 磯石部	確認調査済み
1-28	六本松建跡	-	-	-	確認調査済
1-29	六本松建跡	-	-	-	確認調査済
1-30	六本松建跡	-	-	-	確認調査済
1-31	六本松建跡	-	-	-	確認調査済
1-32	六本松建跡	-	-	-	確認調査済
1-33	六本松建跡	-	-	-	確認調査済
1-34	六本松建跡	-	-	-	確認調査済
1-35	六本松建跡	32.1	-	-	確認調査済み
1-36	六本松建跡	30.1	竹藪不明遺構3基	-	確認調査済み
1-37	六本松建跡	31.2	-	須磨部	確認調査済み
1-38	六本松建跡	-	-	-	確認調査済
1-39	六本松建跡	31.6	1区1基	土階部 磯石部?	確認調査済み
1-40	六本松建跡	34.3	小溝状遺構跡2条	土階部	確認調査済み
1-41	六本松建跡	30.0	溝跡1基	土階部 陶器 金属類等	確認調査済み
1-42	六本松建跡	32.0	-	-	確認調査済み
1-43	六本松建跡	30.3	-	土階部	確認調査済み
1-44	六本松建跡	-	-	-	確認調査済
1-45	六本松建跡	33.2	ビット5基	-	確認調査済み
1-46	六本松建跡	32.2	-	-	確認調査済み
1-47・48	六本松建跡	30.2	小溝状遺構跡3条 ビット2基	-	確認調査済み
1-49	六本松建跡	-	-	土階部	確認調査済
1-50	六本松建跡	29.1	-	-	確認調査済み
1-51	六本松建跡	32.2	甲本跡跡(瓦垣跡)1条	-	確認調査済み
1-52	六本松建跡	15.3	-	-	確認調査済み
1-53	六本松建跡	16.9	-	-	確認調査済み

第6図 試掘・確認調査 | -47・48・51～53全体図

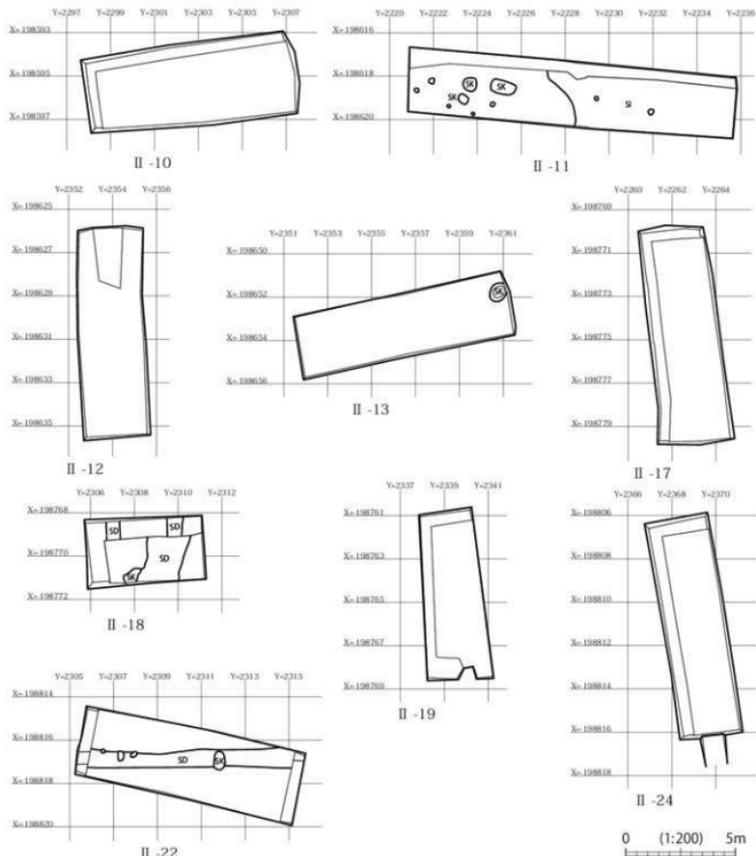
## 第2節 II区(付図1)

II区は、本事業地内の南側中央部を範囲とした。24ヶ所の試掘・確認調査区を設定し、その内18ヶ所を対象として試掘・確認調査を行った。なお、II-1～5・9・11は鍛冶屋敷前遺跡の範囲内に、II-6～8・10・12～24は遺跡範囲外に設定した。これらの調査では、竪穴住居跡6軒、柱列跡1列、溝跡4条、土坑12基、ピット29基の遺構を検出し、縄文土器、土師器、須恵器、瓦、中世・近世の陶磁器、礫石器、金属製品が出土した。これらの成果より、II-2・9・11を本発掘調査対象とした。



第7図 試掘・確認調査II-1～9全体図

## 第2節 Ⅱ区

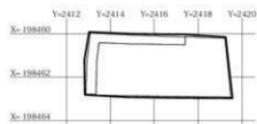


第8図 試掘・確認調査Ⅱ-10～13・17～19・22・24全体図

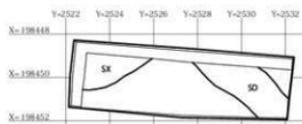
## 第3節 Ⅲ区(付図1)

Ⅲ区は、本事業地内の南東側を範囲とした。16ヶ所の試掘・確認調査区を設定し、その内6ヶ所を対象として確認調査を行った。なお、これらの調査では、竪穴住居跡3軒、溝跡3条、土坑3基、性格不明遺構1基、ピット4基の遺構を検出し、縄文土器、土師器、須恵器、打製石器、礫石器、石製品が出土した。そのうち、Ⅲ-1より出土した小玉1点を図示した(第18図2)。これらの成果により、新たにⅢ-2を川前浦遺跡、Ⅲ-16を川前遺跡として登録し、Ⅲ-16を本発掘調査対象とした。

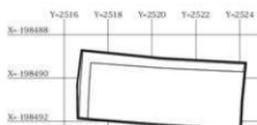
トレンチNo	遺跡名	面積 (㎡)	構造・遺構	出土遺物	備考
B-1	踏石敷き遺跡	30.6	行燈跡1軒 土坑3基 ビット2基	土師器 須恵器	確認調査のみ
B-2	踏石敷き遺跡	31.9	溝跡1基 ビット4基	土師器 須恵器 伊奈瓦器 礫石部	本発掘調査実施
B-3	踏石敷き遺跡	29.7	-	土師器 須恵器	確認調査のみ
B-4	踏石敷き遺跡	31.5	ビット1基	縄文土器 土師器 礫石部	確認調査のみ
B-5	踏石敷き遺跡	29.4	土坑1基 ビット4基	縄文土器 土師器	確認調査のみ
B-6	-	29.6	-	-	確認調査のみ
B-7	-	31.4	ビット1基	-	確認調査のみ
B-8	-	33.9	-	土師器	確認調査のみ
B-9	踏石敷き遺跡	31.6	伊奈瓦行燈跡5軒 土坑2基 ビット2基	土師器 須恵器 礫石部	本発掘調査実施
B-10	-	37.7	-	土師器 須恵器	確認調査のみ
B-11	踏石敷き遺跡	45.1	伊奈瓦行燈跡1軒 土坑3基 ビット7基	土師器 須恵器	本発掘調査実施
B-12	-	29.4	-	土師器 須恵器	確認調査のみ
B-13	-	30.4	土坑1基	-	確認調査のみ
B-14	-	-	-	-	確認調査未実施
B-15	-	-	-	-	確認調査未実施
B-16	-	-	-	-	確認調査未実施
B-17	-	36.6	-	-	確認調査のみ
B-18	-	17.6	溝跡2基 土坑1基	土師器 平瓦 陶器 金銅器	確認調査のみ
B-19	-	24.2	-	須恵器 礫部	確認調査のみ
B-20	-	-	-	-	確認調査未実施
B-21	-	-	-	-	確認調査未実施
B-22	-	34.9	溝跡1基 土坑1基 ビット3基	-	確認調査のみ
B-23	-	-	-	-	確認調査未実施
B-24	-	33.8	-	-	確認調査のみ



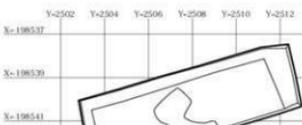
III - 1



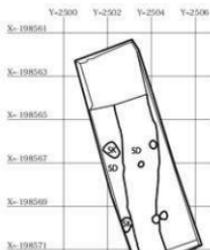
III - 2



III - 7



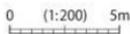
III - 10



III - 11

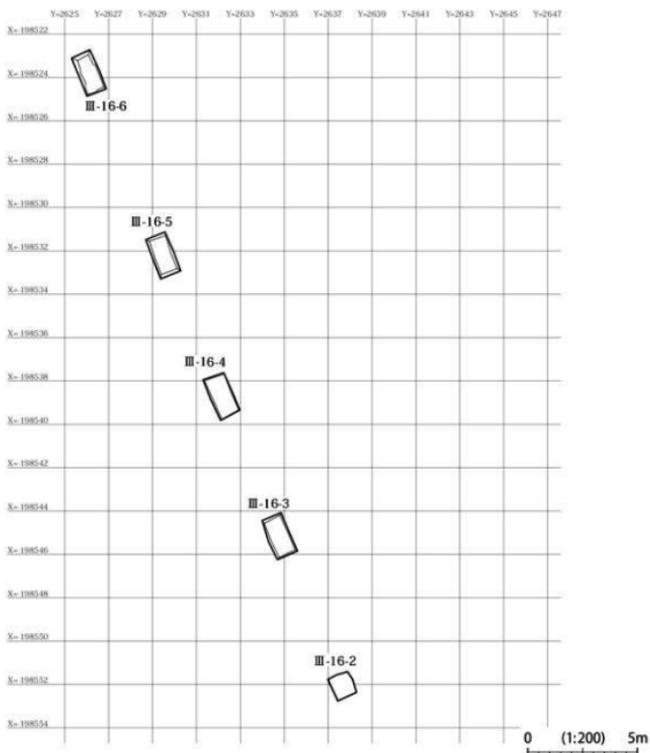


III - 16-1



第9図 試験・確認調査III-1・2・7・10・11・16-1全体図

第3節 Ⅲ区

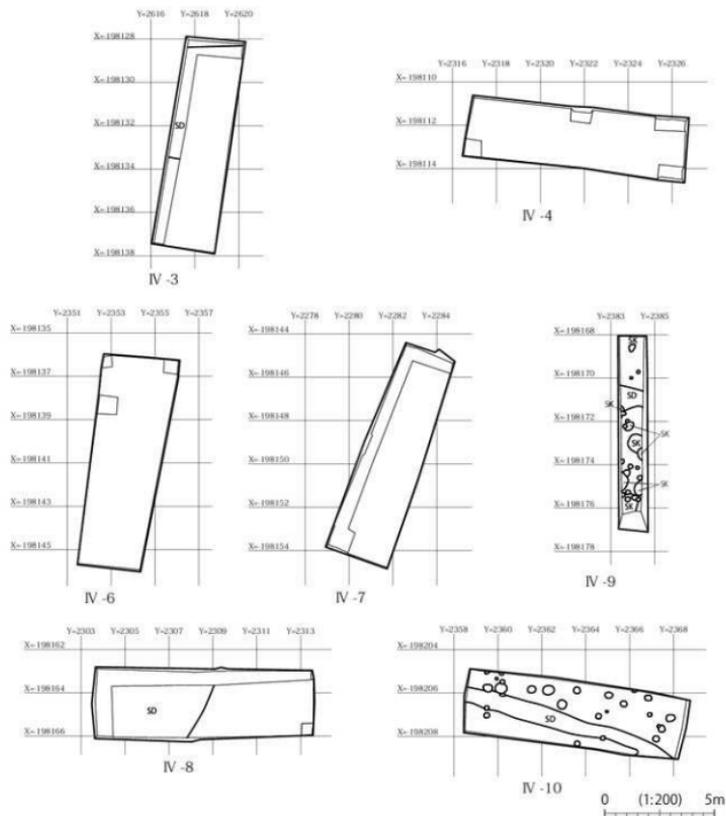


トレンチNo	埋戻し	深層 (m)	埋戻し	出土遺物	備考
Ⅲ-1	-	19.7	-	-	試掘調査のみ
Ⅲ-2	埋戻し	31.7	遺跡1基 性格不明遺構1基	縄文土器 礫石器	確認調査のみ
Ⅲ-3	-	-	-	-	試掘調査未実施
Ⅲ-4	-	-	-	-	試掘調査未実施
Ⅲ-5	-	-	-	-	試掘調査未実施
Ⅲ-6	-	-	-	-	試掘調査未実施
Ⅲ-7	-	24.1	-	縄文土器 土師器 弥生器	試掘調査のみ
Ⅲ-8	-	-	-	-	試掘調査未実施
Ⅲ-9	-	-	-	-	試掘調査未実施
Ⅲ-10	-	31.7	-	-	試掘調査のみ
Ⅲ-11	-	32.4	遺跡2基 土坑2基 ヒット4基	土師器 弥生器	試掘調査のみ
Ⅲ-12	-	-	-	-	試掘調査未実施
Ⅲ-13	-	-	-	-	試掘調査未実施
Ⅲ-14	-	-	-	-	試掘調査未実施
Ⅲ-15	-	-	-	-	試掘調査未実施
Ⅲ-16-1	埋戻し	23.1	埋戻し跡3軒 土坑1基	縄文土器 石器(石鏃・石棒・石製法・鏝石)	本発掘調査実施
Ⅲ-16-2	埋戻し	1.1	-	縄文土器 石器	本発掘調査実施
Ⅲ-16-3	埋戻し	1.9	-	縄文土器 石器	本発掘調査実施
Ⅲ-16-4	埋戻し	2.0	-	縄文土器 石器	本発掘調査実施
Ⅲ-16-5	埋戻し	1.9	-	縄文土器 石器	本発掘調査実施
Ⅲ-16-6	埋戻し	1.8	-	縄文土器 石器	本発掘調査実施

第10図 試掘・確認調査Ⅲ-16-2～6全体図

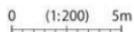
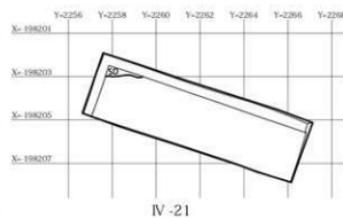
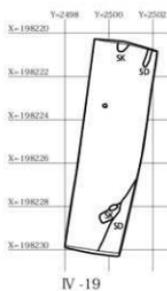
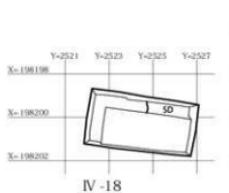
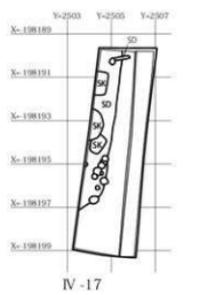
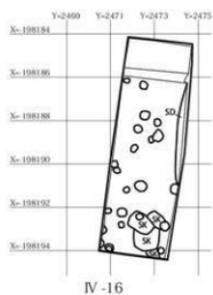
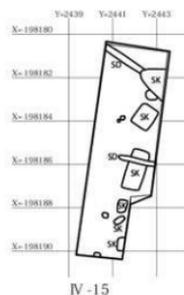
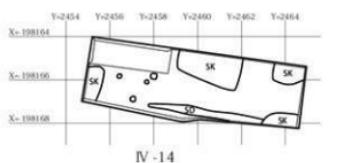
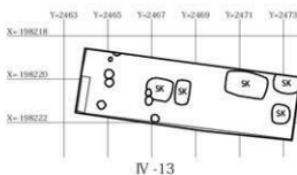
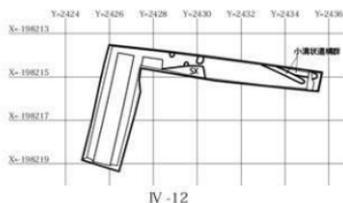
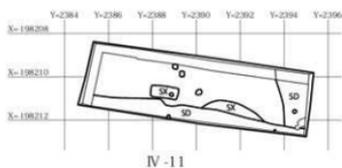
## 第4節 IV区(付図1)

IV区は、本事業地内の北東側を範囲とした。48ヶ所の試掘・確認調査区を設定し、その内37ヶ所を対象として確認調査を行った。なお、IV-1～19・21～23・25～27・29～33・35～48は富沢館跡、IV-34は鍛冶屋敷前遺跡の範囲内に、IV-20・24・28は遺跡範囲外に設定した。これらの確認調査では、竪穴住居跡1軒、溝跡40条、土坑40基、性格不明遺構5基、自然流路3条、小溝状遺構群2群、ビット131基の遺構を検出し、縄文土器、土師器、須恵器、瓦、中世・近世の陶磁器、打製石器、礫石器、金属製品が出土した。これらの成果により、IV-8・11～13・15・16・19・22・25～27・31・32・35・42・43・45を本発掘調査対象とした。



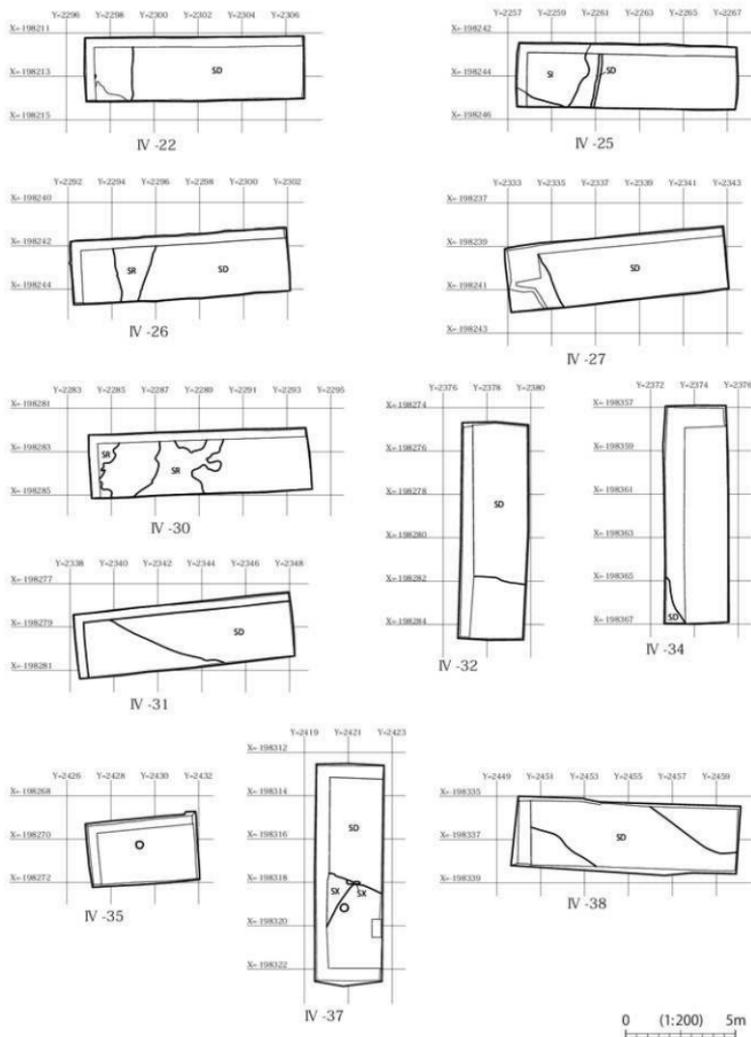
第11図 試掘・確認調査IV-3・4・6～10全体図

第4節 IV区



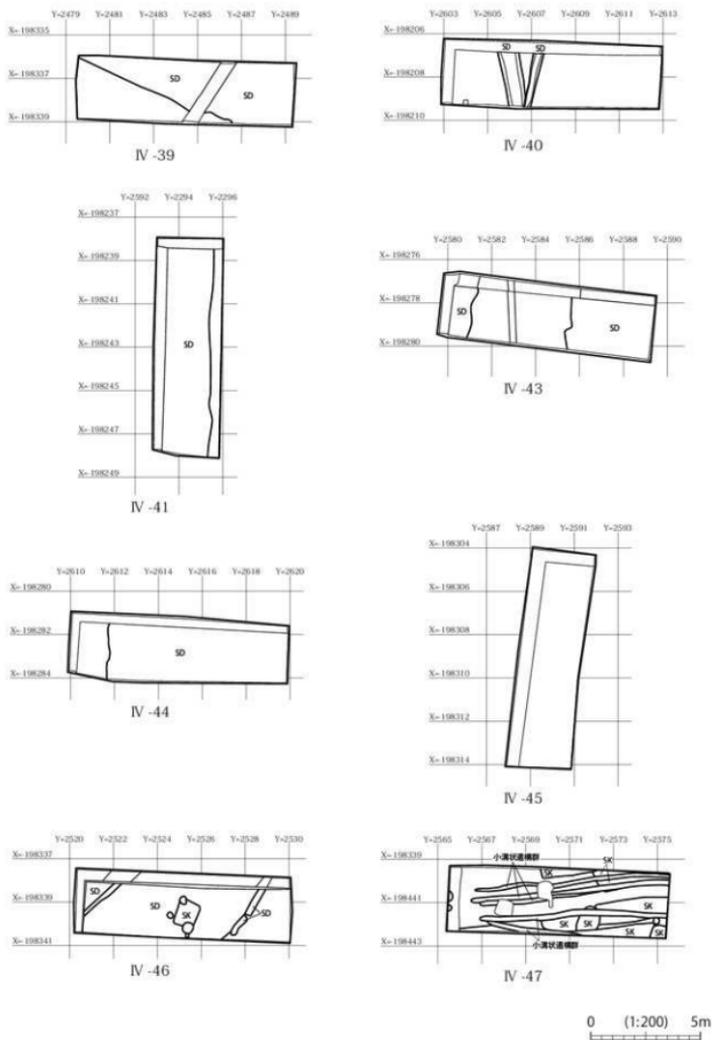
第12図 試掘・確認調査IV-11～19・21全体図

第4章 試掘・確認調査

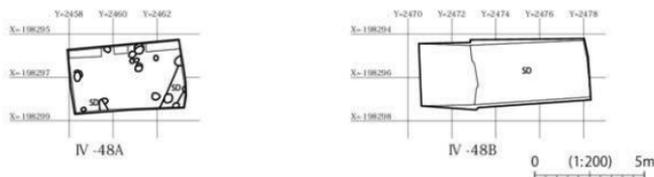


第13図 試掘・確認調査IV-22・25～27・30～32・34・35・37・38全体図

第4節 IV区



第14図 試掘・確認調査IV-39～41・43～47全体図



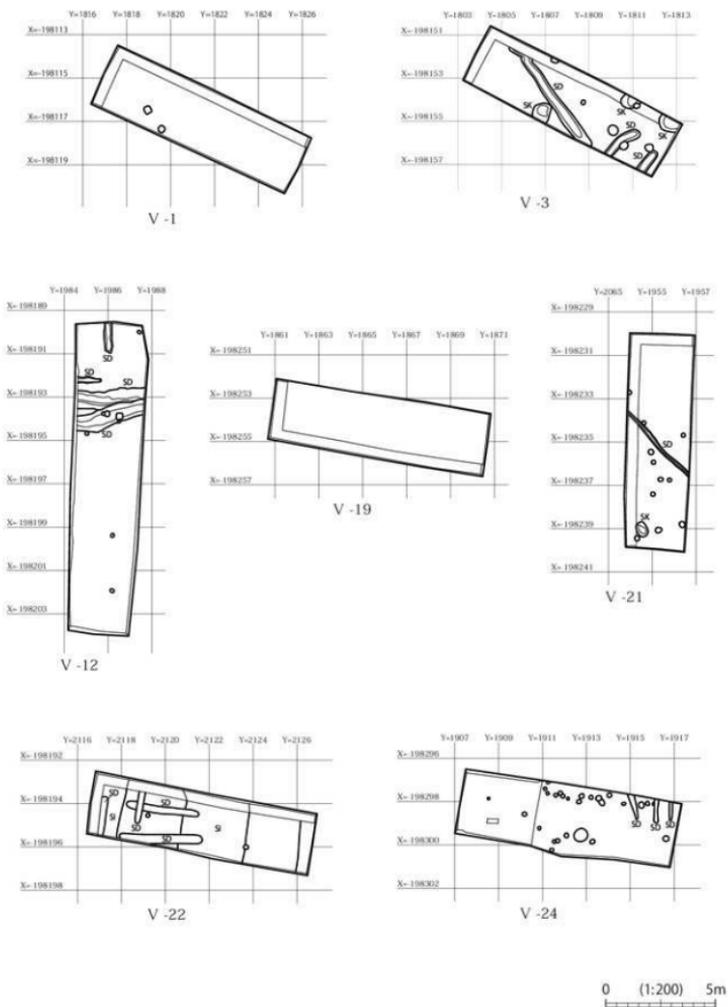
トレンチNo	遺構名	面積 (㎡)	構造特徴	出土遺物	備考
IV-1	竪穴遺構	-	-	-	確認調査未実施
IV-2	竪穴遺構	-	-	-	確認調査未実施
IV-3	竪穴遺構	28.0	溝跡1基	瓦器類	確認調査済み
IV-4	竪穴遺構	30.0	-	瓦器類	確認調査済み
IV-5	竪穴遺構	-	-	-	確認調査未実施
IV-6	竪穴遺構	33.7	-	-	確認調査済み
IV-7	竪穴遺構	30.3	-	-	確認調査済み
IV-8	竪穴遺構	34.4	溝跡1基	-	本発掘調査実施
IV-9	竪穴遺構	12.0	溝跡1基 土坑4基 ビット15基	-	確認調査済み
IV-10	竪穴遺構	31.4	溝跡1基 土坑20基 ビット20基	-	確認調査済み
IV-11	竪穴遺構	32.6	溝跡2基 竹筒不明遺構2基 ビット7基	陶器 中世陶器 磁器	本発掘調査実施
IV-12	竪穴遺構	19.3	小規模溝跡1基 竹筒不明遺構1基 ビット3基	土師器 陶器 磁器 金銭類	本発掘調査実施
IV-13	竪穴遺構	30.3	土坑5基 ビット8基	磁器	本発掘調査実施
IV-14	竪穴遺構	32.5	溝跡1基 土坑4基 ビット4基	土師器 陶器 磁器 卑土 その他	確認調査済み
IV-15	竪穴遺構	27.2	溝跡2基 土坑6基 ビット5基	土師器 中世陶器 磁器 礫石 平皿 その他	本発掘調査実施
IV-16	竪穴遺構	33.3	溝跡1基 土坑4基 ビット22基	土師器 陶器 磁器	本発掘調査実施
IV-17	竪穴遺構	26.8	溝跡2基 土坑3基 ビット11基	-	確認調査済み
IV-18	竪穴遺構	13.0	溝跡1基	-	確認調査済み
IV-19	竪穴遺構	28.5	溝跡2基 土坑2基 ビット2基	-	本発掘調査実施
IV-20	竪穴遺構	-	-	-	以新調査未実施
IV-21	竪穴遺構	30.0	溝跡1基	-	確認調査済み
IV-22	竪穴遺構	30.1	溝跡1基 ビット1基	-	本発掘調査実施
IV-23	竪穴遺構	-	-	-	確認調査未実施
IV-24	竪穴遺構	-	-	-	以新調査未実施
IV-25	竪穴遺構	32.0	壁穴住居跡1軒 溝跡1基	-	本発掘調査実施
IV-26	竪穴遺構	29.8	溝跡1基 竹筒不明遺構1基	-	本発掘調査実施
IV-27	竪穴遺構	30.5	溝跡1基	-	本発掘調査実施
IV-28	-	-	-	-	以新調査未実施
IV-29	竪穴遺構	-	-	-	確認調査未実施
IV-30	竪穴遺構	29.4	竹筒不明遺構2基	-	確認調査済み
IV-31	竪穴遺構	30.3	溝跡1基	瓦器類	確認調査済み
IV-32	竪穴遺構	31.4	溝跡1基	-	本発掘調査実施
IV-33	竪穴遺構	-	-	-	確認調査未実施
IV-34	竪穴有敷石遺構	31.2	溝跡1基	-	確認調査済み
IV-35	竪穴遺構	16.6	ビット1基	-	本発掘調査実施
IV-36	竪穴遺構	-	-	-	確認調査未実施
IV-37	竪穴遺構	31.8	溝跡1基 竹筒不明遺構2基 ビット1基	-	確認調査済み
IV-38	竪穴遺構	33.7	溝跡1基	-	確認調査済み
IV-39	竪穴遺構	30.0	溝跡2基	-	確認調査済み
IV-40	竪穴遺構	31.7	溝跡2基	-	確認調査済み
IV-41	竪穴遺構	31.7	溝跡1基	土師器 陶器	確認調査済み
IV-42	竪穴遺構	-	-	-	本発掘調査実施
IV-43	竪穴遺構	30.3	溝跡2基	縄文土器	本調査実施
IV-44	竪穴遺構	31.7	溝跡1基	-	確認調査済み
IV-45	竪穴遺構	30.1	-	縄文土器 行割石	本発掘調査実施
IV-46	竪穴遺構	30.4	溝跡4基 土坑1基 ビット4基	-	確認調査済み
IV-47	竪穴遺構	31.4	小規模溝跡1基 土坑7基 ビット3基	-	確認調査済み
IV-48-A	竪穴遺構	16.2	溝跡2基 ビット18基	土師器 瓦器類	確認調査済み
IV-48-B	竪穴遺構	23.4	溝跡1基	-	確認調査済み

第15図 試掘・確認調査IV-48全体図

## 第5節 V区 (付図1)

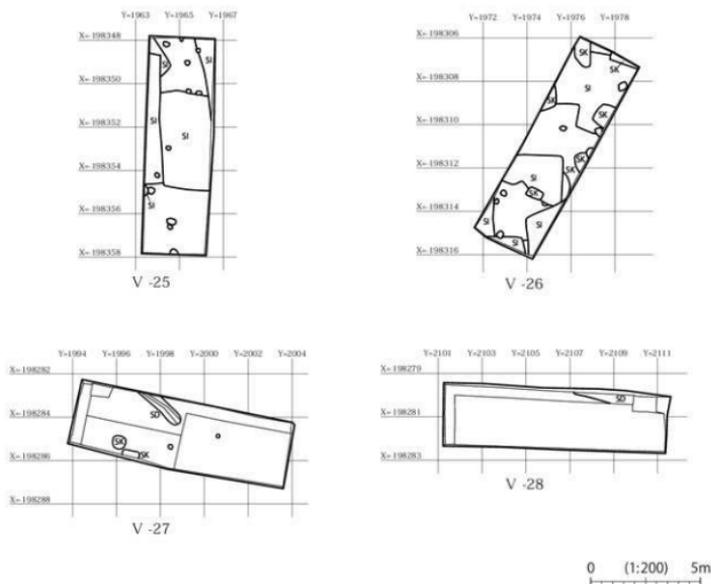
V区は、本事業地内の北西側を範囲とした。29ヶ所の試掘・確認調査区を設定し、その内11ヶ所を対象として確認調査を行った。なお、V-24～29は竪穴屋敷A遺跡の範囲内に、V-1～21・23は遺跡範囲外に設定した。これらの確認調査では、壁穴住居跡12軒、溝跡17条、土坑13基、ビット78基の遺構を検出し、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、礫石器が出土した。これらの成果により、新たにV-22を宮崎遺跡として登録し、V-22・25・26を本発掘調査対象とした。

第5節 V区



第16図 試掘・確認調査V-1・3・12・19・21・22・24全体図

第4章 試掘・確認調査



トレンチ名	遺構名	面積 (㎡)	構造・形状	出土遺物	備考
V-1	-	29.3	ピット2基	-	確認調査のみ
V-2	-	-	-	-	確認調査未実施
V-3	-	28.1	溝跡3基 土坑3基 ピット6基	-	確認調査のみ
V-4	-	-	-	-	確認調査未実施
V-5	-	-	-	-	確認調査未実施
V-6	-	-	-	-	確認調査未実施
V-7	-	-	-	-	確認調査未実施
V-8	-	-	-	-	確認調査未実施
V-9	-	-	-	-	確認調査未実施
V-10	-	-	-	-	確認調査未実施
V-11	-	-	-	-	確認調査未実施
V-12	-	49.0	溝跡4基 ピット8基	縄文土器 土銅器 コウロ土銅器 須磨器 鏡石部	確認調査のみ
V-13	-	-	-	-	確認調査未実施
V-14	-	-	-	-	確認調査未実施
V-15	-	-	-	-	確認調査未実施
V-16	-	-	-	-	確認調査未実施
V-17	-	-	-	-	確認調査未実施
V-18	-	-	-	-	確認調査未実施
V-19	-	30.0	-	-	確認調査のみ
V-20	-	-	-	-	確認調査未実施
V-21	-	29.7	溝跡1基 土坑1基 ピット11基	-	確認調査のみ
V-22	竈跡遺跡	30.3	炉?土器跡2軒 溝跡4条 ピット2基	-	本発掘調査実施
V-23	-	-	-	-	確認調査未実施
V-24	竈跡付帯A遺跡	32.7	溝跡3基 ピット27基	縄文土器 土銅器 須磨器 鏡石部	確認調査のみ
V-25	竈跡付帯A遺跡	33.0	炉?土器跡5軒 ピット12基	土銅器 コウロ土銅器 須磨器	本発掘調査実施
V-26	竈跡付帯A遺跡	31.2	炉?土器跡5軒 土坑7基 ピット8基	土銅器 コウロ土銅器 須磨器	確認調査のみ
V-27	竈跡付帯A遺跡	32.5	溝跡1基 土坑2基 ピット2基	縄文土器	確認調査のみ
V-28	竈跡付帯A遺跡	30.7	溝跡1基	-	確認調査のみ
V-29	竈跡付帯A遺跡	-	-	-	確認調査未実施

第17図 試掘・確認調査V-25～28全体図

## 第5節 V区



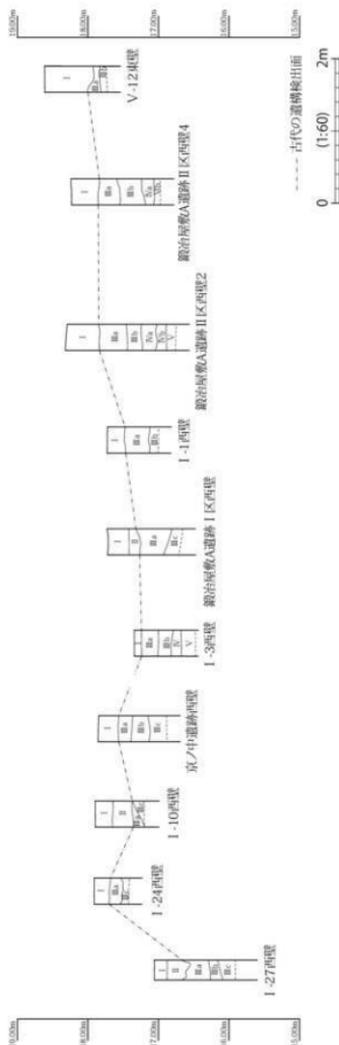
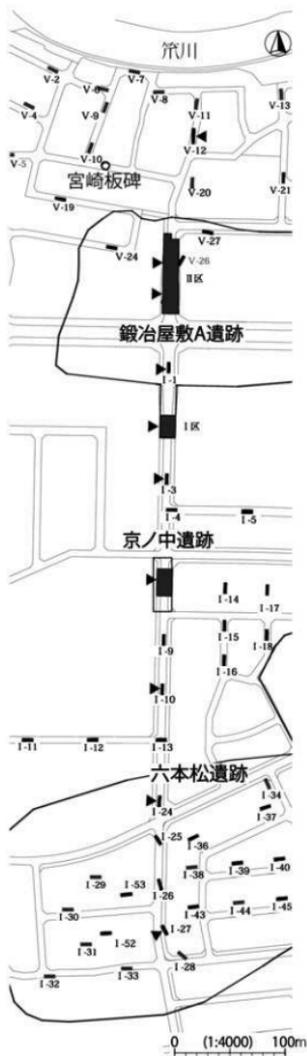
No.	登録番号	遺跡名	遺構名	種別	出所	長さ×幅×厚さ (cm)	重さ (g)	備考
1	N-001	六本松遺跡	5D	土師器	和蘭	(3.6×1.7×0.2)	28.21	形状：半円 紐：遺跡式 輪：穴眼 押痕：あり 発見層(六地層)
2	K-001	第1	遺構名	種別	出所	長さ×幅×厚さ (cm) <td>重さ (g) <td>備考</td> </td>	重さ (g) <td>備考</td>	備考
			石室跡	小石	発見層下	(0.65×0.4×0.35)	0.18	

第18図 試掘・確認調査出土遺物

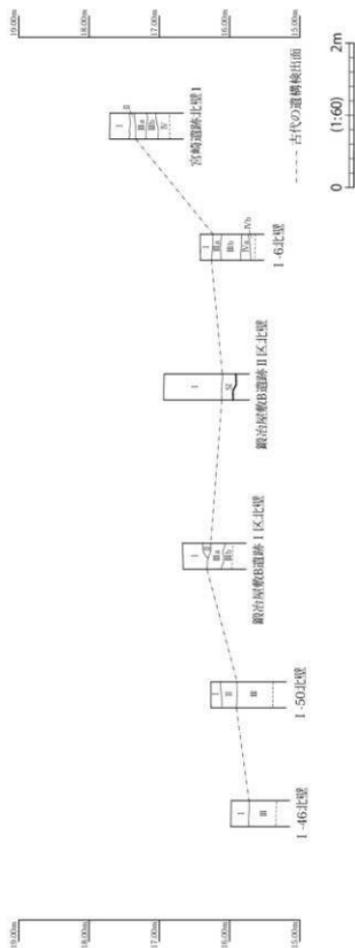
## 第5章 富沢駅西土地区画整理事業関係遺跡の基本層序

仙台市富沢駅西土地区画整理事業関係遺跡の発掘調査は、119ヶ所で試掘・確認調査を実施し、7遺跡47調査区で本発掘調査を実施した。これらの調査区は、いずれも近・現代の造成や耕作により少なからず削平されているが、各調査区で遺存状況の良好な地点の土層をもとに検討を行い、事業地内の基本層序として、大別6層細別10層に分層した。また、基本層序の検討には鍛冶屋敷A遺跡第1次調査、鍛冶屋敷前遺跡第1次調査の成果(仙台市教委 2000)に準拠した。以下に、その特徴を記す。

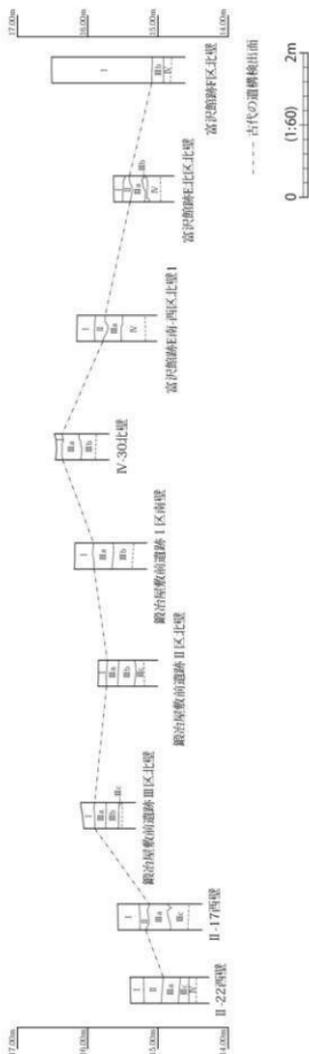
- I層：現代の盛土または耕作土である。盛土は、各地点においてそれぞれ全く違う様相である。耕作土は、概ね褐色灰色またはぶい黄褐色砂質シルトを基調としており、層下部には酸化鉄やマンガンが層状に堆積する。
- II層：褐色砂質シルトやぶい黄褐色シルト、灰黄褐色砂質シルト、暗褐色シルト等その色調や様相に違いが多く、事業地内において所々で確認されない調査区もある。遺物が出土していないため明確な時期は不明であるが、近世には埋没していたと考えられている堀跡を覆う箇所が確認されていることから、近世以降と考えられる。
- III層：細別3層に分けられる。III a層は、古代以降の遺構検出面である。事業地内北側では、概ねぶい黄褐色砂質シルトを基調としているが、南側では灰黄褐色～黄褐色の砂質シルト、シルト、粘土質シルトである。III b層は、主に事業地内西側で確認され、東側では確認されない調査区が多い。概ねぶい黄褐色シルト質砂を基調とする。III c層は、主に事業地内西側、鍛冶屋敷前遺跡及び京ノ中遺跡より南側で確認された砂礫層である。III層上面で検出される遺構の堆積土層に、灰白色火山灰が混入しているものがある。
- IV層：細別3層に分けられるが、細別できたのは川前遺跡および富沢館跡南東側である。IV a層は縄文時代晩期の遺物包含層である。暗褐色から褐色砂質シルトを基調とする。IV b層は縄文時代後期後葉から晩期の遺物包含層であり、層の上面が縄文時代晩期の遺構検出面である。暗褐色砂質シルトを基調としている。IV c層は縄文時代後期中葉から後葉の遺物包含層であり、層の上面で同時期の遺構が検出されている。
- V層：ぶい黄褐色シルト質砂を基調とする。今回の調査では、この層より下位から遺物の出土および遺構の検出はない。
- VI層：砂礫または砂礫層である。



第19図 基本層序対応関係模式図1

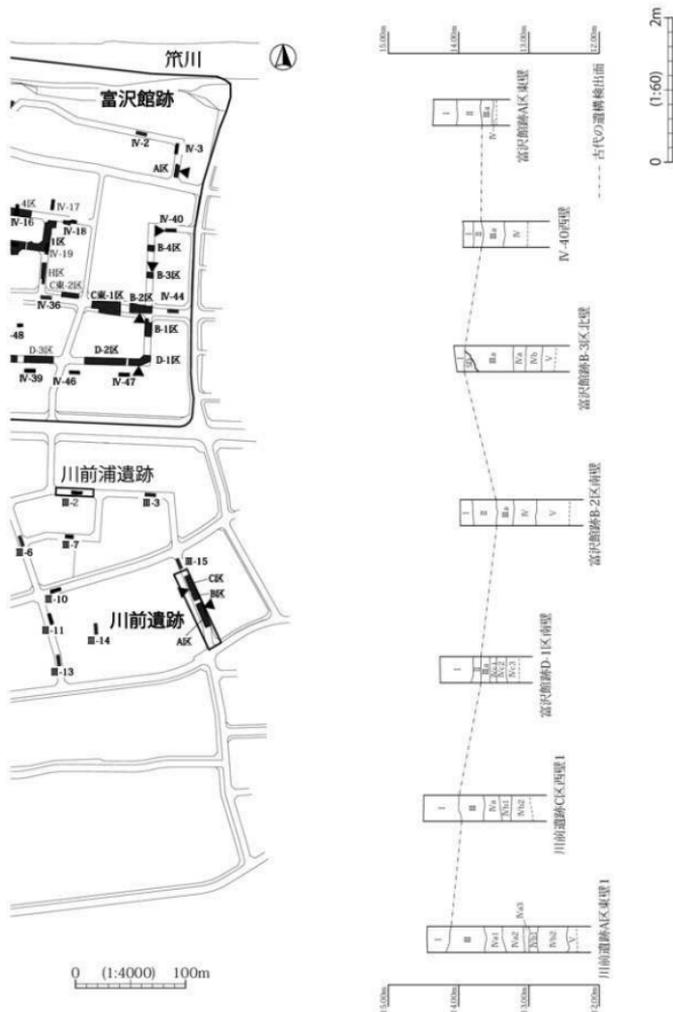


第20図 基本順序対応関係模式図2



第21図 基本層序対応関係模式図3





第23図 基本層序対応関係模式図5

## 第6章 本発掘調査

本章では、本発掘調査によって検出した遺構、遺物について遺跡ごとに報告する。調査した遺跡は、鍛冶屋敷A遺跡、鍛冶屋敷B遺跡、富沢館跡、鍛冶屋敷前遺跡、京ノ中遺跡、川前遺跡、宮崎遺跡の7遺跡である。調査では、富沢館跡の一部の調査区と川前遺跡は基本層Ⅳ層上面で、その他の遺跡は基本層Ⅲ層上面で遺構検出作業を行った。

検出した遺構は、重複関係、堆積状況、調査区壁面の観察、出土遺物から中世以降、古代以降、縄文時代の遺構に分けられ、所属時期が不明なものは古代～近世の遺構とした。

鍛冶屋敷A遺跡の古代以降の検出遺構は、竪穴住居跡、竪穴遺構、土坑、溝跡、河川跡、小溝状遺構群、性格不明遺構、円形周溝状遺構、ピットである。遺物は縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、石器、石製品、金属製品、土製品が出土した。そのうち、竪穴住居跡からは4面のうち3面に文字が刻まれた刻書砥石が出土している。

鍛冶屋敷B遺跡の古代以降の検出遺構は、竪穴遺構、土坑、溝跡、小溝状遺構群、ピットである。遺物は土師器、須恵器、陶磁器、石製品、金属製品が出土した。

富沢館跡の中世以降の検出遺構は、掘立柱建物跡、柱列、門柱跡、土坑、火葬墓、溝跡、堀跡である。古代以降の検出遺構は、竪穴住居跡、竪穴遺構、井戸跡、土坑、溝跡、小溝状遺構群、性格不明遺構、ピットである。縄文時代の検出遺構は、竪穴住居跡、竪穴遺構である。遺物は縄文土器、土師器、須恵器、瓦、陶磁器、土師質土器、石器、石製品、木製品、金属製品、土製品が出土した。

鍛冶屋敷前遺跡の古代以降の検出遺構は、竪穴住居跡、竪穴遺構、掘立柱建物跡、柱列、土坑、溝跡、性格不明遺構、ピットである。遺物は土師器、須恵器、瓦、陶磁器、石製品、金属製品、土製品が出土した。そのうち、竪穴住居跡からは鉄釘が出土している。

京ノ中遺跡の古代の検出遺構は、竪穴住居跡、土坑、溝跡、ピットである。遺物は土師器、須恵器、石製品、木製品、金属製品が出土した。

川前遺跡の縄文時代の検出遺構は、竪穴住居跡、土坑、ピットである。遺物は縄文土器、須恵器、石器、石製品、金属製品、土製品が出土した。そのうち、遺物包含層からは岩偶及びイモ貝形石製品が出土している。

宮崎遺跡の古代以降の検出遺構は、竪穴遺構、土坑、溝跡、ピットである。遺物は縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、石器が出土した。

各遺構は個別に報告することを基本とするが、ピットに関しては一括記載とし、特徴的な遺構のみ個別に報告する。なお、今回の報告では調査時に付した遺構記号及び番号をそのまま使用しており、番号等の振り替えは重複した遺構以外では行っていない。

### 第1節 鍛冶屋敷A遺跡

#### 1. I区の調査(付図2)

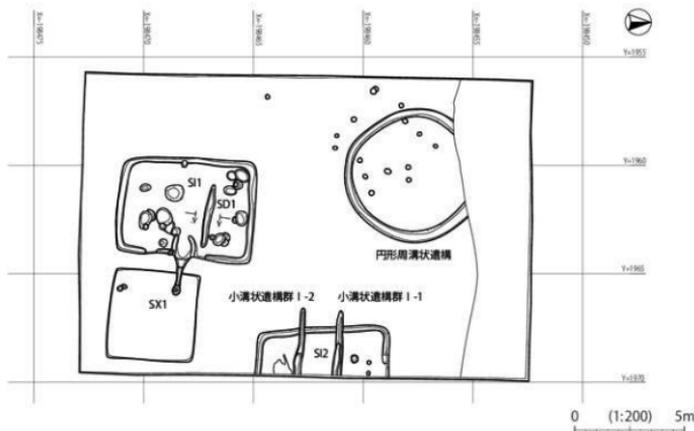
I区では、基本層Ⅲ層上面(古代以降の遺構検出面)において、竪穴住居跡1軒、竪穴遺構1基、溝跡1条、小溝状遺構群1群、性格不明遺構1基、円形周溝状遺構1基、ピット19基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

#### (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物(第24～31図、図版1・3)

##### 1) 竪穴住居跡

###### S11 竪穴住居跡(第25・26図、図版1・3)

[位置] 調査区南側に位置する。



第24図 館治屋敷A遺跡I区遺構配置図

[重複関係] SD1、SX1と重複関係にあり、本遺構が新しい。

[規模・形態] 規模は東西475cm、南北6.29mである。平面形は、隅丸方形である。掘り方は検出されていない。

[主軸方位] カマド基準でE-7°-Sである。

[堆積土・構築土] 12層に分層された。1～3層は住居堆積土、4層は周溝内堆積土、5～8層はカマド内堆積土、9～12層はカマド関連層位である。1層には灰白色火山灰と考えられるシルトの小ブロックが含まれている。

[壁面] 床面からはほぼ垂直に立ち上がる。壁高は床面から最大28cmである。

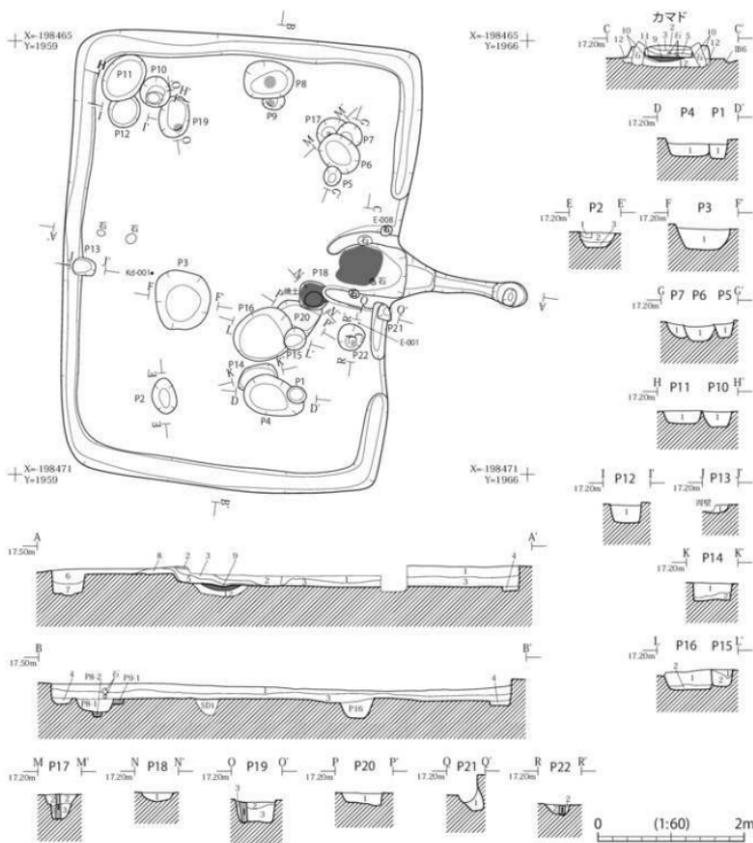
[床面] 基本層Ⅲ層を床面とし、概ね平坦である。

[柱穴] 床面で22基のビット(P1～22)を検出した。規模や位置関係から、P1・2・17・19は主柱穴の可能性がある。規模は長軸26～58cm、短軸24～42cm、深さ21～35cmである。平面形は不整形円形を主体とし、断面形はいずれもU字形を呈する。P17・19では径9～17cmの柱痕跡が確認された。その他のビットの規模は長軸21～85cm、短軸16～80cm、深さ10～35cmである。平面形は不整形円形ないし楕円形のものが多く、断面形は概ねU字形ないし逆台形である。P8・9・22では径9～17cmの柱痕跡が確認された。これらは補助的な柱あるいは内部施設に伴うものとみられる。

[周溝] 東壁の一部を除き、壁に沿ってほぼ全周する。断面形は逆台形ないしU字形で、規模は幅21～37cm、深さ6～9cmである。

[カマド] 東壁の中央に付設されている。規模は左袖が長さ99cm、幅42cm、床面からの高さ15cmで、右袖が長さ97cm、幅30cm、床面からの高さ18cmである。両袖から、構築材と考えられる礫が燃焼部側に内傾した状態で出土している。燃焼部の規模は奥行104cm、幅64cm、奥壁高12cmで、奥壁部分は住居壁面から張り出す。底面は中央がやや窪み、奥壁は外傾して立ち上がる。奥壁付近南東側で、礫が燃焼部側に内傾した状態で出土しており、出土状況から支脚と考えられる。深さ17cmの掘り方を持つ。煙道部の規模は長さ168cm、幅18～59cm、深さ7～9cmである。底面は概ね平坦で、奥壁側は土坑状にわずかに落ち込む。煙出し部の規模は長軸48cm、短軸34cm、深さ37cmである。底面は中央が楕円形状に窪む。

第1節 鍛冶屋敷A遺跡



遺構名	名字	平面形	方位	直径・角幅・長さ (m)	直径・角幅・長さ (m)
S11	土坑	楕円方形	E・S		0.29 × 4.75 × 0.30
P1	円形	U字形		0.26 × 0.24 × 0.23	P12 楕円形 U字形 0.30 × 0.44 × 0.24
P2	不整形円形	U字形		0.49 × 0.32 × 0.23	P13 楕円形 U字形 0.32 × 0.25 × 0.10
P3	不整形円形	溝形		0.85 × 0.80 × 0.20	P14 不整形円形 U字形 0.56 × 0.17 × 0.25
P4	不整形円形	溝形		0.85 × 0.52 × 0.18	P15 円形 U字形 0.31 × 0.30 × 0.24
P5	円形	U字形		0.28 × 0.24 × 0.24	P16 楕円形 溝形 0.84 × 0.60 × 0.26
P6	楕円形	溝形		0.50 × 0.47 × 0.28	P17 不整形円形 U字形 0.43 × 0.18 × 0.35
P7	円形	皿形		0.36 × 0.18 × 0.22	P18 不整形円形 溝形 0.44 × 0.35 × 0.13
P8	不整形円形	-		0.68 × 0.53 × -	P19 楕円形 U字形 0.58 × 0.42 × 0.31
P9	不整形円形	-		0.31 × 0.19 × -	P20 不整形円形 U字形 0.56 × 0.28 × 0.17
P10	円形	U字形		0.43 × 0.42 × 0.23	P21 不整形円形 U字形 0.21 × 0.19 × 0.22
P11	楕円形	溝形		0.73 × 0.52 × 0.18	P22 不整形円形 溝形 0.38 × 0.36 × 0.15

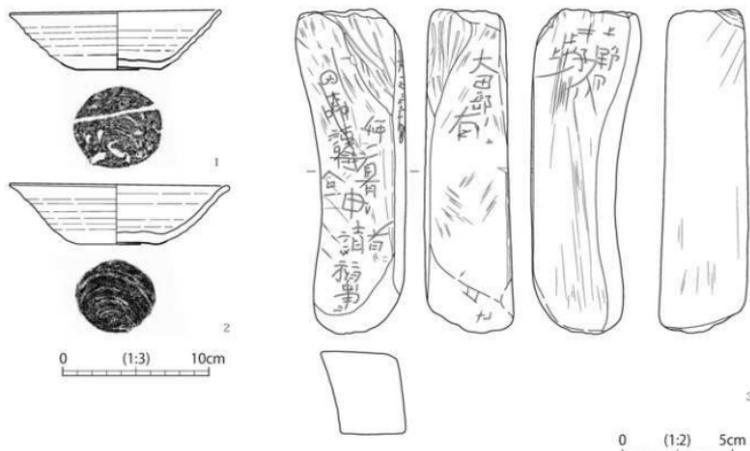
第25図 S11 竪穴住居跡平面図・断面図

S11 竪穴住居跡出土品表

遺物名	図説	土色	土質	備考	遺物名	図説	土色	土質	備考
1		10R3/3 黒褐色	砂質シルト	焼土粒・炭化物・灰白色火山灰を微量含む。	P9	1	10R3/3 黒褐色	砂質シルト	焼土・炭化物を微量含む。(右側)
2		10R3/3 黒褐色	砂質シルト	径 3mm の炭化物を微量含む。	P10	1	10R3/3 黒褐色	砂質シルト	焼土・炭化物を微量含む。
3		2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	砂質シルト		P11	1	10R3/3 黒褐色	砂質シルト	焼土・炭化物を微量含む。
4		10R3/3 黒褐色	砂質シルト	焼土。	P12	1	10R3/3 黒褐色	砂質シルト	
5		7.5Y3/3 黒褐色	粘土質シルト	焼土・炭化物を多量に含む。	P13	1	10R3/3 黒褐色	砂質シルト	
6		10R3/2 灰黒褐色	砂質シルト	径 1mm の炭化物を少量含む。	P14	1	10R3/3 黒褐色	砂質シルト	焼土・炭化物を少量含む。
7		10R3/2 灰黒褐色	砂質シルト	炭化物を多量に含む。	P14	2	10R3/2 黒褐色	砂質シルト	砂質シルト・ブロックを少量含む。
8		10R3/3 に近い黒褐色	粘土質シルト		P15	1	10R3/3 黒褐色	砂質シルト	焼土を多量に含む。
9		5Y5/3 暗赤褐色	焼土		P15	2	10R3/2 黒褐色	砂質シルト	
10		2.5Y3/2 灰褐色	粘土質シルト	焼オリーブ褐色シルト・ブロックを少量含む。	P16	1	10R3/3 黒褐色	砂質シルト	径 5mm の炭化物・焼土を含む。
11		10R3/4 黒褐色	砂質シルト		P16	2	10R3/2 黒褐色	砂質シルト	
12		10R3/4 黒褐色	砂質シルト		1	10R3/4 黒褐色	砂質シルト	径 2～5mm の炭化物・焼土を微量含む。(右側)	
P1	1	10R3/2 黒褐色	砂質シルト		P17	2	10R3/2 黒褐色	砂質シルト	
	1	10R3/2 黒褐色	砂質シルト		3	10R3/3 黒褐色	粘土質シルト		
P2	1	10R3/2 黒褐色	砂質シルト	砂質シルト・ブロックを少量含む。	P18	1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	砂質シルト	焼土を多量に含む。
	3	10R3/1 黒褐色	砂質シルト		1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	粘土質シルト	(右側)	
P3	1	10R3/3 黒褐色	砂質シルト	焼土を多量に含む。	P19	2	10R3/3 黒褐色	砂質シルト	径 5～10mm の焼土・炭化物を多量に含む。
P4	1	10R3/3 黒褐色	粘土質シルト		3	10R3/3 黒褐色	砂質シルト	焼土・炭化物・ブロックを含む。	
P5	1	10R3/3 黒褐色	砂質シルト	炭化物を微量含む。	P20	1	10R3/3 黒褐色	砂質シルト	焼土を多量に含む。
P6	1	10R3/3 黒褐色	粘土質シルト		P21	1	10R3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
P7	1	10R3/3 黒褐色	粘土質シルト		P22	1	10R3/3 黒褐色	粘土質シルト	オリーブ褐色粘土質シルトを微量含む。(右側)
	1	10R3/3 黒褐色	砂質シルト	焼土・炭化物を微量含む。	P22	2	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	粘土質シルト	焼土・炭化物を少量含む。
P8	2	10R3/3 黒褐色	砂質シルト	焼土・炭化物を微量含む。(右側)					

〔その他の施設〕カマド右袖に隣接する P18 は、焼土を多量に含む。平面形は不整形形で、規模は長軸 44cm、短軸 35cm、深さ 13cm である。堆積土は単層である。柱痕跡は確認されていない。

〔出土遺物〕住居堆積土、床面、カマド、P3・10・18・19・22 から土師器片、赤焼土器片、須恵器、石製品、礫が出土しており、須恵器 2 点、刻書砥石 1 点を図示した。住居堆積土 1 層に灰白色火山灰を含み、出土した須恵器から、年代は 9 世紀代と考えられる。また、床面西側、P3 の北西付近で刻書砥石(第 26 図 3)が 1 点出土した。研ぎ面は 4 面を有し、内 3 面に文字が刻まれている。床面直上から出土しており、本住居跡に伴う遺物である。



No.	図説番号	遺物名	図説	種類	図種	寸法×底径×厚さ(mm)	内面調	外面調	備考	写真掲載
1	E-001	S1	焼土	須恵器	片	14.5 × 5.6 × 4.1	口内調	底面・断面・口内		3-1
2	E-002	S1	印	須恵器	片	13 × 5.2 × 5.2	口内調	底面・断面・口内		3-2
3	E-003	S1	焼土	須恵器	片	13 × 5.2 × 5.2	口内調	底面・断面・口内		3-3
3	E-001	S1	焼土	石製品	砥石		13.0 × 8.0 × 3.8	3面に研ぎ	備考	写真掲載

第 26 図 S11 竪穴住居跡出土遺物

第1節 鍛冶屋敷A遺跡

2) 竪穴遺構

S12 竪穴遺構 (第27図)

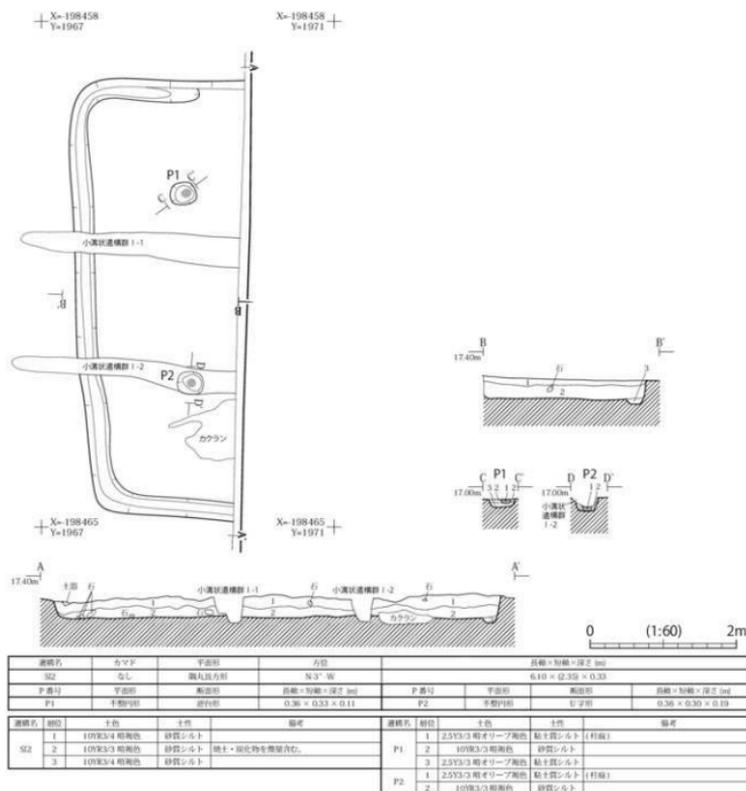
[位置] 調査区中央東側に位置する。東側は調査区外へ延びる。

[重複関係] 小溝状遺構群1群、P5・6と重複関係にあり、本遺構が古い。

[規模・形態] 規模は東西235cm以上、南北6.10mである。平面形は、残存状況から隅丸長方形と考えられる。カマド・掘り方は検出されていない。

[軸方位] 西壁基準でN-3°-Wである。

[堆積土] 3層に分層された。1・2層は竪穴堆積土、3層は周溝内堆積土である。



第27図 S12 竪穴遺構平面図・断面図

[壁面] 床面から外傾して立ち上がる。壁高は床面から最大33cmである。

[床面] 基本層Ⅲ層を床面とし、やや起伏する。

[柱穴] 床面で2基のビット(P1・2)を検出した。規模や位置関係から、P1・2は主柱穴と考えられる。規模は長軸36cm、短軸30～33cm、深さ11～19cmである。平面形はいずれも不整形形で、断面形はP1が逆台形、P2がU字形である。P1・2では径12～14cmの柱痕跡が確認された。

[周溝] 北壁の一部を除き、壁に沿って全周する。断面形は逆台形で、規模は幅22～31cm、深さ7～9cmである。

[出土遺物] 竅穴堆積土、周溝内堆積土から土師器片、赤焼土器片、須恵器片、石製品が出土しているが、図示できる遺物はない。竅穴堆積土から赤焼土器片が出土していることから、年代は10世紀前半以降と考えられる。

### 3) 溝跡

SD1 溝跡(第24・28図)調査区中央南側、S11の床面で検出した。東西方向に延びる溝跡である。S11と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-80°-Wで、規模は長さ293cm、幅39cm、深さ23cmである。断面形は逆台形である。堆積土は2層に分層された。遺物は出土していない。



遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)	遺構名	層位	土性	注記
SD1	直線	逆台形	N-80°-W	293×39×23	SD1	1	10%RC-2 順築土	底面層・積土を構成している。
						2	10%RC-4 順築土	底面層・積土を構成している。

第28図 SD1 溝跡断面図

### 4) 小溝状遺構群

1群(第29図)調査区中央東側で検出した。1・2の2条で構成される。東西方向の小溝状遺構群で、東端は調査区外へ延びる。S12と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向はN-85～87°-Wで、規模は調査区内の検出長312～318cm、幅36～41cm、深さ31～35cmである。小溝の間隔は、141～152cmである。堆積土は2層に分層された。遺物は出土していない。

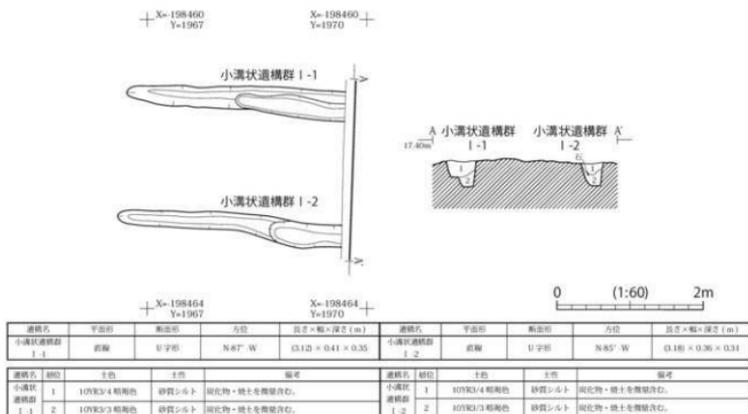
### 5) 性格不明遺構

SX1 性格不明遺構(第30図)調査区南東側で検出した。S11と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸方形で、長軸方向はN-3°-Eである。規模は長軸415cm、短軸398cm、深さ13cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形はU字形で、底面は起伏する。堆積土は単層である。遺構南西部の底面で2基のビット(P1・2)を検出した。これらは重複関係にあり、P1が新しい。P1の平面形は楕円形で、規模は長軸28cm、短軸23cm、深さ28cmである。P2の平面形は楕円形と考えられ、規模は長軸26cm、短軸24cm、深さ31cmである。いずれも柱痕跡は確認されていない。遺物は縄文土器片、土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

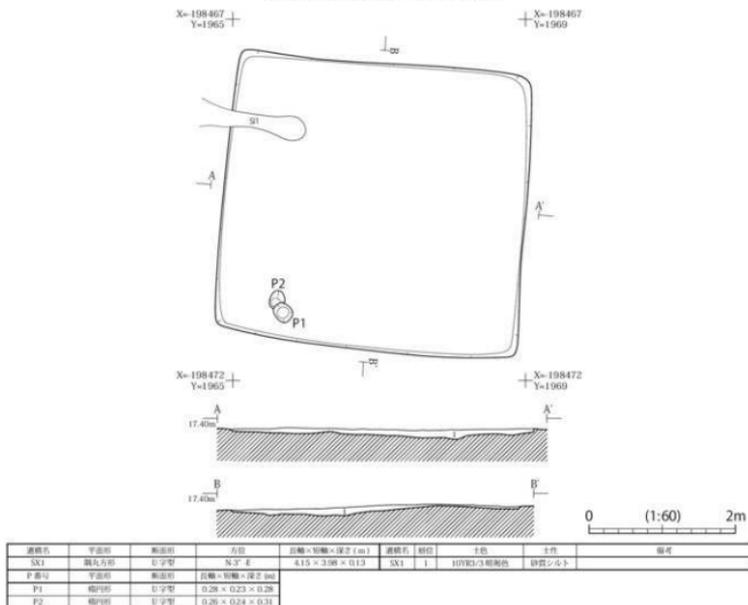
### 6) 円形周溝状遺構

円形周溝状遺構(第31図、図版1)調査区北西側で検出した。北側は攪乱により削平される。P22と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は円形と考えられる。規模は外縁6.16m、内縁5.28m、溝幅60cm、深さ11cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。周溝の断面形は逆台形で、堆積土は単層である。溝内側は概ね平坦で、床面施設や掘り方は確認されなかった。遺物は出土していない。

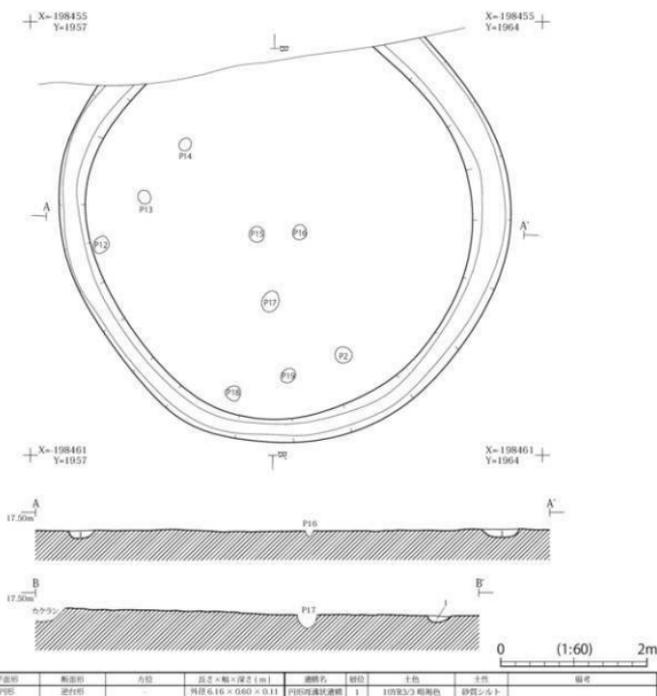
第1節 鍛冶屋敷A遺跡



第29図 小溝状遺構群平面図・断面図



第30図 SX1 性格不明遺構平面図・断面図



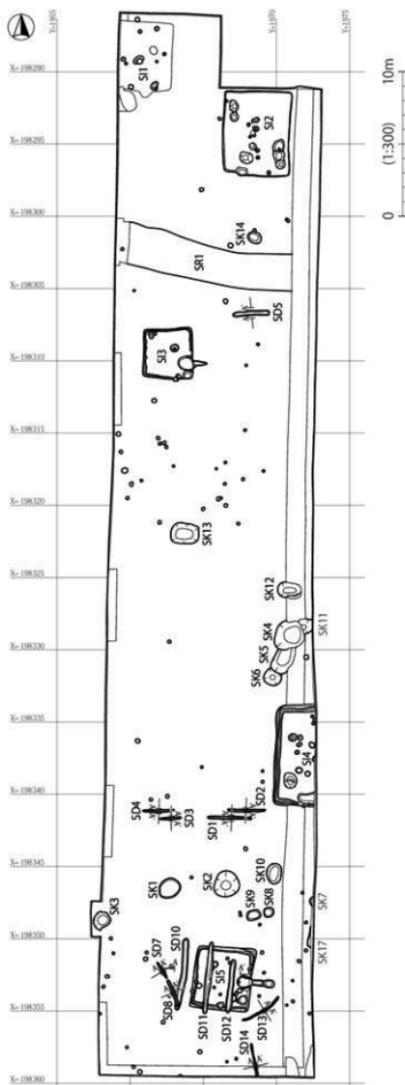
第31図 円形周溝状遺構平面図・断面図

## 7) ビット (第24図)

19基のビットを検出した。調査区北西側の円形周溝状遺構周辺に多く分布する。堆積土中より須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

## (2) 遺構外出土遺物

縄文土器片、土師器片、須恵器片、陶磁器片、石製品、金属製品、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。



第32図 殿治屋敷A遺跡Ⅱ区遺構配置図

## 2. II区の調査(付図2)

II区では、基本層Ⅲ層上面(古代以降の遺構検出面)において、竪穴住居跡3軒、竪穴遺構2基、土坑15基、小溝状遺構群6群、ビット92基を検出した。ビットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ビットについては遺構配置図にのみ表示している。

## (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物(第32～51図、図版1～4)

## 1) 竪穴住居跡

## SI1 竪穴住居跡(第33・34図、図版3)

[位置] 調査区北西隅に位置する。西側は調査区外へ延びる。

[重複関係] P48～52・90と重複関係にあり、本遺構が古い。

[規模・形態] 規模は東西357cm、南北470cmである。平面形は、残存状況から隅丸長方形を呈すると考えられる。柱穴・周溝は検出されていない。カマドは、袖や煙道部は検出されていないが、南壁の中央が外側に張り出しており、その内側で焼土範囲と掘り方が検出されたことから、南壁の中央に付設されていたと考えられる。

[主軸方位] カマド掘り方基準でS-3°-Wである。

[堆積土・構築土] 4層に分層された。1層は住居堆積土、2～4層はカマド関連層位である。

[壁面] 床面から緩やかに外傾して立ち上がる。壁高は床面から1～4cmである。

[床面] 基本層Ⅲ層を床面とし、やや起伏する。

[その他の施設] 床面で7基のビット(P1～7)を検出した。規模は長軸22～77cm、短軸19～45cm、深さ8～13cmである。平面形は楕円形もしくは円形が多い。堆積土はいずれも単層で、柱痕跡は確認されていない。

[出土遺物] 住居堆積土、P7から土師器片、赤焼土器が出土しており、赤焼土器1点を図示した。P7から出土した赤焼土器片(第34図1)は本住居跡に伴うことから、年代は10世紀前半と考えられる。

## SI3 竪穴住居跡(第35～37図、図版2・3)

[位置] 調査区北側に位置する。

[規模・形態] 規模は東西335cm、南北347cmである。平面形は方形である。

[主軸方位] カマド基準でE-1°-Nである。

[堆積土・構築土] 20層に分層された。1～9層は住居堆積土、10層は周溝内堆積土、11～14層はカマド内堆積土、15～18層はカマド関連層位、19・20層は掘り方埋土である。

[壁面] 床面から直線的に外傾して立ち上がる。壁高は床面から9～22cmである。

[床面] 基本層Ⅲ層を床面とし、やや起伏する。南側で炭化材が多量に出土している。

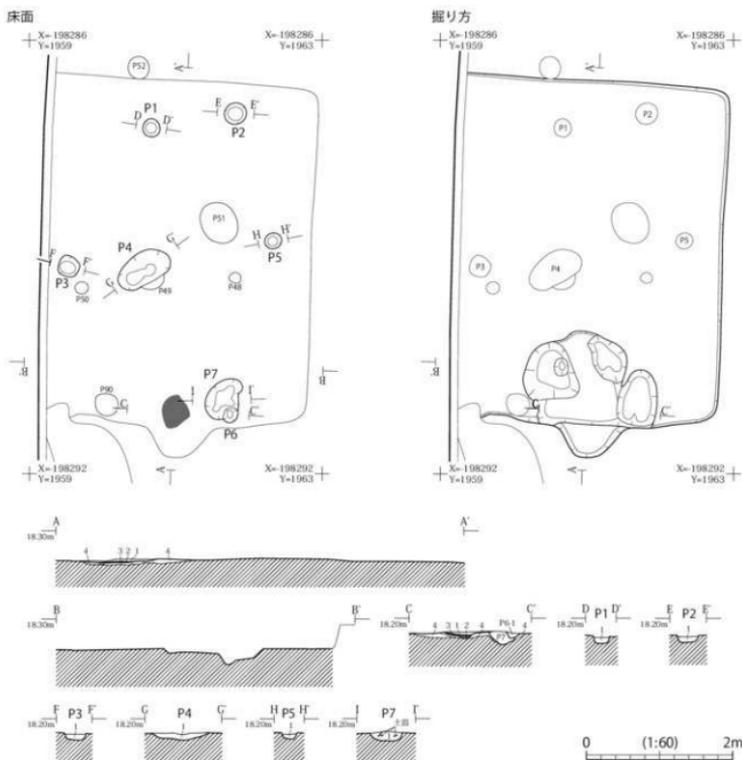
[柱穴] 床面で5基のビット(P1～5)を検出した。規模や位置関係から、P3は主柱穴と考えられる。規模は長軸56cm、短軸50cm、深さ37cmで、径20cmの柱痕跡が確認された。その他のビットの規模は長軸27～50cm、短軸22～32cm、深さ5～28cmである。いずれも柱痕跡は確認されていない。

[周溝] 南東側を除き、壁に沿って全周する。断面形は逆台形ないしU字形で、規模は幅12～25cm、深さ3～7cmである。

[カマド] 東壁の南寄りに付設されている。規模は左袖が長さ45cm、幅28cm、床面からの高さ8cmで、右袖が長さ54cm、幅18cm、床面からの高さ5cmである。燃焼部の規模は奥行108cm、幅96cm、奥壁高10cmで、奥壁部分は住居壁面から張り出す。底面は中央がやや窪み、奥壁は直線的に外傾して立ち上がる。深さ5～7cmの楕円形の掘り方を持ち、奥壁側にビット状の落ち込みを有する。煙道部の規模は長さ91cm、幅11～50cm、深さ3～8cmである。底面は概ね平坦で、奥壁側が低く、先端部に向かって緩やかに傾斜して高くなる。

[その他の施設] 床面で土坑1基(SK1)を検出した。SK1は住居南東隅に位置し、カマド右袖に隣接する。平面形

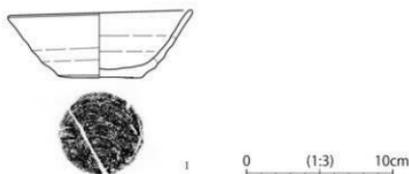
第1節 竪治屋敷A遺跡



遺構名	カタマド	平面形	方位	長軸×短軸×深さ (m)
S1	なし	概長長方形	53° 西	(4.70 × 3.57) ×
F 壁面	平面形	垂直面	北緯・南緯・東・西	垂直面
P1	楕円形	U字形	0.25 × 0.23 × 0.10	P5 円形 0.24 × 0.23 × 0.10
P2	円形	U字形	0.30 × 0.30 × 0.10	P6 半円形 0.22 × 0.19 × 0.08
P3	半円形	U字形	0.32 × 0.30 × 0.10	P7 半楕円形 0.63 × 0.45 × 0.13
P4	楕円形	楕形	0.77 × 0.43 × 0.10	

遺構名	層位	土色	土質	備考	遺構名	層位	土色	土質	備考	
S1	1	10YR2.2 黒褐色	砂質シルト	厚 10mm の粘土ブロック・高純度の多量に含む。	P4	1	10YR5.0 黄褐色	砂質シルト	マンガン酸を少量含む。	
	2	10YR4.0 粘赤褐色	砂			P5	1	10YR5.0 黄褐色	砂質シルト	高純度の砂質シルト・厚 5mm の粘土ブロックを少量含む。
	3	10YR5.0 黄褐色	砂質シルト	高純度の砂質シルト・厚 5mm の粘土ブロックを少量含む。		P6	1	10YR5.0 黄褐色	砂質シルト	マンガン酸を少量含む。
	4	10YR5.0 黄褐色	砂質シルト	高純度の砂質シルトを多量に含む。		P7	1	10YR5.0 黄褐色	砂質シルト	厚 5mm の粘土ブロック・鉄を少量含む。
P1	1	10YR4.0 黄褐色	砂質シルト		P7	1	10YR5.0 黄褐色	砂質シルト	厚 10mm の高純度の砂質シルトブロックを少量含む。	
	2	10YR4.3 粘赤褐色	砂質シルト	高純度の砂質シルトを少量含む。						

第 33 図 S11 竪六住居跡平面図・断面図



第34図 SK1竪穴住居跡出土遺物

№	登録番号	遺物名	数量	種類	部種	寸法・重量・容積・その他	所在地	内装遺物	備考	写真枚数
1	D-001	SK1 P7	1	赤焼土器	片	12.7 × 5.7 × 4.7	ロケロ調整 底面残存部分	ロケロ調整	外面体部一対照関係、内外面付着物有	3・4

は隅丸方形で、規模は長軸65cm、短軸55cm、深さ25cmである。堆積土は3層に分層された。規模や位置関係から、SK1は貯蔵穴と考えられる。

[掘り方] 深さ5～20cmである。壁際を溝状に掘り込まれており、中央が島状に残っている。

[出土遺物] 住居堆積土、床面、周溝、掘り方埋土、SK1、P3・5から土師器、赤焼土器、須恵器片、陶器片、金属製品刀子もしくは小刀、礫、炭化材が出土しており、土師器3点、赤焼土器1点を図示した。そのうち、カマド燃焼部から土師器鬚(第37図3)と赤焼土器環(第37図1)が出土していることから、年代は10世紀前半と考えられる。

S15竪穴住居跡(第38～40図、図版2・3)

[位置] 調査区南側に位置する。

[重複関係] SD11・12、P61～69・94～96と重複関係にあり、本遺構が古い。

[規模・形態] 規模は東西400cm、南北435cmである。平面形は方形である。

[主軸方位] カマド基準でE-4d°-Sである。

[堆積土・構築土] 17層に分層された。1～5層は住居堆積土、6層は周溝内堆積土、7・8層はカマド内堆積土、9～17層はカマド関連層位である。

[壁面] 床面から外傾して立ち上がる。西・南壁は上位で大きく外傾する。壁高は床面から36～45cmである。

[床面] 基本層Ⅲ層を床面とし、やや起伏する。

[柱穴] 床面でピット9基(P1～7・9・10)、カマド掘り方底面でピット1基(P8)を検出した。規模や位置関係から、P6は主柱穴と考えられる。規模は長軸46cm、短軸38cm、深さ12cmで、径18～23cmの柱痕跡が確認された。その他のピットの規模は長軸20～67cm、短軸12～63cm、深さ6～16cmである。いずれも柱痕跡は確認されていない。これらは補助的な柱あるいは内部施設に伴うものとみられる。

[周溝] カマド周辺を除き、壁に沿って全周する。断面形は逆台形ないしU字形で、規模は幅15～34cm、深さ6～9cmである。

[カマド] 東壁の中央に付設されている。規模は左軸が長さ72cm、幅19cm、床面からの高さ5cmで、右軸が長さ80cm、幅30cm、床面からの高さ14cmである。燃焼部の規模は奥行104cm、幅71cm、奥壁高15cmで、奥壁部分は住居壁面から張り出す。底面は概ね平坦で、奥壁は外傾して立ち上がる。深さ9～13cmの不整形の掘り方を持つ。煙道部の規模は長さ151cm、幅34～40cm、深さ23～51cmである。底面は奥壁側が高く、先端部に向かって緩やかに傾斜して低くなる。煙出し部の規模は長軸81cm、短軸58cm、深さ55cmである。

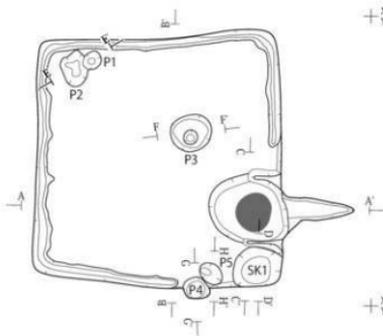
[掘り方] 深さ2～7cmである。壁際を溝状に掘り込まれており、中央が島状に残っている。

[出土遺物] 住居堆積土、カマド、P1～3・8から土師器片、赤焼土器片、須恵器、金属製品、礫が出土しており、

第1節 鍛冶屋敷A遺跡

床面 X=198307.5  
Y=1960

X=198307.5  
Y=1965.5

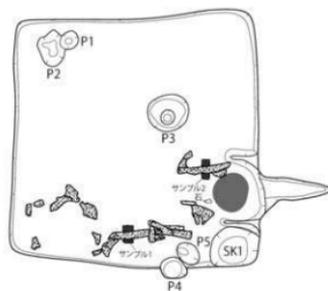


X=198311.5  
Y=1960

X=198311.5  
Y=1965.5

炭化材出土状況 X=198307.5  
Y=1960

X=198307.5  
Y=1965.5

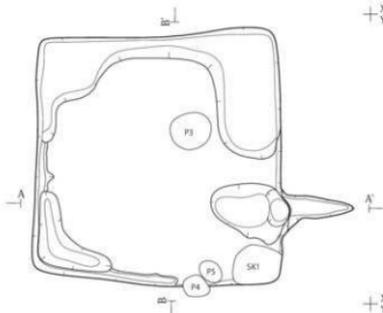


X=198311.5  
Y=1960

X=198311.5  
Y=1965.5

掘り方 X=198307.5  
Y=1960

X=198307.5  
Y=1965.5

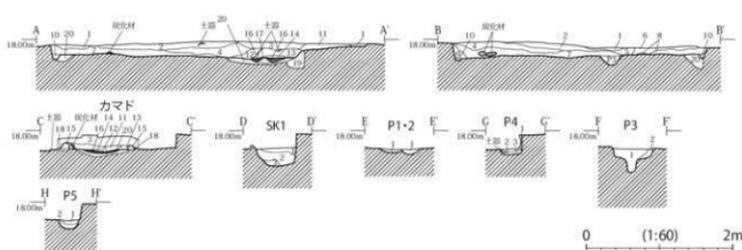


X=198311.5  
Y=1960

X=198311.5  
Y=1965.5

第35図 SI3 雙穴住居跡平面図

0 (1:60) 2m



遺構名	方マド	平面形	方位	長軸×短軸×深さ (m)			
S13	基壇	方形	北-南	3.47×3.35×0.25			
P1	平間部	楕円	長軸: 短軸: 深さ (m)	P+5k 番号			
P2	平間部	浅い楕円	0.27×0.22×0.07	P4	平間部	円形	0.38×0.32×0.28
P3	平間部	円形	0.50×0.31×0.05	P5	楕円形	円形	0.35×0.27×0.12
			0.56×0.50×0.37	SK1	丸瓦片	円形	0.65×0.55×0.25

遺構名	積層	土色	土質	層厚	備考	遺構名	積層	土色	土質	層厚	備考	
												遺構名
S13	1	10YR3/4に濃い黄褐色	砂質シルト	約10cm	褐色砂質シルト・径5mmの炭化物を少量、マシンの土を多量に含む。	17	10YR3/2黄褐色	砂質シルト	径5mmの粘土・炭化物を少量含む。			
	2	10YR3/3黄褐色	砂質シルト	約10cm	径5～20mmの焼土ブロック・炭化物を多量に含む。	18	10YR4/3に濃い黄褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトを少量含む。			
	3	10YR3/4に濃い黄褐色	砂質シルト	約10cm	マンガン鉄を多量、径5mmの炭化物を少量含む。	19	10YR4/4に濃い黄褐色	砂質シルト	褐色粘土を多量、径10mmの炭化物を少量含む。			
	4	10YR3/4に濃い黄褐色	砂質シルト	約10cm	褐色砂質シルトを少量含む。	20	10YR3/2黄褐色	砂質シルト	径30mmの灰黒褐色砂質シルトブロックを多量に含む。			
	5	10YR4/4黄褐色	砂質シルト	約5mm	径5mmの焼土・炭化物を少量含む。	P1	1	10YR3/4に濃い黄褐色	砂質シルト	径5～10mmの焼土ブロック・炭化物を多量に含む。		
	6	10YR3/4に濃い黄褐色	砂質シルト	約10cm	黒褐色砂・径5～10mmの炭化物を多量に含む。	P2	1	10YR4/3に濃い黄褐色	砂質シルト	径10～20mmの焼土ブロック・炭化物を多量に含む。		
	7	10YR3/2黄褐色	砂質シルト	約10cm	径5～20mmの灰黒褐色砂ブロック・径3～10mmの炭化物と炭灰を多量に含む。	P3	1	10YR3/3黄褐色	砂質シルト	径10～20mmの黄褐色砂質シルトブロック・径20～30mmの炭化物を多量に含む。		
	8	10YR3/2黄褐色	砂質シルト	約10cm	径5～10mmの焼土ブロック・炭化物を多量に含む。	P4	2	10YR3/4に濃い黄褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトを少量含む。		
	9	10YR3/4に濃い黄褐色	砂質シルト	約5～10mm	径5～10mmの炭化物を少量含む。	P4	2	10YR3/2黄褐色	砂質シルト	径5mmの焼土・炭化物を多量に含む。		
	10	10YR4/4黄褐色	砂質シルト	約30cm	径30cmの濃い黄褐色砂ブロック・径30cmの焼土ブロックを少量含む。	P5	2	10YR4/4黄褐色	砂質シルト	径5mmの焼土を少量含む。		
	11	10YR4/4黄褐色	砂質シルト	約5～10mm	径5～10mmの焼土ブロック・炭化物を多量に含む。	SK1	2	10YR3/2黄褐色	砂質シルト	径5～20mmの炭化物を多量、径5mmの焼土を少量含む。		
	12	10YR3/2黄褐色	砂質シルト	約5～10mm	径5～10mmの炭化物を少量含む。	3	10YR3/4に濃い黄褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトを多量含む。			
	13	10YR4/4黄褐色	砂質シルト	約5mm	径5mmの焼土を少量含む。	4	10YR4/4黄褐色	砂質シルト	径5mmの焼土を少量含む。			
	14	10YR3/2黄褐色	砂質シルト	約5mm	径5mmの焼土・炭化物を少量含む。	5	10YR3/2黄褐色	砂質シルト	径5～20mmの炭化物を多量、径5mmの焼土を少量含む。			
	15	10YR4/4黄褐色	砂質シルト	約5mm	径5mmの焼土を少量含む。	6	10YR4/4黄褐色	砂質シルト	径5mmの炭化物を少量含む。			
	16	5YR5/6明黄褐色	粘土	約5mm	径5mmの炭化物を少量含む。	7	10YR4/4黄褐色	砂質シルト	径5mmの炭化物を少量含む。			

第36図 S13 竪穴住居断面図

須恵器1点を図示した。住居堆積土から須恵器環(第40図)、赤焼土器片が出土したことから、年代は10世紀前半以降と考えられる。

## 2) 竪穴遺構

## S12 竪穴遺構(第41～43図、図版1～4)

[位置] 調査区北東隅に位置する。

[規模・形態] 規模は東西456cm、南北5.92mである。平面形は長方形である。柱穴・周溝・カマドは検出されていない。

[主軸方位] 東壁基準でN-2°・Eである。

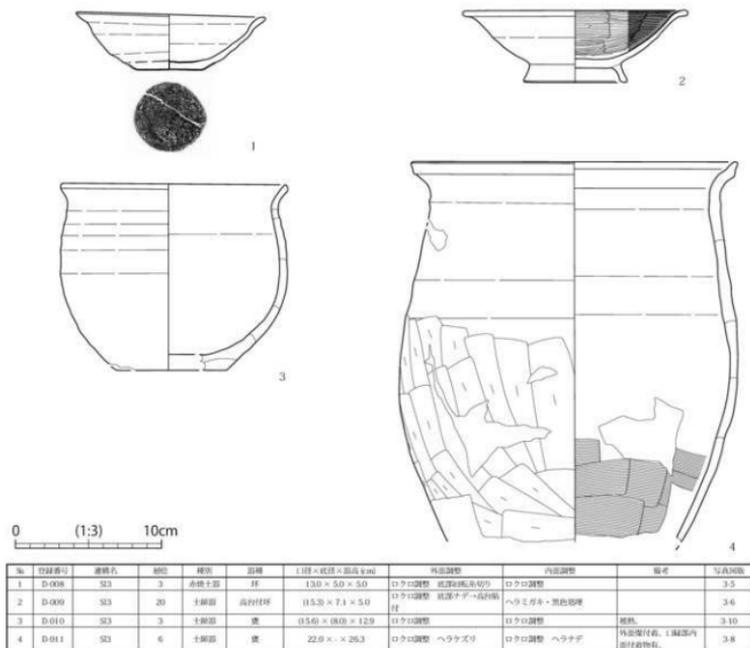
[堆積土・構築土] 7層に分層された。1～6層は遺構堆積土、7層は掘り方土である。

[壁面] 床面から外積して立ち上がる。壁高は床面から1～12cmである。

[床面] 掘り方上面または基本層Ⅲ層を床面とし、やや起伏する。遺構中央から南側にかけて、長軸390cm、短軸340cmの範囲で硬化面を確認した。

[炉] 地床炉を1基(P2)検出した。床面の南壁寄りに位置する。被熱範囲の規模は長軸26cm、短軸23cm、深さ6cmである。

第1節 鍛冶屋敷A遺跡

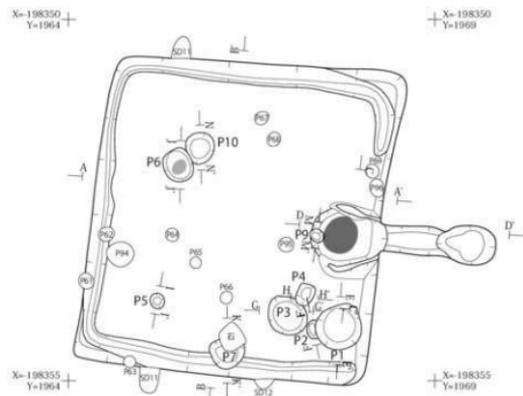


第37図 S13 竪穴住居跡出土遺物

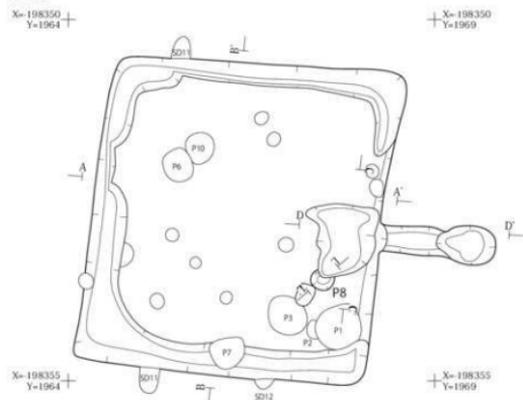
[その他の施設] 床面で土坑2基(SK1・2)、焼土範囲5ヶ所(焼土1～3・5・6)、ピット5基(P1・3～6)を検出した。SK1は南壁の中央やや西側に位置し、壁の外側へやや張り出す。平面形は隅丸長方形で、規模は長軸75cm、短軸57cm、深さ26cmである。堆積土は2層に分層された。SK2は床面の北東側に位置する。2基の土坑が南北に連なったような形態をしており、南側をSK2-1、北側をSK2-2とした。SK2-1の平面形は不整形形で、規模は長軸63cm、短軸56cm、深さ9cmである。堆積土は単層である。SK2-2の平面形は不整形で、規模は長軸77cm、短軸64cm、深さ28cmである。堆積土は2層に分層された。焼土1は床面の南西側に位置する。平面形は不整形形で、規模は長軸94cm、短軸72cm、深さ13cmである。堆積土は5層に分層された。床面直上にも炭化物を含む層と焼土層が堆積する。上面から被熱した礫が出土した。焼土2は床面の中央やや南側に位置する。平面形は不整形形で、規模は長軸52cm、短軸45cm、深さ2cmである。堆積土は単層で、底面に焼土が堆積する。焼土3は床面の南東側に位置する。焼土範囲の南北両端は土坑状に掘り込まれている。平面形は不整形で、規模は長軸202cm、短軸78cm、深さ37cmである。堆積土は8層に分層された。焼土5は床面の中央に位置する。平面形は不整形で、規模は長軸55cm、短軸28cm、深さ10cmである。堆積土は単層で、上面に焼土が堆積する。焼土6は床面の中央に位置する。平面形は円形で、規模は長軸19cm、短軸18cmである。ピットの規模は長軸15～44cm、短軸17～37cm、深さ12～32cmで、平面形は楕円形のものが多く、断面形はU字形を主体とする。いずれも柱痕跡は確認されていない。

No.	付録番号	遺物名	種類	図様	寸法	出土位置・状況	内装装飾	内装装飾	備考	写真掲載	
1	D-008	S13	3	赤褐色土器	耳	13.0 × 5.0 × 5.0	ロケロ装飾	ロケロ装飾		3.5	
2	D-009	S13	20	土師器	高付付所	15.2 × 7.1 × 5.0	ロケロ装飾	底面ナデ・高付所付	ヘラミガキ・黒色塗		3.6
3	D-010	S13	3	土師器	蓋	15.6 × 18.0 × 12.9	ロケロ装飾	ロケロ装飾	黒土	3.10	
4	D-011	S13	6	土師器	蓋	22.9 × × 26.3	ロケロ装飾	ヘラナデ	内装付所、1層部内面付所付	3.8	

## 床面



## 掘り方

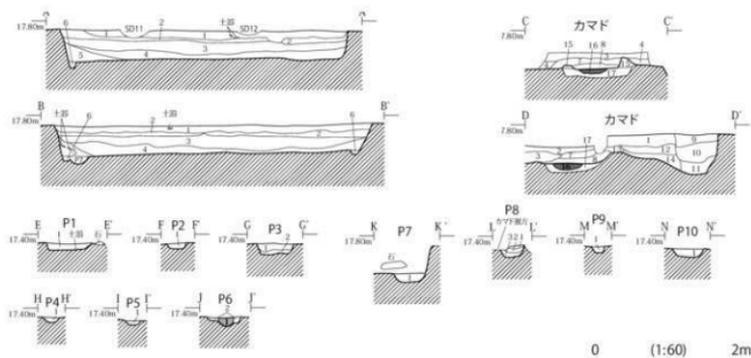


0 (1:60) 2m

遺構名	形式	平面図	方位	長幅・短幅・深さ (m)			
S2	基壇	方形	E 45°	4.25 × 4.05 × 0.44			
P 遺り	平面図	敷居形	長幅・短幅・深さ (m)	P 遺り	平面図	敷居形	長幅・短幅・深さ (m)
P1	不整形凹	溝形凹	0.67 × 0.63 × 0.10	P6	楕円凹	U 字形	0.46 × 0.38 × 0.12
P2	楕円凹	U 字形	0.27 × 0.12 × 0.08	P7	不整形凹	U 字形	0.48 × 0.26 × 0.12
P3	不整形凹	U 字形	0.58 × 0.48 × 0.16	P8	P形凹	U 字形	0.33 × 0.32 × 0.16
P4	不整形凹	溝形凹	0.32 × 0.23 × 0.07	P9	楕円凹	U 字形	0.20 × 0.17 × 0.08
P5	P形	溝形凹	0.22 × 0.20 × 0.06	P10	不整形凹	溝形凹	0.45 × 0.40 × 0.12

第38図 S15 竪穴住居跡平面図

第1節 鍛冶屋敷A遺跡



遺構名	層位	土色	土性	備考	遺構名	層位	土色	土性	備考
S15	1	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	層 1 ~ 20mm の黄褐色シルトブロック・層 5 ~ 10mm の黄褐色シルトブロックを多数、層 2 ~ 5mm の灰白色物を散見含む。	P1	1	10YR4/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	層 2 ~ 10mm の粘土を多数含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	層 10mm の黄褐色シルト・層 5mm の黄褐色シルトを少量含む。	P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	層 5 ~ 10mm の黄褐色シルトを少量、層 3 ~ 5mm の灰白色物を少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	層 2 ~ 5mm の黄褐色シルトブロック・層 10mm の黄褐色シルトを少量、層 30mm の灰白色・黄土を散見含む。	P3	2	10YR4/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	層 5 ~ 10mm の粘土ブロックを少量、層 3 ~ 5mm の灰白色物を少量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	層 2 ~ 5mm の黄褐色シルト・層 1 ~ 2mm の黄褐色粘土を少量含む。	P4	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	層 3 ~ 5mm の粘土を少量、層 2 ~ 5mm の灰白色物を散見含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト		P5	1	10YR4/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	層 3 ~ 5mm の黄褐色シルト・層 2 ~ 10mm の灰白色物を少量含む。(付録)
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	層 10 ~ 20mm の粘土ブロックを多数、層 5mm の灰白色物を少量含む。	P6	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	層 2 ~ 10mm の黄褐色シルト・層 2 ~ 5mm の灰白色物を少量含む。
	7	10YR3/2 黒褐色	シルト	層 10 ~ 20mm の粘土ブロックを多数、層 1 ~ 5mm の灰白色物を少量含む。	P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	層 1 ~ 2mm の黄褐色シルトを多数、層 3 ~ 10mm の黄褐色シルト・層 3 ~ 5mm の灰白色物を少量含む。
	8	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	層 5 ~ 30mm の灰白色ブロックを少量含む。	P8	2	10YR4/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	層 1 ~ 2mm の黄褐色シルトを多数、層 3 ~ 10mm の黄褐色シルト・層 1 ~ 5mm の灰白色物を少量含む。
	9	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	層 5 ~ 10mm の黄褐色シルトを多数含む。	P9	1	10YR4/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	層 5mm の灰白色物を少量、層 30mm の粘土を散見含む。
	10	10YR4/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	層 1 ~ 10mm の黄褐色シルトを少量含む。	P10	1	10YR4/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	層 2 ~ 3mm の黄褐色シルト・層 2 ~ 3mm の粘土を少量、層 1 ~ 5mm の灰白色物を少量含む。
	11	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	層 5 ~ 10mm の黄褐色シルトを多数含む。	P11	1	10YR4/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	層 5 ~ 10mm の黄褐色シルトを多数、層 2 ~ 5mm の灰白色物を少量含む。
	12	10YR4/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	層 1 ~ 10mm の黄褐色シルトを少量含む。					
	13	7.5YR 7/1 黒色	粘土質シルト	層 5 ~ 10mm の黄褐色シルトを多数、層 5mm の粘土を少量含む。					
	14	10YR2/2 黒褐色	シルト	層 5 ~ 10mm の黄褐色シルトを少量、層 5mm の粘土を散見含む。					
	15	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	黄褐色シルト・粘土・黄褐色粘土を少量含む。					
	16	5YR5/6 明黄褐色	シルト	粘土					
	17	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	黄褐色シルト・黄褐色シルトブロックを少量含む。					

第39図 S15 竪穴住居跡断面図



No.	記録番号	遺構名	層位	構造	形状	寸法・直径・高さ mm	外周形状	内周形状	備考	写真枚数
1	E-002	S15	1	環状基礎	円	12.8 × 7.6 × 3.0	凹カド縁部 縁部凹(ヘラ切)	凹カド縁部	体面(断面)保存良好。	3,7

第40図 S15 竪穴住居跡出土遺物

[掘り方] 深さ5～23cmである。底面はやや起伏し、中央がやや深くなる。

[出土遺物] 竪穴堆積土、床面直上、掘り方埋土、SK1・2、焼土1・3～5、P2(灰跡)から土師器、赤焼土器、須恵器片、陶磁器片、金属製品、鉾滓、礫が出土しており、土師器2点、赤焼土器3点を図示した。そのうち、床面直上から出土した赤焼土器環(第43図3)、焼土1堆積土から出土した赤焼土器高付皿(第43図5)、焼土3堆積土から出土した土師器環(第43図1)、土師器甕(第43図2)、赤焼土器環(第43図4)は本遺構に伴うことから、年代は10世紀前半と考えられる。

#### S14 竪穴遺構(第44・45図、図版2・4)

[位置] 調査区南東側に位置する。東側は調査区外へ延びる。

[重複関係] P9と重複関係にあり、本遺構が古い。

[規模・形態] 規模は東西272cm以上、南北7.10mである。平面形は隅丸長方形と考えられる。柱穴・カマドは検出されていない。

[主軸方位] 西壁基準でN-2°・Eである。

[堆積土・構築土] 16層に分層された。1～9層は竪穴堆積土、10層は周溝内堆積土、11～13層は焼土1堆積土、14～16層は掘り方埋土である。

[壁面] 床面から外傾して立ち上がるが、南壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁高は床面から46～53cmである。

[床面] 掘り方上面を床面とし、起伏する。

[周溝] 南壁の一部を除き、壁に沿って全周する。断面形は逆台形で、規模は幅16～37cm、深さ7～8cmである。

[その他の施設] 床面で土坑2基(SK1・2)、焼土範囲4ヶ所(焼土1～4)、ピット8基(P1～8)を検出した。SK1は床面の南東側に位置する。平面形は隅丸長方形と考えられ、規模は長軸112cm、短軸75cm、深さ17cmである。堆積土は2層に分層された。SK2は床面の南西側に位置する。平面形は不整楕円形で、規模は長軸105cm、短軸86cm、深さ32cmである。堆積土は2層に分層された。焼土1は床面の中央東側に位置し、東側は調査区外へ延びる。平面形は不整形で、規模は長軸55cm、短軸57cm、深さ7cmである。堆積土は2層に分層された。焼土2は床面の中央に位置する。平面形は円形で、規模は長軸30cm、短軸28cm、深さ5cmである。焼土3は床面の中央に位置する。平面形は不整形で、規模は長軸202cm、短軸78cm、深さ4cmである。焼土4は床面の中央北側に位置する。平面形は不整形で、規模は長軸39cm、短軸30cm、深さ4cmである。ピットの規模は長軸38～58cm、短軸15～53cm、深さ5～42cmである。P5では長軸17cm、短軸13cmの柱痕跡が確認された。

[掘り方] 深さ14～21cmである。壁際を溝状に掘り込んでおり、中央が鳥状に残されている。

[出土遺物] 竪穴堆積土、床面、掘り方埋土、SK1・2、P1・7から土師器、赤焼土器片、須恵器片、金属製品、鉾滓、土製品、礫、炭化材が出土しており、土師器2点(第45図1・2)、刀子1点(第45図3)、土製品1点(第45図4)は本遺構に伴うもので、また、SK1から出土した赤焼土器片は細片で図示できなかったが、本遺構に伴う遺物であることから、年代は10世紀前半以降と考えられる。

#### 3) 土坑

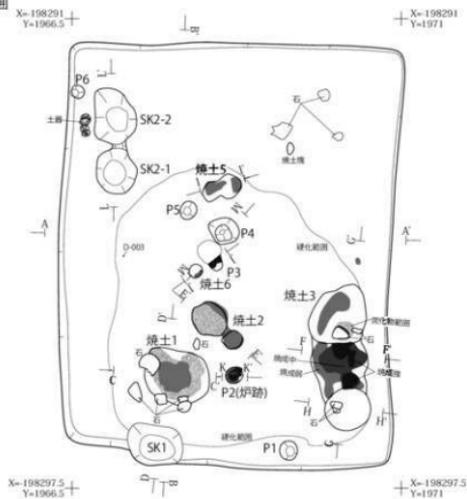
SK1土坑(第46図)調査区南側で検出した。平面形は不整楕円形で、長軸方向はN-56°・Eである。規模は長軸156cm、短軸129cm、深さ24cmである。壁面は、直線的に外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや起伏する。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK2土坑(第46図)調査区南側で検出した。平面形は不整円形で、長軸方向はN-1°・Eである。規模は長軸179cm、短軸176cm、深さ49cmである。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は丸みを持つ。堆積土は2層に分層された。遺物は土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

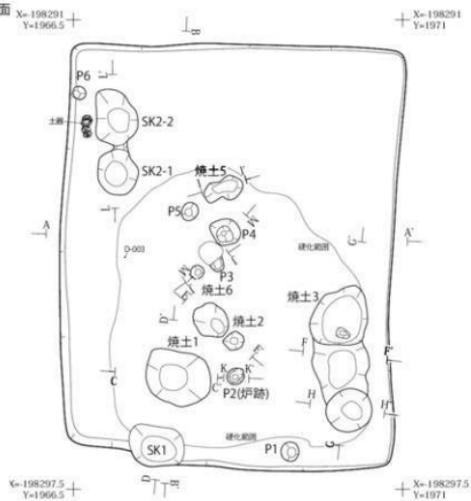
SK3土坑(第46図)調査区南西側で検出した。上部東側は遺構検出の際に削平されている。平面形は不整円形で、

第1節 鍛冶屋敷A遺跡

焼土範囲



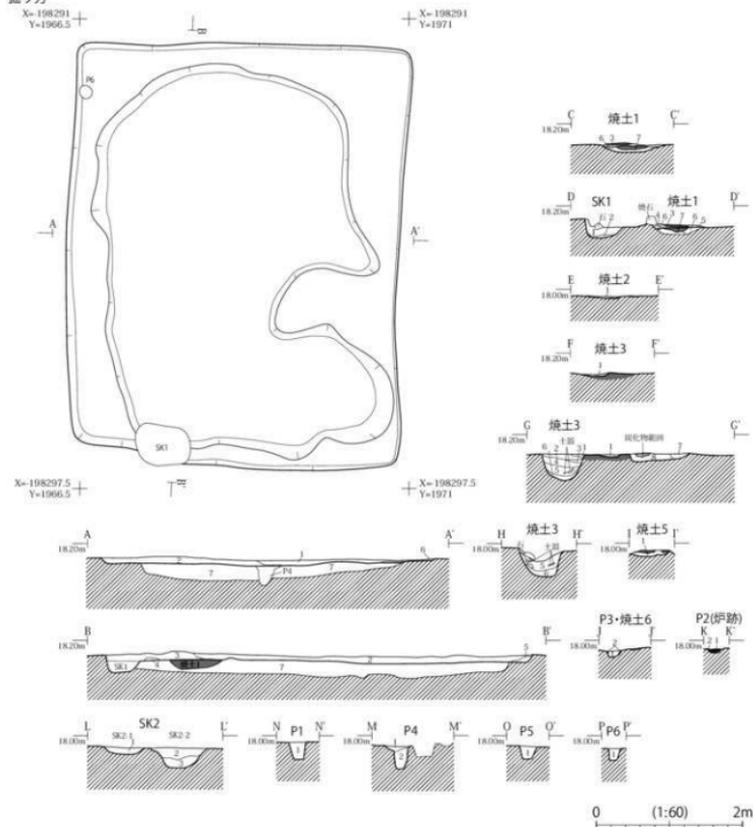
床面



第41図 S12 竪穴遺構平面図(1)

0 (1:60) 2m

掘り方



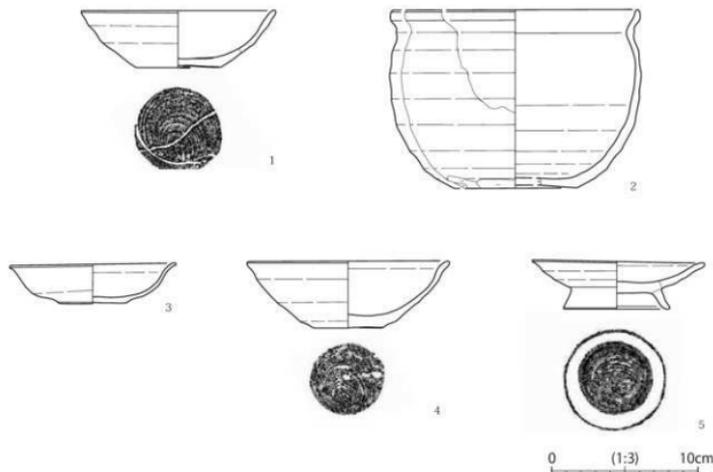
遺構名	カタド	平面形	方位	長軸×短軸×深さ (m)			
				遺構	土層	範囲	
S2	瓦葺	長方形	N 2° E	5.92 × 4.56 × 0.12			
P 遺り	平造り	楕圓形	長軸×短軸×深さ (m)	焼土遺り	平造り	楕圓形	
P1	竪穴	U字形	0.27 × 0.24 × 0.24	焼土 1	平造り	楕圓形	長軸×短軸×深さ (m)
P2	平造り	浅い楕圓形	0.26 × 0.23 × 0.06	焼土 2	平造り	浅い楕圓形	0.52 × 0.45 × 0.02
P3	竪穴	逆U字形	0.15 × 0.17 × 0.12	焼土 3	平造り	浅い楕圓形	2.02 × 0.78 × 0.37
P4	平造り	U字形	0.44 × 0.37 × 0.32	焼土 5	平造り	浅い楕圓形	0.55 × 0.28 × 0.10
P5	竪穴	U字形	0.26 × 0.23 × 0.18	焼土 6	P形	-	0.19 × 0.18 × -
P6	平造り	U字形	0.19 × 0.18 × 0.17	-	-	-	-
SK 遺り	平造り	楕圓形	長軸×短軸×深さ (m)	-	-	-	-
SK1	竪穴	長方形	U字形	0.75 × 0.57 × 0.30	-	-	-
SK2 1	平造り	楕圓形	0.63 × 0.56 × 0.09	-	-	-	-
SK2 2	平造り	逆U字形	0.77 × 0.64 × 0.28	-	-	-	-

第 42 図 S12 竪穴遺構平面図 (2)・断面図

# 第1節 鍛冶屋敷A遺跡

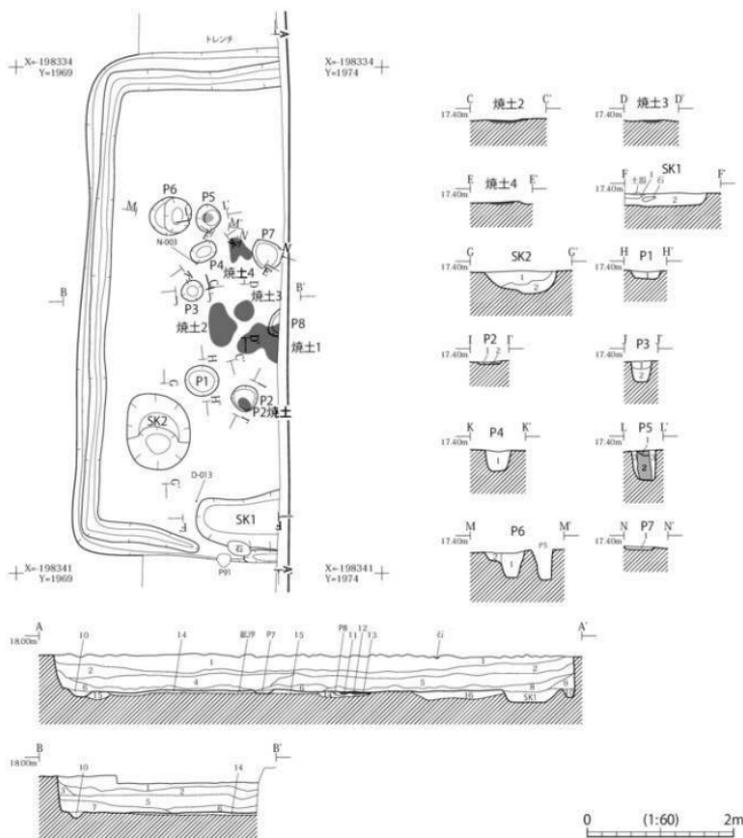
SI2 竪穴遺構 - 坪面図・断面土層記号表

遺構名	層位	土色	特徴	遺構名	層位	土色	特徴	
SI2	1	10YR4/3に濃い黄褐色	砂質シルト	SK1・ 層土1	2	10YR5/4に濃い黄褐色	砂	
	2	10YR5/4に濃い黄褐色	砂質シルト		3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 10 ~ 20mm の褐色砂質シルトブロックを多量に、径 5mm の炭化物を少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト		4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径 5mm の炭化物を少量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト		5	5YR3/3 暗赤褐色	シルト	塊状。
	5	10YR5/4に濃い黄褐色	砂質シルト		6	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	
	6	10YR7/6 暗紫褐色	砂質シルト		7	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	
	7	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト		SK2.1	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト
F1	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	SK2.2	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 10 ~ 20mm の褐色砂質シルトブロックを多量に、径 10mm の炭化物を少量含む。
	2	5YR3/3 暗赤褐色	塊土		3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	径 5mm の炭化物を少量含む。
F2 (多層)	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	層土2	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径 5 ~ 10mm の炭化物を少量含む。
	2	5YR3/4 暗赤褐色	塊土		1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径 5mm の塊状・炭化物を少量含む。
F3	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	層土3	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径 10 ~ 20mm の褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	2	5YR3/3 暗赤褐色	塊土		3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径 10mm の褐色砂質シルトブロックを少量含む。
F4	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	層土3	4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	径 5mm の炭化物・径 20mm の塊状ブロックを少量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト		5	10YR4/3に濃い黄褐色	砂質シルト	径 5mm の炭化物を少量含む。
F5	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	層土3	6	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径 5 ~ 10mm の炭化物を少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト		7	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	径 5mm の炭化物を少量含む。
SK1・ 層土1	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	層土5	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	径 5mm の塊状を少量含む。



No.	登録番号	遺構名	層位	種類	形状	1径×底径×高さ(mm)	外面装飾	内面装飾	備考	写真図号
1	D-005	SI2 層土3	5	土師器	杯	13.1 × 5.9 × 3.9	ロケ以装飾 底縁部のみ切り		内外面紫褐色・黄褐色、底縁部により内面の紫褐色が薄く、へらミが若干ある。底縁部は、磨り付。	3.9
2	D-007	SI2 層土3	5	土師器	盃	(16.7) × (8.4) × 12.3	ロケ以装飾 底縁下部、へらミあり		紫褐色。	4.1
3	D-003	SI2	灰黄土層	杯	11.4 × 4.7 × 2.8		ロケ以装飾 底縁部のみ切り		ロケ以装飾	4.2
4	D-004	SI2 層土3	5	赤褐色土層	杯	(13.8) × 4.9 × 4.6	ロケ以装飾 底縁部のみ切り		内面紫褐色。	4.3
5	D-006	SI2 層土1	3	赤褐色土層	高付付	11.8 × 7.0 × 3.4	ロケ以装飾 底縁部のみ切り→高付付		ロケ以装飾	4.4

第43図 SI2 竪穴遺構出土遺物



遺構名	カマド	平面形	方位	尺数・距離・深さ (m)			
S14	なし	隅丸長方形	N 2° E	7.10 × (2.72) × 0.50			
P番号	平面形	断面形	尺数・距離・深さ (m)	P + SK番号	平面形	断面形	尺数・距離・深さ (m)
P1	P形	逆T形	0.46 × 0.43 × 0.11	P6	半円	逆T形	0.38 × 0.34 × 0.07
P5	半円形	U字形	0.36 × 0.34 × 0.02	SK1	隅丸長方形	U字形	0.125 × 0.75 × 0.17
P6	半円形	U字形	0.58 × 0.53 × 0.37	SK2	半楕円形	U字形	1.05 × 0.86 × 0.32
P7	半円形	逆T形	0.45 × 0.41 × 0.05				

第44図 S14 竪穴遺構平面図・断面図

# 第1節 観治屋敷A遺跡

S4 竪穴遺構・築造後部横断面図表

遺構名	層位	土色		備考	遺構名	層位	土色		備考
		上部	下部				上部	下部	
1	10YR4/3 灰・黄褐色	砂質シルト	径 50mm の硝子・炭化物を少量含む。	P1	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	径 10 ~ 20mm の黄褐色砂質シルトブロック・灰・炭褐色砂質シルトブロック・径 5mm の炭化物を少量含む。	
2	10YR3/3 黄褐色	砂質シルト	径 20mm の炭化物を少量含む。		1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	径 10 ~ 20mm の黄褐色砂質シルトブロック・径 5mm の炭化物を少量含む。	
3	10YR4/3 灰・黄褐色	砂質シルト	径 2 ~ 10mm の炭化物を少量含む。		P2	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	径 50mm の炭化物を少量含む。
4	10YR4/4 褐色	砂質シルト	硝子・径 50mm の炭化物を少量含む。	P2	2	5YR3/3 暗赤褐色	シルト	焼土。	
5	10YR4/4 褐色	砂質シルト	径 10 ~ 20mm の黄褐色砂質シルトブロック・径 5 ~ 10mm の硝子を多量に含む。	P3	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	径 10 ~ 20mm の黄褐色砂質シルトブロック・灰・炭褐色砂質シルトブロックを多量に含む。径 5mm の炭化物を少量含む。	
6	10YR4/4 褐色	砂質シルト	径 50mm の硝子・炭化物を少量含む。		2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	径 50mm の硝子を少量含む。	
7	10YR4/4 褐色	砂質シルト	径 10 ~ 50mm の黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。	P4	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	径 50mm の硝子を少量含む。	
8	10YR3/3 黄褐色	砂質シルト	径 5 ~ 10mm の炭化物を少量含む。	P4	1	10YR5/1 灰褐色	粘土質シルト	焼土(柱礎)。	
9	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	径 10mm の灰・黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。	P5	2	10YR3/2 黄褐色	粘土質シルト	径 10mm の炭褐色粘土ブロックを多量に含む。	
10	10YR4/4 褐色	砂質シルト	径 50mm の炭化物を少量含む。		3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	径 50mm の炭化物を少量含む。	
11	5YR5/6 明赤褐色	シルト	焼土。	P6	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	径 50mm の炭化物を少量含む。	
12	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	径 5 ~ 10mm の硝子ブロック・炭化物を少量含む。		2	10YR4/6 褐色	砂質シルト	径 50mm の炭化物を少量含む。	
13	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	径 5 ~ 10mm の硝子ブロック・炭化物を多量に含む。	P7	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	径 10 ~ 20mm の黄褐色砂質シルトブロックを多量に含む。径 5mm の炭化物を少量含む。	
14	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	径 5 ~ 10mm の硝子ブロック・炭化物を多量、灰を少量含む。		1	10YR3/3 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトを多量、径 50mm の硝子を少量含む。	
15	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトを多量に含む。	SK1	2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルト・径 50mm の炭化物・焼土を少量含む。	
16	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	硝子を多量、径 50mm の炭化物を少量含む。		1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	径 20mm の黄褐色砂質シルトブロック・径 50mm の炭化物・焼土を少量含む。	
				SK2	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	径 10mm の黄褐色砂質シルトブロックを多量、径 50mm の炭化物を少量含む。	



№	登録番号	遺構名	層位	種類	形状	土厚・底径・高さ (cm)	外周調整	内周調整	備考	写真掲載
1	D-013	S4	I	土師器	杯	(口径) 6.3 × 4.8	口縁調整 底調整, 底切り	ヘラミダホ・黒色陶質	内面彩色増大土器丸。	4.5
2	D-012	S4	I	土師器	杯	15.0 × 5.2 × 5.4	口縁調整 底調整, 底切り	ヘラミダホ・黒色陶質		4.6
№	登録番号	遺構名	層位	種類	形状	長さ・幅・厚さ (mm)	重さ (g)	備考	写真掲載	
3	S-003	S4	I	金銅器	刀子	21.0 × 1.6 × 0.8	17.25	刃部 5.5cm 幅部 3.0cm		4.7
№	登録番号	遺構名	層位	種類	形状	長さ・幅・厚さ (mm)	重さ (g)	備考	写真掲載	
4	P-001	S4	埋土	土師器	土師	3.7 × 1.6 × 0.6	7.16	外面・ナデ		4.8

第45図 S4 竪穴遺構出土遺物

長軸方向はN-2°-Eである。規模は長軸131cm、短軸117cm、深さ21cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形はU字形で、底面は起伏する。堆積土は5層に分層された。1層は炭化物を多量に含み、4・5層は焼土である。遺物は土師器片、須恵器片、礫、炭化物が出土しているが、図示できる遺物はない。

S4土坑(第46図)調査区中央やや南東側で検出した。SK5・11と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形円形で、長軸方向はN-48°-Eである。規模は長軸224cm、短軸204cm、深さ70cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形はU字形で、底面は丸みを持つ。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK5土坑(第46図)調査区中央やや南東側で検出した。SK4・6と重複関係にあり、SK6より新しく、SK4より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-26°-Eである。規模は長軸188cm、短軸137cm、深さ67cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は起伏する。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK6 土坑 (第 46 図) 調査区中央や南東側で検出した。SK5 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形円形で、長軸方向は N-63°-W である。規模は長軸 120cm、短軸 97cm、深さ 64cm である。壁面は、直線的に外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK7 土坑 (第 46 図) 調査区南東側で検出した。東側の大部分が調査区外へ延びるため平面形は不明である。検出した規模は南北 64cm、東西 18cm、深さ 22cm である。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。断面形は U 字形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK8 土坑 (第 46 図) 調査区南東側で検出した。平面形は不整形円形で、長軸方向は N-34°-E である。規模は長軸 74cm、短軸 68cm、深さ 19cm である。壁面は、直線的に外傾して立ち上がる。断面形は U 字形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK9 土坑 (第 47 図) 調査区南東側で検出した。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-73°-E である。規模は長軸 97cm、短軸 67cm、深さ 10cm である。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK10 土坑 (第 47・48 図、図版 4) 調査区南東側で検出した。平面形は不整形円形で、長軸方向は N-4°-E である。規模は長軸 141cm、短軸 100cm、深さ 44cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は U 字形で、底面は丸みを持つ。堆積土は 3 層に分層された。遺物は土師器片、須恵器片、石製品、金属製品が出土している。そのうち堆積土から出土した鉄鏃 1 点 (第 48 図 1) を図示した。

SK11 土坑 (第 47 図) 調査区中央や東側で検出した。SK4 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形と考えられ、長軸方向は N-73°-E である。規模は長軸 88cm、短軸 104cm、深さ 50cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層された。遺物は出土していない。

SK12 土坑 (第 47 図) 調査区中央や南東側で検出した。平面形は楕円形で、長軸方向は N-87°-W である。規模は長軸 160cm、短軸 107cm、深さ 76cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。遺構南東部は段を有す。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は 3 層に分層された。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK13 土坑 (第 47 図) 調査区中央で検出した。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-85°-W である。規模は長軸 193cm、短軸 144cm、深さ 33cm である。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は平坦である。堆積土は 4 層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

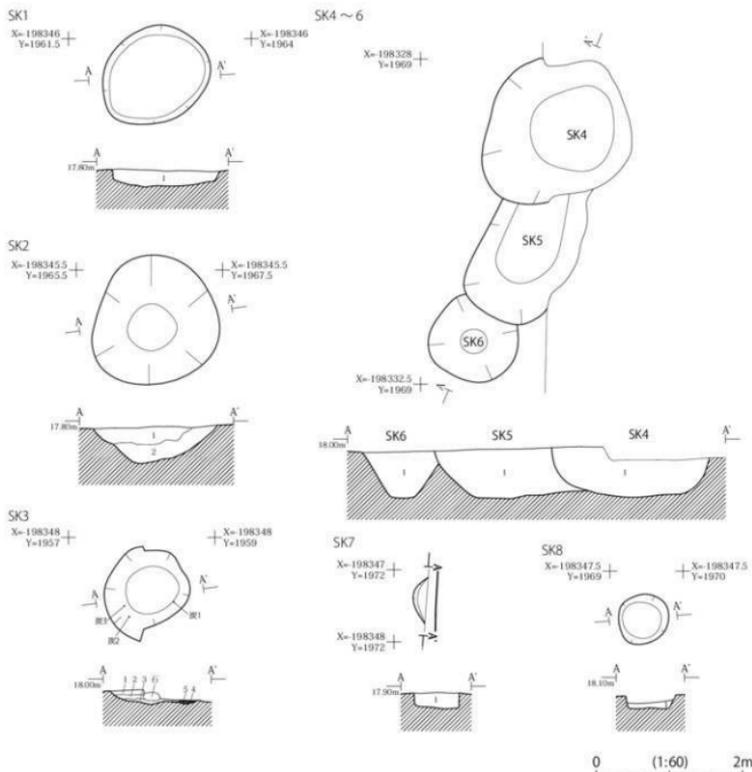
SK14 土坑 (第 49 図) 調査区北東側で検出した。平面形は楕円形で、長軸方向は N-57°-W である。規模は長軸 96cm、短軸 78cm、深さ 8cm である。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は浅い皿形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK17 土坑 (第 49 図) 調査区南東側で検出した。東側の大部分が調査区外へ延びる。平面形は不明で、長軸方向は N-1°-W である。規模は長軸 152cm、短軸 23cm、深さ 20cm である。壁面は、直線的に外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は起伏する。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片、石製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

#### 4) 河川跡

SRI 河川跡 (第 32・50 図) 調査区北側で検出した。東西方向に延びる河川跡で、両端は調査区外へ延びる。P53 と重複関係にあり、本遺構が古い。トレンチを設定して調査を行い、80cm 程掘り下げているが、完掘には至っていない。方向は N-80°-W で、規模は長さ 12.21m、幅 286cm である。遺物は出土していない。

第1節 殿治屋敷A遺跡

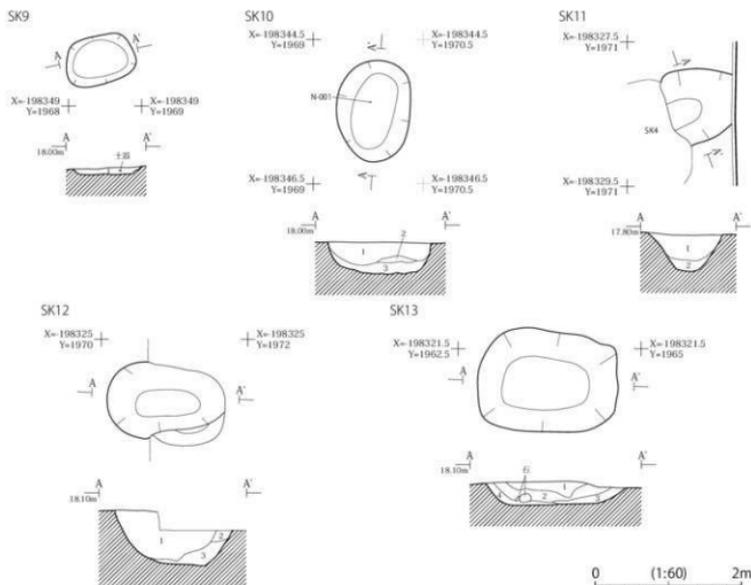


遺跡名	平面形	断面形	方位	径幅×距離・深さ(m)	遺跡名	平面形	断面形	方位	径幅×距離・深さ(m)
SK1	不整形円形	逆円形	N 56° E	1.56 × 1.29 × 0.24	SK5	楕円長方形	逆円形	N 26° E	(1.80 × 1.21) × 0.67
SK2	不整形円形	楕形	N 1° E	1.79 × 1.76 × 0.49	SK6	不整形円形	逆円形	N 63° W	1.20 × (0.97) × 0.64
SK3	不整形円形	U字形	N 2° E	1.31 × 1.17 × 0.21	SK7	不明	U字形		(0.64 × 0.18) × 0.22
SK4	不整形円形	U字形	N 48° E	(2.24) × (2.04) × 0.70	SK8	不整形円形	U字形	N 34° E	0.74 × 0.68 × 0.19

遺跡名	層位	土色	土質	備考	遺跡名	層位	土色	土質	備考
SK1	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	径 50mm の褐色砂質シルトブロックを多数、径 15 ~ 20mm の褐色シルトブロックを少量含む。	SK4	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	径 1 ~ 2mm の褐色砂質シルトを少量、褐色土を多数含む。
	2	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	径 10mm の褐色砂質シルトブロック・褐色土を少量含む。	SK5	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	径 1 ~ 5mm の褐色シルトブロック・径 10 ~ 50mm の褐色砂質シルトブロック・褐色土を多数含む。
SK2	1	10YR5/3 暗褐色	粘土質シルト	径 5 ~ 10mm の褐色砂質シルトブロック・褐色土を少量含む。	SK6	1	10YR3/4 に黄・黄褐色	砂質シルト	径 10 ~ 50mm の褐色砂質シルトブロックを多数含む。
	2	10YR5/3 暗褐色	粘土質シルト	径 50 ~ 60mm の褐色褐色砂質シルトブロック・径 10 ~ 20mm の褐色土を少量含む。	SK7	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	径 5 ~ 10mm の褐色土を少量含む。
SK3	3	10YR2/1 黒色	シルト	灰土層	SK8	1	10YR3/2 黄褐色	シルト	褐色砂質シルトを少量、径 5 ~ 10mm の褐色土を少量含む。
	4	5YR3/6 暗赤褐色	シルト	焼土					
	5	5YR3/6 暗赤褐色	シルト	焼土					

第 46 図 SK1 ~ 8 土坑平面図・断面図



遺構名	平面形	断面形	方位	径輪×短輪×深さ(m)	遺構名	平面形	断面形	方位	径輪×短輪×深さ(m)
SK9	楕円長方形	遊形形	N 72° E	0.07 × 0.07 × 0.10	SK12	楕円形	遊形形	N 87° W	0.03 × 1.07 × 0.70
SK10	円形楕円形	U字形	N 4° E	1.41 × 1.00 × 0.44	SK13	楕円長方形	遊形形	N 85° W	1.93 × 1.44 × 0.33
SK11	楕円形	遊形形	N 73° E	0.08 × 1.04 × 0.30					

遺構名	階位	土色	土質	備考	遺構名	階位	土色	土質	備考
SK9	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色砂質シルトを少量、径2～10mmの腐化物を少量含む。	SK12	1	10YR6/2 灰黒褐色	砂質シルト	径30～50mmの褐色砂質シルトブロック・径50～60mmの褐色砂質シルトブロックを多数に含む。
	2	10YR3/3 黒褐色	砂質シルト	径1～10mmの腐化物を少量含む。		2	10YR5/2 灰黒褐色	砂質シルト	径20mmの褐色砂質シルトブロックを多数に含む。
	3	10YR4/2 灰黒褐色	砂質シルト	径20～50mmの褐色砂質シルトブロックを多数に含む。		3	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径50～100mmの褐色砂質シルトブロックを多数に含む。
SK10	1	10YR6/2 灰黒褐色	砂質シルト	径30～50mmの褐色砂質シルトブロックを少量、径5mmの礫土を少量含む。	SK13	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径20～40mmの濃い黄褐色砂質シルトブロックを少量、径5mmの礫土を少量含む。
	2	10YR5/2 灰黒褐色	砂質シルト	径30mmの褐色砂質シルトブロックを少量含む。		2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径5～10mmの濃い黄褐色砂質シルトブロック・径5～10mmの礫土・腐化物を多数に含む。
SK11	1	10YR6/2 灰黒褐色	砂質シルト			3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径5～10mmの濃い黄褐色砂質シルトブロックを多数に含む。
	2	10YR5/2 灰黒褐色	砂質シルト			4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径5～10mmの濃い黄褐色砂質シルトブロックを多数に含む。

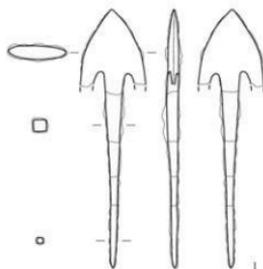
第47図 SK9～13土坑平面図・断面図

## 5) 小溝状遺構群

溝跡を12条検出した。検出状況等から、SD1～4をI群、SD5をII群、SD7・8をIII群、SD10～12をIV群、SD13をV群、SD14をVI群とし、6群に大別した。また、重複関係から、III群→IV群の変遷がたどれる。

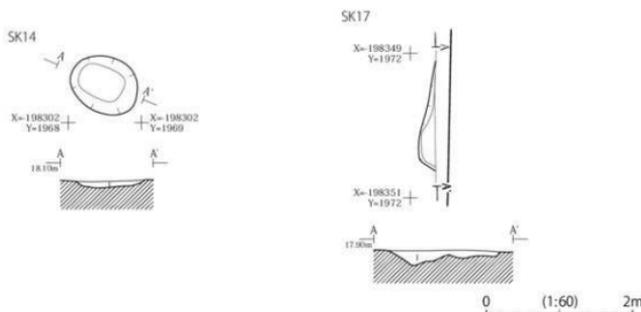
I群(第32・51図)調査区南側で検出した。東西方向の小溝状遺構群で、4条の小溝で構成される。方向はSD1がN-88°-W、SD2がN-90°、SD3・4がN-87°-Eである。規模は長さ6.32～8.38m、幅16～21cm、深さ

第1節 鍛冶屋敷A遺跡



No.	遺物番号	遺物名	単位	種類	図寸・実寸・長さ (cm)	重量 (g)	備考	写真掲載
1	N-001	SK10	1	多角銅貨	直径	17.9 × 4.5 × 1.3	37.84	4-9

第48図 SK10土坑出土遺物



遺物名	平面図	断面図	方位	図寸・実寸・長さ (m)	遺物名	平面図	断面図	方位	図寸・実寸・長さ (m)
SK14	楕円形	浅い楕円	N 57° W	0.99 × 0.78 × 0.08	SK17	楕円	楕円	N 4° W	(1.52 × 0.23) × 0.20

遺物名	単位	土質	土質	備考	遺物名	単位	土質	土質	備考
SK14	1	10VX5/9 黄褐色	砂質シルト	径 30mm の黒褐色砂質シルトブロックを多数、径 5mm の腐化物を少量含む。	SK17	1	10VX2/2 黒褐色	シルト	径 30 ~ 50mm の黒褐色砂質シルトブロック・径 2 ~ 10mm の腐化物を径 5mm の塊土を少量含む。

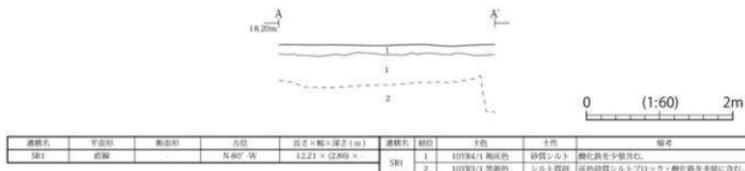
第49図 SK14・17土坑平面図・断面図

5 ~ 9cmである。小溝の間隔は 31 ~ 42cmである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

II群 (第32・51図) 調査区北東側で検出した。東西方向の小溝である。方向はN-86°-Eで、規模は長さ251cm、幅35cm、深さ7cmである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

III群 (第32・51図) 調査区南側で検出した。南北方向の1列の小溝である。小溝状遺構群IV群SD10と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向はN-21°-59°-Wで、規模は長さ343cm、幅16 ~ 18cm、深さ4 ~ 7cmである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

IV群 (第32・51図) 調査区南側で検出した。南北方向の3条からなる小溝状遺構群である。SI2、小溝状遺構群III群SD8と重複関係にあり、SI2より新しく、小溝状遺構群III群SD8より古い。方向はN-5°-8°-Eで、規模は長



第50図 SR1河川跡断面図

さ246～333cm、幅27～29cm、深さ6～8cmである。小溝の間隔は119～165cmである。堆積土は単層である。遺物は土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

V群(第32・51図)調査区南側で検出した。南北方向の溝跡である。方向はN-56°-Eで、規模は長さ296cm、幅14cm、深さ5cmである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

VI群(第32・51図)調査区南側で検出した。南北方向の溝跡で、南端は調査区外へ延びる。方向はN-9°-Wで、規模は長さ228cm、幅14cm、深さ6cmである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

#### 6) ビット(第32図)

92基のビットを検出した。調査区中央と調査区南側に多く分布する。堆積土中より土師器片、赤焼土器片、石器が出土しているが、図示できる遺物はない。

#### (2) 遺構外出土遺物

土師器片、須恵器片、陶磁器片、石製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

### 3. まとめ

鍛冶屋敷A遺跡は仙台市太白区富田字舞台・京ノ南にあり、自然堤防上に立地する縄文時代と古代以降の遺跡である。平成25年度にI区260m<sup>2</sup>、平成26年度にII区1005m<sup>2</sup>の調査が行われ、古代以降の遺構群が検出された。

#### (1) 遺構について

1) 古代以降の遺構は基本層Ⅲ層上面で検出された。

I区—竪穴住居跡1軒、竪穴遺構1基、溝跡1条、小溝状遺構群1群、性格不明遺構1基、

円形周溝状遺構1基、ビット19基

II区—竪穴住居跡3軒、竪穴遺構2基、土坑15基、小溝状遺構群6群、ビット92基

2) I区のSI1は東壁にカマドが付設されている。出土遺物から、9世紀代の竪穴住居跡と考えられる。SI2は、出土遺物から10世紀前半以降に埋没した竪穴遺構と考えられる。またI区では円形周溝状遺構を検出したが、遺物が出土していないため遺構の年代は不明である。

3) II区のSI1は南壁、SI3・5は東壁にカマドが付設されている。SI2は地床炉と焼土範囲6ヶ所を検出し、鉈滓が出土していることから、鍛冶関連遺構と考えられる。SI3は南側の床面直上で多量の炭化材が検出されており、床面に被熱した部分がみられることから、火災にあった可能性がある。いずれも、出土遺物から10世紀前半頃の遺構と考えられる。

4) I・II区いずれも小溝状遺構群が検出されており、調査区周辺には畑が広がっていたと考えられる。

#### (2) 遺物について

出土遺物は平箱4箱である。

## 第1節 観測屋敷A遺跡

### I群

SD1



遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)	遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)
SD1	竪線	U字形	N 88° W	3.03 × 0.21 × 0.09	SD3	竪線	U字形	N 87° E	1.50 × 0.16 × 0.05
SD2	竪線	竪形	N 90°	2.58 × 0.20 × 0.05	SD4	竪線	逆T形	N 87° E	2.16 × 0.18 × 0.08

遺構名	層位	土色	土質	備考	遺構名	層位	土色	土質	備考
SD1	1	10YR4/2 灰褐色	シルト	径 10mm の陶瓦色砂質シルトブロック + 径 2mm の白く炭黒色砂質シルトを少量含む。	SD3	1	10YR4/2 灰褐色	シルト	径 10mm の陶瓦色砂質シルトブロック + 径 2mm の白く炭黒色砂質シルトを少量含む。
SD2	1	10YR4/2 灰褐色	シルト	径 10mm の陶瓦色砂質シルトブロック + 径 2mm の白く炭黒色砂質シルトを少量含む。	SD4	1	10YR4/2 灰褐色	シルト	径 10mm の陶瓦色砂質シルトブロック + 径 2mm の白く炭黒色砂質シルトを少量含む。

### II群

SD5



遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)	遺構名	層位	土色	土質	備考
SD5	竪線	浅い逆T形	N 86° E	2.51 × 0.35 × 0.07	SD5	1	10YR3/4 白く炭黒色	砂質シルト	径 30 ~ 100mm の紫褐色砂質シルトブロックを多数含む。

### III群

SD7



遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)	遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)
SD7	竪線	U字形	N 59° W	1.32 × 0.18 × 0.07	SD8	竪線	逆T形	N 21° W	1.08 × 0.18 × 0.04

遺構名	層位	土色	土質	備考	遺構名	層位	土色	土質	備考
SD7	1	10YR4/2 灰褐色	シルト	径 1 ~ 2mm の陶瓦色シルトを少量含む。	SD8	1	10YR4/2 灰褐色	シルト	径 1 ~ 2mm の陶瓦色シルトを少量含む。

### IV群

SD10 ~ 12



遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)	遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)
SD10	竪線	逆T形	N 8° E	2.53 × 0.29 × 0.08	SD12	竪線	竪形	N 7° E	2.46 × 0.27 × 0.06
SD11	竪線	竪形	N 5° E	3.30 × 0.28 × 0.07					

遺構名	層位	土色	土質	備考	遺構名	層位	土色	土質	備考
SD10	1	10YR4/2 灰褐色	シルト	径 5 ~ 10mm の陶瓦色砂質シルトブロック + 径 1mm の陶瓦色シルトを少量含む。	SD11	1	10YR4/2 灰褐色	シルト	径 1 ~ 3mm の陶瓦物を数個含む。
					SD12	1	10YR4/3 白く炭黒色	シルト	径 5mm の炭化物を数個含む。

### V群

SD13



遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)	遺構名	層位	土色	土質	備考
SD13	竪線	U字形	N 96° E	2.96 × 0.14 × 0.05	SD13	1	10YR4/2 灰褐色	シルト	径 1 ~ 2mm の陶瓦色シルトを少量含む。

### VI群

SD14



遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)	遺構名	層位	土色	土質	備考
SD14	竪線	U字形	N 9° W	0.28 × 0.14 × 0.05	SD14	1	10YR4/2 灰褐色	シルト	径 1 ~ 2mm の陶瓦色シルトを少量含む。

第 51 図 小溝状遺構群 I ~ VI 群断面図

## 1) 縄文時代

1区では、遺構外から縄文時代後期の土器片が少量出土しているが細片のため、図示していない。

## 2) 古代以降

## ① Ⅰ区

Ⅰ区では、基本層Ⅲ層上面で検出された遺構及び遺構外から土師器片、赤焼土器、須恵器、陶磁器片、石製品、金属製品、礫が出土している。

SI1 竪穴住居跡のカマド袖から赤焼土器環、床面直上から須恵器環が出土している。これらは9世紀代の遺物と考えられる。その他に、住居跡中央やや西側の床面直上から、文字が刻まれた刻書砥石が出土している。法量は長さ15cm、幅5cm、厚さ3.8cmである。石材は凝灰岩を使用している。形状は四角柱状で、4面のうち3面に文字が刻まれており、文字が刻まれていない残りの1面は研磨のため大きく凹面状を呈する。また、刻書に浅い部分があることから、文字が刻まれた後にも砥石として使用されたと考えられる。刻書の釈文及び内容等の詳細について、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館 三上喜孝教授より玉稿を賜り、「第7章総括第1節2項古代の遺物(2)石製品」に掲載した。

SI2 竪穴遺構の堆積土から土師器環が出土している。10世紀前半以降の遺物と考えられる。その他に、床面直上から鉄鏝が出土している。

## ② Ⅱ区

Ⅱ区では、基本層Ⅲ層上面で検出された遺構及び遺構外から土師器、赤焼土器、須恵器、陶磁器片、金属製品、礫が出土している。

SI1 竪穴住居跡のP7堆積土から赤焼土器環が出土している。10世紀前半頃の遺物と考えられる。

SI2 竪穴遺構の床面直上から赤焼土器環、焼土1堆積土から赤焼土器高台付皿、焼土4堆積土から土師器環、土師器裏、赤焼土器環が出土している。10世紀前半頃の遺物と考えられる。

SI3 竪穴住居跡のカマド燃焼部から土師器裏、赤焼土器環、掘り方埋土から赤焼土器高台付環が出土している。10世紀前半頃の遺物と考えられる。

SI4 竪穴遺構のSK1埋土から赤焼土器片が出土している。10世紀前半以降の遺物と考えられる。

SI5 竪穴住居跡の住居内堆積土から須恵器環、赤焼土器片が出土している。10世紀前半以降の遺物と考えられる。



## 鍛冶屋敷 A 遺跡写真図版





I区調査区全景(北から)



I区S11全景(西から)



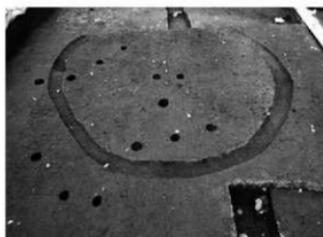
I区S11遺物(E-001)出土状況(南から)



I区S11遺物(E-008)



I区S11遺物(刻書砥石)出土状況(南から)



I区内形周溝状遺構全景(南から)



II区調査区全景(北から)



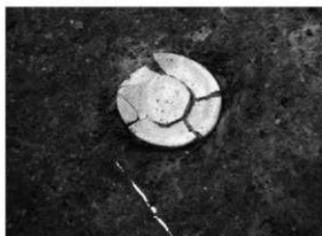
II区S12全景(南から)

写真図版1 鍛冶屋敷A遺跡(1)

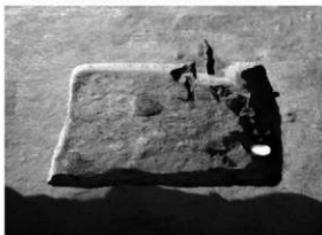
第1節 鍛冶屋敷A遺跡



II区 S12 焼土 2 遺物 (D-003) 出土状況 (西から)



II区 S12 焼土 1 遺物 (D-006) 出土状況 (南から)



II区 S13 炭化材検出状況 (西から)



II区 S13 カマド遺物出土状況 (西から)



II区 S14 全景 (西から)



II区 S14 遺物 (D-012) 出土状況 (東から)

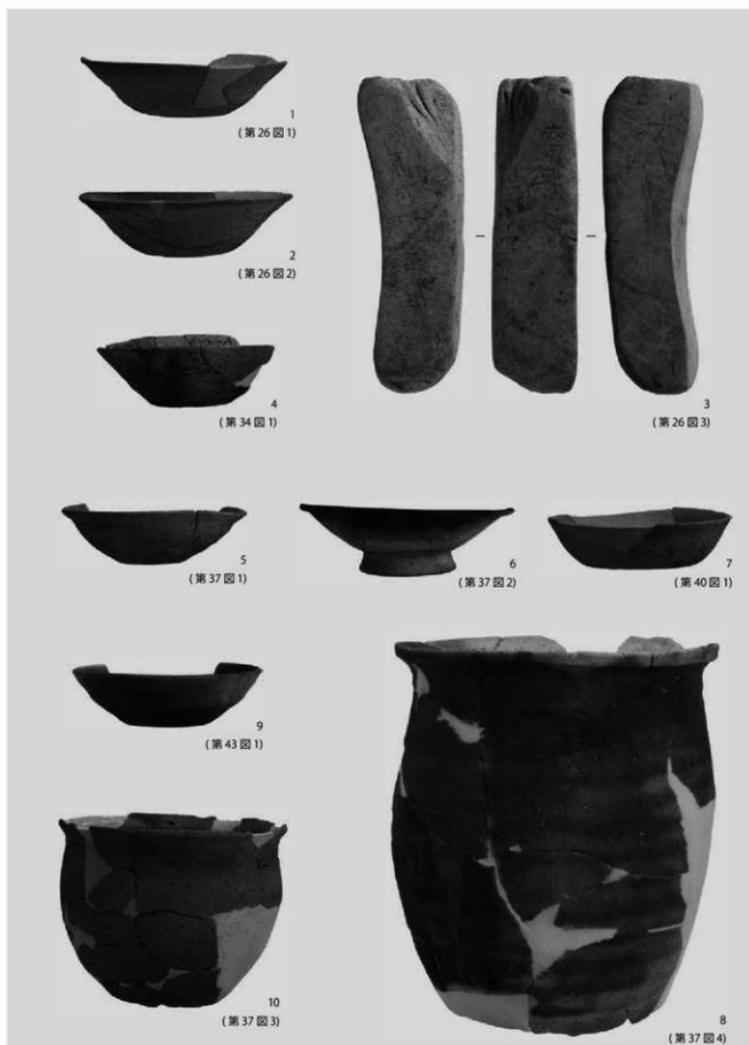


II区 S14 遺物 (N-003) 出土状況 (北から)

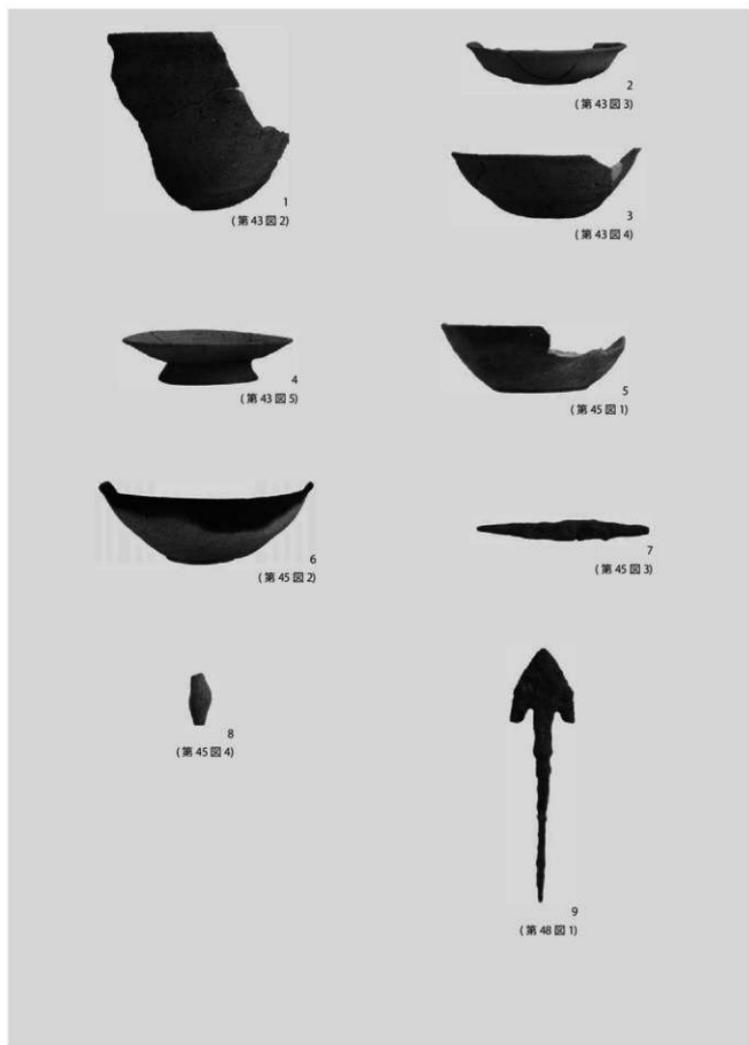


II区 S15 全景 (西から)

写真図版2 鍛冶屋敷A遺跡(2)



写真図版3 鍛冶屋敷A遺跡出土遺物(1)



写真図版4 鍛冶屋敷A遺跡出土遺物(2)

## 第2節 鍛冶屋敷B遺跡

### 1. I区の調査(付図2)

I区では、基本層Ⅲ層上面(古代以降の遺構検出面)において、土坑32基、溝跡5条、小溝状遺構群1群、ピット45基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なもの確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

### (I) Ⅲ層検出遺構と出土遺物(第52～62図、図版1)

#### 1) 土坑

SK1土坑(第53図)調査区北東隅で検出した。北側及び東側は調査区外へ延びる。SK32・33、P38・40・45と重複関係にあり、SK32・33より新しく、P38・40・45より古い。平面形は不整形円形と考えられる。規模は長軸218cm、短軸174cm、深さ79cmである。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は丸みを持つ。堆積土は7層に分層された。堆積土中より土師器片、骨片、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK2土坑(第53図)調査区北東隅で検出した。東側は調査区外へ延びるが、平面形は楕円形と考えられる。規模は東西68cm以上、南北114cm、深さ64cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形はU字形で、底面は起伏する。堆積土は4層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片、金属製品、骨片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK3土坑(第53図)調査区南東隅で検出した。SK29、P35と重複関係にあり、SK29より新しく、P35より古い。平面形は不整形円形で、西側が円形の土坑状に深く下がっている。長軸方向はN-80°-Eである。規模は長軸134cm、短軸64cm、深さ東壁側で59cm、西壁側で32cmである。壁面は、東壁はほぼ垂直に立ち上がり、上位は外傾する。西壁は直線的に外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は5層に分層された。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK4土坑(第53図)調査区東側で検出した。SK5と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形円形で、長軸方向はN-23°-Eである。規模は長軸178cm以上、短軸143cm、深さ60cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形はU字形で、底面はやや起伏し、底面中央付近はピット状に落ち込む。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

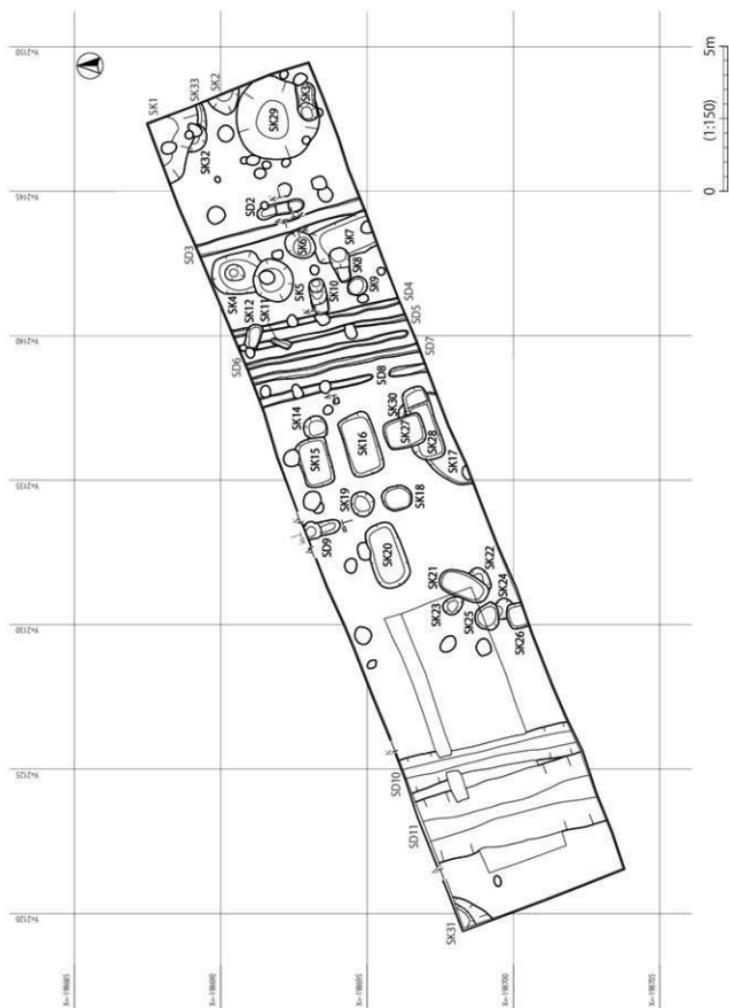
SK5土坑(第54図)調査区東側で検出した。SK4、P23と重複関係にあり、SK4より新しく、P23より古い。平面形は円形に近く、長軸方向はN-65°-Eである。規模は長軸155cm、短軸135cm、深さ52cmである。壁面は、内反して立ち上がる。断面形はU字形で、底面は丸みがありやや起伏する。堆積土は4層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK6土坑(第54・55図、図版1)調査区東側で検出した。SK7と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形円形で、長軸方向はN-22°-Eである。規模は長軸110cm、短軸88cm、深さ21cmである。壁面は、直線的に外傾して立ち上がり、東壁は中位で大きく外傾する。断面形は逆台形で、底面はやや起伏する。堆積土は2層に分層された。遺物は砥石、金属製品が出土しており、砥石1点(第55図1)を図示した。

SK7土坑(第54図)調査区東側で検出した。SK6・8、SD3、P40と重複関係にあり、SD3より新しく、SK6・8、P40より古い。南側は調査区外へ延びる。平面形は長方形と考えられ、長軸方向はN-20°-Wである。規模は長軸207cm、短軸133cm、深さ32cmである。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は平坦である。堆積土は2層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

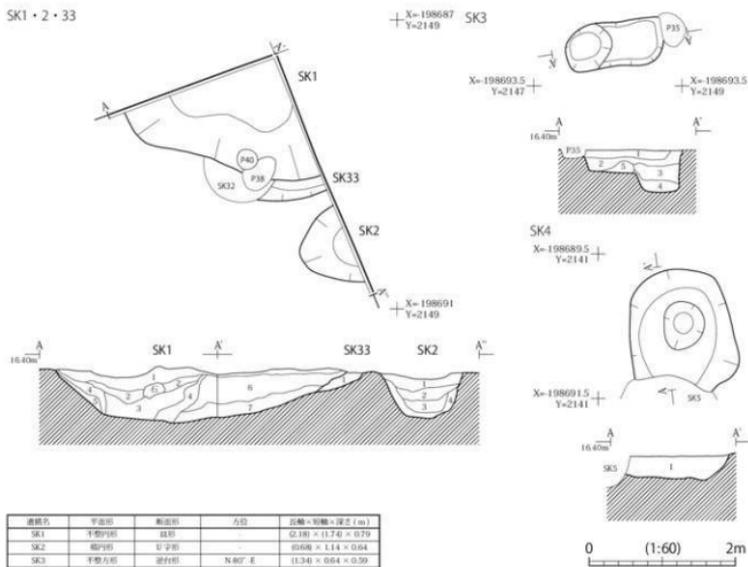
SK8土坑(第54図)調査区東側で検出した。SK7と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形円形で、

第 2 節 殿治屋敷 B 遺跡



第 52 図 殿治屋敷 B 遺跡 | 区画構成配置図

SK1・2・33



遺構名	平面形	断面形	方位	径軸・短軸・深さ (m)
SK1	半楕円形	楕円	-	径130 × 114 × 0.70
SK2	楕円形	U字形	-	径68 × 1.74 × 0.64
SK3	半楕円形	逆台形	N40°E	(1.34 × 0.64 × 0.50)
SK4	半楕円形	U字形	N23°E	(1.78 × 1.43 × 0.60)
SK33	半楕円	楕円	-	径78 × 61.25 × 0.28

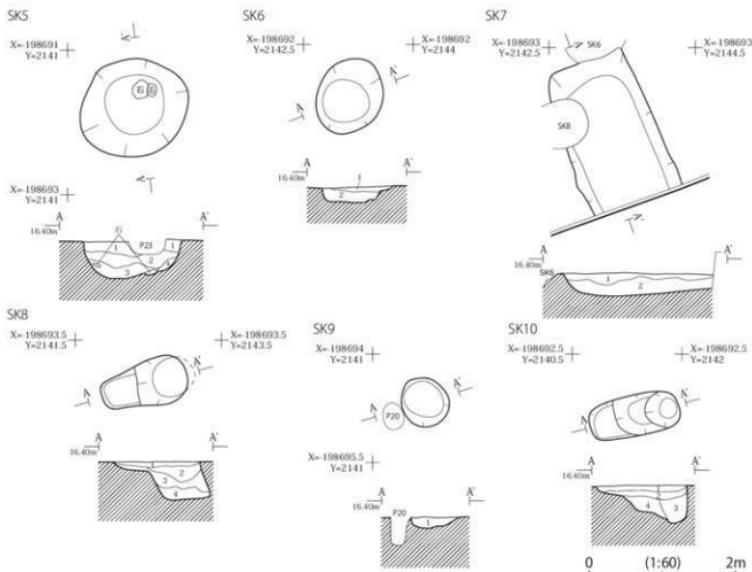
遺構名	層位	土色	性状	備考	遺構名	層位	土色	性状	備考
SK1	1	10YR3/4 相褐色	シルト	径5～10mmの灰黄褐色シルトブロックを多量に含む。	SK2	3	10YR3/4 相褐色	シルト	径10～30mmの焼土を多量、径2～3mmの炭化物を少量、径1～2mmの灰化物を少量含む。
	2	10YR3/4 相褐色	シルト	径10～20mmの灰黄褐色シルトブロックを多量、径5～10mmの焼土・径1～2mmの炭化物・径1～2mmの灰化物を少量含む。		4	10YR3/3 相褐色	砂質シルト	径5～10mmの灰黄褐色シルト・径5～20mmの焼土を少量、径1～10mmの炭化物を少量含む。
	3	10YR3/4 相褐色	シルト	焼土を多量、径2～3mmの炭化物を少量、径1～2mmの灰化物を少量含む。	1	10YR3/4 相褐色	シルト	径5～20mmの炭化除去ブロックを少量含む。	
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	径5～20mmの褐色シルトブロックを多量、径5mmの炭化物を少量含む。	2	10YR3/3 相褐色	シルト	径5～10mmの炭化除去ブロックを少量、径1mmの炭化物を少量含む。	
	5	10YR4/3に(5)の混濁色	シルト	径5～20mmの褐色シルトブロックを多量、径5mmの炭化物を少量含む。	4	10YR3/3 相褐色	シルト	径5～20mmの褐色除去ブロックを多量、径1mmの炭化物を少量含む。	
	6	10YR3/3 相褐色	シルト	径5～30mmの灰黄褐色シルトブロックを多量に含む。	5	10YR4/4 褐色	砂	径5～50mmの褐色シルトブロックを多量に含む。	
SK2	1	10YR3/3 相褐色	シルト	径5～10mmの灰黄褐色シルトを少量、径1～3mmの炭化物を少量、径5mmの灰化物を少量含む。	SK4	1	10YR3/4 相褐色	砂質シルト	径2～10mmの褐色除去ブロック・径2～10mmの炭化物を少量、径2mmの焼土を少量含む。
	2	10YR3/4 相褐色	シルト	径10～20mmの灰黄褐色シルトを多量、径5～10mmの焼土・径1～2mmの炭化物・径1～2mmの灰化物を少量含む。	SK33	1	10YR4/4 褐色	シルト砂	径3～10mmの灰黄褐色シルトを多量、径1～2mmの炭化物を少量含む。

第53図 SK1～4・33土坑平面図・断面図

東側が土坑状に深く下がっている。長軸方向はN-73°Eである。規模は長軸120cm、短軸51cm、深さは東側で53cm、西側で11cmである。壁面は、東壁はオーバーハング状に立ち上がり、西壁は外傾して立ち上がり、中位に段を持っている。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は4層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK9土坑(第54図)調査区東側で検出した。平面形は不整形で、長軸方向はN-40°Wである。規模は長軸72cm、短軸62cm、深さ16cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は瓶形で、底面はやや丸みを持つ。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片、陶器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

## 第2節 殿治屋敷B遺跡



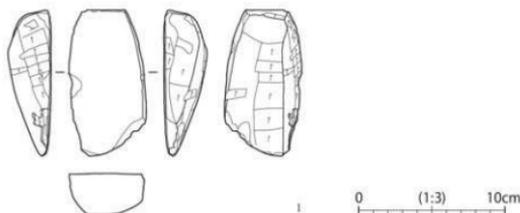
遺構名	平面形	断面形	方位	径軸・短軸・深さ (m)	遺構名	平面形	断面形	方位	径軸・短軸・深さ (m)
SK5	円形	円字形	N 63° E	1.55 × 1.35 × 0.52	SK8	半楕円形	楕円形	N 73° E	1.20 × 0.51 × 0.55
SK6	半楕円形	楕円形	N 22° E	1.10 × 0.88 × 0.21	SK9	円形	楕円形	N 40° W	0.72 × 0.62 × 0.18
SK7	長方形	楕円形	N 20° W	0.070 × 1.33 × 0.32	SK10	楕円長方形	楕円形	N 75° E	1.24 × 0.57 × 0.53

遺構名	層位	土色	土質	説明	遺構名	層位	土色	土質	説明
SK5	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	径 5 ~ 10mm の褐色砂ブロック・径 2 ~ 5mm の炭化物を少量、径 2 ~ 5mm の焼土を微量含む。	SK8	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	径 2 ~ 10mm の褐色砂シルトブロックを多量、径 2 ~ 10mm の焼土を少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	径 2 ~ 5mm の炭化物を少量、径 2mm の焼土を微量含む。		2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	径 5 ~ 10mm の褐色砂ブロック・径 5 ~ 20mm の褐色砂シルトブロックを少量、径 1 ~ 10mm の焼土を微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	径 10 ~ 20mm の褐色砂シルトブロックを多量、径 5mm の炭化物を少量含む。		3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	径 5 ~ 10mm の褐色砂ブロックを多量、径 5 ~ 20mm の褐色砂シルトブロックを少量、径 5 ~ 10mm の焼土を微量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	砂	径 5 ~ 20mm の褐色砂ブロックを多量、径 2mm の炭化物を少量含む。		4	10YR2/3 黒褐色	シルト	径 5 ~ 10mm の褐色砂ブロックを多量、径 5 ~ 20mm の褐色砂シルトブロックを少量、径 5 ~ 10mm の焼土を微量含む。
SK6	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	径 5 ~ 10mm の褐色砂ブロックを多量、径 2mm の炭化物・焼土を少量含む。	SK10	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト質砂	径 5 ~ 10mm の褐色砂を多量、径 1mm 程度のシルトを少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	径 10mm の褐色砂ブロック・径 3 ~ 5mm の炭化物を少量含む。		2	10YR3/4 暗褐色	シルト	径 5 ~ 10mm の褐色砂を少量含む。
SK7	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	砂を含み、径 1 ~ 2mm の炭化物を微量含む。		3	10YR3/3 暗褐色	シルト	径 5 ~ 20mm の褐色砂ブロックを多量、径 2mm の炭化物を微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	径 2 ~ 5mm の褐色砂を多量、径 1 ~ 5mm の炭化物を微量含む。		4	10YR3/3 暗褐色	シルト	径 5 ~ 10mm の褐色砂ブロックを多量に含む。

第54図 SK5～10土坑平面図・断面図

SK10土坑(第54図)調査区東側で検出した。P18と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-75°Eである。規模は長軸124cm、短軸57cm、深さ53cmである。壁面は、東壁はほぼ垂直に立ち上がり、西壁は下位付近と中位で段を持ち、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は起伏する。堆積土は4層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物は無い。

SK11土坑(第56図)調査区東側で検出した。SD5と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形長方形で、



品名	発掘層	調査区	調査点	品種	石種	長さ×幅×高さ (cm)	備考	写真枚数
1	SK6	SK6	石製	甕	凝灰岩	101×51×30	1786	1.3

第55図 SK6土坑出土遺物

長軸方向はN-20°-Eである。規模は長軸70cm、短軸21cm、深さ4cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は浅い皿形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK12土坑(第56図)調査区東側で検出した。SD4・5、P15・16と重複関係にあり、SD4・5より新しく、P15・16より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-72°-Wである。規模は長軸97cm、短軸47cm、深さ11cmである。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は浅い皿形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。堆積土中より金属製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK14土坑(第56図)調査区中央部やや東側で検出した。SK15と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、長軸方向はN-17°-Wである。規模は長軸80cm、短軸76cm、深さ33cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦で北側に向かって傾斜する。堆積土は2層に分層された。遺物は出土していない。

SK15土坑(第56図)調査区中央で検出した。SK14、P11と重複関係にあり、SK14より新しく、P11より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-73°-Eである。規模は長軸170cm、短軸102cm、深さ21cmである。壁面は、直線的に外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片、陶磁器片、石器が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK16土坑(第56図)調査区中央で検出した。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-73°-Eである。規模は長軸217cm、短軸112cm、深さ34cmである。壁面は、直線的に外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は起伏する。堆積土は3層に分層された。遺物は出土していない。

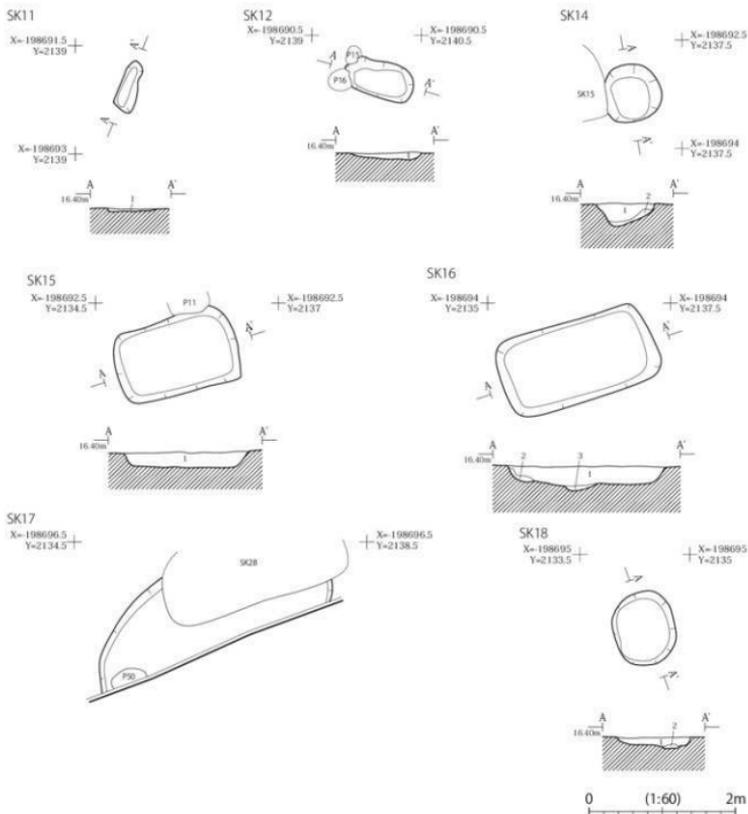
SK17土坑(第56図)調査区中央で検出した。南側は調査区外へ延びる。SK28、P50と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形と考えられ、長軸方向はN-68°-Eである。規模は長軸342cm、短軸116cm、深さ34cmである。壁面は、東壁は外形しながら立ち上がり、中位に段を持っている。西壁は直線的に外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は平坦である。遺物は出土していない。

SK18土坑(第56図)調査区中央で検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-20°-Wである。規模は長軸100cm、短軸84cm、深さ16cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は起伏する。堆積土は2層に分層された。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK19土坑(第57図)調査区中央で検出した。平面形は不整形で、長軸方向はN-78°-Eである。規模は長軸86cm、短軸80cm、深さ16cmである。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK20土坑(第57図)調査区中央やや西側で検出した。P49と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長

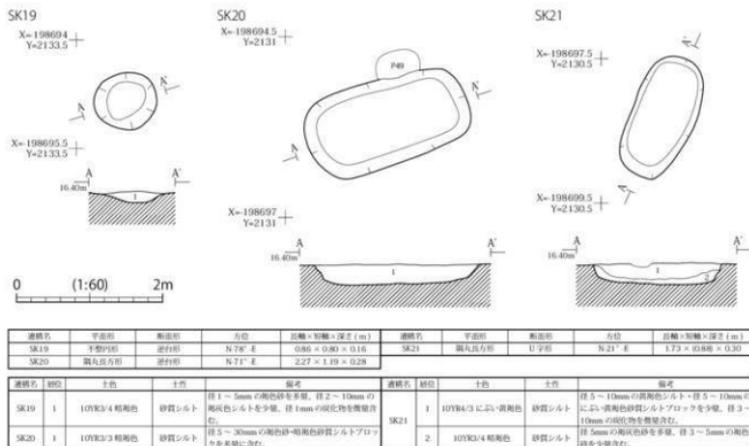
## 第2節 観測屋敷B遺跡



遺構名	平面形	断面形	方位	直径×距離×深さ (m)	遺構名	平面形	断面形	方位	直径×距離×深さ (m)
SK11	正方形	浅い楕円	N 20° E	0.70 × 0.21 × 0.04	SK16	楕円長方形	逆行形	N 73° E	2.17 × 1.12 × 0.34
SK12	楕円長方形	浅い楕円	N 72° W	0.91 × 0.47 × 0.11	SK17	楕円形	楕円	N 68° E	3.42 × 1.16 × 0.34
SK14	正方形	逆行形	N 17° W	0.80 × 0.70 × 0.23	SK18	楕円形	楕円	N 20° W	1.00 × 0.84 × 0.16
SK15	楕円長方形	逆行形	N 72° E	1.70 × 1.02 × 0.21					

遺構名	層位	土色	土性	備考	遺構名	層位	土色	土性	備考
SK11	1	10YR3/3 粘褐色	砂質シルト	砂を多量、径 1mm の砂土を少量含む。	SK16	1	10YR3/4 粘褐色	砂質シルト	径 2 ~ 5mm の褐色土を少量含む。径 2 ~ 3mm の褐色土を少量含む。
SK12	1	10YR4/3 濃い黄褐色	砂質シルト	砂を多量、径 10mm の褐色土シルトを少量、径 2mm の砂土を少量含む。	SK16	2	10YR3/4 粘褐色	砂質シルト	1層より明く締まり強い。
SK14	1	10YR3/4 粘褐色	砂質シルト	径 5 ~ 30mm の褐色砂・粘褐色ブロックを多量、径 1mm の褐色土を少量含む。	SK16	3	10YR4/4 褐色	シルト	径 5mm の褐色粘砂質シルトを多量、径 1mm の褐色土を少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト質砂	径 5 ~ 10mm の褐色シルトブロックを少量含む。	SK18	1	10YR3/3 粘褐色	砂質シルト	径 5 ~ 30mm の褐色砂・粘褐色砂ブロックを多量含む。
SK15	1	10YR3/4 粘褐色	砂質シルト	径 2 ~ 5mm の褐色シルト・径 2 ~ 3mm の褐色土を少量含む。	SK18	2	10YR3/4 粘褐色	砂質シルト	径 5 ~ 10mm の褐色粘砂質シルトブロックを少量含む。

第56図 SK11・12・14～18土坑平面図・断面図



第57図 SK19～21土坑平面図・断面図

方形で、長軸方向はN-71°Eである。規模は長軸227cm、短軸119cm、深さ28cmである。壁面は、直線的に外傾して立ち上がり、西壁は中に段を持つ。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片、陶磁器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK21土坑(第57図)調査区中央西側で検出した。SK22・23と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-21°Eである。規模は長軸173cm、短軸88cm、深さ30cmである。壁面は、外形して立ち上がり、東壁は中に段を持つ。断面形はU字形で、底面は概ね平坦である。堆積土は2層に分層された。堆積土中より土師器片、陶磁器片、金属製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK22土坑(第58図)調査区中央西側で検出した。SK21と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形と考えられ、長軸方向はN-38°Eである。規模は長軸89cm、短軸39cm以上、深さ16cmである。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は丸みを持つ。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK23土坑(第58図)調査区中央西側で検出した。SK21と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整楕円形で、長軸方向はN-43°Wである。規模は長軸73cm、短軸56cm、深さ10cmである。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は浅い皿形で、底面は起伏する。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK24土坑(第58図)調査区中央西側で検出した。SK25・26と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整円形と考えられ、長軸方向はN-71°Wである。規模は長軸75cm、短軸51cm以上、深さ6cmである。壁面は、直線的に外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK25土坑(第58図)調査区中央西側で検出した。SK24と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整円形で、長軸方向はN-68°Wである。規模は長軸96cm、短軸85cm、深さ24cmである。壁面は、東壁は直線的に外傾して立ち上がり、西壁は緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや起伏する。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

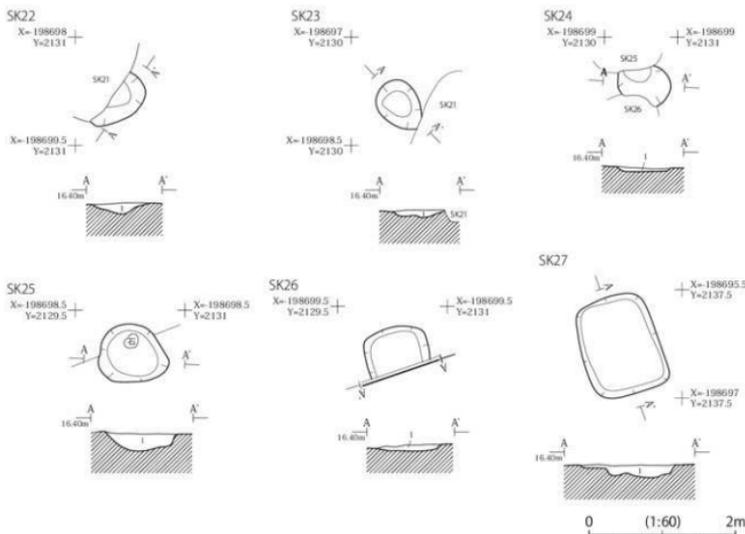
SK26土坑(第58図)調査区中央西側で検出した。南側は調査区外へ延びる。SK24と重複関係にあり、本遺構

## 第2節 観治屋敷B遺跡

が新しい。平面形は隅丸方形と考えられ、規模は東西86cm、南北59cm以上、深さ9cmである。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK27土坑(第58図)調査区中央で検出した。SK28・30と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-15°-Wである。規模は長軸139cm、短軸107cm、深さ18cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は起伏する。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片、陶器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK28土坑(第59図)調査区中央で検出した。SK17・27・30と重複関係にあり、SK17・30より新しく、SK27より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-72°-Eである。規模は長軸259cm、短軸108cm、深さ56cmである。壁面は、直線的に外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面の東側に幅50cmのテラス状の高まりを持っている。堆積土は2層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片、陶磁器片が出土しているが、図示できる遺物はない。



遺構名	平面形	断面形	方位	径軸×短軸×深さ(m)	遺構名	平面形	断面形	方位	径軸×短軸×深さ(m)
SK22	楕円形	逆形	N 38° E	0.89 × 0.39 × 0.16	SK25	半楕円形	逆台形	N 68° W	0.96 × 0.89 × 0.24
SK23	半楕円形	浅い楕形	N 42° W	0.73 × 0.56 × 0.10	SK26	隅丸方形	逆台形		0.58 × 0.46 × 0.09
SK24	半楕円形	逆台形	N 71° W	0.75 × 0.51 × 0.06	SK27	隅丸長方形	逆台形	N 45° W	1.39 × 1.07 × 0.18

遺構名	層位	土色	土性	備考	遺構名	層位	土色	土性	備考
SK22	1	10YR3/3 暗褐色	砂	径5～20mmの黄褐色砂質シムトブロックを多数埋含む。	SK25	1	10YR3/4 暗褐色	シムト	径5～20mmの黄褐色砂ブロックを多数埋含む。
SK23	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シムト	径5～10mmの褐色砂ブロック・径5～20mmの黄褐色砂質シムトブロックを多数埋含む。	SK26	1	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シムト	
SK24	1	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シムト	径5～20mmの黄褐色砂ブロック・径5～10mmの黄褐色砂質シムトブロックを多数埋含む。	SK27	1	10YR4/4 褐色	シムト質砂	径5～10mmの黄褐色砂ブロックを少数、径1mmの磁化物を埋含む。

第58図 SK22～27土坑平面図・断面図

SK29土坑(第59図)調査区南東側で検出した。東側は調査区外へ延びる。SK3・P30・33~35と重複関係にあり、P46より新しく、SK3、P30・33より古い。平面形は不整形円形で、長軸方向はN-69°-Eである。規模は長軸292cm、短軸284cm、深さ89cmである。壁面は、内湾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は丸みを持つ。堆積土は4層に分層された。堆積土中より土師器片、陶磁器片、石製品、金属製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

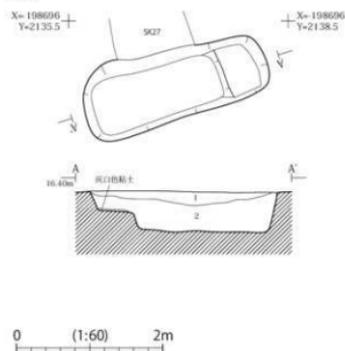
SK30土坑(第60図)調査区中央で検出した。SK27・28と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形と考えられるが詳細は不明である。規模は東西106cm以上、南北32cm以上、深さ36cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は3層に分層された。遺物は出土していない。

SK31土坑(第60図)調査区北西隅で検出した。北側及び西側は調査区外へ延びる。平面形は不明である。規模は東西115cm以上、南北105cm以上、深さ47cmである。壁面は、東壁は外傾して立ち上がり、中位で大きく外傾する。南壁は大きく外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は起伏する。堆積土は3層に分層された。遺物は出土していない。

SK32土坑(第60図)調査区北東隅で検出した。SK1・33、P38・40と重複関係にあり、SK33より新しく、SK1、P38・40より古い。平面形は円形と考えられる。規模は東西102cm、南北63cm以上、深さ49cmである。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形はU字形で、底面は丸みを持つ。堆積土は2層に分層された。遺物は出土していない。

SK33土坑(第53図)調査区北東隅で検出した。SK1・32と重複関係にあり、本遺構が古く大半が失われているため平面形は不明で、規模は東西78cm以上、南北25cm以上、深さ28cmである。壁面は、直線的に外傾して立ち

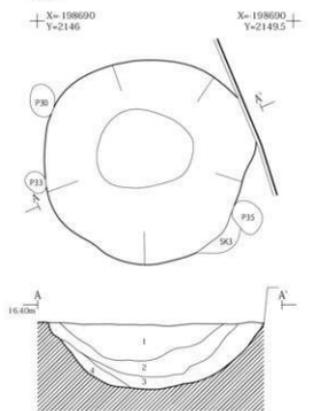
SK28



遺構名	平面形	断面形	方位	径軸×短軸・深さ(m)
SK28	楕円形	逆台形	N 72° E	2.59 × 1.08 × 0.56
SK29	不整形円形	皿形	N 69° E	(2.92 × 2.84 × 0.89)

遺構名	層位	土色	土質	備考
SK28	1	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト	径2~3mmの黄褐色砂・径2mmの灰化物を多数含む。
	2	10YR3/4 黄褐色	砂質シルト	径2~10mmの灰化物を少量含む。

SK29

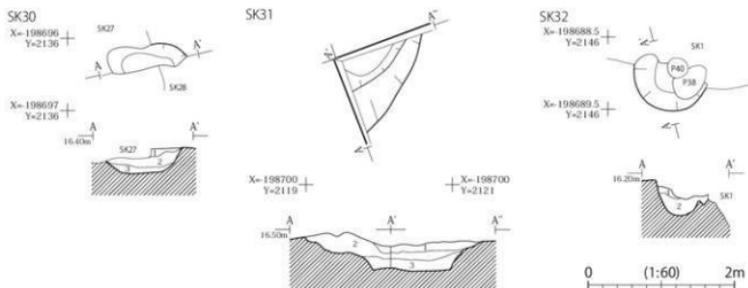


遺構名	層位	土色	土質	備考
SK29	1	10YR3/3 黄褐色	シルト	砂・塵を含み、径1~3mmの硝土・灰化物を多数含む。
	2	10YR3/2 黄褐色	シルト	径5~10mmの黄褐色砂ブロック・径2~10mmの灰化物を少量、径1~3mmの硝土を多数含む。
	3	10YR3/3 黄褐色	砂	径5~20mmの黄褐色砂ブロックを多数含む。
	4	10YR4/3 に近い黄褐色	砂	径5~10mmの黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。

第59図 SK28・29土坑平面図・断面図

## 第2節 鍛冶屋敷B遺跡

上がる。堆積土は単層である。遺物は出土していない。



遺跡名	平面形	断面形	方位	長軸×短軸×深さ (m)	遺跡名	平面形	断面形	方位	長軸×短軸×深さ (m)
SK30	楕円形	逆台形		(1.09 × 0.32) × 0.30	SK32	円形	U字形		(1.02 × 0.63) × 0.49
SK31	不明	逆台形		(1.13 × 1.05) × 0.47					

遺跡名	層位	土色	土質	備考	遺跡名	層位	土色	土質	備考
SK30	1	10YR4/4 褐色	シルト質砂	径 3 ~ 5mm の褐色色シルトを少量含む。	SK32	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	径 5 ~ 20mm の褐色シルトブロックを多数、径 1 ~ 5mm の褐色土物を少量、径 1mm の塵土を多数含む。
	2	10YR4/3 に近い褐色色	砂質シルト	径 3 ~ 20mm の褐色色シルトを多数、径 3 ~ 10mm の褐色色シルトを少量含む。		2	10YR3/3 暗褐色	シルト	径 5 ~ 20mm の褐色シルトブロックを多数、径 1 ~ 3mm の褐色土物を少量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	径 2 ~ 5mm の褐色色シルトを少量含む。					
SK31	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	径 3 ~ 10mm の褐色色シルト・径 5 ~ 10mm のにひく褐色色砂ブロックを少量含む。					
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	径 1mm の褐色土物を多数含む。					
	3	10YR3/2 黄褐色	シルト	径 3 ~ 5mm の褐色色シルト質砂を少量含む。					

第60図 SK30～32土坑平面図・断面図

### 2) 溝跡

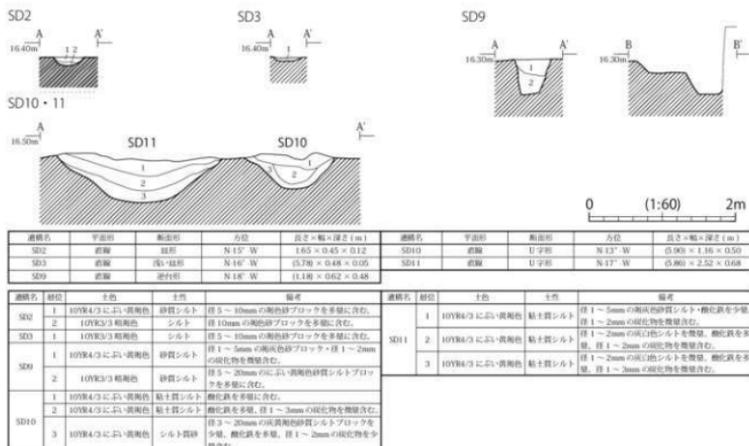
SD2 溝跡 (第 52・61 図) 調査区東側で検出した。南北方向の溝跡である。P26 と重複関係にあり、本遺構が古い。方向は N-15°-W で、規模は長さ 165cm、幅 45cm、深さ 12cm である。断面形は皿形である。堆積土は 2 層に分層された。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD3 溝跡 (第 52・61 図) 調査区東側で検出した。南北方向の溝跡で、両端は調査区外へ延びる。SK7 と重複関係にあり、本遺構が古い。方向は N-16°-W で、規模は長さ 5.78m 以上、幅 48cm、深さ 5cm である。断面形は浅い皿形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD9 溝跡 (第 52・61 図) 調査区中央で検出した。南北方向の溝跡で、北側は調査区外へ延びる。方向は N-18°-W で、規模は長さ 118cm 以上、幅 45 ~ 62cm、深さ 15 ~ 48cm で、北壁際で幅が広く、深くなっている。断面形は逆台形である。堆積土は 2 層に分層された。遺物は出土していない。

SD10 溝跡 (第 52・61 図、図版 1) 調査区西側で検出した。南北方向の溝跡で、調査区外へ延びる。SD11 と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向は N-13°-W で、規模は長さ 5.90m 以上、幅 116cm、深さ 50cm である。断面形は U 字形である。堆積土は 3 層に分層された。堆積土中より土師器片、赤堯土器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD11 溝跡 (第 52・61 図、図版 1) 調査区西側で検出した。南北方向の溝跡で、調査区外へ延びる。SD10 と重複関係にあり、本遺構が古い。方向は N-17°-W で、規模は長さ 5.86m 以上、幅 252cm、深さ 68cm である。断面形は U 字形である。堆積土は 3 層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。



第61図 SD2・3・9～11溝跡断面図

## 3) 小溝状遺構群

1群(第52・62図)調査区中央や東側で検出した。ほぼ同規模で南北方向に平行して延びるSD4～8溝跡を小溝状遺構群としてとらえた。南北方向の小溝状遺構群で、SD4～8の5条で構成される。SK11・12、P14～19・42・47・48と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-11～13°-Wで、規模は検出長さ5.60～5.74m、幅24～34cm、深さ4～24cmである。小溝の間隔は、41～56cmである。堆積土は単層が主体である。堆積土中よりSD4から土師器片、SD7から金属製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD4～8



第62図 SD4～8小溝状遺構群断面図

## 4) ビット(第52図)

45基のビットを検出した。調査区中央～西側に多く分布する。堆積土中より土師器片、須臾器片、陶磁器片、金属製品、土製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

## (2) 遺構外出土遺物

土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

## 第2節 鍛冶屋敷B遺跡

### 2. II区の調査(付図2)

II区では、基本層Ⅲ層上面(古代以降の遺構検出面)において、竪穴遺構2基を検出した。ともに竪穴住居跡の可能性が考えられるが、部分的な検出であるため竪穴遺構として報告する。

#### (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物(第63～67図、図版1)

##### 1) 竪穴遺構

##### SI1 竪穴遺構(第64・65図、図版1)

[位置] 調査区中央に位置する。東側及び西側を擾乱により削平される。

[重複関係] SI2と重複関係にあり、本遺構が新しい。

[規模・形態] 規模は東西235cm以上、南北6.50mである。平面形は、残存状況から方形を呈すると考えられる。

[柱穴・周溝・カマド]は検出されていない。

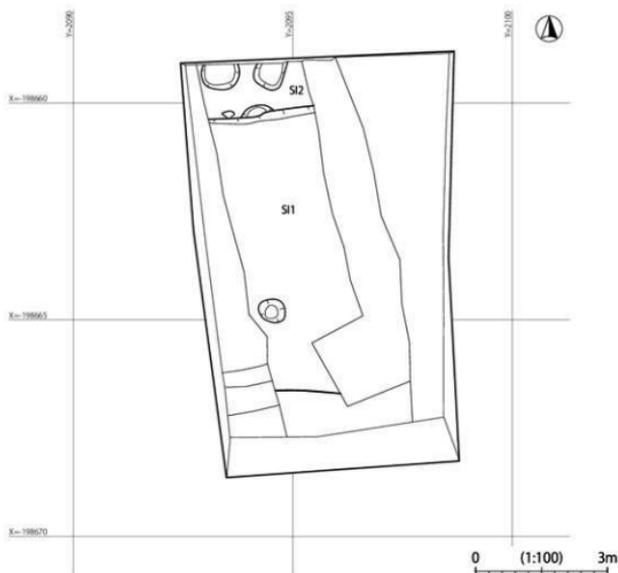
[主軸方位] 北壁基準でN-78°-Wである。

[堆積土] 8層に分層された。1・2層は竪穴堆積土、3～8層は掘り方埋土である。

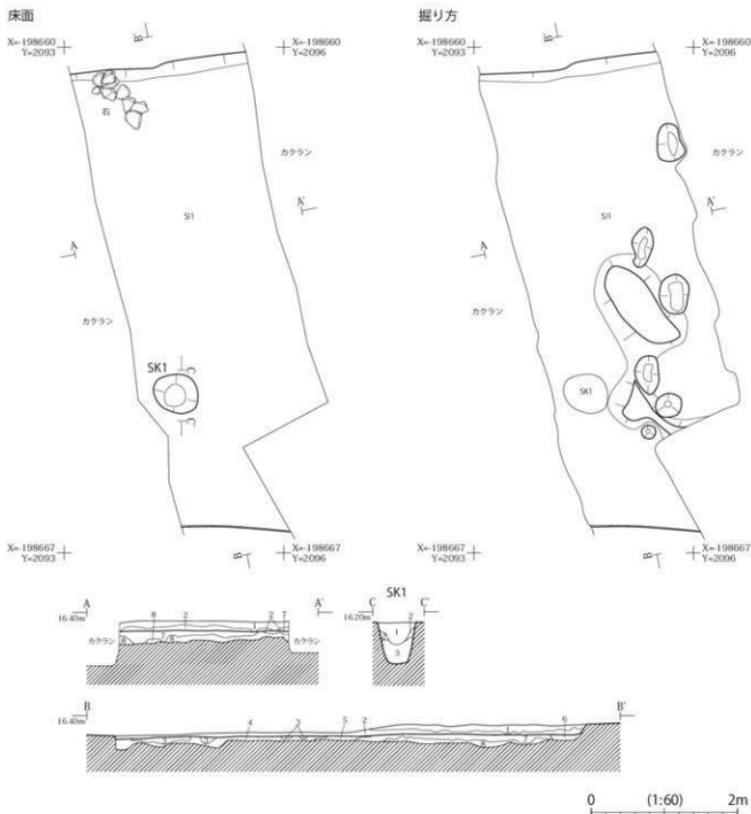
[壁面] 床面から外傾して立ち上がる。壁高は床面から5～17cmである。

[床面] 掘り方上埋土面を床面とし、概ね平坦である。

[その他の施設] 床面で土坑1基(SK1)を検出した。遺構南側に位置する。平面形は不整形形で、規模は長軸60cm、短軸55cm、深さ56cmである。堆積土は3層に分層された。



第63図 鍛冶屋敷B遺跡II区遺構配置図



遺構名	名	平面形	方位	径幅×距離×深さ (m)
SI1	古し	方形	N7°E-W	0.50 × 0.30 × 0.14
SK1	平面形	断面形	径幅×距離×深さ (m)	
SK1	円形/断面	断面形	0.60 × 0.55 × 0.30	

遺構名	層位	土色	土質	備考	遺構名	層位	土色	土質	備考
SI1	1	10YR5/4 相褐色	シルト	径5～10mmの焼土ブロックを含む。炭化物を多量に含む。	SI1	6	10YR4/1 黒褐色	砂質シルト	炭化物を微量含む。
	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	径5～10mmの焼土ブロックを多量に含む。炭化物を少量含む。		7	10YR4/4 相褐色	砂質シルト	径5～10mmの焼土ブロックを多量に含む。炭化物を少量含む。
	3	10YR5/4 相褐色	砂質シルト			8	10YR4/6 褐色	砂質シルト	炭化物を微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径5～10mmの焼土ブロックを多量に含む。炭化物を少量含む。		1	10YR4/2 灰黒褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
SK1	5	10YR4/3 紅褐色	砂質シルト	炭化物を微量含む。	2	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	径5～10mmの焼土ブロックを微量含む。	
					3	10YR2/4 相褐色	砂質シルト	径5～10mmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。	

第64図 SI1 竪穴遺構平面図・断面図

## 第2節 鍛冶屋敷B遺跡



No.	記録番号	遺構名	形式	種別	用途	土厚×底径×最長径 (cm)	外周設備	内周設備	備考	写真掲載
1	E-003	SI1	I	須恵器	井	(14.6) × (7.2) × 4.1	ローラ調整 手持ちヘラウケリ 磁器用洗面器	ローラ調整		1-1

第65図 SI1 竪穴遺構出土遺物

[掘り方] 深さ5～19cmである。底面は概ね全体が掘り込まれているが、中央部から南側の一部を島状に残す。  
 [出土遺物] 遺構堆積土中及び掘り方埋土、SK1 から土師器片、赤焼土器片、須恵器片、金属製品、礫が出土している。須恵器1点を図示した。須恵器片(第65図1)は堆積土からの出土であるが、本遺構に伴うと考えられ、年代は9世紀から10世紀ころと考えられる。

### SI2 竪穴遺構(第66・67図、図版1)

[位置] 調査区北端に位置する。北側は調査区外へ延び、東及び西側は攪乱により削平され壁面が検出されていないため、形態・主軸方位・壁面は、不明である。

[重複関係] SI1と重複関係にあり、本遺構が古い。

[規模・形態] 規模は東西250cm以上、南北120cm以上である。平面形は不明である。柱穴・周溝・カマドは検出されていない。

[主軸方位] 不明である。

[堆積土] 8層に分層された。1～6層は竪穴堆積土、7・8層は掘り方埋土である。

[壁面] 不明である。

[床面] 掘り方埋土上面を床面とし、概ね平坦である。

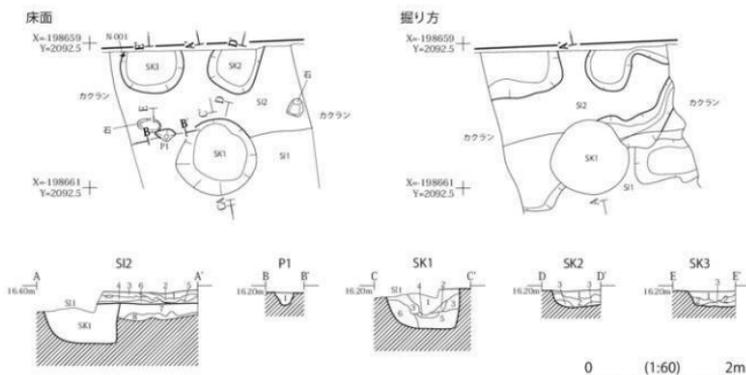
[その他の施設] 床面で土坑3基(SK1～3)とピット1基(P1)を検出した。SK1は遺構の南側に位置し、上面の一部がSI1により削平される。平面形は不整形で、規模は長軸110cm、短軸105cm、深さ46cmである。堆積土は6層に分層された。SK2は遺構の北側に位置し、北側は調査区外へ延びる。平面形は隅丸方形と考えられ、規模は長軸70cm、短軸68cm、深さ23cmである。堆積土は3層に分層された。SK3は遺構の北側に位置し、北側は調査区外へ延びる。平面形は円形と考えられ、規模は長軸65cm、短軸88cm、深さ21cmである。堆積土は3層に分層された。P1は遺構の南側に位置する。平面形は不整形円形で、規模は長軸30cm、短軸17cm、深さ17cmである。堆積土は単層である。柱痕跡は確認されていない。

[掘り方] 深さ16～23cmである。底面は起伏する。

[出土遺物] 遺構堆積土中及びSK1～3から土師器、須恵器片、陶磁器片、金属製品が出土している。土師器1点、鉄礫1点を図示した。床面直上から鉄礫(第67図2)が出土し、土師器片(第67図1)は堆積土からの出土であるが、本遺構に伴うと考えられ、年代は9世紀から10世紀ころと考えられる。

### (2) 遺構外出土遺物

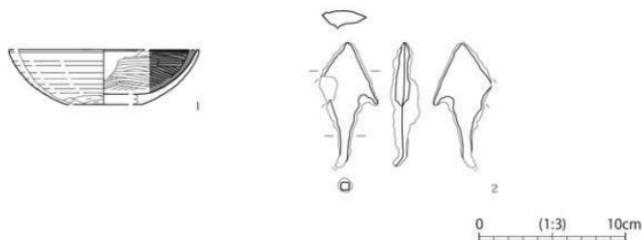
土師器片、須恵器片、陶磁器片が出土しているが、図示できる遺物はない。



遺構名	カタド	平面図	方位	長軸×短軸×深さ (m)			
SI2	なし	不明	-	12.5m × 11.2m × 0.18			
平臺	不明	敷出部	長軸×短軸×深さ (m)	SK 番号	平面図	敷出部	長軸×短軸×深さ (m)
P1	不整形四角	U字部	0.30 × 0.17 × 0.17	SK1	不整形四角	敷出部	1.10 × 11.0m × 0.46
				SK2	扇形	敷出部	0.70 × 0.68 × 0.23
				SK3	四角	敷出部	0.65 × 0.68 × 0.21

遺構名	層位	土色	土性	備考	遺構名	層位	土色	土性	備考	
										1
SI2	1	10YR3/4 黄褐色	砂質シルト	径5～10mmの焼土ブロッコ・炭化物を多量に含む。	SK1	3	10YR4/6 黄褐色	砂質シルト	径5～10mmの焼土ブロッコ・炭化物を微量含む。	
	2	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	炭化物を多量に含む。		4	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト		
	3	10YR4/6 黄褐色	砂質シルト	径2mmの焼土を少量含む。		5	10YR4/3 に高い黄褐色	砂質シルト	径5～10mmの焼土ブロッコを少量含む。	
	4	10YR3/4 黄褐色	砂質シルト	炭化物を微量含む。		6	10YR4/3 に高い黄褐色	砂質シルト		
	5	10YR3/3 黄褐色	砂質シルト			SK2	1	10YR3/4 黄褐色	シルト	径5～10mmの焼土ブロッコ・炭化物を少量含む。
	6	10YR3/4 黄褐色	砂質シルト	炭質が顕著。			2	10YR3/3 黄褐色	シルト	炭化物を少量含む。
	P1	1	10YR3/4 黄褐色	シルト	径2mmの焼土を微量含む。炭化物を少量含む。	SK3	1	10YR3/3 黄褐色	シルト	炭化物を多量に含む。
		2	10YR3/4 黄褐色	シルト	径5～10mmの焼土ブロッコ・炭化物を含む。		2	10YR3/4 黄褐色	シルト	径2mmの焼土を少量含む。
SK1	1	10YR3/4 黄褐色	シルト	径5～10mmの焼土ブロッコ・炭化物を含む。	3	10YR3/4 黄褐色	砂質シルト	径5～10mmの焼土ブロッコを少量含む。		
	2	10YR3/4 黄褐色	シルト	炭化物を微量含む。						

第66図 SI2 整穴遺構平面図・断面図



No.	登録番号	遺構名	層位	種類	形状	寸法×口径×高さ (mm)	表面装飾	内部装飾	備考	写真図版
1	D-001	SI2	2	土製品	杯	13.0 × 6.2 × 3.8	口縁に黒鉛・手持ちヘラで文の彫り跡なし・不明・手持ちヘラで文あり	ヘラでラグス・黒色装飾	外面に黒鉛部(硝子粉)付。	1-2
2	B-001	SI2	9.05	金属製品	鉄器	長さ×幅×厚さ (mm) 重さ (g) 径7 × 14.0 × 0.85 (49.52)		備考		1-4

第67図 SI2 整穴遺構出土遺物

## 第2節 鍛冶屋敷B遺跡

### 3. まとめ

鍛冶屋敷B遺跡は仙台市太白区富沢字鍛冶屋敷にあり、自然堤防上・後背湿地に立地する縄文時代及び奈良時代～近世の遺跡である。平成26年度にI区170㎡、平成28年度にII区60㎡の調査が行われ、古代以降の遺構群が検出された。

#### (1) 遺構について

1) 古代以降の遺構は基本層Ⅲ層上面で検出した。

I区—土坑32基、溝跡5条、小溝状遺構群1群、ピット45基

II区—竪穴遺構2基

2) II区では、SI1 竪穴遺構から須恵器環、SI2 竪穴遺構から土師器環が出土しているが、いずれも堆積土からの出土であり、遺構の詳細な時期は不明である。

3) I区では小溝状遺構群が検出されており、調査区周辺には耕作域が広がっていたと考えられる。

#### (2) 遺物について

出土遺物は平箱2箱である。全体的に小破片が多く、図化できる遺物は少ない。

##### 1) 古代以降

I区では、基本層Ⅲ層上面検出遺構から土師器片、赤焼土器片、須恵器片、陶磁器片、石製品、金属製品、骨片、礫が出土しているほか、遺構外から土師器片が出土している。

II区では、基本層Ⅲ層上面検出遺構から土師器、赤焼土器片、須恵器、陶磁器片、金属製品が出土しているほか、遺構外から土師器片、須恵器片、陶磁器片が出土している。SI1 竪穴遺構の堆積土から須恵器環が出土している。SI2 竪穴遺構の床面直上から鉄鏃、堆積土から土師器環が出土している。

## 鍛冶屋敷 B 遺跡写真図版





I区調査区全景(南東から)



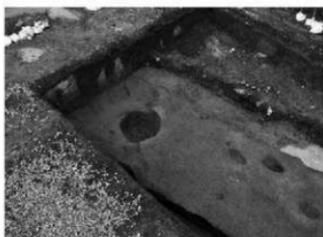
I区SD10・11全景(南東から)



II区調査区全景(西から)



II区S11全景(北西から)



II区S12全景(南西から)



II区S12鉄鍬(N-001)出土状況(南から)



写真図版1 鍛冶屋敷B遺跡

### 第3節 富沢館跡

### 第3節 富沢館跡

今回の調査で、主郭部に相当すると考えられる調査区にはアラビア数字である1～6区を、外郭部に相当すると考えられる調査区にはアルファベット数字であるA～H区を外郭部として調査区名を付した。ただし、G区及びH区からは主郭部を構成する跡跡が検出されているが、調査区名は変更せずにこのまま報告する。

#### 1. 1区の調査(付図2・3)

1区では、基本層Ⅲ層上面(古代以降の遺構検出面)において、柱列跡1列、門跡1基、土坑11基、火葬墓1基、



第68図 富沢館跡1区遺構配置図

溝跡7条、堀跡1条、河川跡1条、性格不明遺構2基、土塁、ピット135基を検出した。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

### (1) 皿脛検出遺構と出土遺物 (第68～77図、図版1・2・22)

#### 1) 柱列跡

SA1柱列跡(第69図、図版1)調査区中央で検出した。SD4・5、土塁残存範囲、SR1、P63と重複関係にあり、SD4・5、土塁残存範囲、SR1より新しく、P63より古い。検出した柱穴は6基で、南北方向に並び、規模は軸長10.87m、柱間寸法は北から211cm+217cm+222cm+220cm+217cmである。方向はN-9°Eである。柱穴掘り方の平面形は直径35～58cmの円形を基調とし、深さは17～51cmである。断面形はU字形を基調とし、壁面は、やや外傾して立ち上がる。柱痕跡は検出されていない。P3の堆積土中より土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

#### 2) 門跡

SB4門跡(第70図、図版2)調査区北側で検出した。SK3、P103・104・106より構成される門跡である。当初、SK3は規模から単独の土坑と考えたが、調査の結果、遺構内より最大径60cm程の礫が数点出土した。本調査区東側付近は近世入生田家屋敷の入口であったことから、SK3が門柱の南側の柱穴である可能性が考えられたため、調査区を北側へ拡張したところ、SK3より450cm北側で、同様の規模で大型の礫が含まれたP103・104・106を検出した。これらは同様の遺構と考えられたため、SK3及びP103・104・106で構成される門跡と判断した。SD1・8、SR1、P105と重複関係にあり、SD1・8、SR1より新しく、P105より古い。P103・104・106には重複関係が認められ、建て替えを行った可能性が考えられる。P103が最も新しく、P106が最も古い。規模はSK3とP106間の距離が450cmで、方向はN-16°Eである。SK3の平面形は不整形円形で、長軸方向はN-5°Eである。規模は長軸104cm、短軸94cm、深さ56cm以上である。56cmの深さまで掘り下げて調査を行った時点で、富沢跡跡に関係する重要な遺構であると判断されたため、遺構が破壊されないよう養生を行った後、埋め戻しを行っている。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。断面形は箱形と考えられる。堆積土は現状で2層に分層された。柱痕跡は確認されていない。P103・104・106の平面形は円形または不整形円形である。規模は長軸60～98cm、短軸55～89cm、深さ39～76cmである。壁面はいずれも外傾して立ち上がる。断面形は、いずれも逆台形である。底面は、P103・104はやや起伏し、P106は中央が凹む。堆積土は2～5層に分層された。P106で径18～33cmの柱痕跡を確認した。堆積土中より陶磁器片、木製品、多量の礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

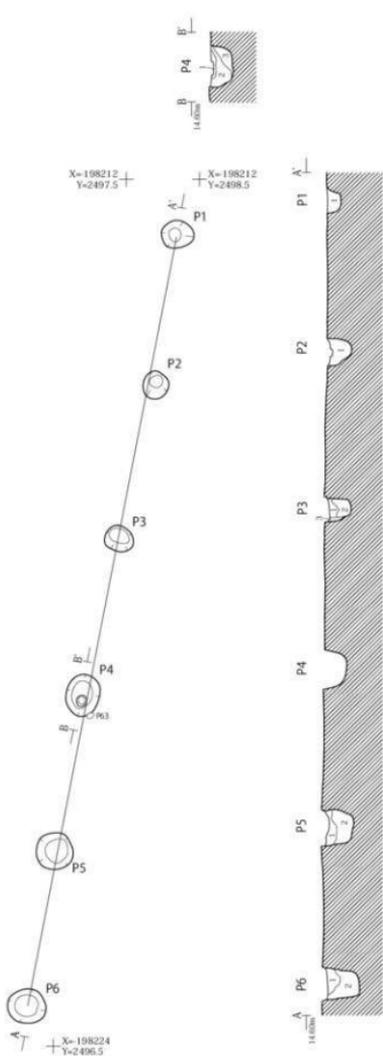
#### 3) 土坑・火葬墓

SK1土坑(第71図)調査区北側で検出した。平面形は不整形円形で、長軸方向はN-77°Wである。規模は長軸93cm、短軸60cm、深さ13cmである。壁面は、東壁は外傾して立ち上がり、西壁は緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は起伏する。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK2土坑(第71図)調査区北側で検出した。SD1、P24と重複関係にあり、SD1より新しく、P24より古い。平面形は楕円形で、西側はテラス状の高まりを持っている。長軸方向はN-72°Wである。規模は長軸178cm、短軸119cm、深さ58cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は丸みを持つ。堆積土は6層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片、土師質土器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

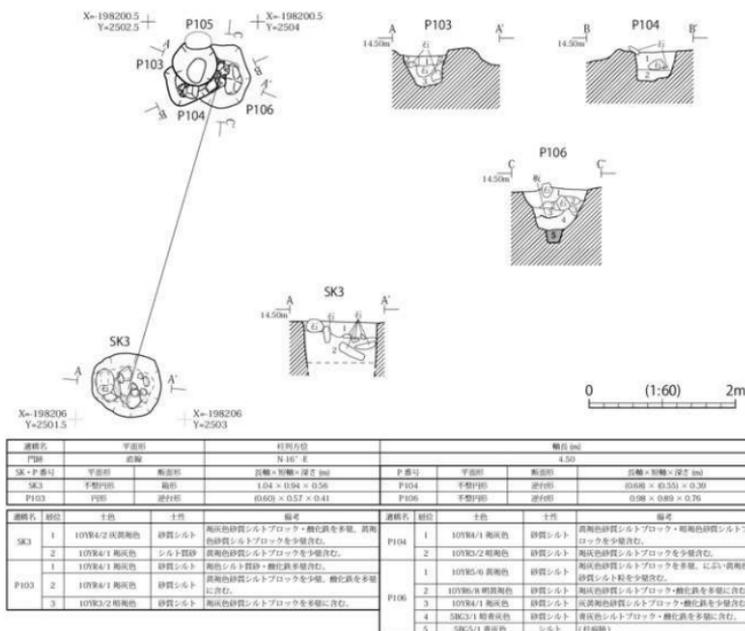
SK4土坑(第71図)調査区南東側で検出した。遺構上部南側は確認調査区IV-19により削平される。平面形は楕円形で、長軸方向はN-34°Eである。規模は長軸64cm、短軸48cm、深さ16cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は起伏する。堆積土は3層に分層された。遺物は出土していない。

SK5土坑(第71図)調査区南側で検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-32°Eである。規模は長軸117cm、短軸97cm、深さ36cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土



柱番号 SA1	平面図		断面図		軸組位置		軸組位置 寸法	軸組 位置	軸組 位置	軸組 位置	軸組 位置
	位置	位置	位置	位置	位置	位置					
P1	10YR4.1 黒褐色										
P2	10YR4.1 黒褐色										
P3	10YR4.1 黒褐色										
P4	10YR4.1 黒褐色										
P5	10YR4.1 黒褐色										
P6	10YR4.1 黒褐色										

第69図 SA1 柱列跡平面図・断面図



第70図 SB4門跡平面図・断面図

は4層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片、礫片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK6土坑(第71図)調査区南西端で検出した。西側の大部分が調査区外へ延びるため平面形は不明である。北側にテラス状の高まりを持っている。規模は東西20cm以上、南北158cm以上、深さ18cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は2層に分層された。遺物は出土していない。

SK7土坑(第71図)調査区南側で検出した。平面形は不整形円形で、長軸方向はN-69°Eである。規模は長軸111cm、短軸76cm、深さ32cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は2層に分層された。遺物は出土していない。

SK8土坑(第72図)調査区南側で検出した。SK5と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、長軸方向は不明である。規模は長軸55cm、短軸64cm、深さ8cmである。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

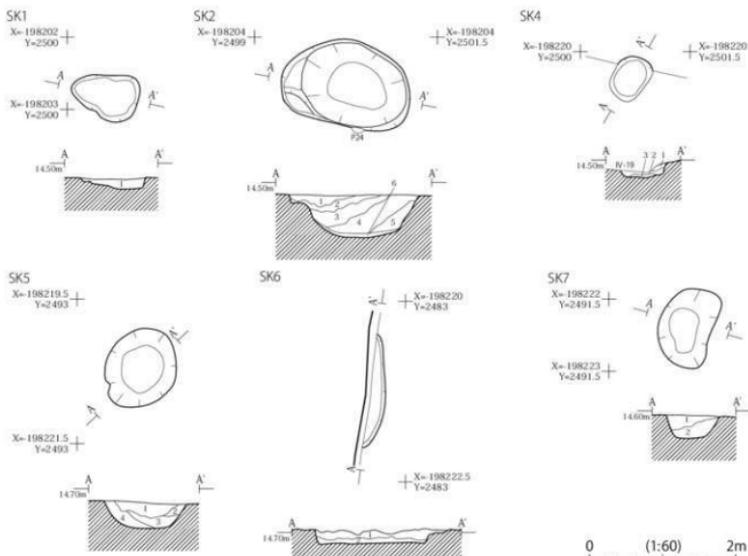
SK9土坑(第72図)調査区南西側で検出した。土塁残存範囲と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸方形で、長軸方向はN-22°Eである。規模は長軸117cm、短軸114cm、深さ5cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は箱形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。堆積土中より須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK10土坑(第72図)調査区南西側で検出した。P58と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸方形で、

### 第3節 富沢館跡

長軸方向はN-22°-Eである。規模は長軸123cm、短軸100cm、深さ37cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は5層に分層された。堆積土中より須恵器片が出土しているが、図示できる遺物は無い。

SK11 火葬墓 (第72・73図、図版・22) 調査区南西側で検出した。火葬墓の燃焼部分と考えられる。P164と重複関係にあり、本道構が古い。平面形は隅丸長方形である。長軸方向はN-20°-Eである。規模は長軸105cm、短軸60cm、深さ33cmである。長軸113cm、短軸77cm、深さ2~5cmの掘り方を持つ。壁面は外傾して立ち上がる。



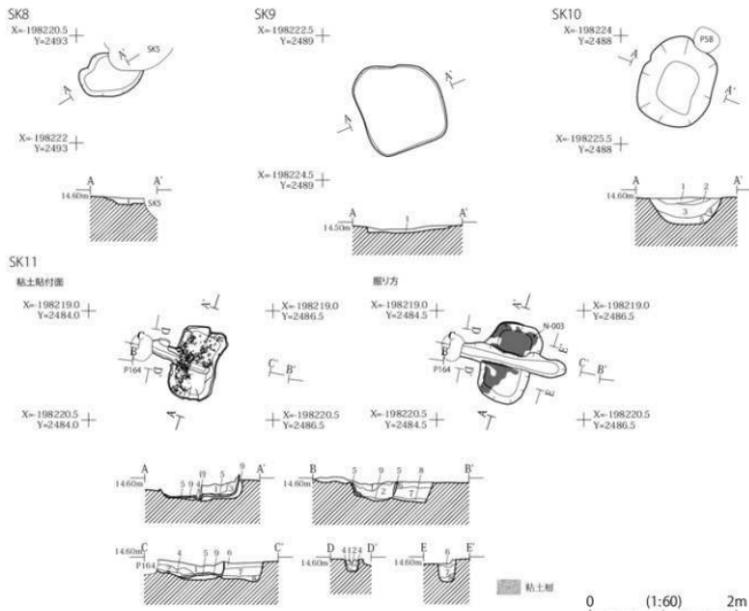
遺構名	平面形	断面形	方位	径輪×壁輪×深さ(m)	遺構名	平面形	断面形	方位	径輪×壁輪×深さ(m)
SK1	半円形/円形	逆台形	N 77° W	0.93 × 0.60 × 0.13	SK5	楕円形	逆台形	N 32° E	1.17 × 0.97 × 0.36
SK2	楕円形	逆台形	N 72° W	1.78 × 1.19 × 0.58	SK6	楕円形	逆台形		1.58 × 0.20 × 0.18
SK4	楕円形	逆台形	N 34° E	0.94 × 0.48 × 0.16	SK7	半円形/円形	逆台形	N 69° E	1.11 × 0.76 × 0.32

遺構名	層位	土色	性状	備考	遺構名	層位	土色	性状	備考
SK1	1	10YR5/4 黄褐色	砂質シルト	褐色色・黄褐色・に赤い須恵色砂質シルトブロックを少量含む。	SK5	1	10YR5/1 黄褐色	砂質シルト	明褐色砂質シルトブロック・径1~5mmの炭化物を少量含む。
	1	10YR4/2 灰褐色	砂質シルト	明褐色・に赤い須恵色砂質シルトブロックを少量含む。径1~30mmの炭化物を多数に含む。		2	10YR4/1 黄褐色	砂質シルト	暗褐色・明褐色砂質シルトブロック・径1~3mmの炭化物を少量含む。
	2	10YR4/1 黄褐色	砂質シルト	褐色色・黄褐色砂質シルトブロック・径1~5mmの炭化物を少量含む。		3	10YR4/1 黄褐色	砂質シルト	明褐色砂質シルトブロック・径1~5mmの炭化物を少量含む。明褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	3	10YR4/3 に赤い黄褐色	砂質シルト	褐色色・黄褐色・黄褐色・黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。		4	10YR5/2 黄褐色	砂質シルト	褐色色・灰黄褐色砂質シルトブロック・径1~5mmの炭化物を多数に含む。
SK2	4	10YR4/1 黄褐色	砂質シルト	明褐色色・黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。	SK6	1	10YR5/4 に赤い黄褐色	砂質シルト	褐色色砂質シルトブロック・径1~3mmの炭化物を少量含む。
	5	10YR3/2 黄褐色	砂質シルト	黄褐色・黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。		2	10YR4/1 黄褐色	砂質シルト	黄褐色色・に赤い須恵色砂質シルトブロックを少量含む。
	6	10YR3/1 黄褐色	シルト凝結	黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。	SK7	1	10YR4/1 黄褐色	砂質シルト	灰黄褐色・黄褐色砂質シルトブロック・径3~5mmの炭化物を少量含む。
	1	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	褐色色砂質シルトブロックを少量含む。明褐色砂質シルトブロックを少量含む。		2	10YR4/1 黄褐色	砂質シルト	灰黄褐色砂質シルトブロック・径3~10mmの炭化物を少量含む。黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。
SK4	2	10YR3/1 黄褐色	砂質シルト	に赤い須恵色砂質シルトブロック・径1~5mmの炭化物を少量含む。明褐色砂質シルトブロックを少量含む。					
	1	10YR5/3 に赤い黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。					
	3	10YR5/3 に赤い黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。					

第71図 SK1・2・4~7土坑平面図・断面図

断面形は逆台形で、底面は起伏する。堆積土は9層に分層された。1層は通風溝内堆積土、2～4層は遺構堆積土、5層は2次被熱範囲の粘土層、6～8層は通風溝の掘り方埋土、9層は掘り方埋土である。5層は熱を受けていることから、燃焼部分に貼られていた粘土と考えられる。中央部に東西方向に延ぶ通風溝が付設されており、規模は長さ87cm、幅12～19cm、深さ5～10cmである。壁面は外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。長さ245cm、幅18～29cm、深さ21～29cmの掘り方を持つ。遺物は土師器片、石器、木製品、



遺構名	平面図	断面図	方位	距離・距離・深さ (m)	遺構名	平面図	断面図	方位	距離・距離・深さ (m)
SK8	平面的	断面		63.53 × 66.4 × 20.08	SK10	掘り方		N 22° E	1.23 × 1.03 × 0.37
SK9	掘り方		N 22° E	1.17 × 1.14 × 0.05	SK11	掘り方		N 20° E	1.05 × 0.60 × 0.53

遺構名	層位	土色	土質	備考	遺構名	層位	土色	土質	備考
SK8	1	10YR5/4 黄褐色	砂質シルト	黄褐色・灰黄褐色砂質シルトブロック・径3mmの炭化物を少量含む。	SK11	1	10YR5/4 に近い黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロック・黄褐色砂質シルトブロック・径1～10mmの炭化物を少量含む。
	2	10YR3/3 緑褐色	砂質シルト	黄褐色・黒褐色砂質シルトブロックを多量、砂質シルトブロックを少量含む。		2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを少量、粘土粒を多量に含む。柱状を含む。
SK10	1	10YR7/8 黄褐色	砂質シルト	黄褐色・黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。	3	10YR3/3 に近い黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロック・径3粒・径1～5mmの炭化物を少量含む。柱状を含む。	
	2	10YR3/2 灰黄褐色	砂質シルト	に灰・黄褐色砂質シルトブロック・径1～3mmの炭化物を少量含む。	4	10YR3/2 黄褐色	砂質シルト	に灰・黄褐色砂質シルトブロック・黄褐色砂質シルトブロックを多量、径1～20mmの炭化物を多量に含む。柱状を含む。	
	3	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロック・径1～10mmの炭化物を多量に含む。	5	5YR5/6 明赤褐色	シルト	緑リ非常に強い。粘土系に属する。粘土層に属する。	
SK11	4	10YR5/8 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多量、黒褐色砂質シルトブロックを少量含む。	6	10YR5/8 黄褐色	シルト	黄褐色砂質シルトブロック・粘土粒・径1～5mmの炭化物を少量含む。	
	5	10YR2/1 黒褐色	砂質シルト	に灰・黄褐色砂質シルトブロックを少量、径1～3mmの炭化物を多量に含む。	7	10YR3/2 灰黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多量、径1～5mmの炭化物を少量含む。	
					8	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロック・径1～10mmの炭化物を少量含む。	
					9	5YR2/4 暗赤褐色	シルト質砂	粘土系に多量に含む。	

第72図 SK8～10土坑、SK11火葬墓平面図・断面図



0 (2:3) 5cm

No.	古銭種別	遺物名	形状	種類	材質	直径・幅・厚さ (mm)	重量 (g)	年代	出土層
1	N003	SK11	9層直上	金属製品	古銭	直径 2.3・厚さ 0.6	重さ 2.3	徳和時代 中世	調査区外 (10068~1077)

第73図 SK11 火葬墓出土遺物

古銭、骨片、歯、炭化物が出土している。多量の骨片が、2～4層中及び燃焼部の北側から南西側にかけて出土した。また、粘土層直下9層直上から古銭が4枚出土した。そのうち、9層直上から出土した古銭1点(第73図1)を図示した。その他の古銭の種類、製造年は不明である。

SK12土坑(第74図)調査区南西側で検出した。SD7と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-70°-Wである。規模は長軸77cm、短軸46cm、深さ16cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK23土坑(第74図)調査区南西側で検出した。SX2と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN-28°-Eである。規模は長軸85cm、短軸65cm、深さ10cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。堆積土中より石製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

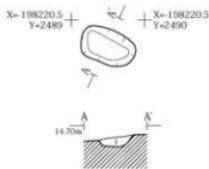
## 4) 溝跡・堀跡

SD1溝跡(第68・75図)調査区北側で検出した。東西方向の溝跡で、両端は調査区外へ延びる。SK2・3、SD8、P94と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-75°-Wで、規模は長さ490cm、幅33cm、深さ15cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

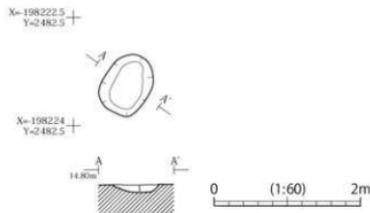
SD2溝跡(第68・75図)調査区北側で検出した。東西方向の溝跡で、東端は調査区外へ延びる。SD8と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向はN-87°-Wで、規模は長さ328cm以上、幅40cm、深さ5cmである。断面形は皿形である。堆積土は2層に分層された。遺物は出土していない。

SD3溝跡(第68・75図)調査区北側で検出した。東西方向の溝跡である。SD8と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向はN-78°-Wで、規模は長さ453cm、幅60cm、深さ19cmである。断面形はU字形である。堆積土は2層に分層された。遺物は出土していない。

SK12



SK23



遺構名	平面形	断面形	方位	直径・幅・深さ (m)	遺構名	平面形	断面形	方位	直径・幅・深さ (m)
SK12	隅丸長方形	逆台形	N 70° W	径 77 × 幅 46 × 深さ 16	SK23	楕円形	皿形	N 28° E	径 85 × 幅 65 × 深さ 10
遺構名	積層	土色	層厚	備考	遺構名	積層	土色	層厚	備考
SK12	1	10YR4/2 灰褐色	砂質シルト	腐食した砂質シルトブロックを多数、径1～5mmの炭化物を少量含む。	SK23	1	10YR4/1 褐色	砂質シルト	濃い灰褐色の砂質シルトブロックを多数、明褐色の砂質シルト小ブロック・径5～10mmの炭化物を少量含む。

第74図 SK12・23土坑平面図・断面図

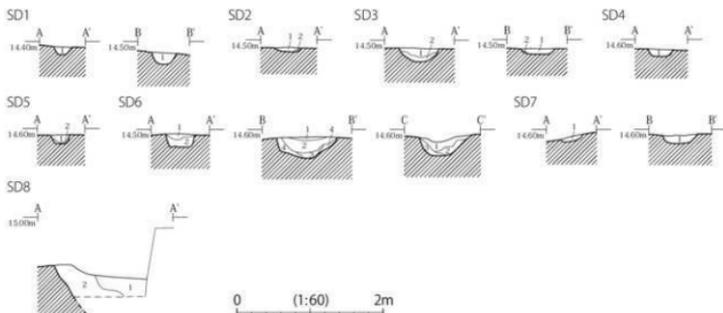
SD4 溝跡(第68・75図)調査区南側で検出した。南北方向の溝跡である。SA1、土塁残存範囲、SR1と重複関係にあり、土塁残存範囲、SR1より新しく、SA1より古い。方向はN-40°-Eで、やや湾曲している。規模は長さ307cm、幅38cm、深さ10cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD5 溝跡(第68・75図)調査区南側で検出した。東西方向の溝跡である。SA1、土塁残存範囲、SR1、P64・183と重複関係にあり、土塁残存範囲、SR1、P183より新しく、SA1、P64より古い。方向はN-74°-Eで、やや湾曲している。規模は長さ202cm、幅33cm、深さ12cmである。断面形は逆台形である。堆積土は2層に分層された。堆積土中より石製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD6 溝跡(第68・75図)調査区南側で検出した。東西方向の溝跡である。土塁残存範囲とSR1と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向はN-84°-Wで、規模は長さ7.00m、幅115cm、深さ30cmである。断面形は逆台形である。堆積土は4層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD7 溝跡(第68・75図)調査区南側で検出した。東西方向に延びる溝跡である。SK12、P72・73・180と重複関係にあり、P180より新しく、SK12、P72・73より古い。方向はN-82°-Wで、規模は長さ260cm、幅50cm、深さ11cmである。断面形は皿形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD8 堀跡(第68・75図、図版1)調査区東側で検出した。南北方向の堀跡である。南北両側および東側は調査区外へ延びる。SD1～3、P94・103～106と重複関係にあり、本遺構が古い。トレンチを設定して調査を行った



遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)	遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)
SD1	直線	逆台形	N 75° W	(4.98 × 0.33 × 0.15)	SD5	直線	逆台形	N 74° E	(2.02 × 0.33 × 0.12)
SD2	直線	皿形	N 87° W	(3.26 × 0.40 × 0.05)	SD6	直線	逆台形	N 84° W	7.00 × 1.15 × 0.30
SD3	直線	皿形	N 78° W	(4.53 × 0.60 × 0.19)	SD7	直線	皿形	N 82° W	2.60 × 0.50 × 0.11
SD4	直線	逆台形	N 40° E	(3.07 × 0.38 × 0.10)	SD8	直線		N 2° E	(12.35 × 1.23 × 0.45)

遺構名	層位	土色	土性	備考	遺構名	層位	土色	土性	備考
SD1	1	10YR4/1 黒褐色	砂質シルト	に灰・炭角色砂質シルトブロック・褐色砂質シルトブロック・径1～3mmの炭化物を少量含む。	SD6	1	10YR4/3 高い黄褐色	砂質シルト	灰褐色砂質シルトブロック・褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	2	10YR4/4 黒色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロック・褐色砂質シルトブロックを少量含む。		2	10YR4/2 高黄褐色	砂質シルト	に灰・炭角色砂質シルトブロック・褐色砂質シルトブロックを少量含む。
SD2	1	10YR4/1 黒褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロック・褐色砂質シルトブロックを少量含む。	SD7	1	10YR4/1 黒褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロック・褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	2	10YR4/4 黒色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロック・褐色砂質シルトブロックを少量含む。		SD8	1	10YR4/2 高黄褐色	シルト砂質
SD3	1	10YR4/2 高黄褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロックを多量、に灰・炭角色砂質シルトブロックを少量含む。	2		10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロック・褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	2	10YR4/1 黒褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロックを少量含む。					
SD4	1	10YR4/1 黒褐色	砂質シルト	高炭角色砂質シルトブロック・褐色砂質シルトブロック・径1～3mmの炭化物を少量含む。					
	2	10YR4/1 黒褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロック・径1～5mmの炭化物を多量、に灰・炭角色砂質シルトブロックを少量含む。					
SD5	1	10YR4/2 高黄褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロック・径1～5mmの炭化物を多量、に灰・炭角色砂質シルトブロックを少量含む。					
	2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロック・径1～3mmの炭化物を少量含む。					

第75図 SD1～7溝跡 SD8堀跡断面図

### 第3節 富沢館跡

が、完掘には至っていない。方向はN-5°-Eで、調査区南東隅で西側に屈曲している。規模は長さ12.35m以上、幅120cm以上、深さ45cm以上である。断面形は不明である。堆積土は2層に分層された。遺物は出土していない。

#### 5) 性格不明遺構

SX1 性格不明遺構(第76図)調査区南西側で検出した。P92と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、長軸方向はN-45°-Wである。規模は長軸170cm、短軸97cm、深さ7cmである。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は丸みを持つ。堆積土は単層である。堆積土中より須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SX2 性格不明遺構(第76図)調査区南西隅で検出した。西側の大部分と南側が調査区外へ延びる。SK23、P49と重複関係にあり、SK23より新しく、P49より古い。平面形は不明である。規模は南北210cm以上、東西104cm以上、深さ20cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面はやや起伏する。堆積土は3層に分層された。堆積土中より土師質土器片、石製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

#### 6) 河川跡

SR1 河川跡(第68・77図、図版1)調査区中央～東側で検出した。南北方向の河川跡である。SA1、SD1～6、SK1～4、土塁残存範囲、ビット55基と重複関係にあり、最も古い。方向はN-9°-Eで、規模は長さ28.45m以上、幅400cm以上、深さ38cm以上である。堆積土は現状で6層に分層された。遺物は出土していない。

#### 7) ビット(第68図)

135基のビットを検出した。調査区全体に分布する。堆積土中より土師器片、須恵器片、石製品、鋳滓、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

#### 8) 土塁残存範囲(第68図)

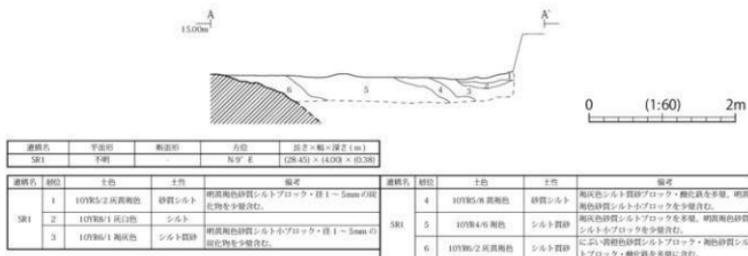
SD8 堀跡の西側で、土塁構築土が残存している範囲を確認している。

#### (2) 遺構外出土遺物

土師器片、須恵器片、陶磁器片、土師質土器片、石製品、金属製品、古銭、骨片、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。



第76図 SX1・2 性格不明遺構平面図・断面図



第77図 SR1 河川跡断面図

## 2. 2区の調査(付図2・3)

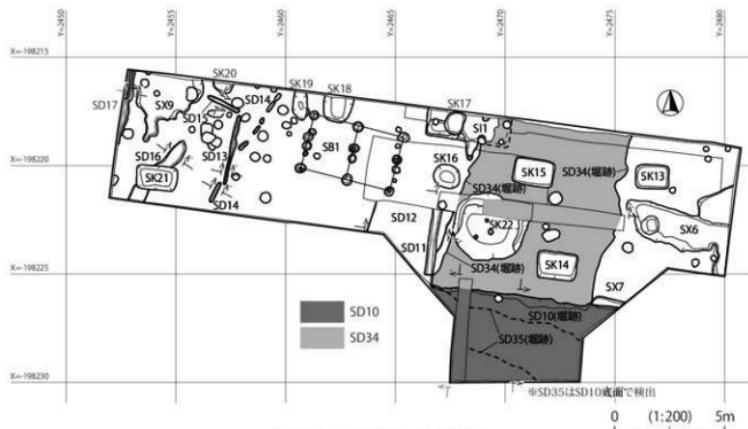
2区では、基本層Ⅲ層上面(古代以降の遺構検出面)において、竪穴住居跡1軒、掘立柱建物跡1棟、土坑10基、溝跡7条、堀跡3条、性格不明遺構3基、ピット49基を検出した。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

## (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物(第78～88図、図版2・3・22)

## 1) 竪穴住居跡

## SI1 竪穴住居跡(第79・80図、図版2・3・22)

[位置] 調査区中央北側に位置する。北側の大部分は調査区外へ延びる。



第78図 富沢館跡2区遺構配置図

### 第3節 富沢館跡

[重複関係] SK17、SD34、P120・187・1166と重複関係にあり、本遺構が古い。

[規模・形態] 規模は東西387cm、南北130cm以上である。東側をSD34により削平されているが、平面形は残存状況から方形を呈すると考えられる。柱穴・周溝は検出されていない。

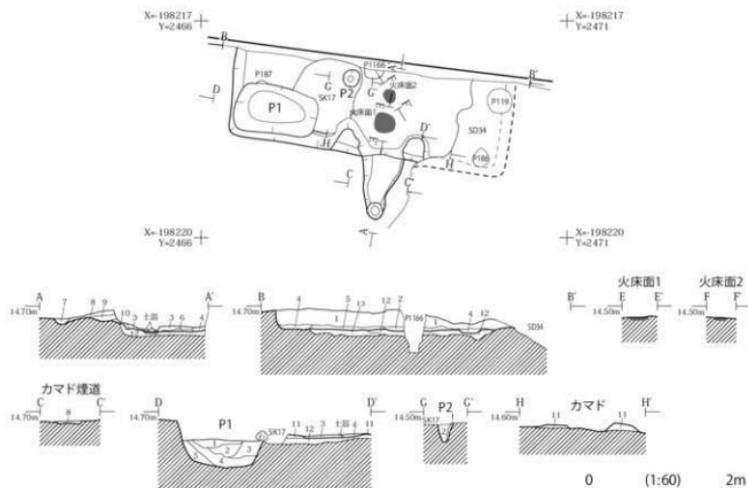
[主軸方位] カマド基準でS-9°-Wである。

[堆積土・構築土] 13層に分層された。1～6層は住居堆積土、7～10層はカマド内堆積土、11層はカマド袖構築土、12・13層は掘り方土である。

[壁面] 床面から外積して立ち上がる。壁高は床面から最大29cmである。

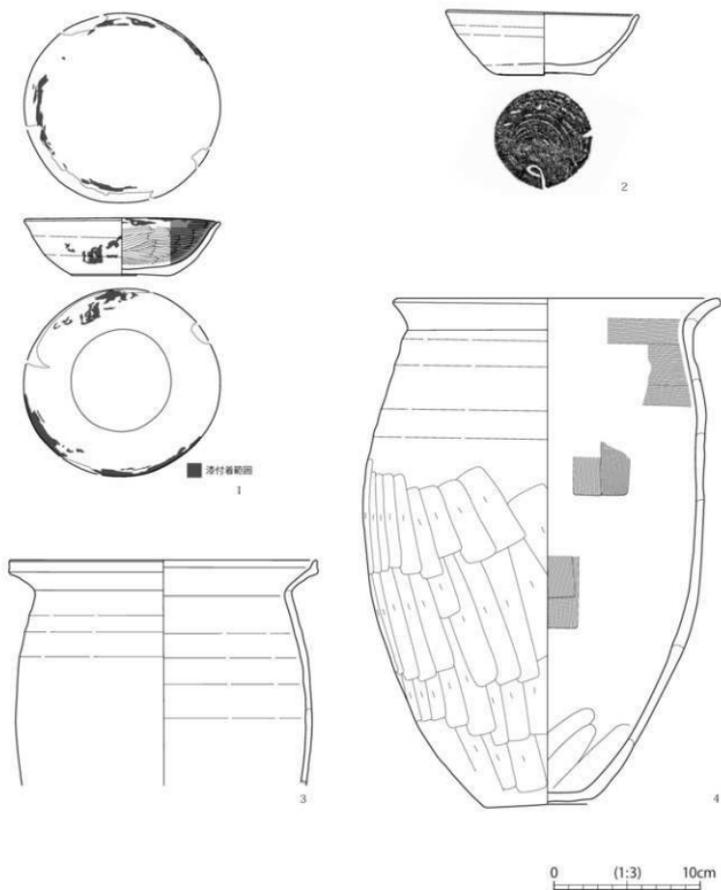
[床面] 掘り方土上面を床面とし、起伏する。カマドの北側で火床面2基を検出した。

[カマド] 南壁の中央に付設されている。規模は左袖が長さ33cm、幅29cm、床面からの高さ4cmで、右袖が長さ33cm、幅42cm、床面からの高さ9cmである。燃焼部の規模は奥行59cm、幅75cm、奥壁高6cmで、奥壁は住居内



遺構名		カマド	平面形	方位	長軸×短軸×深さ (m)				
S11		あり	方形	S-9°-W	(1.30 × 0.87) × 0.28				
P層号		平面形	敷設形	長軸×短軸×深さ (m)	P層号	平面形	敷設形	長軸×短軸×深さ (m)	
P1		掘り方	逆折形	1.12 × 0.65 × 0.36	P2	内凹	逆折形	0.24 × 0.23 × 0.25	
遺構名	層位	土色	1層	備考	遺構名	層位	土色	1層	備考
S11	1	10YR7/6 黄褐色	砂質シルト	層10mmの炭化物を多数、層1mmの焼土を少量含む。	S11	11	2.5Y8/2 灰褐色	砂質シルト	層1mmの炭化物を少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	層5mmの炭化物を多数、層1mmの焼土を少量含む。		12	10YR7/3 に近い黄褐色	砂質シルト	層1mmの炭化物を少量含む。
	3	5YR5/4 に近い赤褐色	砂質シルト	層10～30mmの灰い・黒褐色シルトブロック・層10mmの焼土ブロックを多数、層10～20mmの炭化物を少量含む。		13	10YR7/3 に近い黄褐色	砂質シルト	炭化物を微量含む。
	4	10YR6/1 黄褐色	砂質シルト		火床面1	1	2.5Y8/6 暗赤褐色	シルト	焼土、層1～2mmの炭化物を少量含む。
	5	7.5YR7/1 暗褐色	砂質シルト	層1～5mmの灰色砂・炭化物を少量、層1mmの焼土を少量含む。		2	2.5Y8/6 暗赤褐色	シルト	焼土、層1～2mmの炭化物を少量含む。
	6	7.5YR2/2 灰褐色	砂質シルト	層10mmの炭化物を含む。	火床面2	1	2.5Y8/2 灰赤褐色	砂質シルト	層1～5mmの炭化物・層1～3mmの焼土を少量含む。
	7	2.5Y8/2 灰褐色	砂質シルト	層1～2mmの焼土・炭化物を少量含む。		2	2.5Y8/2 灰赤褐色	砂質シルト	層1～3mmの炭化物・焼土を多数含む。
	8	2.5Y8/1 黄褐色	砂質シルト	層1mmの焼土・炭化物を少量含む。	P1	1	10YR5/2 灰赤褐色	砂質シルト	層1～5mmの焼土ブロック・層1～5mmの炭化物を少量含む。
	9	10YR4/1 黄褐色	砂質シルト	層1mmの焼土を少量含む。		2	2.5Y8/4 灰褐色	砂質シルト	層1mmの焼土・炭化物を少量含む。
	10	2.5Y8/2 灰赤褐色	砂質シルト	層1mmの焼土・白粉を少量含む。	P2	1	2.5Y8/2 灰赤褐色	砂質シルト	層1～2mmの炭化物を少量含む。
				2		10YR4/1 黄褐色	砂質シルト	層1～5mmの炭化物を少量含む。	

第79図 S11 竪穴住居跡平面図・断面図



№	登録番号	遺物名	材質	種類	用途	寸法×底径×取高(mm)	内装遺物	内装遺物	備考	互角関係
1	D-001	SI1	陶器	土師器	杯	13.5 × 6.6 × 4.0	口ケロ遺物 底窪: 斜板未処分	ヘラミナボ、黒色陶片	内外面に漆付着、内面 底に漆着。	22.2
2	D-002	SI1	陶器	土師器	杯	13.0 × 6.7 × 4.5	口ケロ遺物 底窪: 斜板未処分		内面に漆付着あり、内面 漆着。	22.3
3	D-040	SI1	陶器	土師器	甕	21.1 × . × 15.0	口ケロ遺物	口ケロ遺物	外装漆着。	22.4
4	D-041	SI1	陶器	土師器	甕	23.0 × 17.5 × 35.2	口ケロ遺物・ヘラケズリ	口ケロ遺物・ヘラケズリ・ユビ子 等	外装漆付着、内装漆着。	22.5

第80図 SI1 竪穴住居跡出土遺物

### 第3節 富沢館跡

に取まる。底面は中央がやや高まり、奥壁は外傾して立ち上がる。火床面1上面では土師器環、甕が多量に出土している。煙道部は長さ90cm、幅28～56cm、深さ3～15cmである。底面は先端部に向かって緩やかに傾斜する。煙出し部はビット状に落ち込み、長軸23cm、短軸22cm、深さ8cmである。

[その他の施設] 床面で2基のビット(P1・2)を検出した。P1は住居南西側に位置し、カマド右袖に近接する。規模は長軸112cm、短軸65cm、深さ38cmである。平面形は隅丸方形で、断面形は逆台形である。堆積土は5層に分層された。炭化物・焼土粒を含む。土師器・礫が出土している。P2は住居中央に位置する。規模は長軸24cm、短軸23cm、深さ25cmである。平面形は円形で、断面形はU字形である。堆積土は2層に分層された。いずれも柱痕跡は確認されていない。規模や位置関係から、P1は貯蔵穴と考えられる。

[掘り方] 深さ4～12cmである。底面は起伏し、中央部分が凹んでいる。

[出土遺物] 住居堆積土、床面、カマド、P1から土師器、赤焼土器片、須恵器片、金属製品、土製品、礫が出土しており、土師器4点を図示した。そのうち、土師器環(第80図1・2)、甕(第80図3・4)は床面直上から出土しており、年代は9世紀中頃～後半頃と考えられる。

#### 2) 掘立柱建物跡

SB1 掘立柱建物跡(第81図、図版3)調査区中央西側で検出した。建物内ではSK18と重複関係にあるが、柱穴との直接の重複はないため、新旧関係は不明である。規模は東西2間(北列西から209cm+211cm、総長420cm、南列西から210cm+208cm、総長418cm)、南北2間(東列北から109cm+145cm、総長254cm、中央列北から109cm+146cm、総長255cm、西列北から109cm+147cm、総長256cm)の掘立柱建物である。P3・7・12について、東柱の可能性が考えられる。その規模は東から207cm+207cm、総長414cmである。桁行方向はN-77°-Wである。その規模は東列北から159cm+95cm、総長254cm、中央列北から158cm+97cm、総長255cm、西列北から158cm+98cm、総長256cmである。平面形は長方形で、方向はN-77°-Wである。柱穴掘り方の平面形は不整形円形を主体とし、規模は長軸23～53cm、短軸22～47cm、深さ10～43cmである。P10・13以外のすべての柱穴で、径10～26cmの柱痕跡を検出した。遺物は出土しておらず、本遺構の詳細な年代は不明である。

#### 3) 土坑

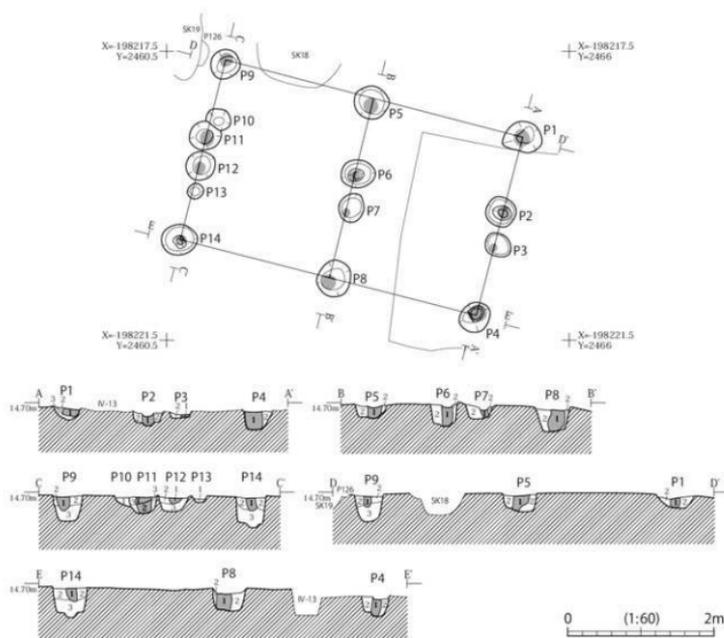
SK13 土坑(第82図)調査区東側で検出した。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-88°-Wである。規模は長軸152cm、短軸111cm、深さ78cmである。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は3層に分層された。遺物は出土していない。

SK14 土坑(第82図)調査区中央やや南東側で検出した。SD34と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-82°-Wである。規模は長軸180cm、短軸127cm、深さ82cmである。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は5層に分層された。遺物は出土していない。

SK15 土坑(第83図)調査区中央やや東側で検出した。SD34と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-82°-Wである。規模は長軸183cm、短軸124cm、深さ72cmである。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は7層に分層された。遺物は出土していない。

SK16 土坑(第83図)調査区中央で検出した。平面形は不整形円形で、長軸方向はN-76°-Wである。規模は長軸122cm、短軸107cm、深さ46cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は3層に分層された。遺物は出土していない。

SK17 土坑(第83図)調査区中央北側で検出した。SI1と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形円形で、長軸方向はN-12°-Eである。規模は長軸103cm、短軸85cm、深さ38cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は箱形で、底面は概ね平坦である。堆積土は6層に分層された。堆積土中より土師器片、被熱した礫が出土しているが、図示できる遺物はない。



遺構名	平面図	真輪方位	真輪×真輪 (m)	真輪×真輪 (m)
SB1	抜方形	N 77° W		4.20 × 2.56
P 番号	平面図	断面図	真輪×真輪×深さ (m)	P 番号
P1	平型内凹	逆凹形	0.53 × 0.45 × 0.18	P6
P2	竪入り形	U字形	0.69 × 0.40 × 0.22	P9
P3	平型輪内凹	輪形	0.58 × 0.52 × 0.10	P10
P4	平型輪内凹	U字形	0.45 × 0.38 × 0.28	P11
P5	円形	U字形	0.47 × 0.46 × 0.19	P12
P6	輪内凹	U字形	0.47 × 0.39 × 0.32	P13
P7	輪内凹	U字形	0.37 × 0.35 × 0.20	P14

遺構名	種類	土色	土質	層名	遺構名	種類	土色	土質	層名
P1	1	10YR4/1 黒灰色	砂質シルト	層 0.1 ~ 0.5mm の沈砂を少量含む。(柱間)	P8	1	10YR4/1 黒灰色	砂質シルト	層 0.1 ~ 0.5mm の沈砂を少量含む。(柱間)
	2	10YR6/2 灰黒褐色	砂質シルト	層 1mm の沈砂を少量含む。(柱間)		2	2.5Y5/2 暗灰褐色	砂質シルト	層 1 ~ 5mm の沈砂を少量含む。(柱間)
P2	1	10YR4/1 黒灰色	砂質シルト	層 0.1 ~ 0.5mm の沈砂を少量含む。(柱間)	P9	1	10YR4/1 黒灰色	砂質シルト	層 0.1 ~ 0.5mm の沈砂を少量含む。(柱間)
	2	2.5Y5/2 暗灰褐色	砂質シルト	層 1 ~ 5mm の沈砂を含む。(柱間)		2	10YR6/2 灰黒褐色	砂質シルト	層 1mm の沈砂を少量含む。(柱間)
P3	1	2.5Y5/2 暗灰褐色	砂質シルト	層 0.1 ~ 5mm の沈砂を少量含む。(柱間)	P10	1	10YR5/2 灰黒褐色	砂質シルト	層 1 ~ 2mm の沈砂を少量含む。(柱間)
	2	10YR4/1 黒灰色	砂質シルト	層 0.1 ~ 0.5mm の沈砂を少量含む。(柱間)		2	10YR5/2 灰黒褐色	砂質シルト	層 0.1 ~ 0.5mm の沈砂を少量含む。(柱間)
P4	1	10YR4/1 黒灰色	砂質シルト	層 0.1 ~ 0.5mm の沈砂を少量含む。(柱間)	P11	1	10YR4/1 黒灰色	砂質シルト	層 0.1 ~ 0.5mm の沈砂を少量含む。(柱間)
	2	2.5Y5/2 暗灰褐色	砂質シルト	層 1 ~ 5mm の沈砂を少量含む。(柱間)		2	2.5Y5/2 暗灰褐色	砂質シルト	層 1 ~ 5mm の沈砂を少量含む。(柱間)
P5	1	10YR4/1 黒灰色	砂質シルト	層 0.1 ~ 0.5mm の沈砂を少量含む。(柱間)	P12	1	10YR4/1 黒灰色	砂質シルト	層 0.1 ~ 0.5mm の沈砂を少量含む。(柱間)
	2	2.5Y5/2 暗灰褐色	砂質シルト	層 1 ~ 5mm の沈砂を少量含む。(柱間)		2	10YR6/2 灰黒褐色	砂質シルト	層 1mm の沈砂を少量含む。(柱間)
P6	1	10YR4/1 黒灰色	砂質シルト	層 0.1 ~ 0.5mm の沈砂を少量含む。(柱間)	P13	1	10YR5/2 灰黒褐色	砂質シルト	層 1 ~ 5mm の沈砂を少量含む。(柱間)
	2	2.5Y5/2 暗灰褐色	砂質シルト	層 1 ~ 5mm の沈砂を少量含む。(柱間)		2	10YR4/1 黒灰色	砂質シルト	層 0.1 ~ 0.5mm の沈砂を少量含む。(柱間)
P7	1	10YR4/1 黒灰色	砂質シルト	層 0.1 ~ 0.5mm の沈砂を少量含む。(柱間)	P14	1	10YR4/1 黒灰色	砂質シルト	層 0.1 ~ 0.5mm の沈砂を少量含む。(柱間)
	2	2.5Y5/2 暗灰褐色	砂質シルト	層 1 ~ 5mm の沈砂を少量含む。(柱間)		2	10YR6/2 灰黒褐色	砂質シルト	層 1mm の沈砂を少量含む。(柱間)

第 81 図 SB1 掘立柱建物跡平面図・断面図

### 第3節 富沢館跡

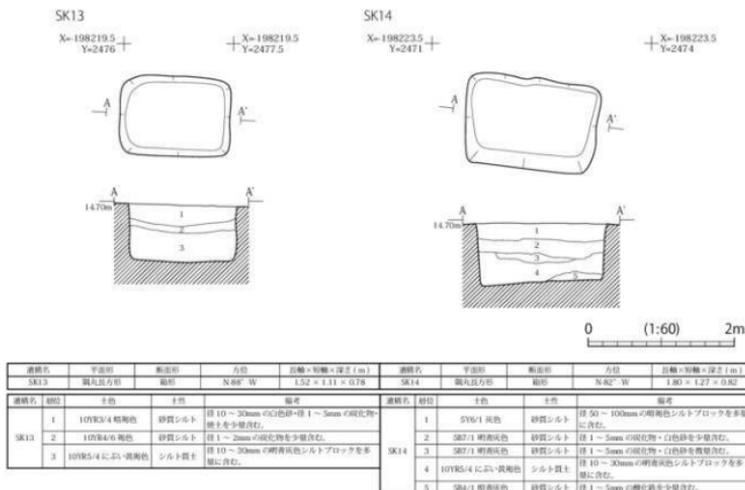
SK18土坑(第83図)調査区北西側で検出した。北側は調査区外へ延びる。SB1の建物範囲で重複するが、柱穴との直接の重複はないため、新旧関係は不明である。平面形は楕円形と考えられ、長軸方向はN-12°-Eである。規模は長軸112cm以上、短軸130cm、深さ28cmである。壁面は、外傾して緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は3層に分層された。遺物は出土していない。

SK19土坑(第84図)調査区北西側で検出した。北側は調査区外へ延びる。P126と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整楕円形と考えられ、長軸方向はN-2°-Wである。規模は長軸127cm以上、短軸67cm、深さ73cmである。壁面は外傾して立ち上がり、北壁の中心に段がついている。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は5層に分層された。堆積土中より土師器片、炭化物、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK20土坑(第84図)調査区北西側で検出した。北側は調査区外へ延びる。平面形は不整円形と考えられる。規模は東西93cm、南北48cm以上、深さ26cmである。壁面は、やや内湾気味に立ち上がっている。断面形はU字形で、底面は緩やかに凹む。堆積土は2層に分層された。堆積土中より土師器片、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

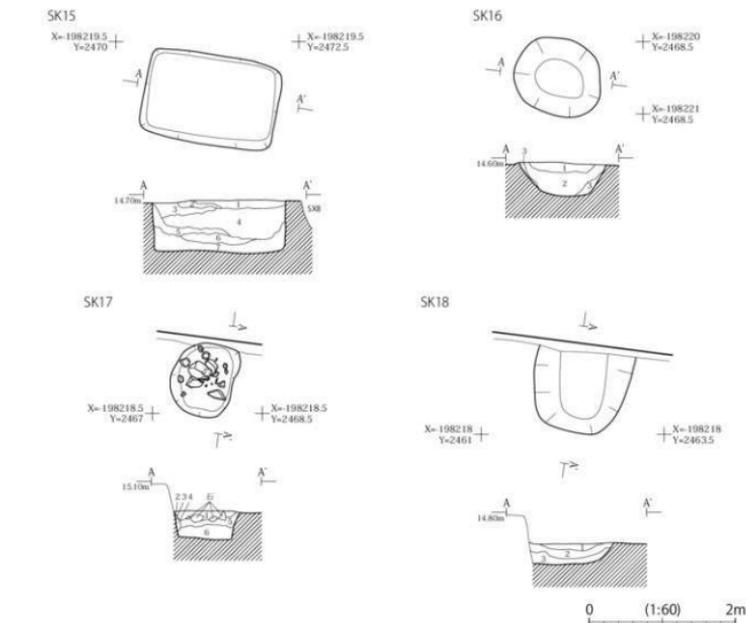
SK21土坑(第84・85図、図版22)調査区南西側で検出した。SD16と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-84°-Wである。規模は長軸184cm、短軸111cm、深さ30cmである。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は5層に分層された。堆積土中より土師器片、陶磁器片、砥石、硯、石製品、金属製品、古銭、土製品が出土しており、1層から出土した古銭1点(第85図1)を図示した。

SK22土坑(第84図、図版3)調査区中央で検出した。北側は試掘トレンチにより削平される。SD34と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整円形で、長軸方向はN-8°-Eである。規模は長軸332cm、短軸310cm、深さ100cmである。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや凹み、東西にテラス状の



第82図 SK13・14土坑平面図・断面図

高まりを持っている。堆積土は5層に分層された。底面西側で、打ち込まれたと考えられる杭を検出した。底面で3基のピット(P1~3)を検出した。規模は長軸15~25cm、短軸14~22cm、深さ8~12cmで、平面形は隅丸方形で、断面形は逆台形を呈する。いずれも柱痕跡は確認されていない。堆積土中より木製品が出土しているが、図示できる遺物はない。



遺構名	平面形	断面形	方位	長軸×短軸×深さ(m)	遺構名	平面形	断面形	方位	長軸×短軸×深さ(m)
SK15	隅丸長方形	楕円	N 62° W	1.83 × 1.24 × 0.72	SK17	半楕円形	楕円	N 12° E	1.03 × 0.85 × 0.36
SK16	半楕円形	逆台形	N 2° W	1.22 × 1.07 × 0.46	SK18	楕円	逆台形	N 12° E	1.12 × 1.30 × 0.28

遺構名	層位	土色	土質	備考	遺構名	層位	土色	土質	備考
SK15	1	2.03/0.1 黄灰色	砂質シルト	層1~2mmの角礫物を少量含む。	SK17	1	2.03/0.2 灰褐色	砂質シルト	層1~2mmの角礫物を少量含む。
	2	2.03/0.1 黄灰色	砂質シルト	層1~3mmの角礫物を少量含む。		2	10YR5/2 灰褐色	砂質シルト	層1~5mmの角礫物を少量含む。
	3	2.03/0.1 黄灰色	砂質シルト	層10~50mmの角礫物を多量、層10~30mmの礫を少量含む。		3	2.03/0.1 黄灰色	砂質シルト	層0.5~1mmの角礫物を多量、層5~10mmの角礫物を多量に含む。
	4	10YR 6/1 黄褐色	砂質シルト	層10~30mmの褐色灰褐色シルトブロック・礫化土を多量に含む。		4	10YR5/2 灰褐色	砂質シルト	
	5	10YR5/4 に近い黄褐色	シルト質土	層10~30mmの褐色灰褐色シルトブロックを多量、礫化土を少量含む。		5	10YR5/4 に近い黄褐色	砂質シルト	
	6	10YR5/4 に近い黄褐色	シルト質土	層10~30mmの褐色灰褐色シルトブロックを多量、礫化土を少量含む。		6	2.03/0.2 灰褐色	砂質シルト	礫化土を少量含む。
SK16	1	2.03/0.2 灰褐色	砂質シルト	層10~20mmの角礫物ブロックを少量含む。	SK18	1	10YR5/1 黄褐色	砂質シルト	層1~2mmの角礫物を多量に含む。
	2	10YR5/1 黄褐色	砂質シルト	層5mmの角礫物を少量含む。		2	2.03/0.2 黄褐色	砂質シルト	層1~2mmの角礫物を多量含む。
	3	10YR7/1 灰白色	砂質シルト	層0.5~1mmの角礫物を少量含む。		3	2.03/0.2 黄褐色	砂質シルト	層10mmの礫を少量含む。

第83図 SK15~18土坑平面図・断面図

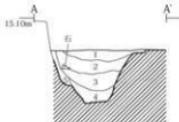
第3節 富沢館跡

SK19

X=198216  
Y=2460

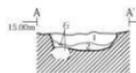


X=198218  
Y=2460



SK20

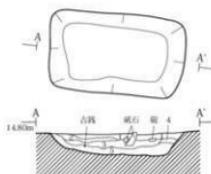
X=198217  
Y=2456



SK21

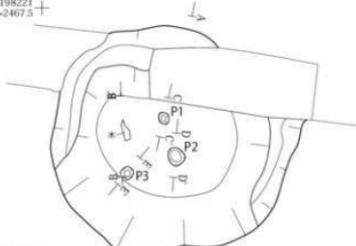
X=198219.5  
Y=2453

X=198219.5  
Y=2455

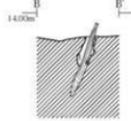
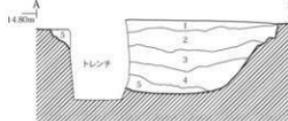


SK22

X=198221  
Y=2467.5



X=198224.5  
Y=2467.5



X=198224.5  
Y=2467.5

X=198224.5  
Y=2467.5

X=198224.5  
Y=2467.5

X=198224.5  
Y=2467.5

0 (1:60) 2m

遺構名	平面図	断面図	方位	目録×目録=深さ(m)	遺構名	平面図	断面図	方位	目録×目録=深さ(m)
SK19	半壁面切取	逆切取	N 2° W	(0.27) × (0.67 × 0.73)	SK21	築丸左面	逆切取	N 84° W	1.84 × 1.11 × 0.30
SK20	半壁面切取	逆切取		0.93 × 0.438 × 0.20	SK22	半壁面切取	逆切取	N 8° E	3.32 × 3.10 × 1.00

遺構名	層位	土色	土質	備考	遺構名	層位	土色	土質	備考
SK19	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	層 1 ~ 5mm の腐植物を少量含む。	SK21	1	2.5Y7/1 灰白色	砂質シルト	層 100mm のC(2)~C(2)黄褐色シルトブロックを少量含む。
	2	10YR4/1 黄灰色	砂質シルト	層 0.5 ~ 1mm のC(2)色砂粒を少量含む。		2	2.5Y7/1 灰白色	砂質シルト	層 100mm のC(2)~C(2)黄褐色シルトブロックを少量含む。
	3	10YR4/1 黄灰色	砂質シルト	層 1 ~ 5mm の腐植物を少量含む。	SK22	3	5B7/1 暗黄褐色	砂質シルト	層 50 ~ 100mm の明黄褐色砂質ブロックを少量含む。
	4	2.5Y5/2 暗灰褐色	砂質シルト	層 10 ~ 30mm の礫を少量含む。		4	5B7/1 暗黄褐色	砂質シルト	層 50 ~ 100mm の明黄褐色砂質ブロックを少量含む。
SK20	1	10YR6/4 赤褐色	砂質シルト	腐化層「フツ」を少量含む。	SK22 P1 ~ 3	1	5B6/1 黄褐色	シルト	層 1 ~ 5mm の腐植物を少量含む。
	2	2.5Y6/1 黄灰色	砂質シルト	腐化層を多量に含む。					
SK21	1	2.5Y5/2 暗灰褐色	砂質シルト	層 5mm の腐植物を少量含む。					
	2	10YR6/6 暗黄褐色	砂質シルト	腐化層を多量に含む。					
	3	10YR1/1 灰色	砂質シルト	層 10 ~ 20mm の腐植物を少量含む。					
	4	7.5YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	層 1mm の礫を少量含む。					
SK22	1	7.5YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	層 1 ~ 2mm の腐植物を少量含む。					
	2	5Y5/1 灰褐色	砂質シルト	層 1 ~ 2mm の腐植物を少量含む。					

第84図 SK19 ~ 22土坑平面図・断面図



0 (2:3) 5cm

No.	中核番号	遺構名	種類	構造	位置	長さ・幅・高さ (m)	重畳層	備考	写真掲載
1	B-013	SK21	1	土坑	石段	長さ2.4×幅径0.6	高さ3.10	新田遺構(1697)	22.6

第85図 SK21土坑出土遺物

## 4) 溝跡・堀跡

SD10 堀跡 (第78・86図) 調査区南側で検出した。東西方向の堀跡である。SD12・34・35、SX7、P121と重複関係にあり、SD12・34・35、SX7より新しく、P121より古い。方向はN-81°-Wで、規模は長さ7.75m以上、幅405cm以上、深さ27cmである。断面形は皿形である。堆積土は3層に分層された。遺物は土師器片、陶磁器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD11 溝跡 (第78・86図) 調査区中央で検出した。南北方向の溝跡で、北側はトレンチにより削平される。SD12と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向はN-7°-Eで、規模は長さ300cm以上、幅40cm、深さ13cmである。断面形はU字形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD12 溝跡 (第78・86図) 調査区中央で検出した。南北方向の溝跡で、南側は調査区外へ延び、北側はトレンチにより削平される。SD10・11・34と重複関係にあり、SD34より新しく、SD10・11より古い。方向はN-8°-Eで、規模は長さ6.90m以上、幅349cm、深さ13cmである。断面形は皿形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD13 溝跡 (第78・86図) 調査区西側で検出した。南北方向の溝跡である。SD14と重複関係にあるが、直接の重複はないため、新旧関係は不明である。方向はN-12°-Eで、規模は長さ326cm、幅27cm、深さ5cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD14 溝跡 (第78・86図) 調査区西側で検出した。部分的に途切れているが、南北方向に延びる一連の溝跡である。SD13と重複関係にあるが、直接の重複はないため、新旧関係は不明である。方向はN-38°-Eで、規模は長さ5.96m、幅18cm、深さ5cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD15 溝跡 (第78・86図) 調査区西側で検出した。東西方向の溝跡である。方向はN-65°-Wで、規模は長さ160cm、幅20cm、深さ5cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD16 溝跡 (第78・86図) 調査区西側で検出した。南北方向の溝跡で、南端は調査区外へ延びる。SK21と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-40°-Eで、SK21と重複する部分で回曲する。規模は長さ350cm、幅75cm、深さ5cmである。断面形は皿形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD17 溝跡 (第78・86図) 調査区西端で検出した。南北方向の溝跡で、調査区外へ延びる。SX9と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向はN-11°-Eで、規模は長さ350cm以上、幅25cm、深さ13cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片、陶磁器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD34 堀跡 (第78・86図、図版3) 調査区中央東側で検出した。南北方向の堀跡で、調査区外へ延びる。S11、SK14・15・22、SD10・12・35、SX7、P116～120・186と重複関係にあり、S11より新しく、その他の遺構より古い。トレンチを設定して調査を行ったが、底面まで完掘していない。方向はN-21°-Eで、規模は長さ9.20m以上、幅7.30m、深さ100cm以上である。断面形は不明である。堆積土は9層に分層された。遺物は出土していない。

SD35 堀跡 (第78・86図、図版3) 調査区中央で検出した。東西方向の堀跡で、調査区外へ延びる。SD10と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-70°-Wで、規模は長さ7.30m以上、幅250cm以上、深さ60cmである。

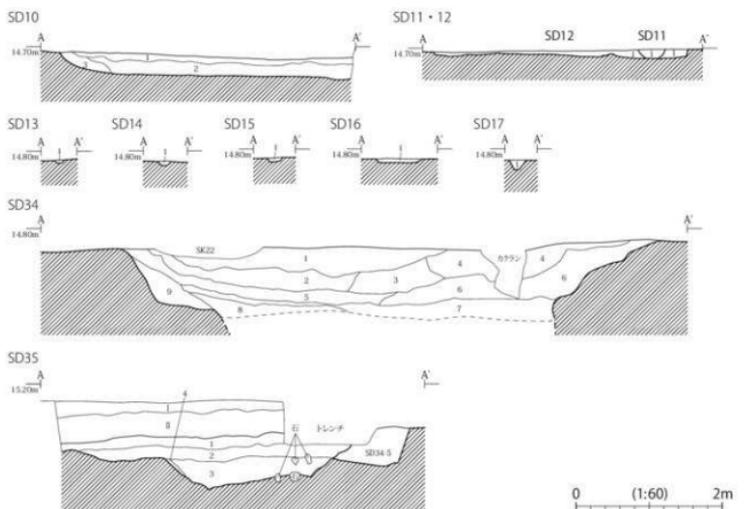
### 第3節 富沢館跡

断面形は逆台形である。堆積土は4層に分層された。堆積土中より礫が出土しているが、図示できる遺物は無い。

#### 5) 性格不明遺構

5X6 性格不明遺構 (第87図) 調査区東側で検出した。東側は調査区外へ延びる。平面形は不整形と考えられ、規模は東西487cm以上、南北416cm以上、深さ20cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は起伏し西側にピット状の落ち込みがある。堆積土は4層に分層された。堆積土中より土器器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

5X7 性格不明遺構 (第88図) 調査区南東側で検出した。東側は調査区外へ延びる。SD10・34と重複関係にあり、

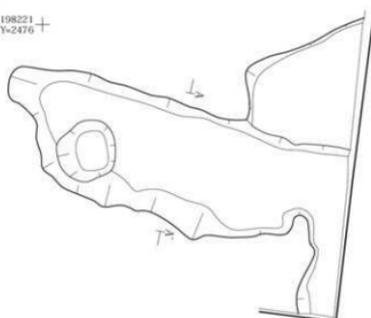


遺構名	平面形	断面形	方位	高さ×幅×深さ(m)	遺構名	平面形	断面形	方位	高さ×幅×深さ(m)
SD10	竪形	竪形	N 81° E	17.72 × 14.05 × 0.27	SD13	竪形	竪形	N 40° E	1.60 × 0.20 × 0.05
SD11	竪形	逆台形	N 7° E	13.00 × 3.40 × 0.13	SD16	竪形	竪形	N 40° E	13.50 × 0.75 × 0.05
SD12	竪形	竪形	N 8° E	8.90 × 3.49 × 0.13	SD17	竪形	逆台形	N 41° E	13.50 × 0.25 × 0.15
SD13	竪形	逆台形	N 12° E	3.26 × 0.27 × 0.05	SD34	竪形	---	N 21° E	8.20 × 7.30 × 0.00
SD14	竪形	逆台形	N 38° E	5.96 × 0.18 × 0.05	SD35	竪形	逆台形	N 30° W	17.30 × 12.50 × 0.60

遺構名	層別	土質		備考	遺構名	層別	土質		備考
		1層	2層				1層	2層	
SD10	1	2.5V5/2 粘灰褐色	砂質シルト	層1 ~ 2cmの(1)色砂を少量含む。	SD34	1	2.5V6/1 黄灰色	シルト	層1 ~ 5cmの硝化物を微量含む。
	2	10YR5/1 黄灰色	砂質シルト	礫粒混入多数、層10 ~ 50mmの礫を少量含む。		2	2.5V6/1 黄灰色	シルト	層1 ~ 5cmの硝化物を微量含む。
	3	10YR5/1 黄灰色	砂質シルト	層10mmの硝化物シルトブロックを少量含む。		3	2.5V4/1 黄灰色	シルト質砂	層1 ~ 3cmの(1)色砂を少量含む。
4	10YR5/2 灰褐色	砂質シルト	層10 ~ 30mmの礫を少量含む。	4		10YR5/1 黄灰色	シルト	層10 ~ 20mmの硝化物を少量含む。	
SD11	1	10YR5/2 灰褐色	砂質シルト	層10 ~ 30mmの礫を少量含む。	5	10YR5/4 に近い黄褐色	シルト質砂	層10 ~ 30mmの灰色シルトブロックを少量含む。	
SD12	1	2.5V5/2 粘灰褐色	砂質シルト	層1 ~ 2cmの砂を少量含む。	6	10YR5/4 に近い黄褐色	シルト質砂	硝化物を少量含む。	
SD13	1	5Y6/1 灰色	砂質シルト	層1 ~ 5cmの(1)色砂質シルトブロックを少量含む。	7	10YR5/4 に近い黄褐色	シルト質砂	硝化物を微量含む。	
SD14	1	5Y6/1 灰色	砂質シルト	層1 ~ 5cmの(1)色砂質シルトブロックを少量含む。	8	2.5M1 粘灰褐色	シルト	礫粒を微量含む。	
SD15	1	5Y6/1 灰色	砂質シルト	層1 ~ 5cmの(1)色砂質シルトブロックを少量含む。	9	7.5Y6/1 黄灰色	砂	---	
SD16	1	5Y6/1 灰色	シルト	層1cmの(1)色砂を少量含む。	1	2.5V6/1 黄灰色	シルト質砂	層1 ~ 2cmの硝化物を微量含む。	
SD17	1	10YR5/1 黄灰色	シルト	層1 ~ 5cmの硝化物を少量含む。	2	2.5V4/1 黄灰色	シルト	---	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	砂の下層及び(1)・(4)層の硝化物に大礫・丸・扁平を含む。	
					4	7.5Y5/8 黄褐色	シルト	礫粒混入、(1)層との境界面に連続する。	

第86図 SD10・34・35地跡 SD11～17溝跡断面図

SX6

X=198221  
Y=2476

0 (1:60) 2m

遺構名	平面図	断面図	方位	直径・距離(単位1m)	遺構名	平面図	断面図	備考
SX6	不整形	砂質土		14.87 × 4.10 × 0.20	SX6	2	2.575:1 直交角	砂質シルト 腐乱土を少量含む。
	1	7.278:2 直交角	砂質シルト	径1~20mmの腐乱土・粘土を少量含む。		3	2.575:1 直交角	砂質シルト 腐乱土を少量含む。
	2	10.916:2 直交角	砂質シルト	径10~20mmの明青色灰砂ブロックを少量含む。		4	7.5185:4に勾配	砂質シルト 径1mmの腐乱土を少量含む。

第 87 図 SX6 性格不明遺構平面図・断面図

SD34 より新しく、SD10 より古い。平面形は不整形と考えられ、規模は東西 208cm以上、南北 100cm以上、深さ 23cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや起伏する。堆積土は 2層に分層された。堆積土中より土師質土器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SX9 性格不明遺構(第 88 図)調査区北西隅で検出した。北側は調査区外へ延びる。SD17、P154~157 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形と考えられ、規模は東西 323cm以上、南北 312cm以上、深さ 21cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は U 字形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片、金属製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

#### 6) ビット(第 78 図)

49 基のビットを検出した。調査区全体に分布し、特に調査区西側に多い。堆積土中より古銭が出土しているが、図示できる遺物はない。

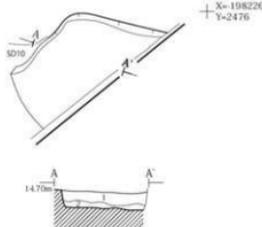
#### (2) 遺構外出土遺物

土師器片、須恵器片、陶磁器片、土師質土器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

### 第3節 富沢館跡

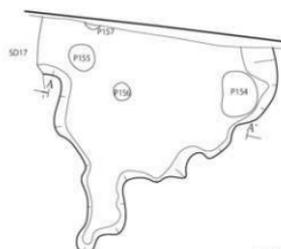
SX7

X=198226  
Y=2473



SX9

X=198215  
Y=2456



X=198219  
Y=2456

0 (1:60) 2m



遺構名	平面図	断面図	方位	長軸×短軸×高さ (m)	遺構名	平面図	断面図	方位	長軸×短軸×高さ (m)
SX7	平面図	断面図		12.00 × 11.00 × 0.23	SX9	平面図	断面図		12.20 × 13.20 × 0.21

遺構名	種類	土色	土層	備考	遺構名	種類	土色	土層	備考
SX7	1	7.33B(1) 黒褐色	砂質シルト	厚 1 ~ 2mm の面状物・径 0.1 ~ 0.5mm の口物・砂を少量含む。	SX9	1	10YR5/2 黄褐色	砂質シルト	厚 1mm の面状物を微量含む。
	2	2.5Y5/2 暗灰褐色	砂質シルト	礫比率を少量含む。					

第 88 図 SX7・9 性格不明遺構平面図・断面図

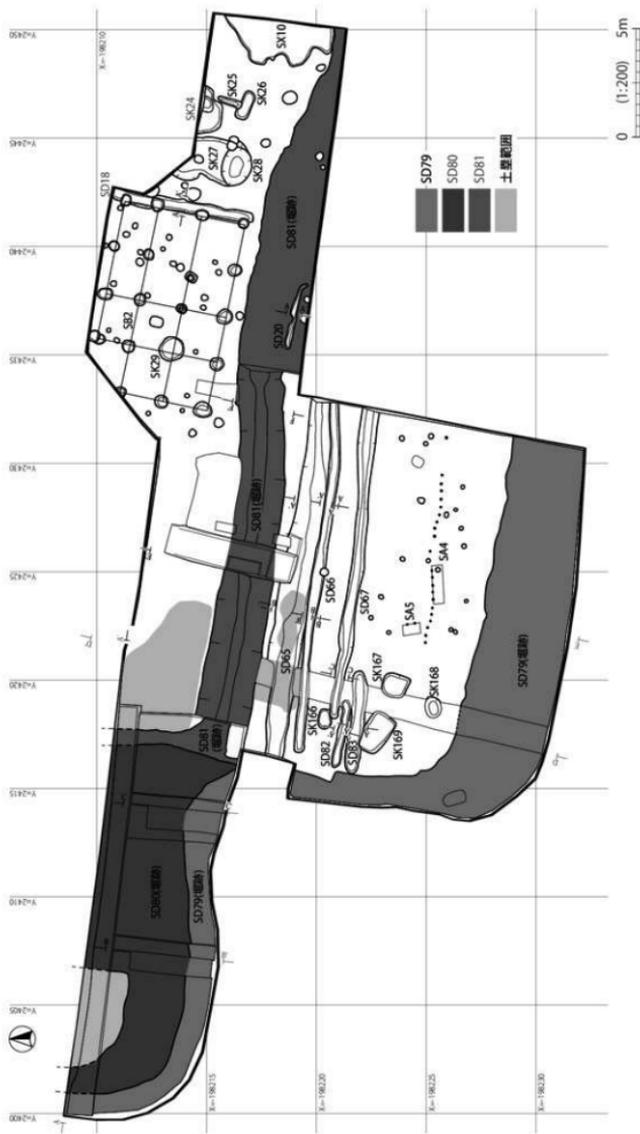
### 3. 3区の調査 (付図 2・3)

3区では、基本層Ⅲ層上層 (古代以降の遺構検出面) において、掘立柱建物跡 1 棟、杭列 2 列、土坑 10 基、溝跡 7 条、堀跡 3 条、性格不明遺構 1 基、ピット 58 基を検出した。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

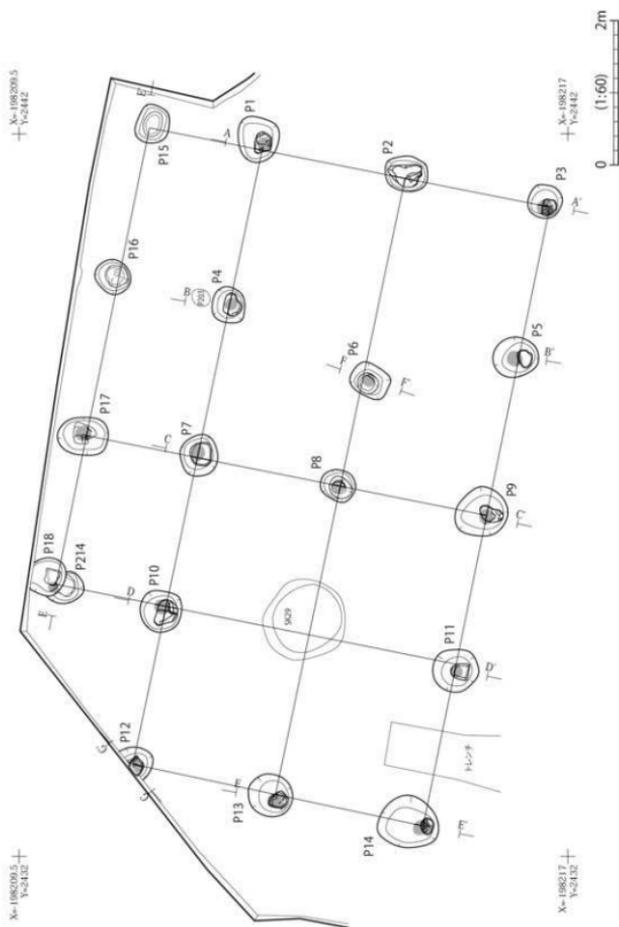
#### (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物 (第 89 ~ 99 図、図版 3 ~ 5・22・23)

##### 1) 掘立柱建物跡

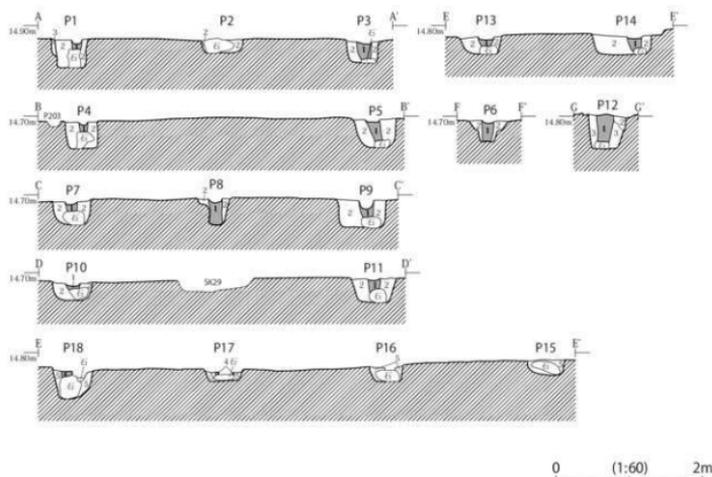
SB2 掘立柱建物跡 (第 90・91 図、図版 3・4) 調査区北東側で検出した。北西側は調査区外に延びると考えられる。SD18、P214 と重複関係にあり、本遺構が新しい。また、建物範囲では SK29、多数のピットと重複関係にあるが、柱穴の直接の重複はないため、新旧関係は不明である。3 × 4 間の東西棟で、総柱建物である。柱間寸法は、東西が北列西から 210cm + 435cm、総長 6.45m、北から 2 列目西から 223cm + 210cm + 435cm、総長 8.68m、北から 3 列目西から 436cm + 435cm、総長 8.71m、南列西から 228cm + 210cm + 436cm、総長 8.74m である。南北が東列北から 157cm + 199cm + 202cm、総長 5.58m、東から 2 列目北から 155cm + 199cm + 204cm、総長 5.58m、東から 3 列目北から 153cm + 198cm + 205cm、総長 5.56m、西列北から 199cm + 207cm、総長 406cm である。桁行方向は N-78° - W である。柱穴掘り方の平面形は円形を主体とし、規模は長軸 46 ~ 82cm、短軸 28 ~ 72cm、深さ 14 ~ 48cm である。P4 ~ 6・16 は東柱の可能性が考えられる。規模は北から 161cm + 215cm + 204cm、総長 5.80m である。P2・P15・16 以外のすべての柱穴で、径 12 ~ 24cm の柱痕跡を検出した。P6・8 以外の柱穴の底部には自然礫の礎板が出土している。遺物は出土しておらず、本遺構の詳細な年代は不明である。



第 89 図 富沢駅跡3区画構配置図



第90図 582 掘立柱建物跡平面図



遺構名	平面形		長軸方向		長軸・短軸 (m)	
SB2	長方形		N 78° W		8.74 × 5.5	
P番号	平面形	断面形	長軸 × 短軸 × 深さ (m)	P番号	平面形	断面形
P1	円形	U字形	0.64 × 0.58 × 0.60	P10	円形	U字形
P2	円形	U字形	0.58 × 0.50 × 0.60	P11	円形	U字形
P3	円形	U字形	0.46 × 0.43 × 0.30	P12	円形	U字形
P4	円形	U字形	0.50 × 0.46 × 0.36	P13	円形	U字形
P5	円形	U字形	0.62 × 0.62 × 0.40	P14	半円形	U字形
P6	半円形	逆円形	0.52 × 0.44 × 0.30	P15	円形	逆円形
P7	半円形	U字形	0.56 × 0.50 × 0.34	P16	半円形	逆円形
P8	円形	U字形	0.50 × 0.46 × 0.36	P17	半円形	逆円形
P9	半円形	U字形	0.74 × 0.68 × 0.40	P18	円形	逆円形
				P19	円形	逆円形
						0.52 × 0.46 × 0.20

遺構名	種類	土色	粒径	状態	備考	遺構名	種類	土色	粒径	状態	備考
SB2	1	5YR4.2 灰褐色	砂質シルト	径 1 ~ 3mm の硬化物・骨土を少量含む。(付着)	SB2	4	5YR4.2 灰褐色	砂質シルト	径 1 ~ 3mm の硬化物・骨土を少量含む。(付着)		
	2	7.5YR4.4 褐色	砂質シルト	径 2 ~ 3mm の明確な砂粒・シルトを多量に含む。		5	7.5YR4.4 褐色	砂質シルト	径 2 ~ 3mm の明確な砂粒・シルトを多量に含む。		
	3	10YR5.6 黄褐色	砂質シルト	径 10mm の明確な灰色ブロックを多量に含む。							

第 91 図 SB2 掘立柱建物跡断面図

## 2) 杭列跡

SA4 杭列跡 (第 92 図、図版 4) 調査区中央南側で検出した。検出した杭跡は 22 基で、東西方向に延びる。規模は総長 9.60m、杭の間隔は西から 33cm + 38cm + 33cm + 31cm + 30cm + 39cm + 34cm + 32cm + 38cm + 31cm + 89cm + 72cm + 37cm + 31cm + 35cm + 36cm + 36cm + 39cm + 32cm + 41cm + 174cm である。杭列方向は N-85°-W である。平面形はいずれも円形で、径 5 ~ 10cm、深さ 17 ~ 25cm である。いずれも打ち込み杭と考えられる。SA4-P3・4 の北側に SB 5 杭列跡が位置し、一連の杭列跡と考えられる。時期は不明である。

SA5 杭列跡 (第 92 図、図版 4) 調査区中央南側で検出した。検出した杭跡は 2 基で、南北方向に延びる。規模は総長 43cm、杭の間隔は 33cm である。杭列方向は N-10°-W である。平面形はいずれも円形で、径 6 ~ 7cm、深さ 6 ~ 8cm である。いずれも打ち込み杭と考えられる。SA5-P2 の南側に SB4 杭列跡が位置し、一連の杭列跡と考えられる。時期は不明である。



## 3) 土坑

SK24 土坑 (第 93 図) 調査区北東側で検出した。北側は調査区外へ延びる。平面形は不整形と考えられ、規模は東西 228cm 以上、南北 92cm 以上、深さ 16cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層された。遺物は出土していない。

SK25 土坑 (第 93 図) 調査区北東側で検出した。SK26 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形円形で、長軸方向は N-17°-E である。規模は長軸 113cm、短軸 31cm、深さ 20cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦だが南に向かって下がっている。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK26 土坑 (第 93 図) 調査区北東側で検出した。SK25 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形で、長軸方向は N-71°-W である。規模は長軸 136cm、短軸 60cm、深さ 18cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK27 土坑 (第 93 図) 調査区北東側で検出した。北側は調査区外へ延びる。SK28、P190 ~ 192 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形と考えられ、長軸方向は不明である。規模は長軸 272cm 以上、短軸 204cm、深さ 20cm である。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は起伏する。堆積土は単層である。堆積土中より礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK28 土坑 (第 93 図) 調査区北東側で検出した。SK27、P191 と重複関係にあり、SK27 より新しく、P191 より古い。平面形は楕円形で、長軸方向は N-81°-W である。規模は長軸 180cm、短軸 134cm、深さ 58cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は U 字形で、底面は丸みを持つ。堆積土は 2 層に分層された。堆積土中より礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK29 土坑 (第 93 図) 調査区北東側で検出した。SB2 の建物範囲内に位置するが、柱穴との直接の重複はないため、新旧関係は不明である。平面形は不整形円で、長軸方向は N-78°-W である。規模は長軸 114cm、短軸 110cm、深さ 13cm である。壁面は、東壁はほぼ垂直に立ち上がり、西側は外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面はやや起伏する。堆積土は 3 層に分層された。遺物は出土していない。SB2 とは直接の重複関係はないが、建物範囲内に位置することから、関係する施設である可能性がある。

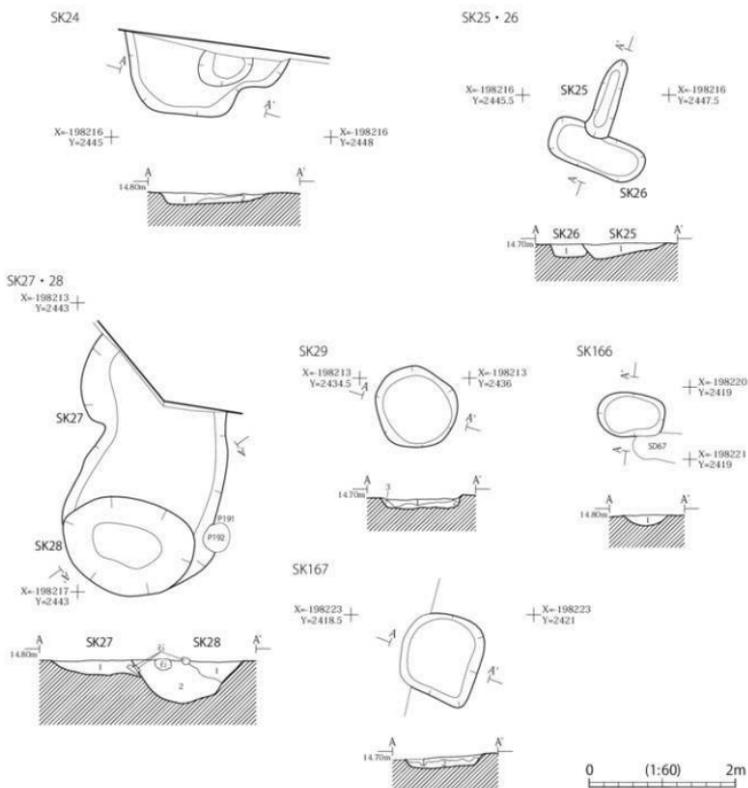
SK166 土坑 (第 93 図) 調査区中央やや南西側で検出した。SD67 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形で、長軸方向は N-83°-W である。規模は長軸 92cm、短軸 61cm、深さ 15cm である。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は丸みを持つ。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK167 土坑 (第 93 図) 調査区中央やや南西側で検出した。上部西側は掘乱により削平される。平面形は隅丸方形で、長軸方向は N-23°-E である。規模は長軸 115cm、短軸 108cm、深さ 15cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK168 土坑 (第 94 図) 調査区中央やや南西側で検出した。上部西側は掘乱により削平される。平面形は不整形円形で、長軸方向は N-82°-W である。規模は長軸 93cm、短軸 75cm、深さ 22cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は丸みを持つ。堆積土は 2 層に分層された。堆積土中より縄文土器片、土師器片、須恵器片、石製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK169 土坑 (第 94 図) 調査区中央やや南西側で検出した。上部東側は掘乱により削平される。SD83 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-55°-W である。規模は長軸 192cm、短軸 121cm、深さ 17cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は概ね平坦である。堆積土は 2 層に分層

第3節 富沢館跡

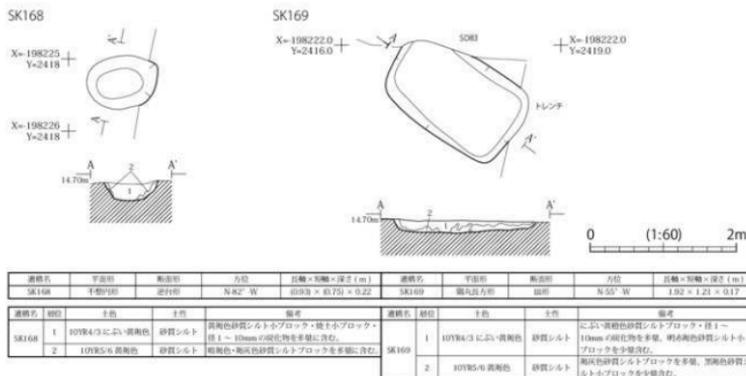


遺跡名	平面形	断面形	方位	径輪×内輪×深さ (m)	遺跡名	平面形	断面形	方位	径輪×内輪×深さ (m)
SK24	半圆形	皿形	-	0.28 × 0.92 × 0.16	SK28	半圆形	U字形	N 81° W	1.80 × 1.34 × 0.58
SK25	半圆形/円形	逆U形	N 17° E	1.13 × 0.31 × 0.20	SK29	半圆形	皿形	N 78° W	1.14 × 1.10 × 0.13
SK26	半圆形	逆U形	N 71° W	1.36 × 0.60 × 0.18	SK166	皿形	皿形	N 83° W	0.92 × 0.61 × 0.15
SK27	半圆形	逆U形	0.72 × 2.04 × 0.20	SK167	楕円形	逆U形	N 23° E	1.15 × 0.88 × 0.13	

遺跡名	経緯	土色	土性	備考	遺跡名	経緯	土色	土性	備考
SK24	1	2.5Y6/1 黄灰色	砂質シルト	層比較を少層含む。	SK29	1	7.5YR4/3 褐色	砂質シルト	径 10 ~ 20mm の青灰色ブロックを少層含む。
	2	10YR5/1 黄灰色	砂質シルト	径 1 ~ 4mm の白色砂質シルト・小ブロックを少量、径 50 ~ 100mm の焼土ブロックを多量に含む。		2	10YR5/1 黄灰色	砂質シルト	径 1 ~ 3mm の黄灰色砂質シルト・小ブロックを少量含む。
SK25	1	5B7/1 明青灰色	砂質シルト	層比較を少層含む。	SK166	1	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径 10 ~ 20mm の黄褐色焼土ブロックを少量含む。
SK26	1	5B7/1 明青灰色	砂質シルト	層比較を少層含む。		2	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径 1 ~ 3mm の白色砂質シルト・小ブロックを少量含む。
SK27	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 1 ~ 3mm の白色砂質シルト・小ブロックを少量含む。	SK167	1	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径 10 ~ 20mm の黄褐色焼土ブロックを少量含む。
SK28	1	2.5Y6/1 黄灰色	砂質シルト	層比較を少層含む。		2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	径 5 ~ 10mm の明赤褐色焼土ブロックを多量に含む。
SK28	2	10YR5/1 黄灰色	砂質シルト	径 5 ~ 10mm の明赤褐色焼土ブロックを多量に含む。					

第93図 SK24～29・166・167土坑平面図・断面図



第94図 SK168・169 土坑平面図・断面図

された。堆積土中より土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

#### 4) 溝跡・堀跡

SD18 溝跡 (第 89・95 図) 調査区東側で検出した。南北方向の溝跡で、北側は調査区外へ延びる。SB2 と重複関係にあり、本遺構が古い。方向は N-10°-E で、規模は長さ 6.47m 以上、幅 56cm、深さ 25cm である。断面形は U 字形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD20 溝跡 (第 89・95 図) 調査区東側で検出した。東西方向に延びる溝跡である。SD81 と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向は N-79°-W で、規模は長さ 324cm、幅 28cm、深さ 4cm である。断面形は皿形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD65 溝跡 (第 89・95 図) 調査区中央で検出した。東西方向の溝跡である。調査区外へ延びる。一部を掘乱により削平される。SD66 と重複関係にあり、本遺構が古い。また、第 6 章第 3 節 32 項で述べる筋違いの土塁を取り除いた直下で検出されており、土塁よりも古い時期の溝跡である。方向は N-80°-W で、規模は長さ 16.45m 以上、幅 170cm、深さ 35cm である。断面形は逆台形である。堆積土は 3 層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD66 溝跡 (第 89・95 図) 調査区中央で検出した。東西方向の溝跡で、東側は調査区外へ延びる。一部を掘乱により削平される。SD65、P857 と重複関係にあり、SD65 より新しく、P857 より古い。方向は N-85°-W で、規模は長さ 16.28m 以上、幅 60cm、深さ 20cm である。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD67 溝跡 (第 89・95 図) 調査区中央で検出した。東西方向の溝跡で、東側は調査区外へ延びる。一部を掘乱により削平される。SK166 と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向は N-84°-W で、規模は長さ 14.24m、幅 70cm、深さ 14cm である。断面形は逆台形である。堆積土は 2 層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD79 堀跡 (第 89・96 図、図版 4) 調査区西～中央南側で検出した。東西方向に延びる S 字状の堀跡である。土塁や南端部平場、現在の用水路に沿うように走っており、1 区 SD8、2 区 SD10・35、6 区 SD92 と同様の有りかたであるため、これらと同一の堀跡であると考えられる。SD80 と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向は、

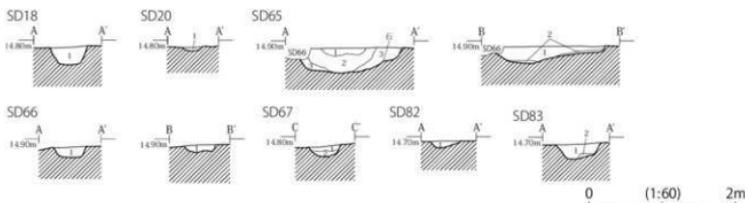
### 第3節 富沢館跡

東西方向の辺がN-80°~90°-W、南北方向の辺がN-8°-Wである。規模は長さ47.35m以上、幅400cm以上、深さ86cm以上である。断面形は逆台形である。堆積土は2層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片、赤焼土器片、土師質土器片、陶磁器片、瓦、土製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD80 壕跡 (第89・96・97図、図版4・23) 調査区西側で、土塁の直下で検出された。一部の検出のため詳細は不明である。中央付近で西方向へ分岐し、西端は北方向へ屈曲する。調査区外へ延びるSD79・81と重複関係にあり、SD81より新しく、SD79より古い。方向は東側の南北方向の部分はN-8°-E、西側の南北方向の部分はN-8°-W、検出規模は長さ340cm以上、幅10.50m、深さ90cm以上である。断面形は逆台形である。堆積土は3~7層に分層された。また、A断面の観察により、SD80を埋めながら現況の土塁が構築されている。堆積土中より土師器片、須恵器片、陶磁器片、木製品が出土しており、陶器1点(第97図9)を図示した。土塁の直下、SD80の検出面より出土した17世紀後半の肥前産陶器碗である。

SD81 壕跡 (第89・96・97図、図版4・5・22) 調査区東側~中央で、土塁及び第6章第3節32項で述べる南端部平場の直下で検出された。東西方向に延び、SD80と重複する付近で南北に分岐、あるいは屈曲して延びると考えられる。SD20・80、P194・195・227・228と重複関係にあり、木遺構が古い。方向はN-82°-Wで、規模は長さ60.70m以上、幅240cm、深さ125cmである。断面形は逆台形である。堆積土は4層に分層した。D断面の観察から、SD81の堆積土が、削られたと考えられる筋違いの土塁を覆っていることから、筋違いの土塁よりSD81が新しいと考えられる。SD81堆積土中より土師器片、須恵器片が出土したが図示していない。SD81を覆う南端部平場堆積土中から陶磁器片、金属製品、石製品が出土しており、陶器8点を図示した。第97図2~4は13世紀後葉~14世紀前葉の在産陶器裏、第97図5・8は13世紀後葉~14世紀前葉の白石産陶器裏、第97図1は13世紀後葉~14世紀前葉の産地不明陶器裏、第97図6は15世紀後葉、第96図7は15世紀代の常滑産陶器裏である。

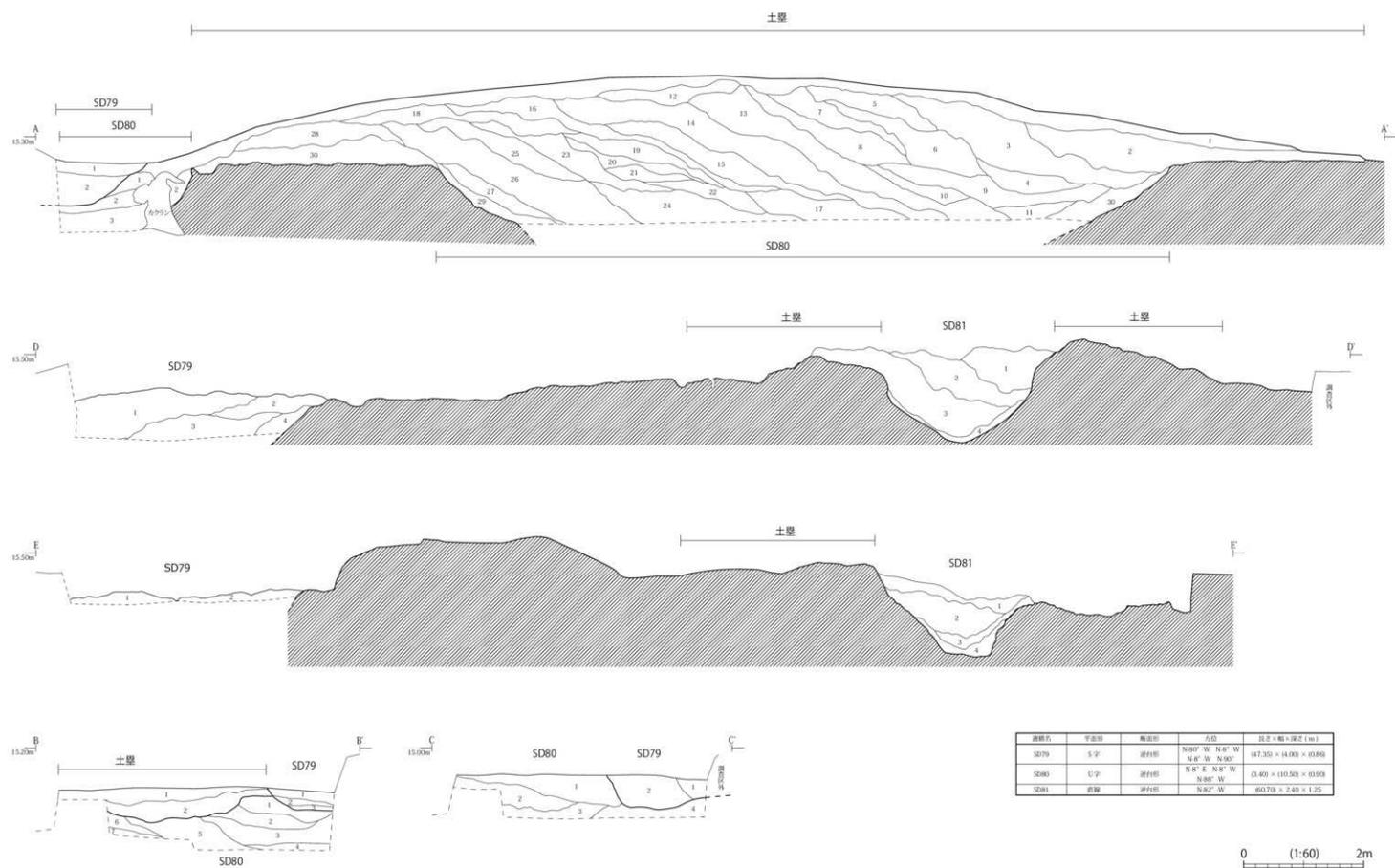
SD82 溝跡 (第89・95図) 調査区中央やや西側で検出された。東西方向に延びる溝跡である。一部をトレンチにより削平される。方向はN-80°-Wで、規模は長さ315cm、幅43cm、深さ10cmである。断面形はU字形である。



遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)	遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)
SD18	曲線	逆台形	N 80° E	86.47 × 0.96 × 0.25	SD67	曲線	逆台形	N 84° W	11.24 × 0.70 × 0.14
SD20	曲線	逆台形	N 79° W	3.24 × 0.28 × 0.04	SD82	曲線	U字形	N 80° W	3.15 × 0.43 × 0.10
SD65	曲線	逆台形	N 60° W	116.45 × 1.70 × 0.35	SD83	曲線	逆台形	N 73° W	4.75 × 0.70 × 0.20
SD66	曲線	逆台形	N 83° W	116.28 × 0.60 × 0.20					

遺構名	経目	土色	土質	備考	遺構名	経目	土色	土質	備考
SD18	1	5B6~7黄褐色	シルト	径10~20mmの礫石を多数含む。	SD67	1	10YR5/4に黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多数含む。黒色砂質シルトブロックを少量含む。
SD20	1	2Y6/1灰色	シルト	径10mmの礫石を多数含む。	SD67	2	10YR5/2黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多数含む。黒色砂質シルトブロックを少量含む。
	2	10YR4/1黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルトブロックを多数、に黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。	SD82	1	10YR4/4黄褐色	砂質シルト	黄褐色・黒褐色砂質シルトブロック・径1~5mmの礫石を少量含む。
SD65	2	10YR5/2黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルトブロックを多数、黒色粘土を多数に含む。	SD83	1	10YR4/3に黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロック・黒褐色砂質シルトブロック・径1~30mmの礫石を多数に含む。
	3	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルトブロックを少量、黒色粘土を多数に含む。	SD83	2	10YR5/4に黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルトブロックを多数に含む。
SD66	1	10YR5/1黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルトブロックを少量、黒色粘土を多数に含む。					

第95図 SD18・20・65~67・82・83 溝跡断面図



第96図 SD79～81堀跡・土壁断面図



SD79～81 竪坑、土器副産物出土状況表

遺構名	層位	土器		備考	遺構名	層位	土器		備考
		特色	土質				特色	土質	
SD79	1	10YR3/3 褐色色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロック・炭化物を少量含む。表土。	SD79	1	10YR6/1 褐色色	シルト質砂	褐色土を多量に含む。
	2	10YR3/4 褐色色	シルト	径5～10mmの褐色色砂質シルトブロックを多量。マンガン粒を含む。表土。		2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	褐色シルトを少量含む。炭化物を少量含む。
	3	10YR3/1 褐色色	砂質シルト	明褐色砂質シルトブロックを少量含む。炭化物を少量含む。		3	10YR6/1 褐色色	砂	緑砂・黒砂を少量含む。
SD80	1	10YR5/1 褐色色	粘土質シルト	明褐色砂質シルトブロックを少量含む。炭化物を少量含む。	SD80	1	2.5Y/2 灰褐色	砂質シルト	褐色シルト質砂・褐色シルト質砂を少量含む。
	2	10YR3/2 灰褐色	粘土質シルト	径5mmの褐色色砂質シルトブロックを少量。マンガン粒を含む。表土。		2	2.5Y/4 黄褐色	砂質シルト	褐色シルト質砂・褐色シルト質砂を少量含む。径5～10mmの炭化物を少量含む。
	3	10YR4/1 褐色色	粘土質シルト	径5mmの褐色色砂質シルトブロックを少量。マンガン粒を含む。表土。		3	5Y/4 2 灰オレンジ色	砂質シルト	オレンジ色砂質シルトブロックを多量。赤土を少量含む。
SD81	1	10YR3/2 灰褐色	砂質シルト	径5～20mmの明褐色砂質シルトブロックを多量。マンガン粒を含む。表土。	SD81	4	7.5Y/4 2 灰オレンジ色	砂質シルト	オレンジ色砂質シルトブロックを少量。径1～20mmの炭化物を少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	径5～10mmの褐色色砂質シルトブロックを少量。マンガン粒を含む。		5	10YR3/1 褐色色	砂質シルト	褐色シルトを少量含む。径1～10mmの炭化物を多量に含む。
	3	10YR4/4 褐色色	シルト	褐色砂質シルトブロック・炭化物を少量含む。		6	10YR5/6 黄褐色	シルト質砂	褐色砂質シルトブロックを多量に含む。
SD82	4	10YR4/4 褐色色	シルト	褐色砂質シルトブロック・炭化物を多量に含む。	SD82	7	10YR3/4 褐色色	砂	褐色砂質シルトブロックを少量。褐色・マンガン粒を多量に含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	径5～20mmの明褐色砂質シルトブロックを少量。マンガン粒を含む。		8	10YR3/2 灰黄褐色	シルト質砂	褐色砂質シルトブロックを少量。褐色・マンガン粒を多量に含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	径5～10mmの褐色色砂質シルトブロックを少量。マンガン粒を含む。		9	10YR3/1 褐色色	シルト質砂	褐色砂質シルトブロックを少量。褐色・マンガン粒を多量に含む。
SD83	7	10Y5/1 灰色	シルト	灰(褐色)砂質シルトブロックを少量含む。炭化物を少量含む。	SD83	10	10YR7/1 灰白色	シルト質砂	褐色砂質シルトブロックを少量。褐色・マンガン粒を多量に含む。
	8	10YR4/1 褐色色	砂質シルト	灰(褐色)砂質シルトブロックを少量含む。炭化物を少量含む。		11	10YR3/1 褐色色	シルト	褐色砂質シルトブロックを少量。褐色・マンガン粒を多量に含む。
	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	径5～20mmの明褐色砂質シルトブロック・径1～10mmの褐色色砂質シルトブロックを少量含む。		12	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明褐色砂質シルトブロック・炭化物を少量含む。
SD84	10	10Y4/1 灰色	シルト	灰(褐色)砂質シルトブロックを含む。径1～10mmの炭化物を少量含む。	SD84	13	10YR4/3 2 灰黄褐色	シルト	褐色砂質シルトブロックを少量。褐色土を少量含む。
	11	10YR3/1 褐色色	シルト	褐色色砂質シルトブロック・炭化物を少量含む。		14	10Y4/1 灰色	砂質シルト	灰(褐色)砂質シルトブロックを少量。径1～10mmの炭化物を少量含む。
	12	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明褐色砂質シルトブロック・炭化物を少量含む。		15	10YR4/1 褐色色	シルト	径1～10mmの褐色色砂質シルトブロック・炭化物を少量含む。
SD85	13	10YR4/3 2 灰黄褐色	シルト	褐色色砂質シルトブロックを少量。褐色土を少量含む。	SD85	16	10YR5/4 2 灰黄褐色	シルト	径20～50mmの礫を多量。マンガン粒を含む。
	14	10Y4/1 灰色	砂質シルト	灰(褐色)砂質シルトブロックを含む。径1～10mmの炭化物を少量含む。		17	10YR5/4 2 灰黄褐色	シルト	径20～50mmの礫を多量。マンガン粒を含む。
	15	10YR4/1 褐色色	シルト	径5～20mmの明褐色砂質シルトブロックを少量。マンガン粒を含む。		18	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	径5～10mmの褐色色砂質シルトブロックを少量。マンガン粒を含む。
SD86	16	10YR4/3 2 灰黄褐色	砂質シルト	径20～50mmの礫を多量。マンガン粒・炭化物を含む。	SD86	19	10YR4/3 2 灰黄褐色	砂質シルト	径20～50mmの礫を多量。マンガン粒・炭化物を含む。
	17	10YR5/4 2 灰黄褐色	シルト	径5～10mmの褐色色砂質シルトブロックを少量。マンガン粒を含む。		20	10YR4/4 褐色色	粘土質シルト	明褐色砂質シルトブロックを少量含む。炭化物を少量含む。
	18	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	明褐色砂質シルトブロック・炭化物を少量含む。		21	10YR6/6 褐色色	シルト	明褐色砂質シルトブロック・炭化物を少量含む。
SD87	19	10YR4/3 2 灰黄褐色	砂質シルト	径20～50mmの礫を多量。マンガン粒を含む。	SD87	22	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	径5～10mmの褐色色砂質シルトブロックを少量。マンガン粒を含む。
	20	10YR4/4 褐色色	粘土質シルト	明褐色砂質シルトブロックを少量含む。炭化物を少量含む。		23	10YR4/3 2 灰黄褐色	砂質シルト	径5～10mmの褐色色砂質シルトブロックを少量。マンガン粒を含む。
	21	10YR6/6 褐色色	シルト	明褐色砂質シルトブロック・炭化物を少量含む。		24	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明褐色砂質シルトブロック・炭化物を少量含む。
SD88	22	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	径20～50mmの礫を多量。マンガン粒を含む。	SD88	25	10YR4/3 2 灰黄褐色	シルト	径20～50mmの礫を多量。マンガン粒を含む。
	23	10YR4/3 2 灰黄褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロックを少量。褐色・マンガン粒を多量に含む。人為堆積。土器副産物を含む。		26	10YR7/1 灰白色	シルト質砂	褐色砂質シルトブロックを少量。褐色・マンガン粒を多量に含む。人為堆積。土器副産物を含む。
	24	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明褐色砂質シルトブロック・炭化物を少量含む。		27	10YR5/2 灰黄褐色	シルト質砂	褐色砂質シルトブロックを少量。褐色・マンガン粒を多量に含む。人為堆積。土器副産物を含む。
SD89	25	10YR4/3 2 灰黄褐色	シルト	径20～50mmの礫を多量。マンガン粒を含む。	SD89	28	10YR3/2 灰褐色	粘土質シルト	径5mmの褐色色ブロックを少量。マンガン粒を含む。
	26	10YR7/1 灰白色	シルト質砂	明褐色砂質シルトブロックを少量。褐色・マンガン粒を多量に含む。人為堆積。土器副産物を含む。		29	10YR5/1 褐色色	砂質シルト	径5～10mmの明褐色砂質シルトブロックを少量。径1～10mmの炭化物を多量に含む。自然堆積。炭化物砂質シルトブロック・褐色土を多量に含む。人為堆積。表土。
	27	10YR5/2 灰黄褐色	シルト質砂	径5mmの褐色色砂質シルトブロックを少量。マンガン粒を含む。		30	10YR5/1 褐色色	シルト	明褐色砂質シルトブロック・炭化物を多量に含む。人為堆積。表土。

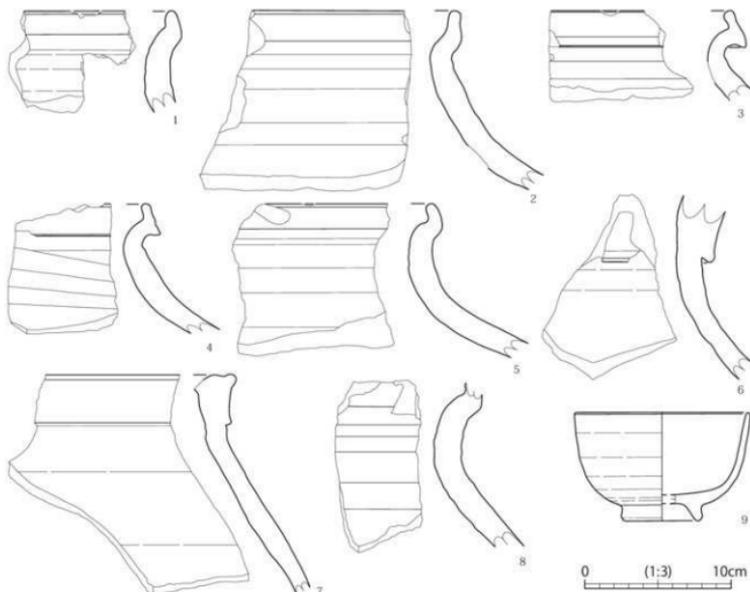
堆積土は単層である。堆積土中より土師器片、須恵器片、石製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD83 溝跡(第89・95図)調査区中央やや西側に検出した。東西方向に延びる溝跡である。一部をトレンチにより削平される。SK169と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向はN-73°-Wで、規模は長さ475cm、幅70cm、深さ20cmである。断面形は逆台形である。堆積土は2層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

##### 5) 性格不明遺構

SD10 性格不明遺構(第98図)調査区東側に検出した。東側は調査区外へ延びる。平面形は不明で、規模は南北

### 第3節 富沢館跡



№	登録番号	遺物名	種類	素材	土厚・底径・器高・口径	特徴	産地	検出	与高000	
1	1013	陶器(平皿)	-	陶器	黒	- × × (0.25)	ロケナチ	古墳	13 群瓦坑室～14 群瓦坑室	22.9
2	1009	陶器(平皿)	-	陶器	黒	- × × (0.25)	ナデ	古墳	13 群瓦坑室～14 群瓦坑室	22.11
3	1010	陶器(平皿)	-	陶器	黒	- × × (0.25)	ナデ	古墳	13 群瓦坑室～14 群瓦坑室	22.12
4	1011	陶器(平皿)	-	陶器	黒	- × × (0.6)	ナデ	古墳	13 群瓦坑室～14 群瓦坑室	22.13
5	1007	陶器(平皿)	-	陶器	黒	- × × (0.6)	ナデ	古墳	13 群瓦坑室～14 群瓦坑室	22.7
6	1008	陶器(平皿)	-	陶器	黒	- × × (0.2)	ロケナチ	古墳	13 群瓦坑室	22.14
7	1020	陶器(平皿)	-	陶器	黒	- × × (0.2)	ロケナチ	古墳	13 群瓦	22.8
8	1012	陶器(平皿)	-	陶器	黒	- × × (0.2)	ナデ	古墳	13 群瓦坑室～14 群瓦坑室	22.10
9	1028	土器(下)	-	陶器	黒	(0.2) × (0.2) × 7.5	ロケナチ	古墳	17 群瓦坑室	23.1

第97図 土壘直下・堀跡直上・南端部平場出土遺物

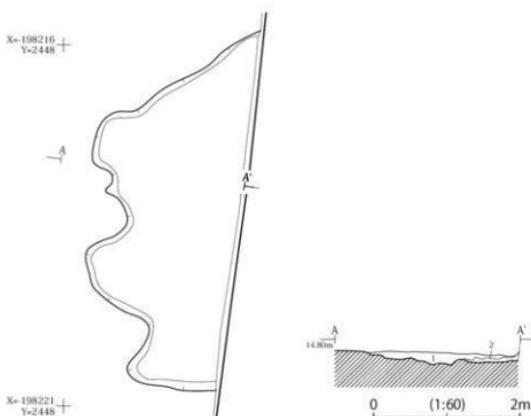
5.05m以上、東西210cm以上、深さ18cmである。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は起伏する。堆積土は2層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片、陶磁器片、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

#### 6) ビット (第89図)

58基のビットを検出した。調査区東側及び調査区中央南側に分布する。堆積土中より土師器片、須恵器片、石製品、金属製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

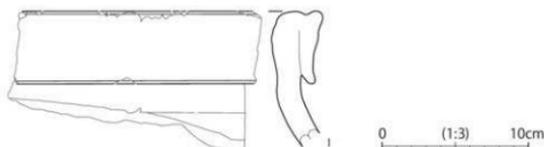
#### (2) 遺構外出土遺物 (第99図、図版22)

縄文土器片、土師器片、須恵器片、瓦片、陶磁器片、土師質土器片、石製品、金属製品、土製品、礫が出土しており、1層から出土した陶器裏1点(第99図1)を図示した。



遺構名	平面図	断面図	方位	長軸×短軸×深さ(m)	遺構名	材料	土質	土質	備考
SX10	不明	不明	北65°東	5.65m × 0.10m × 0.18m	SX10	1 10YR5/2 灰黄褐色 2 10YR2/3 紅土黄褐色	砂質シルト	砂質シルト	(注) 1~2mm の(小)砂質シルトを少量含む。 注) 10~30mm の礫を少量含む。

第98図 SX10 性格不明遺構平面図・断面図



No.	登録番号	遺構名	種類	種別	図様	1/3寸×1/3寸×高さ4cm	特徴	産地	時期	写真図版
1	T014	遺土	陶器	壺	×	×	コケロナテ	不明	15世紀前後	22-15

第99図 遺構外出土遺物

## 4. 4区の調査(付図2・3)

4区では、基本層Ⅲ層上面(古代以降の遺構検出面)において、井戸跡2基、土坑51基、溝跡11条、堀跡2条、性格不明遺構2基、ビット392基を検出した。ビットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なもの確認されなかった。ビットについては遺構配置図にのみ表示している。

## (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物(第100~115図、図版5・6・23)

## 1) 土坑

SK30土坑(第101図)調査区南西隅で検出した。南側の大部分は調査区外へ延びる。SK31と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不明である。規模は東西102cm以上、南北9cm以上、深さ35cmである。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK31土坑(第101図)調査区南西隅で検出した。西側は調査区外へ延びる。SK30、P333と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形と考えられ、長軸方向は不明である。規模は長軸150cm以上、短軸48cm以上、深さ57cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は2層に分層された。遺物は出土していない。



第100図 富沢館跡4区遺構配置図

SK32土坑(第101図)調査区南西隅で検出した。南側は調査区外へ延びる。SK49と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形と考えられ、規模は東西68cm、南北25cm以上、深さ34cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。底面は平坦である。遺物は出土していない。

SK34土坑(第101図)調査区南西側で検出した。東側及び南側は調査区外へ延びる。P235と重複関係にあり、本遺構が古い。ごく一部の検出であり、詳細は不明である。深さ33cmである。遺物は出土していない。

SK35土坑(第101図)調査区南西側で検出した。東側は調査区外へ延びる。P236と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸方形と考えられ、規模は東西85cm以上、南北96cm、深さ50cmである。断面形は逆台形であり、底面は平坦である。堆積土は2層に分層された。遺物は出土していない。

SK36土坑(第101図)調査区南西側で検出した。P242・245～248と重複関係にあり、P247より新しく、P242・245・246・248より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-77°-Wである。規模は長軸130cm、短軸87cm、深さ47cmである。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。断面形は箱形で、底面はやや起伏する。堆積土は単層である。堆積土中より須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK37井戸跡(第101・102図、図版6・23)調査区南西側で検出した。検出状況から土坑と考え土坑番号を付したが、調査の結果、素掘りの井戸跡と判明した。100cm以上掘り下げたところで、崩落の危険があったためこれ以上の掘り下げを中止した。SD22、P260・265と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形で、長軸方向はN-51°-Eである。規模は長軸182cm、短軸168cm、深さ134cm以上である。壁面は、やや内傾して立ち上がる。底面は不明である。堆積土は6層以上に分層された。遺物は土師器片、赤焼土器片、須恵器片、陶磁器片、石製品、木製品、金属製品、礫が出土しており、2層から出土した刀子1点(第102図1)を図示した。5層からは木片や木の根等が出土しており、井戸の廃棄時に木片等を投棄したと考えられる。

SK38土坑(第101図)調査区南西側で検出した。平面形は楕円形で、中央がビット状に下がっている。長軸方向はN-25°-Wである。規模は長軸60cm、短軸43cm、深さ35cmである。壁面は中位で角度を変えるが、内湾気味に立ち上がっている。断面形はU字形で、底面は丸みをもつ。堆積土は2層に分層された。堆積土中より須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

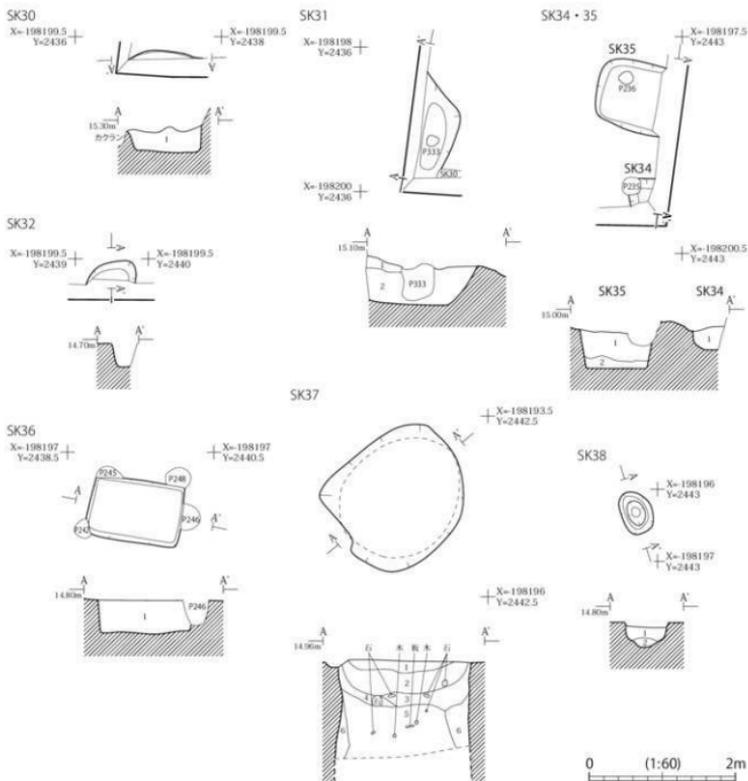
SK40土坑(第103図)調査区北西側で検出した。SK72と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸方形と考えられ、長軸方向は不明である。規模は長軸78cm、短軸40cm以上、深さ3cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK41土坑(第103図)調査区南西側で検出した。平面形は隅丸方形で、長軸方向はN-17°-Eである。規模は長軸115cm、短軸97cm、深さ36cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は起伏する。規模が長軸21cm、短軸14cmの柱痕跡が検出された。堆積土は3層に分層され、2層は柱痕跡、1・3層は掘り方埋土である。支柱を建てた柱穴の可能性が考えられる。遺物は土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK43土坑(第103図)調査区南西側で検出した。東側を擾乱に削平される。SK45・47、P291・292・453と重複関係にあり、P291・292より古く、SK45・47、P453より新しい。平面形は隅丸方形で、長軸方向はN-70°-Wである。規模は長軸102cm以上、短軸75cm、深さ40cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形はU字形で、底面は平坦である。堆積土は2層に分層された。堆積土中より土師器片、陶磁器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK44土坑(第103図)調査区南西側で検出した。SK45、SD22、P452と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は長方形で、長軸方向はN-43°-Eである。規模は長軸65cm以上、短軸50cm、深さ27cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形はU字形で、底面は起伏する。規模が長軸21cm、短軸20cmの柱痕跡が検出された。堆積土は2層に分層され、1層が柱痕跡、2層は掘り方埋土である。SK41と同様の支柱を建てた柱穴の可能性が

### 第3節 富沢館跡



遺構名	平面形	断面形	形状	直径・幅幅・深さ (m)	遺構名	平面形	断面形	形状	直径・幅幅・深さ (m)
SK30	半圆形	断面形	圆形	(1.0) × (0.20) × 0.35	SK35	半圆形	断面形	圆形	0.35 × 0.36 × 0.50
SK31	半圆形	断面形	-	(1.5) × (0.48) × 0.57	SK36	椭圆形	断面形	圆形	1.30 × 0.87 × 0.47
SK32	半圆形	-	-	0.68 × (0.25) × 0.34	SK37	半圆形	-	圆形	1.82 × 1.68 × (1.34)
SK34	半圆形	断面形	-	- × 0.33	SK38	圆形	断面形	圆形	N 25° W 0.60 × 0.43 × 0.35

遺構名	層位	土色		層位	土色	備考	遺構名	層位	土色		備考
		上	下						上	下	
SK30	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	1	10YR4/1 褐色	砂質シルト	SK35	1	10YR3/2 黒褐色	黒褐色砂質シルトブロックを多数に含む。	
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト		2			10YR4/1 褐色	砂質シルト	径 5 ~ 10mm の炭化物・礫を多数に含む。	
SK31	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	2	10YR3/1 黄褐色	粘土質シルト	SK37	3	10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルトブロック・径 5 ~ 10mm の炭化物を多数含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト		3	10YR3/1 黄褐色		砂質シルト	4	10YR3/1 黄褐色	砂質シルト
SK34	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	4	10YR3/1 黄褐色	粘土質シルト	5	10YR3/1 黄褐色	粘土質シルト	断面内砂質シルトブロックを多数に含む。	
SK35	1	10YR3/3 に近い黄褐色	砂質シルト	5	10YR3/6 黄褐色	粘土質シルト	6	10YR3/6 黄褐色	粘土質シルト	断面内砂質シルトブロックを多数に含む。	
SK36	1	10YR3/3 に近い黄褐色	砂質シルト	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	SK38	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径 10mm の炭化物・礫を多数に含む。
	2	10YR3/3 に近い黄褐色	砂質シルト		2	10YR3/2 黒褐色		砂質シルト	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト

第101図 SK30～32・34～36・38土坑 SK37井戸跡平面図・断面図



No.	記録番号	遺構名	階段	種類	形状	長さ×幅×深さ (m) 壁の厚	備考	写真ID
1	N-001	SK37	2	全周掘削	円形	0.540 × 1.3 × 0.3 1607	壁: 厚さ 0.25m 幅: 0.3m 階: 厚さ 0.05m 掘削 0.85m	23.2

第102図 SK37 井戸跡出土遺物

遺物は出土していない。

SK45 土坑 (第 103 図) 調査区南西側で検出した。SK43・44・47、SD23、P451・452・454・455 と重複関係にあり、SK44・47 より新しく、SK43、SD23、P451・452・454・455 より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-79°-W である。規模は長軸 160cm、短軸 101cm、深さ 23cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK47 土坑 (第 103 図) 調査区南西側で検出した。東側を擾乱により削平される。SK43・45、SD23・24、P292～294 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は方形と考えられ、長軸方向は N-60°-W である。規模は長軸 133cm 以上、短軸 110cm、深さ 24cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。堆積土中より須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK49 土坑 (第 103 図) 調査区南西側で検出した。SK32、P232・233・335 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は方形で、長軸方向は N-49°-E である。規模は長軸 125cm、短軸 95cm、深さ 52cm である。壁面は、直線的に外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK52 土坑 (第 103 図) 調査区西側で検出した。西側は擾乱により削平される。SD30、P316・317 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-73°-W である。規模は長軸 185cm 以上、短軸 105cm、深さ 32cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は起伏する。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片、金属製品、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

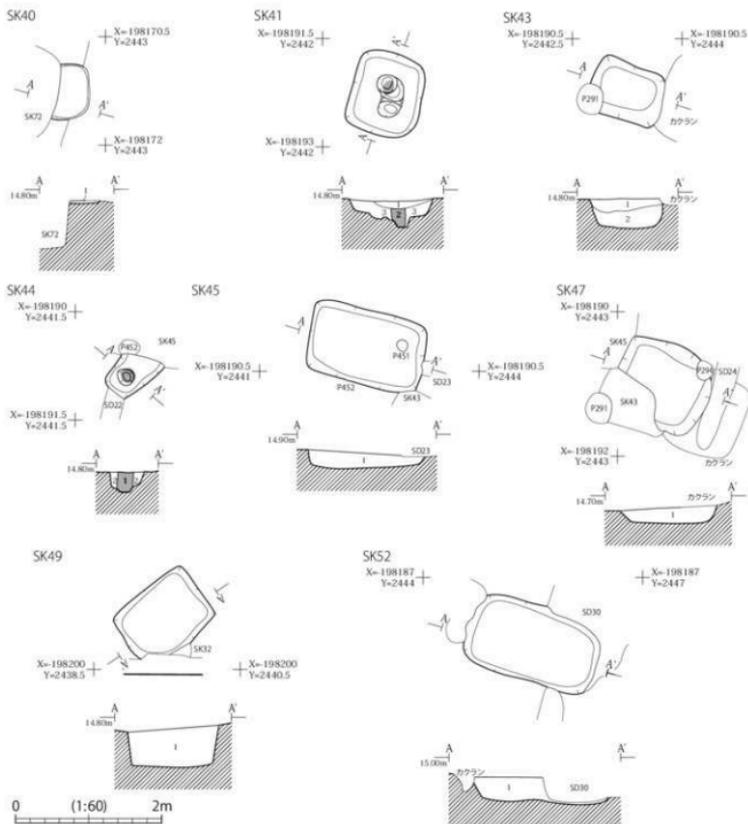
SK54 土坑 (第 104 図) 調査区西側で検出した。上部東側は擾乱により削平される。P321・450 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-2°-E である。規模は長軸 98cm、短軸 95cm、深さ 29cm である。壁面は、直線的に外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK55 土坑 (第 104 図) 調査区西側で検出した。SD29、P320・321 と重複関係にあり、SD29 より新しく、P320・321 より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-20°-E である。規模は長軸 67cm、短軸 64cm、深さ 19cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は起伏する。規模が径 25cm の柱痕跡が検出された。堆積土は 2 層に分層され、1 層が柱痕跡、2 層は堆積土である。堆積土中より縄文土器片、土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK57 土坑 (第 104 図) 調査区西側で検出した。西側は確認調査区 IV-15 トレンチにより失われている。平面形は不整形で、規模は長軸 60cm、短軸 38cm 以上、深さ 24cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面に段を有し北側が深い。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK59 土坑 (第 104 図) 調査区南西側で検出した。P263・264 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-86°-W である。規模は長軸 103cm 以上、短軸 89cm、深さ 42cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

### 第3節 富沢館跡



遺跡名	平面図	断面図	方位	長軸×短軸(長さ(m))	遺跡名	平面図	断面図	方位	長軸×短軸(長さ(m))
SK40	楕円形	壁		0.78 × 0.49 × 0.03	SK45	楕円長方形	遊歩道	N 79° W	1.60 × 1.01 × 0.23
SK41	楕円形	遊歩道	N 17° E	1.15 × 0.97 × 0.36	SK47	方形	遊歩道	N 60° W	1.23 × 1.10 × 0.24
SK43	楕円形	遊歩道	N 70° E	0.92 × 0.75 × 0.40	SK49	方形	遊歩道	N 60° E	1.25 × 0.95 × 0.52
SK44	長方形	遊歩道	N 43° E	0.65 × 0.50 × 0.27	SK52	楕円長方形	遊歩道	N 73° W	1.85 × 1.05 × 0.32

遺跡名	断面	土質	土層	備考	遺跡名	断面	土質	土層	備考
SK40	1	10YR3/2 黄褐色	砂質シルト	径 20 ~ 30mm のRC 及び 黄褐色砂ブロックを多量に含む。	SK44	1	10YR3/2 黄褐色	砂質シルト	径 5mm の粒土・粒径 10mm 未満の砂を含む。1層目。
						2	10YR3/2 黄褐色	砂質シルト	径 5 ~ 20mm の黄褐色砂ブロックを多量に含む。
SK41	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多量に含む。	SK45	1	10YR3/2 黄褐色	砂質シルト	径 20 ~ 50mm の黄褐色砂ブロックを多量に含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。(1層目)					
SK43	1	10YR3/6 黄褐色	砂質シルト	黄褐色の礫を多量に含む。	SK47	1	10YR4/2 灰黄褐色	粗砂	径 20mm の灰黄褐色砂ブロック・径 5mm の粗粒物を少量含む。
	2	10YR3/6 黄褐色	砂質シルト	径 20mm の灰黄褐色砂ブロック・径 5mm の粗粒物を少量含む。	SK49	1	10YR3/3 灰色黄褐色	粗砂	径 10 ~ 50mm の黄褐色砂質シルトブロック・径 10 ~ 20mm の礫を多量に含む。
SK43	1	10YR3/2 黄褐色	砂質シルト	径 20mm の黄褐色砂質シルトブロックを多量に含む。	SK52	1	10YR3/2 黄褐色	砂質シルト	径 10 ~ 20mm の黄褐色砂ブロックを多量に含む。径 10 ~ 20mm の礫を少量含む。

第103図 SK40・41・43～45・47・49・52土坑平面図・断面図

SK60 土坑 (第 104 図) 調査区西側で検出した。上部は確認調査区 IV-15 トレンチにより削平される。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-32°-E である。規模は長軸 116cm、短軸 98cm、深さ 18cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。遺物は出土していない。

SK65 土坑 (第 104 図) 調査区北西側で検出した。東側の一部は擾乱により削平される。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-18°-E である。規模は長軸 114cm、短軸 76cm、深さ 12cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。堆積土中より須恵器片、土師質土器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK66 土坑 (第 104 図) 調査区北西側で検出した。東側は確認調査区 IV-15 トレンチ、西側の一部は擾乱により削平される。P487・488 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-88°-E である。規模は長軸 115cm 以上、短軸 95cm、深さ 20cm である。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は 2 層に分層された。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK67 土坑 (第 104 図) 調査区北西側で検出した。東側は確認調査区 IV-15 トレンチにより削平される。SK68 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-78°-W である。規模は長軸 165cm 以上、短軸 105cm、深さ 56cm である。壁面は、やや外傾しながら立ち上がる。断面形は逆台形で、底面の南西隅に段を有する。堆積土は 2 層に分層された。堆積土中より土師器片、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK68 土坑 (第 105 図) 調査区北西側で検出した。SK67 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-2°-W である。規模は長軸 115cm、短軸 98cm、深さ 58cm である。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK70 土坑 (第 105 図) 調査区北西側で検出した。上部は確認調査区 IV-15 トレンチにより削平される。平面形は不整形で、長軸方向は N-67°-W である。規模は長軸 117cm、短軸 62cm、深さ 5cm である。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK71 土坑 (第 105 図) 調査区北西側で検出した。北側及び西側は調査区外へ延びる。SK72 と重複関係にあり、本遺構が古い。ごく一部の検出のため、詳細は不明である。深さ 43cm で、断面形は箱形、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

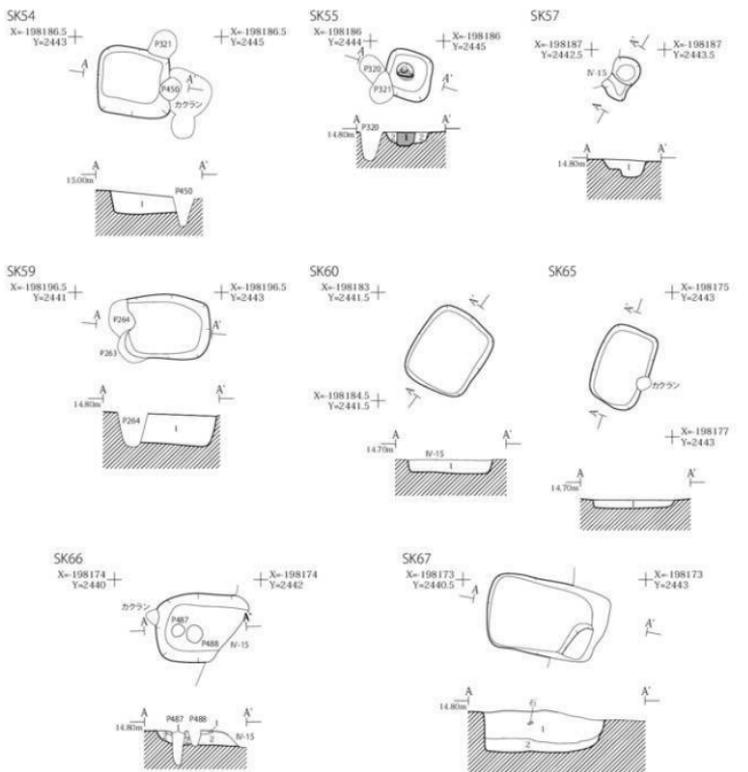
SK72 土坑 (第 105 図) 調査区北西側で検出した。西側は調査区外へ延びる。SK40・71・93 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形と考えられ、長軸方向は N-76°-W である。規模は長軸 172cm 以上、短軸 130cm、深さ 85cm である。壁面は、やや外傾して立ち上がる。断面形は箱形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK73 土坑 (第 105 図) 調査区北西側で検出した。西側は調査区外へ延びる。SK93 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形と考えられる。規模は南北 42cm、東西 68cm 以上、深さ 35cm である。壁面は、やや外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK75 土坑 (第 105 図) 調査区南側で検出した。南側は調査区外へ延びる。P389 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形と考えられる。長軸方向は N-15°-E である。規模は長軸 100cm 以上、短軸 90cm、深さ 26cm である。壁面は、直線的に外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや起伏する。堆積土は 3 層に分層された。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK76 土坑 (第 105 図) 調査区中央西側で検出した。SD31、P384 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形で、長軸方向は N-34°-E である。規模は径 93cm、深さ 25cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面に段があり南半部が低くなっている。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片、陶磁

### 第3節 富沢館跡



0 (1:60) 2m

遺構名	平面形	断面形	方位	径輪×矩輪×深さ (m)	遺構名	平面形	断面形	方位	径輪×矩輪×深さ (m)
SK54	楕円方形	逆行形	N 2° E	径 98) × 0.95 × 0.29	SK60	楕円方形	逆行形	N 32° E	1.16 × 0.98 × 0.18
SK55	楕円方形	逆行形	N 20° E	0.97 × 0.84 × 0.19	SK65	楕円方形	逆行形	N 18° E	1.14 × 0.76 × 0.12
SK57	半楕形	逆行形	0.60 × 0.38 × 0.24	SK66	楕円方形	逆行形	N 98° E	(1.15) × 0.95 × 0.20	
SK59	楕円長方形	逆行形	N 86° W	(1.03) × 0.89 × 0.42	SK67	楕円長方形	逆行形	N 78° W	(1.65) × 1.05 × 0.56

遺構名	層位	土色	土質	備考	遺構名	層位	土色	土質	備考
SK54	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂	径 30 ~ 50mm のC/C ない黄褐色砂ブロックを多量に含む。	SK55	1	10YR3/2 黄褐色	砂質シルト	径 30mm の黄褐色砂ブロックを多量に含む。
SK55	1	10YR3/2 黄褐色	砂質シルト	径 10mm の黄褐色砂ブロックを少量含む。(H.18)	SK55	2	10YR3/2 黄褐色	砂質シルト	径 5mm の同色物砂を少量含む。
SK57	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 10mm のC/C ない黄褐色砂ブロックを多量に含む。	SK57	1	10YR3/2 黄褐色	砂質シルト	径 10mm の黄褐色砂ブロックを多量に含む。
SK57	1	10YR3/2 黄褐色	砂質シルト	径 10mm の黄褐色砂ブロックを多量に含む。	SK67	1	10YR3/2 黄褐色	砂質シルト	径 20 ~ 30mm の黄褐色砂ブロックを多量に含む。
SK59	1	10YR5/3 濃い黄褐色	砂	黄褐色砂質シルトを多量。径 5mm の同色物・径 10mm の小礫を少量含む。	SK67	2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	径 10 ~ 20mm の黄褐色砂質シルトブロックを多量に含む。
SK60	1	10YR5/3 濃い黄褐色	砂	径 20mm の黄褐色砂質シルトブロックを多量に含む。					

第104図 SK54・55・57・59・60・65～67土坑平面図・断面図

器片、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK77 土坑 (第 105 図) 調査区西側で検出した。SD30、P312・313・443 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-13°・E である。規模は長軸 130cm、短軸 91cm、深さ 28cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK78 土坑 (第 105・106 図、図版 23) 調査区中央で検出した。P462 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形で、長軸方向は N-30°・E である。規模は長軸 120cm、短軸 84cm、深さ 16cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は起伏する。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片、須恵器片、金属製品が出土しており、古銭 6 点 (第 106 図 1～3) を図示した。

SK79 土坑 (第 107 図) 調査区中央で検出した。南側は擾乱により削平される。SK91、SX4 と重複関係にあり、SK91 より新しく、SX4 より古い。平面形は不整形と考えられ、長軸方向は不明である。規模は長軸 122cm 以上、短軸 71cm 以上、深さ 23cm である。壁面は、やや内湾して立ち上がる。断面形は U 字形で、底面は凹んでいる。堆積土は 3 層に分層された。遺物は出土していない。

SK80 土坑 (第 107 図) 調査区中央で検出した。SK91、SX4 と重複関係にあり、SK91 より新しく、SX4 より古い。平面形は不整形楕円形で、長軸方向は N-35°・E である。規模は長軸 113cm、短軸 90cm、深さ 10cm である。壁面は、直線的に外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK81 土坑 (第 107 図) 調査区中央南東側で検出した。南側は調査区外へ延びる。SD39・40、P560 と重複関係にあり、SD39・40 より新しく、P560 より古い。平面形は不整形と考えられ、規模は東西 150cm、南北 56cm 以上、深さ 56cm である。壁面は外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は 2 層に分層された。遺物は出土していない。

SK84 土坑 (第 107 図) 調査区中央東側で検出した。SK85、SD40、P476・477 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形楕円形で、長軸方向は N-76°・E である。規模は長軸 85cm、短軸 61cm、深さ 46cm である。壁面は、やや外傾して立ち上がる。断面形は U 字形で、底面は西側がピット状に低くなる。堆積土は 2 層に分層された。堆積土中より土師器片、歯が出土しているが、図示できる遺物はない。

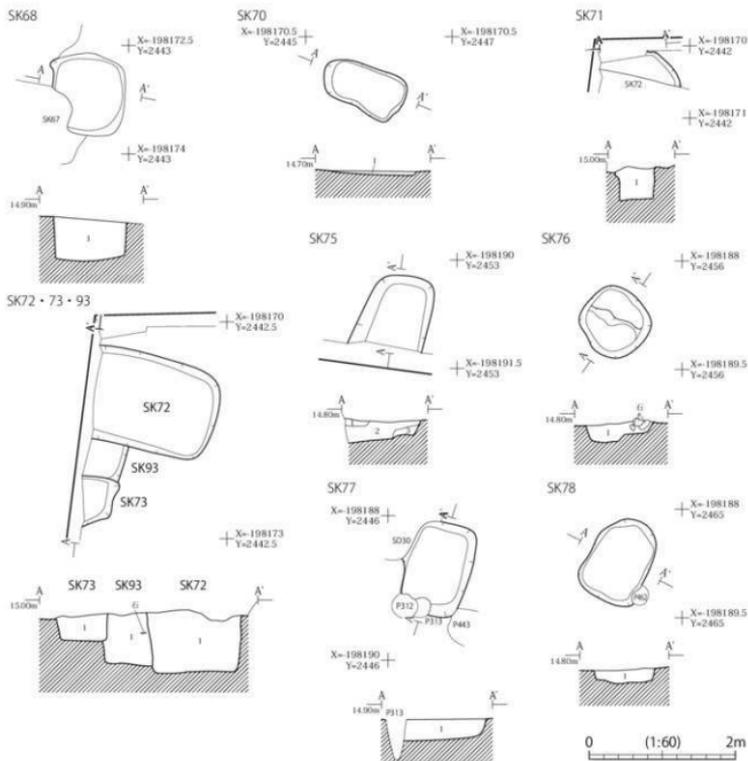
SK85 土坑 (第 107 図) 調査区中央東側で検出した。SK84、SD40 と重複関係にあり、SD40 より新しく、SK84 より古い。平面形は不整形で、長軸方向は不明である。規模は長軸 73cm、短軸 50cm 以上、深さ 52cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は U 字形で、底面は南側がピット状に低くなる。堆積土は 2 層に分層された。遺物は出土していない。

SK86 土坑 (第 107 図) 調査区中央東側で検出した。平面形は不整形楕円形で、長軸方向は N-54°・W である。規模は長軸 57cm、短軸 35cm、深さ 20cm である。壁面は、やや外傾して立ち上がる。断面形は U 字形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK87 土坑 (第 107 図) 調査区中央東側で検出した。SD39・40、P506・507 と重複関係にあり、SD39・40 より新しく、P506・507 より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-32°・E である。規模は長軸 106cm、短軸 86cm、深さ 37cm である。壁面は、外傾して立ち上がり、中位で段を持つ。断面形は逆台形で、底面は中央北側がピット状に深い。遺物は出土していない。

SK88 土坑 (第 107 図) 調査区中央東側で検出した。SD39・40 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-82°・W である。規模は長軸 81cm、短軸 62cm、深さ 28cm である。壁面は、やや外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや起伏する。堆積土は 3 層に分層された。堆積土中より土師質土

### 第3節 富沢館跡



遺構名	平面形	断面形状	方位	直径・幅輪・深さ (m)	遺構名	平面形	断面形状	方位	直径・幅輪・深さ (m)
SK68	楕円形	楕円形	N 2° W	1.15 × 0.98 × 0.58	SK75	楕円形	逆円形	N 15° E	1.00 × 0.90 × 0.20
SK70	不整形楕円形	楕円形	N 67° W	1.17 × 0.62 × 0.05	SK76	不整形円形	逆円形	N 34° E	0.93 × 0.93 × 0.25
SK71	不明	楕円形	(1.04 × 0.30) × 0.43	SK77	楕円形	楕円形	N 13° E	1.30 × 0.91 × 0.28	
SK72	楕円形	楕円形	N 70° W	0.72 × 1.30 × 0.87	SK78	楕円形	逆円形	N 30° E	1.20 × 0.81 × 0.18
SK73	不整形	逆円形	0.42 × 0.60 × 0.35	SK93	不明				0.51 × 0.58 × 0.48

遺構名	積層	土物	土物	備考	遺構名	積層	土物	土物	備考
SK68	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径 20～30mm の黒褐色砂ブロックを多数に含む。	SK76	1	10YR4/1 黒灰色	砂質シルト	濃い黒褐色・暗褐色砂質シルトブロックを多数、径 1～100mm の砂物を少量含む。
SK70	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径 10～20mm の黒褐色砂ブロックを多数に含む。	SK77	1	10YR4/2 灰黒褐色	砂	径 10mm の黒褐色砂ブロックを多数、磁器・骨の片を少量含む。
SK71	1	10YR4/2 灰黒褐色	砂質シルト	径 5～20mm の黒褐色砂ブロックを多数に含む。	SK78	1	10YR4/1 黒灰色	砂質シルト	黒褐色質シルトブロックを多数、径 1～10mm の磁器物を少量含む。
SK72	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径 30～50mm の濃い黒褐色・径 30～50mm の黒褐色砂ブロックを多数に含む。	SK93	1	10YR3/3 黒褐色	砂質シルト	径 5mm の黒褐色砂ブロックを多数含む。
SK73	1	10YR4/2 灰黒褐色	砂質シルト	径 20～40mm の黒褐色砂ブロックを多数に含む。					
SK75	1	10YR6/2 灰黒褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルトブロックを少量含む。					
SK76	2	10YR4/2 灰黒褐色	砂質シルト	濃い黒褐色ブロック・暗褐色砂質シルトブロックを多数含む。					
SK78	3	10YR3/3 黒褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルトブロック・暗褐色砂質シルトブロックを多数含む。					

第105図 SK68・70～73・75～78・93土坑平面図・断面図



No.	図録番号	遺構名	層別	種類	形状	長さ・幅・深さ (cm)	遺構の位置	層厚
1	N-005	SK78	1	金属製品	古銭	外径 2.3 × 厚径 0.7 重さ 3.33	穴内遺構 (1008 ~ 1103)	23.3
2	N-017	SK78	1	金属製品	古銭	外径 2.5 × 厚径 0.6 重さ 10.41	3号地蔵尊 内 1 枚(天聖元寶(1023))	23.4
3	N-018	SK78	1	金属製品	古銭	外径 2.4 × 厚径 0.7 重さ 6.08	2号地蔵尊 内 1 枚(天聖元寶(1023))	23.5

第 106 図 SK78 土坑出土遺物

破片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK90 土坑 (第 108 図) 調査区中央南東側で検出した。南側は調査区外へ延びる。SD40、P502 と重複関係にあり、SD40 より新しく、P502 より古い。平面形は不整楕円形と考えられ、長軸方向は N-65°-W である。規模は長軸 105cm 以上、短軸 98cm、深さ 35cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は U 字形で、底面は凹む。堆積土は 3 層に分層された。堆積土中より礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK91 井戸跡 (第 108・109 図、図版 6・23) 調査区中央で検出した。北側は調査区外へ延び、南西側の一部が擾乱により削平される。検出状況から土坑と考えたが、調査の結果、素掘りの井戸跡と判断した。SK79・80、SX4、P429・491・492 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整円形と考えられ、長軸方向は N-58°-W である。規模は長軸 245cm、短軸 200cm、深さ 125cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は起伏する。堆積土は 11 層に分層された。遺物は土師器片、須恵器片、陶磁器片、金属製品が出土しており、堆積土から出土した古銭 1 点 (第 109 図 1) を図示した。

SK92 土坑 (第 108 図) 調査区北西側で検出した。上部はトレンチにより削平される。P535 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-19°-E である。規模は長軸 234cm、短軸 104cm、深さ 35cm である。壁面は、直線的に外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

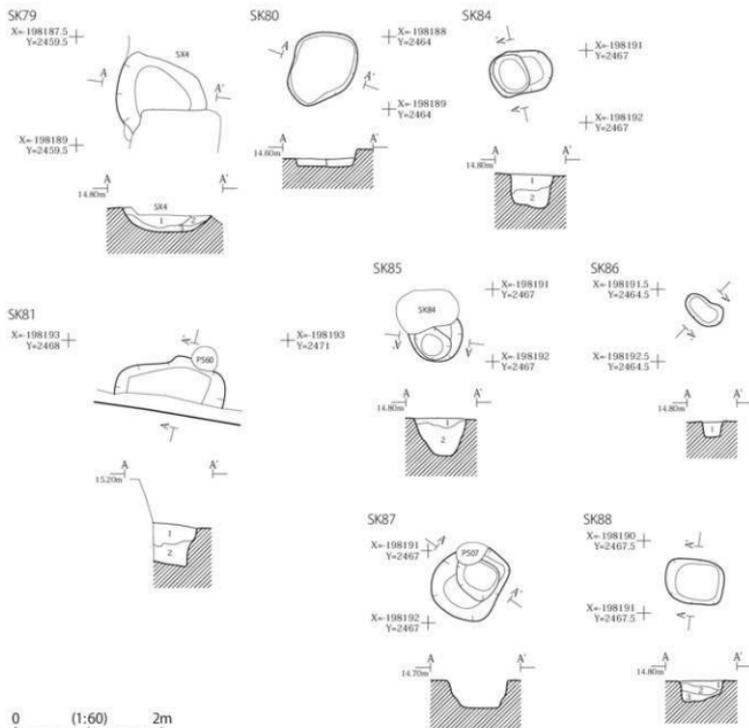
SK93 土坑 (第 105 図) 調査区北西隅で検出した。西側は調査区外へ延びる。SK72・73 と重複関係にあり、本遺構が古い。残存部分が少ないため詳細は不明である。深さ 68cm で、底面は緩む平坦である。堆積土は単層である。堆積土中より礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK94 土坑 (第 108 図) 調査区東側で検出した。SK103、SD37 と重複関係にあり、SK103 より新しく、SD37 より古い。平面形は楕円形で、長軸方向は N-77°-W である。規模は長軸 135cm、短軸 73cm 以上、深さ 29cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は U 字形で、底面は丸みを持つ。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK95 土坑 (第 110 図) 調査区中央西側で検出した。南東側の一部は擾乱により削平される。SD31、P385・485 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸方形で、長軸方向は N-75°-W である。規模は長軸 245cm 以上、短軸 82cm 以上、深さ 55cm である。壁面は、直線的に外傾して立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK96 土坑 (第 110 図) 調査区中央で検出した。P467・468・470・472 と重複関係にあり、P470・472 より新しく、P467・468 より古い。平面形は不整楕円形で、長軸方向は N-69°-W である。規模は長軸 90cm、短軸 63cm、深さ 26cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層された。遺物は出土していない。

### 第3節 富沢館跡

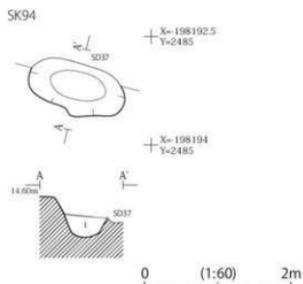
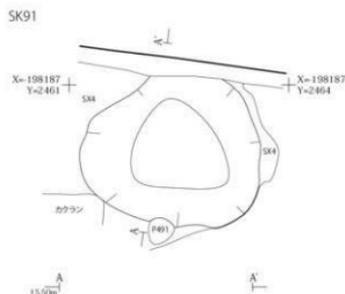
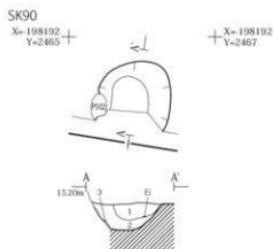


遺構名	平面形	断面形	方位	距離×間幅×深さ(m)	遺構名	平面形	断面形	方位	距離×間幅×深さ(m)	
SK79	半楕円	U字形		0.120 × 0.711 × 0.25	SK85	半楕円	U字形		0.73 × 0.508 × 0.52	
SK80	半楕円形	逆U形	N 35° E	1.13 × 0.90 × 0.10	SK86	半楕円形	U字形	N 04° W	0.57 × 0.35 × 0.20	
SK81	半楕円	逆U形		1.50 × 0.549 × 0.56	SK87	楕円形	逆U形		N 32° E	1.06 × 0.80 × 0.37
SK84	半楕円形	U字形		0.85 × 0.81 × 0.40	SK88	楕円形	逆U形	N 42° W	0.81 × 0.62 × 0.28	

遺構名・層位	土色	3角	備考	遺構名・層位	土色	3角	備考
SK79 1	10YR5/1 黒褐色	砂質シルト	褐色炭粉砂質シルトブロックを多量、褐色炭粉砂質シルトブロックを少量含む。	SK85 1	10YR4/1 褐色	砂質シルト	高い炭褐色砂質シルトブロックを多量、オレンジ色砂質シルトブロックを少量含む。
SK79 2	10YR4/1 褐色	砂質シルト	高い炭褐色砂質シルトブロックを少量含む。	SK85 2	10YR4/1 褐色	砂質シルト	褐色炭粉砂質シルトブロックを多量、オレンジ色砂質シルトブロックを少量含む。
SK79 3	10YR4/1 褐色	砂質シルト	高い炭褐色砂質シルトブロック・径1～10mmの珪化物を多量に含む。	SK86 1	10YR4/1 褐色	砂質シルト	褐色炭粉砂質シルトブロック・径1～5mmの珪化物を少量含む。
SK80 1	10YR4/1 褐色	砂質シルト	高い炭褐色砂質シルトブロックを多量、オレンジ色砂質シルトブロック・径3～100mmの珪化物を少量含む。	SK86 2	10YR5/5 黄褐色	砂質シルト	褐色炭粉砂質シルトブロックを多量、径1～5mmの珪化物を少量含む。
SK81 1	10YR4/1 褐色	砂質シルト	高い炭褐色砂質シルトブロックを多量、オレンジ色砂質シルトブロックを少量含む。	SK88 1	10YR4/1 褐色	砂質シルト	褐色炭粉砂質シルトブロックを多量、径1～5mmの珪化物を少量含む。
SK81 2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	高い炭褐色・褐色炭粉砂質シルトブロックを多量、褐色炭粉砂質シルトブロックを少量含む。	SK88 2	10YR4/1 褐色	砂質シルト	褐色炭粉砂質シルトブロックを多量、径1～5mmの珪化物を少量含む。
SK81 3	10YR5/2 灰褐色	砂質シルト	褐色炭粉シルト・珪質ブロックを多量、炭褐色砂質シルトブロックを少量含む。	SK88 3	10YR3/3 高い黒褐色	砂質シルト	褐色炭粉砂質シルトブロック・径1～5mmの珪化物を少量含む。
SK84 1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	高い炭褐色砂質シルトブロック・褐色炭粉砂質シルトブロックを少量含む。				
SK84 2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	高い炭褐色砂質シルトブロックを少量含む。				

第107図 SK79～81・84～88土坑平面図・断面図



遺跡名	平面形	断面形	方位	直径×短軸×長さ(m)	遺跡名	平面形	断面形	方位	直径×短軸×長さ(m)
SK90	半円形/円形	U字形	N 65° W	(1.05) × 0.98 × 0.35	SK92	楕円長方形	逆U形	N 19° E	2.34 × 1.04 × 0.35
SK91	半円形/円形	逆U形	N 58° W	(2.4) × (2.00) × 1.25	SK94	楕円形	U字形	N 77° W	1.35 × (0.73) × 0.20

遺跡名	層位	土色	土質	備考		遺跡名	層位	土色	土質	備考
				層位	土質					
SK90	1	10YR5/1 黒褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルトブロックを多数、黒褐色砂質シルト小ブロック・径1~5mmの破化物を少量含む。		SK91	5	5Y4/1 オリーブ灰色	砂質シルト	灰色砂質シルトブロックを多数、径5~10mmの破化物を少量含む。
	2	10YR4/1 黒褐色	砂質シルト	濃い黒褐色砂質シルトブロックを多数、暗褐色砂質シルト小ブロックを少量含む。			6	5Y3/1 オリーブ灰色	砂質シルト	オリーブ色から黄褐色を帯び、灰オリーブ色砂質シルトブロックを少量含む。
	3	10YR5/4 濃い黄褐色	砂質シルト	暗灰色砂質シルトブロックを少量含む。			7	10G7/1 緑灰色	シルト質砂	暗緑灰色砂質シルトブロックを含む。
SK91	1	5Y3/1 オリーブ灰色	砂質シルト	黒褐色砂質シルトブロック・オリーブ灰色砂質シルトブロックを少量含む。		8	10G5/1 緑灰色	砂質シルト	オリーブ色から黄褐色を帯び、オリーブ灰色砂質シルトを帯びる。	
	2	5Y3/1 灰色	砂質シルト	オリーブ色・暗オリーブ色砂質シルトブロックを少量含む。		9	10G7/1 緑灰色	シルト質砂	暗緑灰色砂質シルトブロック・暗緑灰色シルト質砂ブロックを少量含む。	
	3	5Y3/2 オリーブ灰色	砂質シルト	黒色・茶褐色砂質シルトブロックを多数、オリーブ色砂質シルトブロック・径1~20mmの破化物を少量含む。		10	10G7/1 暗緑灰色	シルト質砂	暗緑灰色砂質シルトブロックを多数、緑灰色砂質シルトブロックを少量含む。	
	4	5Y3/4 オリーブ色	シルト質砂	オリーブ灰色砂質シルトを帯び、オリーブ色砂質シルトブロックを少量含む。		11	10Y4/1 灰色	砂質シルト	緑褐色から暗褐色を帯びる。	
SK92	1	10YR5/3 濃い黄褐色	砂	径10~50mmの黒褐色砂質シルトブロックを多数含む。						
SK94	1	10YR5/1 黒褐色	粘土質シルト	径50~100mmの黒褐色砂質シルトブロックを多数、径5mmの破化物を少量含む。						

第108図 SK90・92・94土坑 SK91井戸跡平面図・断面図

### 第3節 富沢館跡



0 (2:3) 5cm

No.	発掘番号	遺構名	形状	種類	垣根	長さ×幅×深さ (cm)	遺土層	備考	写真掲載
1	N002	SK91	全面積	土坑		幅径2.4×幅径0.7 高さ3.10	SK91(1)F1001 元土層(1000~1003)		23.6

第109図 SK91土坑出土遺物

SK99土坑(第110図)調査区東側で検出した。SD38、P654と重複関係にあり、SD38より新しく、P654より古い。平面形は不整形で、長軸方向はN-71°-Wである。規模は長軸102cm、短軸100cm、深さ47cmである。壁面は、外傾して立ち上がり、北壁は中位で段を持つ。断面形はU字形で、底面はやや起伏する。堆積土は2層に分層された。遺物は出土していない。

SK100土坑(第110図)調査区東側で検出した。SD37、P628・629と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-78°-Wである。規模は長軸230cm、短軸118cm以上、深さ50cmである。壁面は、やや外反して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は4層に分層された。遺物は出土していない。

SK101土坑(第110図)調査区東側で検出した。東側は調査区外へ延び、北側は攪乱により削平される。SD37と重複関係にあり、本遺構が古い。部分的な残存のため、詳細は不明である。深さ17cmで、底面は平坦である。堆積土は2層に分層された。堆積土中より礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK103土坑(第111図)調査区東側で検出した。SK94、SD37、P676・682と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、長軸方向はN-68°-Wである。規模は長軸169cm、短軸122cm以上、深さ58cmである。壁面は、外傾して立ち上がり、中位で段を持つ。断面形は逆台形で、底面は凹む。堆積土は6層に分層された。堆積土中より陶磁器片、銚子が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK104土坑(第111図)調査区東側で検出した。SD37、P656・661・666・668・672と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、長軸方向はN-69°-Wである。規模は長軸184cm、短軸147cm以上、深さ68cmである。壁面は、内湾して立ち上がる。断面形はU字形で、底面は平坦である。堆積土は3層に分層された。遺物は出土していない。

#### 2) 溝跡・堀跡

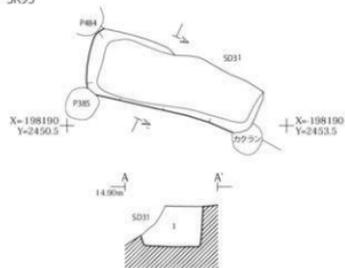
SD22溝跡(第100・112図)調査区南西側で検出した。南北方向の溝跡である。SK37・44、P272と重複関係にあり、SK44より新しく、SK37、P272より古い。方向はN-11°-Eで、規模は長さ269cm以上、幅27cm、深さ5cmである。断面形は皿形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD23溝跡(第100・112図)調査区南西側で検出した。東西方向の溝跡である。SK45・47、P294・451と重複関係にあり、SK45・47、P451より新しく、P294より古い。方向はN-72°-Wで、規模は長さ125cm以上、幅27cm、深さ15cmである。断面形は箱形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

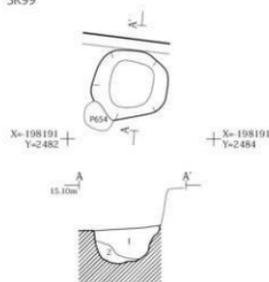
SD24溝跡(第100・112図)調査区南西側で検出した。南北方向の溝跡である。SK47、SD28、P301・481と重複関係にあり、SK47、SD28、P481より新しく、P301より古い。方向はN-15°-Eで、規模は長さ203cm、幅34cm、深さ6cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD26溝跡(第100・112図)調査区北西側で検出した。南北方向の溝跡で、北側は調査区外へ延び、南端は確認調査区IV-15トレンチにより削平される。SD31、P479と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向はN-28°-Eで、規模は長さ388cm以上、幅110cm、深さ30cmである。断面形は緩やかなV字形である。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片、須恵器片、陶磁器片、石製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

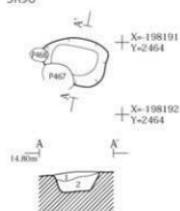
SK95



SK99



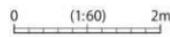
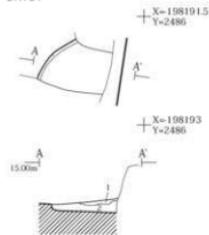
SK96



SK100



SK101



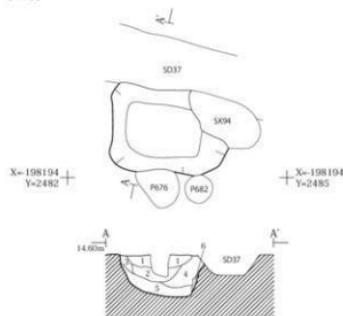
遺跡名	平面形	断面形	方位	直径×加幅×深さ(m)	遺跡名	平面形	断面形	方位	直径×加幅×深さ(m)
SK95	楕円方形	楕円	N 75° W	12.45 × 10.82 × 0.55	SK99	楕円方形	楕円形	N 78° W	2.30 × 11.80 × 0.50
SK96	円形	逆円形	N 69° W	0.90 × 0.63 × 0.26	SK101	円形	円形	不明	1.02 × 1.00 × 0.47
SK99	円形	円形	N 71° W	1.02 × 1.00 × 0.47					

遺跡名	層位	土色		備考	遺跡名	層位	土色		備考	
		上層	下層				上層	下層		
SK95	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 50mm 以下に、黄褐色砂ブロックを多量に含む。 黄褐色砂シルト大ブロックを含む。径 1 ~ 5mm の磁化物を微量含む。	SK100	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 10 ~ 30mm の間に、黄褐色砂ブロックを多量に含む。径 50mm の間に、黄褐色砂ブロックを多量に含む。径 5mm の磁化物を少量含む。	
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト			2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト		
SK96	1	10YR2/1 黄褐色	砂質シルト	径 10 ~ 50mm の間に、黄褐色砂ブロックを多量、径 1 ~ 5mm の磁化物を微量含む。		3	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト		径 10 ~ 50mm の間に、黄褐色砂ブロック、径 5mm の磁化物を少量含む。
	2	10YR2/1 黄褐色	砂質シルト			4	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト		
SK99	1	10YR2/1 黄褐色	砂質シルト	径 10 ~ 30mm の間に、黄褐色砂ブロックを多量、径 5mm の磁土を微量含む。	SK101	1	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径 10 ~ 30mm の間に、黄褐色砂ブロックを多量に含む。	
	2	10YR2/1 黄褐色	砂質シルト			2	10YR5/2 黄褐色	砂質シルト		

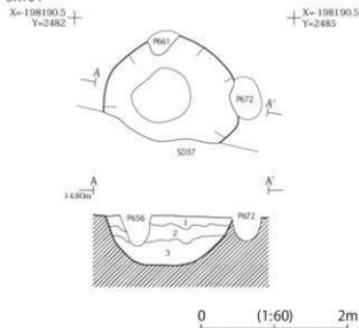
第 110 図 SK95・96・99～101 土坑平面図・断面図

### 第3節 富沢館跡

SK103



SK104



遺構名	平面図	断面図	方位	尺幅×距離・深さ(m)	遺構名	平面図	断面図	方位	尺幅×距離・深さ(m)
SK103	平面図	断面図	N 68° W	130 × (11.2) × 0.58	SK104	平面図	断面図	N 69° W	134 × (1.47) × 0.68

遺構名	層位	土色	土質	備考	遺構名	層位	土色	土質	備考	
SK103	1	10YR4/2 灰褐色	砂質シルト	径 5mm 以下の黄褐色砂を多量、灰色粘土質シルトを少量含む。	SK104	1	10YR4/1 黄褐色	砂質シルト	ここに黄褐色砂質シルトブロック、黒褐色シルト質砂ブロック・径 1～5mm の炭化物を多量に含む。	
	2	10YR2/1 黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂を多量に含む。		2	10YR4/1 黄褐色	砂質シルト	灰褐色砂質シルトブロック・黄褐色シルト質砂ブロックを含む。径 1～5mm の炭化物を多量に含む。	
	3	10YR5/3 濃い黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂を多量に含む。		3	10YR4/1 黄褐色	砂質シルト	灰褐色砂質シルトブロック・黄褐色シルト質砂ブロック・径 1～5mm の炭化物を多量に含む。	
	4	10YR5/1 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂を多量に含む。						
	5	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	灰褐色砂を多量に含む。						
	6	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	灰褐色砂を多量含む。						

第111図 SK103・104土坑平面図・断面図

SD28 溝跡 (第 100・112 図) 調査区西側で検出した。東西方向の溝跡で、東側は調査区外へ延び、部分的に擾乱により削平される。SD24、P301・314・443・481・482 と重複関係にあり、本遺構が古い。方向は N-76°・W で、規模は長さ 6.80m、幅 130cm、深さ 38cm である。断面形は逆台形である。堆積土は 3 層に分層された。堆積土中より土師器片、石製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD29 溝跡 (第 100・112 図) 調査区西側で検出した。東西方向の溝跡で、東側の一部は擾乱により削平される。SK55、SD30・31、P322・340・479・480・486 と重複関係にあり、SD 31、P 486 より新しく、SK55、SD30、P322・340・479・480 より古い。方向は N-66°・W で、規模は長さ 5.50m、幅 128cm、深さ 38cm である。断面形は逆台形である。堆積土は 3 層に分層された。堆積土中より土師器片、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD30 溝跡 (第 100・112 図) 調査区西側で検出した。南北方向の溝跡で、北側は調査区外へ延び、南端は調査区内で収束する。北側と南側の一部は擾乱により削平される。SK52・77、SD29・31、P318・339・480 と重複関係にあり、SK52・77、SD29・31、P480 より新しく、P318・339 より古い。方向は N-21°・E で、規模は長さ 495cm 以上、幅 195cm、深さ 33cm である。断面形は U 字形である。堆積土は 2 層に分層された。堆積土中より土師器片、陶磁器片、金属製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD31 溝跡 (第 100・113 図、図版 5・6) 調査区中央～西側で検出した。東西方向の溝跡で、部分的に擾乱により削平される。SK76・95、SD26・29・30、SX3、P356・357・365・368・391・394～396・483・484・571 と重複関係にあり、SK 95、P571 より新しく、SK76、SD26・29・30、SX3、P356・357・365・368・391・394～396・483・484 より古い。西端部は調査区内で収束し、この付近で北東方向へと延びる溝跡と分岐

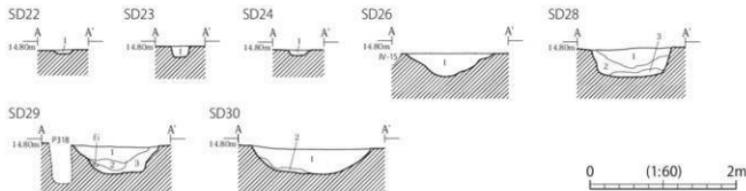
する。北西方向に延びる溝跡の下端幅はかなり狭いが、北東方向へ延びる溝跡はこれよりも広く、底面は北東方向へ延びる溝跡がやや深い。東端部はSX3に削平されているが、方向はN-57°-Wで、規模は長さ17.55m以上、幅215cm、深さ112cmである。断面形は逆台形である。堆積土は5～8層に分層された。堆積土中より礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD36 溝跡 (第100・113図) 調査区北東側で検出した。南北方向の溝跡で、北側は調査区外へ延び、南端は調査区内で収束する。西側の一部は攪乱により削平される。SD37、P600・603・610・611・623・624と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-6°-Eで、規模は長さ490cm以上、幅290cm、深さ37cmである。断面形は逆台形である。堆積土は7層に分層された。堆積土中より礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD37 溝跡 (第100・113図) 調査区東側で検出した。東西方向の溝跡で、東側は調査区外へ延び、西端は調査区内で収束する。北西側の一部は攪乱により削平される。SK94・100・101・103・104、SD36、P604・605・648・657・662・671と重複関係にあり、SK94・100・101・103・104、SD36、P662より新しく、P604・605・648・657・671より古い。方向はN-80°-Wで、規模は長さ10.54m、幅100cm、深さ54cmである。断面形は逆台形である。堆積土は4層に分層された。堆積土中より土師器片、陶磁器片、石製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD38 溝跡 (第100・113図) 調査区北東側で検出した。東西方向の溝跡である。SK99、P622と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-81°-Wで、規模は長さ324cm以上、幅55cm、深さ25cmである。断面形はU字形である。堆積土は2層に分層された。堆積土中より土師器片、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD39 堀跡 (第100・114図、図版6) 調査区東側で検出した。南北方向の堀跡で、調査区外へ延びている。SK81・87・88、SD40、多数の遺物と重複関係にあり、SD40より新しく、SK81・87・88、いずれのビットより古い。方向はN-17°～50°-Wで、南側は東へ屈曲している。規模は長さ6.80m以上、幅5.00m、深さ200cmである。断面形は逆台形である。堆積土は29層に分層された。堆積土中より土師器片、骨片が出土しているが、図



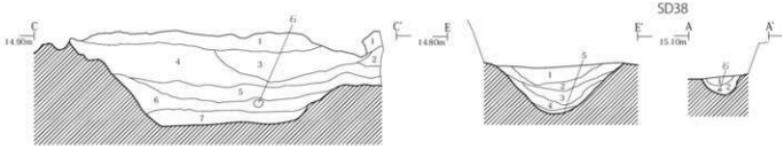
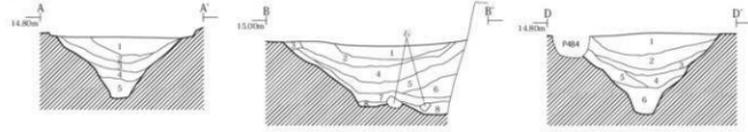
遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)	遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)
SD22	直線	矩形	N11° E	0.60 × 0.27 × 0.05	SD28	直線	逆台形	N76° W	6.80 × 1.30 × 0.38
SD23	直線	矩形	N72° W	1.25 × 0.27 × 0.15	SD29	直線	逆台形	N66° W	5.50 × 1.28 × 0.38
SD24	直線	逆台形	N15° E	2.03 × 0.34 × 0.06	SD30	直線	U字形	N21° E	6.80 × 1.05 × 0.33
SD25	直線	Y字形	N28° E	0.80 × 1.10 × 0.30					

遺構名	層位	土色	土性	備考	遺構名	層位	土色	土性	備考
SD22	1	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	径10～20mmの黄褐色砂ブロックを多数に含む。	SD29	1	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	径10mmの黄褐色砂ブロック・径5mmの粘土を少量含む。
SD23	1	10YR2/2 灰黄褐色	砂質シルト	径10mmの黄褐色砂ブロックを少量含む。		2	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	径30mmの灰褐色粘土質シルトブロックを多数、径30～50mmの黄褐色砂ブロックを少量含む。
SD24	1	10YR2/2 灰黄褐色	砂質シルト	径10mmの黄褐色砂ブロックを少量含む。		3	10YR2/3 高い黄褐色	砂質シルト	径10mmの黄褐色粘土質シルトブロックを多数に含む。
SD26	1	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	径10mmの黄褐色砂ブロック・径5mmの灰褐色粘土を少量含む。	SD30	1	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	径100～200mmの黄褐色砂ブロック・径30～200mmの灰褐色物を多数、径10～50mmの粘土ブロックを少量含む。
SD28	2	10YR2/2 灰黄褐色	砂質シルト	径10mmの黄褐色砂ブロック・径10mmの粘土を少量含む。		2	10YR2/3 高い黄褐色	砂質シルト	下部に砂礫を少量含む。
	3	10YR2/6 黄褐色	粘土質シルト	径10mmの黄褐色砂ブロックを少量含む。					

第112図 SD22～24・26・28～30溝跡断面図

第3節 富沢館跡

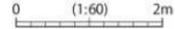
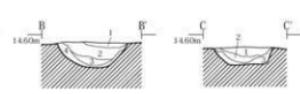
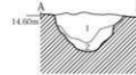
SD31



SD36



SD37



遺構名	平面図	断面図	方位	長さ×幅×深さ(m)	遺構名	平面図	断面図	方位	長さ×幅×深さ(m)
SD31	遺跡	遺跡	N 57° W	(17.5) × 2.15 × 1.12	SD37	遺跡	遺跡	N 90° W	(19.5) × 1.00 × 0.54
SD36	遺跡	遺跡	N 6° E	(4.9) × 2.90 × 0.37	SD38	遺跡	遺跡	N 81° W	(3.2) × 0.55 × 0.23
遺構名	層別	土名	3層	層名	遺構名	層別	土名	3層	層名
SD31A	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	層 10～40mm のCに、黄褐色砂ブロックを多数含む。層 5mm の粘土層を含む。	SD31D	4	10YR4/2 灰褐色	粘土	層 10～40mm のCに、黄褐色砂ブロックを多数含む。層 5mm の粘土層を含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	層 20～50mm のCに、黄褐色砂ブロックを多数含む。灰褐色砂質シルトを互層状に含む。		5	10YR4/2 灰褐色	粘土	層 20mm の黄褐色粘土層ブロック、黄褐色砂ブロックを多数含む。層 10～50mm の黄褐色砂ブロックを多数含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	層 30～60mm のCに、黄褐色砂ブロックを多数含む。		6	10YR4/2 灰褐色	粘土	層 10～50mm の黄褐色砂ブロックを多数含む。
	4	10YR4/2 灰褐色	シルト	層 10～20mm のCに、黄褐色砂ブロックを多数含む。		2	10YR1/7 灰色	粘土質シルト	Cに、黄褐色粘土・層 10～20mm の黄褐色砂ブロックを多数含む。
SD31B	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	層 30～50mm のCに、黄褐色砂ブロック、灰褐色粘土層シルトを少量含む。	SD31E	3	10YR4/2 灰褐色	粘土	層 10～20mm のCに、黄褐色砂ブロック、灰褐色粘土層シルトを少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	層 10～20mm のCに、黄褐色砂ブロックを多数含む。層 10～20mm の硬さを示す。下部に黒色粘土層シルトを互層状に含む。		4	10YR4/2 灰褐色	粘土	層 10～20mm のCに、黄褐色砂ブロック、灰褐色粘土層シルトを少量含む。
	3	10YR2/1 黒色	砂質シルト	層 10～20mm のCに、黄褐色砂ブロックを多数含む。層 10mm の硬さを示す。		5	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	層 10YR5/6 黄褐色の砂質シルトブロックを多数含む。硬さを示す。
	4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	層 30～50mm のCに、黄褐色砂ブロックを多数含む。		1	10YR4/1 黄褐色	砂質シルト	層 1～5mm の黄褐色砂質シルトブロックを多数含む。硬さを示す。
SD31C	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	層 20～50mm のCに、黄褐色砂ブロックを多数含む。層 10～20mm の硬さを示す。下部に黒色粘土層シルトを互層状に含む。	SD36	2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	層 10～20mm のCに、黄褐色砂ブロックを多数含む。層 10～20mm の硬さを示す。下部に黒色粘土層シルトを互層状に含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	層 30～50mm のCに、黄褐色砂ブロックを多数含む。層 10～20mm の硬さを示す。下部に黒色粘土層シルトを互層状に含む。		3	10YR4/1 黄褐色	砂質シルト	層 10～20mm のCに、黄褐色砂ブロックを多数含む。層 10～20mm の硬さを示す。下部に黒色粘土層シルトを互層状に含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	層 10～20mm のCに、黄褐色砂ブロックを多数含む。層 10～20mm の硬さを示す。下部に黒色粘土層シルトを互層状に含む。		4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Cに、黄褐色粘土・層 10～20mm の黄褐色砂ブロックを多数含む。
	4	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	層 20～30mm のCに、黄褐色砂ブロックを多数含む。自然土・大量腐葉を含む。		5	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	層 10～20mm の黄褐色砂質シルトブロックを多数含む。層 10～20mm の硬さを示す。
	5	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	砂・細砂を多数含む。		6	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	層 10～20mm の黄褐色砂質シルトブロック・腐葉を少量含む。
	6	10YR2/1 黒色	砂質シルト	灰褐色砂質シルトを多数含む。灰褐色・層 5mm の粘土を少量含む。		7	10YR5/6 黄褐色	シルト質砂	灰褐色砂質シルト・ブロックを少量含む。
	7	10YR2/1 黒色	砂質シルト	灰褐色砂質シルトを多数含む。灰褐色・層 5mm の粘土を少量含む。		8	10YR4/2 灰褐色	砂質シルト	層 5mm の黄褐色砂質シルト・ブロックを多数含む。層 30～50mm の黄褐色砂質シルト・ブロックを多数含む。
	8	10YR2/1 黒色	砂質シルト	層 10～20mm の黄褐色砂質シルトを多数含む。層 10～20mm の硬さを示す。下部に黒色粘土層シルトを互層状に含む。		SD37A	1	10YR2/1 黒色	砂質シルト
2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	層 30～50mm のCに、黄褐色砂ブロックを多数含む。層 10～20mm の硬さを示す。下部に黒色粘土層シルトを互層状に含む。	2	10YR4/2 灰褐色		砂質シルト	層 10～20mm の黄褐色砂質シルトを多数含む。	
3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	層 10～20mm のCに、黄褐色砂ブロックを多数含む。層 10～20mm の硬さを示す。下部に黒色粘土層シルトを互層状に含む。	3	10YR4/2 灰褐色		砂質シルト	層 10～20mm の黄褐色砂質シルトを多数含む。	
4	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルトを互層状に含む。	4	10YR5/6 黄褐色		砂質シルト	層 10～20mm の黄褐色砂質シルトブロックを多数含む。	
SD31D	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	層 10～20mm のCに、黄褐色砂ブロックを多数含む。層 10～20mm の硬さを示す。下部に黒色粘土層シルトを互層状に含む。	SD37B	1	10YR2/1 黒色	砂質シルト	層 10～20mm の黄褐色砂質シルトを多数含む。層 10～20mm の硬さを示す。下部に黒色粘土層シルトを互層状に含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	層 30～50mm のCに、黄褐色砂ブロックを多数含む。層 10～20mm の硬さを示す。下部に黒色粘土層シルトを互層状に含む。		2	10YR2/1 黒色	砂質シルト	層 10～20mm の黄褐色砂質シルトを多数含む。層 10～20mm の硬さを示す。下部に黒色粘土層シルトを互層状に含む。
	3	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	層 10～20mm のCに、黄褐色砂ブロックを多数含む。層 10～20mm の硬さを示す。下部に黒色粘土層シルトを互層状に含む。		3	10YR4/1 黄褐色	粘土質シルト	層 10～20mm の黄褐色砂質シルト・粘土質シルトを多数含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	層 10～20mm のCに、黄褐色砂ブロックを多数含む。層 10～20mm の硬さを示す。下部に黒色粘土層シルトを互層状に含む。		4	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	層 10～20mm の黄褐色砂質シルトブロックを多数含む。
	5	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	層 10～20mm のCに、黄褐色砂ブロックを多数含む。層 10～20mm の硬さを示す。下部に黒色粘土層シルトを互層状に含む。		1	10YR2/1 黒色	砂質シルト	層 5mm の粘土を少量含む。
	6	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	層 100mm のCに、黄褐色砂ブロックを多数含む。		2	10YR4/1 黄褐色	粘土質シルト	灰褐色砂質シルトを多数含む。
	7	10YR2/1 黒色	砂質シルト	層 10～30mm の黄褐色砂質シルトを多数含む。		3	10YR1/7 灰色	粘土質シルト	層 10～20mm の黄褐色砂質シルト・粘土質シルトを多数含む。
SD31E	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	層 10～20mm のCに、黄褐色砂ブロックを多数含む。層 10～20mm の硬さを示す。下部に黒色粘土層シルトを互層状に含む。	SD37C	1	10YR2/1 黒色	砂質シルト	層 10～20mm の黄褐色砂質シルトを多数含む。層 10～20mm の硬さを示す。下部に黒色粘土層シルトを互層状に含む。
	2	10YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	Cに、黄褐色粘土を多数含む。自然土・腐葉を少量含む。		2	10YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	層 10～20mm の黄褐色砂質シルト・粘土質シルトを多数含む。

第113図 SD31・36～38 溝跡断面図



### 第3節 富沢館跡

示できる遺物はない。

SD40 堀跡 (第100・114図、図版6) 調査区中央東側で検出した。南北方向の堀跡で、調査区外へ延び、部分的に攪乱により削平される。SK81・84・85・87・88・90、SD39、多数のピットと重複関係にあり、本遺構が最も古い。方向はN-15°-Eで、規模は長さ6.40m、幅5.40m、深さ130cmである。断面形は逆台形である。堆積土は11層に分層された。遺物は出土していない。

#### 3) 性格不明遺構

SX3 性格不明遺構 (第115図) 調査区中央南側で検出した。南側は調査区外へ延び、南西側の一部は攪乱により削平される。SD31、P399・415・421と重複関係にあり、SD31より新しく、P399・415・421より古い。平面形は隅丸方形と考えられ、規模は東西405cm、南北167cm以上、深さ92cmである。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がり、下位で大きく外傾する。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は9層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片、陶磁器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SX4 性格不明遺構 (第115図、図版6) 調査区中央北側で検出した。北側は調査区外へ延び、南西側はトレンチにより削平され、中央・南側は部分的に攪乱により削平される。SK79・80・91、P429・456・489～493と重複関係にあり、SK79・80・91より新しく、P429・456・489～493より古い。平面形は不整形と考えられ、長軸方向は不明である。規模は東西7.80m、南北258cm以上、深さ20cmである。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや起伏する。堆積土は4層に分層された。堆積土中より土師器片、瓦、陶磁器片、土師質土器片、石製品、木製品、金属製品、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

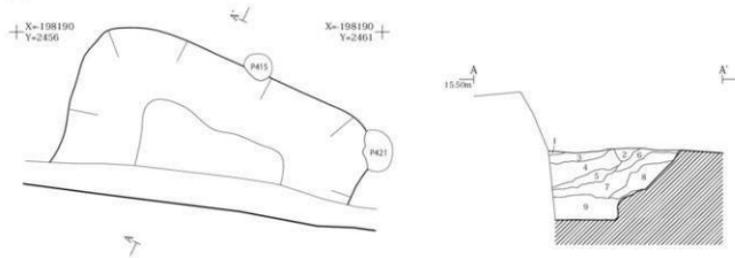
#### 4) ピット (第100図)

392 基のピットを検出した。調査区全体に分布する。堆積土中より土師器片、赤焼土器片、須恵器片、陶磁器片、土師質土器片、石器、石製品、金属製品、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

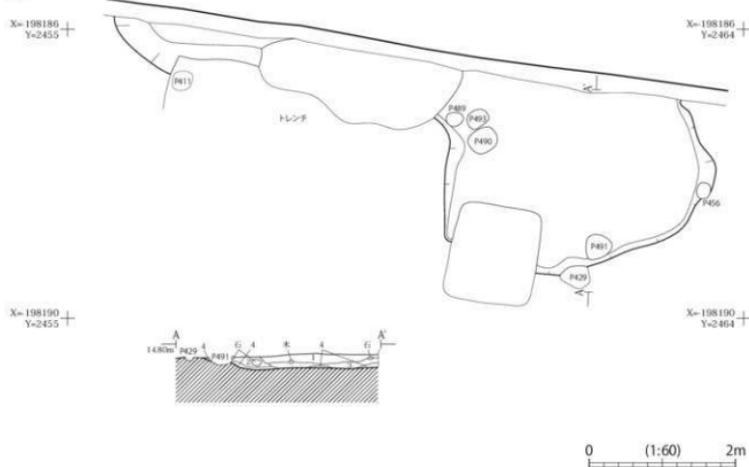
#### (2) 遺構外出土遺物

縄文土器片、土師器片、須恵器片、瓦片、陶磁器片、土師質土器片、石製品、木製品、金属製品、土製品、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

SX3



SX4



遺構名	平面図	断面形状	高台	長軸×短軸×深さ (m)	遺構名	平面図	断面形状	高台	長軸×短軸×深さ (m)
SX3	縦丸方形	逆T形	-	4.03 × 11.67 × 0.02	SX4	平壁形	逆T形	-	7.80 × 12.56 × 0.20

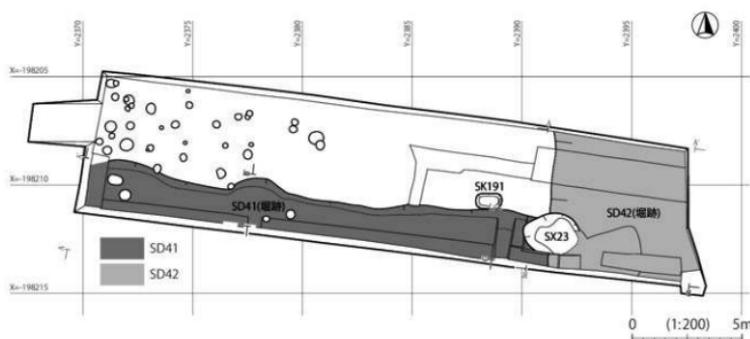
遺構名	部位	土色		土質	備考	遺構名	部位	土色		土質	備考
		上	下					上	下		
SX3	1	10YR4/1	黒灰色	砂質シルト	明炭褐色砂質シルトを少量含む。	SX3	8	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	に赤い黄褐色砂質シルトブロックを多量、オリーブ色砂質シルトブロック・柱1～150mmの硬化石を多量含む。
	2	10YR3/3	に赤い黄褐色	シルト質砂	黒炭褐色シルトブロックを多量、黒褐色砂質シルトブロックを少量含む。		9	7.5Y2/1	オリーブ黒色	シルト質砂	オリーブ黒色シルト質砂ブロックを多量、黒色砂質シルトブロックを少量、木釘を多量含む。
	3	10YR7/4	に赤い黄褐色	シルト質砂	黒褐色・明炭褐色砂質シルトを少量含む。		1	10YR4/1	黒灰褐色	砂質シルト	黒炭褐色砂質シルトブロックを多量、明炭褐色砂質シルトを少量含む。
	4	10YR2/1	黒色	砂質シルト	に赤い炭褐色シルト質砂ブロック・明炭褐色・明炭褐色砂質シルトブロックを少量含む。		2	10YR4/2	黒炭褐色	砂質シルト	炭褐色・明炭褐色砂質シルトを少量含む。
	5	10YR7/4	に赤い黄褐色	シルト質砂	明炭褐色シルトブロック・オリーブ色シルト質砂ブロック・明炭褐色砂質シルトを少量含む。		3	5Y2/1	オリーブ黒色	砂質シルト	明炭褐色・明炭褐色砂質シルトを少量含む。に赤い黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	6	10YR4/1	黒灰褐色	砂質シルト	に赤い炭褐色シルトブロックを多量、明炭褐色砂質シルトを少量含む。		4	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	に赤い黄褐色・明炭褐色砂質シルトブロックを少量含む。
7	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	に赤い黄褐色・オリーブ色砂質シルトブロック・柱1～50mmの硬化石を少量含む。							

第115図 SX3・4 性格不明遺構平面図・断面図

### 第3節 富沢館跡

#### 5. 5区の調査(付図2・3)

5区では、基本層Ⅲ層上面(古代以降の遺構検出面)において、土坑1基、堀跡2条、性格不明遺構1基、ピット40基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。



第116図 富沢館跡5区遺構配置図

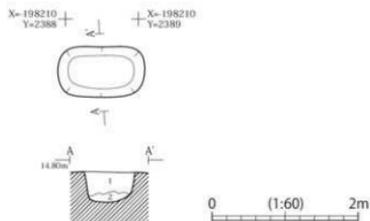
#### (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物(第116～120図、図版7・23)

##### 1) 土坑

SK191土坑(第117図)調査区中央東側で検出した。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-89°-Eである。規模は長軸110cm、短軸70cm、深さ41cmである。壁面は、直線的に外傾して立ち上がる。断面形はU字形で、底面は凹む。堆積土は2層に分層された。遺物は出土していない。

##### 2) 堀跡

SD41堀跡(第116・118図、図版7)調査区南側で検出した。東西方向に延びる堀跡で、両端は調査区外へ延び、部分的に掘乱により削平される。SD42、SK23、P705・707・715・716・717と重複関係にあり、本遺構が古い。トレンチを設定して調査を行ったが、完掘していない。方向はN-82°-Wで、規模は長さ21.56m以上、幅260cm以上、深さ125cm以上である。壁面は直線的に外傾するが、断面形は不明である。堆積土は9層に分層された。



遺構名	平面形	断面形	方位	長軸×短軸×深さ(m)	遺構名	層位	土色	土性	備考
SK191	隅丸長方形	U字形	N-89°-E	1.10×0.70×0.41	1	10YR5/2 灰黒褐色	砂質シルト	褐色砂質シルト・アロックスを多量、粘質砂質シルト・アロックスを少量含む。	
					2	10YR4/3 紅、黄褐色	砂質シルト	褐色砂質シルト・アロックスを少量含む。	

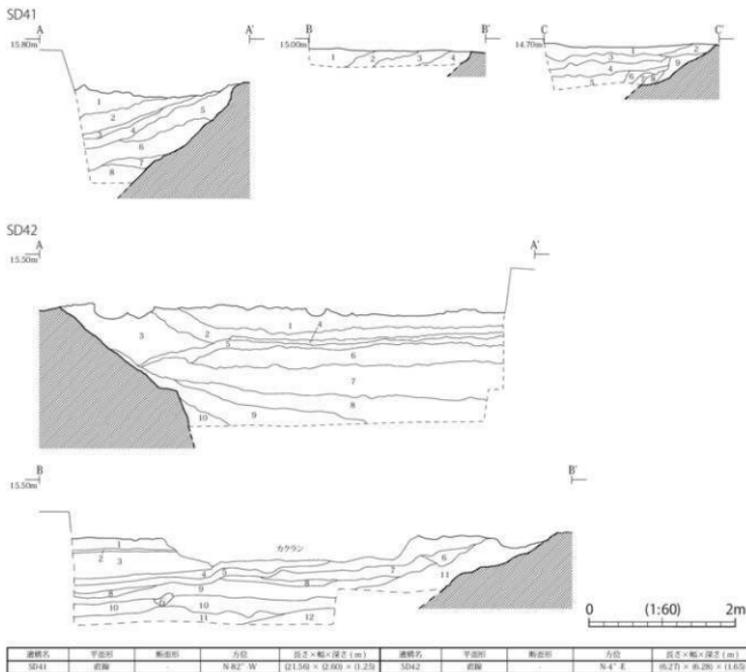
第117図 SK191土坑平面図・断面図

堆積土中より土師器片、須恵器片、陶磁器片、金属製品、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD42 堀跡 (第 116・118・119 図、図版 7・23) 調査区東側で検出した。南北方向の堀跡で、両端は調査区外へ延び、部分的に攪乱により削平される。SD41、SX23 と重複関係にあり、SX23 より古く、SD41 より新しい。トレンチを設定して調査を行ったが、底面まで完掘していない。方向は N-4°-E で、規模は長さ 6.27m 以上、幅 6.28m 以上、深さ 165cm 以上である。壁面は外傾するが、断面形は不明である。堆積土は 12 層に分層された。遺物は土師器片、須恵器片、陶磁器片、木製品、金属製品が出土しており、堆積土から出土した古銭 1 点 (第 119 図 1) を図示した。

### 3) 性格不明遺構

SX23 性格不明遺構 (第 120 図) 調査区東側で検出した。南～東側はトレンチ及び攪乱により削平される。SD41・42 と重複関係にあり、本遺構が最も新しい。平面形は不整楕円形と考えられ、長軸方向は不明である。規模は長軸 238cm 以上、短軸 195cm 以上、深さ 37cm である。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は起伏する。堆積土は 3 層に分層された。堆積土中より須恵器片、石器、多量の礫が出土しているが、図示できる遺物はない。



第 118 図 SD41・42 堀跡断面図

### 第3節 富沢館跡

SD41・42 堀跡横断面記述

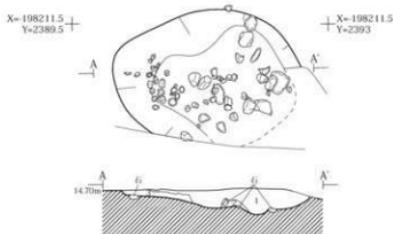
遺跡名	経緯	土色	土質	備考	遺跡名	経緯	土色	土質	備考
SD41 A～A'	1	10YR4/1 黄灰色	砂質シルト	に高い礫層・粗面砂質シルトブロック・径1～10mmの炭化物を多量、明褐色砂質シルト・小ブロックを少量含む。	SD42 A～A'	4	7.5YR5/6 暗褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルトブロック・暗褐色を多量に含む。黄褐色砂質シルトブロック・暗褐色を多量に含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	に高い礫層・粗面砂質シルトブロック・暗褐色を多量、黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。有機質。		6	7.5YR/1 灰褐色	砂質シルト	灰オリーブ色砂質シルトブロック・径1～10mmの炭化物・径10～300mmの礫を少量含む。
	3	10YR5/3 黄褐色	砂質シルト	に高い礫層・粗面砂質シルトブロック・炭化物を多量、明褐色砂質シルト・小ブロックを少量含む。有機質。		7	10Y3/1 オリーブ褐色	砂質シルト	オリーブ灰色砂質シルトブロックを多量、径1～10mmの炭化物・径10～500mmの礫・木目を多量に含む。有機質。
	4	10YR5/3.5 に高い黄褐色	砂質シルト	明褐色砂質シルト・小ブロックを少量、下部に炭化物を多量に含む。		8	10C7/1 暗緑褐色	砂質シルト	オリーブ黒色砂質シルトブロック・径1～10mmの炭化物・木目を多量に含む。有機質。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	明褐色砂質シルト・小ブロックを少量、暗褐色砂質シルト・小ブロックを少量含む。		9	10C7/4 1 暗緑褐色	砂質シルト	暗オリーブ色・オリーブ黒色砂質シルトブロックを多量、オリーブの炭化物・径10～200mmの礫・木目を多量に含む。有機質。
	6	10YR5/1 黄灰色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト・小ブロックを多量、径1～10mmの炭化物を少量含む。		10	10C7/1 暗緑褐色	シルト砂層	暗褐色砂質シルト・小ブロックを多量、灰オリーブ色砂質シルト・小ブロック・径1～5mmの炭化物を少量含む。
	7	10Y4/1 灰褐色	砂質シルト	オリーブ灰色砂質シルト・小ブロックを多量、オリーブ黄色砂質シルト・小ブロックを少量含む。		1	10YR5/4 に高い黄褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト・小ブロックを多量、暗褐色砂質シルト・小ブロック・暗褐色を少量含む。
	8	10Y3/1 オリーブ褐色	砂質シルト	オリーブ灰色砂質シルト・小ブロックを少量、径1～10mmの炭化物・暗褐色を多量に含む。		2	7.5YR5/6 暗褐色	砂質シルト	オリーブ黄色砂質シルト・小ブロック・炭褐色を少量含む。
SD41 B～B'	1	10YR4/1 黄灰色	砂質シルト	に高い礫層・粗面砂質シルト・小ブロックを多量、明褐色砂質シルト・小ブロック・炭褐色砂質シルト・小ブロック・径1～10mmの炭化物を少量含む。		3	5Y4/1 灰褐色	砂質シルト	オリーブ黄色砂質シルト・小ブロック・炭褐色を少量含む。
	2	10YR5/8 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルト・小ブロックを多量、径1～3mmの炭化物・暗褐色砂質シルト・小ブロック・暗褐色砂質シルト・小ブロック・暗褐色砂質シルト・小ブロック・暗褐色を少量含む。		4	10C7/1 暗緑褐色	シルト砂層	暗オリーブ色砂質シルト・小ブロック・暗褐色を少量含む。
	3	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト・小ブロックを多量、明褐色砂質シルト・小ブロック・径1～5mmの炭化物を少量含む。	5	2.5Y5/2 暗黄褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト・小ブロック・径1～10mmの炭化物を少量、暗褐色を少量含む。	
SD41 C～C'	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	暗褐色シルト・小ブロックを少量含む。	SD42 B～B'	6	10Y3/1 オリーブ褐色	砂質シルト	オリーブ灰色砂質シルト・小ブロックを多量、オリーブ黄色砂質シルト・小ブロックを少量含む。
	2	10YR5/6 暗黄褐色	砂質シルト	暗褐色を少量含む。		7	10YR3/4 暗黄褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト・小ブロック・径1～5mmの炭化物・径20～50mmの礫を少量含む。
	4	10YR2/1 黄褐色	砂質シルト	黄褐色を多量に含む。暗褐色を少量含む。		8	10Y4/1 灰褐色	砂質シルト	オリーブ灰色砂質シルト・小ブロックを多量、灰オリーブ色砂質シルト・小ブロック・径1～15mmの炭化物を少量含む。
	5	10YR5/6 暗黄褐色	粘土質シルト	黄褐色・小ブロックを多量に含む。		9	10Y7/1 灰褐色	砂質シルト	灰オリーブ色砂質シルト・小ブロックを多量、オリーブ黄色砂質シルト・小ブロック・径1～10mmの炭化物・径50～100mmの礫を少量含む。
	6	10YR4/1 黄褐色	粘土質シルト	明褐色砂質シルト・小ブロックを少量含む。		10	10B6/4 暗黄褐色	シルト砂層	暗褐色砂質シルト・小ブロック・径10～700mmの礫を少量、径1～200mmの炭化物を少量含む。
	7	10YR4/1 黄褐色	シルト	暗褐色を多量に含む。		11	10Y3/1 オリーブ褐色	砂質シルト	オリーブ灰色砂質シルト・小ブロック・径1～10mmの炭化物を少量、木目を多量に含む。有機質。
	8	7.5YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	暗褐色を多量に含む。		12	10C7/4 1 暗緑褐色	シルト砂層	オリーブ黒色・暗褐色砂質シルト・小ブロック・径1～10mmの炭化物を少量含む。
	9	7.5YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	暗褐色を多量に含む。					
	SD42 A～A'	1	10YR4/3 に高い黄褐色	砂質シルト		暗褐色砂質シルト・小ブロック・暗褐色を多量、黄褐色砂質シルト・小ブロックを少量含む。			
2		10YR3/1 黄褐色	砂質シルト	黄褐色・暗褐色砂質シルト・小ブロック・暗褐色を多量、黄褐色砂質シルト・小ブロック・径10～50mmの礫を少量含む。					
3		10YR4/1 黄褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト・小ブロックを多量、明褐色砂質シルト・小ブロックを少量含む。					



0 (2:3) 5cm

No.	記録番号	遺跡名	経緯	標高	方位	長さ×幅×高さ (m)	層数	備考	写真枚数
1	N-026	SD42		全埋没型	古瓦	径2.3×厚径0.6 高さ1.20	新築水遣壁(1400)		237

第119図 SD42 堀跡出土遺物



0 (1:60) 2m

遺跡名	平面図	断面図	方位	直径×幅幅(高さ) (m)	遺跡名	経緯	土色	土質	備考
SX23	平面埋没型	柱形	古瓦	径2.0×径1.0×高さ0.37	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	暗褐色を少量含む。	
					2	10YR4/1 黄褐色	シルト		
					3	10YR5/4 に高い黄褐色	砂質シルト		

第120図 SX23 性格不明遺構平面図・断面図

## 4) ビット (第116図)

40基のビットを検出した。調査区西側に分布する。堆積土中より土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

## (2) 遺構外出土遺物

土師器片、須恵器片、陶磁器片、土師質土器片、金属製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

## 6. 6区の調査

6区は、土壘下層の調査区である。基本層Ⅲ層上面(古代以降の遺構検出面)において、竪穴遺構5基、土坑41基、火葬墓1基、溝跡・堀跡7条、小溝状遺構群1群、性格不明遺構4基、ビット110基を検出した。ビットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ビットについては遺構配置図のみ表示している。

## (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物(第121～143図、図版7～10・23)

## 1) 竪穴遺構

## S14 竪穴遺構(第122図、図版7)

[位置] 調査区南東側に位置する。東側は調査区外へ延びる。

[重複関係] 小溝状遺構群1-4・5、P759・842・843と重複関係にあり、本遺構が古い。

[規模・形態] 規模は東西130cm以上、南北358cmである。平面形は、残存状況から隅丸方形を呈すると考えられる。竪穴住居跡の可能性があるが、カマドは検出されていない。

[主軸方位] 西壁基準でN-25°-Eである。

[堆積土・構築土] 6層に分層された。1～4層は遺構堆積土、5層は周溝内堆積土、6層は掘り方埋土である。

[壁面] 床面から外傾して立ち上がる。壁高は床面から最大25cmである。

[床面] 掘り方埋土上面または基本層Ⅲ層を直接床面とし、起伏する。南西側床面で、長軸110cm、短軸52cmの被熱範囲を確認した。周囲の床面や壁面等に被熱した様子がみられないため、火跡の可能性が考えられる。

[柱穴] 床面で5基のビット(P1～5)を検出した。位置関係からP3～5は主柱穴の可能性が高い。規模は長軸31～35cm、短軸18～30cm、深さ44～55cmである。平面形は円形を主体とし、断面形はいずれもU字形を呈する。P4・5では柱痕跡が確認された。その他のビットの規模は長軸24～48cm、短軸22～44cm、深さ18～56cmである。平面形は円形で、断面形はU字形を呈する。

[周溝] 壁に沿って全周すると考えられる。断面形は逆台形で、幅25～51cm、深さ10～14cmである。

[掘り方] 深さ2～10cmである。壁際が溝状に掘り込まれることにより、中央が島状に残る。

[出土遺物] 遺構堆積土、床面から土師器片、須恵器片、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。釜等との掘削関連遺物は出土していないが、火跡と考えられる被熱範囲の存在から掘削関連遺構の可能性も考えられる。

## S15 竪穴遺構(第123図、図版7・8)

[位置] 調査区南東側に位置する。南側は調査区外へ延びる。

[重複関係] 小溝状遺構群1-1・2、SK132と重複関係にあり、本遺構が古い。

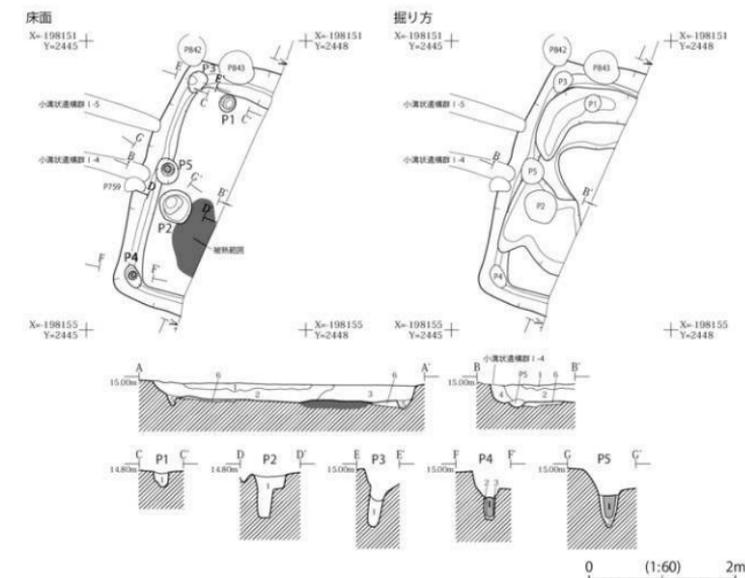
[規模・形態] 規模は東西407cm、南北275cm以上である。平面形は、残存状況から隅丸方形を呈すると考えられる。周溝・カマドは検出されていない。

[主軸方位] 西壁基準でN-22°-Eである。

[堆積土・構築土] 4層に分層された。1・2層は遺構堆積土、3層は周溝内堆積土、4層は掘り方埋土である。

[壁面] 床面から外傾して立ち上がる。壁高は床面から最大15cmである。





遺構名	名	平面形	寸法	直径・短軸・長さ (m)					
S4	竪穴	楕円形状	N 25° E	3.58 × 1.30 × 0.25					
寸法	平面形	断面形	直径・短軸・長さ (m)		寸法	平面形	断面形	直径・短軸・長さ (m)	
P1	円形	U字形	0.24 × 0.22 × 0.18		P4	楕円形	U字形	0.31 × 0.18 × 0.44	
P2	円形	U字形	0.48 × 0.44 × 0.55		P5	円形	U字形	0.35 × 0.30 × 0.53	
P3	円形	U字形	0.31 × 0.24 × 0.55						

遺構名	柱位	土色	土質	備考		遺構名	柱位	土色	土質	備考	
				1	2						
S4	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	1	黒色砂質シルト・ブロック・径 10～20mm の珪化物を少量含む。	P1	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	1	10YR3/2 黒褐色 黒色砂質シルト・ブロック・径 10～20mm の珪化物を少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	2	黒色砂質シルト・ブロックを多数、10YR3/2 黒褐色砂質シルト・ブロック・径 10～50mm の珪化物を少量含む。	P2	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	2	10YR3/2 黒褐色 黒色砂質シルト・ブロックを多数、黒褐色砂質シルト・ブロックを少量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	3	黒色砂質シルト・ブロックを多数、黒褐色砂質シルト・ブロックを少量含む。	P3	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	3	10YR3/2 黒褐色 黒色砂質シルト・ブロックを多数、黒褐色砂質シルト・ブロックを少量含む。
	4	10YR4/0 褐色	砂質シルト	4	黒色砂質シルト・ブロックを多数、黒褐色砂質シルト・ブロックを少量含む。	P4	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	4	10YR3/2 黒褐色 黒色砂質シルト・ブロックを多数、黒褐色砂質シルト・ブロックを少量含む。(柱面)
	5	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	5	黒色砂質シルト・ブロックを多数含む。	P5	2	10YR4/4 褐色	シルト質砂	5	10YR3/2 黒褐色 黒色砂質シルト・ブロックを多数含む。
	6	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	6	黒色砂質シルト・ブロックを多数含む。	P5	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	6	10YR3/2 黒褐色 黒色砂質シルト・ブロックを多数含む。(柱面)
						2	10YR4/4 褐色	砂質シルト			黒色砂質シルト・ブロックを少量含む。

第 122 図 S4 竪穴遺構平面図・断面図

[床面] 掘り方土上または基本層Ⅲ層を直接床面とし、わずかに起伏する。遺構中央南側で、長軸 136cm、短軸 85cm の被熱範囲を確認した。

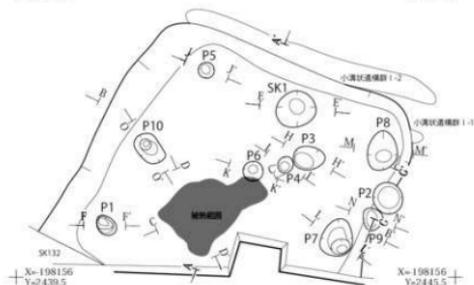
[柱穴] 床面で 10 基のビット (P1～10) を検出した。位置関係から P1・5・7・8・10 は主柱穴の可能性が高い。規模は長軸 31～60cm、短軸 28～44cm、深さ 10～63cm である。平面形は楕円形を主体とし、断面形は U 字形ないし逆台形を呈する。柱痕跡は確認されていない。その他のビットの規模は長軸 23～45cm、短軸 20～40cm、深さ 12～42cm である。平面形は円形ないし楕円形で、断面形は U 字形を主体とする。柱痕跡は確認されていない。

### 第3節 富沢館跡

床面

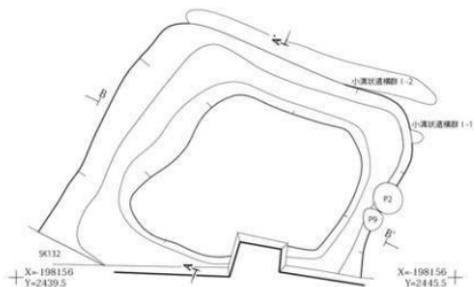
X=198152  
Y=2439.5

X=198152  
Y=2445.5



掘り方  
X=198152  
Y=2439.5

X=198152  
Y=2445.5



X=198156  
Y=2439.5

X=198156  
Y=2445.5



遺構名	方字図	平面形	方位	長幅・短幅・深さ (cm)			
SK1	なし	隅丸方形	N 22° E	(2.75) × 4.67 × 0.28			
P 遺構	平面形	楕圓形	長幅・短幅・深さ (cm)	長幅・短幅・深さ (cm)			
P1	円形	U字形	0.31 × 0.28 × 0.35	P7	楕円形	楕圓形	0.50 × 0.44 × 0.53
P2	円形	楕圓形	0.45 × 0.40 × 0.16	P8	楕円形	楕圓形	0.60 × 0.40 × 0.63
P3	楕円形	U字形	0.43 × 0.33 × 0.42	P9	円形	U字形	0.30 × 0.26 × 0.17
P4	円形	U字形	0.23 × 0.20 × 0.18	P10	楕円形	平布線形	0.46 × 0.32 × 0.44
P5	円形	楕圓形	0.24 × 0.22 × 0.19	SK1	円形	U字形	0.55 × 0.50 × 0.22
P6	円形	U字形	0.28 × 0.27 × 0.12				

第123図 SIS 竪穴遺構平面図・断面図

S15 竪穴遺構・床面陶器堆積土上記載

遺構名	層位	土色	特徴	遺構名	層位	土色	特徴
S15	1	10YR5/4 暗褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロック・径10～20mmの炭化物を少量含む。	P5	10YR5/3 暗褐色	砂質シルト
	2	10YR5/4 暗褐色	砂質シルト	褐色・黒褐色砂質シルトブロックを少量含む。	P6	10YR5/2 黒褐色	砂質シルト
	3	10YR5/2 黒褐色	砂質シルト	濃い黒褐色砂質シルトブロック・炭化シルト・筒状のブロッコ・炭化物を少量含む。	P7	10YR5/2 黒褐色	砂質シルト
	4	10YR4/2 灰黒褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルトブロックを少量含む。	2	10YR5/2 灰黒褐色	シルト質砂
F1	1	10YR5/2 黒褐色	砂質シルト	明褐色砂質シルト小ブロック・径1～3mmの炭化物を少量含む。	F8	10YR4/4 褐色	砂質シルト
	2	10YR4/3 に近い暗褐色	砂質シルト	径1～5mmの炭化物を少量含む。			
F2	1	10YR5/3 暗褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロックを少量含む。	P9	10YR4/4 暗褐色	砂質シルト
F3	1	10YR5/2 黒褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロックを多量、径3～5mmの炭化物を少量含む。	P10	10YR4/4 褐色	砂質シルト
	2	10YR4/2 灰黒褐色	シルト質砂	褐色砂質シルト小ブロックを少量含む。	SK1	10YR5/3 暗褐色	砂質シルト
F4	1	10YR5/4 暗褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロックを少量含む。			
	2	10YR5/2 灰黒褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルトブロックを少量含む。			

[その他の施設] 床面で1基の土坑(SK1)を検出した。床面中央北側に位置する。平面形は円形で、規模は長軸55cm、短軸50cm、深さ22cmである。堆積土は単層である。規模や位置関係から主柱穴の可能性も考えられる。

[掘り方] 深さ3～13cmである。壁際が溝状に掘り込まれることにより、中央が島状に高まる。

[出土遺物] 遺構堆積土から土師器片、須恵器片、礫が出土しているが、図示できる遺物はなく、本遺構の詳細な年代は不明である。鉾澤等の鍛冶関連遺物は出土していないが、痕跡の存在から鍛冶関連遺構の可能性も考えられる。

#### S16 竪穴遺構(第124・125図、図版8・23)

[位置] 調査区中央に位置する。

[重複関係] S110、SK116・127・131、SD58・60、SX18、P801・808・821・822・830・831・836・844・845と重複関係にあり、S110、SX18より新しく、SK116・127・131、SD58・60、P801・808・821・822・830・831・836・844・845より古い。

[規模・形態] 規模は東西365cm、南北348cm以上である。平面形は、残存状況から隅丸方形を呈すると考えられる。柱穴・周溝・カマド・掘り方は検出されていない。

[主軸方位] 西壁基準でN-23°-Eである。

[堆積土・構築土] 2層に分層された。1・2層は遺構堆積土である。

[壁面] 床面から外傾して立ち上がる。壁高は床面から最大13cmである。

[床面] 基本層Ⅲ層上面を直接床面とし、やや起伏する。

[出土遺物] 遺構堆積土から土師器片、須恵器片、石製品が出土しており、底部に「石」とヘラ書きされた土師器1点を図示した。土師器鉢(第125図1)は遺構堆積土からの出土であり、本遺構の詳細な年代は不明であるが、出土遺物から9世紀前半以前と考えられるS110より新しいことから、9世紀代以降の竪穴遺構と考えられる。

#### S17 竪穴遺構(第126・127図、図版8・23)

[位置] 調査区南西側に位置する。

[重複関係] SK122・152、SD57と重複関係にあり、本遺構が古い。

[規模・形態] 規模は東西387cm、南北402cmである。平面形は隅丸方形である。柱穴・周溝・カマドは検出されていない。

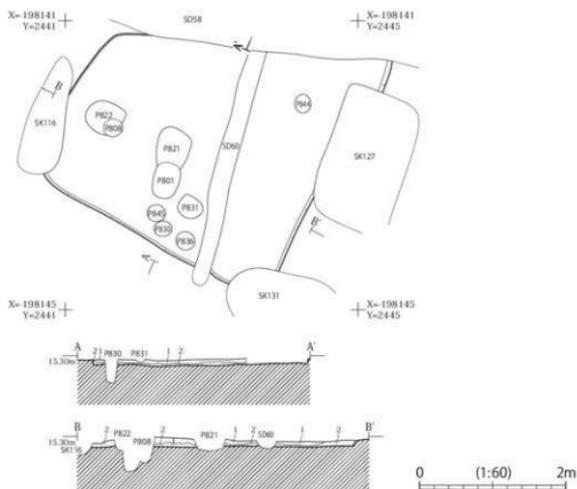
[主軸方位] 西壁基準でN-17°-Eである。

[堆積土・構築土] 7層に分層された。1～3層は遺構堆積土、4～7層は掘り方埋土である。

[壁面] 床面から外傾して立ち上がる。壁高は床面から最大15cmである。

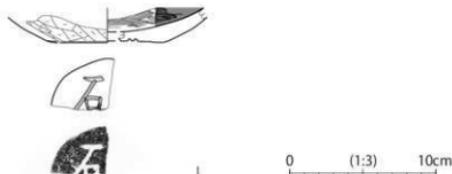
[床面] 4～7層上面または基本層Ⅲ層上面を直接床面とし、わずかに起伏する。遺構東側及び西側で被熱範囲を3ヶ所、白色土範囲を2ヶ所確認した。カマドが検出されていないことや、周辺の床面や壁面に被熱がみられない事

### 第3節 富沢館跡



遺構名	カタド	平面図	方位	基軸・短軸・深さ (m)
S16	なし	概孔方形	N 23° E	3.48 × 3.65 × 0.12
遺構名	種類	土色	土質	備考
S16	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルトブロックを多数、黒褐色砂質シルトブロック・径1~5mmの砥石物を少量含む。

第124図 S16 竪穴遺構平面図・断面図



No.	記録番号	遺構名	種類	形状	直径	1層×底径・深さ (mm)	出土層位	内容説明	備考	写真掲載
1	B-008	S16	土器類	鉢		× 7.0 × 6.4	体高1.5cm・手持ちヘラケズリ 底面・ヘラケズリ	体高1.5cm・底面・ヘラケズリ 底面・ヘラケズリ	底面・ヘラケズリ、口 縁面有りは不明。	23.8

第125図 S16 竪穴遺構出土遺物

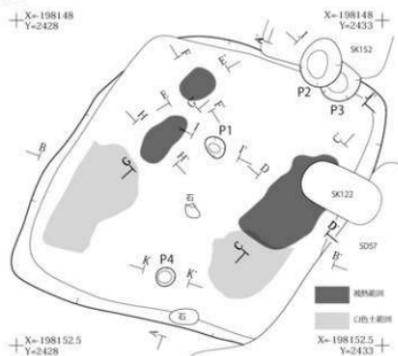
から、伊跡と考えられる。

[その他の施設] 床面で4基のピット(P1~4)を検出した。P2・3は北壁の外に張り出す。ピットの規模は長軸26~66cm、短軸25~56cm、深さ7~38cmである。平面形は円形である。柱痕跡は確認されていない。

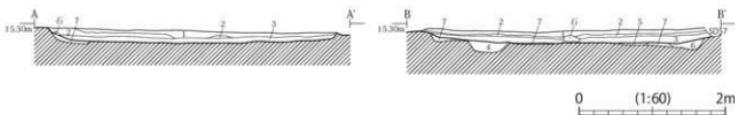
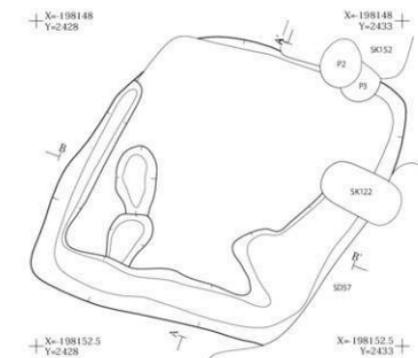
[掘り方] 深さ3~15cmである。東・南・西壁際を溝状に掘り込まれ、中央~北側が鳥状に高まる。また、南西側は土坑状に掘り込まれている。

[出土遺物] 遺構堆積土、床面、P2・3から縄文土器片、土師器片、赤焼土器、須恵器片、石製品、鮫、礫が出土しており、赤焼土器1点を図示した。赤焼土器小皿(第127図1)は遺構堆積土から出土しており、年代は10

床面



掘り方



遺構名	カタチ	平面形	方位	面積・体積・深さ (m)			
S07	瓦し	隅丸方形	N 47° E	4.02 × (3.87) × 0.17			
P 遺り	平面形	扇形	南緯 148° 深さ 0m	P 遺り	平面形	扇形	
P1	円形	U字形	0.31 × 0.25 × 0.20	P3	円形	U字形	0.52 × 0.32 × 0.18
P2	円形	U字形	0.60 × 0.56 × 0.38	P4	円形	U字形	0.26 × 0.25 × 0.07

第 126 図 S17 竪穴遺構平面図・断面図

### 第3節 富沢館跡

S17 竪穴遺構・床面施設等土壌調査表

遺構名	層位	土色	土性	備考	遺構名	層位	土色	土性	備考
S17	1	10YR3/3 粘褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロック・径1～5mmの副化石物を多数、焼土小ブロックを多数に含む。	P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多数、焼土小ブロックを多数含む。
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルト小ブロック・焼土小ブロック・径1～5mmの副化石物を多数含む。		P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト
	3	10YR4/6 褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルト小ブロック・径1～5mmの副化石物を多数、焼土小ブロックを多数に含む。	2		2	10YR5/4 濃い黄褐色	砂質シルト
	4	10YR4/3 濃い黄褐色	砂質シルト	濃い黄褐色・砂質シルトを多数、径1～5mmの副化石物を多数に含む。		P3	1	10YR5/4 黄褐色	砂質シルト
	5	10YR7/2 濃い黄褐色	砂質シルト	濃い黄褐色砂質シルトブロックを多数、微細土を多数に含む。	2		10YR4/6 褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロック・焼土小ブロック・径1～5mmの副化石物を多数含む。
	6	10YR4/3 濃い黄褐色	砂質シルト	濃い黄褐色・黄褐色砂質シルトブロック・径1～10mmの副化石物を多数、焼土小ブロックを多数含む。	3		10YR3/4 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロック・黄褐色砂質シルト小ブロックを多数含む。
	7	10YR5/4 濃い黄褐色	砂質シルト	濃い黄褐色・濃い黄褐色砂質シルトブロックを多数、径1～15mmの副化石物を多数に含む。	P4	1	10YR3/4 黄褐色	砂質シルト	濃い黄褐色・濃い黄褐色砂質シルトブロックを多数、径1～15mmの副化石物を多数に含む。



0 (1:3) 10cm

No.	記録番号	遺構名	層位	種類	形状	1層×底径×高さ(cm)	内径調整	外径調整	備考	写真枚数	
1	D-035	S17	-	土壌調査	半円	径×4.5×2.8	10分の調整	底径・10分の調整	10分の調整	見取図中の基礎断面に該当。赤線参照。	23.9

第127回 S17 竪穴遺構出土遺物

世紀前半以降と考えられる。また、鉾澤が出土しており、カマドが無く、炉跡と考えられる被熱範囲を検出している事から、鍛冶関連遺構の可能性がある。

#### S110 竪穴遺構 (第128・129図、図版8・23)

[位置] 調査区中央に位置する。北東側は擾乱により削平される。

[重複関係] S16、SK124・127・131・137・140、SD60、SX18・19、P801・830・831・836・845・846と重複関係にあり、SX18・19より新しく、S16、SK124・127・131・137・140、SD60、P801・830・831・836・845・846より古い。

[規模・形態] 規模は南北354cm、東西359cmである。平面形は、残存状況から圓角方形を呈すると考えられる。柱穴・周溝・カマド・掘り方は検出されていない。

[主軸方位] 西壁基準でN-70°-Eである。

[堆積土・構築土] 3層に分層された。1～3層は遺構堆積土である。

[壁面] 床面から外傾して立ち上がる。壁高は床面から最大41cmである。

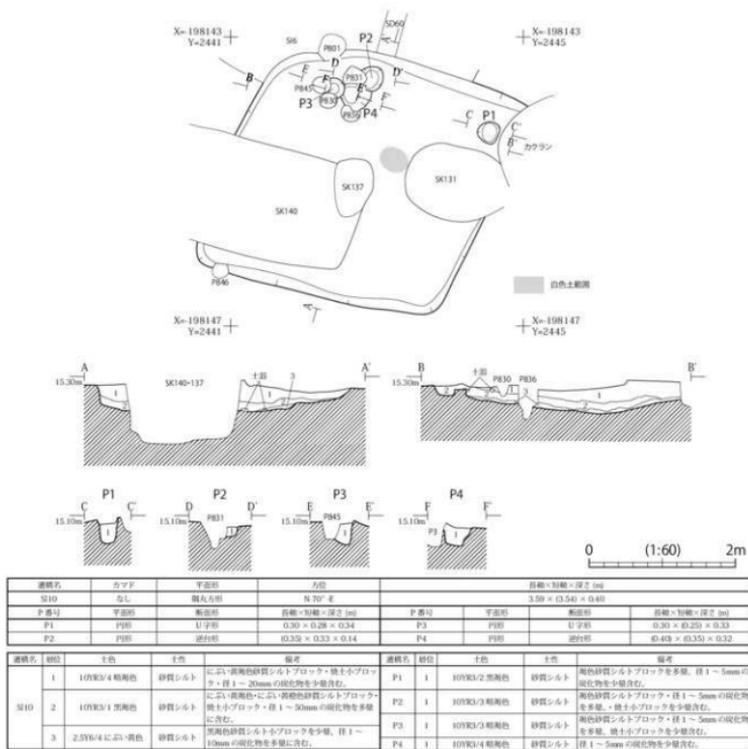
[床面] 基本層Ⅲ層上面を直接床面とし、起伏する。

[その他の施設] 床面で4基のピット(P1～4)を検出した。ピットの規模は長軸30～40cm、短軸25～35cm、深さ14～34cmである。平面形は円形である。柱痕跡は確認されず、柱穴は不明である。遺構中央で白色土範囲を確認した。

[出土遺物] 遺構堆積土、床面、P3から縄文土器片、土師器、須恵器、陶磁器片、石器、石製品、金属製品、鉾澤、礫が出土しており、土師器1点、須恵器1点を図示した。土師器鉢(第129図1)、須恵器環(第129図2)が堆積土中から出土しており、本遺構の年代は9世紀前半以前と考えられる。

#### 2) 土坑・火葬墓

SK109 土坑 (第130図) 調査区中央南西側に検出した。SK115と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形で、長軸方向はN-33°-Wである。規模は長軸90cm、短軸76cm、深さ27cmである。壁面は外傾して立ち上がる。断面形はU字形で、底面は起伏する。堆積土は2層に分層された。堆積土中より土師器片が出土しているが、図



第128図 SI10 壁穴遺構平面図・断面図

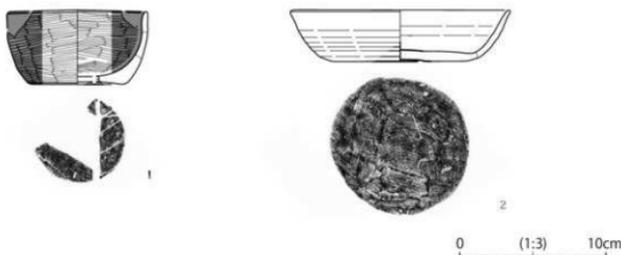
示できる遺物はない。

SK110 土坑 (第130図、図版9) 調査区中央やや南西側で検出した。SK135・142、SD61と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-15°Eである。規模は長軸201cm、短軸127cm、深さ100cmである。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。断面形は箱形で、底面はやや起伏する。堆積土は3層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK111 土坑 (第130図) 調査区北東側で検出した。平面形は円形で、長軸方向はN-13°Eである。規模は長軸90cm、短軸87cm、深さ14cmである。壁面は、外傾して立ち上がり、中位で大きく外傾する部分がある。断面形は逆台形で、底面はやや起伏する。堆積土は2層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK113 土坑 (第130図) 調査区北東側で検出した。北部は擾乱により削平される。平面形は楕円形と考えられ、長軸方向はN-5°Eである。規模は長軸110cm以上、短軸53cm、深さ15cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。

第3節 富沢館跡



No.	発掘番号	遺構名	形状	構造	用途	土層・底層・高層の厚	内面調査	内面調査	備考	写真図録
1	D-006	SI10	-	土壁跡	鉢	砂層 × 6.6 × 5.1	ロケの調査・手持ちペラケズリ・ペラミダシ・炭色処理	ロケの調査・ペラミダシ・炭色処理	調査本要図が7枚掲載されているか？	23.10
2	E-009	SI10	一坑	竪穴墓	円	0.5m × 9.2 × 3.6	ロケの調査 炭層を取り・手持ちペラケズリ	ロケの調査	構成が難化層構成に合ったもの。	23.11

第129図 SI10 竪穴遺構出土遺物

断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は3層に分層された。遺物は出土していない。

SK114 土坑 (第130図) 調査区北東側で検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-4°-Wである。規模は長軸92cm、短軸45cm、深さ18cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK115 火葬墓 (第130図、図版9) 調査区中央南西側で検出した。上部北側は土層観察用のトレンチにより失われている。火葬墓に伴う土坑と考えられる。SK109と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形と考えられる。長軸方向はN-58°-Wである。規模は長軸67cm、短軸20cm、深さ11cmである。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は起伏する。南部に南北方向に延びる小溝が付設されており、通風溝と考えられる。堆積土は3層に分層された。堆積土中より骨片、炭化物が出土しているが、図示できる遺物はない。

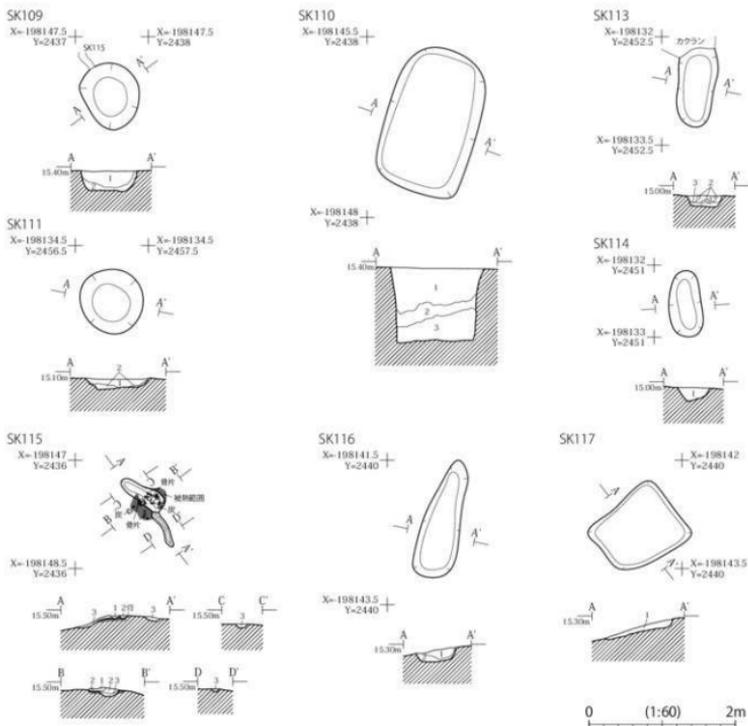
SK116 土坑 (第130図) 調査区中央で検出した。SI6、SX18と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形楕円形で、長軸方向はN-12°-Eである。規模は長軸166cm、短軸55cm、深さ17cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は2層に分層された。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK117 土坑 (第130図) 調査区中央やや西側で検出した。平面形は隅丸方形で、長軸方向はN-55°-Eである。規模は長軸113cm、短軸93cm、深さ9cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK118 土坑 (第131図) 調査区中央南西側で検出した。SK128と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は円形で、長軸方向はN-25°-Eである。規模は長軸60cm、短軸55cm、深さ67cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形はU字形で、底面はやや起伏する。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK119 土坑 (第131図、図版9) 調査区西側で検出した。SK125・152と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-30°-Eである。規模は長軸171cm、短軸116cm、深さ76cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は箱形で、底面はやや丸みを持つ。堆積土は4層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK120 土坑 (第131図) 調査区西側で検出した。SD68、P811と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-30°-Eである。規模は長軸153cm、短軸98cm、深さ82cmである。壁面は、東壁はほ



遺構名	平面形	断面形	方位	直径	直径×距離(深さ)(m)	遺構名	平面形	断面形	方位	直径	直径×距離(深さ)(m)
SK109	楕円形	円字形	N 32° W	0.90	0.90 × 0.76 × 0.27	SK114	楕円形	逆円形	N 4° W	0.92	0.92 × 0.45 × 0.18
SK110	楕円長方形	楕形	N 15° E	2.01 × 1.27 × 1.00	SK115	楕円形	逆円形	N 38° W	0.67	0.67 × 0.20 × 0.11	
SK111	円形	逆円形	N 13° E	0.90 × 0.87 × 0.14	SK116	半楕円形	逆円形	N 12° E	1.66	1.66 × 0.55 × 0.17	
SK113	楕円形	逆円形	N 5° E	1.10 × 0.53 × 0.15	SK117	楕円長方形	楕形	N 53° E	1.13	0.93 × 0.09	

遺構名	層位	土色		備考	遺構名	層位	土色		備考
		1層	2層				1層	2層	
SK109	1	10YR4/2 灰褐色	砂質シルト	黄褐色・褐色砂質シルトブロックを多数、径1~5mmの炭化物を少量含む。	SK113	1	10YR4/3 黒褐色	粘土質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多数、径1~10mmの炭化物を少量含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多数、径1~5mmの炭化物を少量含む。		2	10YR3/2 黒褐色	シルト質シルト	径5mmの高炭化砂質シルトブロックを多数、径1~10mmの炭化物を少量含む。
SK110	1	10YR5/8 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多数、径3~5mmの炭化物を少量含む。	SK114	3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多数、径1~10mmの炭化物を少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを少量、径5~10mmの炭化物を少量含む。		4	10YR4/3 濃い・黄褐色	シルト	黄褐色シルトブロック、径2~5mmの炭化物を少量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多数、径5~10mmの炭化物を少量含む。		1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロック、径1~50mmの炭化物・骨片を多数含む。
SK111	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	径5mmの高炭化砂質シルトブロックを多数、径1~10mmの炭化物を少量含む。	SK115	2	10YR4/6 褐色	砂質シルト	微土ブロックを少量、骨片を多数含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	径1~10mmの黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。		3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。
SK116	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多数含む。	SK117	1	10YR5/8 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	2	10YR5/8 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。		2	10YR5/8 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	3	10YR5/8 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。		3	10YR5/8 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。

第130図 SK109~111・113・114・116・117土坑 SK115火葬墓平面図・断面図

### 第3節 富沢館跡

ほぼ垂直に立ち上がり、西壁はやや内湾して立ち上がる。断面形はU字形で、底面は概ね平坦である。堆積土は3層に分層された。遺物は出土していない。

SK121 土坑 (第131図) 調査区南西側で検出した。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-90°である。規模は長軸110cm、短軸50cm、深さ8cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は2層に分層された。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK122 土坑 (第131図、図版9) 調査区南西側で検出した。S17、SD57と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-62°-Wである。規模は長軸115cm、短軸63cm、深さ74cmである。壁面は、やや外傾して立ち上がる。断面形はU字形で、底面はやや丸みを持つ。堆積土は4層に分層された。底面には白色土が層状に堆積する。堆積土中より土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK123 土坑 (第131図) 調査区西側で検出した。上部東側の大部分はトレンチにより削平される。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-50°-Wである。規模は長軸166cm、短軸120cm、深さ80cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は4層に分層された。底面には白色土が層状に堆積する。堆積土中より縄文土器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK124 土坑 (第131図) 調査区中央やや南側で検出した。S110と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-40°-Eである。規模は長軸135cm、短軸68cm、深さ38cmである。壁面は、やや外傾して立ち上がる。断面形は箱形で、底面は概ね平坦である。堆積土は底面付近の1層のみ確認した。堆積土中より土師器片、須恵器片、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK125 土坑 (第132図) 調査区西側で検出した。SK119、SD92と重複関係にあり、SD92より新しく、SK119より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-69°-Wである。規模は長軸174cm、短軸123cm、深さ62cmである。壁面は、やや外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は3層に分層された。堆積土中より土師器片、陶磁器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

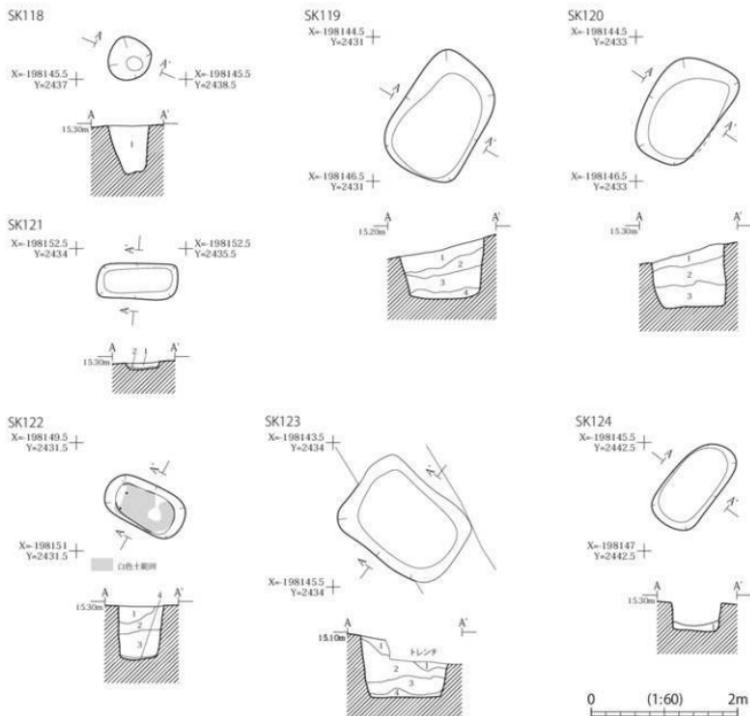
SK126 土坑 (第132図) 調査区中央南東側で検出した。SK139、小溝状遺構群I-9・10と重複関係にあり、SK139より新しく、小溝状遺構群I-9・10より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-72°-Wである。規模は長軸190cm、短軸120cm、深さ62cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は3層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK127 土坑 (第132図) 調査区中央で検出した。南東側は掘乱により削平される。S16・10と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-18°-Eである。規模は長軸190cm、短軸114cm、深さ104cmである。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。断面形は箱形で、底面はやや凹む。堆積土は3層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片、石器が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK128 土坑 (第132図) 調査区中央西側で検出した。南西側はトレンチにより削平される。SK118、P804・805と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、長軸方向はN-17°-Eである。規模は長軸221cm、短軸184cm以上、深さ94cmである。壁面は、やや内湾して立ち上がる。断面形は箱形で、底面は概ね平坦である。堆積土は3層に分層された。遺物は出土していない。

SK129 土坑 (第132図) 調査区南東側で検出した。小溝状遺構群I-9と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-7°-Eである。規模は長軸74cm、短軸73cm、深さ6cmである。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK130 土坑 (第132図) 調査区南側で検出した。小溝状遺構群I-6・7と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-81°-Wである。規模は長軸130cm、短軸106cm、深さ55cmである。壁面は、や



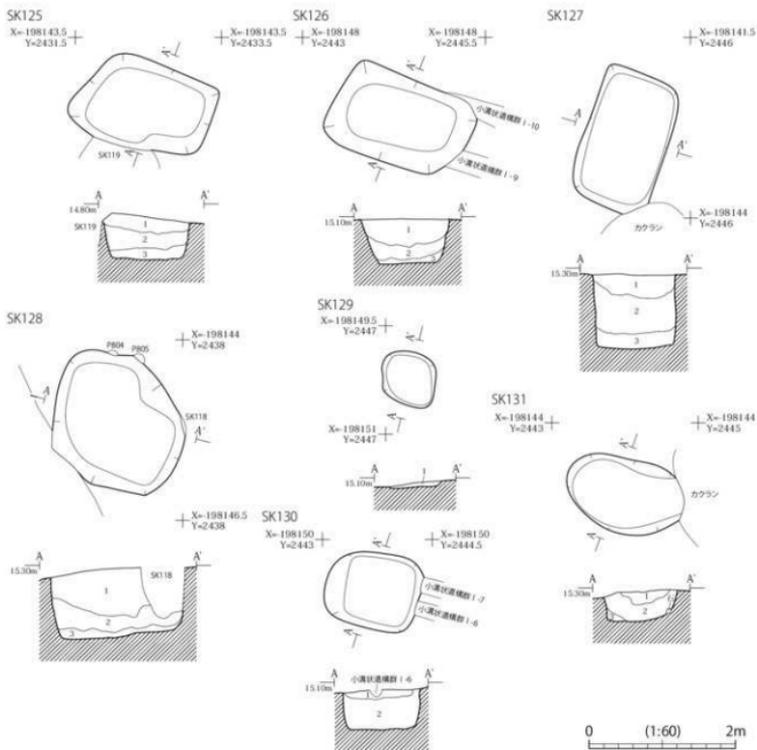
遺構名	平面形	断面形	方位	直径×別幅×深さ (m)	遺構名	平面形	断面形	方位	直径×別幅×深さ (m)
SK118	円形	U字形	N 25° E	0.60 × 0.55 × 0.67	SK122	楕円長方形	U字形	N 62° W	1.15 × 0.65 × 0.74
SK119	楕円長方形	輪形	N 30° E	1.71 × 1.16 × 0.76	SK123	楕円長方形	輪形	N 50° W	0.60 × 0.28 × 0.80
SK120	楕円長方形	U字形	N 30° E	1.15 × 0.65 × 0.82	SK124	楕円長方形	輪形	N 40° E	1.35 × 0.68 × 0.38
SK121	楕円長方形	逆T形	N 90°	1.53 × 0.50 × 0.28					

遺構名	層位	土質	主層	備考	遺構名	層位	土質	主層	備考
SK118	1	10YR4/3に白い黄褐色	砂質シルト	黄褐色・明黄褐色砂質シルトブロック・径1~5mmの破片を少量含む。	SK122	1	10YR3/2黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	2	10YR4/6褐色	砂質シルト	黒褐色・明黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。		2	10YR3/8黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	3	10YR3/2黄褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロックを多量に含む。		3	10YR3/2黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多量に含む。
	4	10YR3/4黄褐色	シルト質砂	褐色砂質シルトブロックを多量に含む。明黄褐色ブロックを少量含む。		4	10YR3/3黄褐色	砂質シルト	灰白色砂質シルトブロックを多量に含む。
SK119	1	10YR4/3に白い黄褐色	砂質シルト	黄褐色・明黄褐色砂質シルトブロック・径1~5mmの破片を少量含む。	SK123	1	10YR4/4褐色	砂質シルト	明黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	2	10YR4/6褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロックを多量に含む。明黄褐色ブロックを少量含む。		2	10YR4/4褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルトブロックを多量に含む。明黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	3	10YR3/2黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多量に含む。		3	10YR4/6褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多量に含む。明黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。
SK120	1	10YR4/3に白い黄褐色	砂質シルト	黄褐色・明黄褐色砂質シルトブロック・径1~5mmの破片を少量含む。	SK124	1	10YR3/2黄褐色	砂質シルト	明黄褐色砂質シルトブロック・径1~5mmの破片を多量に含む。
	2	10YR4/4褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロック・径50~150mmの礫を多量に含む。					
SK121	1	10YR4/4褐色	砂質シルト	明黄褐色砂質シルトブロック・径1~5mmの破片を少量含む。					
	2	10YR4/1黄褐色	砂質シルト	白い・明黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。					

第131図 SK118～124土坑平面図・断面図

### 第3節 富沢館跡



遺構名	平面形	断面形	方位	径輪×室輪×深さ (m)	遺構名	平面形	断面形	方位	径輪×室輪×深さ (m)
SK125	楕円方形	逆T形	N 69° W	1.74 × 1.23 × 0.62	SK129	楕円方形	逆T形	N 2° E	0.74 × 0.73 × 0.06
SK126	楕円方形	逆T形	N 2° W	1.90 × 1.20 × 0.62	SK130	楕円方形	逆T形	N 81° W	1.20 × 1.08 × 0.55
SK127	楕円方形	逆T形	N 18° E	1.90 × 1.14 × 1.04	SK131	楕円形	逆T形	N 78° W	(1.62 × 1.03) × 0.40
SK128	多角形	逆T形	N 17° E	2.21 × 1.84 × 0.94					

遺構名	層位	土色	層厚	備考	遺構名	層位	土色	層厚	備考
SK125	1	10YR4/4 黒色	砂質シルト	黒褐色・明褐色砂質シルトブロックを少量含む。	SK128	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多量、明褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	2	10YR3/3 に近い黄褐色	砂質シルト	明褐色砂質シルトブロックを少量含む。		2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多量、明褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多量、明褐色砂質シルトブロックを少量含む。		3	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	黄褐色・褐色砂質シルトブロックを少量含む。
SK126	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多量、オリーブ色砂質シルトブロック・径 200 ~ 300mm の礫を少量含む。	SK129	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多量に含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルトブロックを多量、径 10 ~ 20mm の礫を少量含む。	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	砂質シルトブロックを多量、径 5 ~ 20mm の同色土物を少量含む。	
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト質砂	黄褐色砂質シルトブロックを少量、径 30 ~ 40mm の礫を少量含む。	SK130	1	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	砂質シルトブロックを多量、径 5 ~ 20mm の同色土物を少量含む。
SK127	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多量、径 3 ~ 10mm の褐色土物を少量含む。	SK131	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多量、明褐色砂質シルトブロック・径 3 ~ 10mm の褐色土物を少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多量に含む。	2	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	明褐色砂質シルトブロックを多量、砂質シルトブロックを少量含む。	
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト質砂	黄褐色・明褐色砂質シルトブロックを多量に含む。	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。	

第132図 SK125～131土坑平面図・断面図

や内湾して立ち上がる。断面形は箱形で、底面は概ね平坦である。堆積土は2層に分層された。堆積土中より土師器片、石製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK131 土坑 (第132図) 調査区中央で検出した。東側は攪乱により削平される。SI6・10、SX19と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形と考えられ、長軸方向はN-78°-Wである。規模は長軸162cm以上、短軸103cm、深さ40cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は凹む。堆積土は3層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片、金属製品、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK132 土坑 (第133図) 調査区南側で検出した。南側は調査区外へ延びる。SI5と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸方形と考えられ、長軸方向は不明である。規模は長軸185cm以上、短軸80cm以上、深さ19cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片、須恵器片、陶磁器片、藍滓が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK133 土坑 (第133図) 調査区南東隅で検出した。南側及び東側は調査区外へ延びる。P760と重複関係にあり、本遺構が古い。部分的な検出のため詳細は不明である。規模は東西135cm以上、南北102cm以上、深さ45cmである。壁面は、直線的に外傾して立ち上がる。底面は平坦である。堆積土は2層に分層された。遺物は土師器片、石製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK134 土坑 (第133図) 調査区中央南側で検出した。SK138・139、SX19と重複関係にあり、SX19より新しく、SK138・139より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-62°-Wである。規模は長軸118cm、短軸106cm、深さ70cmである。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。断面形は箱形で、底面はやや起伏する。堆積土は3層に分層された。堆積土中より土師器片、陶磁器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK135 土坑 (第133図) 調査区中央南西側で検出した。SK110・142、SD61と重複関係にあり、SK142、SD61より新しく、SK110より古い。平面形は隅丸長方形と考えられ、規模は南北143cm、東西75cm以上、深さ26cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は起伏する。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

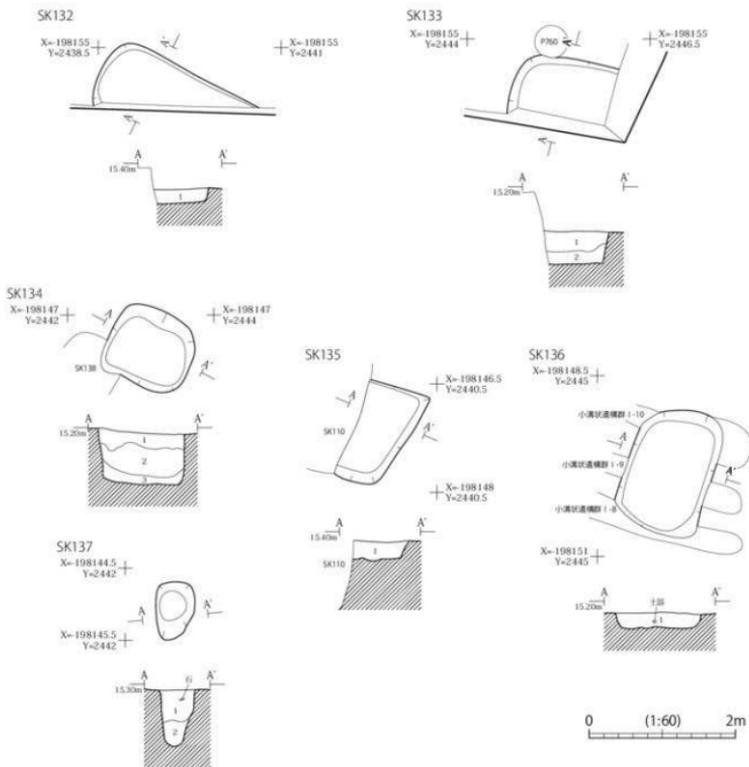
SK136 土坑 (第133図) 調査区中央南東側で検出した。小溝状遺構群I-8～10と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形と考えられ、長軸方向はN-15°-Eである。規模は長軸176cm、短軸117cm、深さ22cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は起伏する。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK137 土坑 (第133図) 調査区中央で検出した。SI10、SK140と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-5°-Wである。規模は長軸78cm、短軸54cm、深さ77cmである。壁面は、やや外傾して立ち上がり、角度が変わる部分がある。断面形はU字形で、底面は丸みを持つ。堆積土は2層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片、藍滓が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK138 土坑 (第134図) 調査区中央南側で検出した。SK134・139、SX19、P848と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-30°-Eである。規模は長軸243cm、短軸96cm、深さ35cmである。壁面は、やや内湾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は起伏する。堆積土は2層に分層された。堆積土中より土師器片、陶磁器片、石製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK139 土坑 (第134図) 調査区中央南側で検出した。SK126・134・138・155、SX19と重複関係にあり、SK155、SX19より新しく、SK126・134・138より古い。平面形は隅丸長方形と考えられ、長軸方向はN-64°-Wである。規模は長軸273cm以上、短軸105cm、深さ58cmである。壁面は、やや外傾して立ち上がり、角度が変わる部分がある。断面形は逆台形で、底面は起伏する。堆積土は2層に分層された。堆積土中より須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

### 第3節 富沢館跡



遺構名	平面形	断面形	方位	径輪×径輪×深さ (m)	遺構名	平面形	断面形	方位	径輪×径輪×深さ (m)
SK132	楕円方形	逆形	-	(1.83 × 0.80) × 0.19	SK135	楕円方形	逆形	-	(1.83 × 0.77) × 0.20
SK133	半円	-	-	(1.33 × 0.02) × 0.43	SK136	楕円長方形	逆形	N 15° E	(1.74 × 1.17) × 0.22
SK134	楕円方形	断面	N 62° W	1.18 × 1.06 × 0.70	SK137	楕円長方形	U字形	N 5° W	0.78 × 0.54 × 0.77

遺構名・部位	土色	土質	備考	遺構名・部位	土色	土質	備考
SK132 1	10YR3/3 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多数、径3~10mmの炭化物を少量含む。	SK135 1	10YR3/2 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。
SK133 1	10YR3/3 黄褐色	砂質シルト	砂質シルト小ブロックを多数、径3~15mmの炭化物を少量含む。	SK136 1	10YR3/6 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。
SK133 2	10YR3/3 黄褐色	砂質シルト	砂質シルトブロックを多数に含む。	SK137 1	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	黄褐色シルトブロック・径1~10mmの炭化物(径20~100mm)を少量含む。
SK134 1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロック・径100~150mmの礫を少量含む。	SK137 2	10YR3/3 に近い黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多数、30~50mmの礫を少量含む。
SK134 2	10YR3/2 黄褐色	砂質シルト	黄褐色シルトブロックを多数、硝灰類の砂質シルトブロックを少量、径50~200mmの礫を多数に含む。				
SK134 3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト質砂	黄褐色砂質シルトブロックを多数、硝灰類の砂質シルトブロックを少量含む。				

第133図 SK132~137土坑平面図・断面図

SK140 土坑 (第 134 図、図版 9) 調査区中央で検出した。SI10、SK137・143、SD61、SX18・19、P802 と重複関係にあり、SI10、SK143、SD61、SX18・19 より新しく、SK137、P802 より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-73°-W である。規模は長軸 382cm、短軸 156cm、深さ 80cm である。壁面は、外傾して立ち上がり、角度が変わる部分がある。断面形は箱形で、底面は起伏する。堆積土は 3 層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片、陶磁器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK141 土坑 (第 134 図) 調査区中央で検出した。上部南西側はトレンチにより削平される。SK157、SD61 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-60°-W である。規模は長軸 135cm、短軸 117cm、深さ 112cm である。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は概ね平坦である。堆積土は 4 層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片、陶磁器片、礫、炭化物が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK142 土坑 (第 135 図) 調査区中央やや南西側で検出した。SK110・135、SD61、SX19 と重複関係にあり、SD61、SX19 より新しく、SK110・135 より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-66°-W である。規模は長軸 200cm、短軸 121cm、深さ 104cm である。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は概ね平坦である。堆積土は 3 層に分層された。遺物は出土していない。

SK143 土坑 (第 135 図) 調査区中央やや西側で検出した。SK140 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-73°-W である。規模は長軸 234cm、短軸 123cm、深さ 102cm である。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は概ね平坦である。堆積土は 4 層に分層された。遺物は出土していない。

SK152 土坑 (第 135 図) 調査区西側で検出した。SI7、SK119、SD68、P861 と重複関係にあり、SI7、SD68 より新しく、SK119、P861 より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-15°-E である。規模は長軸 224cm、短軸 160cm、深さ 12cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや起伏する。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片、須恵器片、石製品、金属製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK155 土坑 (第 135 図、図版 9) 調査区中央南側で検出した。SK139、SX19 と重複関係にあり、SX19 より新しく、SK139 より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-30°-E である。規模は長軸 168cm、短軸 94cm、深さ 111cm である。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

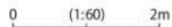
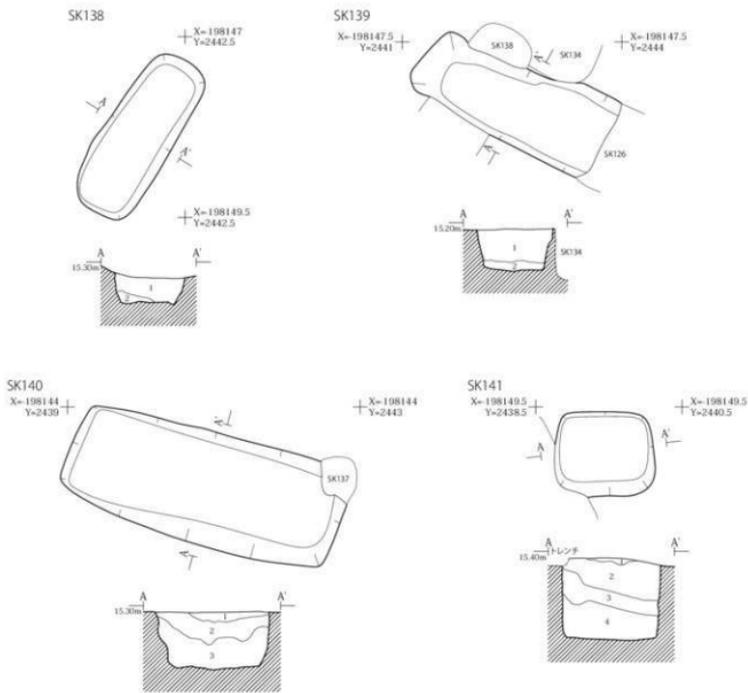
SK156 土坑 (第 135 図) 調査区南側で検出した。SK162、P886 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-40°-E である。規模は長軸 130cm、短軸 92cm、深さ 23cm である。壁面は、やや外傾して立ち上がる。断面形は箱形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。堆積土中より遺物は縄文土器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK157 土坑 (第 135 図、図版 10) 調査区南側で検出した。上部西側はトレンチにより削平される。SK141 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形と考えられ、長軸方向は N-61°-W である。規模は長軸 168cm、短軸 110cm、深さ 82cm である。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。断面形は箱形で、底面はやや起伏する。堆積土は 2 層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片、陶磁器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK158 土坑 (第 136 図) 調査区南側で検出した。SX17・20 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-44°-E である。規模は長軸 175cm、短軸 96cm、深さ 7cm である。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面はやや起伏する。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK161 土坑 (第 136 図、図版 10) 調査区南西側で検出した。平面形は楕円形で、長軸方向は N-13°-E である。規模は長軸 137cm、短軸 87cm、深さ 102cm である。壁面は、やや外傾して立ち上がり、角度が変わる部分がある。

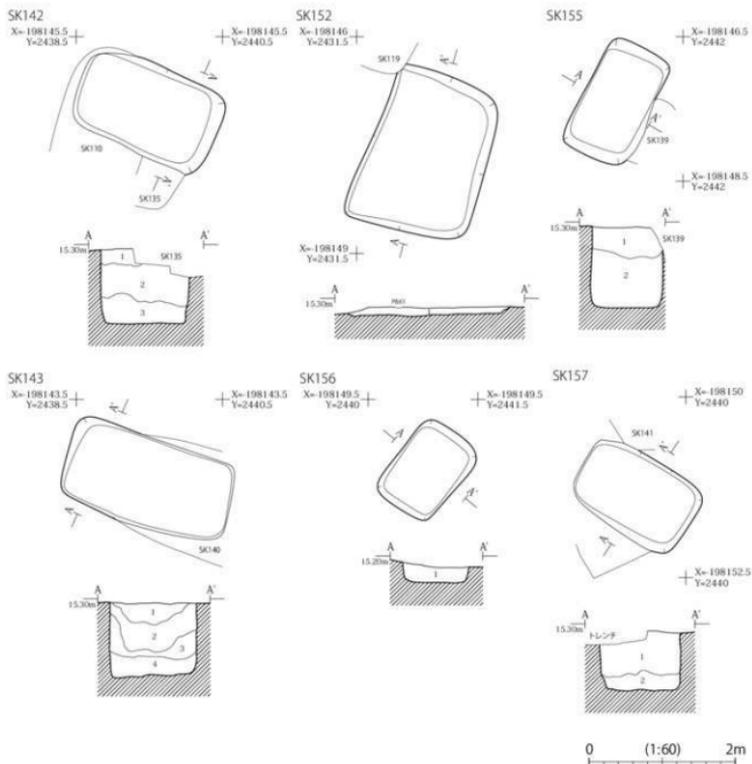
第3節 富沢館跡



遺構名	平面形	断面形	方位	長軸×短軸×深さ (m)	遺構名	平面形	断面形	方位	長軸×短軸×深さ (m)
SK138	楕円長方形	逆T形	N 30° E	2.43 × 0.95 × 0.35	SK140	楕円長方形	箱形	N 23° SW	3.82 × 1.56 × 0.85
SK139	楕円長方形	逆T形	N 64° SW	0.73 × 1.05 × 0.58	SK141	楕円長方形	箱形	N 60° SW	1.33 × 1.17 × 1.12

遺構名	層位	土色	土質	備考	遺構名	層位	土色	土質	備考
SK138	1	10YR4/3 灰褐色	砂質シルト		SK141	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルトブロックを少量、径 10～100mm の焼化物を多数に含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト			2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	褐色・灰褐色の炭化腐朽シルトブロック・径 3～15mm の炭化物を少量含む。
SK139	1	10YR5/9 黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルトブロックを多数、砂質シルトブロック・径 10～30mm の焼化物を少量含む。		3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	砂質シルトブロックを多数、灰褐色砂質シルトブロック・焼化物を少量含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	黒褐色・暗灰色砂質シルトブロックを少量含む。灰褐色砂質シルトブロック・径 10～30mm の焼化物を少量含む。		4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルトブロック・焼化物を多数に含む。
SK140	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	灰褐色砂質シルトブロック・径 2～10mm の焼化物・径 10～30mm の焼化物を多数、砂質シルトブロック・増大小ブロックを少量含む。					
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	10mm の焼化物・径 10～30mm の焼化物を多数、砂質シルトブロック・増大小ブロックを少量含む。					
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルトブロック・径 100～800μm 程度焼化物・径 10～70mm 焼化物を多数、10YR5/8 明黄褐色砂質シルトブロック・径 10～70mm 焼化物を多数、10YR6/8 明黄褐色砂質シルトブロック・径 3～10mm 炭化物を少量含む。					

第 134 図 SK138～141 土坑平面図・断面図



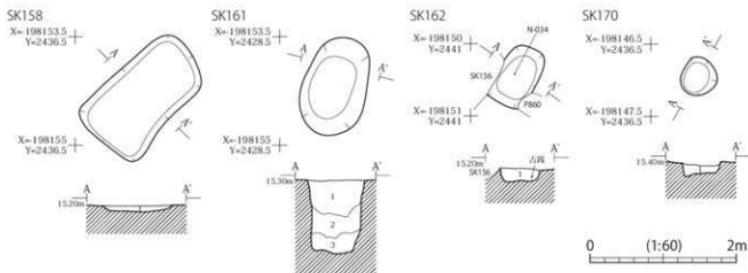
遺構名	平面形	断面形	方位	直径×距離×深さ (m)	遺構名	平面形	断面形	方位	直径×距離×深さ (m)
SK142	楕円長方形	楕形	N 66° W	φ2.00 × φ1.21 × 1.04	SK155	楕円長方形	楕形	N 30° E	1.68 × φ1.94 × 1.11
SK143	楕円長方形	楕形	N 7° W	φ2.34 × φ1.23 × 1.02	SK156	楕円長方形	楕形	N 40° E	1.30 × φ1.92 × 0.23
SK152	楕円長方形	楕形	N 52° E	2.24 × 1.60 × 0.12	SK157	楕円長方形	楕形	N 61° 南	1.00 × 1.10 × 0.82

遺構名	層位	土色	土質	備考	遺構名	層位	土色	土質	備考
SK142	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい炭褐色砂質シルトブロック・径5~10mmの炭化物を少量含む。	SK152	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	炭褐色砂質シルトブロック・暗褐色砂質シルトブロック・径5~20mmの炭化物を少量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	炭褐色砂質シルトブロックを多量、炭褐色砂質シルトブロックを少量含む。		SK155	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	炭褐色砂質シルトブロックを多量、炭褐色砂質シルトブロックを少量含む。	2		10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい炭褐色砂質シルトブロックを多量に含む。
SK143	1	10YR4/4 褐色	シルト質砂	炭褐色・暗褐色砂質シルトブロック・径5~20mmの炭化物を少量含む。	SK156	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	にぶい炭褐色・暗褐色砂質シルトブロック・径1~10mmの炭化物を少量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	炭褐色砂質シルトブロックを多量、炭褐色砂質シルトブロック・径5~10mmの炭化物・径10~30mmの礫を少量含む。		SK157	1	10YR4/1 暗褐色	砂質シルト
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	炭褐色砂質シルトブロックを多量、炭褐色砂質シルトブロック・径5~10mmの炭化物・径10~50mmの礫を少量含む。	2		10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	炭褐色砂質シルトブロックを多量、径1~5mmの炭化物を少量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	炭褐色・暗褐色砂質シルトブロックを多量、径3~10mmの炭化物・径10~50mmの礫を少量含む。					

第135図 SK142・143・152・155～157土坑平面図・断面図

### 第3節 富沢館跡



遺跡名	平面形	断面形	方位	長軸×短軸×深さ (m)	遺跡名	平面形	断面形	方位	長軸×短軸×深さ (m)
SK158	隅丸四方形	U字形	N 44° E	1.75 × 0.96 × 0.07	SK162	隅丸四方形	U字形	N 25° E	0.87 × 0.56 × 0.18
SK161	楕円形	逆台形	N 13° E	1.37 × 0.87 × 1.02	SK170	円形	逆台形	N 28° E	0.52 × 0.49 × 0.15

遺跡名・層位	土色	土性	層厚	遺跡名・層位	土色	土性	層厚	
SK158 1	10YR5/2 黄褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトアロックス・径1～10mmの腐化 物を多量・堆土・アロックスを少量含む。	SK162 1	10YR4/3に灰・黄褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトアロックスを多量、径1～5mmの 腐化物を少量含む。	
SK161	1	10YR4/3に灰・黄褐色	砂質シルト	SK170 1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰黄褐色砂質シルトアロックス・褐色砂質シルトア ロックスを少量、径100mmの腐化物を含む。	
	2	10YR4/3に灰・黄褐色	砂質シルト					
	3	10YR4/3に灰・黄褐色	砂質シルト					

第136図 SK158・161・162・170土坑平面図・断面図



0 (2:3) 5cm

No.	記録番号	遺跡名	層位	種類	長さ×幅×厚さ (cm)	重さ (g)	備考	写真掲載
1	H-034	SK162	1	金貨型	径2.4×厚さ0.6	重さ210	本館蔵庫(041)	23-12

第137図 SK162土坑出土遺物

断面形は逆台形で、底面は起伏する。堆積土は3層に分層された。遺物は出土していない。

SK162土坑(第136・137図、図版10・23)調査区南側で検出した。SK156、P860と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN25°Eである。規模は長軸87cm、短軸56cm、深さ18cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形はU字形で、底面はやや起伏する。堆積土は単層である。遺物は木製品、金属製品が出土しており、1層から出土した古銭1点(第137図1)を図示した。

SK170土坑(第136図)調査区中央南西側で検出した。上部西側はトレンチにより削平される。平面形は不整形円形で、長軸方向はN28°Eである。規模は長軸52cm、短軸49cm、深さ15cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は起伏する。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

#### 3) 溝跡・堀跡

SD57溝跡(第121・138図)調査区南西側で検出した。南北方向の溝跡である。S17、SK122と重複関係にあり、S17より新しく、SK122より古い。方向はN28°Eで、規模は長さ436cm、幅80cm、深さ6cmである。断面形は皿形である。堆積土は単層である。堆積土中より須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD58堀跡(第121・138・140図、図版8・23)調査区中央北側で検出した。東西方向の堀跡で、調査区外へ伸び、南側の一部は覆土により削平される。S16、SD60・92、P800と重複関係にあり、S16、SD60、P800より新しく、SD92より古い。方向はN83°Wで、規模は長さ13.60m以上、幅6.00m、深さ165cmである。断面形は逆台形である。堆積土は15層に分層したが、堆積状況から2時期の変遷が考えられる。遺物は縄文土器片、土師器片、須恵器片、陶磁器片、石器、石製品、金属製品が出土しており、青磁碗1点(第140図1)を図示した。

SD59 溝跡 (第 121・138 図) 調査区中央東側で検出した。東西方向の溝跡である。方向は N-85°-W で、規模は長さ 60cm、幅 20cm、深さ 12cm である。断面形は U 字形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD60 溝跡 (第 121・138 図) 調査区中央で検出した。南北方向の溝跡である。S16・10、SD58 と重複関係にあり、S16・10 より新しく、SD58 より古い。方向は N-14°-E で、規模は長さ 335cm 以上、幅 26cm、深さ 15cm である。断面形は U 字形である。南端は調査区内で収束する。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片、須恵器片、金属製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD61 溝跡 (第 121・138 図) 調査区中央南側で検出した。南北方向の溝跡である。SK110・135・140・141・142 と重複関係にあり、本遺構が古い。方向は N-13°-E で、規模は長さ 407cm、幅 66cm、深さ 22cm である。断面形は U 字形である。堆積土は 2 層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片、石器が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD68 溝跡 (第 121・138 図) 調査区西側で検出した。南北方向の溝跡である。SK120・152 と重複関係にあり、本遺構が古い。方向は N-25°-E で、規模は長さ 230cm、幅 84cm、深さ 6cm である。断面形は皿形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD92 堀跡 (第 121・138・139 図、図版 8) 調査区の北壁及び西壁の壁際で検出した。東西及び南北方向に L 字状に延びる堀跡で、両端及び西側の大部分は調査区外へ延びる。土塁や現在の用水路に沿うように走っており、1 区 SD8、2 区 SD10・35、6 区 SD92 と同様の有りかたであるため、これらと同一の堀跡であると考えられる。SK125、SD58 と重複関係にあり、本遺構が新しい。トレンチを設定して調査を行ったが、完掘していない。方向は東西方向の辺は N-50°-E、南北方向の辺は N-40°-W で、規模は長さ 48.00m 以上、幅 150cm 以上、深さ 50cm 以上である。断面形は逆台形である。堆積土は 5 層に分層された。遺物は出土していない。

#### 4) 小溝状遺構群

I 群 (第 141 図) 調査区南東側で検出した。東西方向の小溝状遺構群で、10 条の小溝で構成される。S14・5、SK126・129・130・136、P759・842 と重複関係にあり、S14・5、SK126・129・130・136、P842 より新しく、P759 より古い。方向は N-70°~75°-W で、規模は長さ 210~417cm、幅 18~60cm、深さ 5~8cm である。小溝の間隔は、12~54cm である。堆積土は単層である。小溝 8 の堆積土中より土師器片、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

#### 5) 性格不明遺構

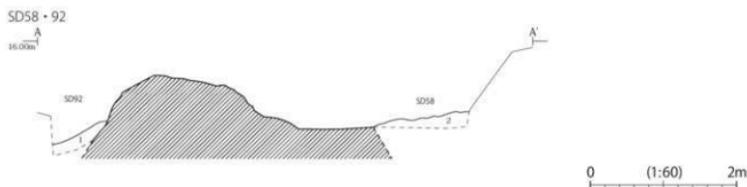
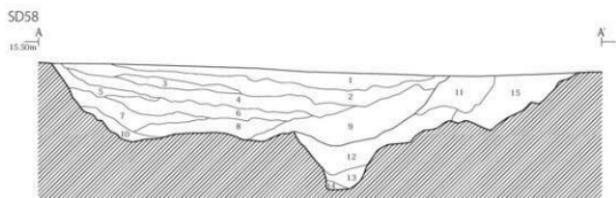
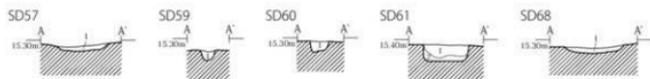
SX17 性格不明遺構 (第 142 図) 調査区南側で検出した。SK158、SX20 と重複関係にあり、SX20 より新しく、SK158 より古い。平面形は隅丸方形で、長軸方向は N-48°-W である。規模は長軸 93cm、短軸 70cm、深さ 20cm である。壁面は、やや内湾して立ち上がる。断面形は U 字形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片、須恵器片、石製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

SX18 性格不明遺構 (第 142 図) 調査区中央で検出した。S16・10、SK116・140 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形と考えられ、長軸方向は N-15°-W である。規模は長軸 130cm 以上、短軸 130cm 以上、深さ 20cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや起伏する。堆積土は 2 層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SX19 性格不明遺構 (第 142 図) 調査区中央やや南側で検出した。S110、SK131・134・138・139・140・142・155、P833・835・846・848 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不明で、規模は東西 446cm、南北 130cm 以上、深さ 34cm である。壁面は外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は起伏する。堆積土は 3 層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片、金属製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

SX20 性格不明遺構 (第 142 図) 調査区南側で検出した。南側は調査区外へ延びる。SK158、SX17 と重複関係に

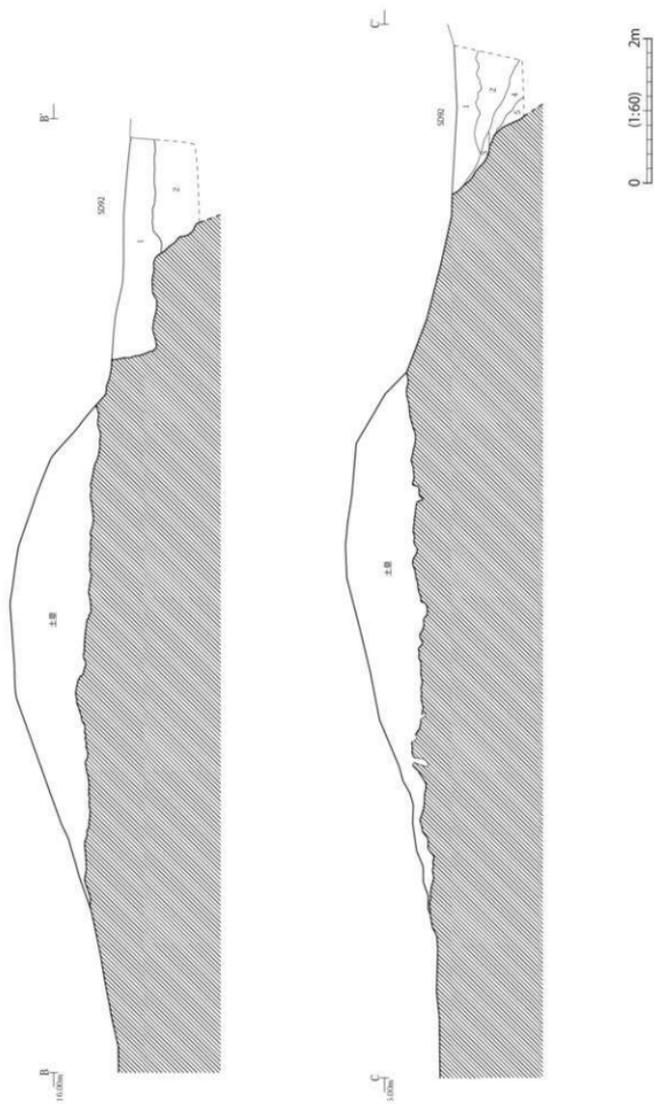
### 第3節 富沢館跡



遺跡名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)	遺跡名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)
SD57	直線	U字形	N 33° E	4.30 × 0.80 × 0.08	SD61	直線	U字形	N 33° E	4.07 × 0.66 × 0.22
SD58	L字	逆U形	N 83° W	11.620 × 6.00 × 1.65	SD68	直線	凹形	N 25° E	2.30 × 0.84 × 0.06
SD59	直線	U字形	N 85° W	0.60 × 0.20 × 0.12	SD92	L字	逆U形	N 30° E N 49° W	148.00 × 1.50 × 0.50
SD60	直線	U字形	N 14° E	0.35 × 0.26 × 0.15					

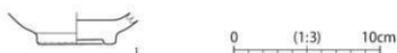
遺跡名	層位	土色		備考	遺跡名	層位	土色		備考
		上層	下層				上層	下層	
SD57	1	10YR4/3	褐色	褐色砂質シルトブロックを多量に含む。	SD59	1	10YR4/3	褐色	褐色砂質シルトブロックを多量、褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	2	10YR4/4	褐色	10YR4/3に近い褐色シルトブロックを少量含む。		SD58・92	1	10YR3/3	褐色
	3	10YR4/6	褐色	褐色・明褐色砂質シルトブロックを少量含む。	2		10YR3/4	褐色	10YR4/3に近い褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	4	10YR4/4	褐色	褐色・明褐色砂質シルトブロック・径10～150mmの礫を少量含む。	SD60	1	10YR3/2	褐色	褐色砂質シルトブロックを多量に含む。
	5	10YR3/2	褐色	褐色砂質シルトブロックを多量に含む。		2	10YR4/4	褐色	褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	6	10YR4/3	褐色	褐色・明褐色・明褐色砂質シルトブロック・径10～200mmの礫を多量に含む。	SD68	1	10YR4/6	褐色	褐色・明褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	7	10YR4/6	褐色	褐色砂質シルトブロック・酸化鉄を少量含む。		2	10YR4/6	褐色	褐色・明褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	8	10YR4/3	褐色	褐色・酸化鉄を少量含む。	SD92	1	10YR4/6	褐色	褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	9	10YR3/2	褐色	褐色砂質シルトブロックを多量、明褐色砂質シルトブロック・径100～300mmの礫を少量含む。		2	10YR4/4	褐色	褐色・高黄褐色・明褐色砂質シルトブロックを多量、径50～150mmの礫を少量含む。
	10	10YR3/2	褐色	褐色砂質シルトブロックを少量含む。	SD61	1	10YR4/2	黄褐色	褐色砂質シルトブロックを多量、径3～5mmの酸化鉄を少量含む。
	11	10YR3/1	褐色	褐色砂質シルトブロック・径10～50mmの礫を少量含む。		2	10YR4/4	褐色	褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	12	10YR3/1	褐色	褐色砂質シルトブロック・径10～200mmの礫を多量に含む。		SD68	1	10YR4/4	褐色
	13	10YR4/3	褐色	褐色砂質シルトブロック・径50～70mmの礫を少量含む。	2		10YR4/4	褐色	褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	14	10YR3/1	褐色	砂	径10～30mmの礫を少量含む。		3	10YR4/4	褐色
	15	10YR3/2	褐色	褐色砂質シルトブロックを多量、径1～5mmの酸化鉄を少量含む。	4	10YR4/4	褐色	褐色砂質シルトブロックを少量含む。	
					5	10YR4/4	褐色	褐色砂質シルトブロックを多量に含む。	

第138図 SD57・59～61・68 溝跡 SD58・92 堀跡断面図



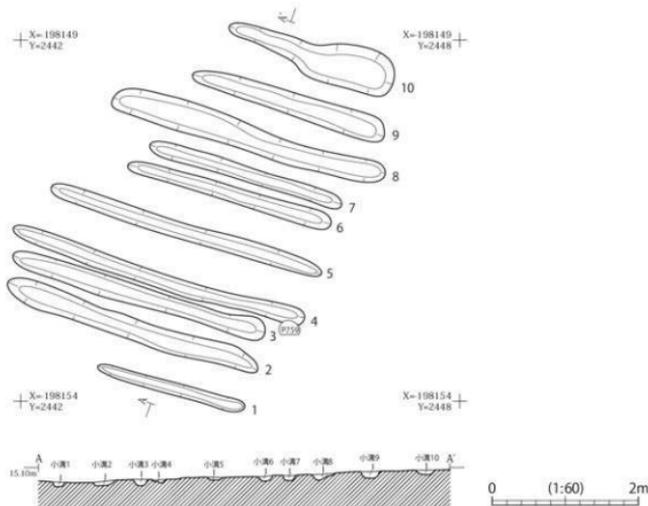
第139図 SD92・93遺跡・土層断面図

### 第3節 富沢館跡



No.	遺跡番号	遺跡名	図記	種類	図種	1層×底径×深径(m)	方位	用途	年代	時期	写真掲載
1	F002	SD58		竪穴	竪	1.07×底径×深径0.09 ×5.4×2.1	ほぼ南ナテ	溝堀跡		9世紀	23-13

第140図 SD58堀跡出土遺物



遺跡名	平面図	断面図	方位	長さ×幅×深さ(m)	遺跡名	平面図	断面図	方位	長さ×幅×深さ(m)
1-1	竪穴	円字形	N 75° W	2.10 × 0.18 × 0.07	1-6	竪穴	円字形	N 74° W	2.90 × 0.22 × 0.07
1-2	竪穴	逆円形	N 70° W	3.62 × 0.31 × 0.05	1-7	竪穴	逆円形	N 72° W	2.74 × 0.24 × 0.06
1-3	竪穴	円字形	N 73° W	3.00 × 0.28 × 0.07	1-8	竪穴	逆円形	N 75° W	3.85 × 0.40 × 0.08
1-4	竪穴	逆円形	N 73° W	4.17 × 0.22 × 0.05	1-9	竪穴	逆円形	N 72° W	2.75 × 0.33 × 0.08
1-5	竪穴	逆円形	N 72° W	3.88 × 0.23 × 0.05	1-10	竪穴	逆円形	N 70° W	2.36 × 0.40 × 0.06

遺跡名	図記	土色	土質	備考
1-1 ~ 1-10	1	10YR 6/1 褐色	シルト	厚 10mm の黄褐色砂質シルトブロックを含み、 居住物を多量含む。

第141図 小溝状遺構群1群平面図・断面図

あり、本遺構が古い。平面形は不整楕円形と考えられ、長軸方向はN-55°-Eである。規模は長軸107cm以上、短軸82cm、深さ10cmである。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は丸みを持つ。堆積土は2層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

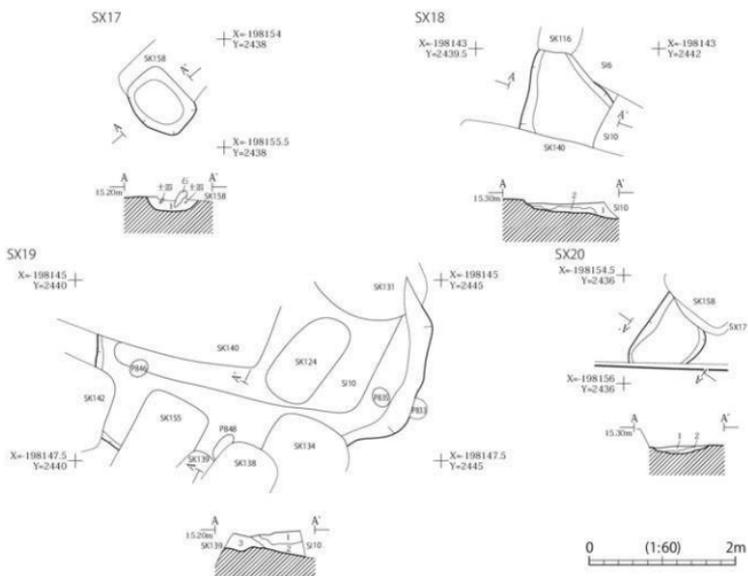
#### 6) ビット (第121・143図、図版23)

110基のビットを検出した。調査区全体に分布する。堆積土中より土師器片、須恵器片、金属製品、鉛滓、骨片が出土しており、そのうちP775堆積土中より出土した古銭3点(第143図1~3)を図示した。

#### (2) 遺構外出土遺物

縄文土器片、土師器片、須恵器片、陶磁器片、石器、石製品、金属製品、鉛滓、骨片、礫が出土しているが、図示

できる遺物はない。



遺構名	平面図	断面図	方位	直径・幅幅・深さ (m)	遺構名	平面図	断面図	方位	直径・幅幅・深さ (m)
SX17	縦長石形	石字形	N 48° W	0.92.0 × 0.71.0 × 0.20	SX19	不明	逆T形		4.40 × 1.30 × 0.34
SX18	半壱形	逆T形	N 15° W	1.31.0 × 0.30.0 × 0.20	SX20	半壱形/逆T形	逆T形	N 55° E	1.07.0 × 0.82.0 × 0.10

遺構名   層位	土色	土層	備考	遺構名   層位	土色	土層	備考	
SX17   1	10YR8/2 灰黄褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルトブロックを多数、黄褐色砂質シルトブロック・粘土ブロック・径1～5mmの炭化物を少量含む。	SX19	1	10YR4/3 黄褐色	明褐色砂質シルトブロック・径1～5mmの炭化物を少量含む。	
SX18   1	10YR3/1 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多数、明褐色砂質シルトブロックを少量含む。		2	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロック・径1～3mmの炭化物を多数含む。
SX18   2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。	3	10YR3/6 黄褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト小ブロック・径1～5mmの炭化物を少量含む。	
				SX20	1	10YR3/4 に近い黄褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルトブロック・径3～20mmの炭化物を少量含む。
					2	10YR3/4 に近い黄褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルトブロック・径1～3mmの炭化物を少量含む。

第142図 SX17～20 性格不明遺構平面図・断面図



№	記録番号	遺構名	層位	種類	形状	長さ×幅×厚さ (cm)	重さ (g)	備考	写真	写真順
1	N.028	F775	1	金属製品	古銭	径2.3×厚径0.6	重さ2.76g	併写済(1070)		23.11
2	N.032	F775	1	金属製品	古銭	径2.5×厚径0.7	重さ3.88g	2次併写(1070)		23.16
3	N.030	F775	-	金属製品	古銭	径2.3×厚径0.7	重さ2.86g	天然併写(1070)		23.43

第143図 ビット出土遺物

### 第3節 富沢館跡

#### 7. A区の調査(付図2・3)

A区では、基本層Ⅲ層上面(古代以降の遺構検出面)において、土坑1基、堀跡1条、性格不明遺構1基、ピット6基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なもの確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

#### (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物(第144～147図、図版10)

##### 1) 土坑

SK186土坑(第145図)調査区中央東側で検出した。東側の大部分は調査区外へ延びる。SD87と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不明であるが円形を基調としたものと考えられる。規模は南北102cm以上、東西25cm以上、深さ42cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は3層に分層された。遺物は出土していない。

##### 2) 堀跡

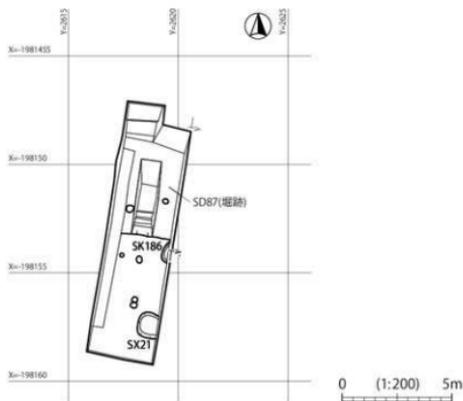
SD87堀跡(第144・146図、図版10)調査区北側で検出した。東西方向の堀跡で、東西及び北側は調査区外へ延びる。SK186、P1134・1135と重複関係にあり、本遺構が古い。トレンチを設定して調査を行ったが、底面まで完掘していない。方向はN-84°-Wで、規模は長さ312cm以上、幅6.10m以上、深さ130cm以上である。断面形は不明である。堆積土は10層に分層された。堆積土中より須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

##### 3) 性格不明遺構

SX21性格不明遺構(第147図)調査区南東側で検出した。東側は調査区外へ延びる。平面形は不整形と考えられ、長軸方向はN-80°-Wである。規模は長軸118cm以上、短軸90cm、深さ27cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形はU字形で、底面は概ね平坦である。堆積土は3層に分層された。遺物は出土していない。

##### 4) ピット(第144図)

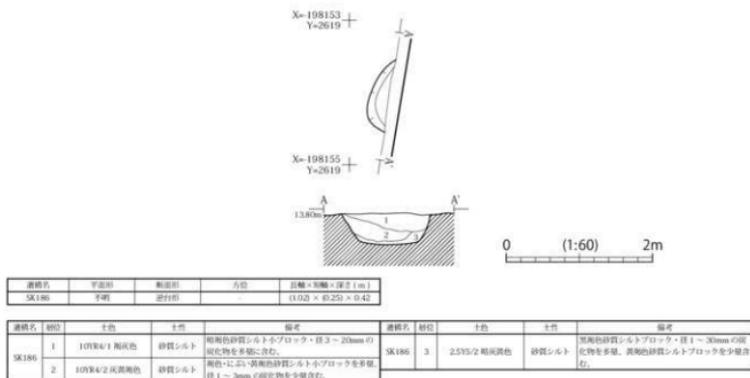
6基のピットを検出した。遺物は出土していない。



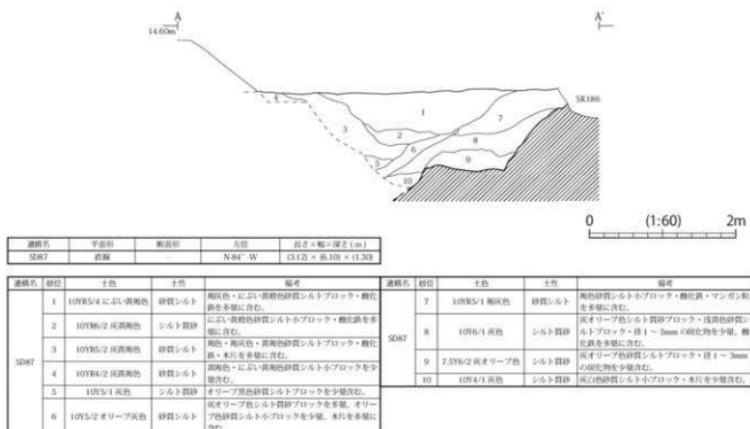
第144図 富沢館跡A区遺構配置図

## (2) 遺構外出土遺物

遺物は出土していない。

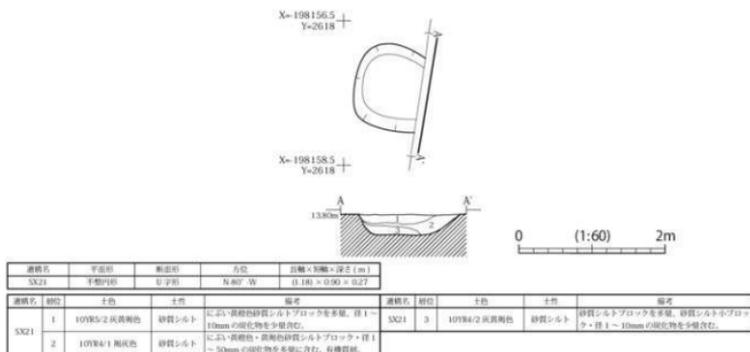


第145図 SK186土坑平面図・断面図



第146図 SD87 堀跡断面図

### 第3節 富沢館跡



第147図 SX21 性格不明遺構平面図・断面図

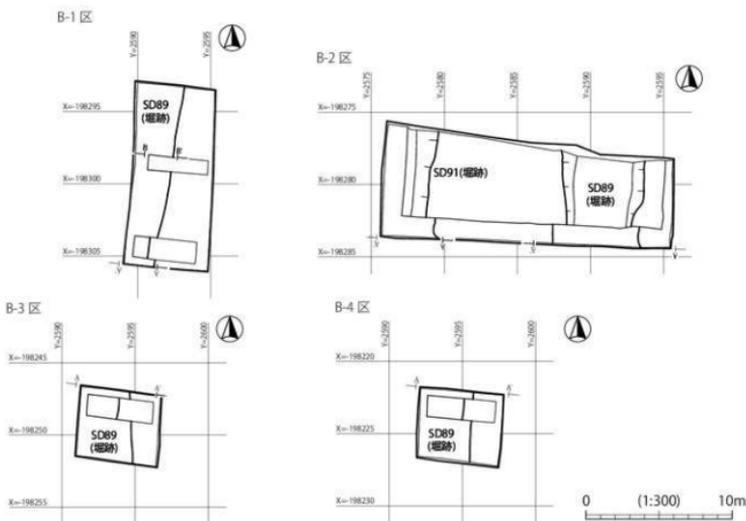
### 8. B区の調査 (付図2・3)

B-1～4区では、基本層Ⅲ層上面 (古代以降の遺構検出面) において、堀跡2条を検出した。

#### (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物 (第148～151図、図版10)

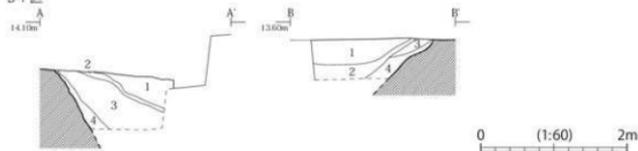
##### 1) 堀跡

SD89堀跡 (第148・149図) B-1～4区で検出した。南北方向の堀跡で、SD91堀跡の東側、館跡の内側に平行



第148図 富沢館跡 B-1～4区遺構配置図

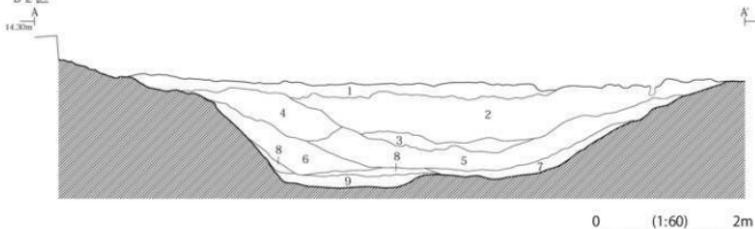
B-1区



遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)
SD89	矩形	逆T形	N4°E	12.70×12.95×0.750

遺構名	層位	土色	土性	備考	遺構名	層位	土色	土性	備考
SD89	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	備註、マンガン粒を多量に含む。	SD89	3	10YR4/1 黒灰色	粘土質シルト	灰褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	2	10YR4/2 灰褐色	砂質シルト	向灰褐色砂質シルトブロック・礫化土を多量に含む。		4	10YR5/1 黒灰色	粘土質シルト	径40mmの黒灰色砂質シルトブロックを少量含む。

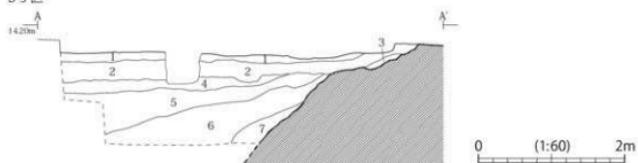
B-2区



遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)
SD89	矩形	逆T形	N3°E	6.35×5.33×1.43

遺構名	層位	土色	土性	備考	遺構名	層位	土色	土性	備考
SD89	1	10YR3/2 灰褐色	砂質シルト	にがい・細粒砂質シルトブロックを少量、礫化土を多量に含む。	SD89	6	10YR4/1 黒褐色	砂質シルト	暗オリーブ灰色砂質シルトブロックを少量含む。
	2	10YR6/1 黒灰色	砂質シルト	にがい・重粒砂・黄褐色、赤褐色砂質シルトブロック・礫化土を多量に含む。		7	10YR4/2 オリーブ灰色	砂質シルト	オリーブ灰色砂質シルトブロックを少量、本区を多量に含む。
	3	10R6/3 黒灰色	シルト質砂	粘土ブロック・径1～5mmの炭化物を少量含む。		8	10YR4/1 黒灰色	シルト質砂	灰褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	4	10YR4/1 黒灰色	シルト質砂	礫化土を多量に含む。		9	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	砂質シルト	オリーブ灰色砂質シルトブロックを少量含む。
	5	10Y4/1 灰色	砂質シルト	緑灰色砂質シルトブロックを多量、オリーブ灰色シルト質砂ブロック・礫化土を少量含む。					

B-3区



遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)
SD89	矩形	逆T形	N2°W	6.050×13.75×0.300

遺構名	層位	土色	土性	備考	遺構名	層位	土色	土性	備考
SD89	1	10YR4/1 黒灰色	粘土質シルト	径10mmの黒灰色シルトブロックを少量、径1～2mmの黒褐色砂質シルト小ブロックを間隔、炭化物を含む。	SD89	4	10YR4/2 灰褐色	砂質シルト	径3～10mmの黒灰色砂質シルトブロック・径3～5mmの炭化物を少量含む。
	2	10YR4/2 灰褐色	砂質シルト	径3～10mmの黒灰色シルトブロック・径3～5mmの炭化物を少量含む。		5	10YR3/4 黒褐色	砂質シルト	径3～10mmの黒灰色砂質シルトブロックを多量、マンガン粒を含む。
	3	10YR3/4 黒褐色	砂質シルト	径3～10mmの黒灰色砂質シルトブロックを少量、マンガン粒を含む。		6	10YR3/4 黒褐色	シルト質砂	径3～10mmの黒灰色砂質シルトブロックを少量、灰褐色砂質シルトブロックを少量、礫化土を多量に含む。
					7	10YR3/1 黒灰色	粘土質シルト		

第149図 B-1～3区SD89 堀跡断面図

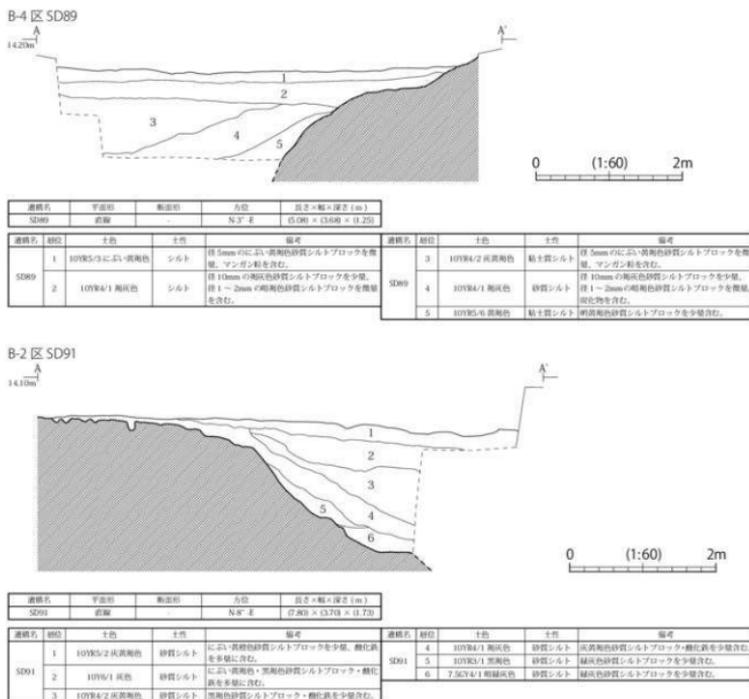
### 第3節 富沢館跡

しており、調査区外へ延びる。方向はN-4°-Eで、規模は長さ84.03m以上、幅9.00m、深さ145cmである。断面形は逆台形である。堆積土は9層に分層された。堆積土中より縄文土器片、骨片が出土しているが、図示できる遺物はない。

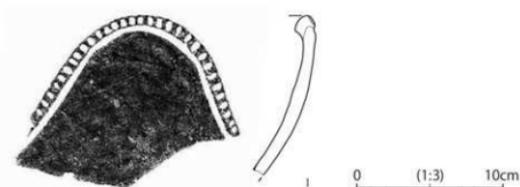
SD91 堀跡 (第148・150図) 調査区西側で検出した。南北方向の堀跡で、SD89 堀跡の西側に平行しており、調査区外へ延びる。トレンチを設定して調査を行ったが、完掘はしていない。方向はN-8°-Eで、規模は長さ7.80m以上、幅370cm以上、深さ173cm以上である。断面形は不明である。堆積土は6層に分層された。遺物は出土していない。

#### (2) 遺構外出土遺物 (第151図、図版23)

縄文土器、土師器片、陶磁器片、石器、土製品が出土しており、Ⅲ層から出土した縄文土器深鉢1点(第151図1)を図示した。



第150図 B-2区SD91堀跡断面図



No.	発掘層号	遺物名	単位	種別	図例	文庫等	備考	写真No.
1	A-037	Ⅲ	縄文土器	厚鉢	弥生 199部、新112	弥生文 199部、弥生199	ミヤコ 西原 199部	23.17

第151図 B-1区遺構外出土遺物

## 9. C東-1区の調査(付図2・3)

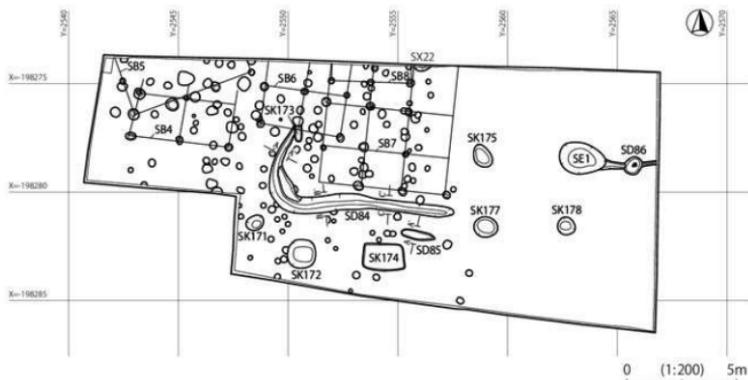
C東-1区では、基本層Ⅲ層上面(古代以降の遺構検出面)において、掘立柱建物跡5棟、井戸跡1基、土坑6基、溝跡3条、性格不明遺構1基、ピット126基を検出した。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

## (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物(第152～162図、図版11・12・23)

## 1) 掘立柱建物跡

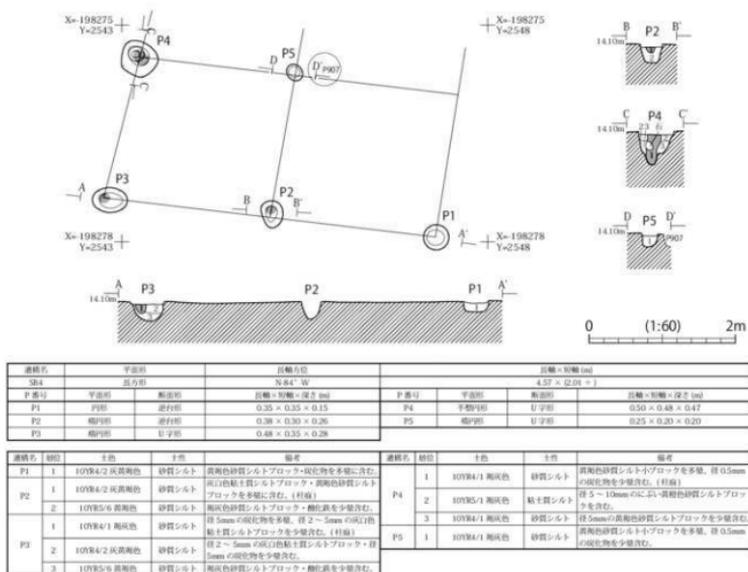
SB4 掘立柱建物跡(第153図、図版11)調査区北西側で検出した。建物範囲ではSB5、多数のピットと重複関係にあるが、柱穴の直接の重複はないため、新旧関係は不明である。規模は東西2間(北列西から214cm+、南列西から230cm+227cm、総長457cm)、南北1間(中央列南から192cm+、西列南から201cm+)以上の総柱建物で北側に延びると考えられる。南列を基調とした方向はN-84°-Wである。柱穴掘り方の平面形は楕円形を主体とし、規模は長軸25～50cm、短軸20～48cm、深さ15～47cmである。P2～4で、長軸15～24cm、短軸12～18cmの柱痕跡を検出した。遺物はP3から石製品、P4から礫が出土しているが、図示できる遺物はなく、本遺構の規模、年代は不明である。

SB5 掘立柱建物跡(第154図、図版11)調査区北西側で検出した。北側は調査区外へ延びると考えられる。建物範囲ではSB4、多数のピットと重複関係にあるが、柱穴の直接の重複はないため、新旧関係は不明である。規模は



第152図 富沢館跡C東-1区遺構配置図

### 第3節 富沢館跡

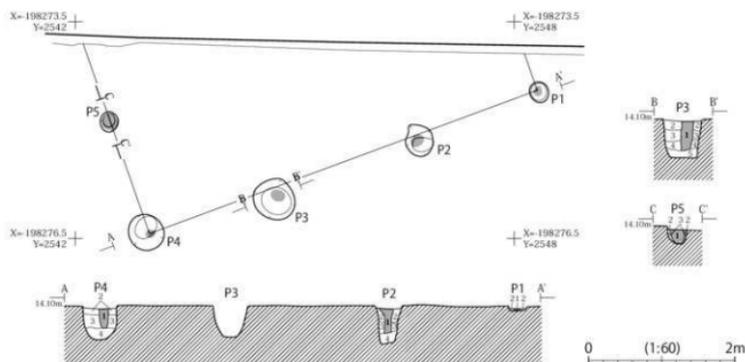


第153図 SB4 掘立柱建物跡平面図・断面図

東西3間(南列西から183cm+206cm+179cm、総長5.68m)、南北1間(西列南から167cm+)以上の側柱建物である。南列を基準とした方向はN-70°-Eである。柱穴掘り方の平面形は円形を主体とし、規模は長軸29~58cm、短軸25~54cm、深さ6~53cmである。すべての柱穴で、長軸14~21cm、短軸11~21cmの柱痕跡を検出した。遺物はP2・4から縄文土器片が出土しているが、図示できる遺物はなく、本遺構の規模、年代は不明である。

SB6 掘立柱建物跡(第155図、図版11)調査区中央北西側で検出した。北側は調査区外へ延びると考えられる。建物範囲ではSB7・8、SK173、SD84、多数のピットと重複関係にあるが、柱穴の直接の重複はないため、新旧関係は不明である。規模は東西2間(北列西から182cm+192cm、総長374cm、南列総長367cm)、南北1間(東列南から187cm+、西列南から176cm+)以上の総柱建物である。東列を基準とした方向はN-10°-Eである。柱穴掘り方の平面形は円形を主体とし、規模は長軸25~40cm、短軸25~35cm、深さ16~44cmである。P1・3で、長軸17~27cm、短軸16~26cmの柱痕跡を検出した。遺物は出土していない。本遺構の規模、年代は不明である。

SB7 掘立柱建物跡(第156図、図版11)調査区中央~北側で検出した。北側は調査区外へ延びる。P1020と重複関係にあり、本遺構が古い。建物範囲ではSB6・8、SX22、多数のピットと重複関係にあるが、柱穴の直接の重複はないため、新旧関係は不明である。規模は東西3間(北列西から+155cm+、北から2列目西から194cm+183cm+、北から3列目西から194cm+182cm+、南列西から+183cm+201cm)、南北3間(東列南から++、東から2列目北から+209cm+197cm+170cm、東から3列目北から+196cm+197cm+170cm、西列南から+197cm+)以上の総柱建物である。南列を基準とした方向はN-6°-Eである。柱穴掘り方の平面形は不整形円形を主



遺構名		平面図		柱軸方位		柱軸・短軸 (cm)	
SBS		N 70° E		5.08 × (1.67°)			
P番号	平面形	断面形	柱軸・短軸・深さ (cm)	P番号	平面形	断面形	柱軸・短軸・深さ (cm)
P1	楕円形	楕形	0.30 × 0.26 × 0.06	P4	円形	円字形	0.57 × 0.51 × 0.48
P2	円形	円字形	0.47 × 0.39 × 0.52	P5	円形	円字形	0.29 × 0.25 × 0.25
P3	円形	円字形	0.58 × 0.54 × 0.53				

遺構名	層位	土色	土質	備考		遺構名	層位	土色	土質	備考				
				柱軸方位	断面形					柱軸方位	断面形			
P1	1	10YR5/1 黄褐色	粘土質シルト	黄褐色砂質シルト・小ブロックを少量含む。(柱軸)	P4	1	10YR4/1 黄褐色	粘土質シルト	径 2~5mm の黄褐色砂質シルト・小ブロックを多量に含む。径 0.5~1mm の炭化物を少量含む。(柱軸)	P5	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 2~5mm の黄褐色砂質シルト・小ブロックを多量に含む。(柱軸)
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 1mm の黄褐色ブロックを多量、炭化物を少量含む。(柱軸)		2	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	径 2~5mm の黄褐色砂質シルト・小ブロックを多量、炭化物を少量含む。(柱軸)		2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 5mm の黄褐色砂質シルト・小ブロックを多量に含む。
P2	1	10YR4/1 黄褐色	砂質シルト	径 5~10mm の黄褐色砂質シルト・小ブロックを多量に含む。	3	10YR5/3 灰黄褐色	砂質シルト	径 5~10mm の黄褐色砂質シルト・小ブロックを多量に含む。	3	10YR5/3 灰黄褐色	砂質シルト	径 5~10mm の黄褐色砂質シルト・小ブロックを多量に含む。		
	2	10YR5/1 黄褐色	砂質シルト	径 5mm の黄褐色砂質シルト・小ブロックを多量に含む。	4	10YR4/3 灰黄褐色	粘土質シルト	径 10~20mm の黄褐色砂質シルト・小ブロックを多量に含む。	4	10YR4/3 灰黄褐色	粘土質シルト	径 10~20mm の黄褐色砂質シルト・小ブロックを多量に含む。		
P3	1	10YR4/1 黄褐色	粘土質シルト	径 2~5mm の黄褐色砂質シルト・小ブロックを多量、径 0.5~2mm の炭化物を少量含む。(柱軸)	P5	1	10YR4/1 黄褐色	砂質シルト	径 10~15mm の黄褐色砂質シルト・小ブロックを多量に含む。	P5	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 5mm の黄褐色砂質シルト・小ブロックを多量に含む。
	2	10YR5/3 灰黄褐色	砂質シルト	径 2~2mm の黄褐色砂質シルト・小ブロックを多量、径 0.5~15mm の黄褐色砂質シルト・小ブロックを少量含む。		2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 5mm の黄褐色砂質シルト・小ブロックを多量に含む。		3	10YR5/3 灰黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルト・小ブロックを多量、径 5mm の黄褐色砂質シルト・小ブロックを少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	径 2~3mm の黄褐色砂質シルト・小ブロックを多量に含む。										
	4	10YR4/3 灰黄褐色	粘土質シルト	径 5~10mm の黄褐色砂質シルト・小ブロックを多量に含む。										
	5	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 5mm の黄褐色砂質シルト・小ブロックを多量に含む。										

第154図 SBS 掘立柱建物跡平面図・断面図

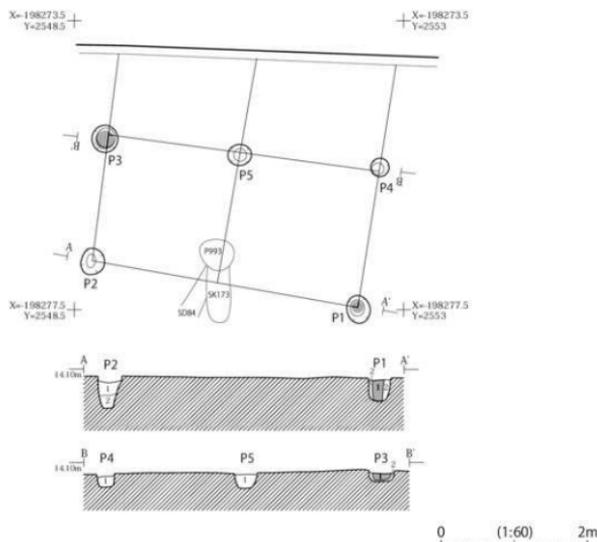
体とし、規模は長軸 16 ~ 46cm、短軸 22 ~ 40cm、深さ 22 ~ 46cmである。P2・6・7・9で、径 9 ~ 16cmの柱痕跡を検出した。遺物は P8 から礫が出土しているが、図示できる遺物はなく、本遺構の規模、年代は不明である。

SBS 掘立柱建物跡 (第 157 図、図版 11) 調査区中央北側で検出した。北側は調査区外へ延びる。建物範囲では SB6・7、P1011 ~ 1013 と重複関係にあるが、柱穴の直接の重複はないため、新旧関係は不明である。規模は東西 2 間 (西から 176cm × 185cm、縦長 361cm)、南北 1 間あるいは 1 間以上の建物である。南列を基準とした方向は N-2°-E である。柱掘り方の平面形は円形で、規模は長軸 28 ~ 35cm、短軸 27 ~ 34cm、深さ 34 ~ 41cm である。P2 で、長軸 7cm、短軸 5cm の柱痕跡を検出した。遺物は出土していない。本遺構の規模、年代は不明である。

## 2) 井戸跡

SE1 井戸跡 (第 158・159 図、図版 12・23) 調査区東側で検出した。素掘りの井戸跡である。深さ 120cm まで掘り下げたが、底面は検出していない。SD86 と重複関係にあり、本遺構が新しい。ただし、SD86 の中央に土坑状の落ち込みがあり、これの底面には酸化鉄が集積しており、水の影響を受けていたと考えられる。この為、SE1 と

### 第3節 富沢館跡



遺構名	平面形		長軸方向		短軸方向		長軸×短軸 (m)	
SB6	平面形	長軸形	N-82°-E		E-60°-S72°		0.40 × 0.72	
P書写	平面形	断面形	長軸×短軸×深さ (m)		P書写	平面形	断面形	長軸×短軸×深さ (m)
P1	楕円形	U字形	0.40 × 0.30 × 0.32		P4	P形	U字形	0.25 × 0.25 × 0.18
P2	P形	U字形	0.37 × 0.33 × 0.44		P5	P形	U字形	0.32 × 0.30 × 0.22
P3	P形	逆台形	0.37 × 0.35 × 0.46					

遺構名	階位	土色	土質	備考	遺構名	階位	土色	土質	備考
P1	1	10YR3/4に濃い黄褐色	砂質シルト	褐色・黄褐色砂質シルト小ブロックを多数含む。(1層)	P3	1	10YR5/1 黄褐色	砂質シルト	濃い黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。(1層)
	2	10YR3/4 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロック・黄褐色砂質シルトブロックを多数含む。		2	10YR5/1 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロック・褐色土を多数含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	濃い黄褐色・黄褐色砂質シルトブロックを多数含む。	P5	1	10YR4/1 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多数、厚1~10mmの硬質物を少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。					

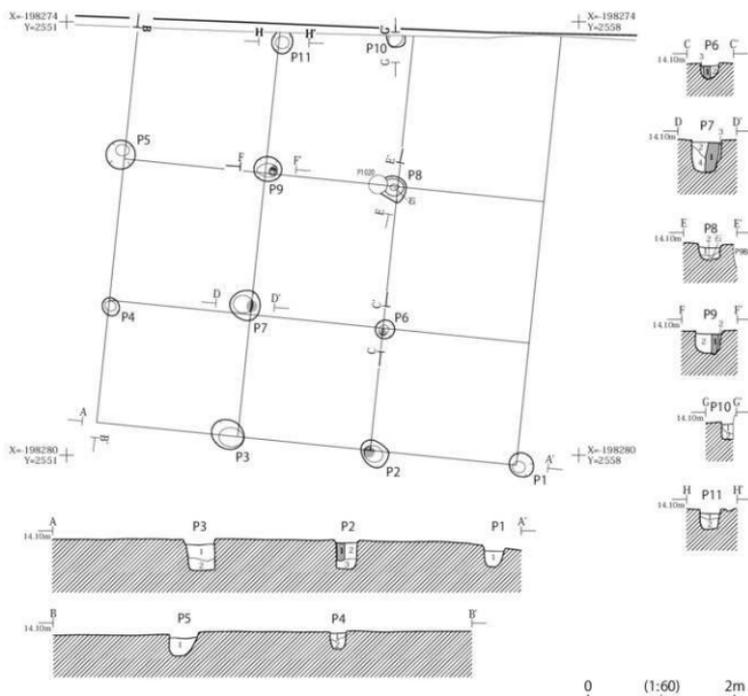
第155図 SB6 掘立柱建物跡平面図・断面図

SD86は同一の遺構であり、SD86は井戸跡に関する排水施設の可能性が考えられる。平面形は楕円形で、長軸方向はN-82°-Wである。規模は長軸213cm、短軸146cm、深さ120cm以上である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形である。堆積土は11層に分層された。遺物は縄文土器、石器が出土しており、5層から出土した縄文土器深鉢1点(第159図1)を図示した。

#### 3) 土坑

SK171土坑(第160図)調査区南西側で検出した。平面形は不整形円で、長軸方向はN-65°-Eである。規模は長軸84cm、短軸65cm、深さ27cmである。壁面は外傾して立ち上がり、中位で角度が変わる部分がある。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は2層に分層された。堆積土中より石器が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK172土坑(第160図)調査区中央南西側で検出した。P953と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は円



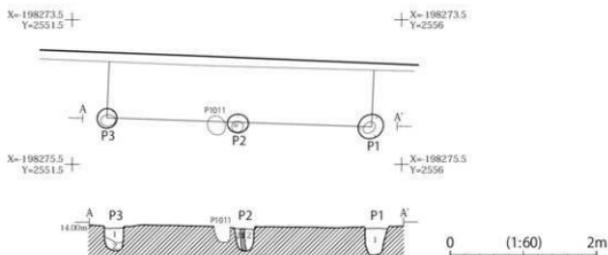
連続名	柱位	主地	土質	備考	連続名	柱位	主地	土質	備考
P1	1	10YR4/1 褐色色	砂質シルト	に深い黄褐色砂質シルト小ブロックを多量、黄褐色砂質シルト小ブロックを少量含む。	PF	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	に深い黄褐色砂質シルト小ブロック・径1~30mmの礫石物を多量に含む。(柱位)
	2	10YR4/2 灰褐色	砂質シルト	黄褐色・に深い黄褐色砂質シルト小ブロックを少量含む。(柱位)		2	10YR5/1 褐色色	シルト質砂	に深い黄褐色・黄褐色砂質シルト小ブロック・径1~10mmの礫石物を少量含む。
P2	1	10YR5/1 褐色色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多量、褐色砂質シルトブロックを少量含む。	3	10YR4/4 褐色	シルト質砂	黄褐色・に深い黄褐色砂質シルトブロックを多量に含む。	
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多量、黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。	4	10YR4/1 褐色色	砂質シルト	黄褐色・に深い黄褐色砂質シルトブロックを多量に含む。	
P3	1	10YR4/1 褐色色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多量、黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。	P8	1	10YR4/1 褐色色	砂質シルト	暗褐色砂質シルトブロック・径1~30mmの礫石物を少量含む。
	2	10YR3/2 黄褐色	砂質シルト	黄褐色・に深い黄褐色砂質シルト小ブロックを少量含む。		2	10YR3/2 黄褐色	砂質シルト	に深い黄褐色・黄褐色砂質シルト小ブロックを少量含む。
P4	1	10YR4/1 褐色色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロック・黄褐色砂質シルト小ブロックを少量含む。	P9	1	10YR5/3 に深い黄褐色	砂質シルト	黄褐色・黄褐色砂質シルトブロックを多量、径1~10mmの礫石物を少量含む。(柱位)
	2	10YR4/3 に深い黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多量、に深い黄褐色砂質シルトブロック・径1~50mmの礫石物を少量含む。(柱位)		2	10YR4/1 褐色色	砂質シルト	黄褐色・に深い黄褐色砂質シルト小ブロックを少量含む。
P5	1	10YR4/1 褐色色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロック・径1~50mmの礫石物を少量含む。(柱位)	P10	1	10YR4/1 褐色色	砂質シルト	黄褐色・黄褐色砂質シルト小ブロックを多量、径1~30mmの礫石物を少量含む。
	2	10YR4/0 褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多量に含む。		2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	黄褐色・に深い黄褐色砂質シルト小ブロックを少量含む。
P6	1	10YR5/3 に深い黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロック・黄褐色砂質シルト小ブロックを多量、径1~30mmの礫石物を少量含む。(柱位)	P11	1	10YR4/1 褐色色	砂質シルト	黄褐色・に深い黄褐色砂質シルト小ブロックを少量含む。
	2	10YR4/0 褐色	砂質シルト	黄褐色・黄褐色砂質シルトブロックを多量に含む。		2	10YR4/3 に深い黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多量、黄褐色砂質シルト小ブロック・径1~50mmの礫石物少量含む。
3	10YR5/6 黄褐色	シルト質砂	黄褐色砂質シルト小ブロックを少量含む。						

第156図 SB7掘立柱建物跡平面図・断面図

### 第3節 富沢館跡

SB7 掘立柱建物跡出土品表

遺物名		平面形		長軸方向		遺物・短軸 (mm)		
遺物	形状	形状	形状	長軸×短軸×深さ (mm)	P番号	平面形	断面形	長軸×短軸×深さ (mm)
P1	円形	U字形		0.36 × 0.34 × 0.28	P7	平形円形	U字形	0.42 × 0.40 × 0.46
P2	平形円形	U字形		0.40 × 0.32 × 0.40	P8	平形円形	U字形	0.36 × 0.32 × 0.22
P3	平形円形	U字形		0.49 × 0.40 × 0.42	P9	平形円形	U字形	0.38 × 0.34 × 0.34
P4	平形円形	U字形		0.26 × 0.22 × 0.24	P10	平形円形	U字形	0.14 × 0.26 × 0.26
P5	円形	U字形		0.40 × 0.40 × 0.30	P11	平形円形	U字形	0.39 × 0.28 × 0.28
P6	円形	U字形		0.26 × 0.26 × 0.24				



遺物名		平面形		長軸方向		遺物・短軸 (mm)		
遺物	形状	形状	形状	長軸×短軸×深さ (mm)	P番号	平面形	断面形	長軸×短軸×深さ (mm)
P1	円形	U字形		0.35 × 0.34 × 0.41	P9	平形円形	U字形	0.28 × 0.27 × 0.36
P2	円形	U字形		0.30 × 0.27 × 0.34				

遺物名	単位	土色		層号	遺物名	単位	土色		層号
		表	底				表	底	
P1	1	10YR5/3に濃い黄褐色	砂質シルト	Ⅰ	P3	1	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	Ⅰ
P2	1	10YR4/3に濃い黄褐色	砂質シルト	Ⅰ	P3	2	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	Ⅱ

第157図 SB7掘立柱建物跡平面図・断面図

形で、規模は南北132cm、東西127cm、深さ80cmである。壁面は、外傾して立ち上がり、中位からはほぼ垂直に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや起伏する。堆積土は3層に分層された。1・2層は炭化物を多量に含んでいる。堆積土中より縄文土器片、石器、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK173土坑(第160図)調査区中央西側で検出した。SD84、P993と重複関係にあり、SD84より新しく、P993より古い。SB6の建物範囲内に位置するが、柱穴の直接の重複はないため、新旧関係は不明である。平面形は不整楕円形で、長軸方向はN-6°-Wである。規模は長軸80cm以上、短軸33cm、深さ42cmである。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。断面形はU字形で、底面は平坦である。堆積土は2層に分層された。遺物は出土していない。

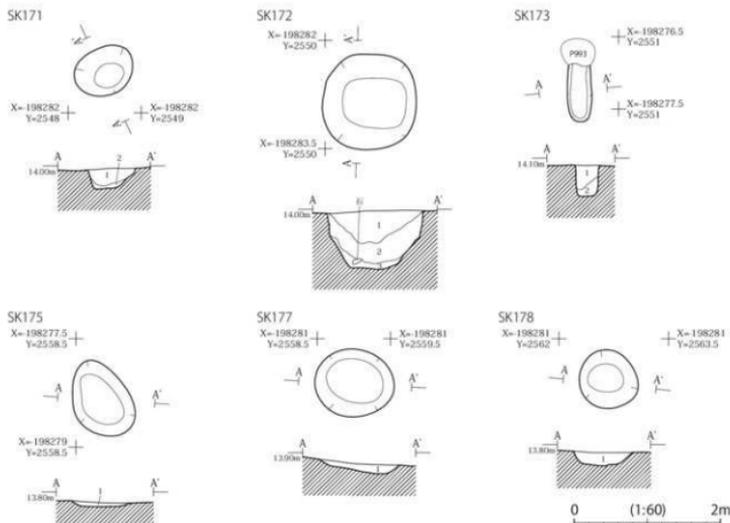
SK175土坑(第160図)調査区中央東側で検出した。平面形は不整楕円形で、長軸方向はN-6°-Eである。規模は長軸96cm、短軸83cm、深さ5cmである。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。堆積土中より石製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK177土坑(第160図)調査区中央東側で検出した。平面形は不整円形で、長軸方向はN-87°-Wである。規模は長軸108cm、短軸94cm、深さ11cmである。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面はやや起伏する。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK178土坑(第160図)調査区東側で検出した。平面形は不整円形で、長軸方向はN-7°-Eである。規模は長軸80cm、短軸80cm、深さ17cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや起伏する。堆積土は単層である。遺物は出土していない。



### 第3節 富沢館跡



遺構名	平面図	断面図	方位	径軸×距離×深さ (m)	遺構名	平面図	断面図	方位	径軸×距離×深さ (m)
SK171	平型円形		N 45° E	0.84 × 0.65 × 0.27	SK175	平型円形		N 6° E	0.96 × 0.63 × 0.05
SK172	円形		1.32 × 1.27 × 0.80	SK177	平型円形		N 87° W	1.58 × 0.94 × 0.11	
SK173	平型楕円形	U字断面	N 0° W	0.80 × 0.33 × 0.42	SK178	平型円形	U字断面	N 7° E	0.80 × 0.80 × 0.17

遺構名	層位	土色	層名	備考
SK171	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロック・土に混色褐色砂質シルトブロックを多数に含む。
	2	10YR6/0 褐色	砂質シルト	灰黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。
SK172	1	10YR4/1 褐色	砂質シルト	褐色褐色砂質シルトブロック・土に混色褐色砂質シルトブロック・径 1 ~ 10mm の炭化物を多数に含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	土に混色褐色・灰黄褐色・暗褐色砂質シルトブロック・径 1 ~ 100mm の炭化物を多数に含む。
	3	10YR5/3 に混色褐色	砂質シルト	褐色・暗褐色砂質シルトブロックを多数含む。黄褐色砂質シルトブロック・土に混色褐色砂質シルトブロックを多数、褐色砂質シルトブロックを少量含む。
SK173	1	10YR4/3 に混色褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多数、径 1 ~ 5mm の炭化物を少量含む。
	2	10YR4/4 暗褐色	砂質シルト	
SK175	1	10YR6/3 に混色暗褐色	粘土質シルト	径 10 ~ 20mm の褐色粘土ブロックを多数、径 2 ~ 5mm の褐色砂質シルトブロック・径 1mm の炭粒・径 10 ~ 20mm の褐色粘土ブロックを少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	径 0.5 ~ 1mm の炭粒・径 2 ~ 5mm の炭化物を少量含む。
SK177	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	径 10 ~ 20mm の褐色粘土ブロックを多数、径 30 ~ 50mm の褐色粘土ブロック・径 5 ~ 10mm の炭化物を少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	

第160図 SK171 ~ 173・175・177・178土坑平面図・断面図

SD85 溝跡 (第 152・161 図) 調査区中央南側で検出した。SD84 溝跡の南側に並行する、東西方向の溝跡である。方向は N-80°-W で、規模は長さ 155cm、幅 42cm、深さ 10cm である。断面形は U 字形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD86 溝跡 (第 152・161 図) 調査区東側で検出した。東西方向の溝跡で、東側は調査区外へ延びる。遺構上面の一部は掘削により削平される。SE1 と重複関係にあり、本遺構が古い。方向は N-89°-E で、規模は長さ 233cm 以上、幅 43cm、深さ 42cm である。遺構中央は楕円形の土坑状に落ち込む。断面形は U 字形である。堆積土は 5 層に分層された。酸化鉄が、溝跡部分の堆積土に少量、土坑部分の堆積土には多量に含まれ、底面では酸化鉄が集積していた。この為、SD86 は水の影響を受けていたと考えられる。また、前述した SE1 井戸跡との重複関係が確認されているが、SD86 は SE1 井戸跡と同一遺構で、これの排水施設の可能性が考えられる。堆積土中より縄文

土器片、石器、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

### 5) 性格不明遺構

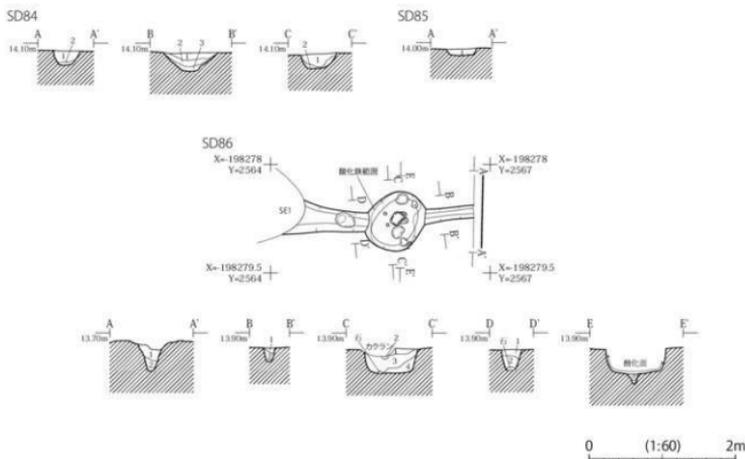
SX22 性格不明遺構 (第 162 図) 調査区中央北側で検出した。北側の大部分は調査区外へ延びる。SB7 の建物範囲内に位置するが、柱穴と直接の重複はないため、新旧関係は不明である。平面形は不明で、規模は東西 76cm 以上、南北 21cm 以上、深さ 42cm である。壁面は外傾して立ち上がり、上位で大きく外傾する。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

### 6) ビット (第 152 図)

126 基のビットを検出した。調査区中央～西側に分布する。堆積土中より縄文土器片、土師器片、石器が出土しているが、図示できる遺物はない。

### (2) 遺構外出土遺物

縄文土器片、土師器片、須恵器片、石器、木製品、金属製品、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。



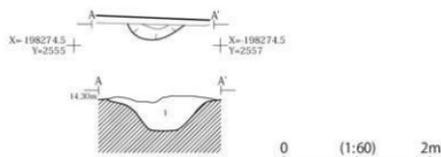
遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)	遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)
SD84	L字	U字形	N 89° W	(5.64) × 0.37 × 0.13	SD85	縦線	U字形	N 89° E	(2.38 × 0.43 × 0.42)
SD85	縦線	U字形	N 89° W	1.55 × 0.42 × 0.10					

遺構名	柱位	土色	土質	備考	遺構名	柱位	土色	土質	備考
SD84A・C	1	10YR4/1 黄褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロックを多量、黄褐色砂質シルトブロックを含む。	SD86	1	10YR4/2 黄褐色	粘土質シルト	径 5～10mm の黄褐色砂質シルトブロック・径 3mm の黒灰色粘土質シルトブロックを多量に含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	褐色砂質シルト・シルトブロックを少量含む。		2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	酸化鉄を少量含む。
SD84B	1	10YR5/2 黄褐色	砂質シルト	黄褐色・黒褐色砂質シルトブロックを多量に含む。	3	10YR6/1 黒灰色	砂質シルト	径 10～20mm の黒褐色シルトブロックを少量、酸化鉄を多量に含む。	
	3	10YR3/1 黒灰色	砂質シルト	灰褐色・赤褐色・黒褐色砂質シルトブロック・黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。	4	10YR5/1 黄褐色	粘土質シルト	径 5～10mm の黄褐色シルトブロック・酸化鉄を少量含む。	
SD85	1	10YR5/2 黄褐色	砂質シルト	厚 2mm の黄褐色砂質シルトブロック・径 10mm の黒灰色シルトブロック・径 2～3mm の硬化物を少量含む。	5	10YR5/2 黄褐色	粘土	径 30mm の黒褐色シルトブロックを少量含む。	

第 161 図 SD84～86 溝跡平面図・断面図

### 第3節 富沢館跡



遺構名	平面形	断面形	方位	長軸×短軸×深さ(m)	遺構名	積層	土色	土質	備考
SK22	半円形	逆円錐形		03.70 × 03.21 × 0.42	SK22	1	10YR6/1 暗灰色	砂質シルト	埋没の砂質シルト・ブロックを少量、深奥部の砂質シルトを少量含む。

第162図 SK22 性格不明遺構平面図・断面図

#### 10. C東-2区の調査(付図2・3)

C東-2区では、基本層Ⅲ層上面(古代以降の遺構検出面)において、土坑11基、溝跡1条、ピット131基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

#### (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物(第163～166図、図版12)

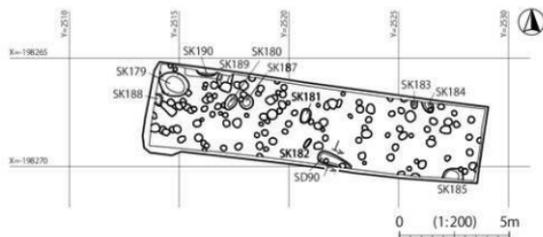
##### 1) 土坑

SK179土坑(第164図)調査区西側で検出した。P1040・1144と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN-70°-Wである。規模は長軸141cm、短軸110cm、深さ46cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形はU字形で、底面は起伏する。堆積土は6層に分層された。堆積土中より土師器片、石製品、骨片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK180土坑(第164図)調査区中央西側で検出した。P1149と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN-28°-Eである。規模は長軸75cm、短軸50cm、深さ32cmである。壁面は、やや内湾して立ち上がる。断面形はU字形で、底面は丸みを持つ。堆積土は5層に分層された。遺物は出土していない。

SK181土坑(第164図)調査区中央で検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-17°-Eである。規模は長軸69cm、短軸44cm、深さ9cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK182土坑(第164図)調査区中央やや南側で検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-37°-Eである。規模は長軸50cm、短軸20cm、深さ4cmである。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は



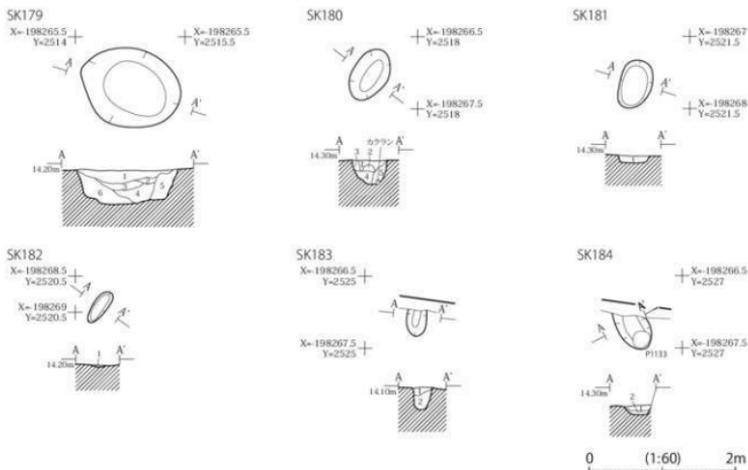
第163図 富沢館跡C東-2区遺構配置図

起伏する。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK183 土坑 (第 164 図) 調査区北東側で検出した。北側は調査区外へ延びる。平面形は楕円形と考えられ、長軸方向は N-6°-E である。規模は長軸 35cm 以上、短軸 28cm、深さ 30cm である。壁面は、やや外傾して立ち上がる。断面形は U 字形で、底面は丸みを持つ。堆積土は 2 層に分層された。遺物は出土していない。

SK184 土坑 (第 164 図) 調査区北東側で検出した。北側は調査区外へ延びる。平面形は楕円形と考えられ、長軸方向は N-27°-W である。規模は長軸 50cm 以上、短軸 42cm、深さ 13cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦で、南側がピット状に落ち込む。堆積土は 2 層に分層された。遺物は出土していない。

SK185 土坑 (第 165 図) 調査区南東側で検出した。南側は調査区外へ延びる。P1133 と重複関係にあり、本遺



遺坑名	平面図	断面図	方位	長軸×短軸×深さ (m)	遺坑名	平面図	断面図	方位	長軸×短軸×深さ (m)
SK179	楕円形	逆台形	N 7° W	1.41 × 1.0 × 0.46	SK182	楕円形	逆台形	N 27° E	0.50 × 0.20 × 0.04
SK180	楕円形	U 字形	N 28° E	0.75 × 0.59 × 0.32	SK183	楕円形	U 字形	N 6° E	0.35 × 0.28 × 0.30
SK181	楕円形	逆台形	N 17° E	0.69 × 0.44 × 0.09	SK184	楕円形	逆台形	N 27° W	0.50 × 0.42 × 0.13

遺坑名	層位	土色	土性	備考	遺坑名	層位	土色	土性	備考	
SK179	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	径 5 ~ 10mm の黄褐色砂質シルトブロック・径 5mm の粘土ブロックを少量、径 5 ~ 10mm の砂状物を多量に含む。	SK180	3	10YR4/1 灰白色	粘土質シルト	径 1mm の黄褐色砂質シルトブロックを多量に含む。	
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	径 5 ~ 10mm の黄褐色砂質シルトブロックを多量、径 5mm の砂状物を少量含む。		4	10YR4/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	径 2 ~ 5mm の黄褐色砂質シルトブロックを多量に含む。	
	3	10YR4/1 灰白色	粘土質シルト	径 5 ~ 10mm の黄褐色砂質シルトブロック・径 5mm の粘土ブロック・径 2 ~ 5mm の砂状物を少量含む。		5	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 2 ~ 5mm の黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。	
	4	10YR3/1 灰黄色	粘土質シルト	径 2 ~ 5mm の黄褐色砂質シルトブロックを多量、径 10mm の黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。		SK181	1	10YR5/1 灰白色	砂質シルト	径 5mm の黄褐色砂質シルトブロックを多量、径 2 ~ 5mm の砂状物を含む。
	5	10YR3/1 灰黄色	粘土質シルト	径 2 ~ 5mm の黄褐色砂質シルトブロックを多量、径 10mm の黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。		SK182	1	10YR3/2 灰黄色	粘土質シルト	径 5mm の黄褐色砂質シルトブロックを多量に含む。
SK180	1	10YR5/1 灰黄色	粘土質シルト	径 2 ~ 5mm の黄褐色砂質シルトブロックを多量、径 2 ~ 5mm の砂状物を少量含む。	SK183	2	10YR4/1 灰白色	粘土質シルト	径 5mm の黄褐色砂質シルトブロックを多量に含む。	
	2	10YR5/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	径 5 ~ 10mm の黄褐色シルトブロックを多量、径 5mm の黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。	SK184	1	10YR4/1 灰白色	粘土質シルト	径 2mm の砂状物を含む。	
						2	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径 5mm の黄褐色砂質シルトブロックを多量に含む。	

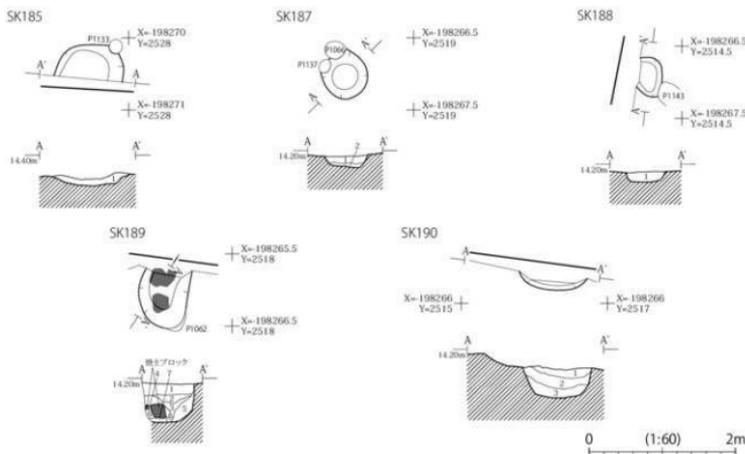
第 164 図 SK179 ~ 184 土坑平面図・断面図

### 第3節 富沢館跡

構が古い。平面形は楕円形と考えられ、長軸方向はN-86°-Wである。規模は長軸93cm、短軸47cm、深さ14cmである。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや起伏する。堆積土中より石製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK187土坑(第165図)調査区中央西側で検出した。P1066・1137と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形はほぼ円形で、長軸方向はN-43°-Wである。規模は径63cm、深さ15cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は緩む平坦である。堆積土は2層に分層された。遺物は出土していない。

SK188土坑(第165図)調査区西側で検出した。西側は調査区外へ延びる。P1143と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形と考えられ、長軸方向はN-7°-Wである。規模は長軸53cm、短軸30cm以上、深さ14cm



遺構名	平面形	断面形	方位	長軸・短軸・深さ(m)	遺構名	平面形	断面形	方位	長軸・短軸・深さ(m)
SK185	楕円形	逆台形	N 86° W	0.93 × 0.47 × 0.14	SK189	楕円形	U字形	N 30° E	0.77 × 0.72 × 0.53
SK187	円形	逆台形	N 43° W	0.63 × 0.62 × 0.15	SK190	円形	U字形		0.52 × 0.32 × 0.40
SK188	不整形	逆台形	N 7° W	0.53 × 0.30 × 0.14					

遺構名	層位	土色	土性	備考	遺構名	層位	土色	土性	備考
SK185	1	10YR3/1 黄褐色	粘土質シルト	径 5 ~ 10mm の炭化物砕屑シルトブロック・径 5mm の炭化物を少量含む。	SK189	5	10YR3/2 黄褐色	粘土質シルト	径 5 ~ 10mm の炭化物砕屑シルトブロックを多量、径 5 ~ 10mm の焼土ブロック・径 2mm の炭化物を微量含む。
	2	10YR4/3 灰褐色	粘土質シルト	径 5mm の炭化物砕屑シルトブロックを微量含む。		6	10YR5/3 濃い黄褐色	粘土質シルト	径 5mm の炭化物砕屑シルトブロック・径 5 ~ 10mm の炭化物砕屑シルトブロックを微量、径 2 ~ 5mm の焼土ブロックを少量含む。
SK187	1	10YR4/3 灰褐色	粘土質シルト	径 10 ~ 20mm の炭化物砕屑シルトブロックを多量、径 2 ~ 5mm の炭化物砕屑シルトブロック・径 5 ~ 10mm の炭化物を少量含む。	SK188	7	10YR5/1 黄褐色	砂質シルト	径 5 ~ 10mm の炭化物砕屑シルトブロックを多量、径 2 ~ 5mm の炭化物砕屑シルトブロックを微量、径 2 ~ 5mm の焼土ブロックを微量含む。
	2	10YR4/3 濃い黄褐色	砂質シルト	径 5 ~ 10mm の炭化物砕屑シルトブロックを多量に含む。					
SK189	1	10YR3/2 黄褐色	粘土質シルト	径 10 ~ 20mm の炭化物砕屑シルトブロックを多量、径 2 ~ 5mm の炭化物砕屑シルトブロック・径 5 ~ 10mm の炭化物を少量含む。	SK190	1	10YR3/1 黄褐色	粘土質シルト	径 2 ~ 5mm の炭化物砕屑シルトブロックを少量、径 5 ~ 10mm の炭化物を微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	径 5 ~ 10mm の炭化物砕屑シルトブロックを多量、径 2 ~ 5mm の炭化物を少量含む。		2	10YR4/2 黄褐色	粘土質シルト	径 5 ~ 10mm の炭化物砕屑シルトブロック・径 5 ~ 10mm の炭化物を少量含む。
	3	10YR4/3 濃い黄褐色	粘土質シルト	径 5 ~ 10mm の炭化物砕屑シルトブロックを多量、径 2 ~ 5mm の炭化物砕屑シルトブロックを少量、径 2 ~ 5mm の焼土ブロックを少量含む。		3	10YR3/2 黄褐色	粘土質シルト	径 5 ~ 10mm の炭化物砕屑シルトブロック・径 10 ~ 20mm の炭化物を少量含む。
	4	10YR4/4 褐色	砂質シルト	径 2 ~ 5mm の炭化物砕屑シルトブロックを微量、径 2 ~ 5mm の焼土ブロックを少量、径 2 ~ 5mm の炭化物を微量含む。					

第165図 SK185・187～190土坑平面図・断面図

である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形はU字形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK189土坑(第165図、図版12)調査区北西側で検出した。北側は調査区外へ延び、北西側の一部は攪乱により削平される。P1043・1062と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形と考えられ、長軸方向はN-30°-Eである。規模は長軸73cm以上、短軸72cm、深さ53cmである。壁面は、外傾して立ち上がり、中位からはほぼ垂直に立ち上がる。断面形はU字形で、底面は平坦である。堆積土は7層に分層された。下層には焼土ブロックがみられる。堆積土中より土製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK190土坑(第165図)調査区北西側で検出した。北側は調査区外へ延び、遺構の上面は攪乱により削平される。平面形は不明で、規模は東西92cm以上、南北12cm以上、深さ40cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形はU字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層された。遺物は出土していない。

## 2) 溝跡

SD90溝跡(第163・166図)調査区中央南側で検出した。東西方向の溝跡で、南側は調査区外へ延びる。P1152・1153と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-67°-Wで、規模は長さ158cm、幅55cm、深さ10cmである。断面形は皿形である。堆積土は2層に分層された。堆積土中より土師器片、石製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

## 3) ピット(第163図)

131基のピットを検出した。調査区全域に分布する。堆積土中より石製品、鉄製品、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

## (2) 遺構外出土遺物

須恵器片、陶磁器片、木製品、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。



遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)	遺構名	層位	土色	土性	備考
SD90	楕円形	皿形	N 67° W	1.58 × 0.55 × 0.10	SD90	1	10YR4/1 黄褐色	粘土質シルト	厚 5mm の黄褐色砂質シルトを含む。
						2	10YR5/1 黄褐色	粘土質シルト	厚 2 ~ 5mm の黄褐色砂質シルトを多数、厚 2mm の硬土物を少量含む。

第166図 SD90溝跡断面図

### 第3節 富沢館跡

#### 11. C西-a区の調査(付図2・3)

C西-a区では、基本層Ⅲ層上面(古代以降の遺構検出面)において、堀跡1条を検出した。

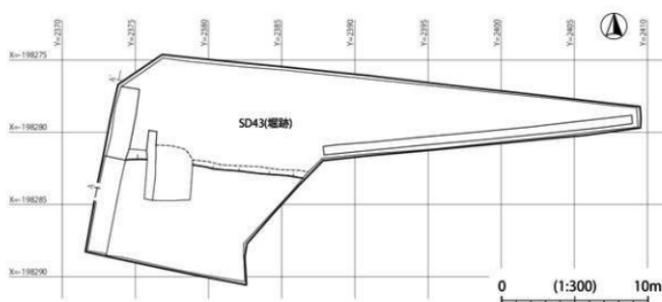
#### (1)Ⅲ層検出遺構と出土遺物(第167・168図、図版12)

##### 1)堀跡

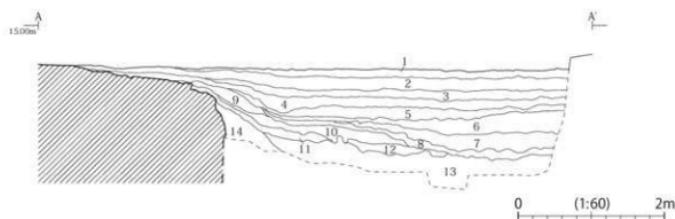
SD43堀跡(第167・168図、図版12)調査区北側で検出した。東西方向の堀跡で、両端及び北側は調査区外へ延びる。トレンチを設定して調査を行ったが、完掘していない。方向はN-87°-Wで、規模は長さ34.74m以上、幅7.54m以上、深さ160cm以上である。断面形は不明である。堆積土は14層に分層された。堆積土中より礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

##### (2)遺構外出土遺物

土師器片、陶磁器片、石製品が出土しているが、図示できる遺物はない。



第167図 富沢館跡C西-a区遺構配置図



遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)
SD43	直線	直線	N-87°-W	34.74m×7.54m×1.60m

遺構名	層位	土色		備考
		1土	2土	
SD43	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	厚3~20mmの明褐色砂質シルトブロック・厚3~10mmの黄褐色砂質シルトブロック・マンガン粒を含む。
	2	10YR3/2 黄褐色	シルト砂質	厚15mmの黄褐色シルトブロックを散見、マンガン粒を含む。
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト砂質	厚20~50mmの礫を多量、マンガン粒を含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厚5~10mmの黄褐色シルトブロックを少量含む。
	5	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	厚3~10mmの黄褐色シルト・厚3~5mmの礫の塊を少量含む。
SD43	6	10YR3/3 黄褐色	シルト質砂	砂を散見、マンガン粒を多量に含む。
	7	10YR4/1 黄褐色	シルト質砂	砂を散見、マンガン粒を多量に含む。
	8	10YR3/1 黄褐色	砂	厚100の~300mmの砂礫を含む。
	9	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	砂を散見、酸化鉄マンガン粒を多量に含む。
	10	10YR3/1 黄褐色	砂	砂を散見、マンガン粒を多量に含む。
	11	10YR4/2 灰黄褐色	シルト質砂	
	12	10Y3/1 黄褐色	シルト	
	13	10Y4/1 灰褐色	砂質土	グライ化、有機質混入。
	14	10YR4/3 に近い黄褐色	砂	砂を散見含む。

第168図 SD43堀跡断面図

## 12. C西-b区の調査(付図2・3)

C西-b区では、基本層Ⅲ層上面(古代以降の遺構検出面)において、堀跡2条を検出した。

## (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物(第169・170図、図版12・13)

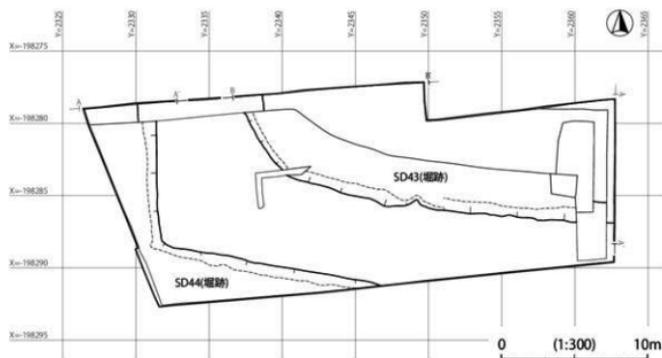
## 1) 堀跡

SD43堀跡(第169・170図、図版12・13)調査区中央北側～北東側で検出した。北西から東方向に緩やかに湾曲する堀跡で、両端及び北側は調査区外へ延びる。トレンチを設定して調査を行ったが、底面まで完掘していない。方向は東西方向の辺はN-82°-Wで、規模は長さ28.41m以上、幅12.70m以上、深さ160cm以上である。断面形は逆台形である。堆積土は15層に分層された。堆積土中より須恵器片、金属製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD44堀跡(第169・170図、図版13)調査区南西側～北西側で検出した。調査区南西部で北から東方向に屈曲するL字状の堀跡で、両端及び南西側は調査区外へ延びる。トレンチを設定して調査を行ったが、底面まで完掘していない。方向は東西方向の辺はN-78°-W、南北方向の辺はN-4°-Wで、規模は長さ25.30m以上、幅420cm以上、深さ65cm以上である。断面形は逆台形である。堆積土は4層に分層された。堆積土中より土師器片、陶磁器片、金属製品、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

## (2) 遺構外出土遺物

須恵器片、陶磁器片、石器、石製品、金属製品が出土しているが、図示できる遺物はない。



第169図 富沢館跡C西-b区遺構配置図



0 (1:60) 2m

測線名	平面図	断面図	方位	長さ(幅・高さ) (m)
SD43	E-P	断面図	108°41' → 112°00' + 110°00'	10.000 × 1.000
SD44	E-P	断面図	94°28' W 94°17' W	10.200 × 14.200 + 01.000

測線名	測位	土名	備考
1	10784.1	砂質シルト	横谷川跡とほぼ同一に存在。
2	10783.4	シルト層	横谷川跡の土層、V型谷の谷口付近に存在。
3	10784.1	砂質シルト	横谷川跡の土層とほぼ同一に存在。
4	10783.8	砂質シルト	横谷川跡の土層とほぼ同一に存在。
5	10784.2	砂質シルト	横谷川跡の土層とほぼ同一に存在。
6	10783.1	砂質シルト	横谷川跡の土層とほぼ同一に存在。
7	10783.1	砂質シルト	横谷川跡の土層とほぼ同一に存在。
8	10783.1	シルト層	横谷川跡の土層とほぼ同一に存在。
9	10783.2	砂質シルト	横谷川跡の土層とほぼ同一に存在。
10	10784.1	砂質シルト	横谷川跡の土層とほぼ同一に存在。
11	10783.2	砂質シルト	横谷川跡の土層とほぼ同一に存在。
12	10783.2	砂質シルト	横谷川跡の土層とほぼ同一に存在。
13	10782.9	シルト層	横谷川跡の土層とほぼ同一に存在。
14	10783.4	シルト層	横谷川跡の土層とほぼ同一に存在。
15	10783.4	シルト層	横谷川跡の土層とほぼ同一に存在。
1	10783.8	砂質シルト	横谷川跡の土層とほぼ同一に存在。
2	10784.1	砂質シルト	横谷川跡の土層とほぼ同一に存在。
3	10783.4	砂質シルト	横谷川跡の土層とほぼ同一に存在。
1	10783.2	砂質シルト	横谷川跡の土層とほぼ同一に存在。
2	10784.1	砂質シルト	横谷川跡の土層とほぼ同一に存在。
3	10783.4	砂質シルト	横谷川跡の土層とほぼ同一に存在。
4	10783.2	砂質シルト	横谷川跡の土層とほぼ同一に存在。

第170図 SD43・44 縦断面図

## 13. C西-c区の調査(付図2・3)

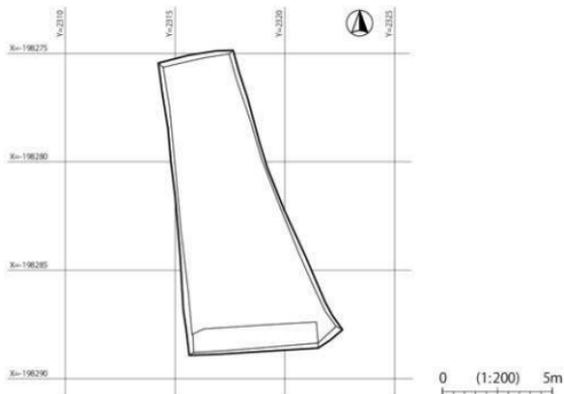
C西-c区では、基本層Ⅲ層上面(古代以降の遺構検出面)において、遺構は検出されなかった。

## (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物(第171図、図版13)

遺構は検出されていない。

## (2) 遺構外出土遺物

須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。



第171図 富沢館跡C西-c区遺構配置図

## 14. C西-d1東区の調査(付図2・3)

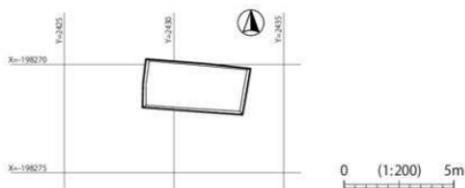
C西-d1東区では、基本層Ⅲ層上面(古代以降の遺構検出面)において、遺構は検出されなかった。

## (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物(第172図、図版13)

遺構は検出されていない。

## (2) 遺構外出土遺物

土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。



第172図 富沢館跡C西-d1東区遺構配置図

### 第3節 富沢館跡

#### 15. C西-d1西区の調査(付図2・3)

C西-d1西区では、基本層Ⅲ層上面(古代以降の遺構検出面)において、土坑1基を検出した。

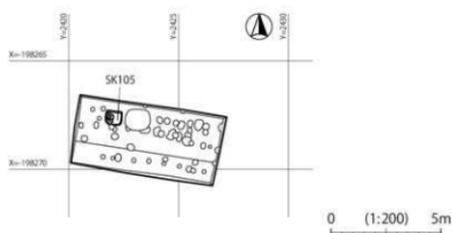
#### (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物(第173・174図、図版13)

##### 1) 土坑

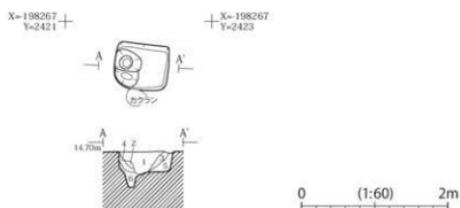
SK105土坑(第174図)調査区西側で検出した。P39と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸方形で、長軸方向はN-85°-Wである。規模は長軸74cm、短軸64cm、深さ50cmである。壁面は、やや外傾して立ち上がる。断面形はU字形で、底面の西側2ヶ所がビット状に落ち込む。堆積土は6層に分層された。遺物は出土していない。

##### (2) 遺構外出土遺物

土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。



第173図 富沢館跡C西-d1西区遺構配置図



遺構名	平面形	断面形状	方位	規模×埋藏(深さ)(m)
SK105	隅丸方形	U字形	N-85°-W	0.74×0.64×0.50

遺構名	層位	土色	土質	備考	遺構名	層位	土色	土質	備考
SK105	1	10YR4/3に近い黄褐色	シルト質砂	径2mmの磁石物を少量含む。	SK105	4	10YR4/2 黄褐色	シルト質砂	径5mmの黄褐色シルトホブブロックを多数、マンガンを含む。
	2	10YR5/1 黄褐色	シルト質砂	径3～20mmの黄褐色シルトブロックを多数、マンガンを含む。		5	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト質砂	径5～10mmの黄褐色シルトブロックを多数、マンガンを含む。
	3	10YR3/2 黄褐色	シルト質砂	径5mmの黄褐色シルトブロックを多数、マンガンを含む。		6	10YR4/1 黄褐色	シルト質砂	径5mmの黄褐色シルトブロックを多数、マンガンを含む。

第174図 SK105土坑平面図・断面図

## 16. C西-d2東区の調査(付図2・3)

C西-d2東区では、基本層Ⅲ層上面(古代以降の遺構検出面)において、土坑1基を検出した。

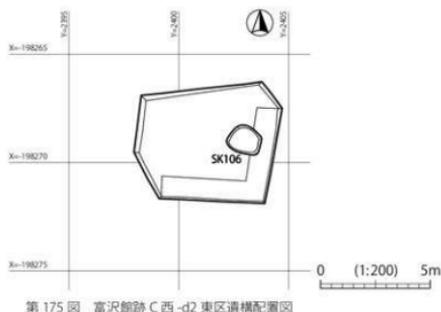
## (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物(第175・176図、図版13)

## 1) 土坑

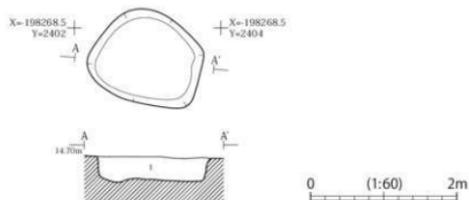
SK106土坑(第176図)調査区東側で検出した。平面形は不整形形で、長軸方向は $N-68^{\circ}-W$ である。規模は長軸147cm、短軸126cm、深さ35cmである。壁面は、やや外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや起伏する。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

## (2) 遺構外出土遺物

縄文土器片、土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。



第175図 富沢館跡C西-d2東区遺構配置図



第176図 SK106土坑平面図・断面図

遺構名	平面形	断面形	方位	長軸×短軸×深さ(m)	遺構名	積層	土色	土質	備考
SK106	不整形円	逆台形	N68°W	1.47×1.26×0.35	SK106	I	10YR6/3に高い黄褐色	砂質シルト	褐色砂質シルト・ロウ・黄褐色砂質シルト・ロウ・ロウ・粘土状土を順に含む。

## 17. C西-d2西区の調査(付図2・3)

C西-d2西区では、基本層Ⅲ層上面(古代以降の遺構検出面)において、性格不明遺構2基、ピット1基を検出した。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

## (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物(第177・178図、図版13)

## 1) 性格不明遺構

SK11性格不明遺構(第178図)調査区中央南側で検出した。南側は調査区外へ延びる。平面形は楕円形と考え

### 第3節 富沢館跡

られ、長軸方向はN-87°-Eである。規模は長軸183cm以上、短軸34cm以上、深さ11cmである。壁面は、外傾して立ち上がり、南壁は上位で大きく外傾する。断面形はU字形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。堆積土中より縄文土器片、土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

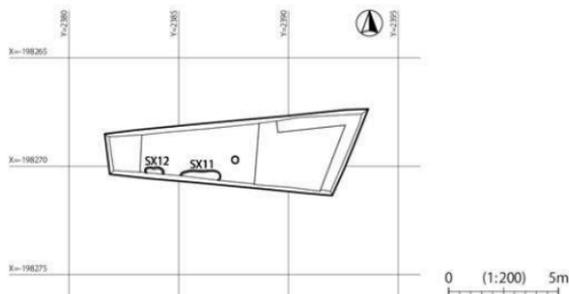
SX12 性格不明遺構(第178図) 調査区南西側で検出した。南側は調査区外へ延びる。平面形は不整楕円形と考えられ、長軸方向はN-85°-Eである。規模は長軸87cm、短軸25cm以上、深さ4cmである。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

#### 2) ビット(第177図)

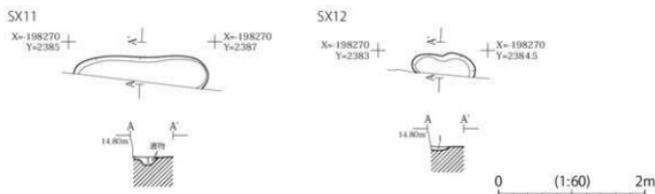
1 基のビットを検出した。調査区中央に位置する。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

#### (2) 遺構外出土遺物

土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。



第177図 富沢館跡 C西-d2 西区遺構配置図



遺構名	平面形	断面形	方位	長軸×短軸×深さ(m)	遺構名	平面形	断面形	方位	長軸×短軸×深さ(m)
SX11	楕円形	U字形	N 87° E	(183 × 34) × 0.11	SX12	不整形楕円形	皿形	N 85° E	(87 × 25) × 0.04

遺構名	層位	土色	土質	備考	遺構名	層位	土色	土質	備考
SX11	1	10YR 6/1 褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト・小フロック・径1~3mmの団粒物を多量、粗土・小フロックを少量含む。	SX12	1	10YR 6/4 暗褐色	砂質シルト	黒い・黒褐色砂質シルト・小フロック・腐植質を多量、径1~30mmの塊土・フロック・団粒物を多量に含む。

第178図 SX11・12 性格不明遺構平面図・断面図

## 18. C西-南区の調査(付図2・3)

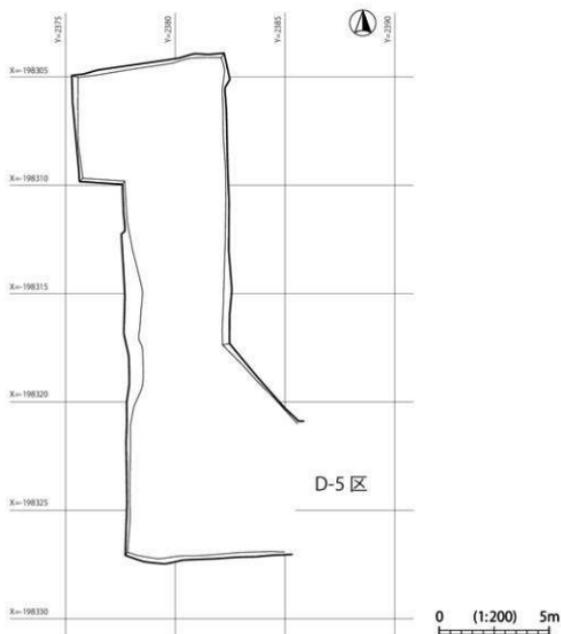
C西-南区は、D-5区西側に調査区を設定し調査を行ったが、基本層Ⅲ層上面(古代以降の遺構検出面)において、遺構は検出されなかった。

## (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物(第179図、図版13)

遺構は検出されていない。

## (2) 遺構外出土遺物

遺物は出土していない。



第179図 富沢館跡C西-南区遺構配置図

### 第3節 富沢館跡

#### 19. D-1 区の調査 (付図 2・3)

D-1 区では、基本層Ⅳc層上面(縄文時代後期以降の遺構検出面)において、竪穴住居跡1軒、竪穴遺構1基、土坑13基、堀跡2条、ピット2基を検出した。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

(1) Ⅳc層検出遺構と出土遺物(第180～200図、図版14～16・23～28)

##### 1) 竪穴住居跡

S19 竪穴住居跡(第181～185図、図版14～16・23～25)

[位置] 調査区西側に位置する。西側は調査区外へ延びる。

[重複関係] SK160と重複関係にあり、本遺構が新しい。

[規模・形態] 規模は東西305cm以上、南北407cmである。平面形は、残存状況から円形を呈すると考えられる。周溝・掘り方は検出されていない。

[主軸方位] 主軸方向はN-3°-Wである。

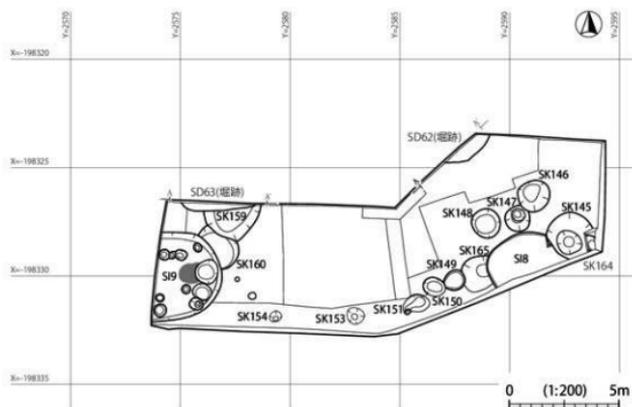
[堆積土] 11層に分層された。いずれも住居堆積土である。

[壁面] 床面から外傾して立ち上がる。壁高は床面から最大70cmである。

[床面] 基本層Ⅴ層上面を床面とし、わずかに起伏する。床面で火床面を検出した。住居跡の中央東寄りに位置する。被熱範囲の規模は長軸110cm、短軸95cm、深さ10cmである。

[柱穴] 床面で8基のピット(P1～8)を検出した。規模や位置関係から、P2・3・8は主柱穴の可能性はある。規模は長軸40～62cm、短軸36～55cm、深さ35～48cmである。平面形は円形で、断面形はU字形を呈する。いずれからも、柱痕跡は確認されていない。その他のピットの規模は、長軸29～55cm、短軸32～48cm、深さ5～19cmである。いずれからも、柱痕跡は確認されていない。

[その他の施設] 床面で2基の土坑(SK2・3)を検出した。SK2は遺構の東側に位置する。SK1と重複関係にあり、SK1より古い。平面形は不整形円で、規模は長軸112cm、短軸66cm、深さ39cmである。堆積土は3層に分層された。SK3は遺構の東側に位置する。P2と重複関係にあり、P2より古い。平面形は円形で、規模は長軸85cm、短



第180図 富沢館跡 D-1 区遺構配置図

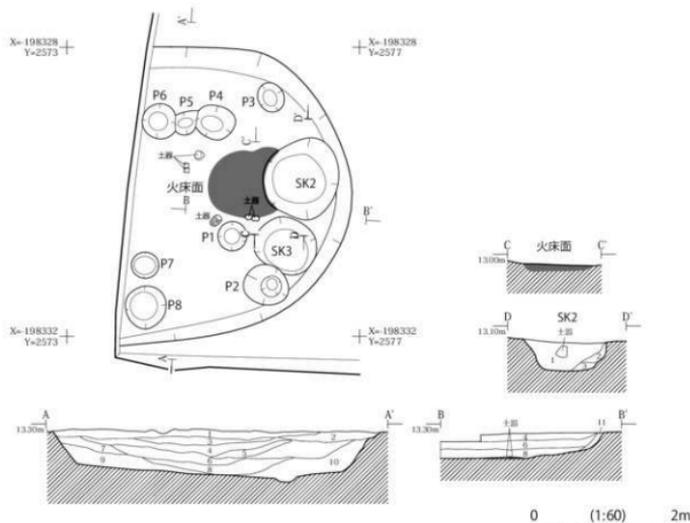
軸72cm、深さ23cmである。

[出土遺物] 住居堆積土、床面、SK2・3、P1～3から縄文土器、石器、土製品が出土しており、縄文土器18点、石器5点、土製品3点を図示した。そのうち、床面直上から出土した縄文土器深鉢(第182図1)、SK2から出土した縄文土器深鉢(第182図2)、石蔵(第185図4・5・6)は本住居跡に伴うことから、時期は縄文時代後期中葉頃と考えられる。

## 2) 竪穴遺構

S18 竪穴遺構(第186・187図、図版14・25)

[位置] 調査区東側に位置する。南側は調査区外へ延びる。



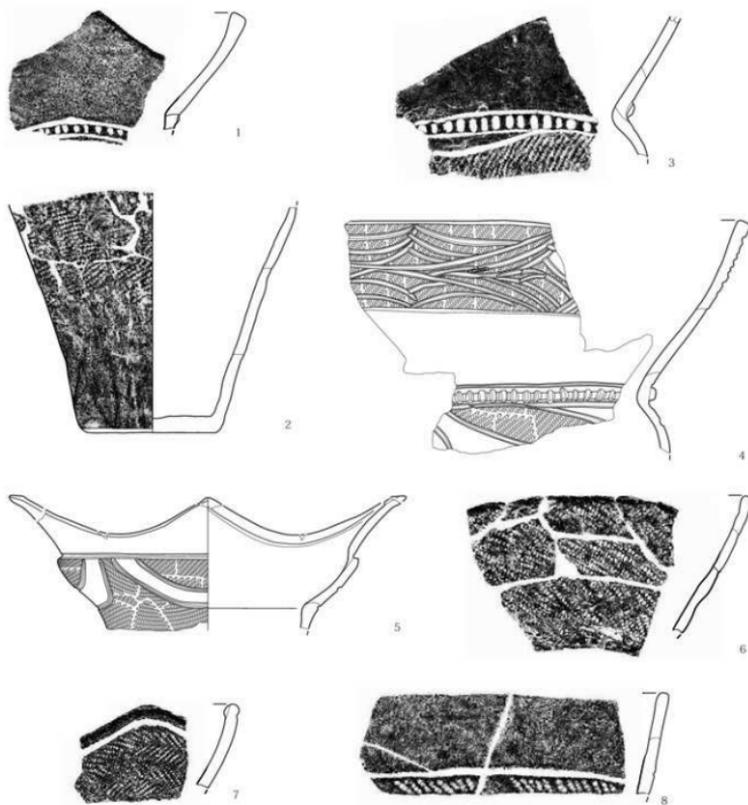
遺構名		平面図		方位		長軸・短軸・深さ (㎝)	
S18		円形	円形	北30°西		4.07 × (3.05) × 0.70	
P番号	平面図	断面図	長軸・短軸・深さ (㎝)		P・SK番号	平面図	断面図
P1	円形	U字形	0.45 × 0.58 × 0.05		P6	円形	U字形
P2	円形	U字形	0.62 × 0.53 × 0.48		P7	円形	U字形
P3	円形	U字形	0.40 × 0.36 × 0.35		P8	円形	U字形
P4	円形	U字形	0.53 × 0.47 × 0.15		SK2	半円形	U字形
P5	円形	U字形	0.29 × 0.32 × 0.08		SK3	円形	U字形
							0.85 × 0.72 × 0.23

遺構名・単位	土色	土性	備考	遺構名・単位	土色	土性	備考		
								層位	
S18	1	10YR4/2 黒褐色	砂質シルト	層10～20mmの黒褐色粘土質シルトブロック・同定物を少量含む。	S18	7	10YR4/3 濃い黄褐色	砂質シルト	暗褐色粘土質シルトブロック・層1～10mmの同定物を少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	層1～10mmの同定物を少量含む。		8	10YR4/2 黒褐色	砂質シルト	層1～10mmの同定物を少量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	褐色粘土質シルトブロックを多数、層1～10mmの同定物を少量含む。		9	10YR4/2 黒褐色	砂質シルト	層1～10mmの同定物を少量含む。
	4	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルトブロック・層1～10mmの同定物を少量含む。		10	10YR4/3 濃い黄褐色	細砂	
	5	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	同定物を少量含む。		11	10YR4/2 黒褐色	シルト	層20mmの隙を半量、マンガン粒を少量含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	同定物を少量含む。		SK2	1	10YR4/1 黒褐色	砂質シルト
				2	10YR4/3 濃い黄褐色		濃い黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。		
				3	10YR4/3 黒褐色		砂質シルト	層2～5mmの同定物を少量含む。	

第181図 S18竪穴住居跡平面図・断面図

第3節 富沢館跡

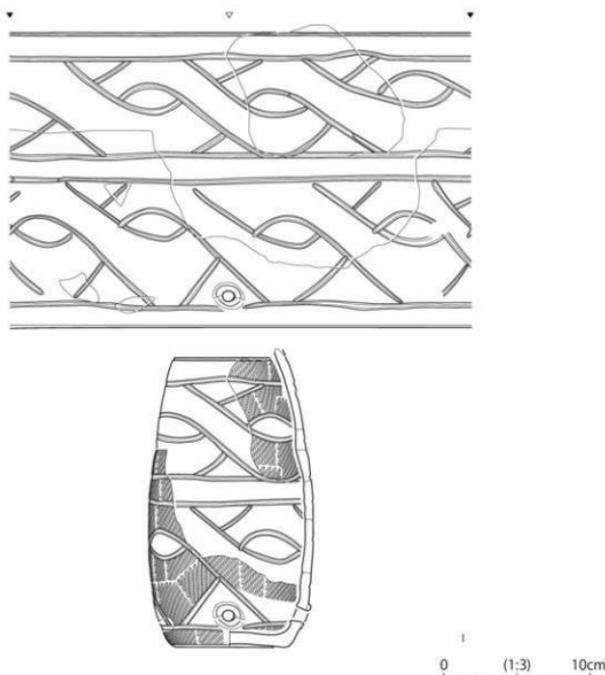


No.	登録番号	遺物名	部位	種類	図様	文様等		備考	写真図版
						外面	内面		
1	A.007	S9	柄取	縄文土器	浮線	外面：1.横線・高段1.横	文字等 無 内面：2.斜文・斜交文		23-19
2	A.001	S9K2	1	縄文土器	浮線	外面：無 内面：1.高段		内面中央部破	23-20
3	A.003	S9P2	1	縄文土器	浮線	外面：1.横線・2.高段 内面：1.高段	斜交文・斜交文・斜交文・斜交文		23-22
4	A.006	S9P2	1	縄文土器	浮線	外面：1.横線・1.高段 内面：1.高段	斜交文・斜交文・斜交文・斜交文		23-21
5	A.002	S9	4	縄文土器	浮線	外面：1.横線・高段1.横 内面：1.高段	斜交文・斜交文・斜交文・斜交文		23-23
6	A.004	S9	4	縄文土器	浮線	外面：1.横線・高段1.横 内面：1.高段			23-24
7	A.005	S9	4	縄文土器	浮線	外面：1.横線・高段1.横 内面：1.高段			24-1
8	A.008	S9	6	縄文土器	浮線	外面：1.横線・2.高段 内面：1.高段		内面中央部破	24-2

第182図 S19 竪穴住居跡出土遺物(1)



第3節 富沢館跡



No.	登録番号	遺体名	時代	種別	器種	土壌等		備考	写真図版
						外面・断面・底面：1段縄文 2段縄文	内面・断面・底面：1段縄文		
1	A010	S9	縄文	縄文土器	片貝付蓋	外面・断面・底面：1段縄文 2段縄文	内面・断面・底面：1段縄文		249

第184図 S9 竪穴住居跡出土遺物(3)

[重複関係] SK145・165と重複関係にあり、SK165より新しく、SK145より古い。

[規模・形態] 規模は東西375cm以上、南北194cm以上である。平面形は、残存状況から不整円形を呈すると考えられる。柱穴・周溝・炉跡・掘り方は検出されていない。

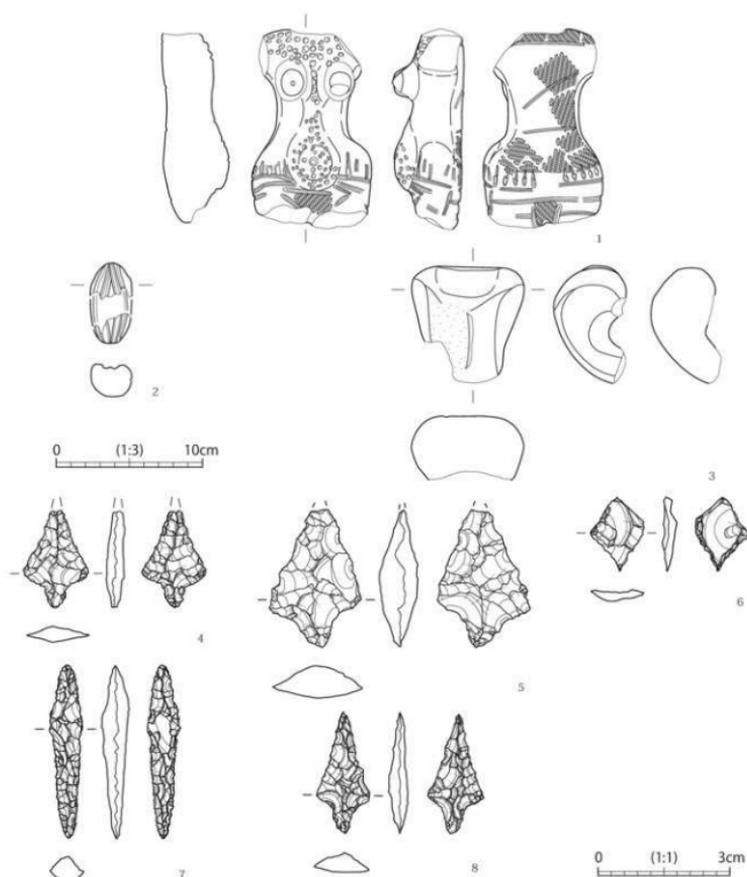
[主軸方位] 長軸方向でN-22°-Wである。

[堆積土・構築土] 9層に分層された。1～9層は遺構堆積土である。

[壁面] 床面から緩やかに外傾して立ち上がる。壁高は床面から最大66cmである。

[床面] 基本層V層上面を床面とし、起伏する。

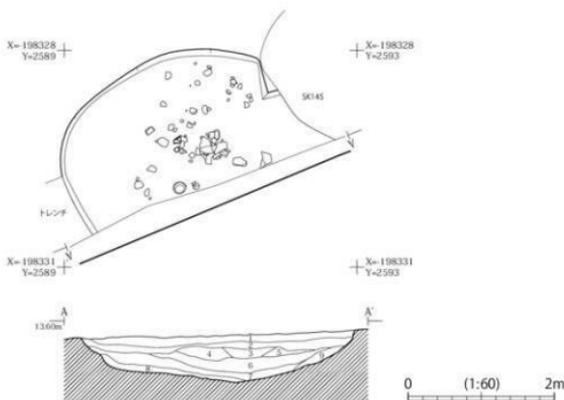
[出土遺物] 堆積土から縄文土器、土師器、石器、石製品、金属製品、骨片が出土しており、縄文土器4点、石器1点を図示した。深鉢(第187図1・2)、小型壺(第187図4)から、時期は縄文時代後期中葉頃と考えられる。



No.	登録番号	遺跡名	MID	種類	品類	石種	長さ×幅×厚さ(mm)		重量(g)	製法・形状・用途	写真掲載
							長さ	幅			
1	P-003	S19	6	土製品	土器		併2	5.5 × 3.3	134.44	土器 胴部・約交文・斜目文・浅彫文・縄・織文・菊・菊文・菊部 胴部・斜・織文・斜目文・浅彫文・注線文・「自由中心模様」	25.5
2	P-002	SD-5K2	1	土製品	スランブ型 土製品		(3.7)	1.9 × 1.5	66.30	注線	25.2
3	P-001	S19	6	土製品	平皿・土製品		(5.3)	5.1 × 13.3	698.37	十字	25.3
No.	登録番号	遺跡名	MID	種類	品類	石種	長さ×幅×厚さ(mm)		重量(g)	製法	写真掲載
4	Ka-001	SD-5K2	1	打製石器	石鏃	珪石	(2.2)	1.5 × 0.4	40.80	有糸跡、先端部欠損。	24-13
5	Ka-014	SD-5K2	1	打製石器	石鏃	珪石	(3.2)	2.1 × 0.9	13.50	有糸跡、先端部欠損、未成刃。	24-15
6	Ka-008	SD-5K2	1	打製石器	石鏃	珪石	2.8	1.8 × 0.5	1.41	無糸付跡物有り。	24-14
7	Ka-004	S19	1	打製石器	石鏃	珪石	6.0	1.1 × 0.4	4.22		24-16
8	Ka-002	S19	6	打製石器	石鏃	珪石	2.8	1.25 × 0.4	0.87	有糸跡。	25-1

第185図 S19 竪穴住居跡出土遺物(4)

### 第3節 富沢館跡



遺構名		平面図	方位	規模・傾斜・深さ (m)	
S18		不整形円形	N 22° 30'	0.73 × (1.94 × 0.66)	

遺構名	層位	土色	土性	備考	遺構名	層位	土色	土性	備考
S18	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	径 10mm の褐色シルトブロック・径 3~5mm の褐色土を少量含む。	S18	5	10YR3/4 黒褐色	シルト	径 5mm の褐色シルトブロックを少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	径 3~5mm の褐色シルトブロックを少量。径 5mm の褐色シルトブロックを少量含む。		6	10YR3/3 灰黄褐色	シルト	径 5mm の褐色土質砂質シルトブロックを少量。径 5mm の暗褐色土質砂質シルトブロックを少量含む。
	3	10YR4/6 褐色	砂質シルト	径 3~5mm の褐色シルトブロックを少量含む。		7	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色土質砂質シルトブロックを少量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	褐色土質砂質シルトブロック・褐色土を少量含む。		8	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	褐色土質砂質シルトブロックを少量含む。
					9	10YR3/1 暗褐色	砂質シルト	砂を少量、マンガン・鉄を少量含む。	

第186図 S18 竪穴住居跡平面図・断面図

### 3) 土坑

SK145 土坑 (第188~190図、図版15・25・26) 調査区東側で検出した。南側は調査区外へ延びる。遺構南側の上部はトレンチにより削平される。S18、SK164と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形円形と考えられ、長軸方向はN-37°-Wである。規模は長軸200cm以上、短軸197cm以上、深さ51cmである。壁面は緩やかに外傾して立ち上がり、角度が変わる部分がある。断面形は逆台形で、底面は中央が凹む。堆積土は2層に分層された。遺物は縄文土器、石器が出土しており、1層から出土した深鉢3点(第189図1~3)・注口土器1点(第189図5)、2層から出土した壺1点(第190図1)・小型鉢1点(第189図4)を図示した。

SK146 土坑 (第188図、図版15) 調査区東側で検出した。SK147と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形円形、長軸方向はN-73°-Eである。規模は長軸146cm、短軸142cm、深さ43cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は丸みを持つ。堆積土は2層に分層された。堆積土中より縄文土器片、石器が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK147 土坑 (第188・192図、図版15・26) 調査区東側で検出した。SK146と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形円形、長軸方向はN-10°-Wである。規模は長軸118cm、短軸112cm、深さ15cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は起伏する。堆積土は2層に分層された。堆積土中より縄文土器、石器が出土しており、1層から出土した注口土器1点(第192図1)を図示した。

SK148 土坑 (第188図) 調査区東側で検出した。平面形は不整形円形、長軸方向はN-12°-Wである。規模は長軸137cm、短軸128cm、深さ50cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。堆積土中より縄文土器片、石器が出土しているが、図示できる遺物はない。



### 第3節 富沢館跡

SK149 土坑 (第 188 図) 調査区中央南東側で検出した。遺構南側の上部はトレンチにより削平される。SK150・165 と重複関係にあり、SK165 より新しく、SK150 より古い。平面形は不整形円で、長軸方向は N-35°-E である。規模は長軸 101cm 以上、短軸 90cm、深さ 10cm である。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は起伏する。堆積土は単層である。堆積土中より縄文土器片、石器、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK150 土坑 (第 188 図) 調査区中央南東側で検出した。遺構南側の上部はトレンチにより削平される。SK149 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形円形と考えられ、長軸方向は N-65°-W である。規模は長軸 102cm、短軸 83cm、深さ 10cm である。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は皿形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK151 土坑 (第 188 図) 調査区中央南東側で検出した。遺構南側の上部はトレンチにより削平される。平面形は不整形円で、長軸方向は N-70°-E である。規模は長軸 123cm、短軸 84cm、深さ 27cm である。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がり、西壁は外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は丸みを持つ。堆積土は単層である。堆積土中より縄文土器片、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK153 土坑 (第 188 図) 調査区中央南西側で検出した。遺構の上部はトレンチにより削平される。平面形は不整形円形で、長軸方向は N-75°-E である。規模は長軸 78cm、短軸 77cm、深さ 32cm である。壁面は外傾して立ち上がり、角度が変わる部分がある。断面形は U 字形で、底面は丸みを持つ。堆積土は単層である。堆積土中より縄文土器片、礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

SK154 土坑 (第 191 図) 調査区南西側で検出した。遺構の上部はトレンチにより削平される。平面形は不整形円形で、長軸方向は N-87°-E である。規模は長軸 54cm、短軸 51cm、深さ 9cm である。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は U 字形で、底面は起伏する。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK159 土坑 (第 191・193 図、図版 26) 調査区北西側で検出した。北側は調査区外へ延びる。SK160、SD63 と重複関係にあり、SK160 より新しく、SD63 より古い。平面形は不整形形と考えられ、規模は南北 161cm 以上、東西 252cm 以上、深さ 28cm である。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや起伏する。堆積土は単層である。遺物は縄文土器、石器が出土しており、堆積土 1 層から出土した縄文土器深鉢 2 点 (第 193 図 1・2)・壺 1 点 (第 193 図 3) を図示した。

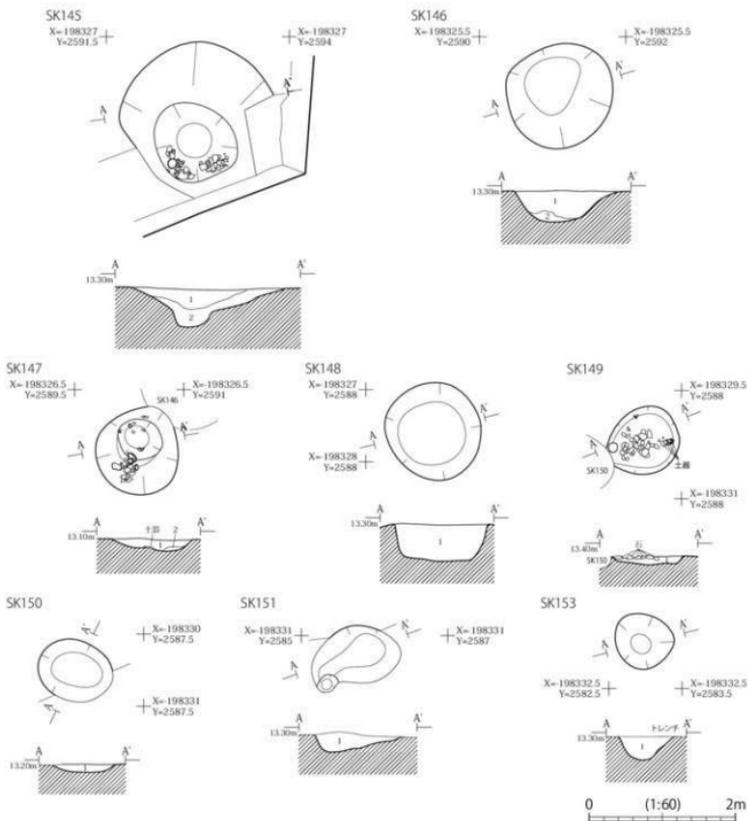
SK160 土坑 (第 191・194 図、図版 15・26) 調査区西側で検出した。S19、SK159 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形と考えられ、長軸方向は N-37°-W である。規模は長軸 211cm、短軸 95cm 以上、深さ 25cm である。壁面は、緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は起伏する。堆積土は単層である。遺物は縄文土器、石器が出土しており、1 層から出土した縄文土器深鉢 2 点 (第 194 図 1・2) を図示した。

SK164 土坑 (第 191・195 図、図版 15・26) 調査区南東側で検出した。SK145 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形形と考えられるが詳細は不明である。規模は長軸 66cm 以上、短軸 42cm 以上、深さ 70cm である。壁面は、外傾して立ち上がり、上位で大きく外傾する。断面形は逆台形で、底面はやや起伏する。堆積土は 3 層に分層された。遺物は縄文土器、石器が出土しており、1 層から出土した縄文土器深鉢 1 点 (第 195 図 1) を図示した。

SK165 土坑 (第 191・196 図、図版 26) 調査区南東側で検出した。S18、SK149 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形形と考えられ、長軸方向は N-71°-E である。規模は長軸 175cm 以上、短軸 153cm 以上、深さ 62cm である。壁面は、外傾して立ち上がり、北壁は中位に段を持つ。断面形は U 字形で、底面は丸みを持つ。堆積土は 3 層に分層された。遺物は縄文土器が出土しており、1 層から出土した縄文土器深鉢 2 点 (第 196 図 1・2) を図示した。

#### 4) 堀跡

SD62 堀跡 (第 180・197 図、図版 14) 調査区北側で遺構の一部を検出した。検出状況から、西から東へと延び



遺構名	平面形	断面形	方位	直径×軸長×深さ(m)	遺構名	平面形	断面形	方位	直径×軸長×深さ(m)
SK143	半円形	逆円形	N 37° W	(2.00 × 0.87) × 0.51	SK149	半円形	逆円形	N 35° E	(1.01 × 0.90) × 0.10
SK146	半円形	逆円形	N 73° E	1.46 × 1.42 × 0.43	SK150	半円形	逆円形	N 65° W	(1.02 × 0.83) × 0.10
SK147	半円形	逆円形	N 10° W	1.19 × 1.12 × 0.15	SK151	半円形	逆円形	N 70° E	(1.23 × 0.84) × 0.27
SK148	半円形	逆円形	N 12° W	1.37 × 1.28 × 0.50	SK153	半円形	逆円形	N 75° E	0.78 × 0.77 × 0.32

遺構名	積層	土物	土物	備考	遺構名	積層	土物	土物	備考
SK145	1	10YK3/1 黒褐色	粘土質シルト	径5～10mmの陶片・シルトブロックを少量、炭化物を含む。	SK148	1	10YK3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭褐色粘土質シルトブロックを少量、炭化物を含む。
	2	10YK3/2 黒褐色	粘土質シルト	径5～10mmの陶片・シルトブロック・炭化物を少量含む。	SK149	1	10YK3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭褐色粘土質シルトブロックを少量、径50mmの浮腫を含む。
SK146	1	10YK2/3 黒褐色	粘土質シルト	炭褐色粘土質シルトブロックを少量、炭化物を含む。	SK150	1	10YK3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭褐色粘土質シルトブロックを少量、炭化物を含む。
	2	10YK4/4 黒褐色	粘土質シルト	炭褐色粘土質シルトブロックを少量、炭化物を含む。	SK151	1	10YK2/3 黒褐色	粘土質シルト	炭褐色粘土質シルトブロックを少量、炭化物を含む。
SK147	1	10YK3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭褐色粘土質シルトブロックを少量、炭化物を含む。	SK153	1	10YK3/2 黒褐色	砂質シルト	炭褐色粘土質シルトブロックを少量、炭化物を含む。
	2	10YK4/4 黒褐色	粘土質シルト	炭褐色粘土質シルトブロックを少量、炭化物を含む。					

第188図 SK145～151・153土坑平面図・断面図

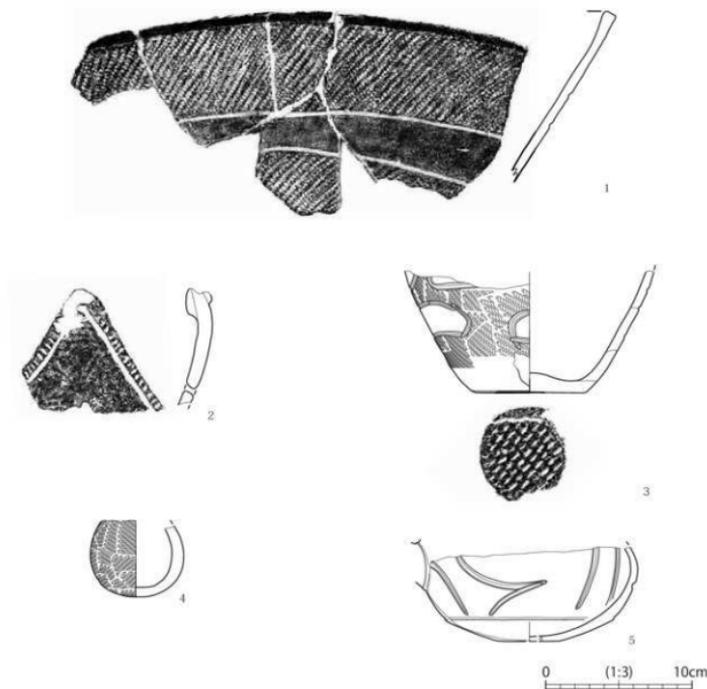
### 第3節 富沢館跡

北へと曲がる角の部分と考えられる。方向は不明で、規模は長さ 320cm以上、幅 65cm以上、深さ 20cm以上である。断面形は逆台形と考えられる。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD63 堀跡 (第 180・197 図、図版 15) 調査区北西側で遺構の一部を検出した。検出状況から、北から東へと曲がる角の部分と考えられる。方向は不明で、規模は長さ 365cm以上、幅 35cm以上、深さ 50cm以上である。断面形は逆台形と考えられる。堆積土は 2 層に分層された。遺物は出土していない。

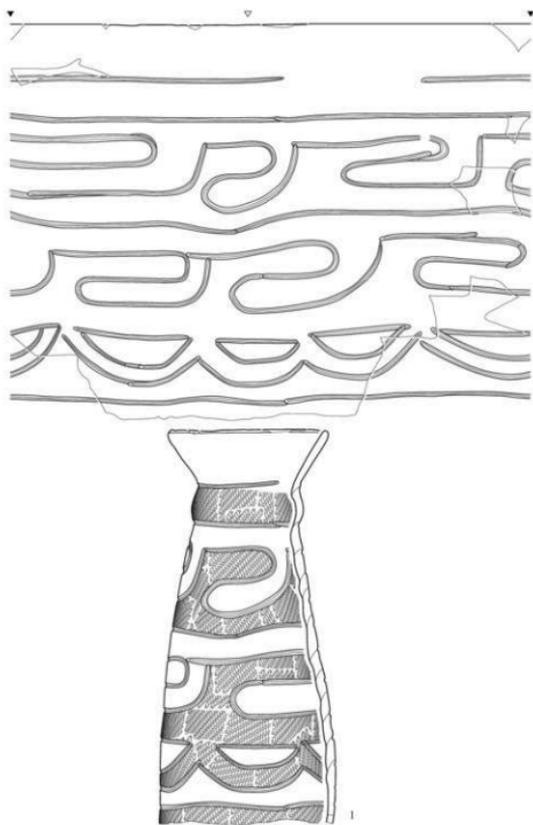
#### 5) ビット (第 180 図)

2 基のビットを検出した。調査区西側に位置する。堆積土中より縄文土器片が出土しているが、図示できる遺物はない。



No.	発見番号	遺物名	形状	材質	用途	土層等	備考	写真掲載
1	A-019	SK145	1	縄文土器	深鉢	外周：1層部；1層部文、輪部：1層部文、内周：2層部文、内底：2層部文		25-11
2	A-023	SK145	1	縄文土器	深鉢	外周：1層部；斜目文、深鉢文、1層部文、2層部文、内底：2層部文	厚さ1.5cm、破成残存品。	25-10
3	A-022	SK145	1	縄文土器	深鉢	外周：輪部；斜目文(非連続文)、深鉢文、内底：2層部文、内周：輪部；斜目文、内底：輪部；斜目文		25-12
4	A-024	SK145	2	縄文土器	小笠鉢	外周：輪部；斜目文、1層部文、内底：輪部；斜目文		26-2
5	A-021	SK145	1	縄文土器	片111型	外周：輪部；斜目文、2層部文、内底：輪部；斜目文		26-3

第 189 図 SK145 土坑出土遺物 (1)



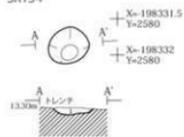
0 (1:3) 10cm

No.	登録番号	遺跡名	期別	種別	器種	土層等		備考	写真ID等	
						内面	外面			
1	A-020	SK145	2	縄文土器	壺	内面	1360層：E-01中 編年 18層 18層文 注脚 235面	内面	1360層：E-01中 編年 18層	26.1

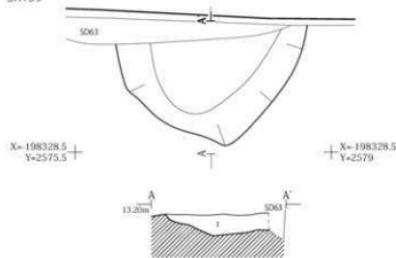
第190図 SK145土坑出土遺物(2)

### 第3節 富沢館跡

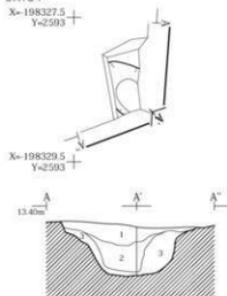
SK154



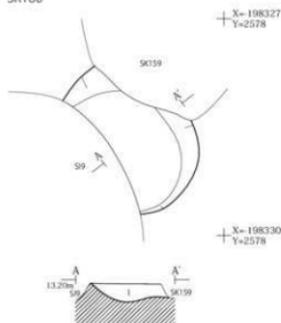
SK159



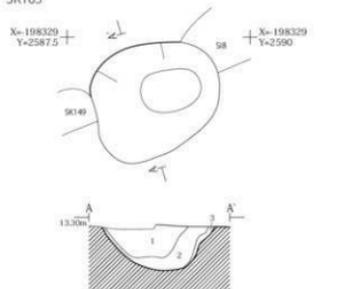
SK164



SK160



SK165



0 (1:60) 2m

遺跡名	平面形	断面形	方位	径輪×距離×深さ (m)	遺跡名	平面形	断面形	方位	径輪×距離×深さ (m)
SK154	円形	U字形	N 87° E	0.54 × 0.51 × 0.06	SK164	円形	逆U形	-	0.66 × 0.42 × 0.70
SK159	半圓形	逆U形	-	(1.01) × (2.52) × 0.28	SK165	半圓形	U字形	N 71° E	(1.75) × (1.53) × 0.62
SK160	逆U形	逆U形	N 27° W	2.11 × 0.92 × 0.25					

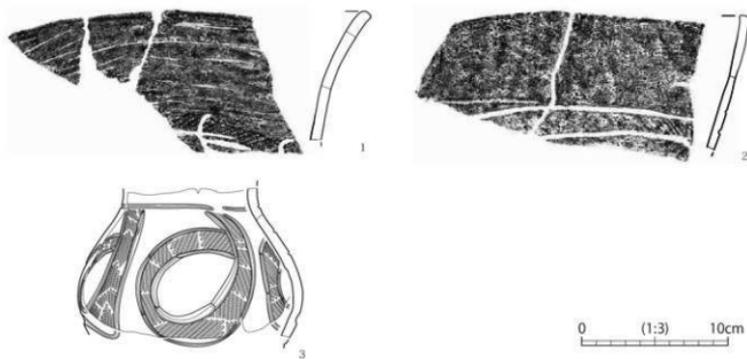
遺跡名	積位	土色	土層	備考	遺跡名	積位	土色	土層	備考
SK154	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	灰黄色粘土質シルトブロックを少量、灰白色を含む。	SK165	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	灰褐色砂質シルトブロックを多量、灰黄色砂質シルトブロック・明褐色砂質シルト小ブロックを少量含む。
SK159	1	10YR3/1 黄褐色	砂質シルト	径5～10mmの粘土質シルトブロックを少量、腐植物を含む。		2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルトブロックを少量含む。
SK160	1	10YR3/1 黄褐色	砂質シルト	径5～10mmの粘土質シルトブロックを少量、腐植物を含む。		3	10YR5/9 黄褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト小ブロックを少量含む。
SK164	1	10YR4/2 灰褐色	砂質シルト	径30mmの腐植体砂質シルトブロックを含む。					
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	径10mmの腐植体シルトブロックを含む。径3～5mmの腐植体を少量含む。					
SK160	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	暗褐色砂質シルトブロックを少量含む。					

第191図 SK154・159・160・164・165 土坑平面図・断面図



№	登録番号	遺物名	時代	種類	形状	土層等	備考	写真掲載
1	A-056	SK147	I	縄文土器	片断	内面・土層部：土器半 沈殿文 内面・土層部：十字	穿孔4ヶ所。造成既穿孔。本彩を施すに似る。	26.4

第192図 SK147 土坑出土遺物



№	登録番号	遺物名	時代	種類	形状	土層等	備考	写真掲載
1	A-027	SK159	I	縄文土器	深鉢	内面・土層部：土器半 胴部土及縄文 沈殿文 内面・土器半		26.5
2	A-028	SK159	I	縄文土器	深鉢	内面・土層部：土器半 胴部土及縄文 沈殿文 内面・土層部-胴部：土器半		26.6
3	A-029	SK159	I	縄文土器	甕	内面・土層部：土器半 沈殿文 胴部土及縄文 沈殿文+内面 内面・胴部-胴部：十字		26.7

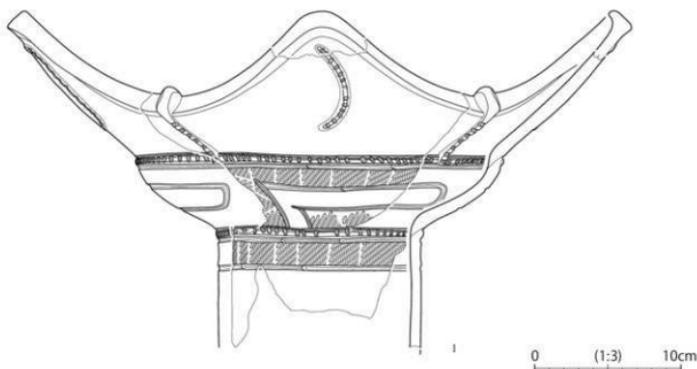
第193図 SK159 土坑出土遺物



№	登録番号	遺物名	時代	種類	形状	土層等	備考	写真掲載
1	A-033	SK160	I	縄文土器	深鉢	内面・土層部：土器半 胴部土及縄文 内面・土器半		26.8
2	A-034	SK160	I	縄文土器	深鉢	内面・土層部：土器半 胴部土及縄文 内面・土層部-胴部：土器半	内面土層部剥離。	26.9

第194図 SK160 土坑出土遺物

第3節 富沢館跡



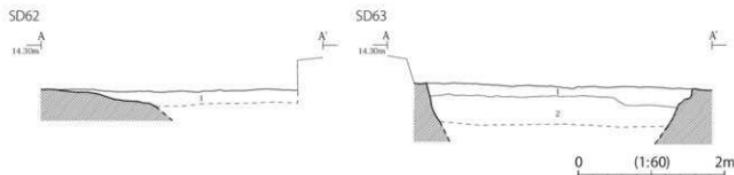
№	図録番号	遺構名	単位	種類	図種	文様等	備考	写真図版
1	A.030	SK164	1	縄文土器	透鉢	内面：1編部1底面1縁部小突起 透脚文 包目2 編部1縁部文 透脚編文 包目文 透脚文外周 内面：1編部1縁部2突起		26-12

第195図 SK164 土坑出土遺物



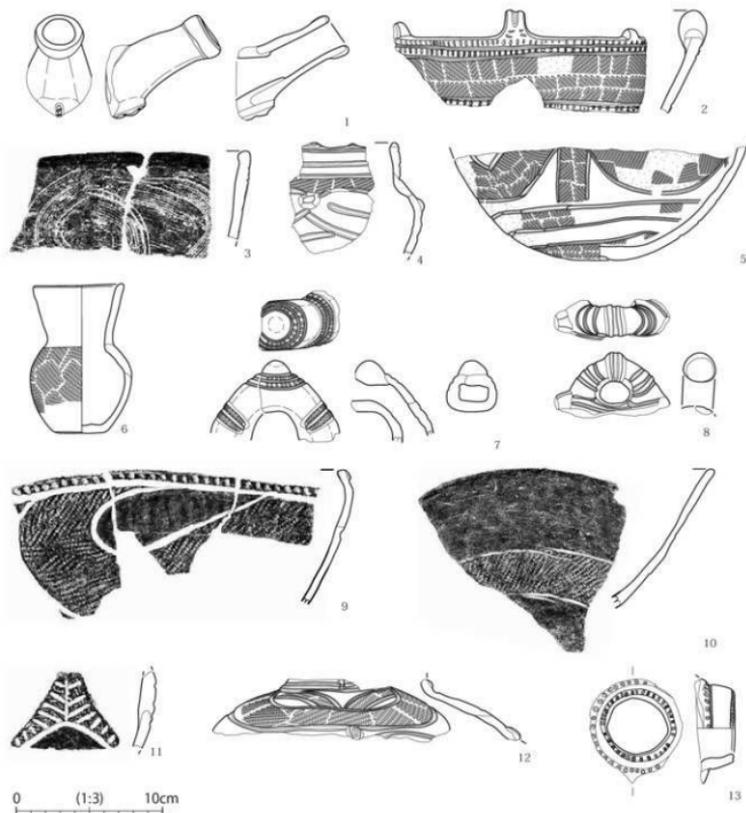
№	図録番号	遺構名	単位	種類	図種	文様等	備考	写真図版
1	A.032	SK165	1	縄文土器	透鉢	内面：1編部2底面2透脚文 編部1縁部文 内面 包目等	内面中央部破	26-11
2	A.035	SK165	1	縄文土器	透鉢	内面：編部1縁部文 内面 編部2突起	縁部1×底、中央部破	26-10

第196図 SK165 土坑出土遺物



遺構名	平面図	断面図	方位	長さ×幅×深さ(m)	遺構名	平面図	断面図	方位	長さ×幅×深さ(m)
SD62	平面図	断面図		03.200 × 03.050 × 03.200	SD63	平面図	断面図		03.050 × 03.350 × 03.500
遺構名・単位	土器	土器	編部		遺構名・単位	土器	土器	編部	
SD62 1	10YR2/3 黒褐色	シルト	に濃い黄褐色砂質シルトブロック・図化物を少量含む。		SD63 1	10YR2/3 黒褐色	シルト	に濃い黄褐色砂質シルトブロック・図化物を少量含む。	
					SD63 2	10YR2/3 黒褐色	シルト	図 5mmの褐色砂質シルト小ブロックを散見、マシン粉を含む。	

第197図 SD62・63 掘跡断面図



№	登録番号	遺物名	形状	種類	文様等	備考	写真掲載
1	A.038	-	円口	織文土器	内面：白土器；外縁部：黒目文；底面：白土器；十字		28.6
2	A.044	-	円口	織文土器	外周：1線部；内縁部：黒目文；底面：小穴部；1線部；黒目文；内面：白土器；十字		28-13
3	A.032	-	円口	織文土器	外周：1線部；黒目文；内縁部：黒目文；底面：白土器；十字		27.1
4	A.030	-	円口	織文土器	外周：1線部；黒目文；内縁部：黒目文；底面：白土器；十字		28-3
5	A.051	-	円口	織文土器	外周：1線部；黒目文；内縁部：黒目文；底面：白土器；十字		28.5
6	A.043	-	円口	織文土器	外周：1線部；黒目文；内縁部：黒目文；底面：白土器；十字		28.4
7	A.037	-	円口	織文土器	外周：1線部；黒目文；内縁部：黒目文；底面：白土器；十字		28.8
8	A.026	-	円口	織文土器	外周：1線部；黒目文；内縁部：黒目文；底面：白土器；十字		28.9
9	A.046	-	円口	織文土器	外周：1線部；黒目文；内縁部：黒目文；底面：白土器；十字		28-14
10	A.048	-	円口	織文土器	外周：1線部；黒目文；内縁部：黒目文；底面：白土器；十字		28-1
11	A.031	-	円口	織文土器	外周：1線部；黒目文；内縁部：黒目文；底面：白土器；十字		27.2
12	A.047	-	円口	織文土器	外周：1線部；黒目文；内縁部：黒目文；底面：白土器；十字		28.2
13	A.049	-	円口	織文土器	外周：1線部；黒目文；内縁部：黒目文；底面：白土器；十字		28.7

第198図 遺構外出土遺物(1)

### 第3節 富沢館跡

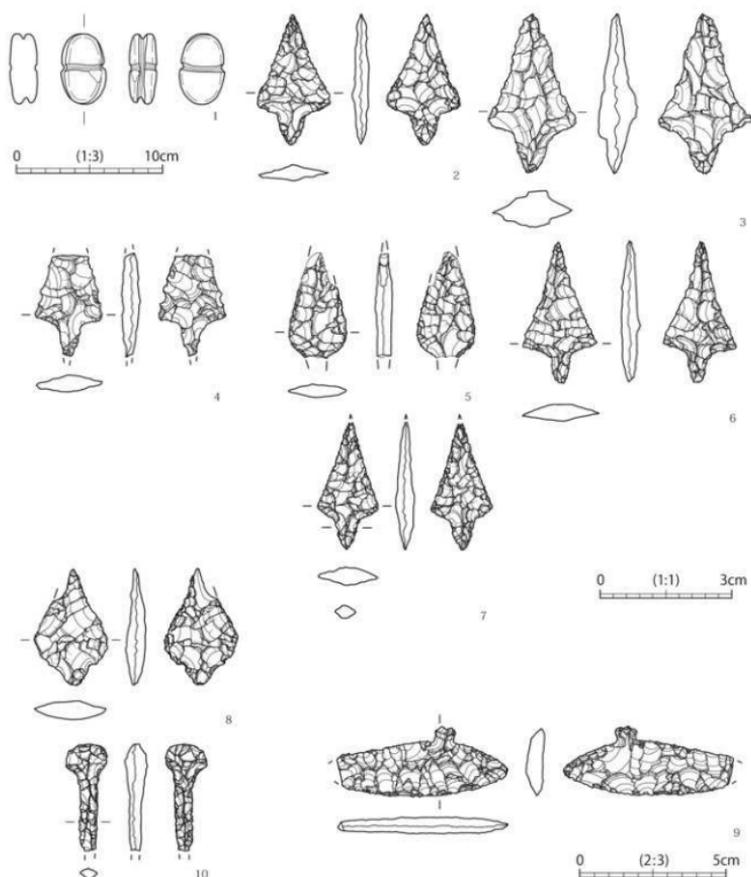
#### (2) 遺構外出土遺物 (第198～200図、図版26～28)

縄文土器、石器、鉈滓、礫が出土しており、IV c1層から出土した注口土器1点(第198図1)、石鏃1点(第200図2)、石匙1点(第200図9)、IV c2層から出土した深鉢1点(第198図2)、石鏃3点(第200図3～5)、IV c3層から出土した深鉢1点(第198図3)、小型鉢1点(第198図4)、注口土器1点(第198図5)、小型壺1点(第198図6)、環状把手1点(第198図7)、環状突起1点(第198図8)、石鏃2点(第200図6・8)、IV c層から出土した深鉢3点(第198図9～11)、壺1点(第198図12)、異形土器1点(第198図13)、土錘1点(第200図1)、石鏃1点(第200図7)、石錐1点(第200図10)を図示した。



No.	発掘番号	遺構名	期別	構造	形状	文様等	備考	写真掲載
1	A-042		IV c1	縄文土器	深鉢	内面：1編部-底部：1段縄文 内面：1編部-底部：3段+		27.3

第199図 遺構外出土遺物(2)



No.	登録番号	遺構名	期	種類	用途	材質	長さ×幅×厚さ (mm)	重量 (g)	形状・遺物・部位	写真図版
1	P-004	---	Ⅱc	土製土	土著	---	3.3 × 2.0 × 2.3	7.77	正面・横目(1)平視、背面・横目(1)平視、断面(1)	29-1
2	Ka-005	---	Ⅱc	打製石	石鏃	石核	3.0 × 1.6 × 0.4	1.03	右先端、	28-11
3	Ka-009	---	Ⅱc2	打製石	石鏃	石核	3.7 × 2.0 × 0.9	2.51	右先端、未成形	28-10
4	Ka-007	---	Ⅱc2	打製石	石鏃	石核	3.2(3) × 1.5 × 0.4	1.2(1)	右先端、先端部・基部欠損	28-13
5	Ka-006	---	Ⅱc2	打製石	石鏃	石核	3.2(3) × 1.2 × 0.3	1.1(4)	右先端、先端部・基部欠損	28-14
6	Ka-011	---	Ⅱc3	打製石	石鏃	玉髄	3.3 × 1.7 × 0.5	1.11	右先端、	28-15
7	Ka-012	---	Ⅱc	打製石	石鏃	石核	3.2(9) × 1.4 × 0.45	0.900	先端部欠損	28-12
8	Ka-013	---	Ⅱc3	打製石	石鏃	石核	4.0 × 2.0 × 0.8	4.63	右先端、左先端部欠損	28-16
9	Ka-019	---	Ⅱc1	打製石	石鏃	石核	2.4 × 1.5(8) × 0.6	0.340	左側先端部欠損	28-18
10	Ka-010	---	Ⅱc	打製石	石鏃	燧石片	3.7(7) × 1.4 × 0.7	2.2(1)	先端部欠損、先端部欠損	28-17

第200図 遺構外出土遺物(3)

### 第3節 富沢館跡

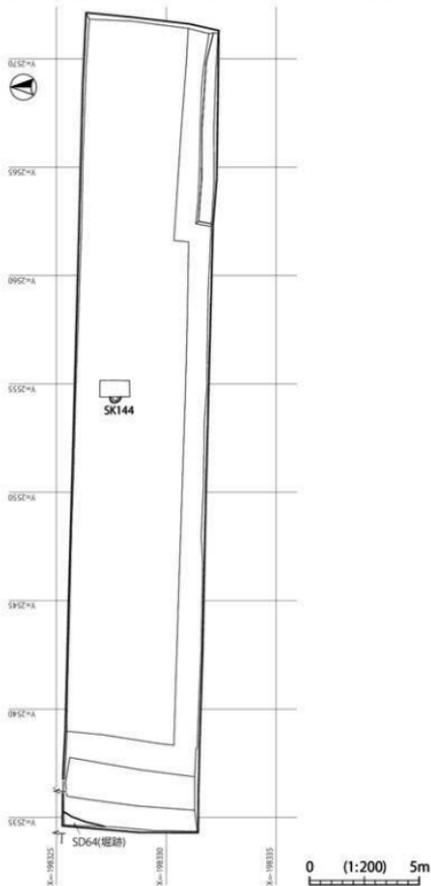
#### 20. D-2 区の調査

D-2区では、基本層V層上面(縄文時代後期以降の遺構検出面)において、土坑1基、堀跡1条を検出した。

(1) V層検出遺構と出土遺物(第201～206図、図版16・29・30)

##### 1) 土坑

SK144土坑(第202・203図、図版16・29)調査区中央で検出した。遺構東側はトレンチにより削平される。平面形は不明で、長軸方向はN-0°である。規模は長軸50cm、短軸27cm、深さ18cmである。壁面は、外傾して立ち

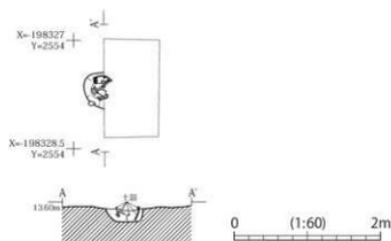


第201図 富沢館跡 D-2区遺構配置図

上がる。断面形はU字形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は縄文土器、石製品が出土しており、堆積土から出土した深鉢1点(第203図1)、鉢1点(第203図2)を図示した。埋設土器遺構の可能性ある。

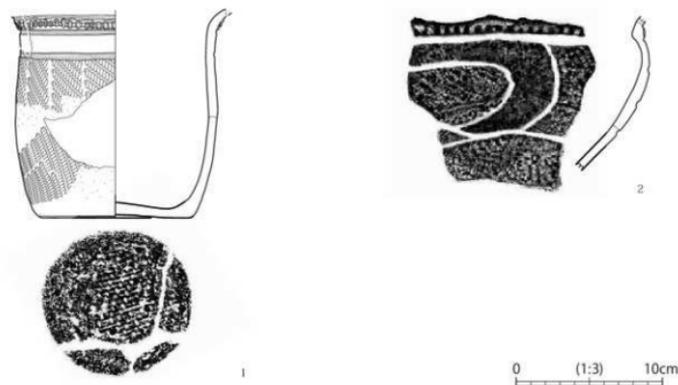
## 2) 堀跡

SD64堀跡(第201・204図、図版16)調査区北西側で遺構の一部を検出した。南北方向の堀跡で、両端および西側の大部分は調査区外へ延びる。方向は不明で、規模は長さ190cm以上、幅55cm以上、深さ60cm以上である。堆積土は単層である。堆積土中より縄文土器片、石製品が出土しているが、図示できる遺物はない。



遺構名	平面図	断面図	方位	寸法	遺構×距離×深さ(m)	遺構名	種類	土色	土質	備考
SK144	不明	U字形	30°		0.50 × 0.27 × 0.10	SK144	1	10YR3/4 粘褐色	砂質シルト	褐色砂質シルト(ロウソク)層1~5mmの褐色物を 全て除去。

第202図 SK144土坑平面図・断面図



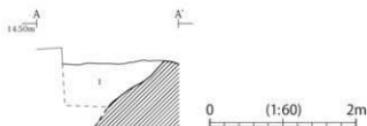
No.	図録番号	遺構名	種別	図録	文様等	備考	写真枚数	
1	A-025	SK144	1	縄文土器	深鉢	外底：刷部一底面：磨汰刷、土器片、沈殿文、刷文文、刷、刷文、刷部：刷部刷、内底：刷部一底面：土器片 内底：刷部一刷文文、刷部：刷、刷文、沈殿文区域、内底：1刷部一刷部：土器片	内底面磨滅部なし。	29.2
2	A-026	SK144	1	縄文土器	鉢			29.3

第203図 SK144土坑出土遺物

### 第3節 富沢館跡

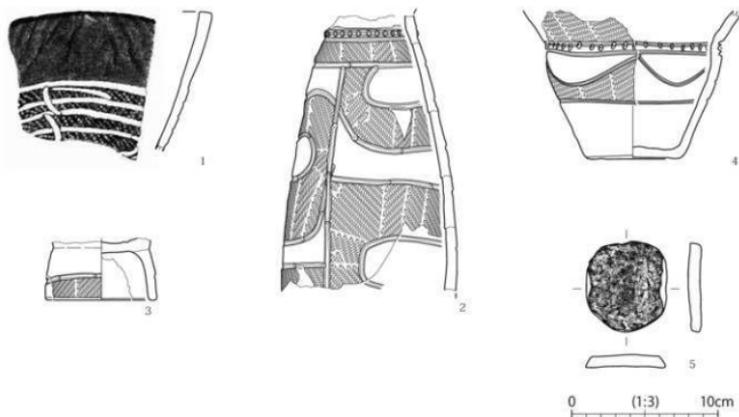
#### (2) 遺構外出土遺物 (第205・206、図版29・30)

縄文土器、土師器片、石器、石製品、土製品、骨片が出土しており、IV c1層から出土した縄文土器深鉢1点(第205図1)、壺1点(第205図2)、台1点(第205図3)、土製円盤1点(第205図5)、土製円盤1点(第206図5)、石鏃4点(第206図1～4)、剥片1点(第206図5)、叢石1点(第206図6)、IV c3層から出土した鉢1点(第205図4)を図示した。



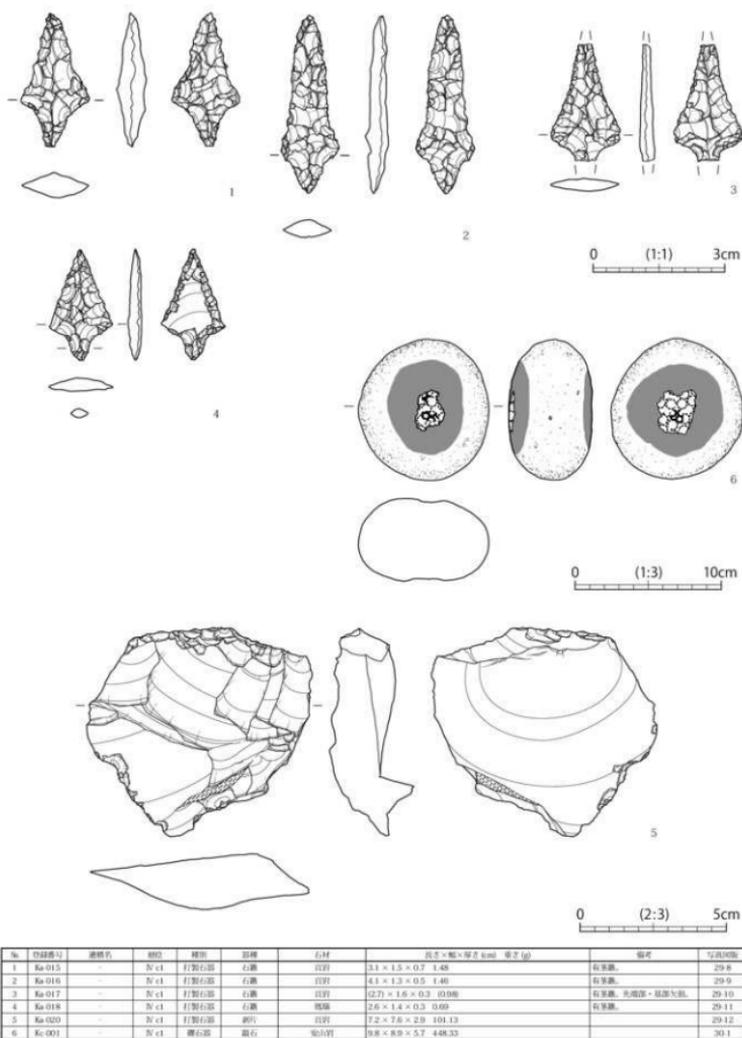
遺構名	平面図	断面図	方位	長さ×幅×深さ(m)	遺構名	層位	土色	土質	備考
SD64	不明			0.90 × 0.55 × 0.60	SD64	I	10YR5/1 黒灰色	粘土質シルト	マンガン粘赤を帯びる。

第204図 SD64 堀跡断面図



No.	登録番号	遺構名	層位	種類	図種	寸法等		備考	写真図版		
						長さ	幅				
1	A.054	-	IV c1	縄文土器	深鉢	外面：1.5部部：黒灰1.1部 2.5分半 黒部：黒 縄文 沈殿文 C字状文 漆C字状文 内面：土分半			29.4		
2	A.045	-	IV c1	縄文土器	壺	外面・胴部：黒沈殿文 9.0部文 1.1部縄文 黒 縄文 内面・胴部：ナデ			29.5		
3	A.055	-	IV c1	縄文土器	台	外面・内面：1.1部縄文 沈殿文 土分半 内面・内面：ナデ			29.6		
4	A.053	-	IV c3	縄文土器	鉢	外面：1.5部部：1.1部縄文 黒部：1.1部縄文 沈殿文 剥片縄文 底部：沈殿文 土分半 内面：1.1部部：1.1部縄文 土分半			29.7		
No.	登録番号	遺構名	層位	種類	図種	長さ	幅	厚さ	重量	形状・用途・備考	写真図版
5	P.005	-	IV c1	土製品	土製円盤	6.2	5.5	0.9	30.25	左右側縁部に張り有り。土器片遺物。	30.2

第205図 遺構外出土遺物(1)



第 206 図 遺構外出土遺物 (2)

### 第3節 富沢館跡

#### 21. D-3 区の調査 (付図 2・3)

D-3 区では、基本層Ⅲ層上面 (古代以降の遺構検出面) において、堀跡 2 条を検出した。

##### (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物 (第 207・208 図、図版 16)

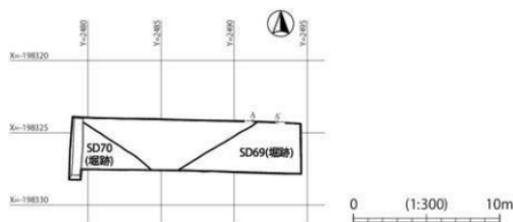
###### 1) 堀跡

SD69 堀跡 (第 207・208 図、図版 16) 調査区東側で検出した。南西から北東方向の堀跡で、両端および南側の大部分は調査区外へ延びる。方向は N-59°-E で、規模は長さ 6.40m 以上、幅 470cm 以上、深さ 35cm 以上である。断面形は不明である。堆積土は 2 層に分層された。遺物は出土していない。

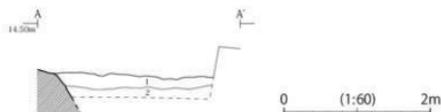
SD70 堀跡 (第 207・208 図、図版 16) 調査区西側で検出した。北西から南東方向の堀跡で、両端及び南側の大部分は調査区外へ延び、南側で SD69 堀跡に接続する可能性がある。方向は N-56°-W で、規模は長さ 6.40m 以上、幅 490cm 以上、深さは不明である。遺物は出土していない。

##### (2) 遺構外出土遺物

遺物は出土していない。



第 207 図 富沢館跡 D-3 区遺構配置図



遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ (m)	遺構名	積層	土質	土作	備考
SD69	矩形	矩形	N 59°-E	6.40 × 4.70 × 0.35	SD69	1	10YR5/1 黄灰色	粘土質シルト	マンガン粉を多量に含む。
SD70	矩形	矩形	N 56°-W	6.40 × 4.90 × -	SD69	2	10YR4/6 褐色	砂質シルト	に赤い鉄酸化物質シルトが少量を混入。

第 208 図 SD69 堀跡断面図

#### 22. D-4 区の調査 (付図 2・3)

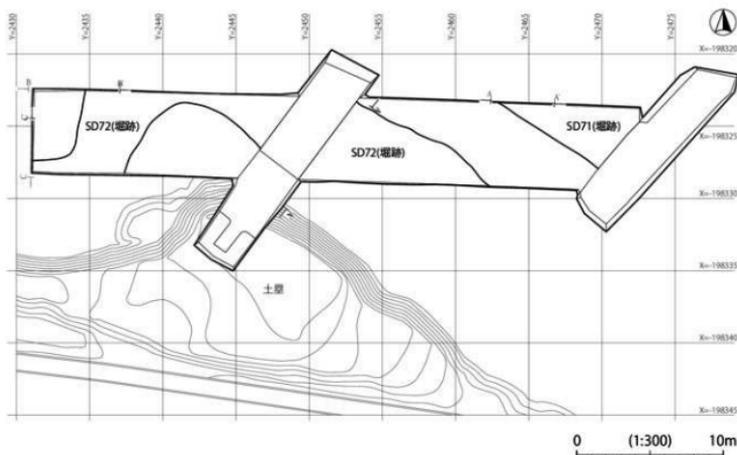
D-4 区では、基本層Ⅲ層上面 (古代以降の遺構検出面) において、堀跡 2 条を検出した。

##### (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物 (第 209～211 図、図版 16・17)

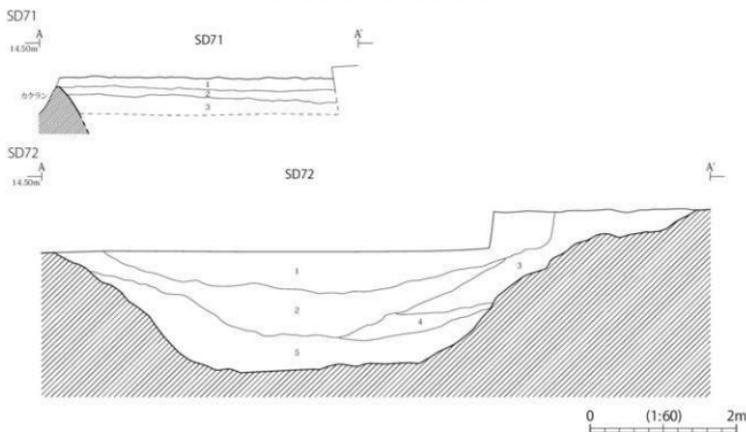
###### 1) 堀跡

SD71 堀跡 (第 209・210 図、図版 16) 調査区東側で検出した。北西から南東方向の堀跡で、両端および北側の大部分は調査区外へ延びる。トレンチを設定して調査を行ったが、壁面が崩落したため全容は把握できなかった。方向は N-58°-W で、規模は長さ 5.00m 以上、幅 5.00m 以上、深さ 55cm 以上である。断面形は不明である。堆積土は 3 層に分層された。遺物は出土していない。

SD72 堀跡 (第 209～211 図、図版 17) 調査区中央～西側で検出した。西から東方向へ S 字状に蛇行する堀跡で、両端は調査区外へ延びる。方向は西側が N-86°-E、東側は N-50°-W で、規模は長さ 28.70m 以上、幅 6.70m、深



第209図 富沢館跡 D-4区遺構配置図



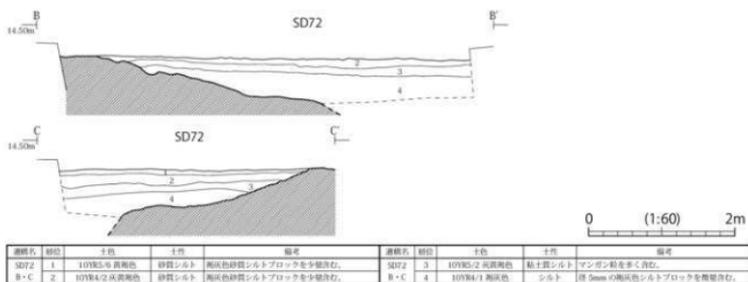
遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×高さ(m)	遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×高さ(m)
SD71	直線		N 58° W	(5.00) × (2.00) × (0.55)	SD72	S字	逆V形	N 50° W E 80° E	(2.870 × 0.70) × (2.11)

遺構名	層位	土色	土質	留意	遺構名	層位	土色	土質	留意
SD71	1	10YR4/2 灰褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロックを少量含む。	SD72A	3	10YR5/0 黄褐色	シルト	径 20mm の礫を多数。マンガン粒を少量含む。
	2	10YR5/2 灰褐色	粘土質シルト	マンガン粒を多数に含む。		4	10YR3/0 黒褐色	シルト	径 5mm の褐色砂質シルトブロックを多数。マンガン粒を含む。
	3	10YR4/1 黒褐色	シルト	径 3mm の褐色シルトブロックを多数含む。		5	10YR4/6 褐色	シルト	径 10mm の褐色シルトブロックを含む。径 3mm の砥石物を少量含む。
SD72A	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色土・マンガン粒を多数に含む。					
	2	10YR4/2 灰褐色	砂質シルト	径 20mm の褐色砂質シルトブロックを含む。					

第210図 SD71・72 遺跡断面図(1)

### 第3節 富沢館跡



第211図 SD72 堀跡断面図 (2)

さ210cmである。断面形は逆台形である。堆積土は5層に分解された。遺物は出土していない。

#### 2) 土塁跡 (第209図、付図3、図版17)

平成25年の確認調査Ⅳ-38・39トレンチで溝跡が確認されたことと、調査区南側には東西方向に延びる比高差1m程度の土手状の高まりがあり、その南側に沿うように水路が流れていることから、土塁と堀跡が残存している可能性を考え、現況測量を行い、土塁が全長53m、幅150cm～10mの範囲で残存していることを確認していた。D-3・4・5区で、複数の堀跡が大きく蛇行する形で検出され、土手状の高まりもこの堀跡に沿うようにあることから、SD72と直行するトレンチを設定し、断割り調査を行い、この地形が土塁の残存部分であることが確認された。

#### (2) 遺構外出土遺物

遺物は出土していない。

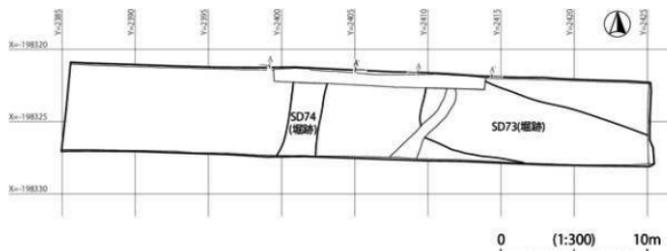
#### 23. D-5区の調査 (付図2・3)

D-5区では、基本層Ⅲ層上面 (古代以降の遺構検出面) において、堀跡2条を検出した。

#### (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物 (第212・213図、図版17)

##### 1) 堀跡

SD73堀跡 (第212・213図、図版17) 調査区東側で検出した。北から南東へ屈曲するL字状の堀跡で、両端は調査区外へ延びる。方向は南北方向の部分がN-2°-Eで、南東方向の部分はN-75°-Wである。規模は長さ14.80



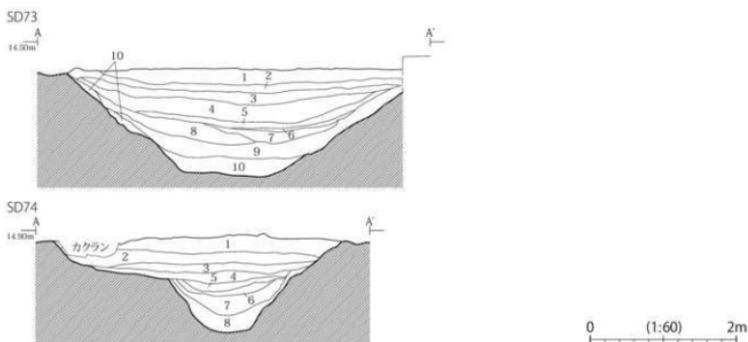
第212図 富沢館跡 D-5区遺構配置図

m以上、幅490cm、深さ240cmである。断面形は逆台形である。堆積土は10層に分層された。堆積土中より縄文土器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD74 壕跡(第212・213図、図版17) 調査区中央やや西側で検出した。南北方向の堀跡で、両端は調査区外へ延びる。西側の上部は掘乱により削平される。方向はN-82°-Eで、規模は長さ6.20m以上、幅400cm、深さ245cmである。断面形は逆台形であるが西側に段がつく部分がある。堆積土は8層に分層された。堆積土中より縄文土器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

## (2) 遺構外出土遺物

縄文土器片、石製品が出土しているが、図示できる遺物はない。



遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)	遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)
SD73	L字	逆台形	N 2° E N 25° 西	自4.80 × 4.90 × 2.40	SD74	直線	逆台形	N 82° E	自6.20 × 4.00 × 2.45

遺構名	層位	土色	土性	備考		遺構名	層位	土色	土性	備考
				層位	土性					
SD73	1	10YR5/3に灰黄褐色	シルト	層3~10mmの褐色褐色砂質シルトブロック・ 径30mmの褐色シルトブロックを含む。		SD74	1	10YR5/3に灰黄褐色	粘土質シルト	砂質シルト小ブロックを少量、酸化鉄を多量に含む。
	2	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	径30mmの褐色砂質シルトブロックを含む。			2	10YR5/2灰黄褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	3	10YR5/2灰黄褐色	シルト	明褐色砂質シルトブロックを含み、炭化物を少量含む。			3	10YR5/1褐色	砂質シルト	酸化鉄・マンガン・粘土を多量に含む。
	4	10YR5/3に灰黄褐色	砂質シルト				4	10YR6/1褐色	砂質シルト	マンガン・粘土を多量に含む。
	5	2.5Y6/1褐色	シルト	酸化鉄・マンガン・粘土を少量含む。			5	10YR4/1褐色	砂質シルト	酸化鉄・マンガン・粘土を多量に含む。
	6	2.5Y6/1褐色	シルト	径5mmの褐色砂質シルト小ブロックを多数、 マンガン・粘土を含む。			6	10YR5/1褐色	砂質シルト	径5mmの灰黄褐色砂質シルト小ブロックを 多数、マンガン・粘土を含む。
	7	10YR4/1褐色	砂質シルト	明褐色砂質シルト・炭化物を少量含む。			7	10YR4/1褐色	シルト	炭化物・酸化鉄・マンガンを含む。
	8	10YR4/1褐色	砂質シルト	マンガン・粘土を多量含む。			8	10YR5/2灰黄褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロックを多量に含む。
	9	10YR5/1褐色	シルト	径3~10mmの褐色砂質シルトブロックを含む。 径3~5mmの炭化物を少量含む。						
	10	2.5Y4/2褐色黄褐色	砂質シルト	褐色砂質シルト小ブロックを少量、酸化鉄を多 量に含む。						

第213図 SD73・74 壕跡断面図

### 第3節 富沢館跡

#### 24. E北区の調査(付図2・3)

E北区では、基本層Ⅲ層上面(古代以降の遺構検出面)において、堀跡2条を検出した。

##### (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物(第214・215図、図版17)

###### 1) 堀跡

SD45 堀跡(第214・215図、図版17) 調査区東側で検出した。南北方向に延びる堀跡で、両端及び東側は調査区外へ延びる。北壁際を掘り下げたが、完掘していない。方向はN-1°-Wで、規模は長さ6.20m以上、幅385cm以上、深さ40cm以上である。断面形は逆台形と考えられる。堆積土は3層に分層された。遺物は土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

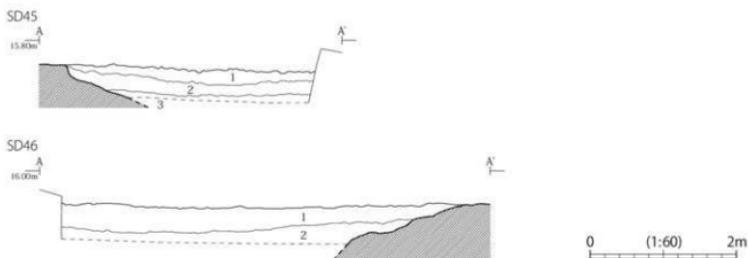
SD46 堀跡(第214・215図、図版17) 調査区西側で検出した。南北方向に延びる堀跡で、両端及び西側は調査区外へ延びる。北壁際を掘り下げたが、完掘していない。方向はN-1°-Wで、規模は長さ6.10m以上、幅490cm以上、深さ50cm以上である。断面形は逆台形と考えられる。堆積土は2層に分層された。遺物は土師器片、陶磁器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

###### (2) 遺構外出土遺物

土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。



第214図 富沢館跡E北区遺構配置図



遺構名	平面形	断面形	寸法	長さ×幅×深さ(m)	遺構名	平面形	断面形	寸法	長さ×幅×深さ(m)
SD45	矩形	逆台形	N-1°-W	6.20×3.85×0.40	SD46	矩形	逆台形	N-1°-W	6.10×4.90×0.50
遺構名	層位	土色	土質	検出	遺構名	層位	土色	土質	検出
SD45	1	10YR4/1 黒灰色	砂質シルト	明黄褐色砂質シルトを主体状に含む。	SD46	1	10YR4/1 黒灰色	砂質シルト	明黄褐色砂質シルトを主体状に含む。
	2	10YR6/8 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロック・礫化土を多量に含む。		2	10YR6/8 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロック・礫化土を多量に含む。
	3	10YR4/1 黒灰色	砂質シルト	礫化土・マンガン・鉄を多量に含む。					

第215図 SD45・46 堀跡断面図

## 25. E北・東区の調査(付図2・3)

E北・東区では、基本層Ⅲ層上面(古代以降の遺構検出面)において、堀跡2条を検出した。

## (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物(第216・217図、図版18)

## 1) 堀跡

SD75堀跡(第216・217図)調査区東側で検出した。南北方向の堀跡で、両端及び東側は調査区外へ延びる。北壁際を掘り下げたが、完掘していない。ピットと重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-13°-Wで、規模は長さ6.35m以上、幅405cm以上、深さ65cm以上である。堆積土は4層に分層された。遺物は出土していない。

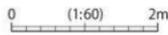
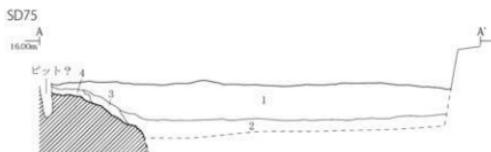
SD76堀跡(第216・217図)調査区西側で検出した。南北方向の堀跡で、両端及び西側は調査区外へ延びる。北壁際を掘り下げたが、完掘していない。方向はN-1°-Eで、規模は長さ230cm以上、幅150cm以上、深さ50cm以上である。堆積土は2層に分層された。遺物は出土していない。

## (2) 遺構外出土遺物

遺物は出土していない。



第216図 富沢館跡E北・東区遺構配置図



遺構名	平面図	断面図	方位	長さ・幅・深さ(m)	遺構名	平面図	断面図	方位	長さ・幅・深さ(m)
SD75	遺跡		N43°W	6.35 × 4.05 × 0.65	SD76	遺跡		N1°E	2.30 × 1.50 × 0.50
遺構名	層位	土色	土質	備考	遺構名	層位	土色	土質	備考
SD75	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	礫化鉄を多量に含む。	SD76	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	片 Stone の暗灰色ブロックを数個、マンガン粒を含む。
	2	10YR4/3 濃い黄褐色	砂質シルト	礫化鉄・マンガン粒を少量含む。		2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	片 Stone の暗灰色を数個、マンガン粒を含む。
	3	10YR4/1 暗灰色	粘土質シルト	礫化鉄・マンガン粒を多量に含む。					
	4	20YR4/3 濃い黄褐色	粘土質シルト	礫化鉄を多量に含む。					

第217図 SD75・76 堀跡断面図

### 第3節 富沢館跡

#### 26. E南-東区・E中央区の調査(付図2・3)

E南-東区・E中央区では、基本層Ⅲ層上面(古代以降の遺構検出面)において、土坑1基、堀跡3条、性格不明遺構2基、ピット16基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なもの確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

#### (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物(第218～222図、図版18・30)

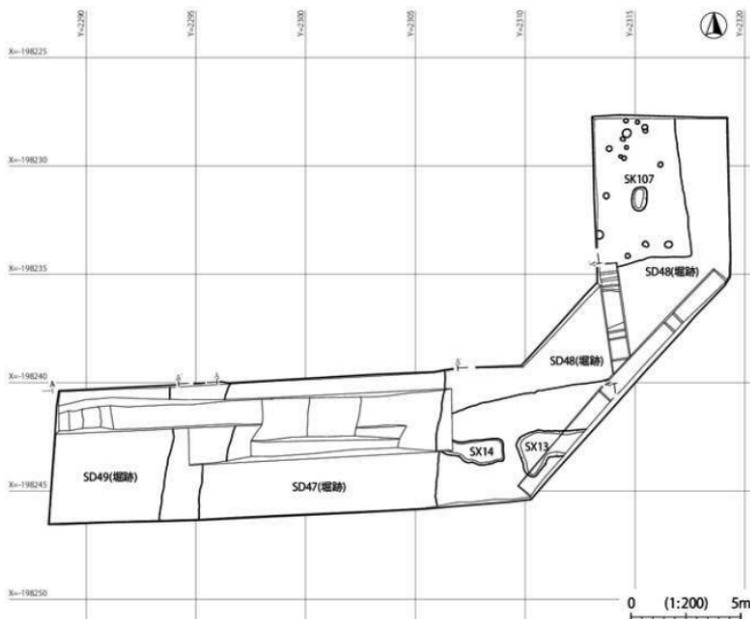
##### 1) 土坑

SK107土坑(第219図)調査区北東側で検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-9°-Eである。規模は長軸110cm、短軸68cm、深さ36cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。堆積土中より骨片が出土しているが、図示できる遺物はない。

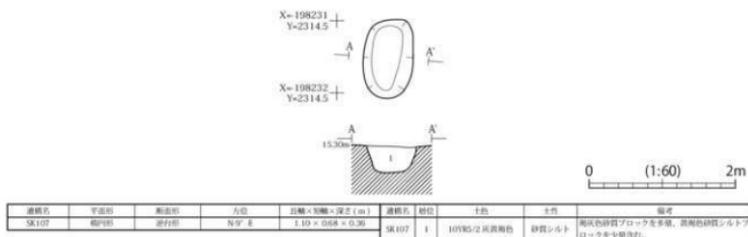
##### 2) 堀跡

SD47堀跡(第218・220・221図、図版18・30)調査区中央～西側で検出した。南北方向の堀跡で、両端は調査区外へ延びる。SD48と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向はN-0°で、規模は長さ6.33m以上、幅10.70m、深さ145cmである。断面形は逆台形形である。堆積土は8層に分層された。遺物は土師器片、須恵器片、石製品、金属製品、骨片、礫が出土しており、上層から出土した古銭1点(第220図1)を図示した。

SD48堀跡(第218・221図、図版18)調査区中央～北東側で検出した。東西から南北方向へL字状に屈曲する



第218図 富沢館跡E南-東区・E中央区遺構配置図



第 219 図 SK107 土坑平面図・断面図



第 220 図 SD47 堀跡出土遺物

堀跡で、両端及び東側は調査区外へ延びる。方向は東西方向の辺はN-76°-E、南北方向の辺はN-5°-Wで、規模は長さ22.15m以上、幅460cm、深さ125cmである。断面形は逆台形である。堆積土は7層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片、陶磁器片、金属製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD49 堀跡 (第 218・221 図、図版 18) 調査区西側で検出した。南北方向の堀跡で、両端及び西側は調査区外へ延びる。方向はN-4°-Eで、規模は長さ6.10m以上、幅5.40m以上、深さ170cmである。断面形はV字形と考えられる。堆積土は17層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

### 3) 性格不明遺構

SX13 性格不明遺構 (第 222 図) 調査区東側で検出した。東側は調査区外へ延びる。平面形は不整形で、長軸方向はN-86°-Eである。規模は長軸271cm以上、短軸117cm、深さ15cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

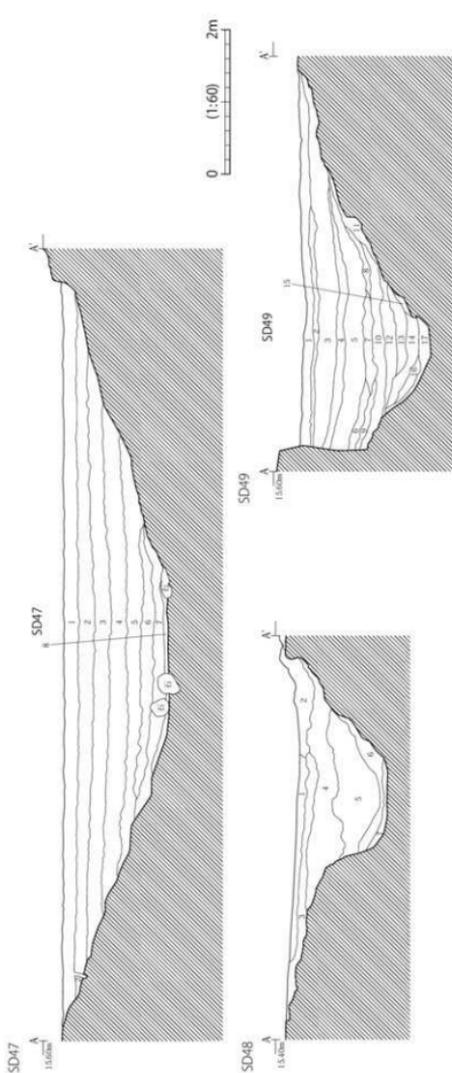
SX14 性格不明遺構 (第 222 図) 調査区中央で検出した。西側はトレンチにより失われている。平面形は不整形円形と考えられ、長軸方向はN-87°-Wである。規模は長軸278cm以上、短軸115cm、深さ11cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。堆積土中より陶磁器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

### 4) ビット (第 218 図)

16 基のビットを検出した。調査区北側に分布する。堆積土中より土師器片、骨片が出土しているが、図示できる遺物はない。

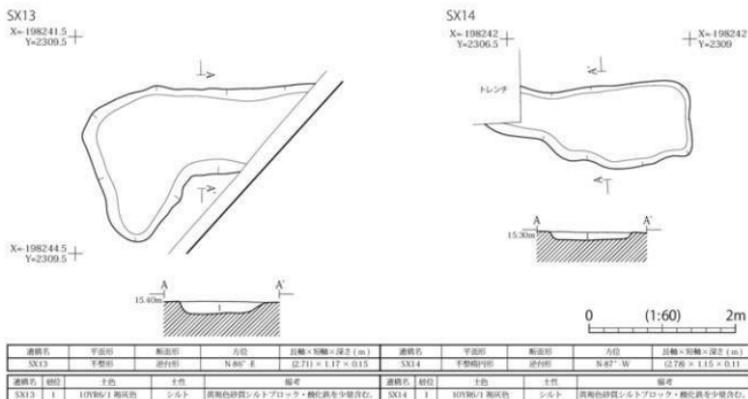
### (2) 遺構外出土遺物

縄文土器片、土師器片、須恵器片、石製品が出土しているが、図示できる遺物はない。



調査区	層位	土色	土質	特徴	調査区	層位	土色	土質	特徴																							
SD47	1	10YR6/1 灰褐色	砂質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。埋藏物層。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。	SD49	8	10YR6/1 灰褐色	シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。																							
	2	10YR6/2 黄褐色	砂質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。		9	10YR6/1 灰褐色	シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。																							
	3	10YR6/1 灰褐色	砂質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。		10	10YR6/1 灰褐色	粘土質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。																							
	4	10YR6/2 黄褐色	砂質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。		11	10YR6/1 灰褐色	粘土質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。																							
	5	10YR6/2 黄褐色	砂質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。		12	10YR6/2 黄褐色	粘土質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。																							
	6	10YR6/1 灰褐色	砂質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。		13	10YR6/1 灰褐色	砂質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。																							
	7	10YR6/2 黄褐色	砂質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。		14	10YR6/1 灰褐色	砂質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。																							
SD48	1	10YR6/1 灰褐色	砂質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。	15	10YR6/1 灰褐色	粘土質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。																								
	2	10YR6/2 黄褐色	砂質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。	16	10YR6/1 灰褐色	粘土質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。																								
	3	10YR6/1 灰褐色	砂質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。	17	10YR6/1 灰褐色	砂質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>調査区</th> <th>層位</th> <th>土色</th> <th>土質</th> <th>特徴</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">SD47</td> <td>1</td> <td>10YR6/1 灰褐色</td> <td>砂質シルト</td> <td>埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>10YR6/2 黄褐色</td> <td>砂質シルト</td> <td>埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">SD48</td> <td>1</td> <td>10YR6/1 灰褐色</td> <td>砂質シルト</td> <td>埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>10YR6/2 黄褐色</td> <td>砂質シルト</td> <td>埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。</td> </tr> </tbody> </table>										調査区	層位	土色	土質	特徴	SD47	1	10YR6/1 灰褐色	砂質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。	2	10YR6/2 黄褐色	砂質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。	SD48	1	10YR6/1 灰褐色	砂質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。	2	10YR6/2 黄褐色	砂質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。
調査区	層位	土色	土質	特徴																												
SD47	1	10YR6/1 灰褐色	砂質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。																												
	2	10YR6/2 黄褐色	砂質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。																												
SD48	1	10YR6/1 灰褐色	砂質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。																												
	2	10YR6/2 黄褐色	砂質シルト	埋藏物散見。小石多量。埋藏物層。土質多量に砂質。																												

第 221 図 SD47～49 地跡断面図



第222図 SX13・14 性格不明遺構平面図・断面図

## 27. E南・西区の調査 (付図2・3)

E南・西区では、基本層Ⅲ層上面 (古代以降の遺構検出面) において、竪穴住居跡1軒、土坑1基、溝跡7条、ピット8基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

## (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物 (第223～227図、図版18・19・30)

## 1) 竪穴住居跡

## S12 竪穴住居跡 (第224・225図、図版19・30)

[位置] 調査区中央に位置する。北側及び東壁の一部は攪乱・トレンチにより失われている。

[規模・形態] 規模は東西422cm、南北413cmである。平面形は方形である。柱穴は検出されていない。

[主軸方位] カマド基準でN-5°-Eである。

[堆積土・構築土] 12層に分層された。1～5層は住居跡堆積土、6～7層はカマド内堆積土、8層は周溝内堆積土、9～11層はカマド関連層位、12層は掘り方埋土である。

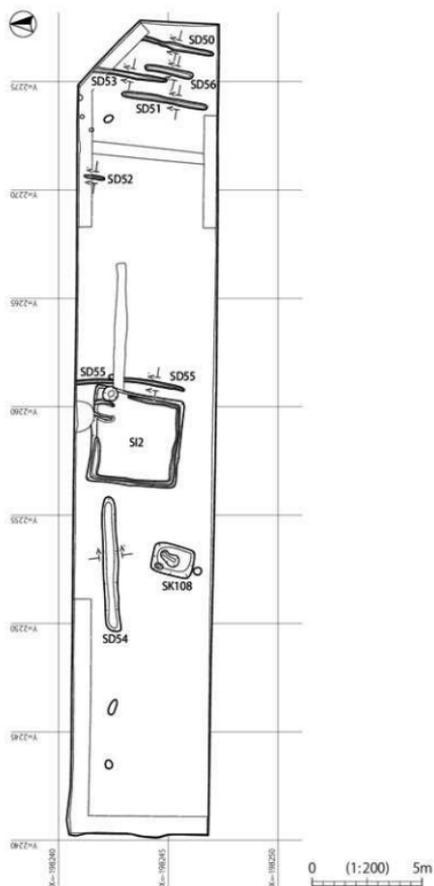
[壁面] 床面から外傾して立ち上がる。壁高は床面から最大17cmである。

[床面] 掘り方埋土上面を床面とし、わずかに起伏する。

[周溝] 北東側のカマド周辺を除き、壁に沿って全周する。断面形は逆台形ないしU字形で、規模は幅12～35cm、深さ11～15cmである。

[カマド] 北壁の東寄りに付設されている。規模は右袖が長さ94cm、幅26cm、床面からの高さ12cmで、左袖が長さ99cm、幅33cm、床面からの高さ9cmである。燃焼部は奥行83cm、幅46cm、奥壁高16cmで、奥壁は住居内に取まる。底面は中央がやや高まり、被熱して赤変している。奥壁は外傾して立ち上がる。燃焼部では土師器片が少量に出土している。また、奥壁付近で、上半部が欠損した礫がやや外傾した状態で出土しており、出土状況から支脚と考えられる。掘り方は長軸117cm、短軸80cm、深さ14cmである。平面形は東西方向の不整楕円形である。煙道部は北側の攪乱により検出していない。

[その他の施設] 床面で1基の土坑(SK1)を検出した。SK1は住居北東隅に位置し、カマド右袖に隣接する。規模

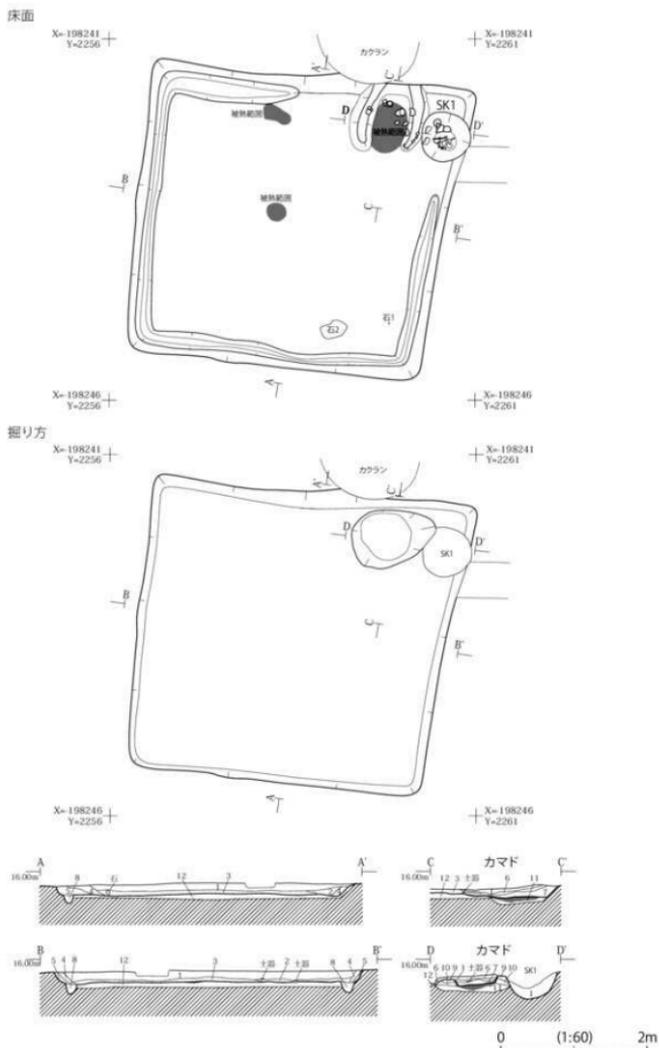


第223図 富沢館跡E南-西区遺構配置図

は長軸70cm、短軸67cm、深さ37cmの不整形円形で、断面形はU字形である。堆積土は単層である。規模や位置関係から、SK1は貯蔵穴と考えられる。また、住居跡の中央及び北側で2ヶ所の被熱範囲を検出した。

〔掘り方〕深さ3～9cmである。底面はやや起伏し、中央がわずかに落ち込む。

〔出土遺物〕住居堆積土、床面、カマド、SK1、掘り方から縄文土器片、土師器、須恵器片、石製品、金属製品、漆の被膜、礫が出土しており、土師器2点を図示した。SK1から出土した土師器環(第225図1)、甕(第225図2)



第224図 S12 竈穴住居跡平面図・断面図

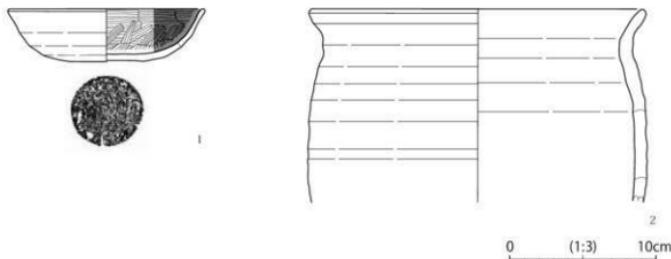
### 第3節 富沢館跡

S12 竪穴住居跡・築造施設断面表、堆積土層記述表

遺構名	方位	平面形	方位	規模・短軸・深さ (m)
S12	東西	方形	N-S 直	4.22 × 4.13 × 0.23
築造	平面形	断面形	規模・短軸・深さ (m)	
SK1	方形	U 字部	0.70 × 0.67 × 0.37	

遺構名	階位	土色		備考	遺構名	階位	土色		備考
		上部	下部				上部	下部	
S12	1	10YR2/3 粗黄褐色	シルト	褐色色砂質シルトブロック・図記物を少量含む。	S12	7	10YR2/2 黄褐色	砂質シルト	褐色色砂質シルトブロック・黄土・図記物を少量含む。
	2	10YR2/2 黄褐色	粘土質シルト	褐色色砂質シルトブロックを少量、黄土・図記物を少量含む。		8	10YR2/4 粗黄褐色	砂質シルト	褐色色砂質シルトブロックを少量含む。
	3	10YR2/3 黄褐色	粘土質シルト	径 10～50mm の褐色色砂質シルトブロック・粘土・礫を少量含む。		9	10YR2/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	褐色色砂質シルトブロックを少量含む。
	4	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	に多い赤褐色シルト質砂ブロック・褐色色砂質シルトブロックを少量含む。		10	10YR4/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	褐色色砂質シルトブロックを少量含む。
	5	10YR2/4 粗黄褐色	砂質シルト	褐色色砂質シルトブロック・図記物を少量含む。		11	10YR2/3 粗黄褐色	砂質シルト	褐色色砂質シルトブロックを少量含む。
	6	10YR4/4 黄褐色	粘土質シルト	褐色色砂質シルトブロック・図記物を少量含む。		12	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト	褐色色砂質シルトブロックを少量含む。
					SK1	1	10YR2/3 粗黄褐色	砂質シルト	褐色色砂質シルトブロックを少量含む。



第225図 S12 竪穴住居跡出土遺物

No.	図録番号	遺構名	階位	種類	寸法・重量・直径 (mm)	出土状況	内装状況	備考	写真枚数
1	D-003	S12 SK1	1	土師器	円形 (12.0 × 14.0 × 3.7)	口縁部割断 底面 断面直切	ヘラ土付 黄褐色塗		30.4
2	D-004	S12 SK1	1	土師器	環状 (12.0 × 13.0)	口縁部割断	口縁部割断	焼熱	30.5

は本住居跡に伴うことから、年代は9世紀代と考えられる。

#### 2) 土坑

SK108土坑(第226図)調査区西側で検出した。平面形は隅丸長方形で、中央と北西が土坑状に下がっている。長軸方向はN-14°-Eである。規模は長軸190cm、短軸140cm、深さ65cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は中央が土坑状に落ち込み、北西隅がピット状に落ち込む。堆積土は3層に分層された。遺物は出土していない。

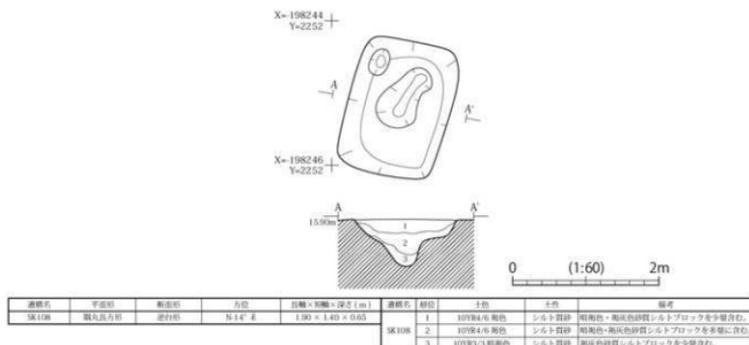
#### 3) 溝跡

SD50溝跡(第223・227図)調査区東側で検出した。南北方向の溝跡で、北端は調査区外へ延びる。方向はN-13°-Eで、規模は長さ327cm以上、幅33cm、深さ10cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD51溝跡(第223・227図)調査区東側で検出した。南北方向の溝跡である。方向はN-9°-Eで、規模は長さ393cm、幅28cm、深さ10cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD52溝跡(第223・227図)調査区東側で検出した。南北方向の溝跡で、北側の上部はトレンチにより削平される。方向はN-8°-Eで、規模は長さ95cm、幅17cm、深さ3cmである。断面形は皿形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD53溝跡(第223・227図)調査区東側で検出した。南北方向の溝跡で、北端は調査区外へ延び、北側の上部



第226図 SK108土坑平面図・断面図

はトレンチにより削平される。方向はN-9°-Eで、規模は長さ332cm以上、幅25cm、深さ14cmである。断面形はU字形である。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD54溝跡(第223・227図)調査区西側で検出した。東西方向の溝跡である。方向はN-88°-Eで、規模は長さ6.20m、幅68cm、深さ13cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。堆積土中より石製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD55溝跡(第223・227図)調査区中央で検出した。南北方向の溝跡で、北端は調査区外へ延び、北側の一部はトレンチにより削平される。方向はN-11°-Eで、規模は長さ495cm以上、幅21cm、深さ2cmである。断面形は皿形である。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD56溝跡(第223・227図)調査区東側で検出した。南北方向の溝跡である。方向はN-10°-Eで、規模は長さ222cm、幅33cm、深さ8cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。



遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)	遺構名	平面形	断面形	方位	長さ×幅×深さ(m)
SD50	直線	逆台形	N 13° E	(3.27) × 0.33 × 0.10	SD54	直線	逆台形	N 88° E	6.20 × 0.68 × 0.13
SD51	直線	逆台形	N 9° E	3.93 × 0.28 × 0.10	SD55	直線	皿形	N 11° E	(4.95) × 0.21 × 0.02
SD52	直線	直形	N 9° E	(6.95) × 0.17 × 0.03	SD56	直線	逆台形	N 10° E	2.22 × 0.33 × 0.08
SD53	直線	逆台形	N 9° E	(3.32) × 0.25 × 0.14					

遺構名	積層	土色	土層	備考	遺構名	積層	土色	土層	備考
SD50	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	褐色色砂質シルトブロック・灰白シルトブロックを多量、黄土シルトブロックを少量含む。	SD53	1	10YR3/2 暗褐色	砂質シルト	褐色土・褐色色砂質シルトブロックを少量含む。
					SD54	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	褐色土・褐色色砂質シルトブロックを少量含む。
SD51	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	褐色色砂質シルトブロック・灰白シルトブロックを多量、黄土シルトブロックを少量含む。	SD55	1	10YR3/3 に近い暗褐色	シルト	径3～10mmの褐色色砂質シルトブロック・径3～5mmの炭化物を少量含む。
SD52	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	褐色色砂質シルトブロック・灰白シルトブロックを多量、黄土シルトブロックを少量含む。	SD56	1	10YR3/3 に近い暗褐色	砂質シルト	褐色土・褐色色砂質シルトブロックを少量含む。

第227図 SD50～56溝跡断面図

### 第3節 富沢館跡

#### 4) ピット (第223図)

8基のピットを検出した。調査区全体に分布する。遺物は出土していない。

#### (2) 遺構外出土遺物

土師器片、須恵器片、陶磁器片、土師質土器片、金属製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

### 28. E 東区の調査 (付図2・3)

E 東区では、基本層Ⅲ層上面 (古代以降の遺構検出面) において、堀跡 2条を検出した。

#### (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物 (第228・229図、図版19)

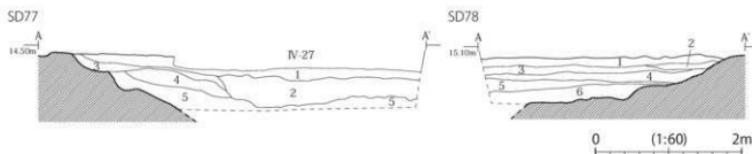
##### 1) 堀跡

SD77 堀跡 (第228・229図、図版19) 調査区東側で検出した。南北方向の堀跡で、両端及び東側は調査区外へ延びる。北壁際を掘り下げたが、完掘していない。方向はN-10°-Eで、規模は長さ320cm以上、幅440cm以上、深さ70cm以上である。断面形は不明である。堆積土は5層に分層された。遺物は出土していない。

SD78 堀跡 (第228・229図、図版19) 調査区西側で検出した。南北方向の堀跡で、両端及び西側は調査区外へ延びる。北壁際を掘り下げたが、完掘していない。方向はN-2°-Eで、規模は長さ310cm以上、幅90cm以上、深さ65cm以上である。断面形は不明である。堆積土は6層に分層された。遺物は出土していない。



第228図 富沢館跡E東区遺構配置図



遺構名	平面図	断面図	方位	長さ×幅×深さ(m)	遺構名	平面図	断面図	方位	長さ×幅×深さ(m)
SD77	図版		N 10° E	(3.20) × (4.40) × (0.70)	SD78	図版		N 2° E	(3.10) × (0.90) × (0.65)

遺構名	層位	土色	土性	備考	遺構名	層位	土色	土性	備考
SD77	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	礫化鉄を多量に含む。	SD78	1	10YR5/1 黄褐色	シルト	厚 50mm の上に、黄褐色砂質シルトブロックを複数、マンガン粒を含む。
	2	10YR4/6 黄褐色	砂質シルト	これに黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。		2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	3	10YR4/1 黄褐色	シルト	厚 50mm の黄褐色砂質シルトブロック・マンガン粒を含む。		3	10YR5/6 黄褐色	シルト	厚 20mm の礫を多量、マンガン粒を少量含む。
	4	10YR4/6 黄褐色	砂	褐色シルトブロックを少量含む。		4	10YR4/1 黄褐色	砂質シルト	礫化鉄・マンガン粒を多量に含む。
	5	10YR4/1 黄褐色	シルト	厚 50mm の黄褐色砂質シルトブロック・礫化鉄・マンガン粒を含む。		5	10YR5/8 黄褐色	シルト	厚 20mm の礫を多量、マンガン粒を少量含む。
				6		10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトブロックを少量含む。	

第229図 SD77・78 堀跡断面図

## (2) 遺構外出土遺物

縄文土器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

## 29. F区の調査(付図2・3)

F区では、基本層Ⅲ層上面(古代以降の遺構検出面)において、堀跡1条を検出した。

## (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物(第230・231図、図版19・20)

## 1) 堀跡

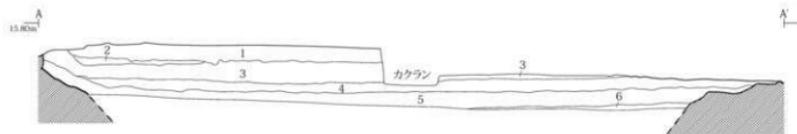
SD88堀跡(第230・231図、図版20)調査区中央で検出した。南北方向の堀跡で、両端は調査区外へ延びる。北壁際を掘り下げたが、完掘していない。方向はN-23°-Eで、規模は長さ320cm以上、幅6.80m、深さ80cm以上である。断面形は不明である。堆積土は6層に分層された。遺物は出土していない。

## (2) 遺構外出土遺物

土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。



第230図 富沢館跡F区遺構配置図



遺構名	平面図	断面図	方位	長さ×幅×深さ(m)
SD88	掘跡	不明	N-23° E	320以上×6.80×80以上

0 (1:60) 2m

遺構名	層位	土色	土質	備考	遺構名	層位	土色	土質	備考	
SD88	1	10YR4/2 灰黒褐色	砂質シルト	褐色砂質シルト・ブロック・礫化土を多量に含む。	SD88	5	10YR5/1 黄灰色	砂質シルト	褐色砂質シルト・ブロック・礫化土を多量に含む。	
	2	10YR6/3 に近い黄褐色	砂質シルト	礫化土・マンガン・鉄を多量に含む。		6	10YR5/4 に近い黄褐色	砂質シルト	礫化土・マンガン・鉄を多量に含む。	
	3	10YR5/2 灰黒褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトを多量に含む。						
	4	10YR5/8 黄褐色	砂質シルト	褐色砂質シルトを多量に含む。						

第231図 SD88堀跡断面図

### 第3節 富沢館跡

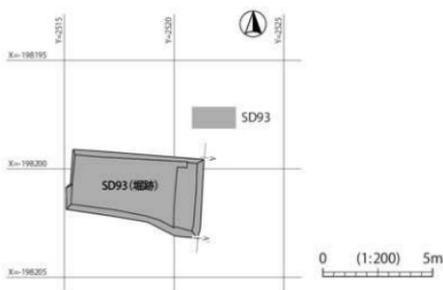
#### 30. G区の調査(付図2・3)

G区では、調査区全体において堀跡の堆積土を検出した。また、堀跡の両上端を検出していないことから、調査区が堀跡内に収まっていると考えられる。

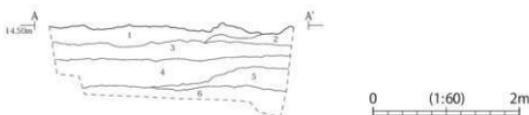
#### (1) 堀跡堆積土上面検出遺構と出土遺物(第232・233図、図版20)

##### 1) 堀跡

SD93堀跡(第232・233図)調査区全体で堀跡堆積土を検出した。堀跡の両上端を検出していないため、調査区が堀跡内に収まっていると考えられる。トレンチを設定して調査を行ったが、完掘には至っていない。方向は不明であるが、1区SD8堀跡、IV-18トレンチ検出堀跡が近接する事から、これらの堀跡と同様に南北方向と考えられる。堆積土は6層に分層された。堆積土中より土師器片が出土しているが、図示できる遺物はない。



第232図 富沢館跡G区遺構配置図



遺構名	平面図	断面図	方向	長さ×幅×深さ(m)
SD93				× × (1.20)

遺構名	層位	土質			備考	遺構名	層位	土質			備考
		1層	2層	3層				4層	5層	6層	
SD93	1	7.0195/1 褐色土	砂質シルト	礫化土を少量含む。	SD93	4	101905/2 灰黄色土	砂質シルト	礫化土・マンガン粒を多量に含む。		
	2	7.0195/3 褐色土	シルト	礫化土を多量に含む。		5	101905/2 灰黄色土	シルト質砂	礫化土・マンガン粒を多量に含む。		
	3	7.0195/4 褐色土	シルト質砂	礫化土質。		6	7.01904/3 褐色土	シルト	礫化土を多量に含む。		

第233図 SD93堀跡断面図

## 31. H区の調査(付図2・3)

H区では、基本層Ⅲ層上面(古代以降の遺構検出面)において、土坑2基、溝跡2条、堀跡1条、ピット5基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なもの確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

## (1) Ⅲ層検出遺構と出土遺物(第234～236図、図版20)

## 1) 土坑

SK192土坑(第235図)調査区南側で検出した。東側は調査区外へ延び、西側は掘乱により削平される。平面形は不整形円形と考えられ、長軸方向はN-23°-Eである。規模は長軸128cm以上、短軸50cm以上、深さ60cmである。壁面は外傾して立ち上がり、傾斜が緩くなる部分もある。断面形は逆台形で、底面は丸みを持つ。堆積土は6層に分層された。遺物は出土していない。

SK193土坑(第235図)調査区南側で検出した。平面形は不整形円形で、長軸方向はN-28°-Eである。P5と重複関係にあり、本遺構が古い。規模は長軸132cm、短軸100cm、深さ58cmである。壁面は、外傾して立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は4層に分層された。堆積土中より礫が出土しているが、図示できる遺物はない。

## 2) 溝跡・堀跡

SD94堀跡(第234・236図、図版20)調査区中央～北側で検出した。東西方向の堀跡で、両端及び北側は調査区外へ延びる。トレンチを設定して調査を行ったが、完掘していない。方向はN-60°-Wで、規模は長さ360cm以上、幅5.34m以上、深さ114cm以上である。堆積土は12層に分層された。堆積土中より土師器片、須恵器片、瓦、陶磁器片、石製品、木製品、金属製品が出土しているが、図示できる遺物はない。

SD95溝跡(第234・236図)調査区中央南側で検出した。南西から北東方向の溝跡で、両端は調査区外へ延びる。SD96と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向はN-35°-Eで、規模は長さ452cm以上、幅224cm、深さ45cmである。断面形は逆台形である。堆積土は3層に分層された。堆積土中より土師器片、陶磁器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

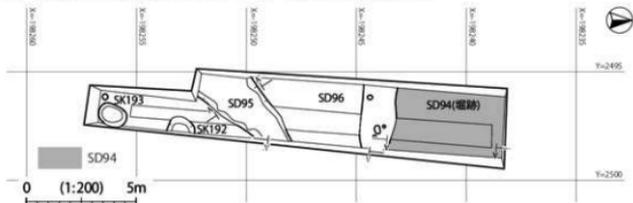
SD96溝跡(第234・236図)調査区中央で検出した。東西方向の溝跡で、両端は調査区外へ延びる。SD95と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-86°-Wで、規模は長さ286cm以上、幅5.14m以上、深さ32cmである。断面形は逆台形である。堆積土は4層に分層された。堆積土中より陶磁器片が出土しているが、図示できる遺物はない。

## 3) ピット(第234図)

5基のピットを検出した。調査区中央および南側に分布する。遺物は出土していない。

## (2) 遺構外出土遺物

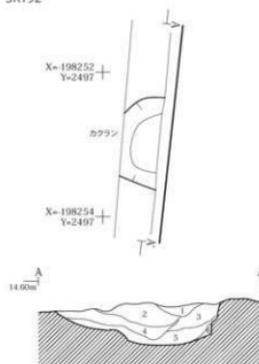
須恵器片、陶磁器片、石製品が出土しているが、図示できる遺物はない。



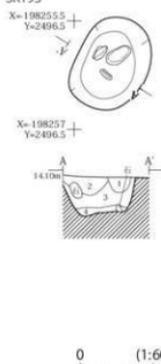
第234図 富沢館跡H区遺構配置図

第3節 富沢館跡

SK192



SK193



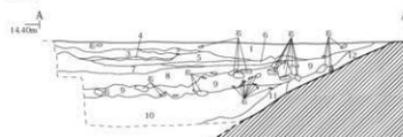
遺跡名	平面図	断面図	方位	長軸×短軸×深さ (m)	遺跡名	平面図	断面図	方位	長軸×短軸×深さ (m)
SK192	平面図	断面図	N 23° E	1.28 × 0.50 × 0.60	SK193	平面図	断面図	N 28° E	1.32 × 1.00 × 0.58

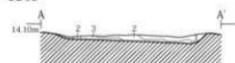
遺跡名	層位	土色	土質	備考	遺跡名	層位	土色	土質	備考
SK192	1	10YR4/3に濃い黄褐色	シルト	礫化土を微量含む。	SK193	1	7.5YR 7/1 紫褐色	粘土質シルト	暗褐色シルトブロックを含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	径 4mm の石片等・礫を含む。		2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	同化物を多量に、礫化土を含む。
	3	10YR2/2 紫褐色	シルト	同化物・焼土粒を含む。		3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	オーソープ珪化シルトブロックを多量に含む。
	4	10YR2/3 黄褐色	シルト	同化物・焼土粒を含む。		4	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	
	5	10YR2/1 紫褐色	シルト	暗褐色粘土質シルトブロック・同化物を含む。					
	6	10YR2/1 紫褐色	シルト	暗褐色粘土質シルトブロックを多量に含む。					

第 235 図 SK192・193 土坑平面図・断面図

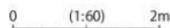
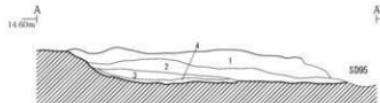
SD94



SD95



SD96



遺跡名	平面図	断面図	方位	長さ×幅×深さ (m)	遺跡名	平面図	断面図	方位	長さ×幅×深さ (m)
SD94	遺跡	断面図	N 60° W	(3.60) × (5.34) × (1.14)	SD96	遺跡	断面図	N 86° W	(2.88) × (5.14) × 0.32
SD95	遺跡	断面図	N 33° E	(4.52) × (2.24) × 0.43					

遺跡名	層位	土色	土質	備考	遺跡名	層位	土色	土質	備考
SD94	1	10YR3/2 紫褐色	シルト	礫化土を含む。	SD94	11	10Y3/1 オリーブ紫褐色	砂	礫化土含む。
	2	10YR3/2 紫褐色	シルト	礫化土・マンガンを含む。		12	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	礫化土含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	礫化土・マンガンを含む。同化物を微量含む。	SD95	1	10YR3/4 黄褐色	砂質シルト	褐色シルトを帯びて含む。
	4	10YR3/2 紫褐色	シルト	礫化土を含む。		2	2.5Y3/1 紫褐色	粘土	礫化土を含む。
	5	10YR3/2 紫褐色	シルト	礫化土・マンガンを含む。	3	2.5Y3/3 黄オリーブ紫褐色	砂	礫化土を含む。	
	6	10YR3/2 紫褐色	粘土	黄褐色砂を微量含む。	SD96	1	10YR3/2 紫褐色	砂質シルト	同化物・礫化土を微量含む。
	7	10YR4/1 黄褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルトを互層状に含む。		2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	礫化土を含む。
	8	5Y3/1 暗緑褐色	砂質シルト	同化物・細粒礫土を微量含む。礫を多量に含む。		3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	礫化土を含む。
	9	5Y3/1 暗緑褐色	砂	同化物・細粒礫土を微量含む。礫を多量に含む。		4	10YR2/3 紫褐色	シルト	同化物を少量含む。
	10	5Y2/2 オリーブ紫褐色	粘土	細粒礫土を含む。					

第 236 図 SD94 遺跡 SD95・96 溝跡断面図

## 32. 土塁の調査 (付図 3)

土塁 (第 237 ~ 239 図、図版 20・21・30) 土塁は、基本層Ⅲ層上面 (古代以降の遺構検出面) に構築されているが、一部はⅢ層を覆う土層 (中世頃の表土) 上面に構築されている。平面形はL形である。土塁頂部の積査を行ったが、柵跡や櫓跡等の痕跡は確認されなかった。土塁の残存する総長は 142.7m で、屈曲部分を境に北側部分は N-75°-W の方向で、規模は長さ 21.40m、幅 39.5cm、高さ 140cm である。中央北半部は N-52°-E の方向で、規模は長さ 58.00m、幅 13.20m、高さ 190cm である。中央南半部は N-2°-E の方向で、規模は長さ 43.20m、幅 9.50m、高さ 220cm である。南側部分は N-65°-W の方向で、規模は長さ 20.10m、幅 6.40m、高さ 160cm である。断面形は台形である。構築土は北側で 6 ~ 11 層、南側で 30 層に分層された。土塁構築土から縄文土器片、土師器片、須恵器片、瓦、陶磁器片、土師質土器片、石製品、木製品、金属製品が出土しており、1 層から出土した陶器類 1 点 (第 238 図 1) を図示した。土塁を取り除いた直下で、SD80 と、これよりも古い SD81 を検出した。

SD80 の遺構事実記載でも述べたように、断面観察から SD80 が埋められるのに合わせて現況の土塁が構築されていることから、SD80 が機能していた頃は別の形態をした土塁が存在していたと考えられる。この土塁の南端には、南北 20.40m、東西 18.30m、高さ 92cm を測る方形の平坦部があり、「南端部平場」として調査を行った。

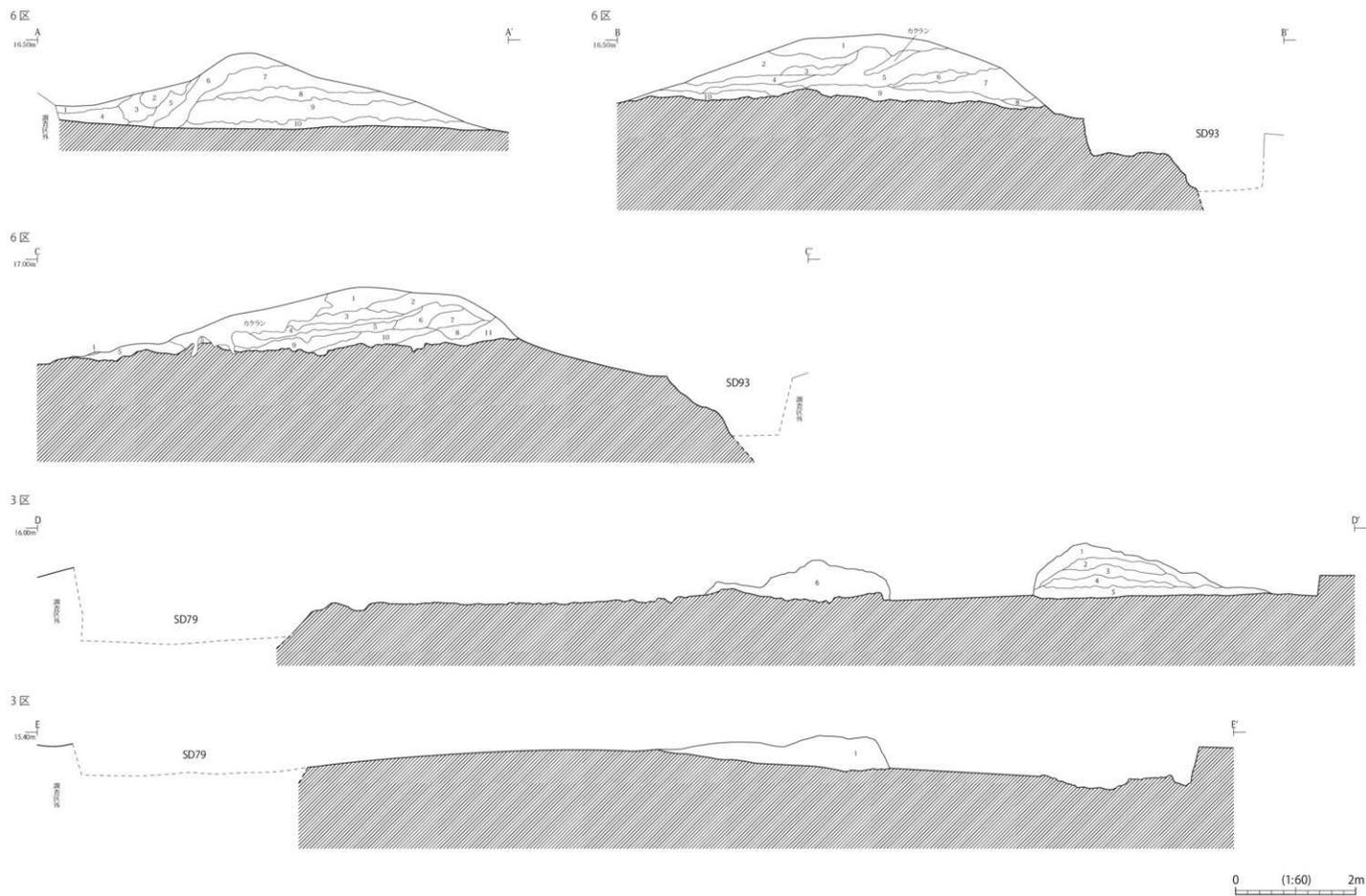
南端部平場の直下で SD81 を検出した。また、D 断面 (6 層) 及び E 断面 (1 層) の観察により僅かに残存する筋違いの土塁を検出した。前述の通り 3 区堀跡 A 断面 (第 96 図) 観察から、SD81 が機能する以前に構築された土塁と考えられ、ここが虎口 (小口) になっていたと考えられる。その後 SD81 が掘削され、筋違いの土塁が崩れ、SD81 が埋められた後 SD80 が掘削され、SD80 を埋めて現況の土塁へと変遷していたものと考えられる。南端部平場からは、縄文土器片、土師器片、須恵器片、土師質土器片、石製品、木製品、金属製品が出土している。そのうち、中世陶器 8 点を SD81 堀跡の項で図示した (第 97 図 1 ~ 8)。多くの時期の遺物が混在していることから、取り壊した土塁の構築土を利用して、土塁南端に寄せて盛土状にし、畑として利用していたものと考えられる。

土塁観察表、埋積土状況

遺構名	平面図	断面図	方位	長さ×幅×高さ (m)
土塁	北形	西形	N 75° W N 52° E N 2° E N 65° W	21.40 × 39.5 × 1.40 58.00 × 13.20 × 1.90 43.20 × 9.50 × 2.20 20.10 × 6.40 × 1.60

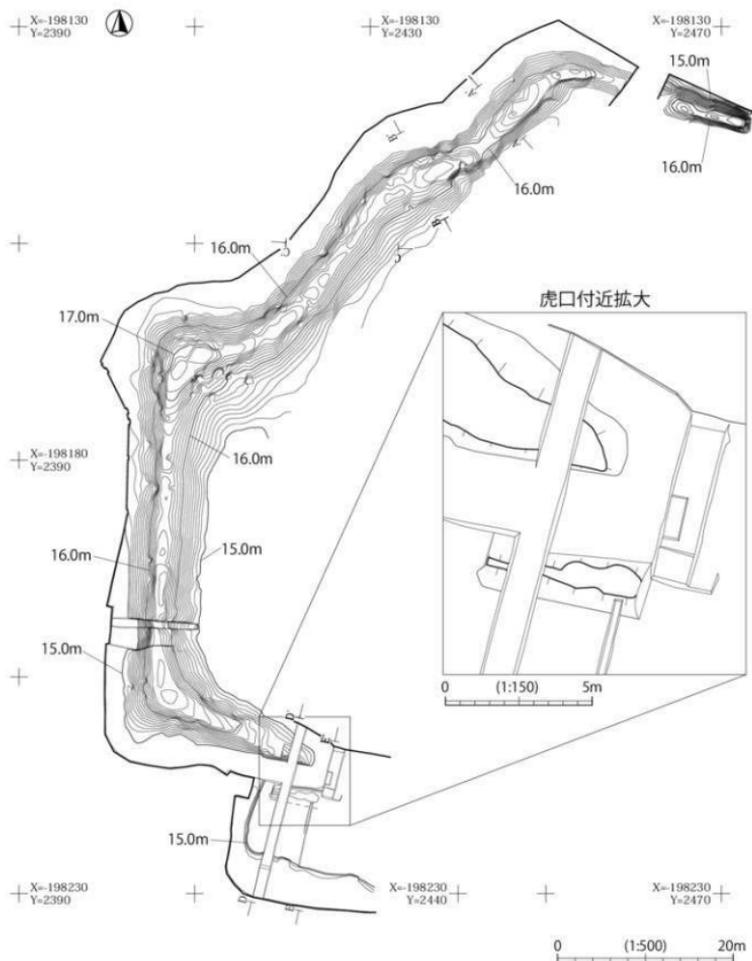
  

遺構名	層別	土色	土質	備考	遺構名	層別	土色	土質	備考
土塁 A (西区)	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。	土塁 B (東区)	5	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト	灰褐色・黄褐色砂質シルトブロックを多量、径 1 ~ 25mm 的化石を少量含む。
	2	10YR5/4 灰黄色	砂質シルト	径 10 ~ 60mm 礫を多量に含む。		6	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	灰褐色砂質シルトブロックを多量、黄褐色砂質シルト粒を少量含む。
	4	10YR5/6 黄褐色	シルト砂	径 10 ~ 50mm 礫を多量に含む。		7	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多量、灰褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	5	7.5YR4/4 褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。		8	10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多量、灰褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	6	10YR5/6 黄褐色	シルト砂	径 10 ~ 50mm 礫を多量に含む。		9	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト	灰褐色砂質シルトブロックを多量、黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。
	7	10YR4/6 褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルト粒を少量含む。		10	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト	中世頃の表土。
	8	7.5YR4/4 褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。		11	10YR4/6 褐色	砂質シルト	中世頃の表土。
	9	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	礫を少量含む。					
	10	10YR3/2 黄褐色	砂質シルト	中世頃の表土。					
	土塁 B (東区)	1	7.5YR4/6 褐色	砂質シルト		黄褐色砂質シルトブロックを多量、径 10 ~ 50mm の礫を少量含む。	土塁 C (西区)	1	10YR4/6 褐色
2		7.5YR4/3 褐色	砂質シルト	暗褐色・黄褐色砂質シルトブロックを多量に含む。	2	10YR5/6 黄褐色		シルト砂	灰褐色砂質シルトブロックを多量、暗褐色砂質シルトブロックを少量含む。
3		10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多量に含む。	3	10YR5/4 に近い黄褐色		砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロック・黄褐色砂質シルト粒を多量、灰褐色シルト質砂質シルト・径 1 ~ 5mm の化石物を少量含む。
4		10YR6/4 に近い黄褐色	砂質シルト	暗褐色を少量含む。	4	10YR4/4 黄褐色		砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロック・黄褐色砂質シルト粒・径 1 ~ 5mm の化石物を少量含む。
5		10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。	5	10YR3/2 黄褐色		砂質シルト	褐色・黄褐色砂質シルト粒・灰褐色シルト質砂質シルト・径 1 ~ 5mm の化石物を少量含む。
6		10YR5/2 に近い黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを多量に含む。	6	10YR4/3 に近い黄褐色		砂質シルト	灰褐色・黄褐色砂質シルト粒を少量含む。
7		10YR6/4 に近い黄褐色	砂質シルト	暗褐色を少量含む。					
8		10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 1 ~ 5mm 的化石を少量含む。					
9		10YR6/1 灰褐色	砂質シルト	暗褐色を少量含む。					
10		10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	中世頃の表土。					
土塁 C (西区)	1	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト	黄褐色・黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。	土塁 E (西区)	15	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	灰褐色・黄褐色砂質シルトブロック・灰褐色砂質シルト粒・径 1 ~ 25mm の化石物を少量含む。
	2	10YR4/6 褐色	砂質シルト	黄褐色・黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。					
	3	10YR3/4 黄褐色	砂質シルト	明褐色砂質シルトブロックを多量、黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。					



第238図 土壘断面図

第3節 富沢館跡



第237図 土塁平面図



### 第3節 富沢館跡

B-3区-堀跡1条

B-4区-堀跡1条

C東-1区-掘立柱建物跡5棟、井戸跡1基、土坑6基、溝跡3条、性格不明遺構1基、ピット126基

C東-2区-土坑11基、溝跡1条、ピット131基

C西-a区-堀跡1条

C西-b区-堀跡2条

C西-c区-遺構は検出されていない

C西-d1東区-遺構は検出されていない

C西-d1西区-土坑1基、ピット45基

C西-d2東区-土坑1基

C西-d2西区-性格不明遺構2基、ピット1基

C西-南区-遺構は検出されていない

D-1区-竪穴住居跡1軒、竪穴遺構1基、土坑13基、堀跡2条、ピット2基

D-2区-土坑1基、堀跡1条

D-3区-堀跡2条

D-4区-堀跡2条

D-5区-堀跡2条

E北区-堀跡2条

E北-東区-堀跡2条

E南-東区・E中央区-土坑1基、堀跡3条、ピット45基

E南-西区-土坑1基、溝跡7条、ピット8基

E東区-堀跡2条

F区-堀跡1条

G区-堀跡1条

H区-土坑2基、溝跡2条、堀跡1条、ピット5基

5)1区のSA1は、土器残存範囲より新しい事から中世以降の柱列跡と考えられる。

SK3及びP103・104・106は、大型の礫が出土したこと、調査区東側付近が以前屋敷への入り口付近であったことから、門跡と考えられる。時期決定の出来る遺物は出土していないが、SD8堀跡との重複関係により、門跡が新しいため、堀が埋まった後に構築されたと考えられる。

SK11は、燃焼部分から多量の骨片が出土しており、中世の火葬墓と考えられる。また、燃焼部分の掘り方には粘土が貼られており、それを取り除いた下から古銭が4枚出土している。

SD8は、位置関係から2区のSD10・35、3区のSD79、5区のSD42、6区のSD92と同一の堀跡と考えられる。遺物が出土していないため、堀跡の詳細な時期は不明である。

6)2区のSH1は南壁中央にカマドが付設されている。出土遺物から、9世紀中頃～9世紀後半頃の竪穴住居跡と考えられる。SB1は東西2間、南北2間の掘立柱建物跡で、東西方向に東柱を有する。遺物は出土していないため、遺構の詳細な時期は不明である。

SD10・34・35は堀跡である。位置関係から、SD10・35は1区のSD8、3区のSD79、5区のSD42、6区のSD92と同一の堀跡と考えられる。いずれも時期決定の出来る遺物は出土していない。

7)3区のSB2は東西3間、南北3間の掘立柱建物跡であり、南北方向に東柱を有する。16基の柱穴の底部から

礎板石が出土しているが、その他の遺物は出土していないため遺構の詳細な時期は不明である。

SD79・80・81は堀跡である。SD79は、土塁や南端部平場、現代の用水路に沿うように延びる。位置関係から1区のSD8、2区のSD10・35、5区のSD42、6区のSD92と同一の堀跡と考えられる。SD79からは近世・近代の陶磁器が多量に出土している。また、SD80と重複関係にあり、SD79が新しい。

SD80は土塁の直下で検出した堀跡である。SD80は、土塁の断面観察により土塁の構築が、SD80内に及んでいる事から、SD80を埋めながら現況の土塁が構築された事が確認された。また、SD80はSD81より新しいため、SD81が埋められた後に掘削された堀跡である。なお、土塁の直下、SD80検出面直上より17世紀後半の肥前産陶器碗が出土している。このことから、SD80が埋められ現況の土塁が構築されたのは江戸時代以降と考えられる。

SD81は、土塁及び南端部平場の直下で検出した。SD81はSD80より古い。SD81の南側には、筋違いの土塁が検出されているが、断面観察により筋違いの土塁が削平された上にSD81の堆積土が覆っている事が確認された事から、筋違いの土塁が崩された後にSD81が掘削されたものと考えられる。

また、SD81付近の南端部平場から、中世陶器製の破片が出土した。

SD79～80の変遷は、最初SD81が掘削され、これが埋められた後にSD80が掘削され、SD80を埋めて現在の土塁が構築され、その後SD79が掘削されたものと考えられる。

8)4区でSD39・40の2条の堀跡を検出した。SD39は、L字状に屈曲し南東方向へ延びる。SD39・40のいずれかは、2区で検出したSD34と同一の堀跡の可能性が考えられる。いずれも時期決定の出来る遺物は出土していない。また、SD31は、その規模から堀跡と考えられるが、これがSD39・40と繋がるかは不明である。

SK37・91は、検出状況から井戸跡と考えられる。出土遺物から、近世以降の井戸跡と考えられる。

9)5区のSD41・42は堀跡である。SD42は、規模や位置関係から1区のSD8、2区のSD10・35、3区のSD79、6区のSD92と同一の堀跡と考えられる。SD42は、SD41と重複関係にありこれが古い。東西方向に延びる堀跡であるが他のどの堀跡に繋がるかは不明であるが、東端の延伸先には、3区で検出した東西方向に延びるSD81があり、これと繋がる可能性が考えられる。いずれも時期決定の出来る遺物は出土していない。

10)6区でS14～7・10の竅穴遺構を5基検出した。この内S16・7・10を、土塁直下の遺構検出面で検出した。主柱穴は、S14で3基、S15で5基検出した。いずれも、壁際を巡ると考えられる。周溝は、S14からも検出された。掘り方は、S14・5・7から検出された。S14・5・7の遺構底面で、被熱範囲を検出した。また、S17から藍澤が出土しており、これらの竅穴遺構は10世紀前半以降の鍛冶関連遺構の可能性が考えられる。

土塁の直下で中世のSK115火葬墓を検出した。燃烧部で多量の骨片と炭化材が出土した。SD58・92は堀跡である。SD92は規模や位置関係から、1区のSD8、2区のSD10・35、3区のSD79、5区のSD42と同一の堀跡と考えられる。SD92からは時期決定の出来る遺物は出土していない。SD92はSD58と重複関係にあり、SD92が新しい。

SD58は、土塁を取り除いたその直下の遺構検出面で検出した。SD58からは中世磁器片が出土している。堆積状況から2時期の変遷が考えられる。また、SD58東端の延伸先には、第1次発掘調査で検出したSD1が位置しており、位置関係から繋がる可能性が考えられる。

6区における土塁と堀跡の変遷は、SD58が最も古く、SD58が埋められた後、これの上に土塁が構築され、土塁が構築された同時期またはそれ以降にSD92が掘られたと考えられる。

また、城館の一部として利用される中世以前の古代には、鍛冶関連の生産域であった可能性が考えられる。

11)A区のSD87は堀跡である。時期決定の出来る遺物は出土していない。A区北側に用水路があり、それに沿うようにSD87は東西に延びる様子を示しており、この用水路に沿う形で堀跡の存在が示唆される。

### 第3節 富沢館跡

- 12)B-1～4区のSD89は堀跡である。時期決定の出来る遺物は出土していない。また、B-2区ではSD91を検出しているが、遺物は出土していないため、遺構の詳細な年代は不明である。また、いずれも重複関係が確認されなかったため、新旧関係があるかは不明である。
- B-2区の東側に位置する、確認調査区IV-44でも堀跡が検出されている。
- B区周辺の田畑の地割が南北方向に長い様相をしており、SD89・91及びIV-44で検出した堀跡も同様の方向に伸びており、B区周辺には南北に伸びる堀跡が1～3条巡らされていたと考えられる。
- 13)C東-1区のSB4は東西2間、南北1間の掘立柱建物跡である。SB5は東西3間、南北1間の掘立柱建物跡である。SB6は東西2間、南北1間の掘立柱建物跡である。SB7は東西3間、南北3間の掘立柱建物跡である。SB8は東西2間、南北1間の掘立柱建物跡である。いずれも時期決定の出来る遺物は出土していない。
- SE1は素掘りの井戸跡である。縄文土器、石器が出土しているが、いずれも流れ込みと考えられる。
- 14)C東-2区では、土坑11基、溝跡1基、ピット131基を検出した。いずれの遺構からも、時期決定の出来る遺物は出土していない。
- 15)C西-a区のSD43は堀跡である。位置関係から、C西-b区SD43とは同一の堀跡である。時期決定の出来る遺物は出土していない。東端の延伸先には、確認調査区IV-48があり、ここで堀跡が検出されている。周辺の田畑の地割や用水路の状況から、SD43はこの堀跡と繋がる可能性が考えられる。
- 16)C西-b区のSD43・44は堀跡である。いずれも時期決定の出来る遺物は出土していない。位置関係から、C西-a区SD43と同一の堀跡である。また、西端は北方向へと屈曲する様子が検出されており、その先に位置するE東区SD77に繋がる可能性が考えられる。SD44もSD43と同様の伸びを示しており、北端はE東区SD78、E中央区SD76または、E南-東区SD47へと繋がると考えられる。いずれも時期決定の出来る遺物は出土していない。
- 17)C西-d1西区では、土坑1基、ピット45基を検出した。いずれも遺物が出土していないため、遺構の詳細な年代は不明である。
- 18)C西-d2東区では、土坑1基を検出した。遺物が出土していないため、詳細な年代は不明である。
- 19)C西-d2西区では、性格不明遺構2基、ピット1基を検出した。いずれも時期決定の出来る遺物は出土していない。
- 20)D-1区のSD62・63は堀跡である。いずれも遺物が出土していないため、遺構の詳細な年代は不明である。SD62・63は、位置関係からB-1～4区のSD89と同一の堀跡と考えられる。SD63は検出状況から、南北方向から屈曲し西方向へ伸びる堀跡の角部分と考えられる。
- 21)D-2区のSD64は堀跡である。時期決定の出来る遺物は出土していない。僅かに遺構の一部が検出されただけのため判然としないが、D-3区のSD69と繋がる可能性が考えられる。
- 22)D-3区のSD69・70は堀跡である。いずれも遺物は出土していないため、遺構の詳細な年代は不明である。規模や位置関係から、SD69・70は同一の堀跡と考えられる。また、D-4区のSD71も同一の堀跡と考えられる。D-3区の南側に位置するIV-39で堀跡が検出されており、これもSD69・70との位置関係により同一の遺構と考えられる。
- 23)D-4区のSD71・72は堀跡である。いずれも遺物は出土していないため、遺構の詳細な年代は不明である。規模や位置関係から、SD71はD-3区のSD69と、SD72はD-5区のSD73とそれぞれが繋がると考えられる。調査区の南側に、約1mの土手状の高まりがある。南側に沿う様に用水路があり、SD72との位置関係や断割り調査により、これが土塁の残存部であることが確認された。
- 24)D-5区のSD73・74は堀跡である。いずれも時期決定の出来る遺物は出土していない。規模や位置関係から、

- SD73 はD-4 区のSD72 と繋がると思われる。SD74 は、周辺の堀跡に繋がるのかは不明である。
- 25) E 北区のSD45・46 は堀跡である。いずれも時期決定の出来る遺物は出土していない。規模や位置関係から、SD45 はE 南-東区のSD47、E 北-東区のSD76 と、SD46 はE 南-東区のSD49 とそれぞれ同一の堀跡と考えられる。
- 26) E 北-東区のSD75・76 は堀跡である。いずれも遺物は出土していないため、遺構の詳細な年代は不明である。規模や位置関係から、SD75 はE 中央区のSD48、E 東区のSD78 と、SD76 はE 北区のSD45、E 南-東区のSD47 とそれぞれ繋がると考えられる。
- 27) E 南-東区・E 中央区のSD47～49 は堀跡である。規模や位置関係から、SD47 はE 北区のSD45、E 北-東区のSD76 と、SD48 はE 北-東区のSD75、E 東区のSD78 と、SD49 はE 北区のSD46 と同一の堀跡と考えられる。いずれも時期決定の出来る遺物は出土していない。
- 28) E 南-西区のSI2 は北壁東寄りにカマドが付設されている。出土遺物から、9 世紀代の竪穴住居跡と考えられる。
- 29) E 東区のSD77・78 は堀跡である。いずれも時期決定の出来る遺物は出土していない。規模や位置関係から、SD77 はC 西-a・b 区のSD43 と、SD78 はE 中央区のSD48、E 北-東区のSD75 とそれぞれ繋がると考えられる。
- 30) F 区のSD88 は堀跡である。遺物は出土していないため、遺構の詳細な年代は不明である。他の調査区から離れているため判断としないが、E 北区SD45、E 北-東区のSD76 と繋がる可能性が考えられる。北端の延伸する先には、堀跡が確認された確認調査区IV-4 が位置する。SD88 は、この堀跡と繋がる可能性が考えられる。
- 31) G 区のSD93 は堀跡である。堀跡の堆積土を検出面全体で検出した事、堀跡上端が検出されていない事から、調査区が堀跡内に取まっていると考えられる。1 区SD8 と近接しているが、同一の堀跡ではなく、SD8 の東側にSD93 が別の堀跡として巡る可能性が考えられる。
- 32) H 区のSD94 は堀跡である。規模や位置関係から、1 区SD8 と同一とも考えられるが、これよりさらに東側を巡ると考えられるSD93 と繋がる可能性が考えられる。
- 33) 土塁は、富沢館跡の遺跡範囲のほぼ中心に位置する。平面形は口形で、3 区で南端、6 区で北端を確認した。3 区の調査において、この土塁の直下より、SD80・81 が検出された。土塁の断面観察から、土塁の構築土がSD80 内に及んでおり、SD80 を埋めて現況の土塁が構築されていることが確認されたことから、SD80 が機能していた当時は、現況の土塁とは違う形態をしていたと考えられる。

南端部平場の調査では、これの直下より筋違いの土塁とSD81 を検出した。断面観察からSD81 の堆積土が筋違いの土塁にかかることからSD81 より以前に構築されていたと考えられ、SD81 が掘削される以前ここは、虎口(小口)として機能していたと考えられる。以上のことから、土塁南側には虎口があったと考えられ、筋違いの土塁が削られた後にSD81 が掘削され、その後SD81 を埋めてSD80 が掘削され、SD80 が埋められる時に現況の土塁へと形態を変えていったと考えられる。また、6 区では、土塁直下よりSD58 が検出されことから、SD58 もSD80・81 のどちらかとほぼ同じ時期に作られたと考えられ、土塁北端でも現況の土塁とは違う形態をしていた可能性が考えられる。

この様にして、土塁南端では、虎口がある土塁が構築され、その後筋違いの土塁が崩され形態を変えたと考えられる。その後SD80 からSD81 へと堀も変化し、それに伴って土塁も形態を変え、SD80 を埋める時に現況の土塁へとさらに形態を変えたと考えられる。北端でも同様にSD58 を埋めた後に現況の土塁へと形態を変えたと考えられる。現況の土塁構築と同時期ないしその後、これに沿って延びるSD79・92 が掘削されたという変遷が考えられる。なお、1 区では、土塁基底底部であったと考えられる土塁残存範囲が検出された。これ

### 第3節 富沢館跡

により、土塁は、現存する南端から更に南東側へ伸びていたと考えられる。

この土塁の西側には、東西に伸びる土塁状の盛土があり、土塁または土塁に関連する構築物と考えられていたが、平成25年度に行われた確認調査の結果、堆積土中から近現代の遺物が多量に出土しており、土塁または土塁に関する構築物ではないことが明らかになった(確認調査Ⅳ-9区)。また、この盛土の北側には東西に伸びる現代の用水路が位置するが、3区SD79や6区SD92同様用水路に沿う形で伸びる堀跡の存在が示唆される。

34)C西-c区、C西-d1東区、C西-南区では、遺構は検出していない。

#### (2) 遺物について

出土遺物は平箱48箱である。

##### 1) 縄文時代

3区では、遺構及び遺構外から縄文土器片が出土している。

4区では、基本層Ⅲ層上面で検出された遺構及び遺構外から縄文土器片が出土している。

B-1～4区では、基本層Ⅲ層上面で検出された遺構及び遺構外から縄文土器、石器が出土している。

C東-1区では、基本層Ⅲ層上面で検出された遺構及び遺構外から縄文土器、石器が出土している。SE1井戸跡の遺構堆積土から縄文土器深鉢が出土しているが、流れ込みと考えられる。

C西-d2東区では、遺構外から縄文土器片が出土している。

C西-d2西区では、基本層Ⅲ層上面で検出された遺構から縄文土器片が出土している。

D-1区では、基本層Ⅳc層上面で検出された遺構及び遺構外から縄文土器、打製石器、礫石器、石製品、土製品が出土している。出土した縄文土器は縄文時代後期中葉宝ヶ峯式が主体で、縄文時代後期後葉瘤付土器(金剛寺式)が僅かに出土している。

S19 竪穴住居跡の床面直上から縄文土器、住居堆積土から縄文土器、石鏃、土偶、スタンプ形土製品、不明土製品が出土している。土偶は、胸部のみである。胸部と腹部に膨らみを生じ、胸部周辺または腹部に刺突が施される。表面下腹部及び、裏面胸部、裏面臀部に縄文が施される。腰部に横位の沈線と縦位の刺突が施される。これらは縄文時代後期中葉宝ヶ峯式期の遺物と考えられる。

S18 竪穴遺構の遺構堆積土から縄文土器、石鏃が出土している。これらは縄文時代後期中葉宝ヶ峯式期の遺物と考えられる。

Ⅳc層は、縄文時代の遺物包含層である。Ⅳc1～3層で、縄文土器、打製石器、礫石器、土製品が出土した。縄文土器は縄文時代後期中葉宝ヶ峯式が主体である。器種は、深鉢型土器が最も多く、他に壺型土器、注口土器、異形土器片等が出土している。

D-2区では、基本層Ⅳc層上面で検出された遺構及び遺構外から縄文土器、石器、石製品、土製品、骨片が出土している。

SK144から出土した縄文土器は、正位置で埋設されていたと考えられる。

D-1区同様Ⅳc層は、縄文時代の遺物包含層である。

Ⅳc1～3層で、縄文土器、打製石器、礫石器、土製品が出土した。縄文土器は縄文時代後期中葉宝ヶ峯式が主体である。器種は、深鉢型土器が最も多く、他に壺型土器等が出土している。

D-5区では、基本層Ⅲ層上面で検出された遺構及び遺構外から縄文土器片、石製品が出土している。

E南-東区・E中央区では、遺構外から縄文土器片が出土している。

E南-西区では、基本層Ⅲ層上面で検出された遺構から縄文土器片、石器が出土している。

E 東区では、遺構外から縄文土器片が出土している。

南端部平場では、縄文土器片が出土している。

## 2) 古代以降

1 区では、基本層Ⅲ層上面で検出された遺構及び遺構外から土師器片、須恵器片、陶磁器片、土師質土器片、石器、石製品、木製品、金属製品、土製品、骨片、歯、礫が出土している。

SK11 火葬墓の遺構堆積土からは古銭が4枚出土している。4枚の内、3枚は残存状況が悪いため表面の銘が不明だが、1枚は「熙寧元寶」(鋳造年1068～1077年)の銘が見られる。出土した骨片は、残存状況が悪く、性別や年齢を判断するに至っていない。

2 区では、基本層Ⅲ層上面で検出された遺構及び遺構外から土師器、赤焼土器片、須恵器片、陶磁器片、土師質土器片、石製品、木製品、金属製品、土製品、礫が出土している。

SI1 竪穴住居跡の床面直上から土師器環、土師器甕が出土している。これらは9世紀中頃～9世紀後半頃の遺物と考えられる。

3 区では、基本層Ⅲ層上面で検出された遺構及び遺構外から土師器片、赤焼土器片、須恵器片、瓦、陶磁器、土師質土器片、石製品、金属製品、土製品、礫が出土している。

SB2 掘立柱建物跡からは礎板石が出土している。

取り除いた土塁の直下、SD80 堀跡の遺構検出面において出土した陶器は肥前産の17世紀後半の陶器碗と考えられる。南端部平場構築土から出土した陶器は、在地産または白石産の13世紀後葉～14世紀前葉頃の陶器甕、常滑産の15世紀後葉または15世紀代の陶器甕と考えられる。

4 区では、基本層Ⅲ層上面で検出された遺構及び遺構外から土師器片、赤焼土器片、須恵器片、瓦、陶磁器片、土師質土器片、石製品、木製品、金属製品、土製品、骨片、歯、礫が出土している。

SK37 井戸跡の遺構堆積土からは刀子が出土している。

SK91 井戸跡の遺構堆積土からは古銭が出土している。

5 区では、基本層Ⅲ層上面で検出された遺構及び遺構外から土師器片、須恵器片、陶磁器片、土師質土器片、石製品、木製品、金属製品、礫が出土している。

SD42 堀跡の遺構堆積土からは古銭が出土している。

6 区では、基本層Ⅲ層上面で検出された遺構及び遺構外から土師器片、赤焼土器片、須恵器片、陶磁器片、石器、石製品、木製品、金属製品、土製品、骨片、歯、礫が出土している。

SI6 竪穴遺構の遺構堆積土から土師器鉢が出土している。底面には、ヘラ書きによる「石」が刻まれており、刻みの順は、「石」の書き順に準えている。

SI7 竪穴遺構の遺構堆積土から赤焼土器環が出土している。これは10世紀前半以降の遺物と考えられる。

SI10 竪穴遺構の遺構堆積土から土師器鉢、須恵器環が出土している。これらは9世紀前半以前の遺物と考えられる。

SD58 の遺構堆積土から中国産の磁器碗が出土している。

A 区では、基本層Ⅲ層上面で検出された遺構から須恵器片が出土している。

B-1～4 区では、基本層Ⅲ層上面で検出された遺構及び遺構外から土師器片、陶磁器片、土製品、骨片が出土している。

C 東-1 区では、基本層Ⅲ層上面で検出された遺構及び遺構外から土師器片、須恵器片、陶磁器片、石製品、木製品、金属製品、礫が出土している。

C 東-2 区では、基本層Ⅲ層上面で検出された遺構及び遺構外から土師器片、須恵器片、陶磁器片、石器、

### 第3節 富沢館跡

石製品、木製品、金属製品、土製品、骨片、礫が出土している。

C西-a区では、基本層Ⅲ層上面で検出された遺構及び遺構外から土師器片、陶磁器片、石製品、礫が出土している。

C西-b区では、基本層Ⅲ層上面で検出された遺構及び遺構外から土師器片、須恵器片、陶磁器片、石器、石製品、金属製品、礫が出土している。

C西-c区では、遺構外から須恵器片が出土している。

C西-d1東区では、遺構外から土師器片が出土している。

C西-d1西区では、遺構外から土師器片が出土している。

C西-d2東区では、遺構外から土師器片、須恵器片が出土している。

C西-d2西区では、基本層Ⅲ層上面で検出された遺構及び遺構外から土師器片、須恵器片が出土している。

D-1区では、基本層Ⅳc層上面で検出された遺構及び遺構外から土師器片、金属製品が出土している。

E北区では、基本層Ⅲ層上面で検出された遺構及び遺構外から土師器片、須恵器片、陶磁器片が出土している。

E南-東区・E中央区では、基本層Ⅲ層上面遺構及び遺構外から土師器片、須恵器片、陶磁器片、石製品、金属製品、骨片、礫が出土している。

SD47 堀跡の遺構堆積土から古銭が出土している。

E南-西区では、基本層Ⅲ層上面で検出された遺構及び遺構外から土師器片、須恵器片、陶磁器片、土師質土器片、石製品、金属製品、礫が出土している。

SI2 竪穴遺構内SK1の遺構堆積土から土師器環、土師器甕が出土している。これらは9世紀代の遺物と考えられる。

F区では、遺構外から土師器片が出土している。

G区では、基本層Ⅲ層上面で検出された遺構及び遺構外から土師器片、須恵器片、陶磁器片、石製品が出土している。

H区では、基本層Ⅲ層上面で検出された遺構及び遺構外から土師器片、須恵器片、瓦、陶磁器片、石製品、木製品、金属製品、礫が出土している。

土塁では、土師器片、須恵器片、瓦、陶磁器片、土師質土器片、石製品、木製品、金属製品が出土している。遺構堆積土から陶器甕が出土している。南端部平場では、土師器片、須恵器片、瓦、陶磁器片、土師質土器片、石製品、木製品、金属製品が出土している。

## 富沢館跡写真図版





1区調査区全景(北から)



1区 SA1 全景(北から)



1区 SD8 棟出状況(北から)



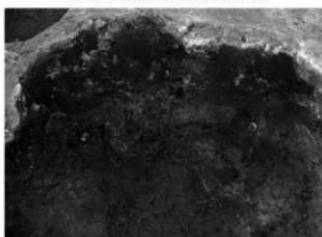
1区 SK11 人骨棟出状況(東から)



1区 SK11 焼骨部棟出状況(東から)



1区 SK11 掘り方全景(南東から)



1区 SK11 古甕出土状況(南から)



1区 SR1 断面(北東から)

写真図版1 富沢館跡(1)

第3節 富沢館跡



1区門跡 SB4-SK3 断面 (南から)



1区門跡 SB4-SK3 全景 (南から)



1区門跡 SB4-P106 断面 (西から)



1区門跡 SB4-P103・104・106 全景 (西から)



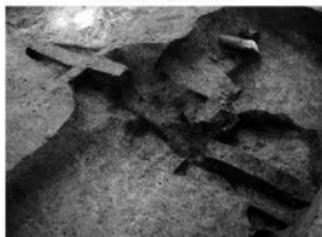
1区 SB4 全景 (南西から)



2区調査区全景 (西から)



2区 S11 全景 (西から)



2区 S11 断面 A (東から)

写真図版2 富沢館跡(2)



2区 S11 遺物出土状況 (北から)



2区 S81 全景 (東から)



2区 SD34 横出状況 (北から)



2区 SD35 横出状況 (東から)



2区 SK22 全景 (西から)



2区 SK22 断面 B (東から)



3区調査区全景南端部平場 (東から)



3区 S82 全景 (東から)

写真図版3 富沢館跡(3)

第3節 富沢館跡



3区 SB2 礎板石検出状況 (西から)



3区 SA4-P7～11 断面 (南から)



3区 SA5-P1・P2 断面 (西から)



3区 SD79 検出状況 (東から)



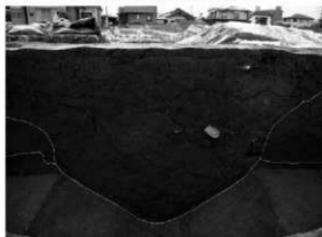
3区 SD79 検出状況 (南から)



3区 SD79・80 検出状況 (西から)



3区 SD79～81 検出状況 (東から)



3区 SD81 断面 D (東から)

写真図版4 富沢館跡(4)



3区 SD81 断面 F (東から)



3区 SD81 全景 (東から)



4区調査区全景 (南から)



4区調査区全景 (西から)



4区調査区全景 (東から)



4区 SD31 全景 (東から)



4区 SD31 断面 A (西から)



4区 SD31 断面 (東から)

写真図版5 富沢館跡(5)

第3節 富沢館跡



4区 SD31 断面 C (南西から)



4区 SD31 断面 D (南西から)



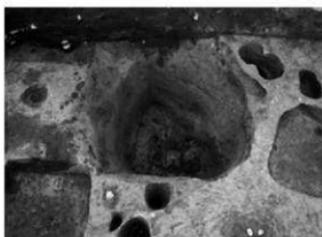
4区 SD39・40 検出状況 (北東から)



4区 SD39・40 断面 (北西から)



4区 SK37 木出土状況 (東から)



4区 SK91 全景 (南から)



4区 SK91 断面 (東から)



4区 SX4 遺物検出状況 (北西から)

写真図版6 富沢館跡(6)



5区調査区全景(東から)



5区SD41全景(東から)



5区SD41断面(東から)



5区SD41・42全景(南東から)



5区SD42断面(南から)



6区調査区全景(南西から)



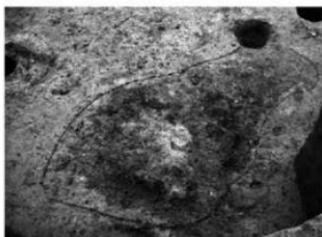
6区S14全景(南から)



6区S15全景(南から)

写真図版7 富沢館跡(7)

第3節 富沢館跡



6区 S15 火床面検出状況(南から)



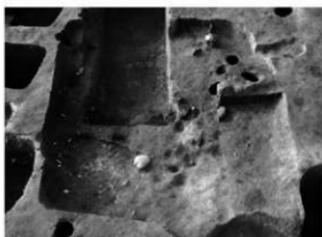
6区 S16 全景(南から)



6区 S17 全景(東から)



6区 S171 被熱範囲検出状況(南から)



6区 S110 遺物出土状況(東から)



6区 SD58 断面(北東から)

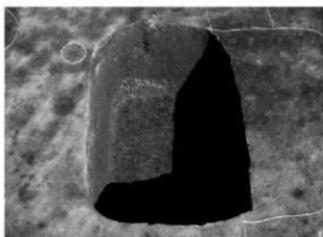


6区 SD92 断面 B(北東から)



6区 SD92 断面 C(北東から)

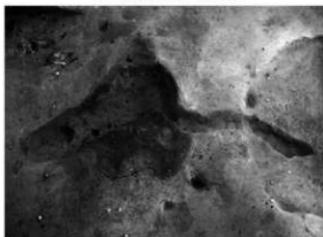
写真図版8 富沢館跡(8)



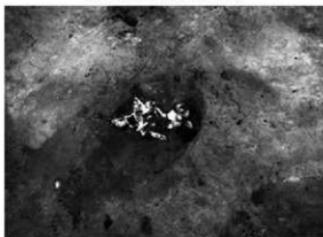
6区 SK110 全景 (南から)



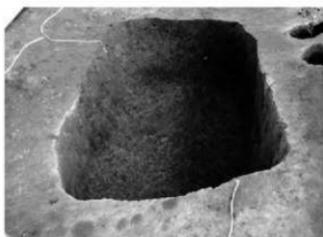
6区 SK110 断面 A (南から)



6区 SK115 全景 (南から)



6区 SK115 人骨出土状況 (南から)



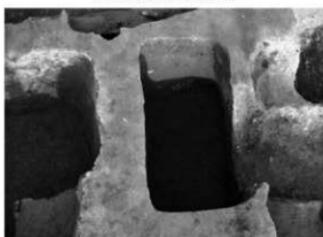
6区 SK119 全景 (南から)



6区 SK122 全景 (東から)



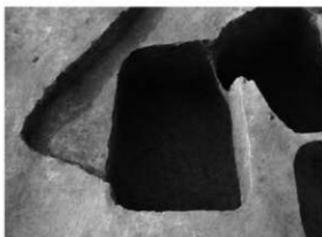
6区 SK140 全景 (東から)



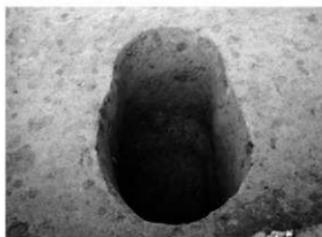
6区 SK155 全景 (南から)

写真図版9 富沢館跡(9)

第3節 富沢館跡



6区SK157 全景(東から)



6区SK161 全景(南から)



6区SK162 全景(南から)



A区調査区全景(南から)



A区SD87 断面・全景(南から)



B-1区調査区全景(北から)



B-1区調査区南壁断面(北から)



B2区調査区全景(北から)

写真図版10 富沢館跡(10)



B-2区SD89断面(北東から)



B-2区SD91断面(北東から)



B-3区調査区全景(南から)



B-3区調査区北壁断面(南から)



B-4区調査区全景(南から)



B-4区調査区北壁断面(南から)



C東-1区調査区全景(南東から)



C東-1区SB4~8全景(西から)

写真図版11 富沢館跡(11)

第3節 富沢館跡



C東-1区SE1 全景(東から)



C東-2区調査区全景(西から)



C東-2区SK189 断面・全景(南から)



C西-a区調査区全景(西から)



C西-a区調査区西壁断面(北東から)



C西-b区調査区全景(東から)



C西-b区調査区全景(西から)



C西-b区SD43 断面A(西から)

写真図版12 富沢館跡(12)



C西-b区SD43断面B(南から)



C西-b区SD44断面A(南から)



C西-c区調査区全景(北から)



C西-d1東区調査区全景(東から)



C西-d1西区調査区全景(西から)



C西-d2東区調査区全景(南西から)



C西-d2西区調査区全景(西から)



C西-南区調査区全景(北から)

写真図版13 富沢館跡(13)

第3節 富沢館跡



D-1区調査区全景(西から)



D-1区S19全景(東から)



D-1区S19SK2断面A(東から)



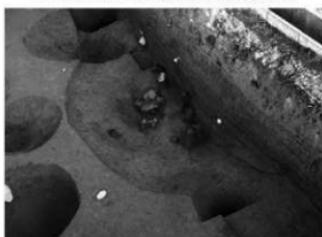
D-1区S19遺物(A-010)出土状況(東から)



D-1区S19SK2遺物(P-002)出土状況(東から)



D-1区S18全景(東から)



D-1区S18遺物出土状況(北西から)

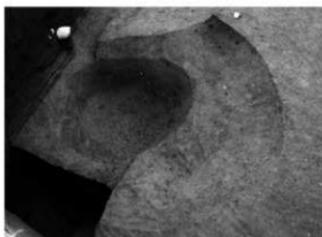


D-1区SD62検出状況(南から)

写真図版14 富沢館跡(14)



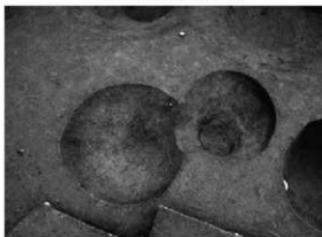
D-1区 SD63 検出状況(南から)



D-1区 SK145 全景(東から)



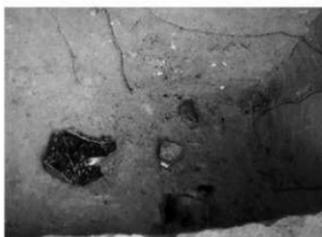
D-1区 SK145 遺物出土状況(北から)



D-1区 SK146・147 全景(北から)



D-1区 SK147 遺物出土状況(南から)



D-1区 SK164 遺物出土状況(西から)



D-1区遺物(A-042) 出土状況(南から)



D-1区遺物(A-043) 出土状況(南から)

写真図版15 富沢館跡(15)

第3節 富沢館跡



D-1区遺物(A-059)出土状況(北から)



D-2区調査区全景(南西から)



D-2区SD64 検出状況(南東から)



D-2区SK144 断面A(東から)



D-2区SK144 遺物出土状況(東から)



D-3区SD69 検出状況(南西から)



D-3区SD70 検出状況(南から)



D-4区SD71 断面(北東から)

写真図版16 富沢館跡(16)



D-4区 SD72・土塁東壁断面(北西から)



D-5区調査区全景(東から)



D-5区 SD73 遺検出状況(西から)



D-5区 SD74 遺検出(南から)



D-5区 SD73・74 断面(南東から)



E北区調査区全景(西から)



E北区 SD45 断面(南から)



E北区 SD46 断面(南から)

写真図版17 富沢館跡(17)

第3節 富沢館跡



E北-東区調査区全景(東から)



E中央区SD48断面(北東から)



E北-東区調査区北壁断面(南東から)



E中央区調査区全景(南から)



E南-東区調査区全景(西から)



E南-東区SD47断面(南東から)



E南-東区SD49断面(南東から)



E南-西区調査区全景(東から)

写真図版18 富沢館跡(18)



E南-西区 S12 全景 (南から)



E南-西区 S12 カマド遺物出土状況 (南から)



E南-西区 S12 カマド・SK1 全景 (南から)



E南-西区 S12-SK1 遺物出土状況 (西から)



E東区調査区全景 (北西から)



E東区 SD77 検出状況 (南西から)



E東区 SD78 検出状況 (南東から)



F区調査区全景 (西から)

写真図版19 富沢館跡(19)

第3節 富沢館跡



F区 SD88 横出状況 (南から)



G区調査区全景 (西から)



H区 SD94 横出状況 (北から)



H区 SD94 全景 (北から)



H区 SD94 断面 (南西から)



土塁竹林伐採前現況 (南から)



土塁竹林伐採後現況 (南から)



6区土塁断面 A (東から)

写真図版20 富沢館跡(20)



6区土壘断面B(東から)



3区SD79～81・土壘断面A(南西から)



土壘表土断面(南から)



土壘断面D(東から)



土壘断面E(東から)



土壘北側(西から)

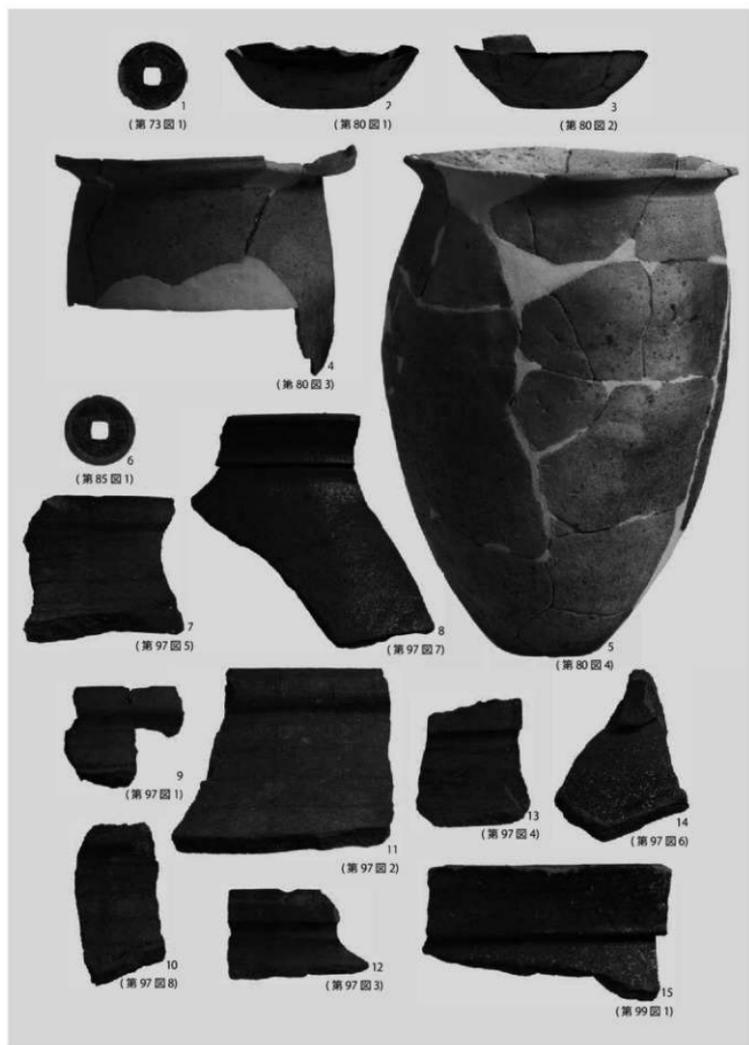


土壘南側(西から)

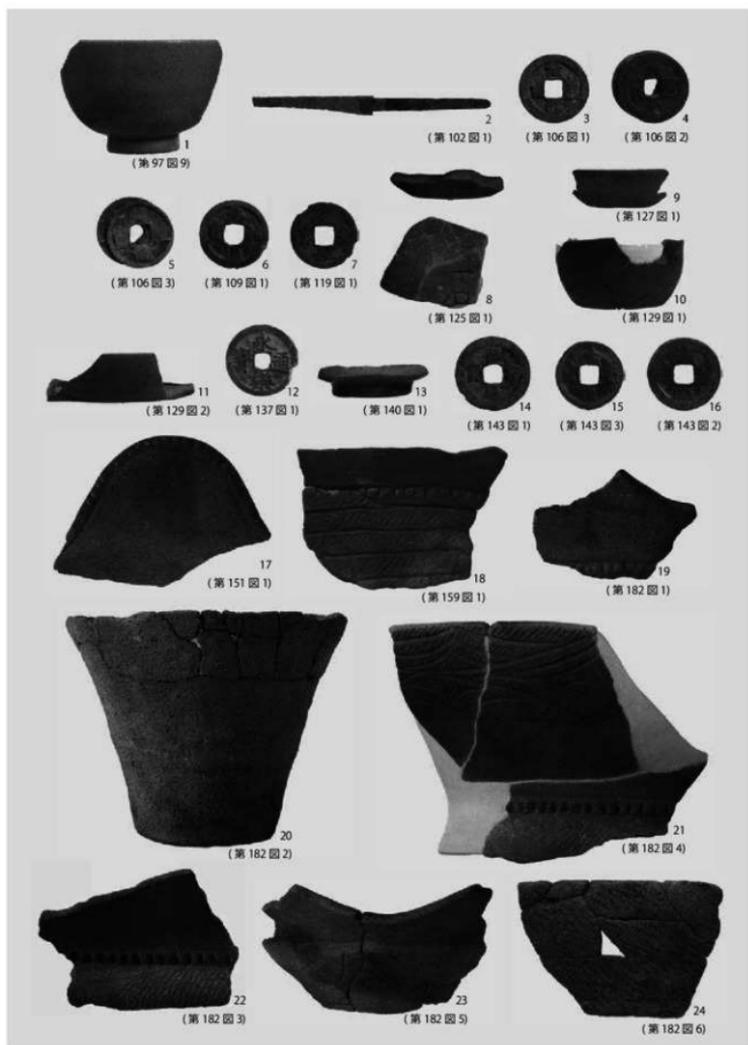


南端部平場(南から)

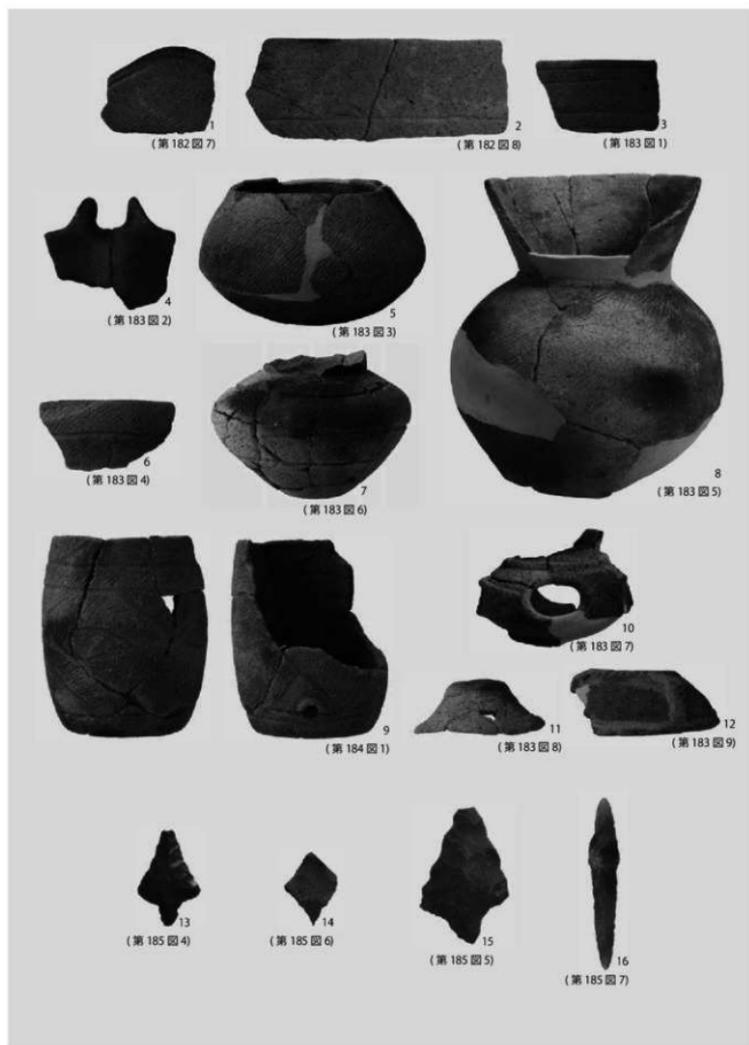
写真図版21 富沢館跡(21)



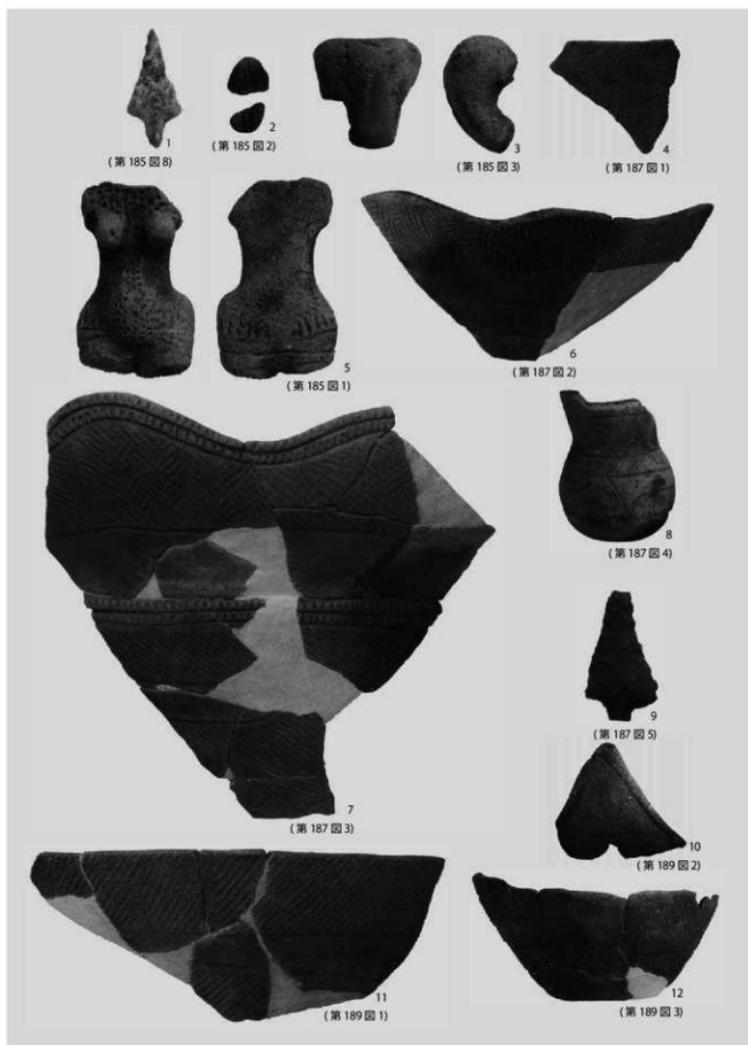
写真図版22 富沢館跡出土遺物(1)



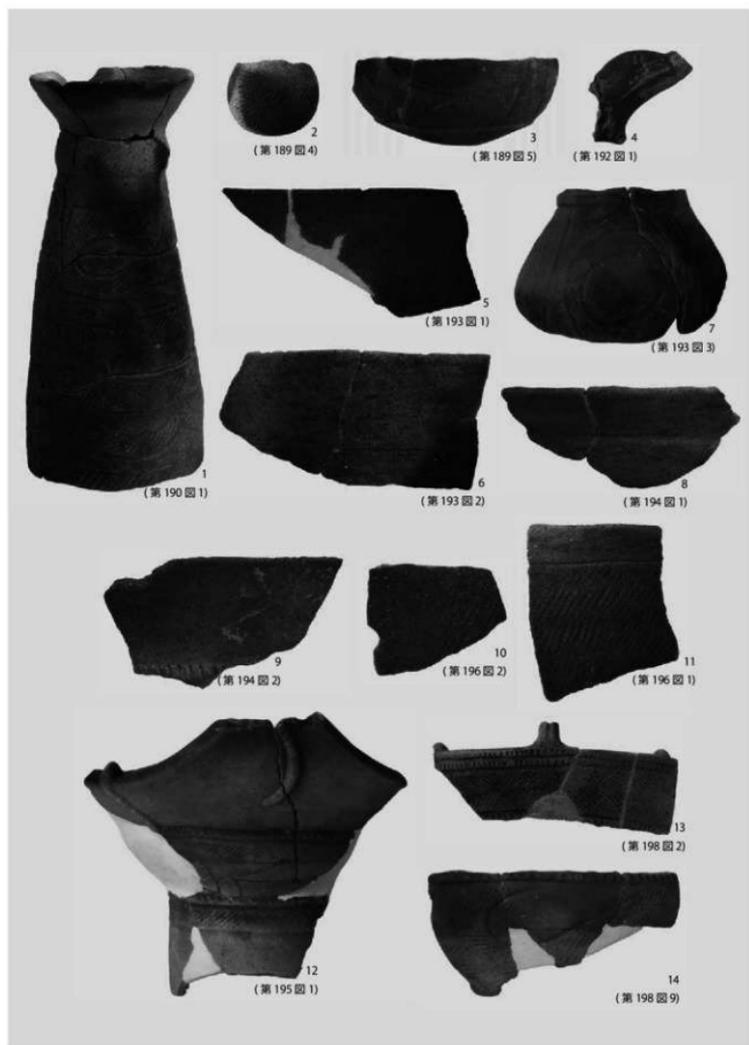
写真図版23 富沢館跡出土遺物(2)



写真図版24 富沢館跡出土遺物(3)



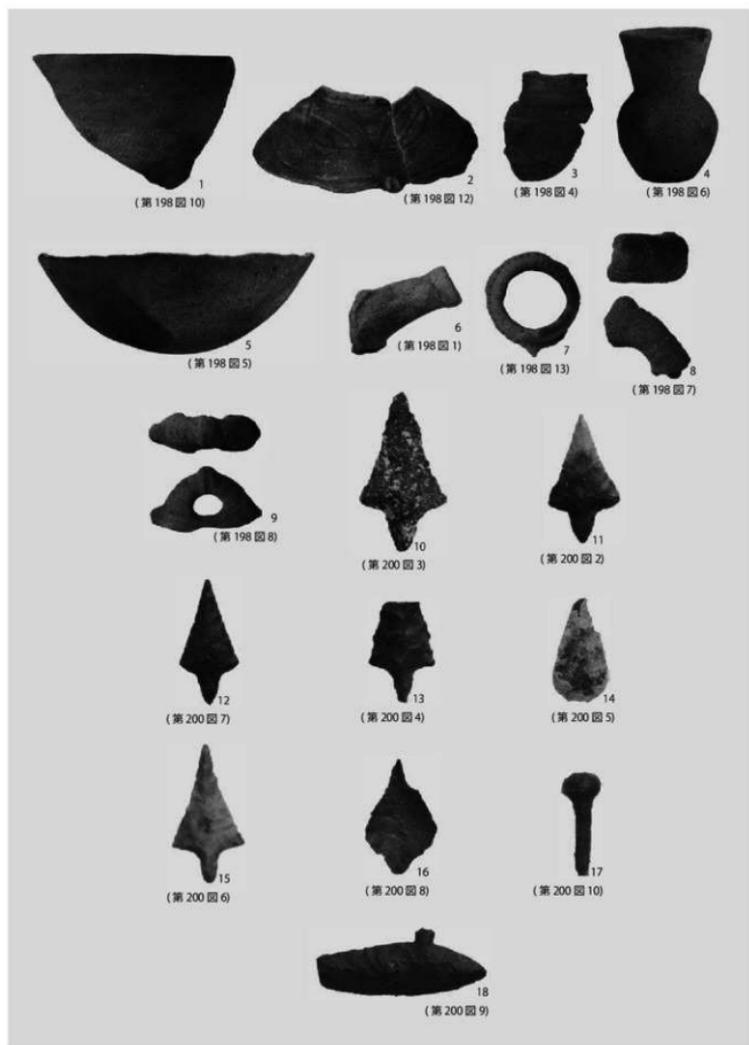
写真図版25 富沢館跡出土遺物(4)



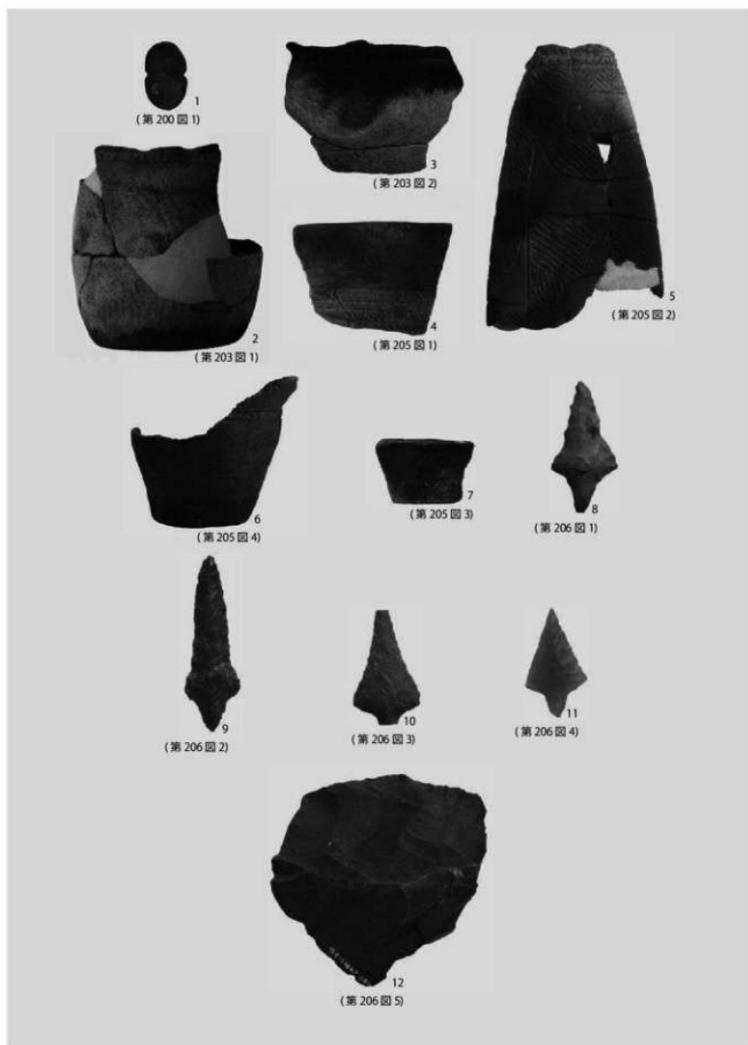
写真図版26 富沢館跡出土遺物(5)



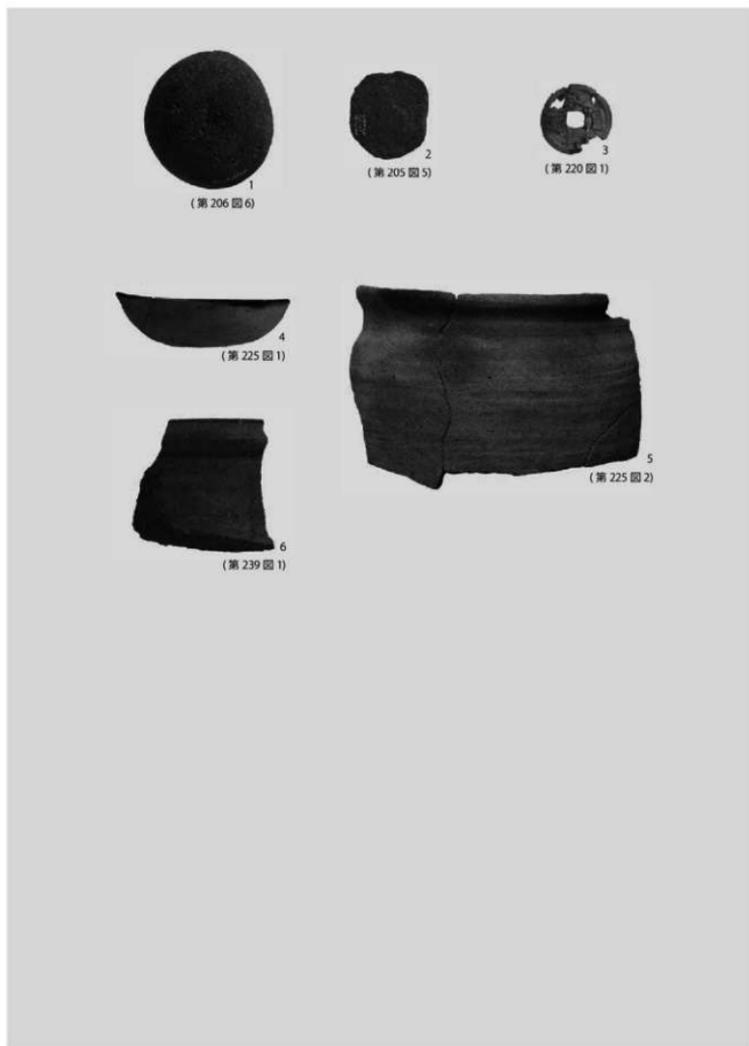
写真図版27 富沢館跡出土遺物(6)



写真図版28 富沢館跡出土遺物(7)



写真図版29 富沢館跡出土遺物(8)



写真図版30 富沢館跡出土遺物(9)

---

仙台市文化財調査報告書第466集

**鍛冶屋敷A遺跡・富沢館跡・川前遺跡ほか**

仙台市富沢駅西土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書

〔第1分冊〕

2018年3月

発行 **仙台市教育委員会**

宮城県仙台市青葉区上杉1-5-12 仙台市役所上杉分庁舎  
☎ 022-214-8899(文化財課)

印刷 **株式会社仙台紙工印刷**

宮城県仙台市宮城野区苦竹3丁目1-14  
☎ 022-231-2245

---